

伊勢原市
子どもと子育て家庭の生活実態調査
報告書

令和2年3月

目次

1. 調査概要	1
1.1 調査の実施について	1
1.2 生活困難度について	2
2. 保護者調査	5
2.1 世帯構成など	5
2.2 保護者と子どもの健康状態	12
2.3 子どもとの関わり	22
2.4 子どもの将来のこと	46
2.5 子どもの保護者のこと	49
2.6 世帯状況など	58
2.7 困ったときの相談先と公的支援の利用	77
3. 子ども調査	108
3.1 子ども本人のこと	108
3.2 食事や健康のこと	113
3.3 ふだんの生活	129
3.4 学校や勉強のこと	160
3.5 友だち関係のこと	168
3.6 夢や進学のこと	173
3.7 ふだん考えていること	178
4. 関係機関等支援者ヒアリング調査	202
4.1 調査の実施について	202
4.2 子どもの貧困対策に関すること	202
4.3 支援の必要な子どもと保護者に関すること	203
4.4 支援が必要な子ども・世帯への支援策に関すること	208
5. 子どもの貧困に関する分析	213
5.1 教育的支援について	213
5.2 生活支援について	217
5.3 保護者等の就労に資する支援について	237
5.4 経済的支援について	240
5.5 調査項目一覧	242
6. 資料編	247
6.1 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（保護者用）	247
6.2 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（児童・生徒用）	253
6.3 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（支援者ヒアリング実施要項）	259
6.4 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（事前調査票）	260

1. 調査概要

1.1 調査の実施について

(1) 調査目的

伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査を小学5年生・中学2年生及びその保護者を対象に実施し、子どもの貧困を含めた子育て世帯の生活状況やニーズ等を把握し、取り組むべき課題の解消・削減に向けた検討資料とする。

(2) 調査概要

①調査対象：小学5年生とその保護者 各824人
中学2年生とその保護者 各827人（総数1,651世帯）

②調査方法：子ども用・保護者用の2種の調査票を郵送により配布、回収を行った。

③回答状況

		配布数（件）	回答数（件）	回収率（％）
小学5年生	子ども	824	409	49.6
	保護者	824	414	50.2
	合計	1,648	823	49.9
中学2年生	子ども	827	342	41.4
	保護者	827	347	42.0
	合計	1,654	689	41.7
小学5年生・中学2年生の総合計	子ども	1,651	751	45.4
	保護者	1,651	761	46.1
	合計	3,302	1,512	45.8

④調査期間：令和元年9月14日（土）～9月30日（月）

1.2 生活困難度について

【本調査における「生活困難度」の取扱い】

本調査では、子どものいる家庭において、生活が困難になっている状況に応じて「生活困難度」を、「A 低所得」、「B 家計の逼迫」、「C 子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素について回答状況を用いて集計した。

図表 1.2.1.生活困難度の捉え方

A 低所得 全体の 3.9% 小 5 の 3.2% 中 2 の 2.7%	〔要素〕調査項目で把握した、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入による可処分所得＋児童手当等の支給額等）を世帯人数の平方根で割って調整した所得）が、国民生活調査の貧困線の基準を下回る世帯とした。ただし、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法等の違いがあるため、厚生労働省発表の子どもの貧困率と比較できるものではない。 2人世帯175万円未満、3人世帯210万円未満、4人世帯245万円未満、5人世帯275万円未満、6人世帯300万円未満
B 家計の逼迫 全体の 4.5% 小 5 の 5.0% 中 2 の 3.4%	〔要素〕生活費に関する質問7項目について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが1つ以上あると答えた世帯とした。 ①電話 ②電気 ③ガス ④水道の公共料金 ⑤家賃 ⑥食料 ⑦衣類の購入
C 子どもの体験や所有物の欠如 全体の 3.9% 小 5 の 4.2% 中 2 の 8.0%	〔要素〕子どもの体験や所有物などに関する質問15項目のうち、経済的な理由で「していない」、「ない」など欠如する項目が3つ以上あると答えた世帯とした。 ①海水浴に行く ②博物館・科学館・美術館などに行く ③キャンプやバーベキューに行く ④スポーツ観戦や劇場に行く ⑤遊園地やテーマパークに行く ⑥毎月お小遣いを渡す ⑦毎年新しい洋服・靴を買う ⑧習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる ⑨学習塾に通わせるまたは家庭教師に来てもらう ⑩お誕生日のお祝いをする ⑪1年に1回くらい家族旅行に行く ⑫クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる ⑬子どもの年齢に合った本 ⑭子ども用のスポーツ用品・おもちゃ ⑮子どもが自宅で宿題をすることができる場所

①生活困難度による家庭の分類

前述の「A 低所得」「B 家計の逼迫」「C 子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素の回答状況により、家庭区分を「困窮家庭」「周辺家庭」「一般家庭」とした。

A・B・Cで2つ以上の要素に該当＝**困窮家庭**

1つの要素に該当＝**周辺家庭**

要素の該当なし＝**一般家庭**（無回答等により3つの要素に分類できないものは除く。）

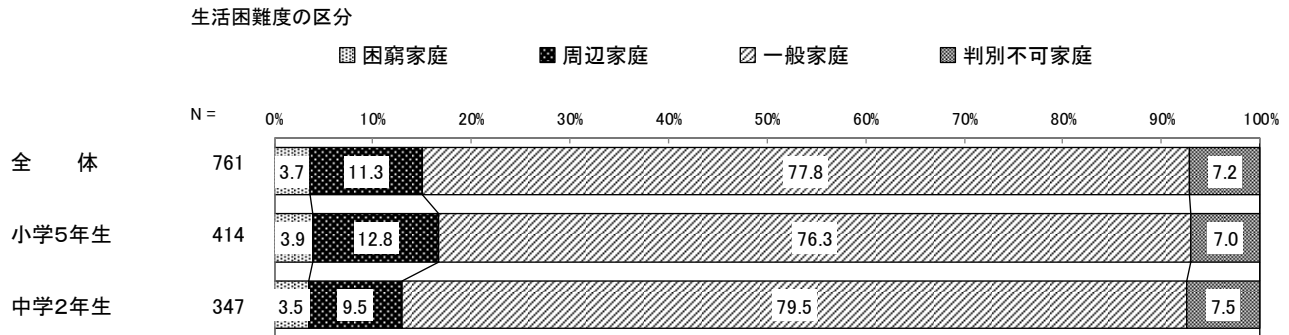
図表 1.2.2.生活困難度による分類方法

困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	いずれの要素にも該当しない

②生活困難度の家庭区分

回答者全体に占める生活困難度の家庭区分の割合を整理すると、困窮家庭は3.7%、周辺家庭は11.3%、学年別では小学5年生の困窮家庭は3.9%、周辺家庭は12.8%、中学校2年生の困窮家庭は3.5%、周辺家庭は9.5%である。

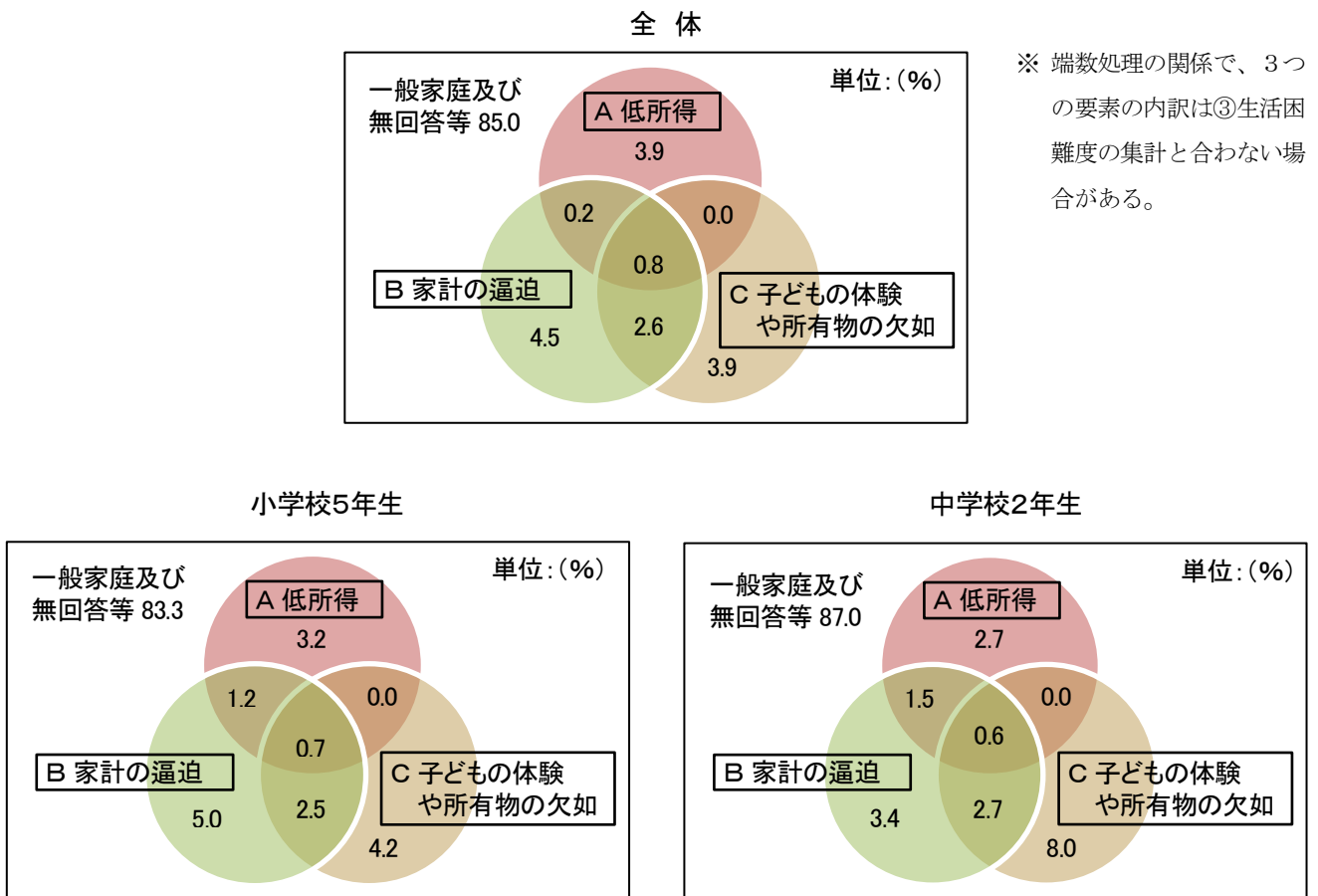
図表 1.2.3.生活困難度の区分



③子どもの貧困率（参考）

国民生活基礎調査と同様に回答状況を集計すると、3.9%（全体A低所得に該当）となる。

図表 1.2.4.生活困難度の分類



【集計・記載方法】

- ①回答のあった子どものアンケート票数（751件）と保護者のアンケート票数（761件）を母数（N）としている。保護者の回答から生活困難度別、家庭区分に分け集計をしている。また、子どもアンケート票と保護者アンケート票を紐づけし、同一世帯として集計している。ただし、生活困難度の区分に該当する設問が無回答の場合などは、判別不可家庭とし集計している。
- ②各調査項目の子どもの回答数と保護者の回答数が異なる場合は、結果として集計グラフの割合算出のために使用する回答総数と母数（N）とは差異が生じる。そのため、子どもの回答と保護者の回答をクロス集計した場合は割合にずれが生じる場合がある。
- ③図表には各項目の割合を100分率で表記している。この値は、小数点第二位を四捨五入しているため、同一図表中の値を合計しても100%にならない場合がある。
- ④図表及びグラフ全体では、質問内容及び回答選択肢の記述内容が、アンケート調査書と異なり一部省略して記載されている場合がある。
- ⑤各調査項目の生活困難度別の割合等の記述は、全体集計と比較した場合の割合を前提とし記載している。
- ⑥各図表番号及び調査設問項目の「H」は保護者アンケート票、「K」は子どもアンケート票、「S」は支援者ヒアリング票を示している。

図表1.2.5. 回答件数内訳

		総数		備考
		子ども票	保護者票	
学年別	全体	751件	761件	調査票ごとの有効回答件数
	小学5年生	409件	414件	
	中学2年生	342件	347件	
生活困難度別	全体	751件	761件	子ども票・保護者票で紐づけた件数
	困窮家庭	28件	28件	
	周辺家庭	85件	86件	
	一般家庭	584件	592件	
	判別不可家庭	54件	55件	
世帯別	ふたり親（二世帯）	577件	571件	子ども票・保護者票で紐づけた件数
	ふたり親（三世帯）	116件	113件	
	ひとり親（二世帯）	42件	41件	
	ひとり親（三世帯）	11件	11件	
	その他	1件	1件	
	無回答	14件	14件	

2. 保護者調査

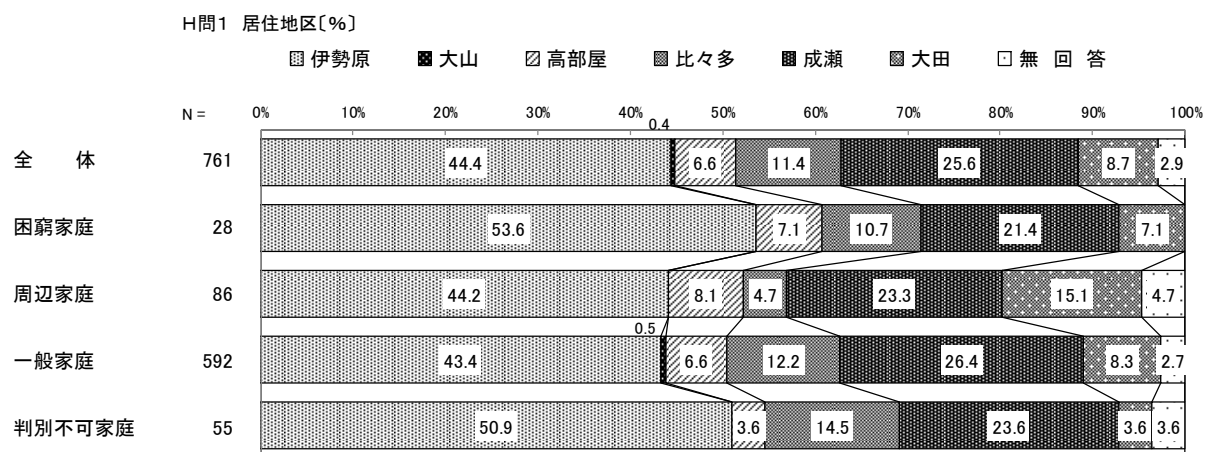
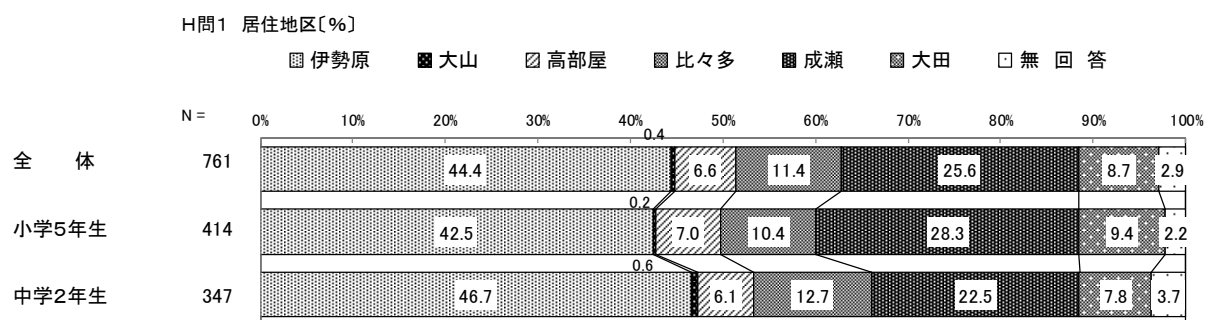
2.1 世帯構成など

問1 お住まいの地区はどちらですか。

全体では、「伊勢原」が44.4%と多く、「成瀬」が25.6%、「比々多」が11.4%が続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「伊勢原」地区居住が53.6%と多い。

図表 2.1.1.H 居住地区

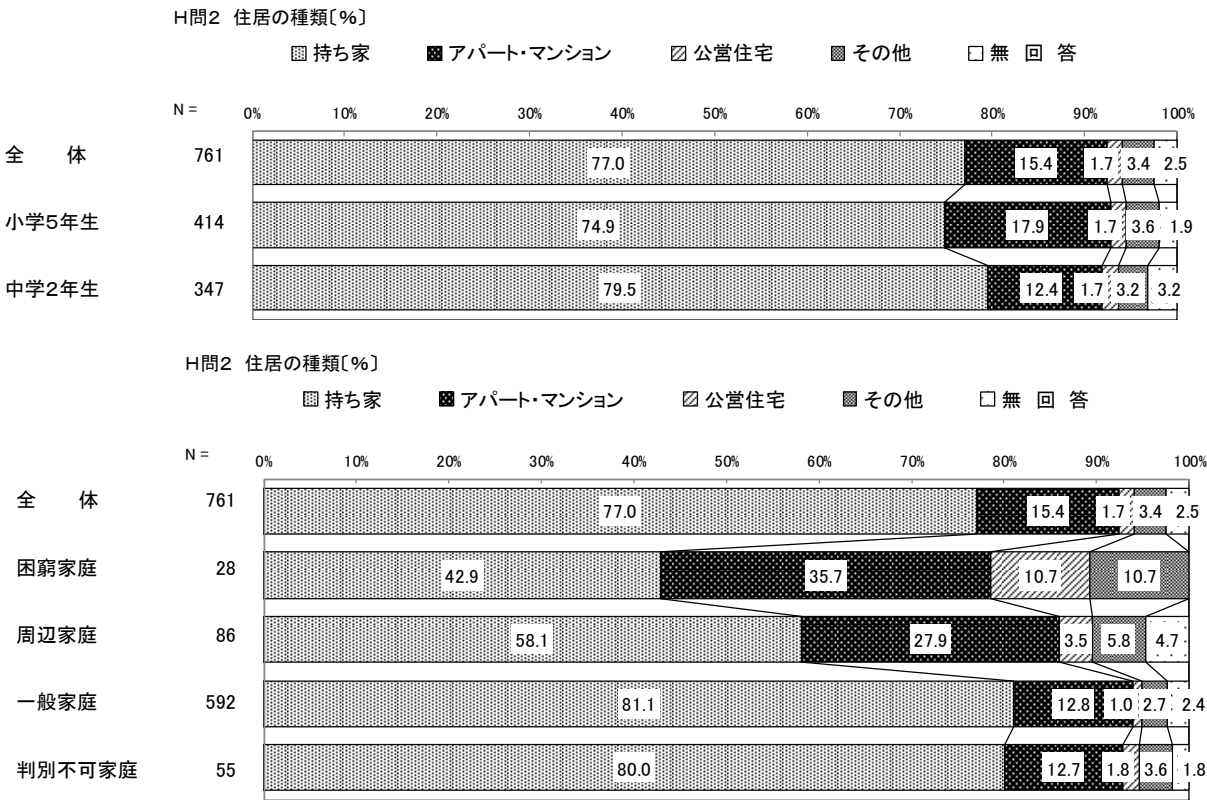


問2 お住まいの住居の種類を教えてください。

全体では、「持ち家」が77.0%と多く、「アパート・マンション」が15.4%が続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「持ち家」はそれぞれ42.9%、58.1%と少なく、「アパート・マンション」はそれぞれ35.7%、27.9%と多い。

図表 2.1.2H 住居の種類

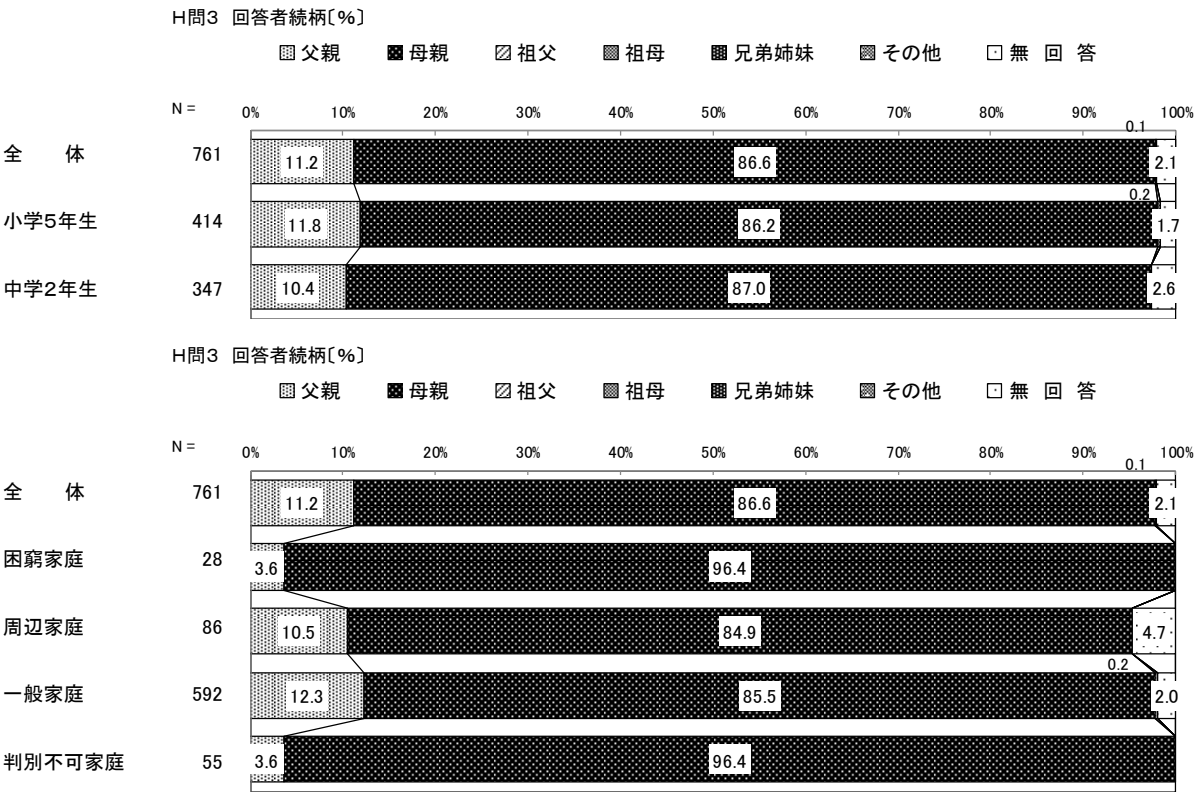


問3 お子さんとあなた（回答者）との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続柄で、お答えください。

全体では、「母親」が86.6%と大半を占め、「父親」は11.2%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「母親」が96.4%と多く、「父親」が3.6%と少ない。

図表 2.1.3.H 回答者続柄

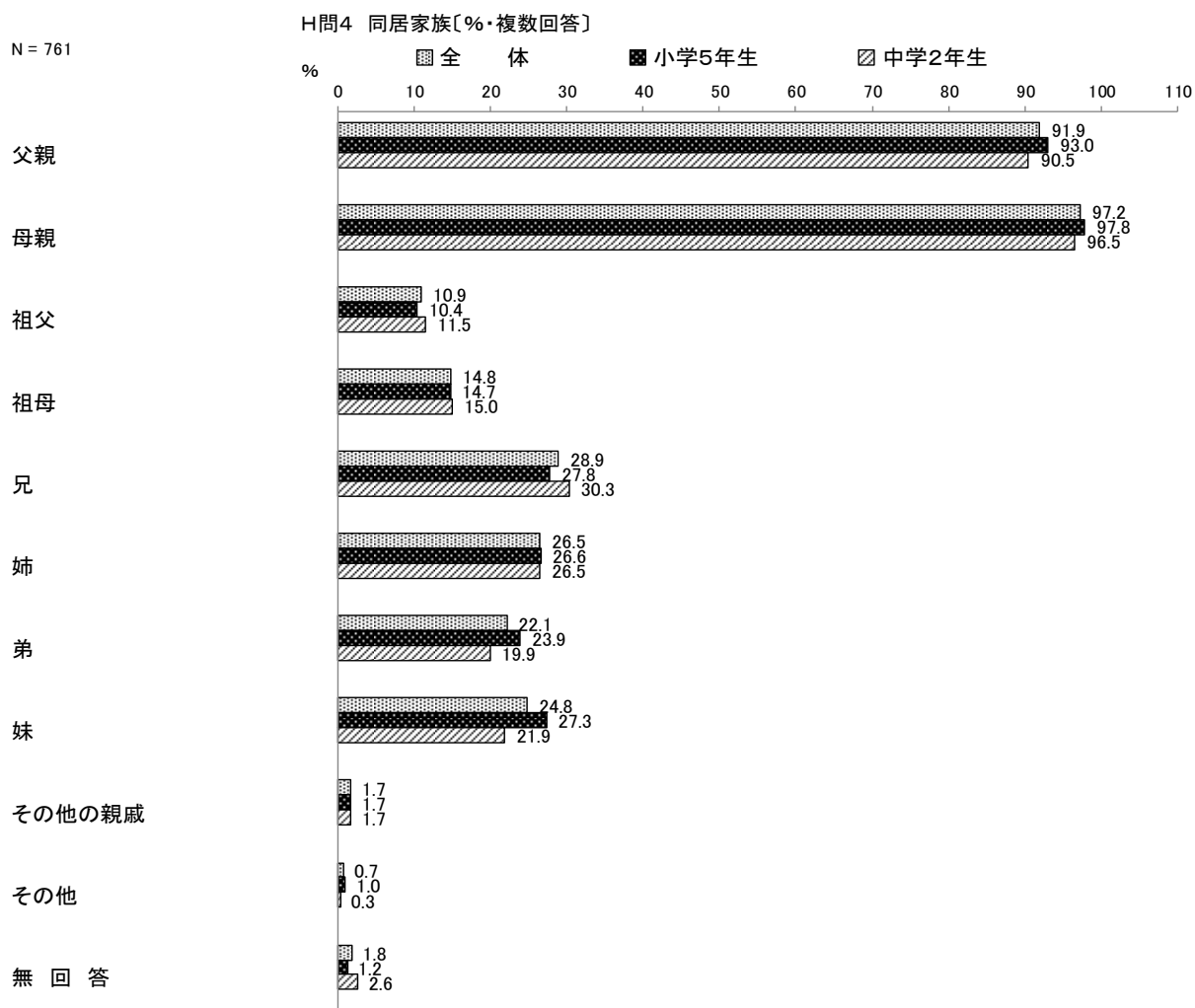


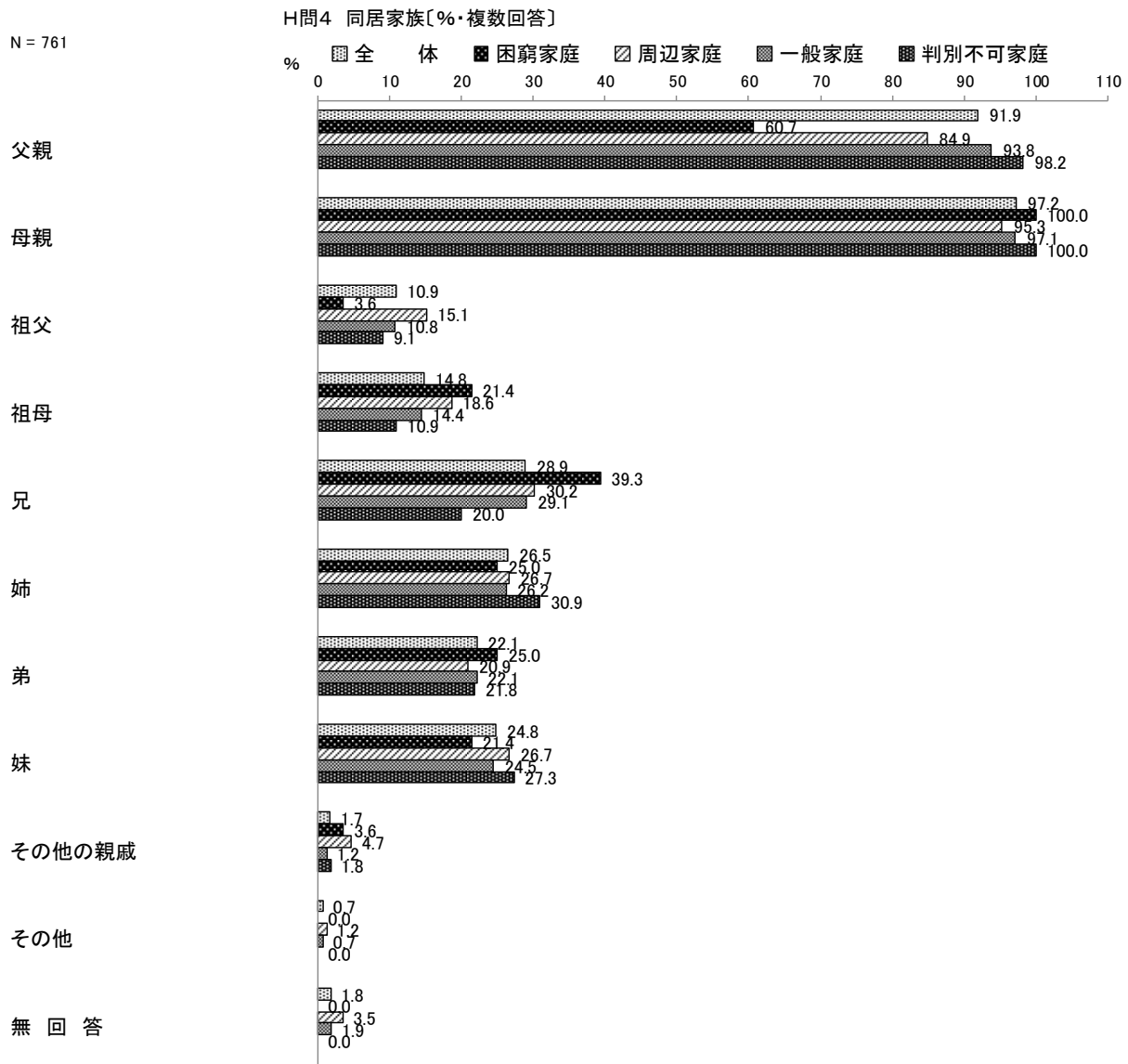
問4 お子さんと同居している方（人数）をお答えください。

全体では、「母親」と「父親」が90%を超えて多く、「兄」「姉」「弟」「妹」がそれぞれ25%前後と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「父親」と「祖父」がそれぞれ60.7%、3.6%と少なく、「兄」が39.3%と多い。

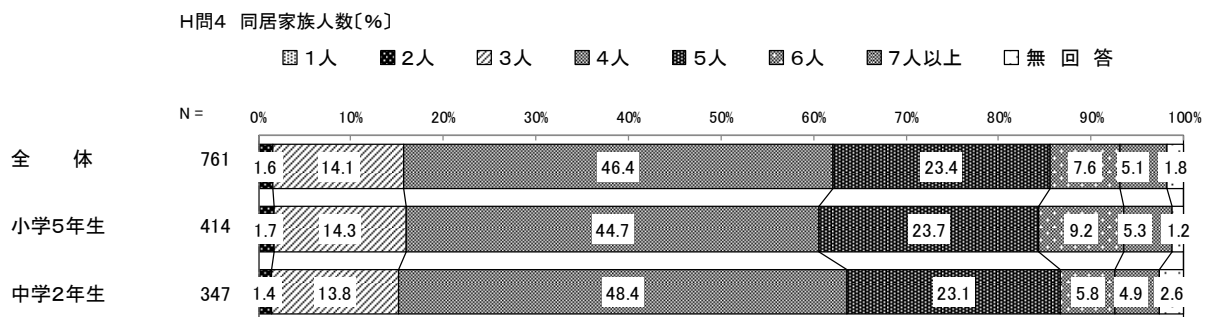
図表 2.1.4.H 同居家族

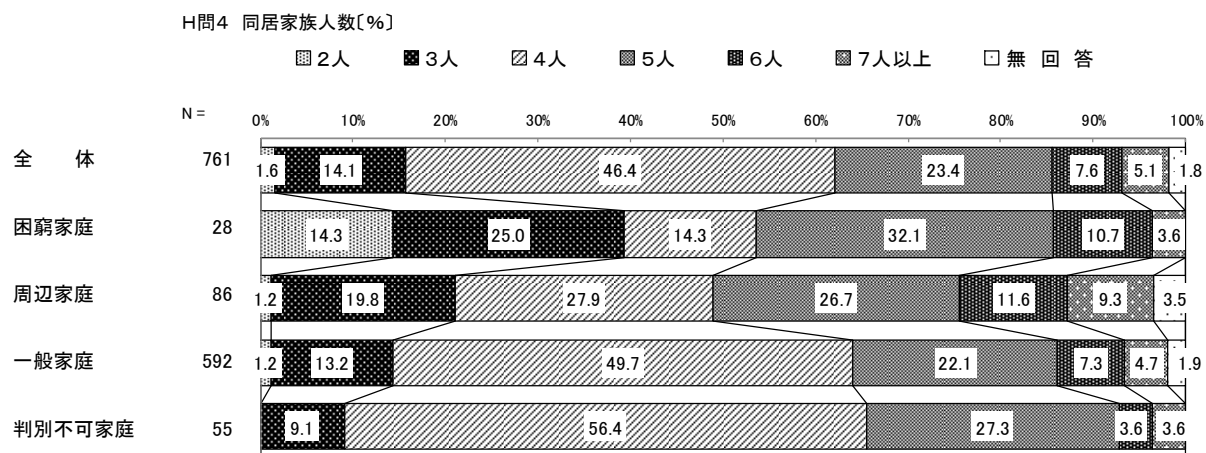




全体では、「4人」が46.4%と多く、「5人」が23.4%、「3人」が14.1%と続いている。
生活困難度別では、困窮家庭で「2人」が14.3%、「3人」が25.0%とそれぞれ多い。

図表 2.1.5.H 同居家族人数



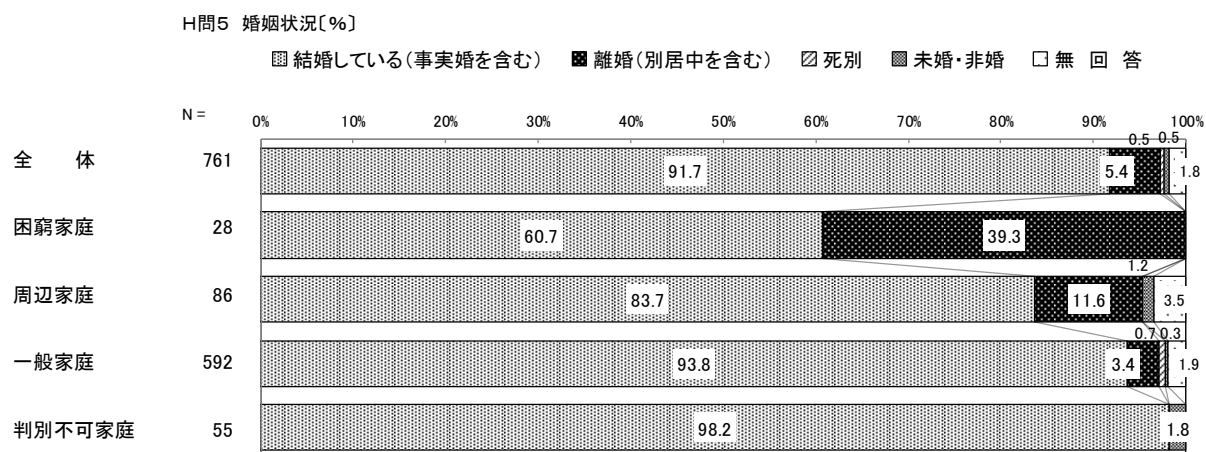
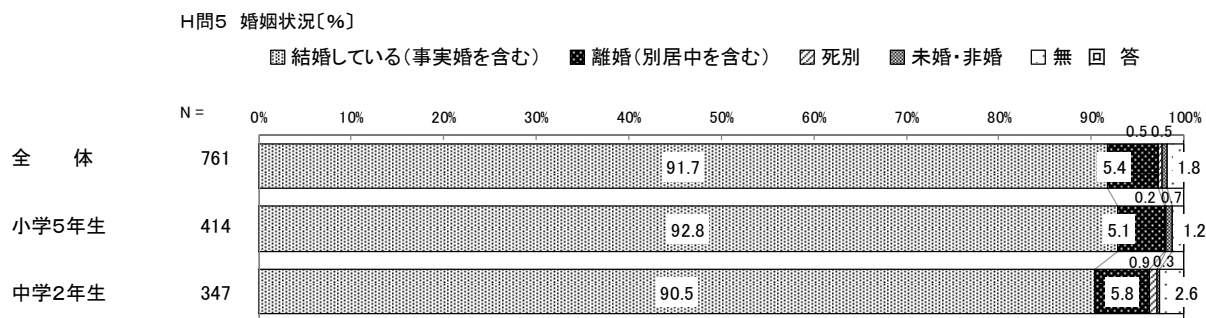


問5 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。

全体では、「結婚している（事実婚を含む）」が91.7%と大半を占め、「離婚（別居中を含む）」は5.4%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「結婚している（事実婚を含む）」が60.7%と少なく、「離婚（別居中を含む）」が39.3%と多い。

図表 2.1.6.H 婚姻状況

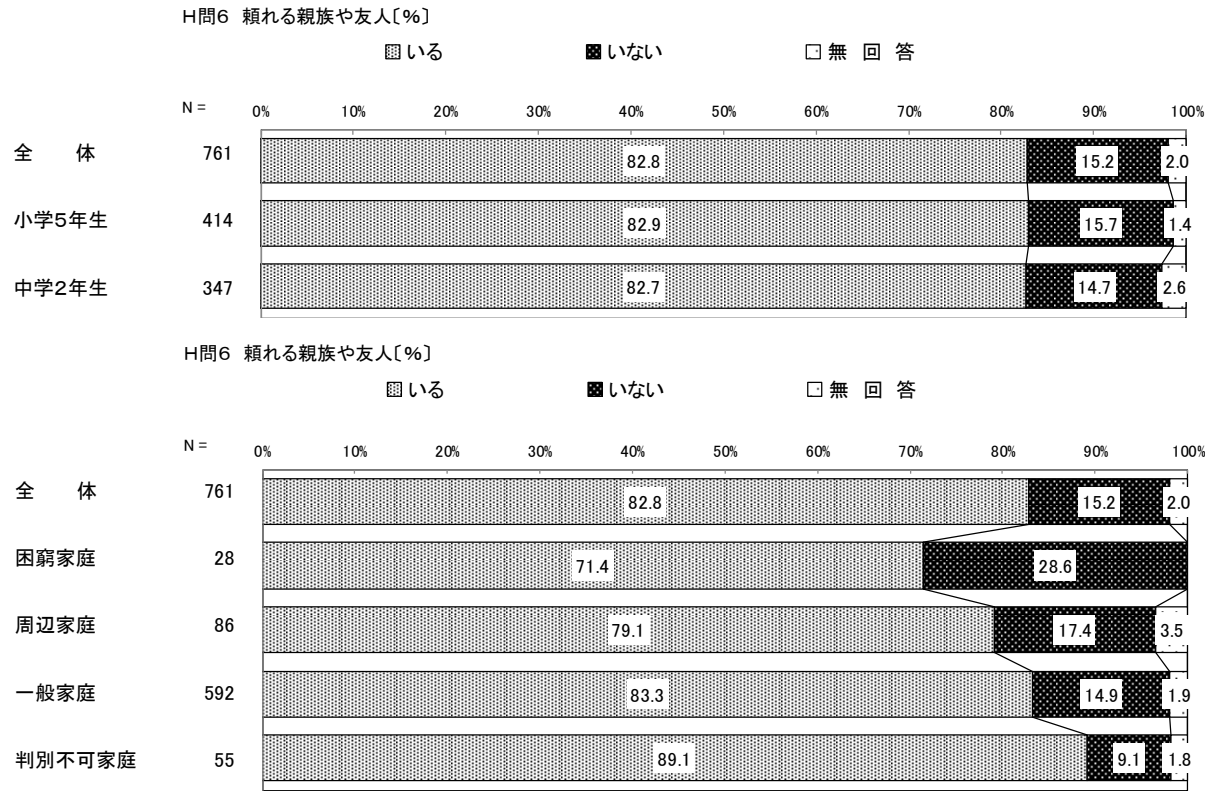


問 6 お子さんが病気の時や、ご自身の用事の時などに頼れる親族や友人などがいますか。

全体では、「いる」が82.8%と多く、「いない」は15.2%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「いない」が28.6%と多い。

図表 2.1.7.H 頼れる親族や友人



2.2 保護者と子どもの健康状態

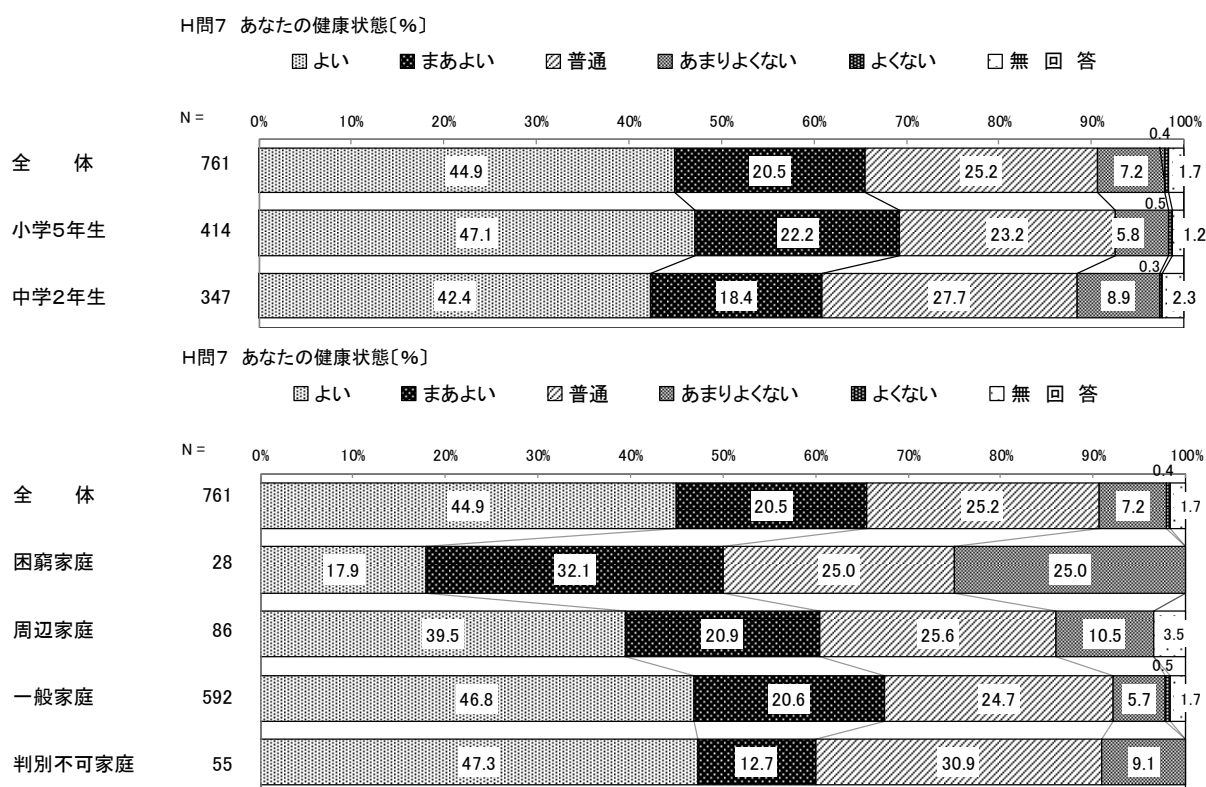
問7 あなたとお子さんの健康状態について、最も近いものをお答えください。

(A) あなたの健康状態

全体では、「よい」が44.9%と最も多く、「普通」が25.2%、「まあよい」が20.5%と続いており、「あまりよくない」と「よくない」はそれぞれ7.2%、0.4%と少ない。

生活困難度別では、困窮家庭で「まあよい」が32.1%と最も多く、「あまりよくない」と「普通」がともに25.0%と続いており、「よい」が17.9%と少ない。

図表 2.2.1.H 保護者の健康状態

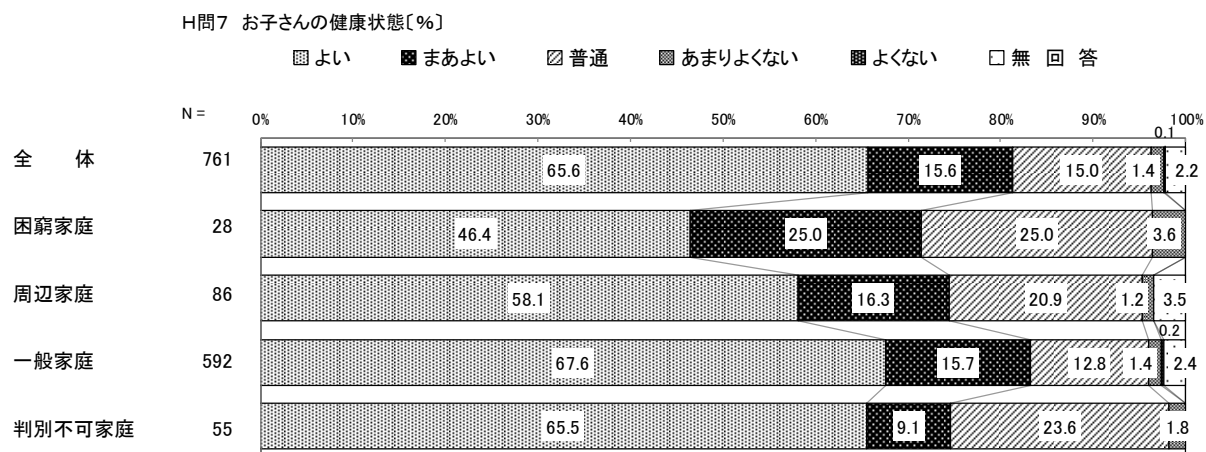
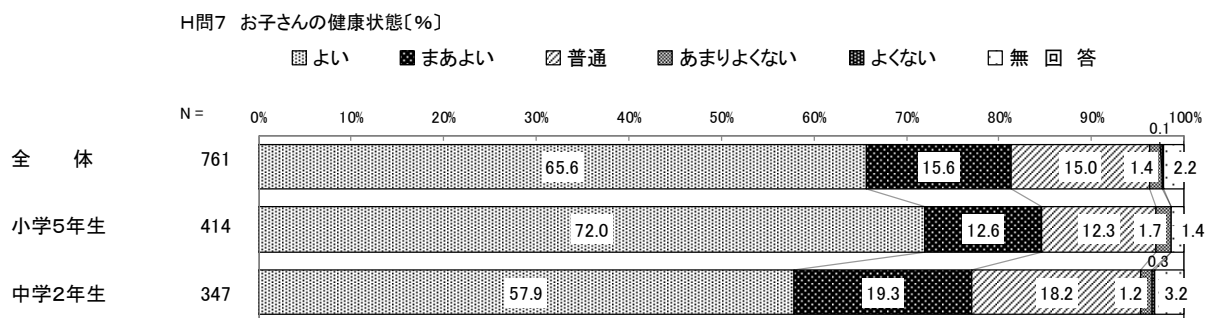


(B) お子さんの健康状態

全体では、「よい」が65.6%と多く、「まあよい」が15.6%、「普通」が15.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よい」が他の家庭に比べて46.4%と少なく、「まあよい」と「普通」がともに25.0%と続いている。

図表 2.2.2H 子どもの健康状態

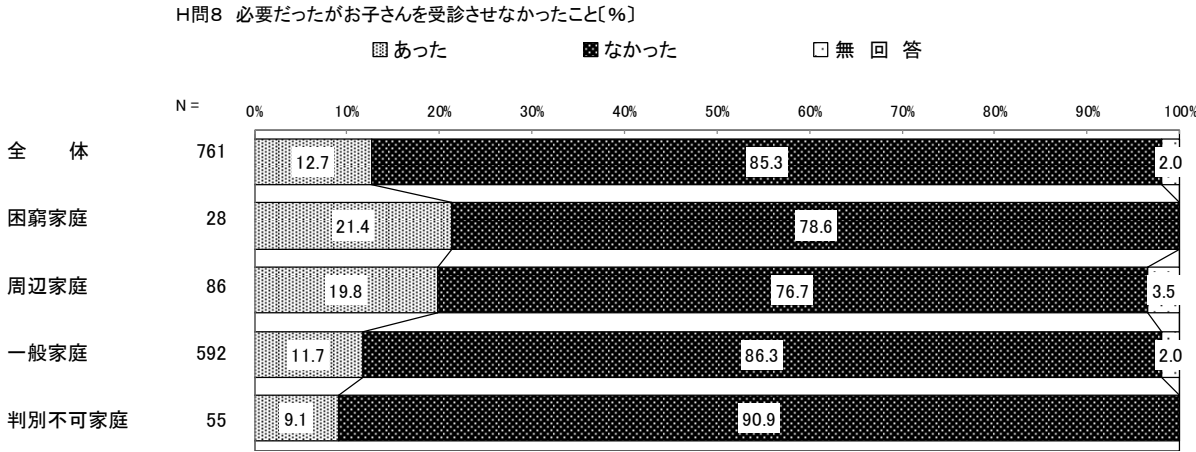
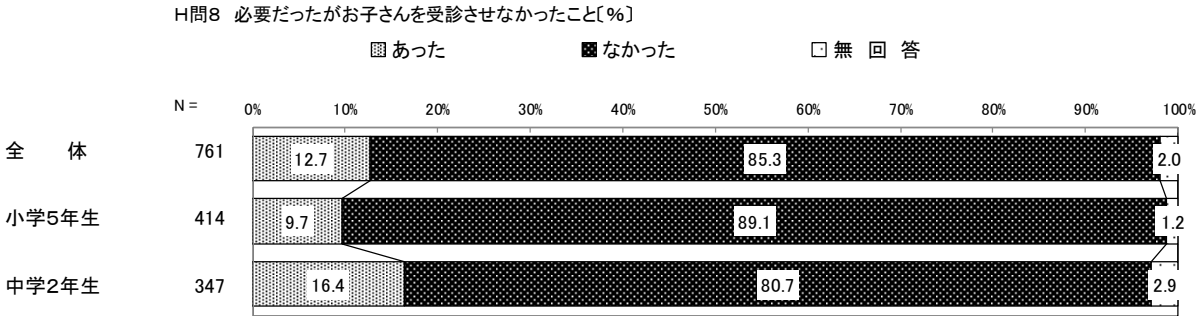


問 8 過去 1 年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった、またはできなかったことがありましたか。

全体では、「なかった」が85.3%と多く、「あった」は12.7%である。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「あった」が20%前後と多い。

図表 2.2.3.H 必要だったが子どもを受診させなかったこと



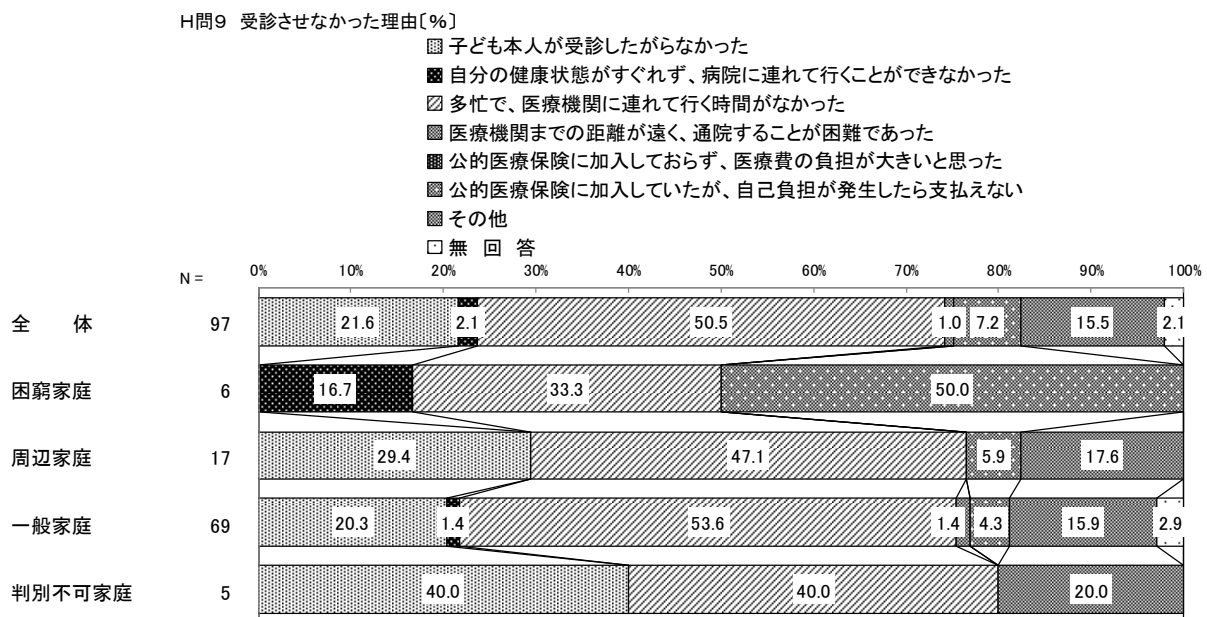
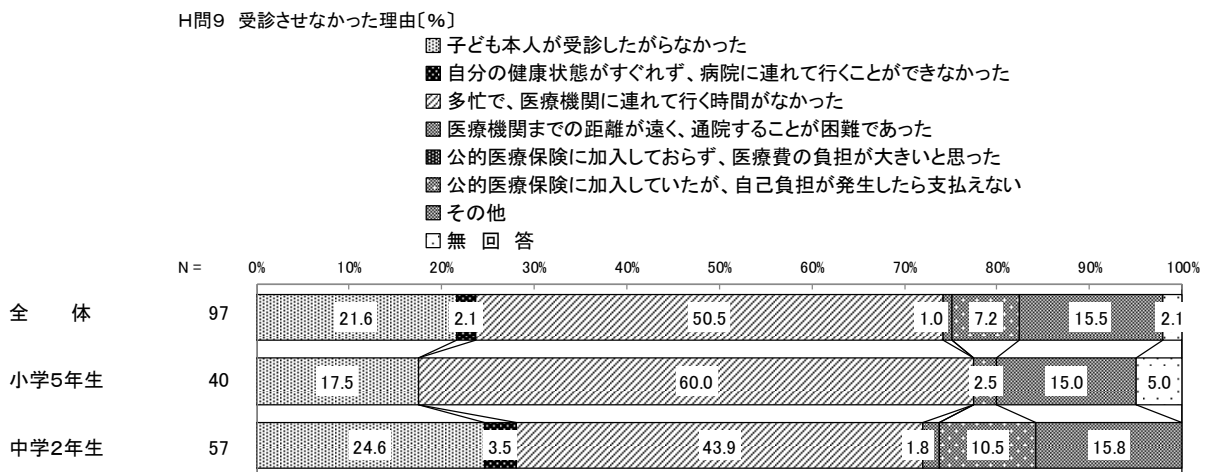
【問8で「1 あった」を選んだ方】

問9 その理由は、何ですか。

全体では、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかった」が50.5%と多く、「子ども本人が受診しなかった」が21.6%、「公的医療保険に加入していたが、自己負担が発生したら支払えない」が7.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「公的医療保険に加入していたが、自己負担が発生したら支払えない」が50.0%、「自分の健康状態がすぐれず、病院に連れて行くことができなかった」が16.7%とそれぞれ多い。

図表 2.2.4.H 受診させなかった理由



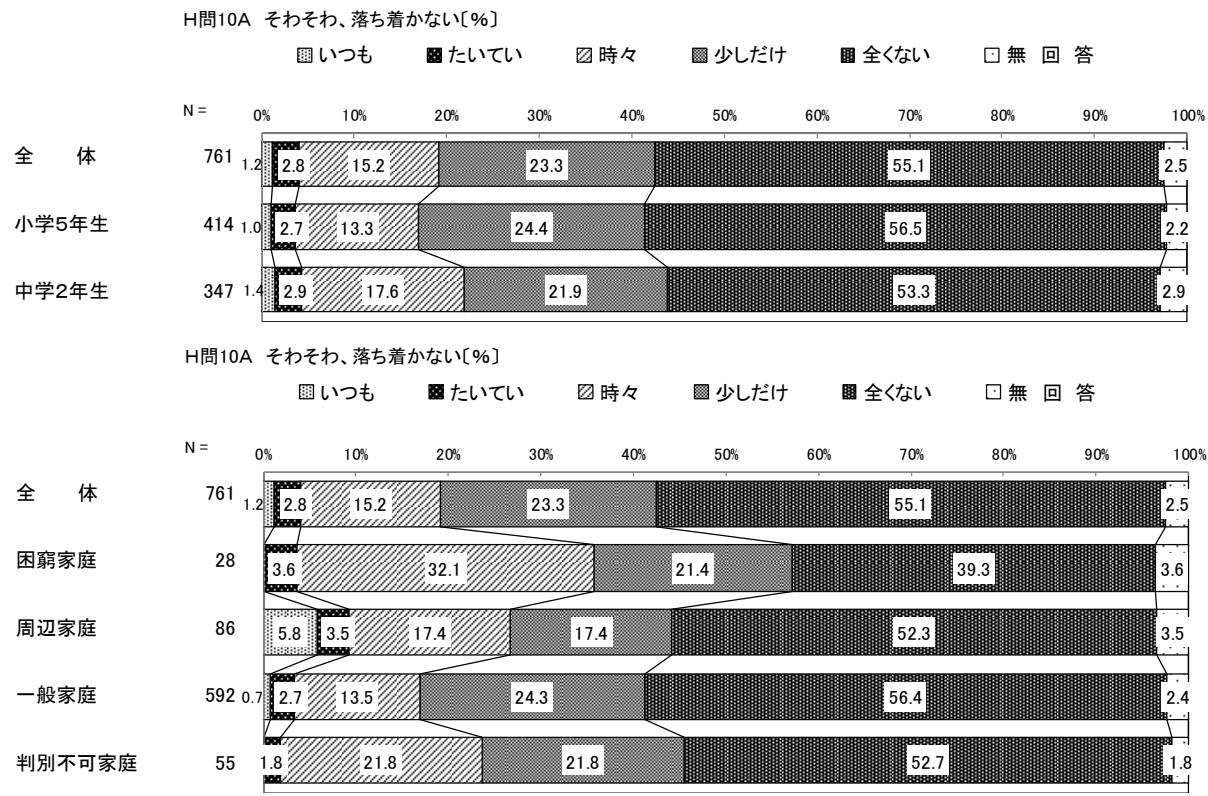
問 10 あなたは、ここ 1 か月の間に、次のようなことを感じましたか。

(A) そわそわ、落ち着かない

全体では、「全くない」が55.1%と多く、「少しだけ」が23.3%、「時々」が15.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くない」が39.3%と少なく、「時々」が32.1%と多い。周辺家庭で、「いつも」が5.8%とやや多い。

図表 2.2.5H そわそわ、落ち着かない

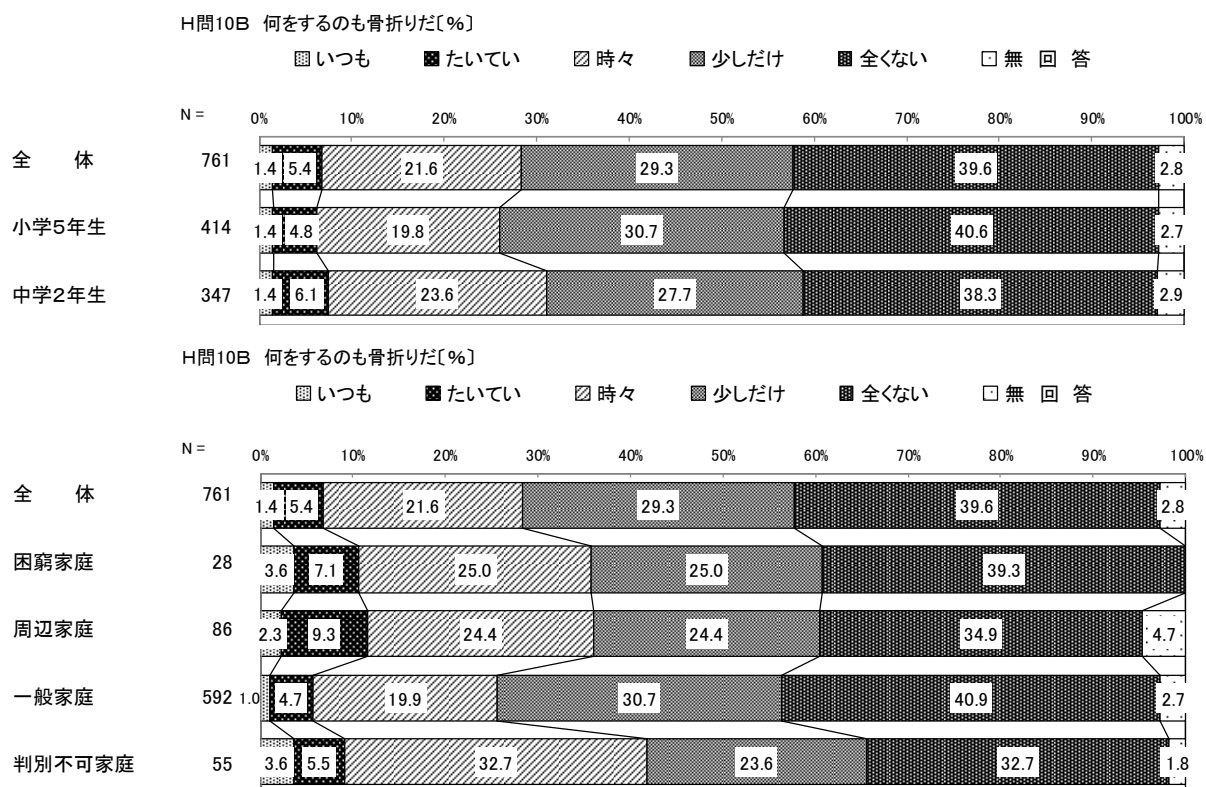


(B) 何をするのも骨折りだ

全体では、「全くない」が39.6%と多く、「少しだけ」が29.3%、「時々」が21.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「いつも」と「たいてい」を合わせるといずれも10%を超えている。

図表 2.2.6.H 何をするのも骨折りだ

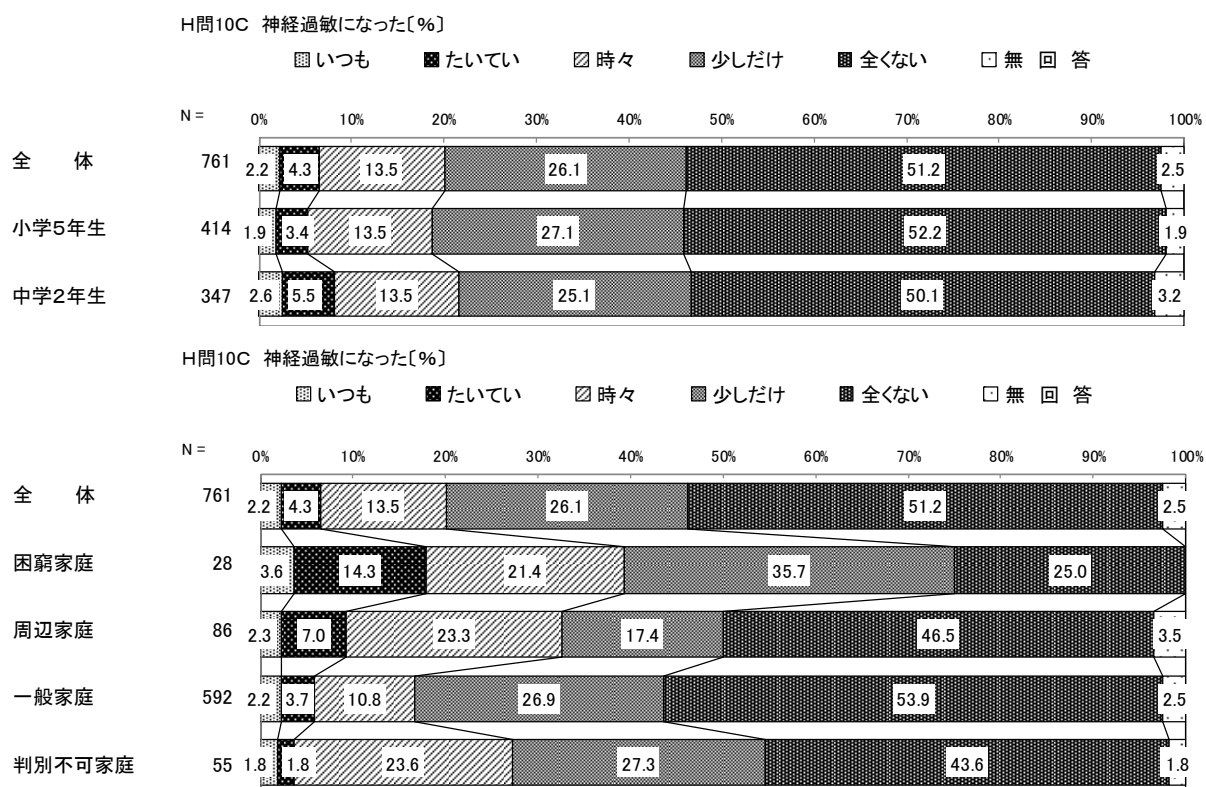


(C) 神経過敏になった

全体では、「全くない」が51.2%と多く、「少しだけ」が26.1%、「時々」が13.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くない」が25.0%と少なく、その他の選択肢はいずれも多いが、特に「たいてい」が14.3%と多い。

図表 2.2.7.H 神経過敏になった

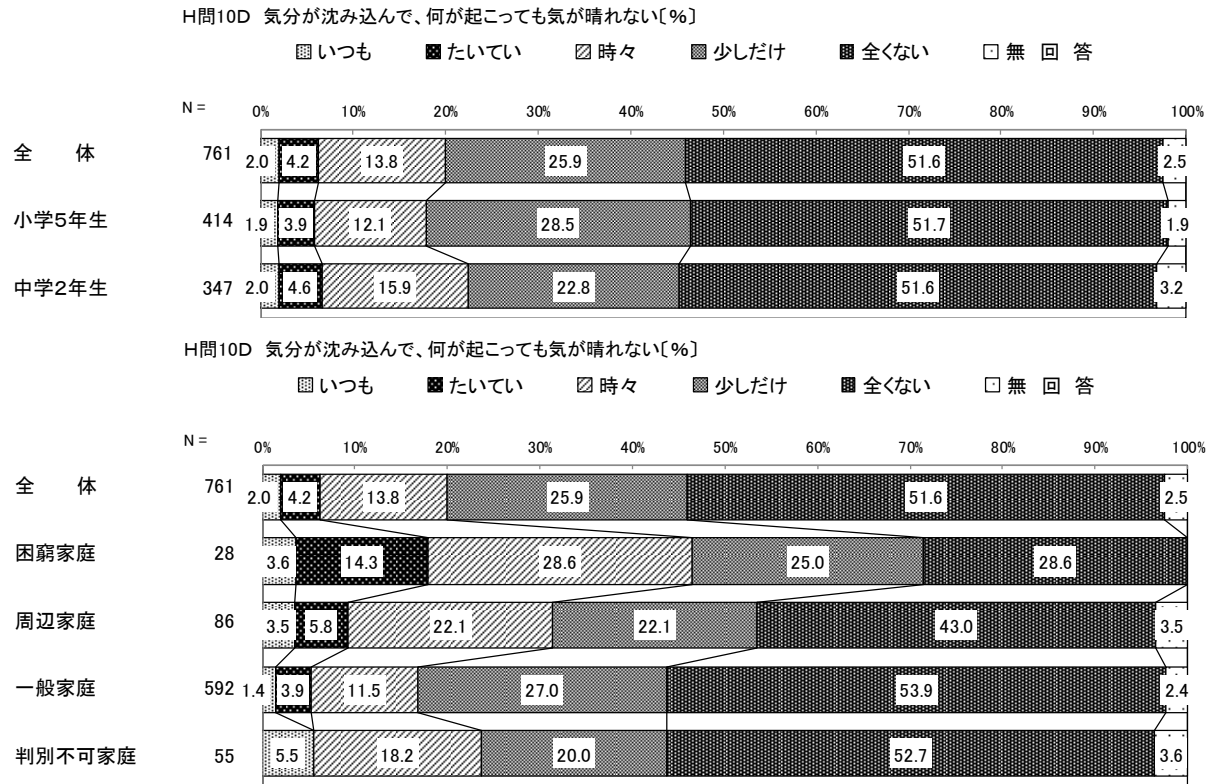


(D) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れない

全体では、「全くない」が51.6%と多く、「少しだけ」が25.9%、「時々」が13.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くない」が28.6%と少なく、「時々」が28.6%、「たいてい」が14.3%と多い。

図表 2.2.8.H 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れない

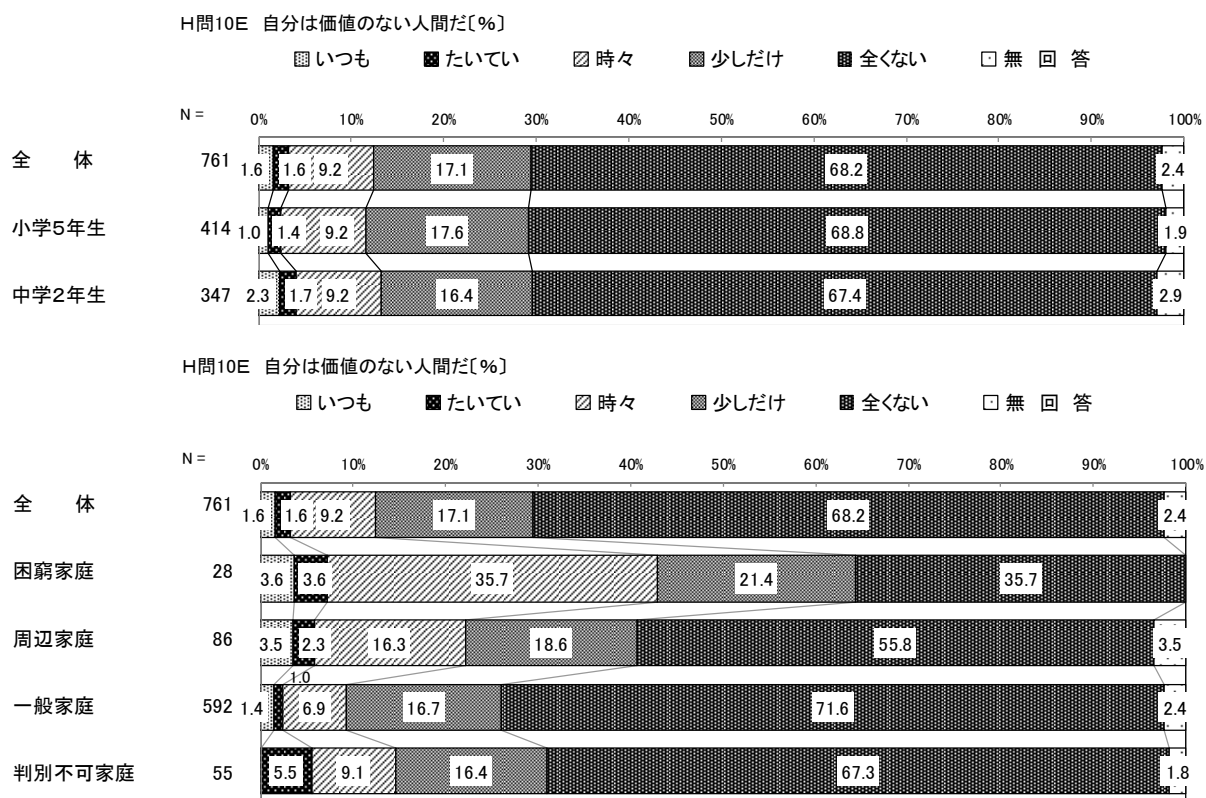


(E) 自分は価値のない人間だ

全体では、「全くない」が68.2%と多く、「少しだけ」が17.1%、「時々」が9.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くない」が35.7%と少なく、「時々」が35.7%と多い。

図表 2.2.9.H 自分は価値のない人間だ

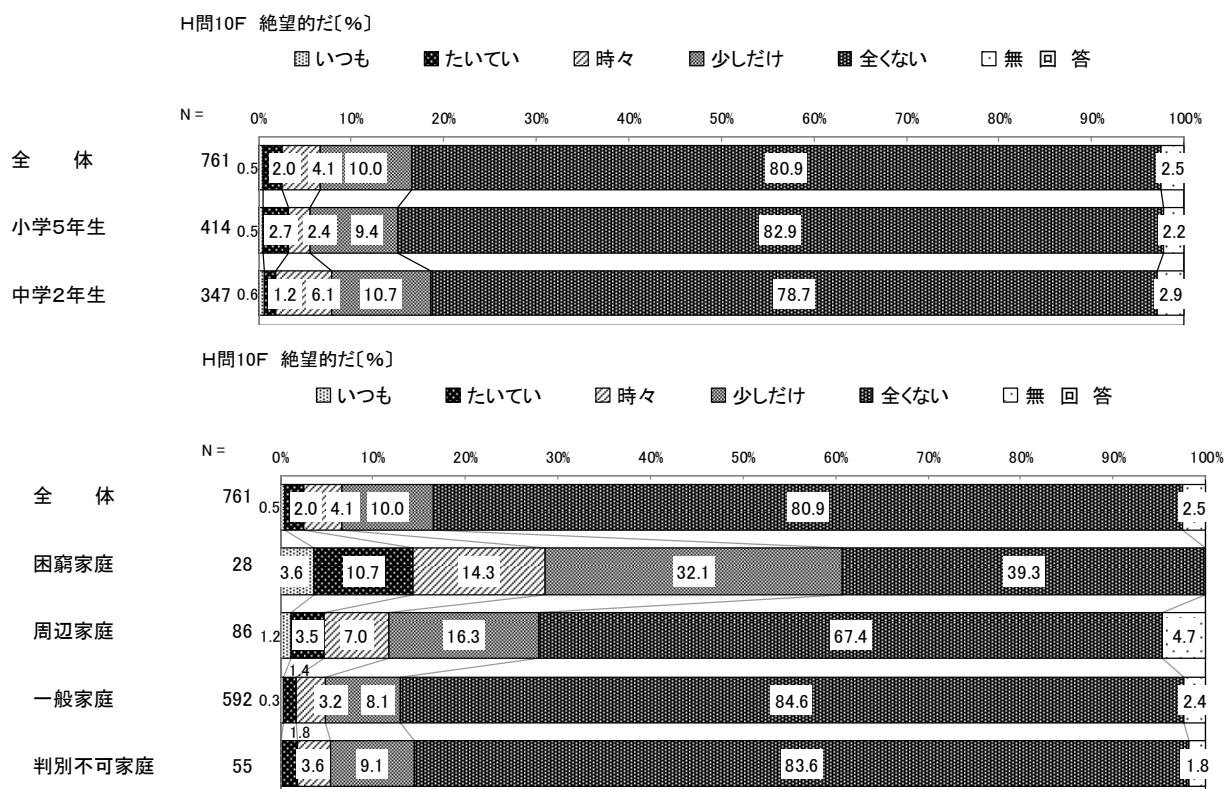


(F) 絶望的だ

全体では、「全くない」が80.9%と多く、「少しだけ」が10.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くない」が39.3%と少なく、その他の選択肢はいずれも多いが、特に「少しだけ」が32.1%と多い。

図表 2.2.10.H 絶望的だ



2.3 子どもとの関わり

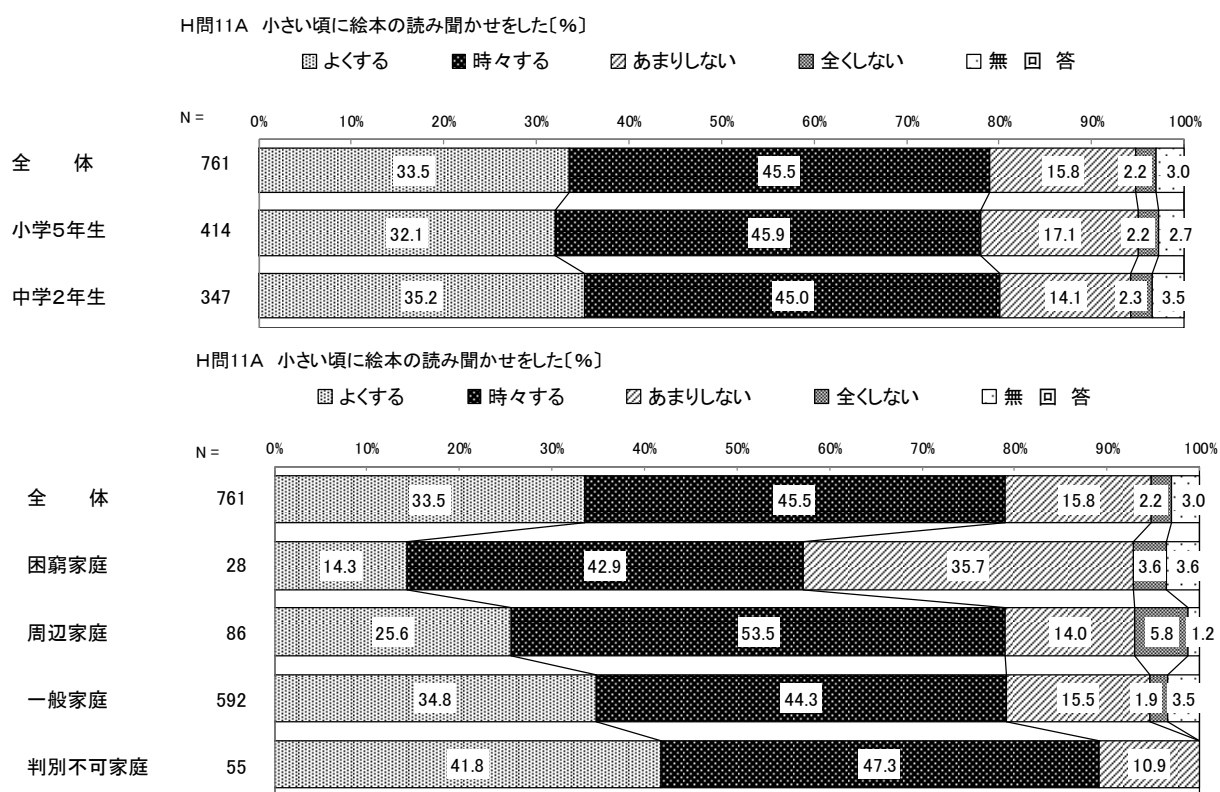
問 11 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。

(A) 小さい頃に絵本の読み聞かせをした

全体では、「時々する」が45.5%と多く、「よくする」が33.5%、「あまりしない」が15.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」が14.3%と少なく、「あまりしない」が35.7%と多い。

図表 2.3.1.H 小さい頃に絵本の読み聞かせをした

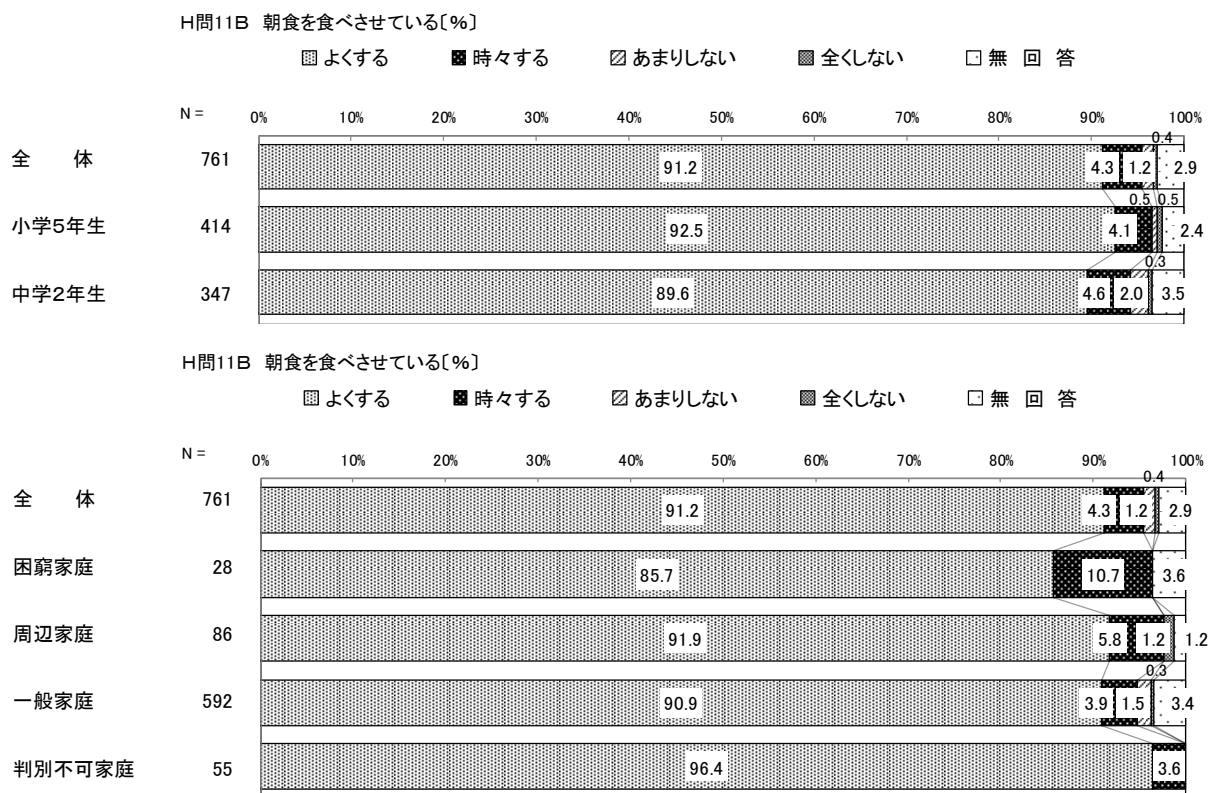


(B) 朝食を食べさせている

全体では、「よくする」が91.2%と大半を占めている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」が85.7%とやや少なく、「時々する」が10.7%と多い。

図表 2.3.2H 朝食を食べさせている

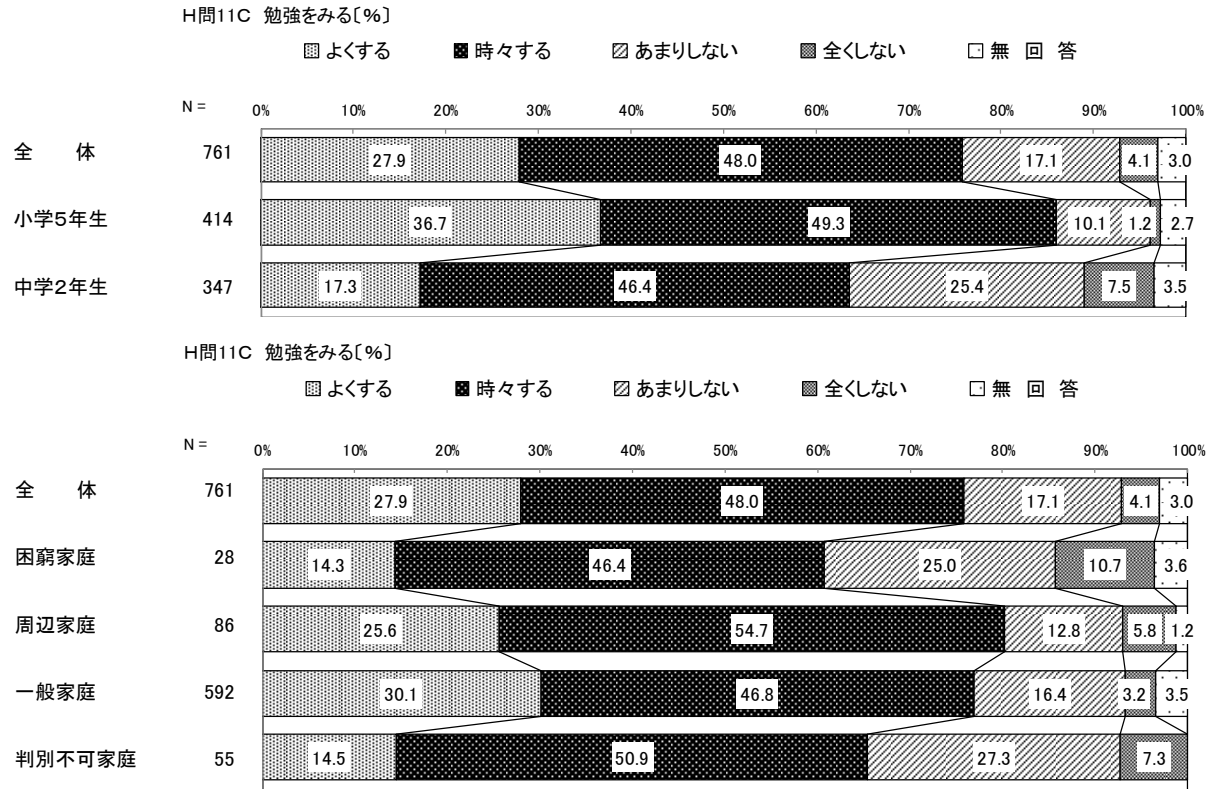


(C) 勉強をみる

全体では、「時々する」が48.0%と多く、「よくする」が27.9%、「あまりしない」が17.1%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまりしない」が25.0%、「全くしない」が10.7%と他の家庭に比べてそれぞれ多い。

図表 2.3.3.H 勉強をみる

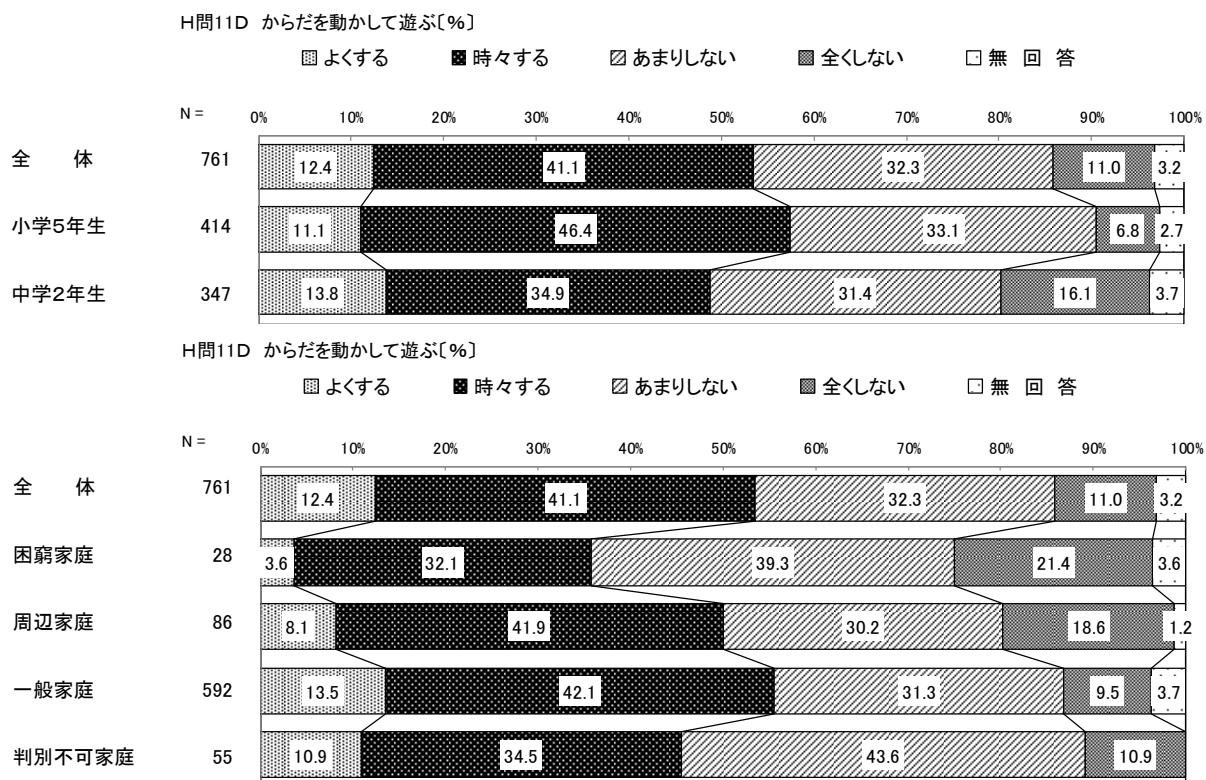


(D) からだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）

全体では、「時々する」が41.1%と多く、「あまりしない」が32.3%、「よくする」が12.4%、「全くしない」が11.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「時々する」と「よくする」がそれぞれ32.1%、3.6%と少なく、「全くしない」が21.4%と多い。

図表 2.3.4.H からだを動かして遊ぶ

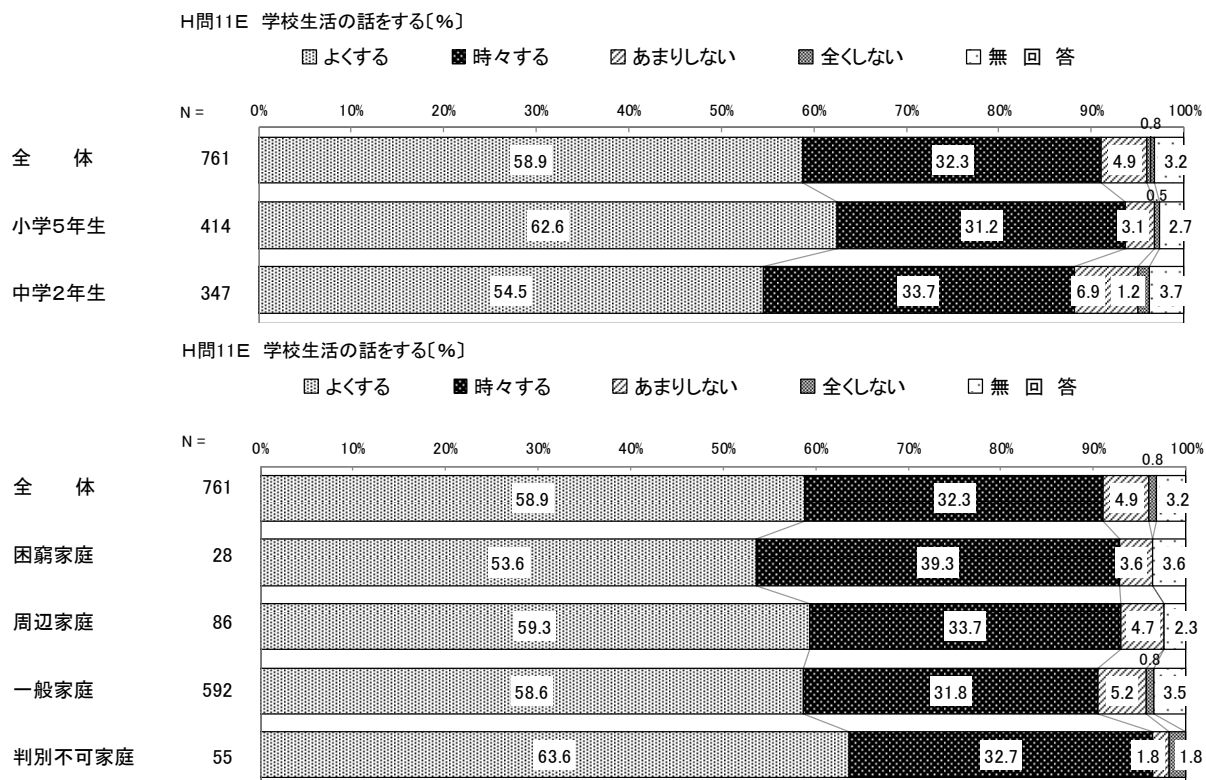


(E) 学校生活の話をする

全体では、「よくする」が58.9%と多く、「時々する」が32.3%が続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」が53.6%とやや少ない。

図表 2.3.5.H 学校生活の話をする

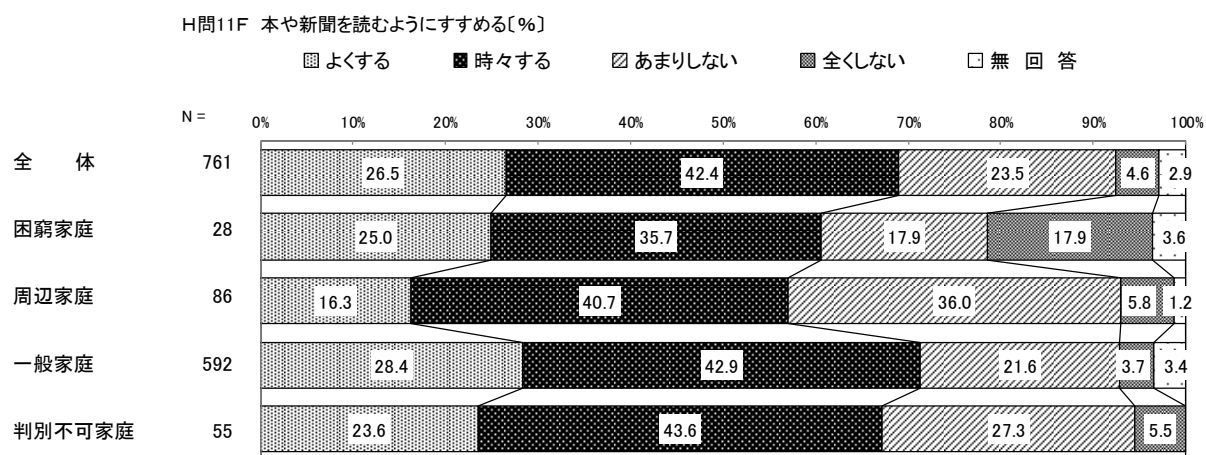
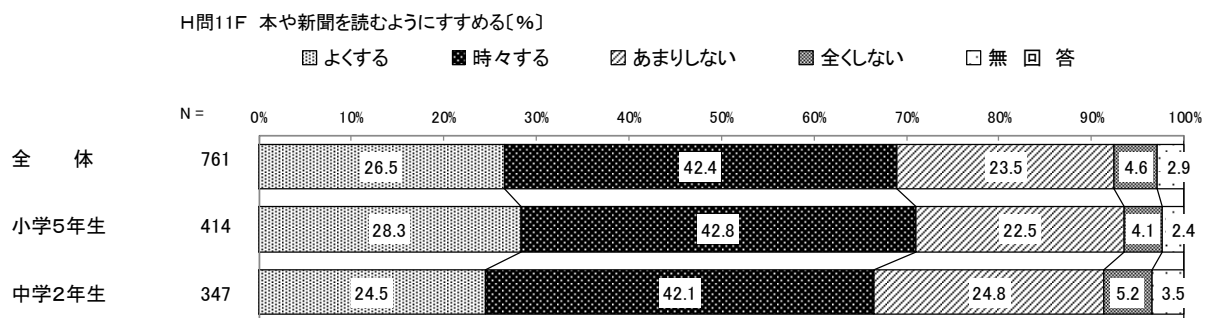


(F) 本や新聞（電子書籍は含むが、漫画や雑誌、教科書、参考書は除く）を読むようにすすめる

全体では、「時々する」が42.4%と多く、「よくする」が26.5%、「あまりしない」が23.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「全くしない」が17.9%と多い。周辺家庭で「よくする」が16.3%と少なく、「あまりしない」が36.0%と多い。

図表 2.3.6.H 本や新聞を読むようにすすめる

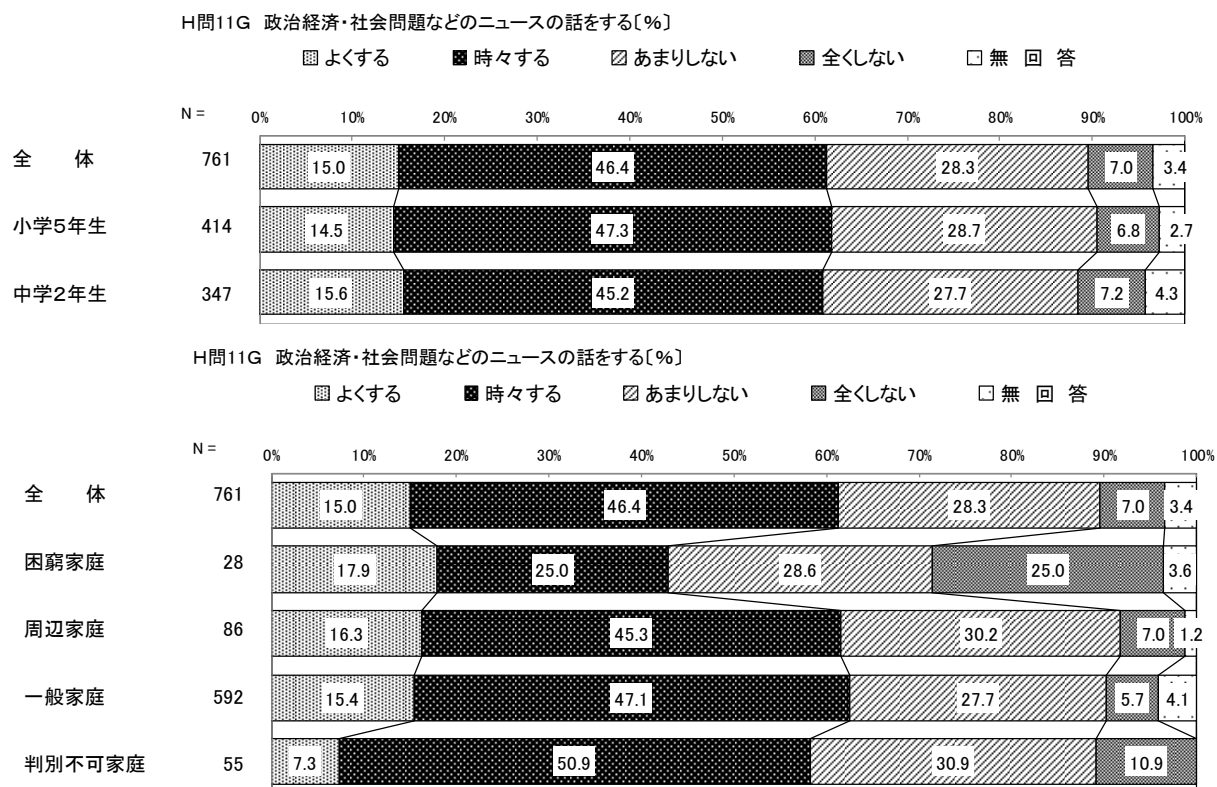


（G）政治経済・社会問題などのニュースの話をする

全体では、「時々する」が46.4%と多く、「あまりしない」が28.3%、「よくする」が15.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」は17.9%とやや多いが、「時々する」が25.0%と少なく、「全くしない」が25.0%と多い。

図表 2.3.7.H 政治経済・社会問題などのニュースの話をする

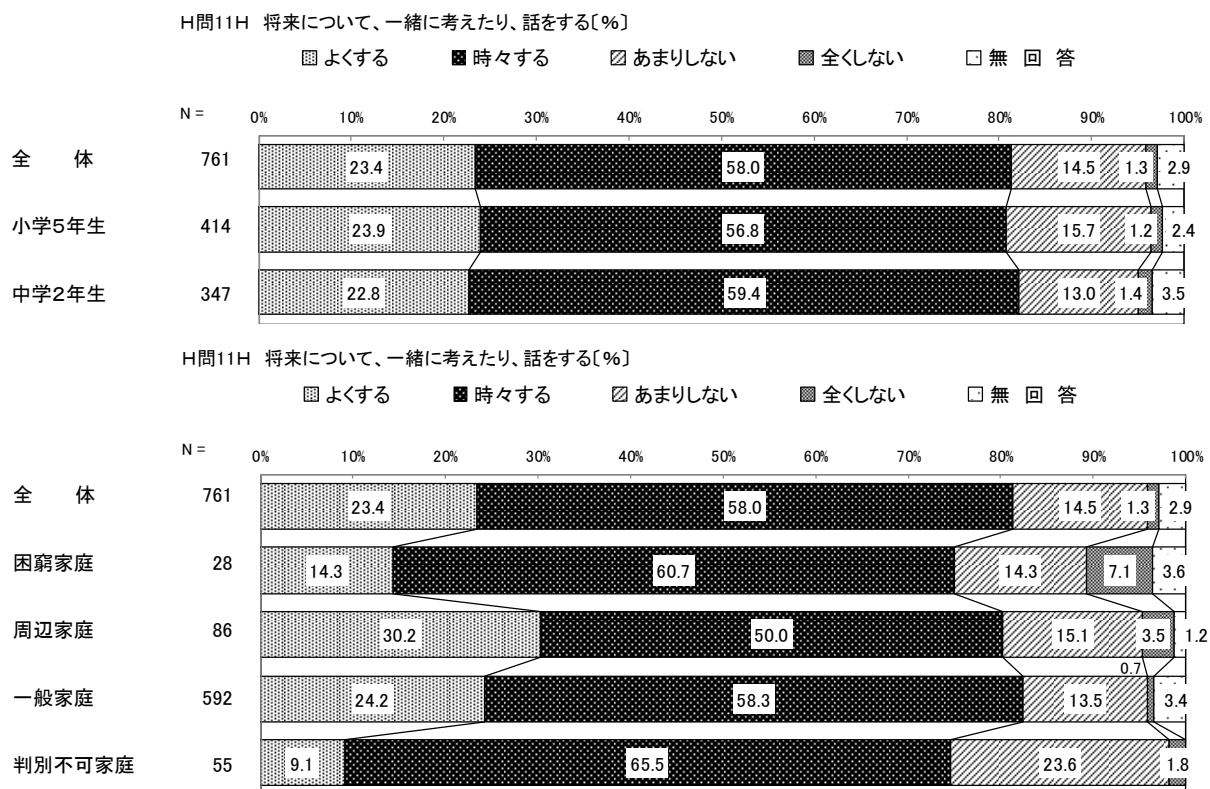


(H) 将来（夢、進路、職業等）について、一緒に考えたり、話をする

全体では、「時々する」が58.0%と最も多く、「よくする」が23.4%、「あまりしない」が14.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」は14.3%と少なく、「全くしない」が7.1%と多い。

図表 2.3.8.H 将来について、一緒に考えたり、話をする

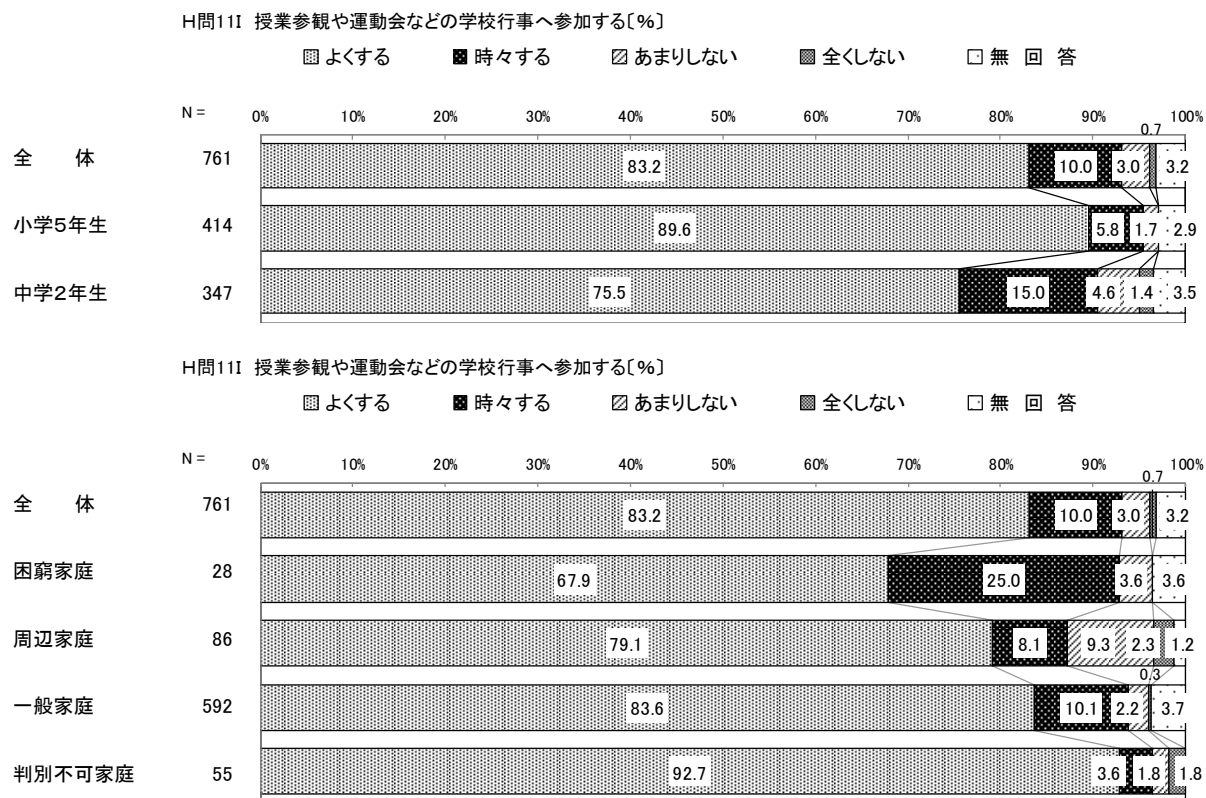


(I) 授業参観や運動会などの学校行事へ参加する

全体では、「よくする」が83.2%と最も多く、「時々する」が10.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」が67.9%と少なく、「時々する」が25.0%と多い。

図表 2.3.9.H 授業参観や運動会などの学校行事へ参加する

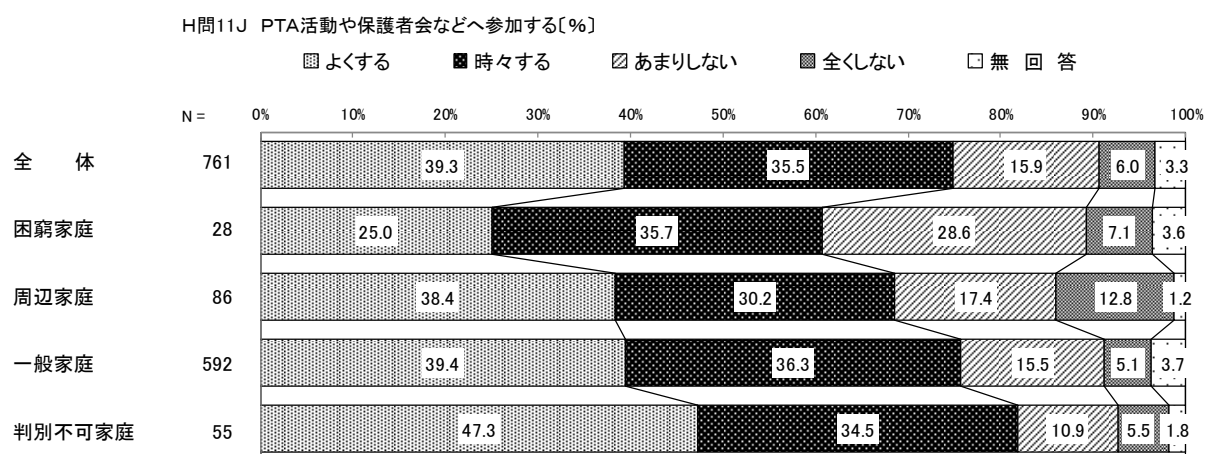
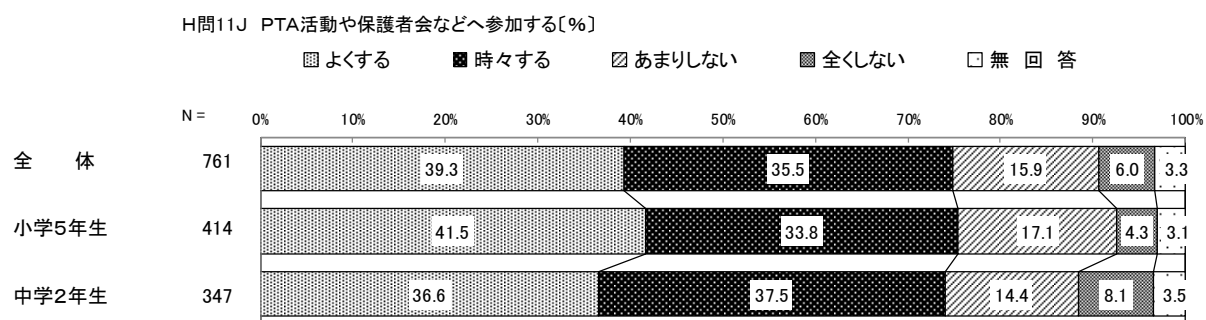


(J) P T A活動や保護者会などへ参加する

全体では、「よくする」が39.3%、「時々する」が35.5%とともに多く、「あまりしない」が15.9%、「全くしない」が6.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」が25.0%と少なく、「あまりしない」が28.6%と多い。「よくする」、「時々する」を合わせると、60.7%である。

図表 2.3.10.H PTA活動や保護者会などへ参加する

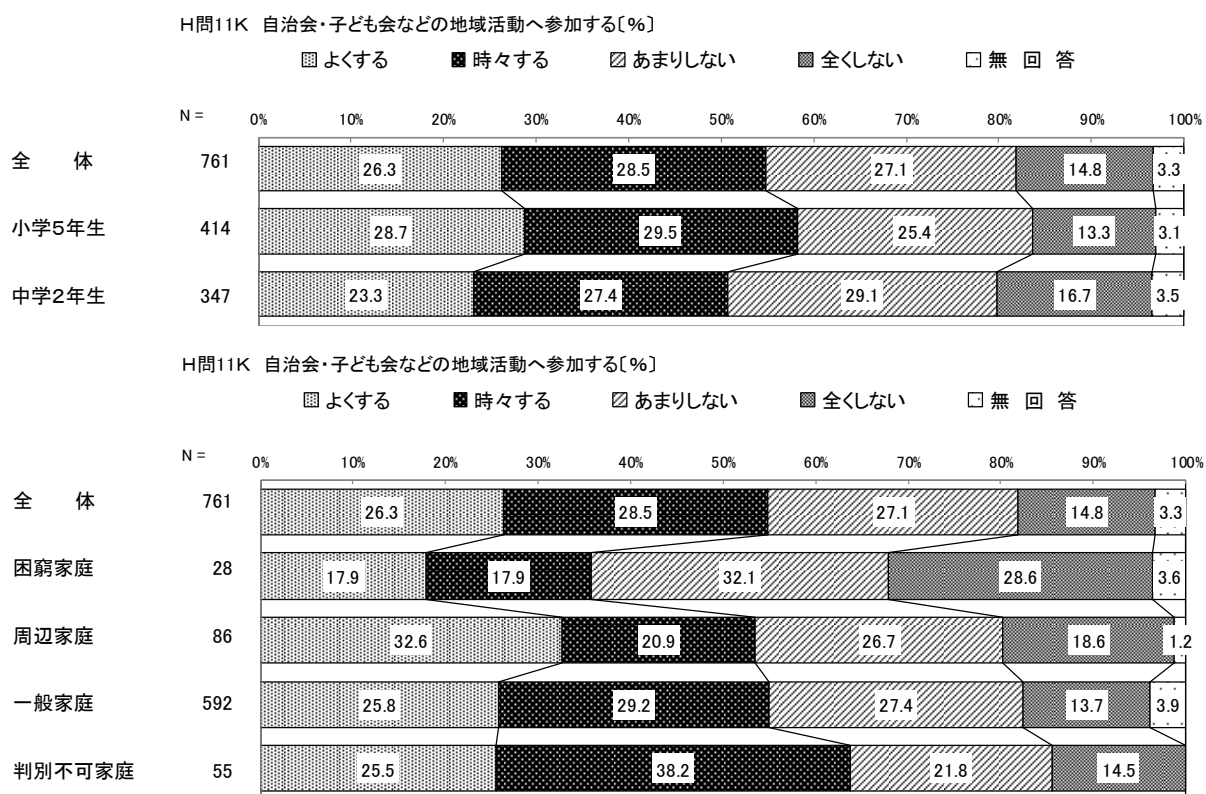


(K) 自治会・子ども会などの地域活動へ参加する

全体では、「時々する」が28.5%、「あまりしない」が27.1%、「よくする」が26.3%と同程度で続いており、「全くしない」が14.8%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくする」と「時々する」がともに17.9%と少なく、「全くしない」が28.6%と多い。

図表 2.3.11.H 自治会・子ども会などの地域活動へ参加する



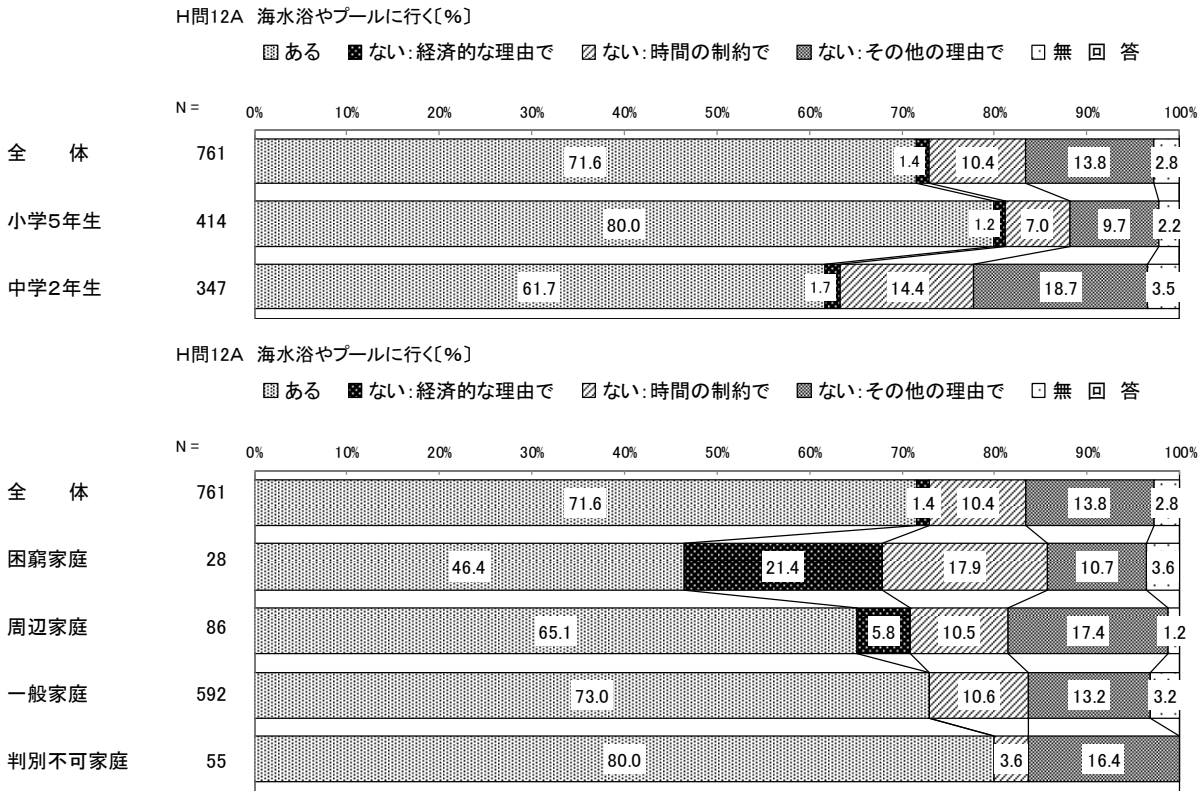
問 12 あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次のような体験をすることができますか。

(A) 海水浴やプールに行く

全体では、「ある」が71.6%と多く、「ない：その他の理由で」が13.8%、「ない：時間の制約で」が10.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「ない：経済的な理由で」が21.4%、「ない：時間の制約で」が17.9%とそれぞれ多い。

図表 2.3.12H 海水浴やプールに行く

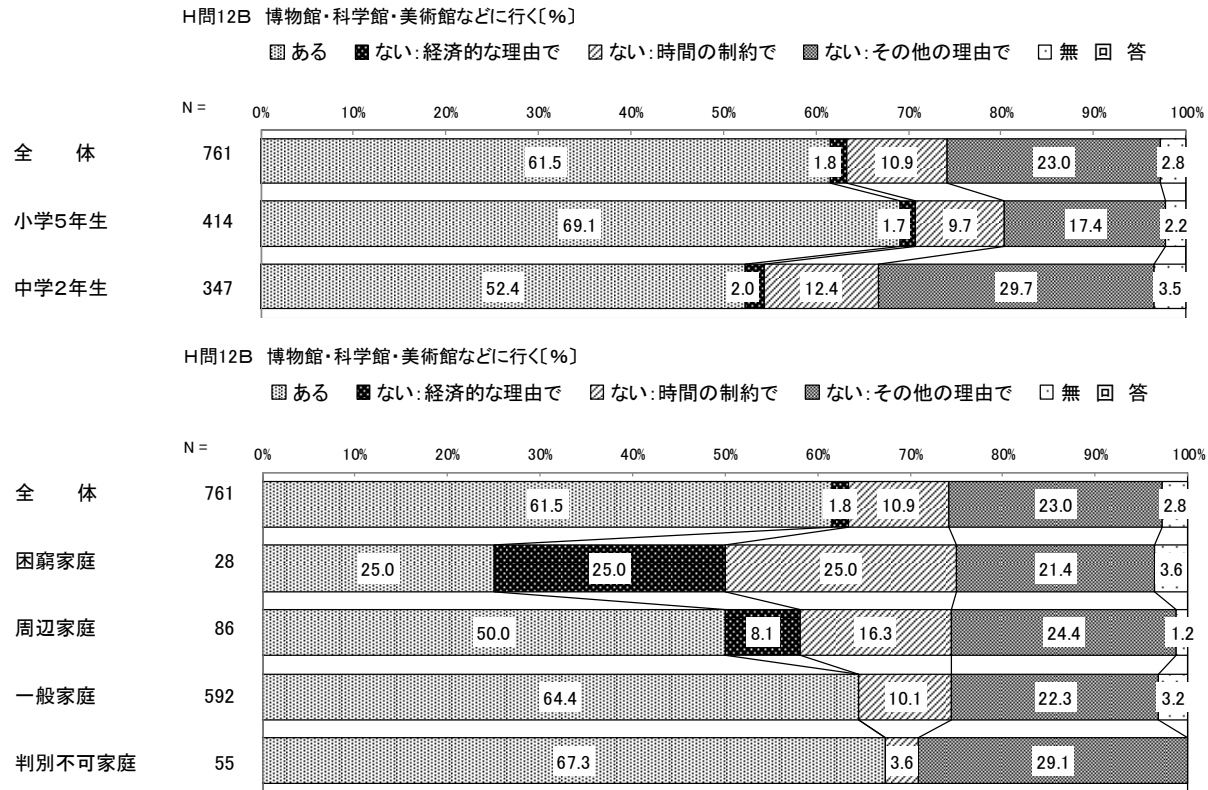


(B) 博物館・科学館・美術館などに行く

全体では、「ある」が61.5%と多く、「ない：その他の理由で」が23.0%、「ない：時間の制約で」が10.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「ない：経済的な理由で」と「ない：時間の制約で」がともに25.0%と多い。

図表 2.3.13.H 博物館・科学館・美術館などに行く

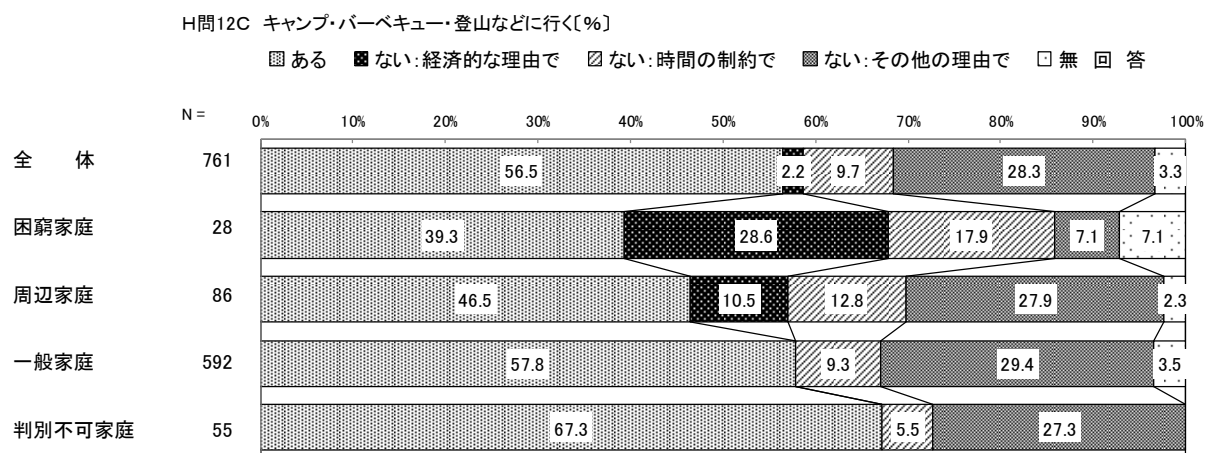
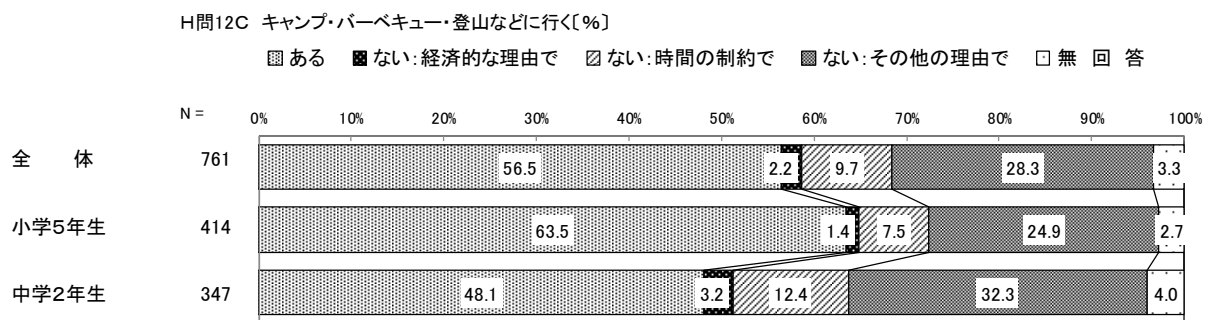


(C) キャンプ・バーベキュー・登山などに行く

全体では、「ある」が56.5%と多く、「ない：その他の理由で」が28.3%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「ない：経済的な理由で」が28.6%、「ない：時間の制約で」が17.9%とそれぞれ多い。

図表 2.3.14.H キャンプ・バーベキュー・登山などに行く

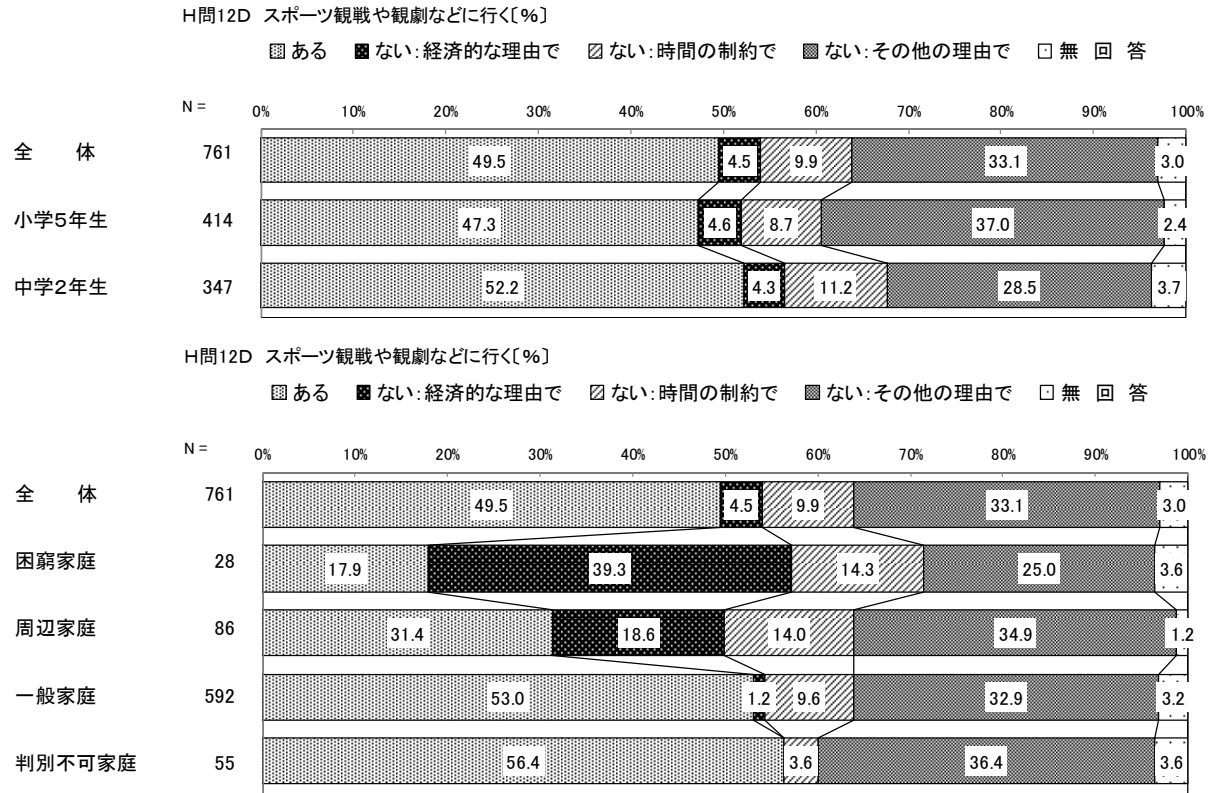


(D) スポーツ観戦や観劇などに行く

全体では、「ある」が49.5%と多く、「ない：その他の理由で」が33.1%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「ない：経済的な理由で」がそれぞれ39.3%、18.6%と多い。

図表 2.3.15.H スポーツ観戦や観劇などに行く

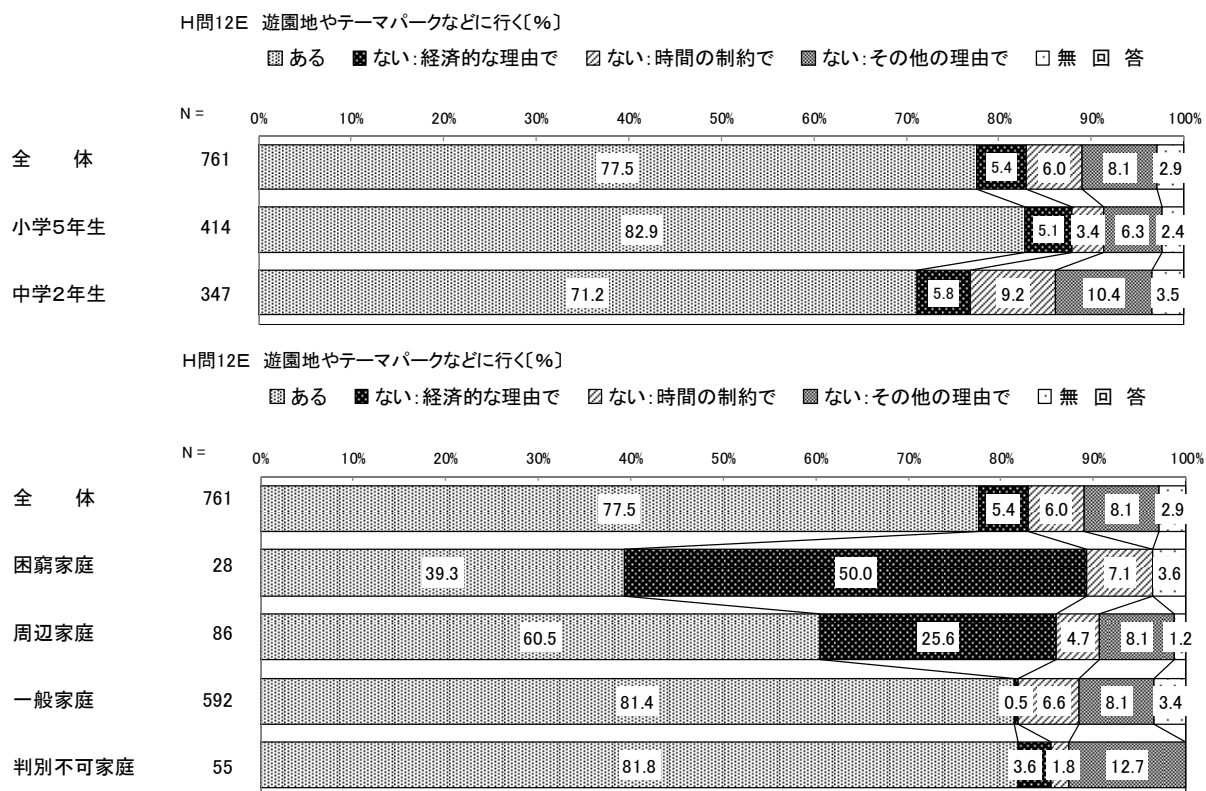


(E) 遊園地やテーマパークなどに行く

全体では、「ある」が77.5%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「ない：経済的な理由で」がそれぞれ50.0%、25.6%と多い。

図表 2.3.16.H 遊園地やテーマパークなどに行く

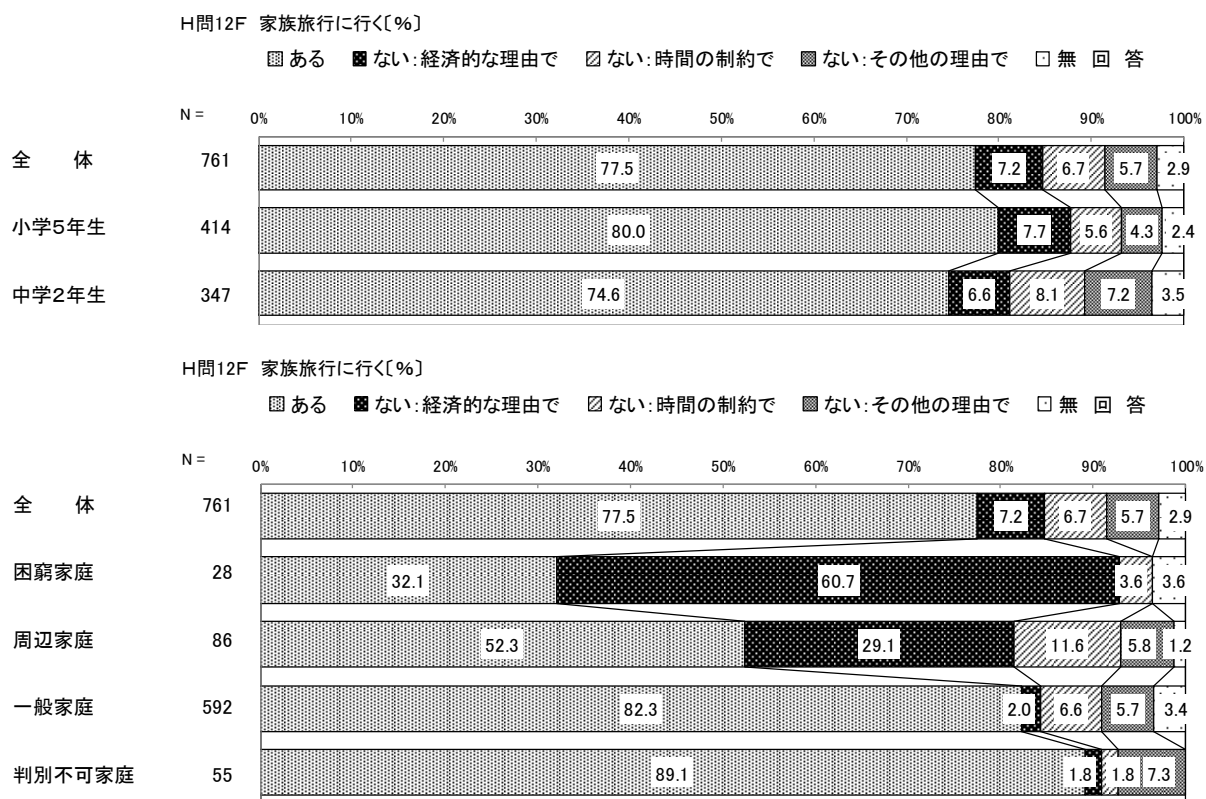


(F) 家族旅行に行く

全体では、「ある」が77.5%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「ない：経済的な理由で」がそれぞれ60.7%、29.1%と多い。周辺家庭で「ない：時間の制約で」も11.6%と多い。

図表 2.3.17.H 家族旅行に行く



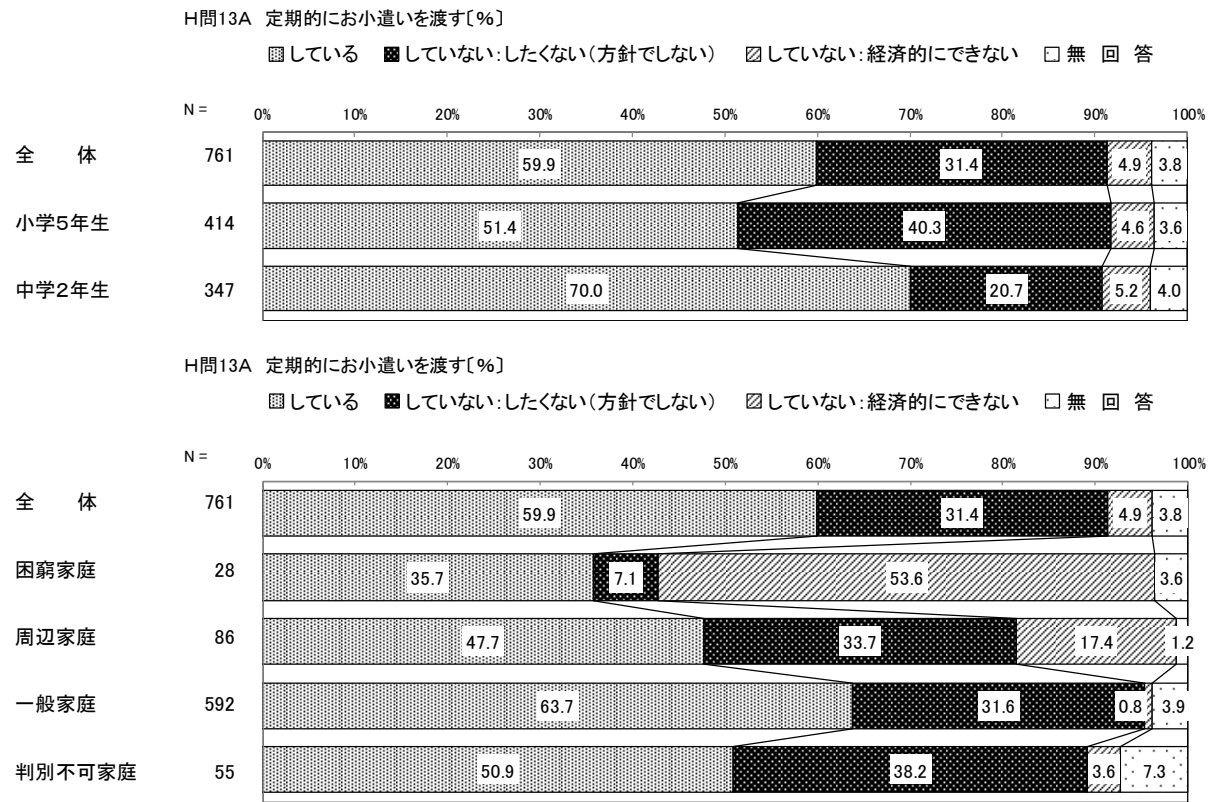
問 13 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

(A) 定期的にお小遣いを渡す

全体では、「している」が59.9%と半数を超え、「していない：したくない（方針でしない）」が31.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「していない：経済的にできない」がそれぞれ53.6%、17.4%と多い。

図表 2.3.18.H 定期的にお小遣いを渡す

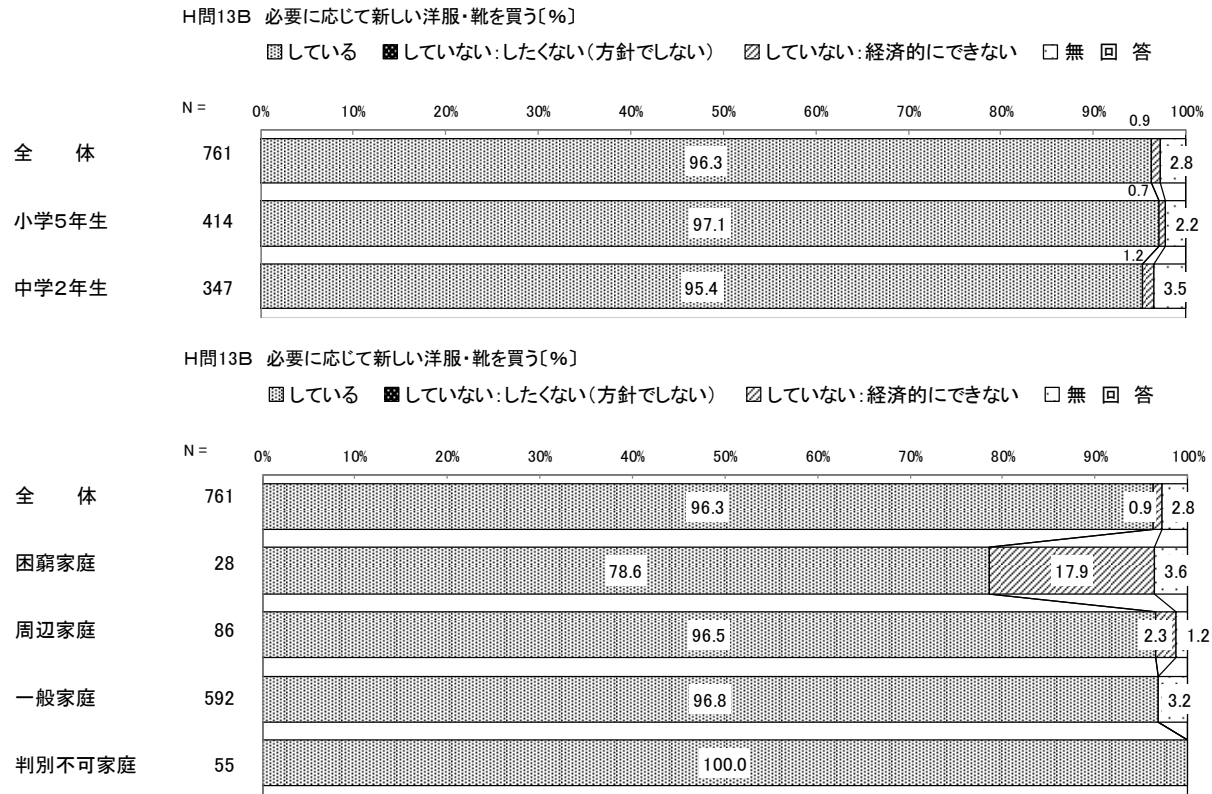


(B) 必要に応じて新しい洋服・靴を買う

全体では、「している」が96.3%と大半を占めている。

生活困難度別では、困窮家庭で「していない：経済的にできない」が17.9%と多い。

図表 23.19.H 必要に応じて新しい洋服・靴を買う

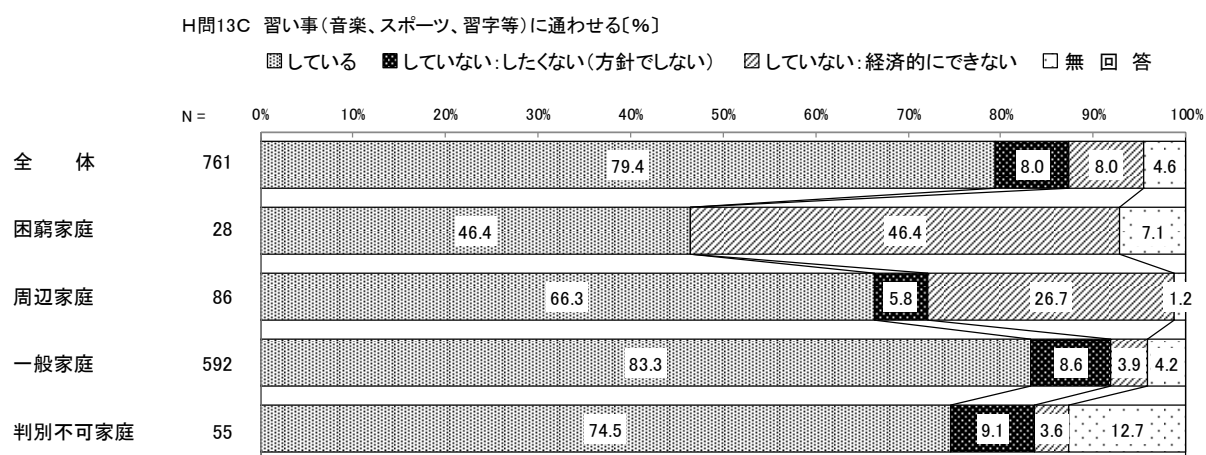
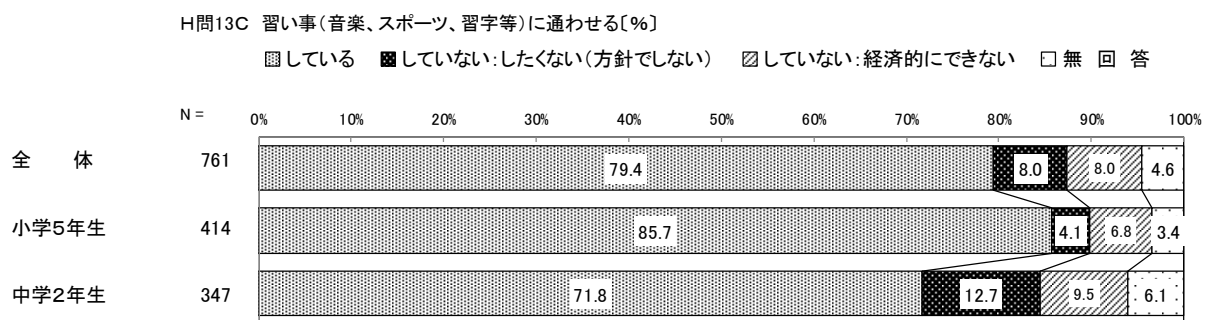


(C) 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる

全体では、「している」が79.4%と多く、「していない：したくない（方針でしない）」と「していない：経済的にできない」がともに8.0%である。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「していない：経済的にできない」がそれぞれ46.4%、26.7%と多い。

図表 2.3.20.H 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

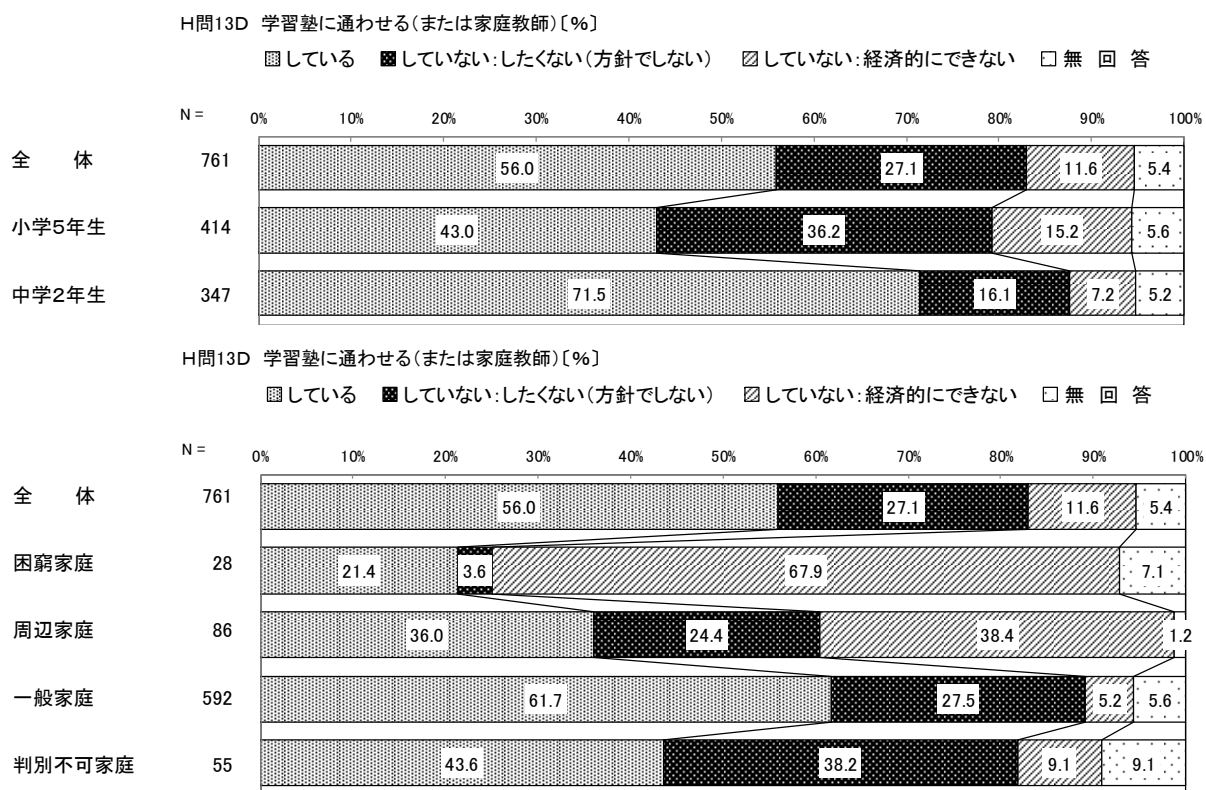


(D) 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）

全体では、「している」が56.0%と半数を超え、「していない：したくない（方針でしない）」が27.1%、「していない：経済的にできない」が11.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「していない：経済的にできない」がそれぞれ67.9%、38.4%と多い。

図表 2.3.21.H 学習塾に通わせる(または家庭教師)

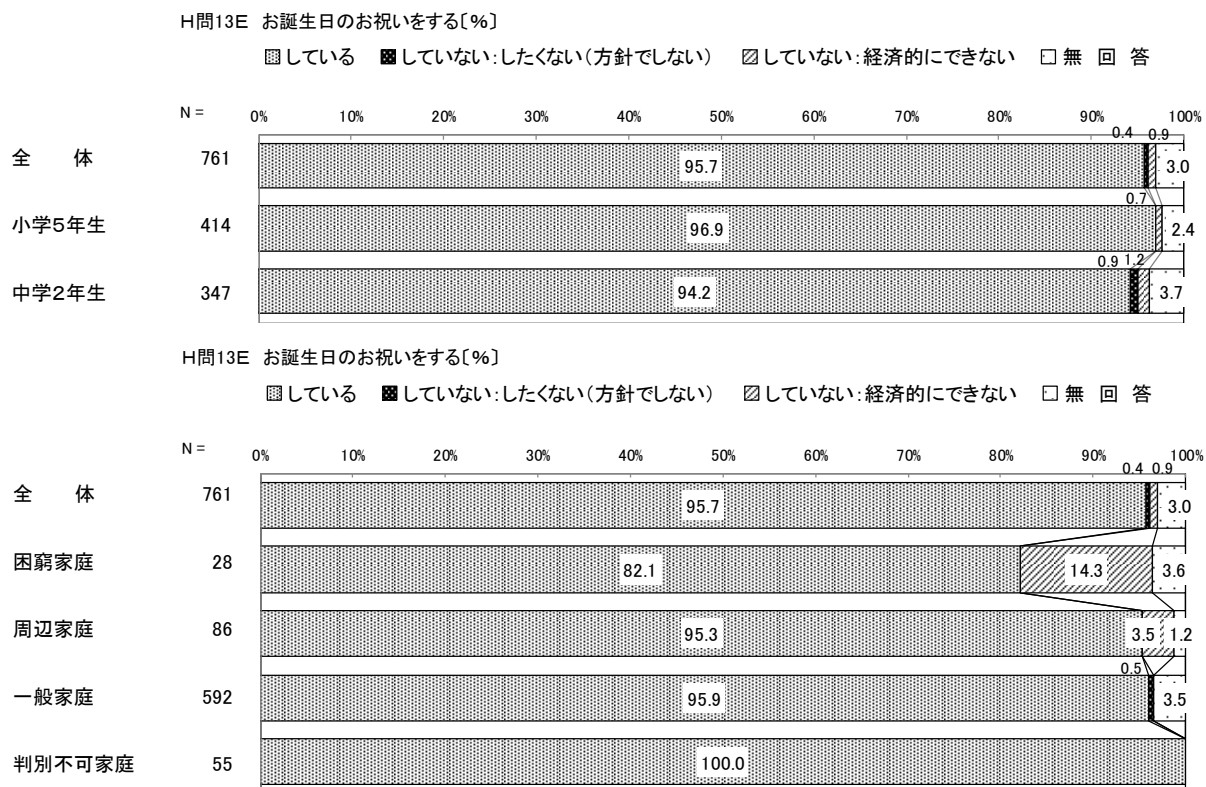


(E) お誕生日のお祝いをする

全体では、「している」が95.7%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「していない：経済的にできない」が14.3%と多い。

図表 2.3.22.H お誕生日のお祝いをする

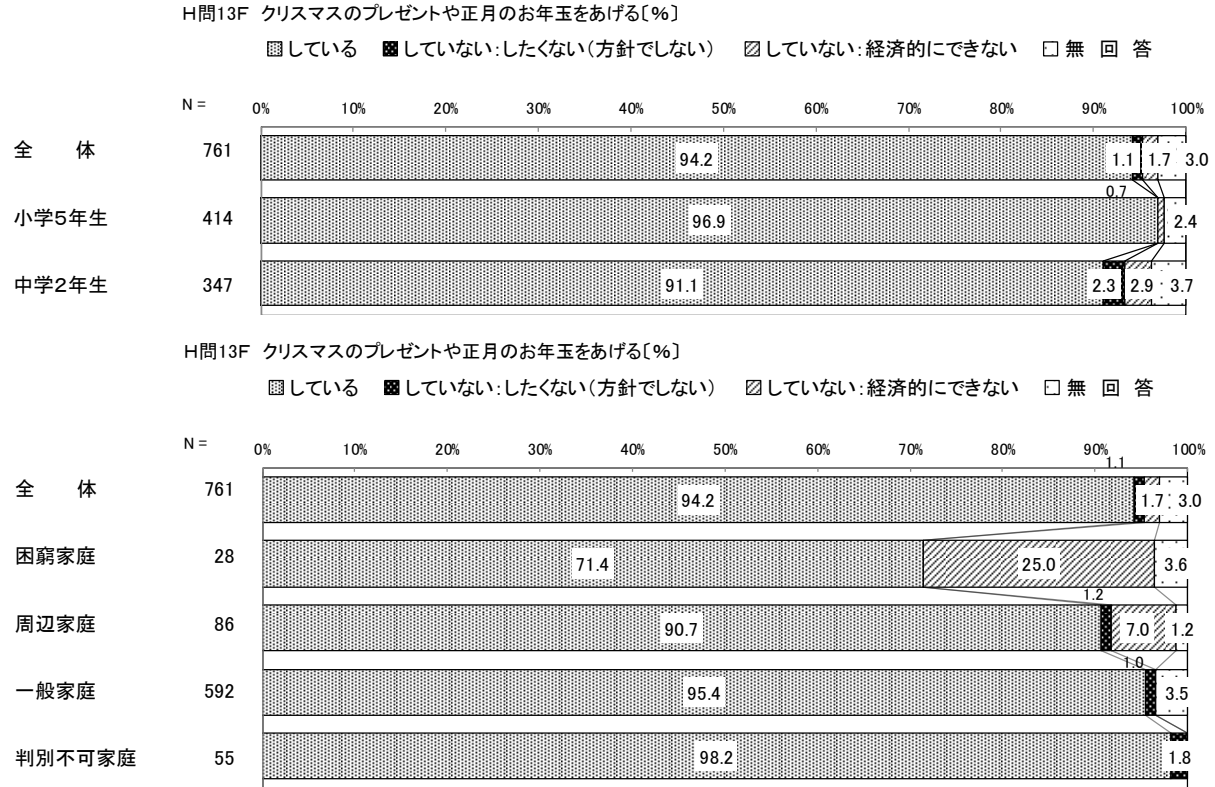


(F) クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

全体では、「している」が94.2%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「していない：経済的にできない」が25.0%と多い。

図表 2.3.23.H クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

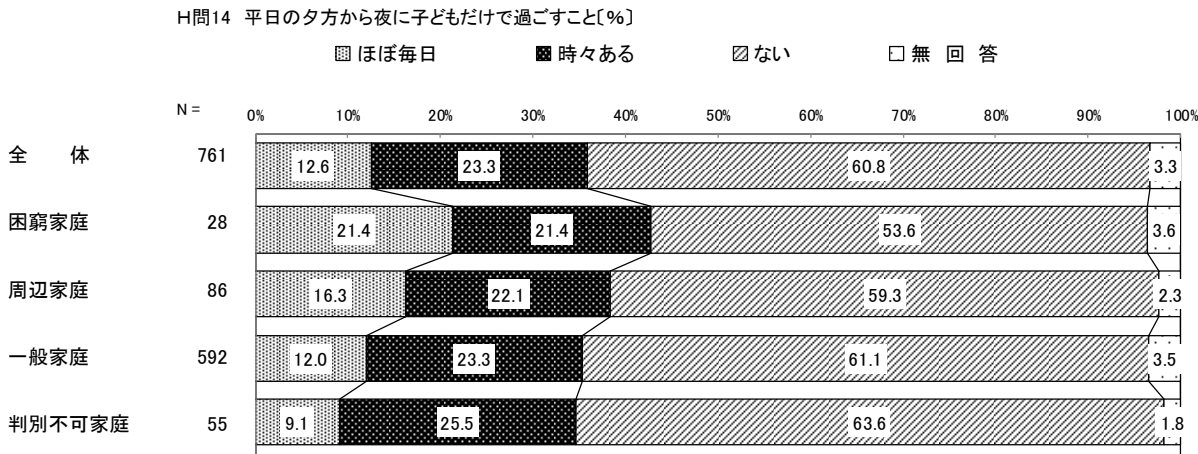
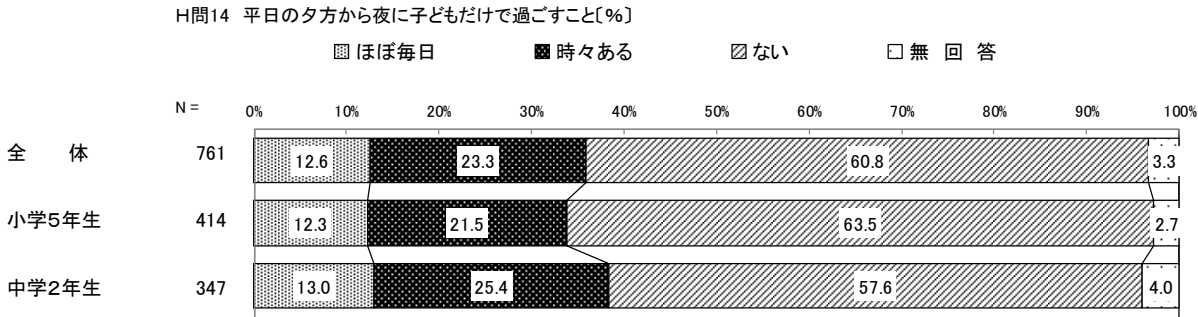


問 14 あなたのご家庭では、平日の夕方から夜の時間帯に、お子さんだけで過ごすことがありますか。

全体では、「ない」が60.8%と多く、「時々ある」が23.3%、「ほぼ毎日」が12.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「ほぼ毎日」が21.4%と多い。

図表 2.3.24.H 平日の夕方から夜に子どもだけで過ごすこと



2.4 子どもの将来のこと

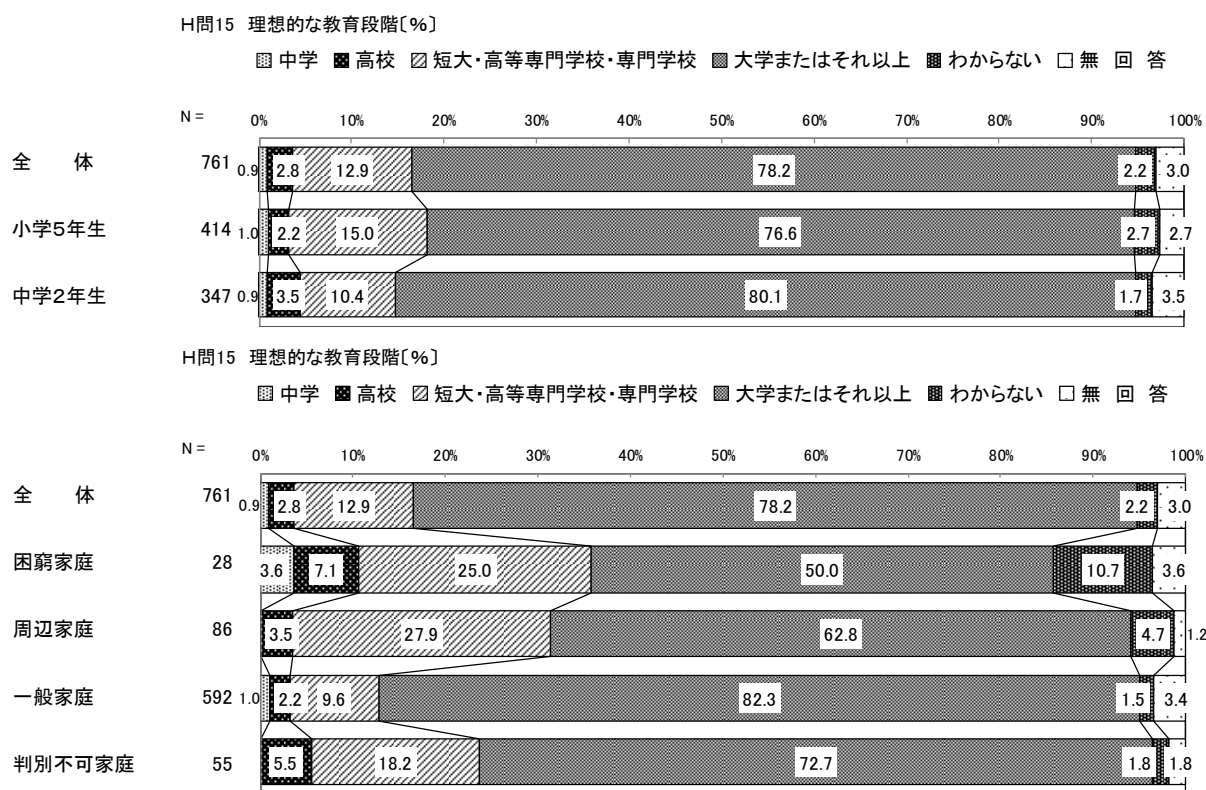
問 15 あなたは、お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。

(A) 理想的な教育段階

全体では、「大学またはそれ以上」で78.2%と多く、「短大・高等専門学校・専門学校」で12.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「大学またはそれ以上」がそれぞれ50.0%、62.8%と少なく、「短大・高等専門学校・専門学校」がそれぞれ25%程度と多い。

図表 24.1.H 理想的な教育段階

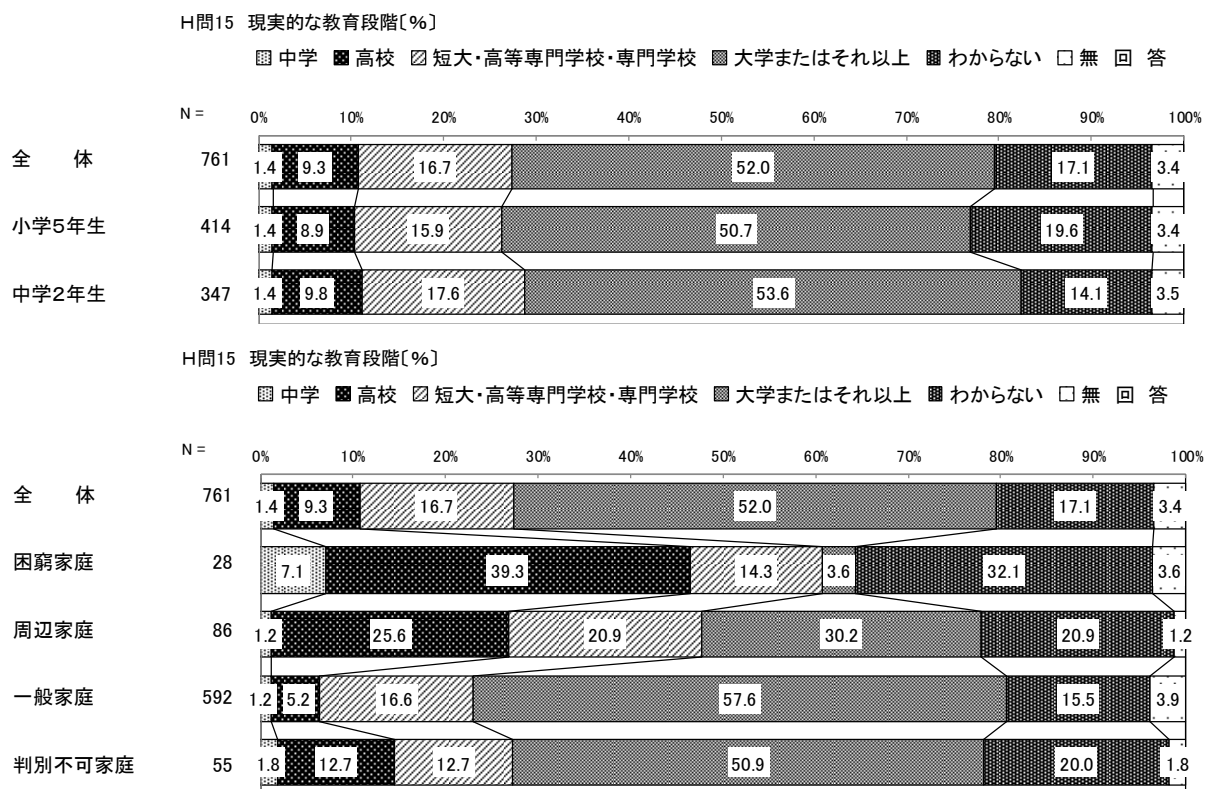


(B) 現実的な教育段階

全体では、「大学またはそれ以上」が52.0%と多く、「わからない」が17.1%、「短大・高等専門学校・専門学校」が16.7%と続いている・

生活困難度別では、困窮家庭で「大学またはそれ以上」が3.6%と少なく、「高校」が39.3%、「中学」が7.1%とそれぞれ多い。周辺家庭で「高校」が25.6%と多い。

図表 2.4.2.H 現実的な教育段階



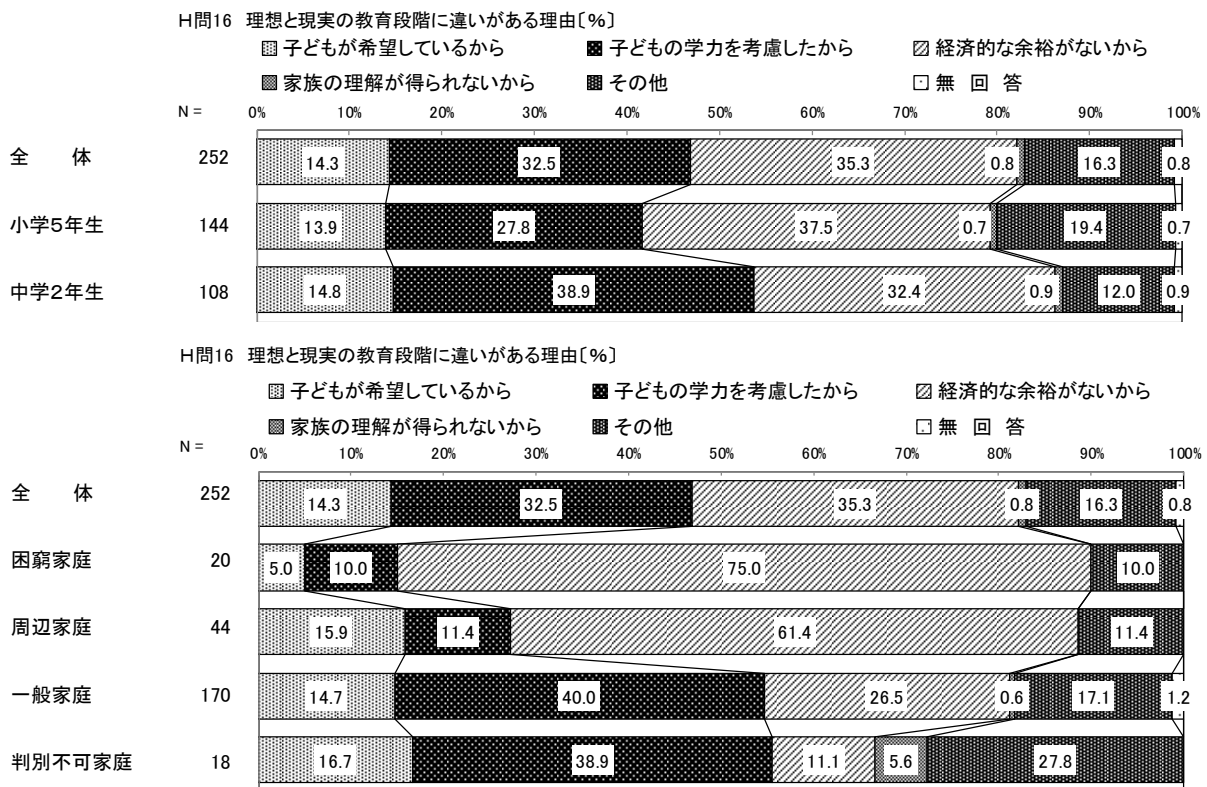
【問 15 で理想と現実的な教育段階に違いがある方】

問 16 あなたが、そのように考えた理由を選んでください。

全体では、「経済的な余裕がないから」と「子どもの学力を考慮したから」がそれぞれ35%前後と多く、「その他」が16.3%、「子どもが希望しているから」が14.3%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「子どもの学力を考慮したから」がそれぞれ10.0%、11.4%と少なく、「経済的な余裕がないから」がそれぞれ75.0%、61.4%と多い。

図表 2.4.3.H 理想と現実の教育段階に違いがある理由



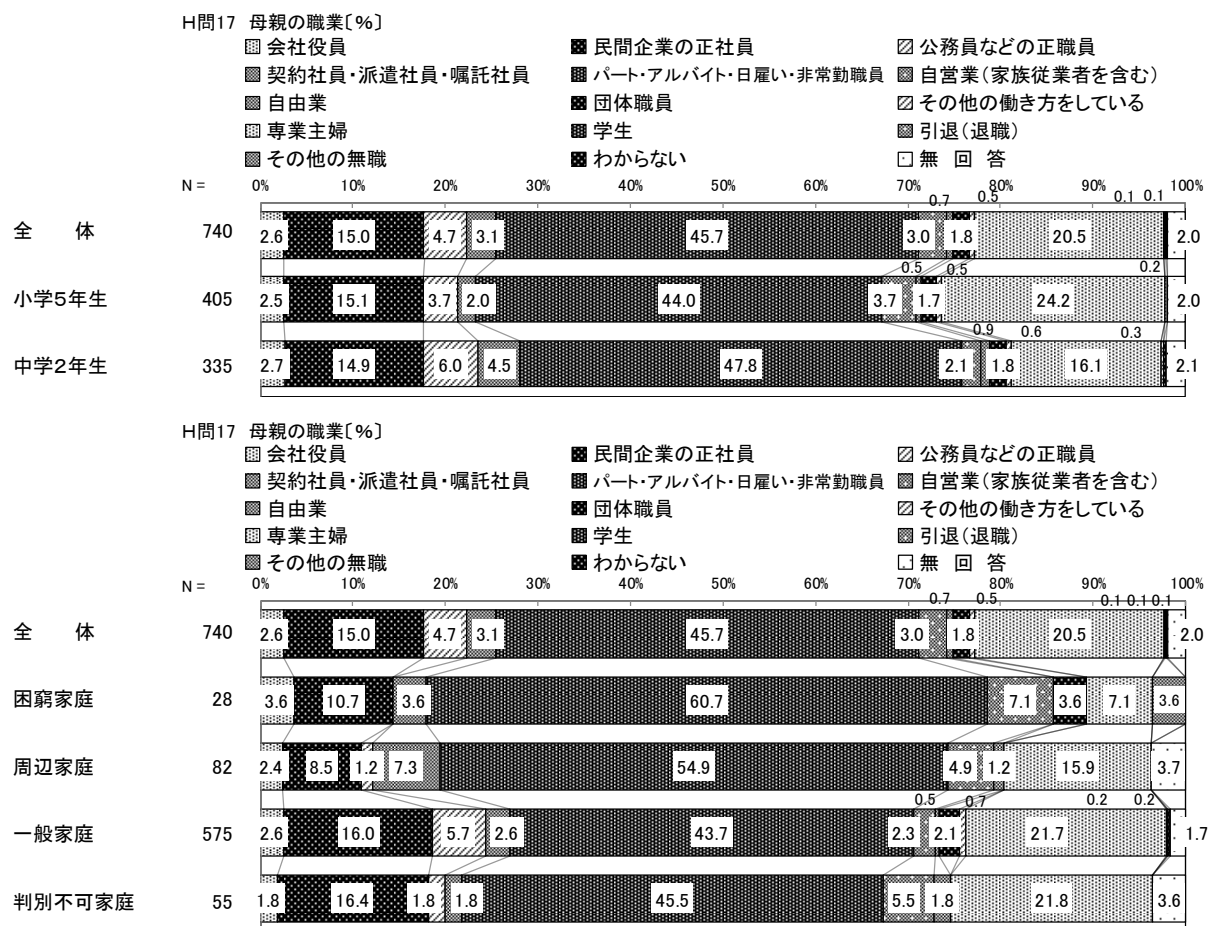
2.5 子どもの保護者のこと

問 17 お母さんの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。

全体では、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が45.7%と多く、「専業主婦」が20.5%、「民間企業の正社員」が15.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」がそれぞれ60.7%、54.9%と多い。

図表 2.5.1.H 母親の職業



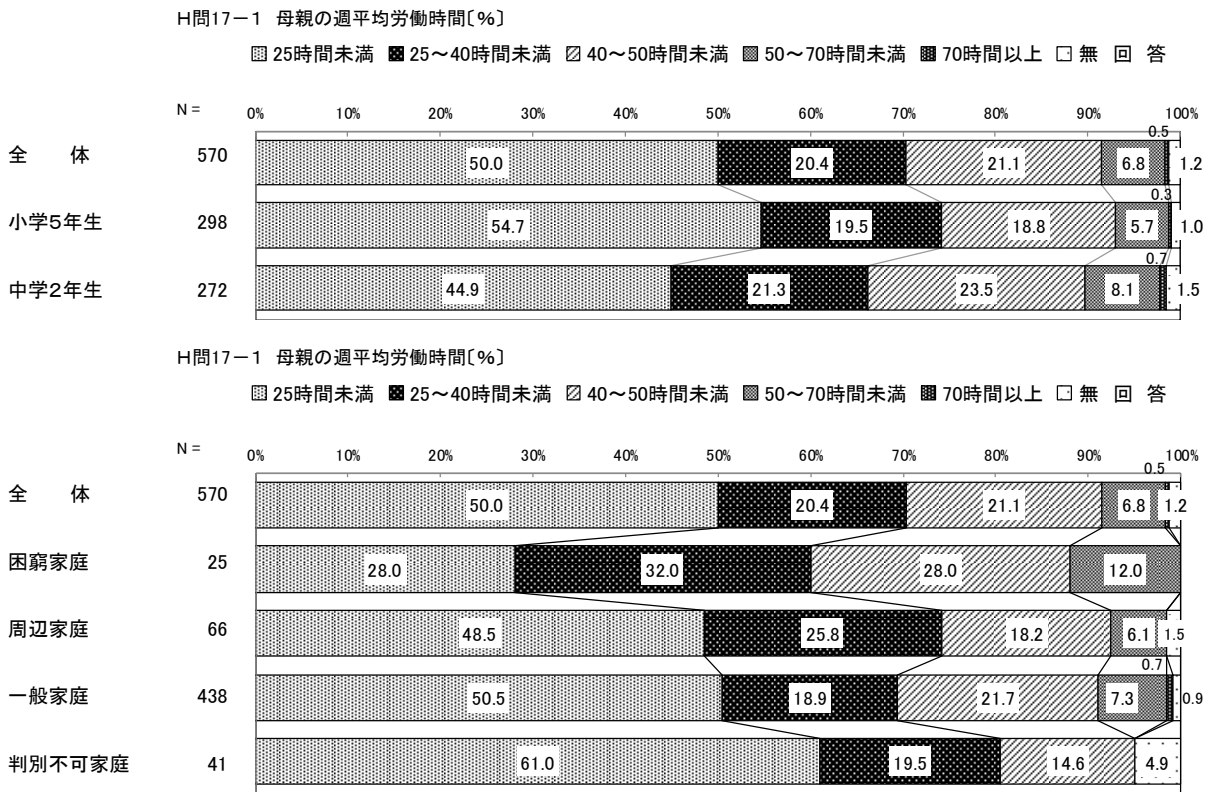
【問17で「1」～「9」を選んだ方】

問17-1 お母さんは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

全体では、「25時間未満」が50.0%と多く、「25～40時間未満」と「40～50時間未満」がそれぞれ20%程度で続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「25時間未満」が28.0%と少なく、25時間以上の選択肢がいずれも多い。

図表 2.5.2.H 母親の週平均労働時間



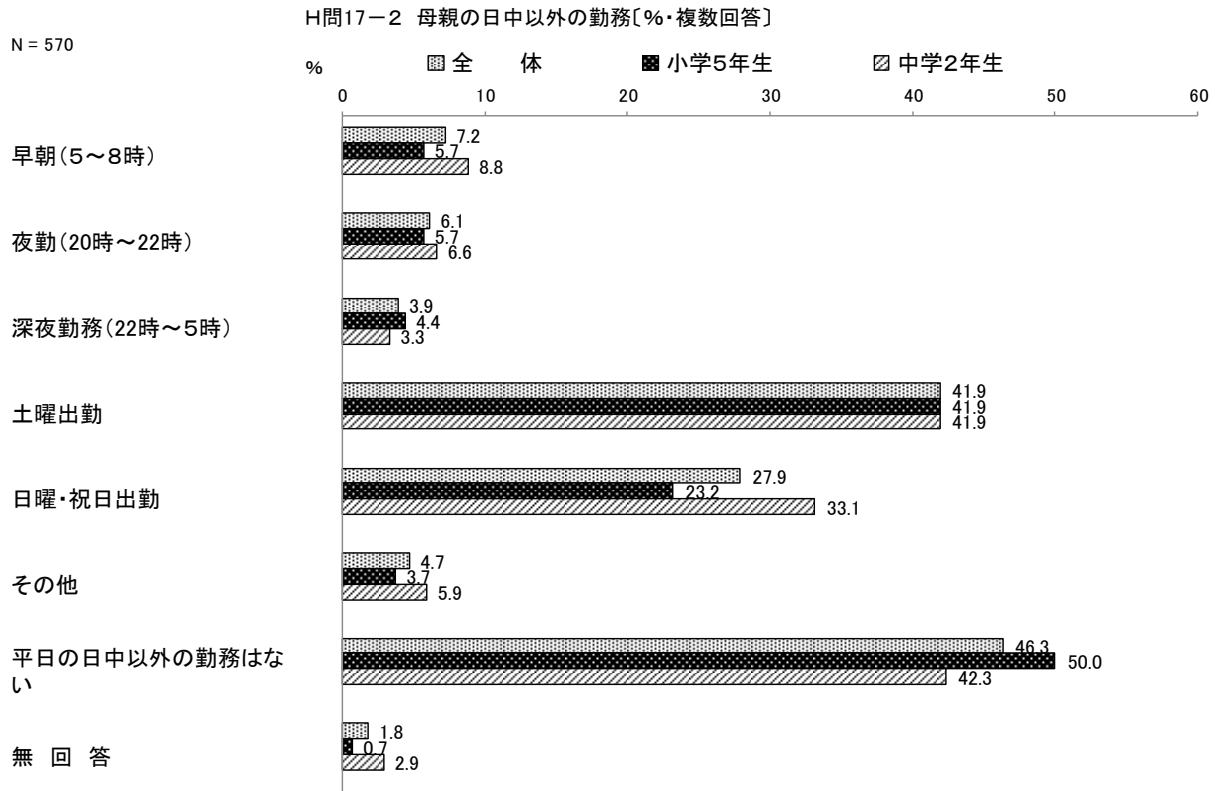
【問17で「1」～「9」を選んだ方】

問17-2 お母さんは、平日の日中以外の勤務がありますか。

全体では、「平日の日中以外の勤務はない」が46.3%、「土曜出勤」が41.9%と多く、「日曜・祝日出勤」が27.9%と続いている。

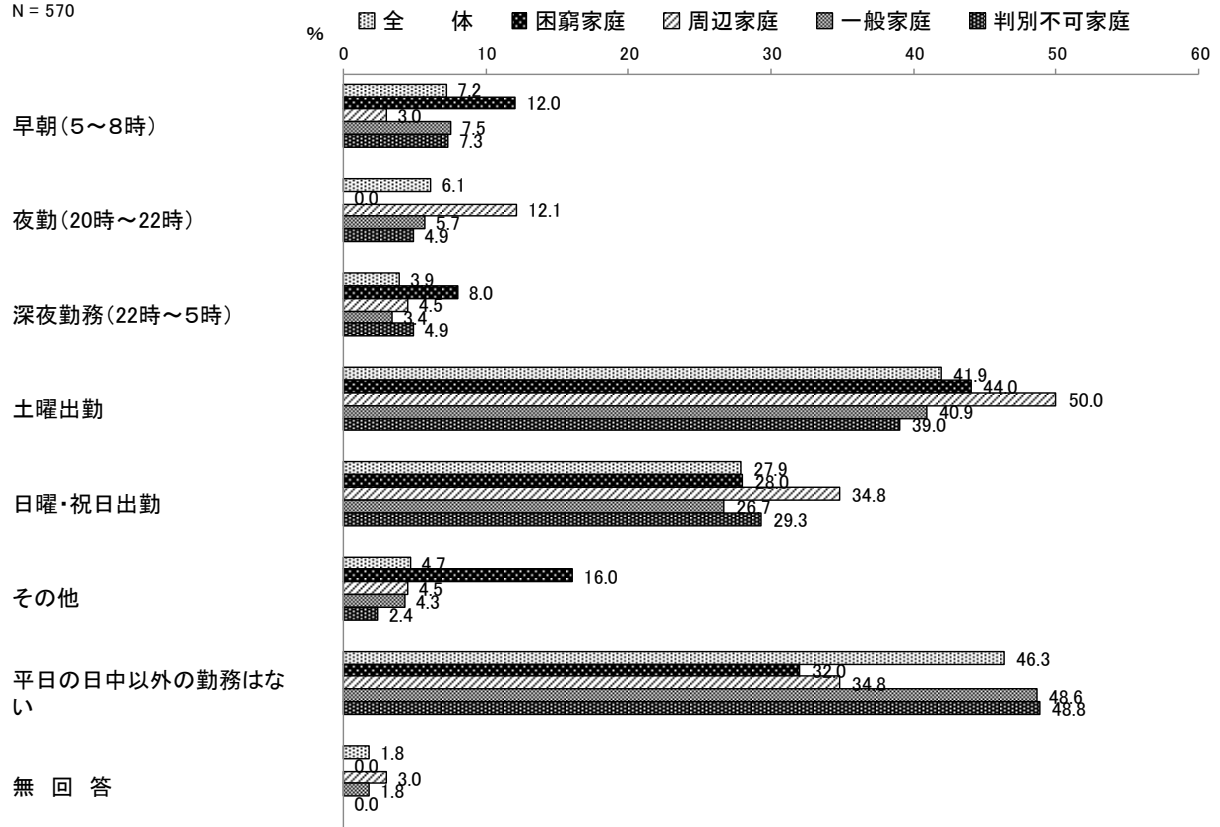
生活困難度別では、周辺家庭で「土曜出勤」と「日曜・祝日出勤」、「夜勤（20時～22時）」がそれぞれ50.0%、34.8%、12.1%と他の家庭より多く、困窮家庭で「早朝（5～8時）」と「深夜勤務（22時～5時）」がそれぞれ12.0%、8.0%と他の家庭より多い。

図表 2.5.3.H 母親の日中以外の勤務



N = 570

H問17-2 母親の日中以外の勤務[%・複数回答]



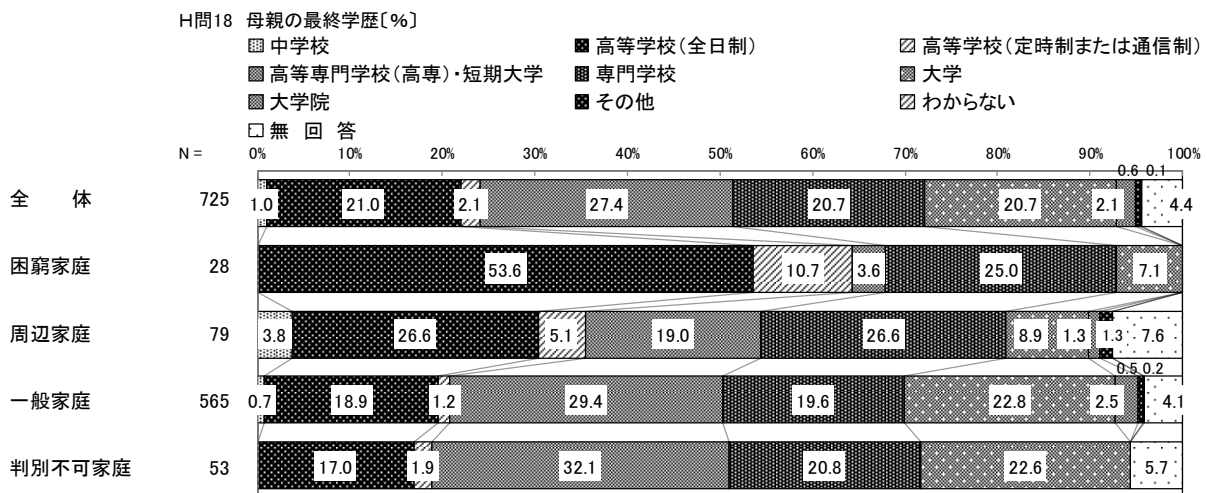
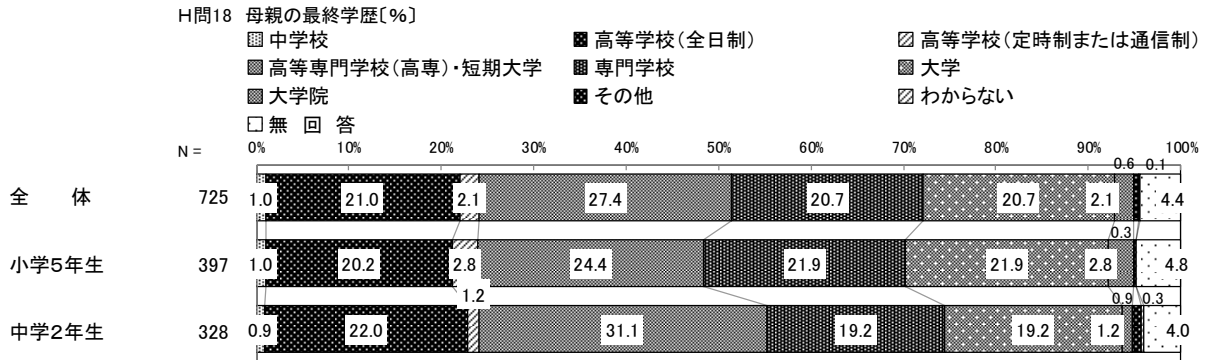
【問 17 を回答した方全員】

問 18 お母さんが最後に通った学校は次のどちらに当たりますか。

全体では、「高等専門学校（高専）・短期大学」が27.4%と多く、「高等学校（全日制）」と「専門学校」、「大学」がともに20%程度と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「高等学校（全日制）」が53.6%と半数を超えて多い。

図表 2.5.4.H 母親の最終学歴

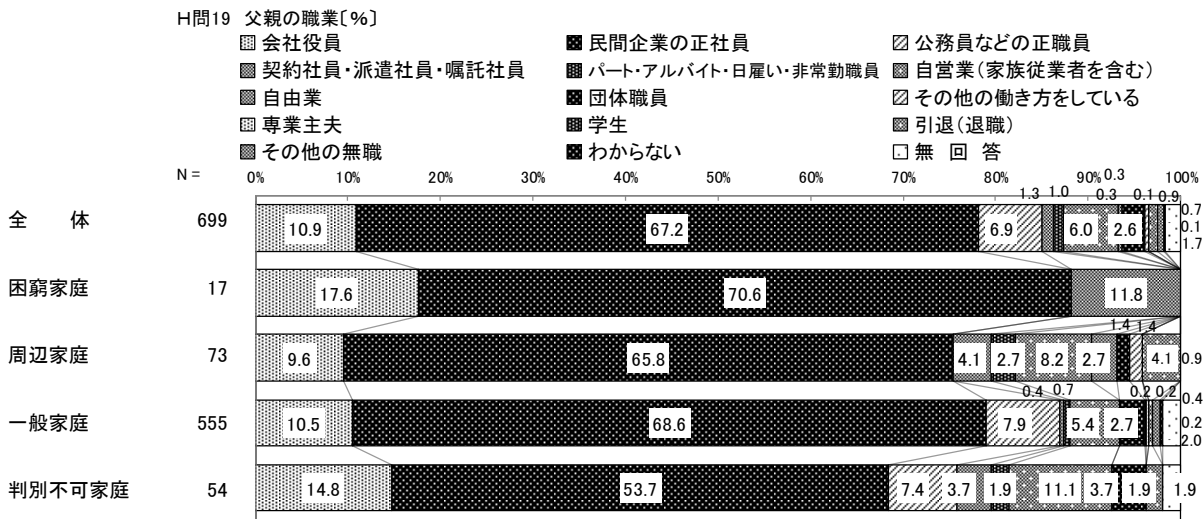
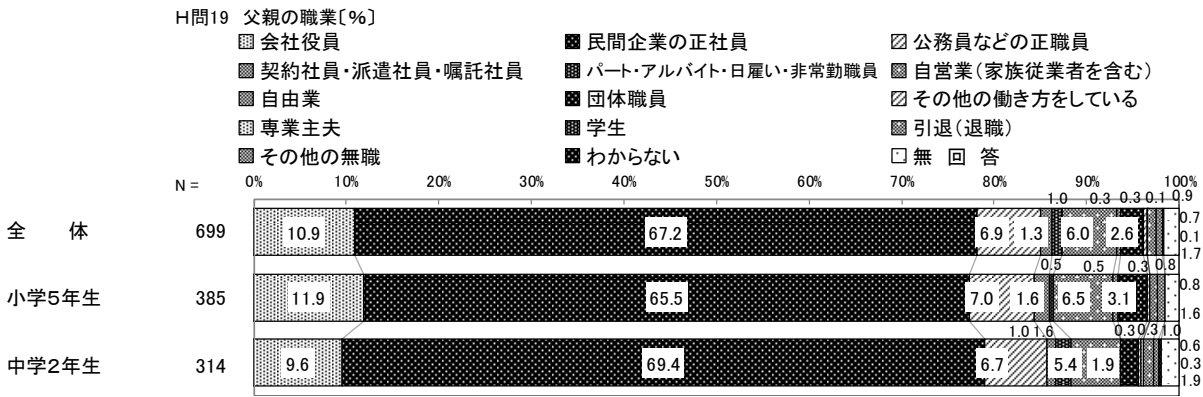


問 19 お父さんの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。

全体では、「民間企業の正社員」が67.2%と多く、「会社役員」が10.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「民間企業の正社員」が70.6%、「会社役員」が17.6%、「自営業」が11.8%と他の家庭より多く、一般家庭では「公務員などの正職員」が7.9%と多い。

図表 2.5.5H 父親の職業



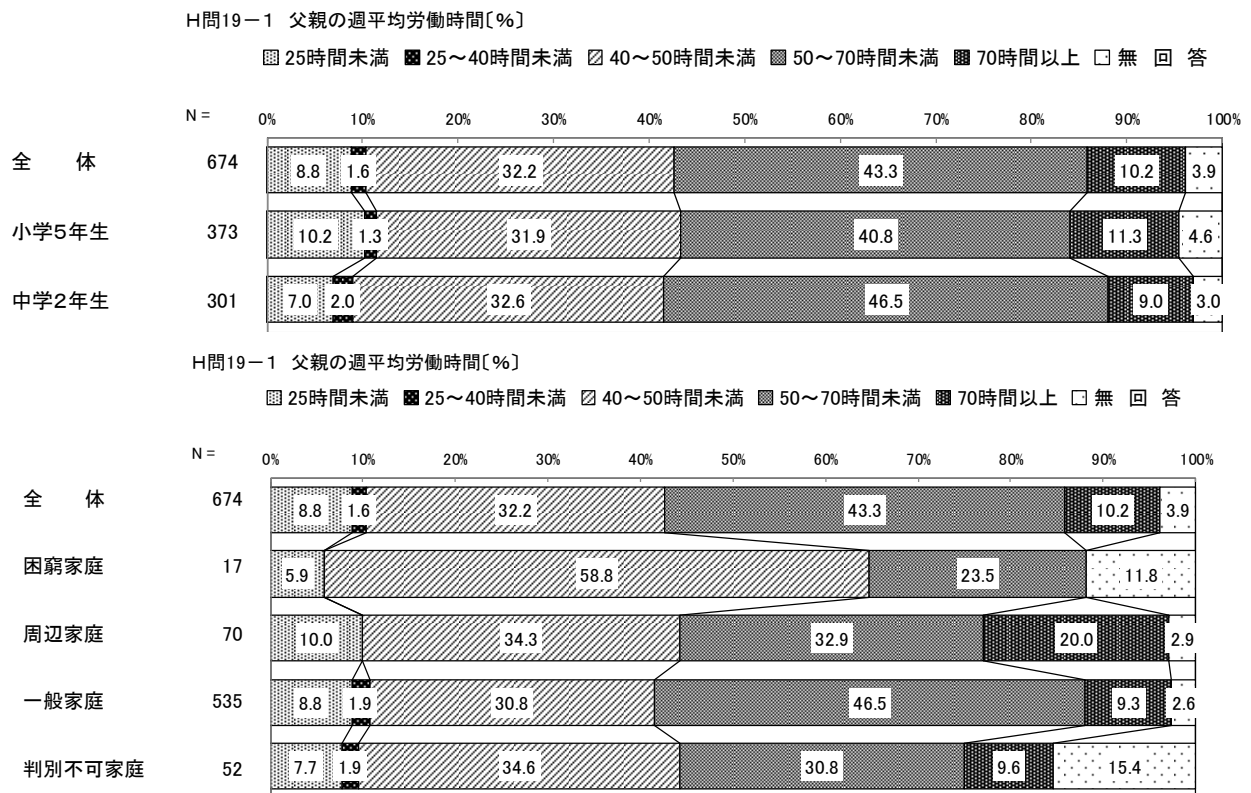
【問19で「1」～「9」を選んだ方】

問19-1 お父さんは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。

全体では、「50～70時間未満」が43.3%、「40～50時間未満」が32.2%、「70時間以上」が10.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「40～50時間未満」が58.8%と多く、周辺家庭では「70時間以上」が20.0%と多い。

図表 2.5.6.H 父親の週平均労働時間



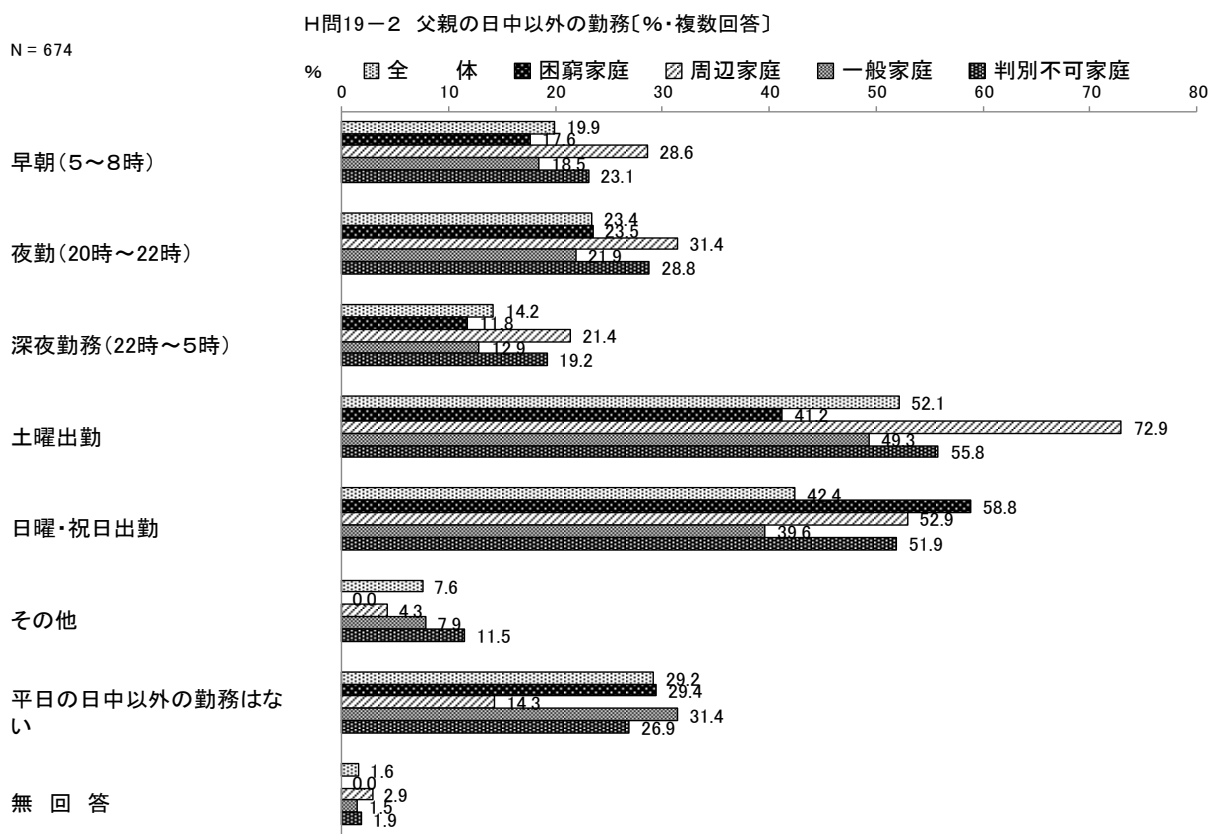
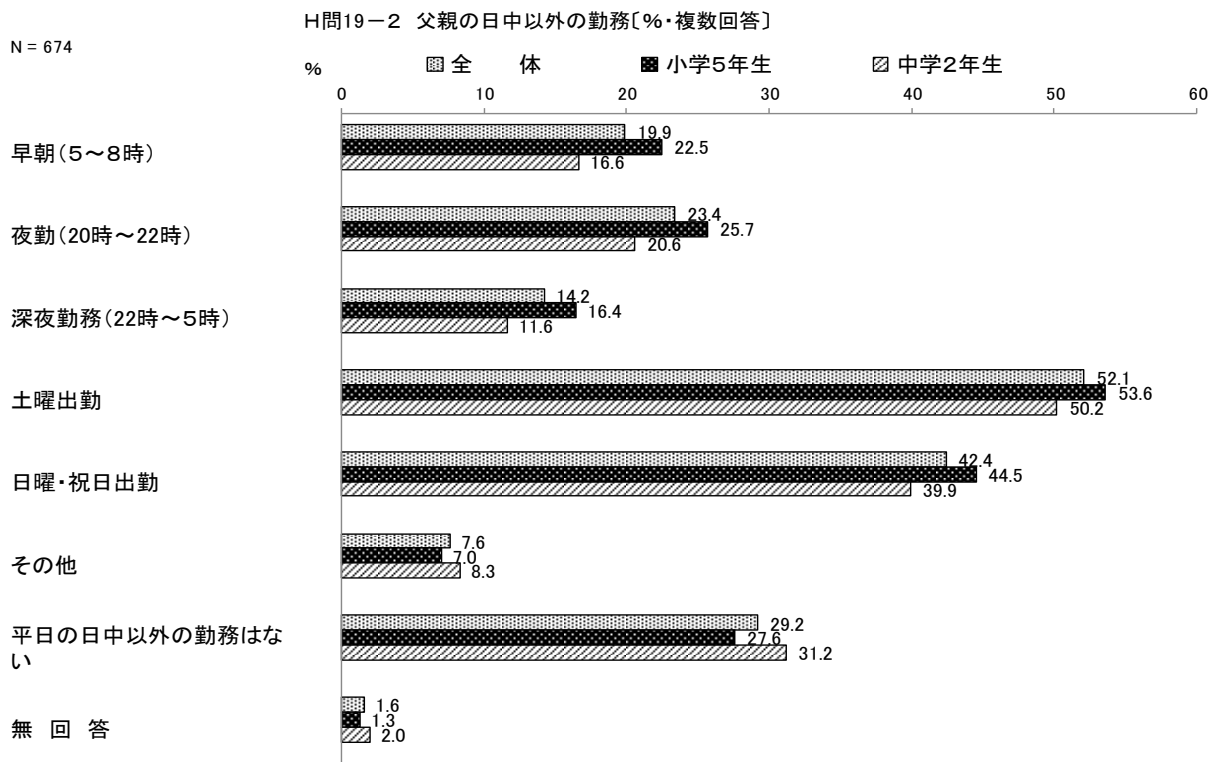
【問19で「1」～「9」を選んだ方】

問19-2 お父さんは、平日の日中以外の勤務がありますか。

全体では、「土曜出勤」が52.1%、「日曜・祝日出勤」が42.4%、「平日の日中以外の勤務はない」が29.2%、「夜勤（20時～22時）」が23.4%、「早朝（5～8時）」が19.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「日曜・祝日出勤」が58.8%と多く、周辺家庭で「土曜出勤」が72.9%、「夜勤（20時～22時）」が31.4%、「早朝（5～8時）」が28.6%と多い。

図表 2.5.7.H 父親の日中以外の勤務



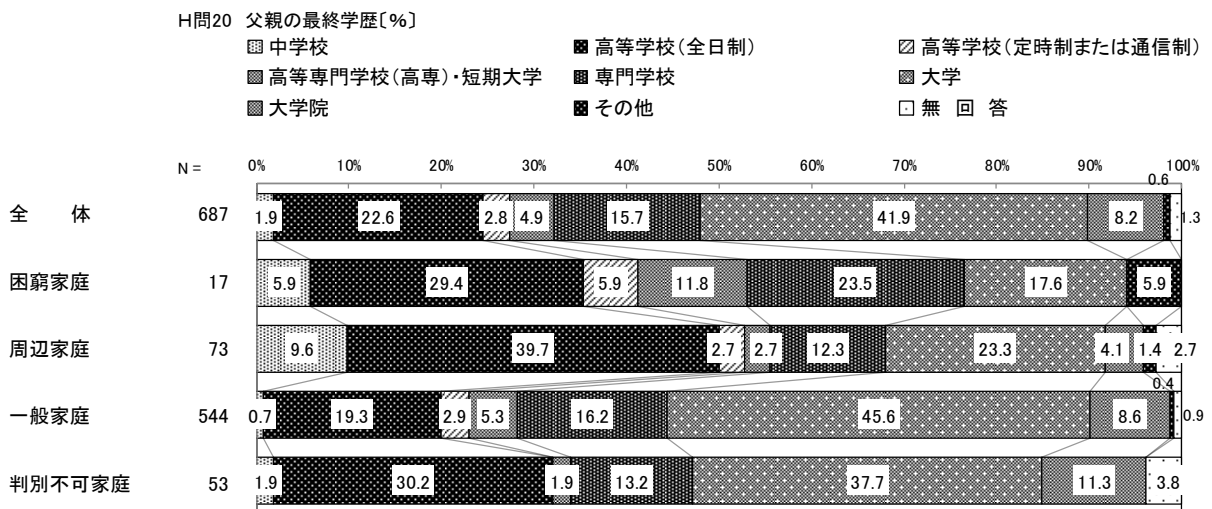
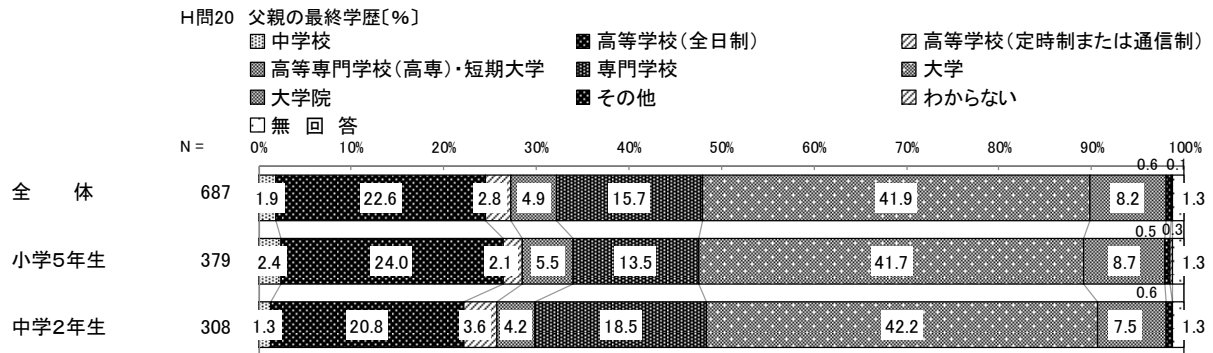
【問 19 を回答した方】

問 20 お父さんが最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。

全体では、「大学」が41.9%と多く、「高等学校（全日制）」が22.6%、「専門学校」が15.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭・周辺家庭で「大学」はそれぞれ17.6%、23.3%と少なく、周辺家庭で「高等学校（全日制）」、「中学校」がそれぞれ39.7%、9.6%と多い。

図表 2.5.8.H 父親の最終学歴



2.6 世帯状況など

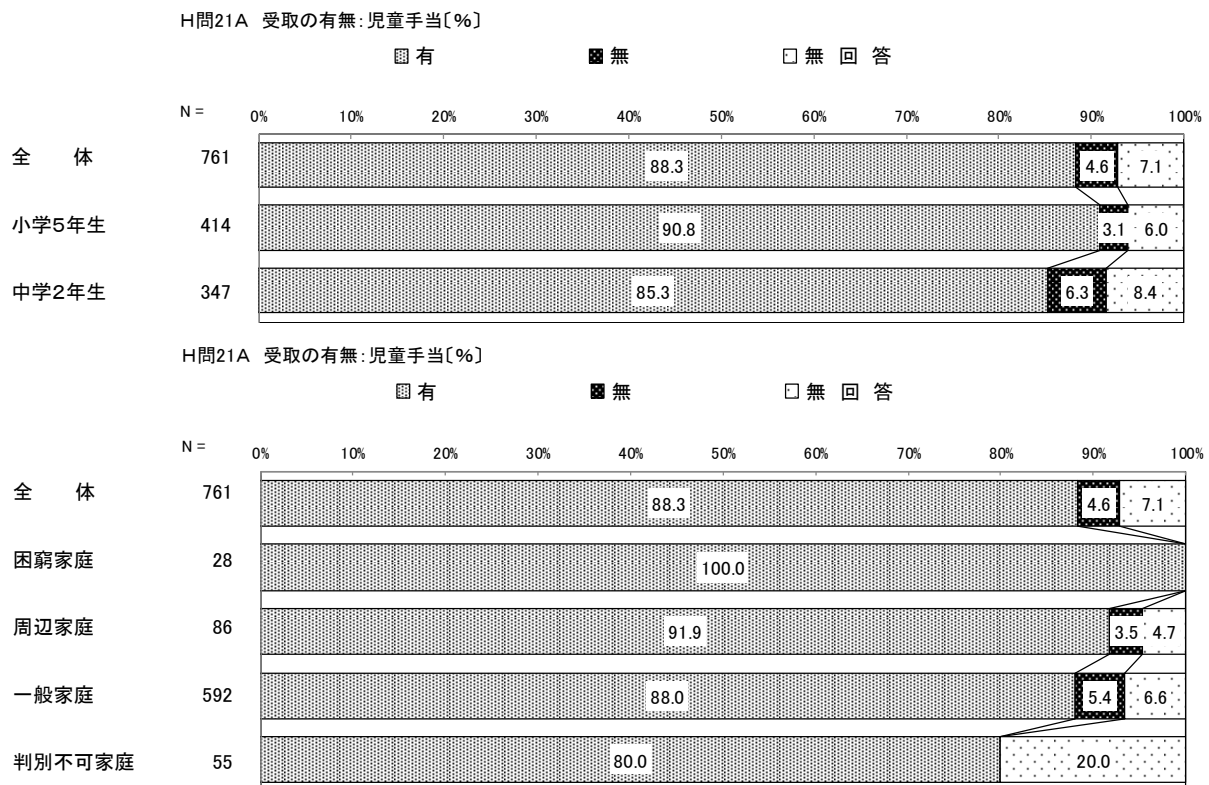
問 21 あなたの世帯では、A～Eの手当、公的年金、社会保障給付金を受け取っていますか。受けている場合は、年額を万円単位で記入してください。

(A) 児童手当

全体では、「有」が88.3%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭ですべての人が「有」と回答している。

図表 2.6.1.H 受取の有無:児童手当

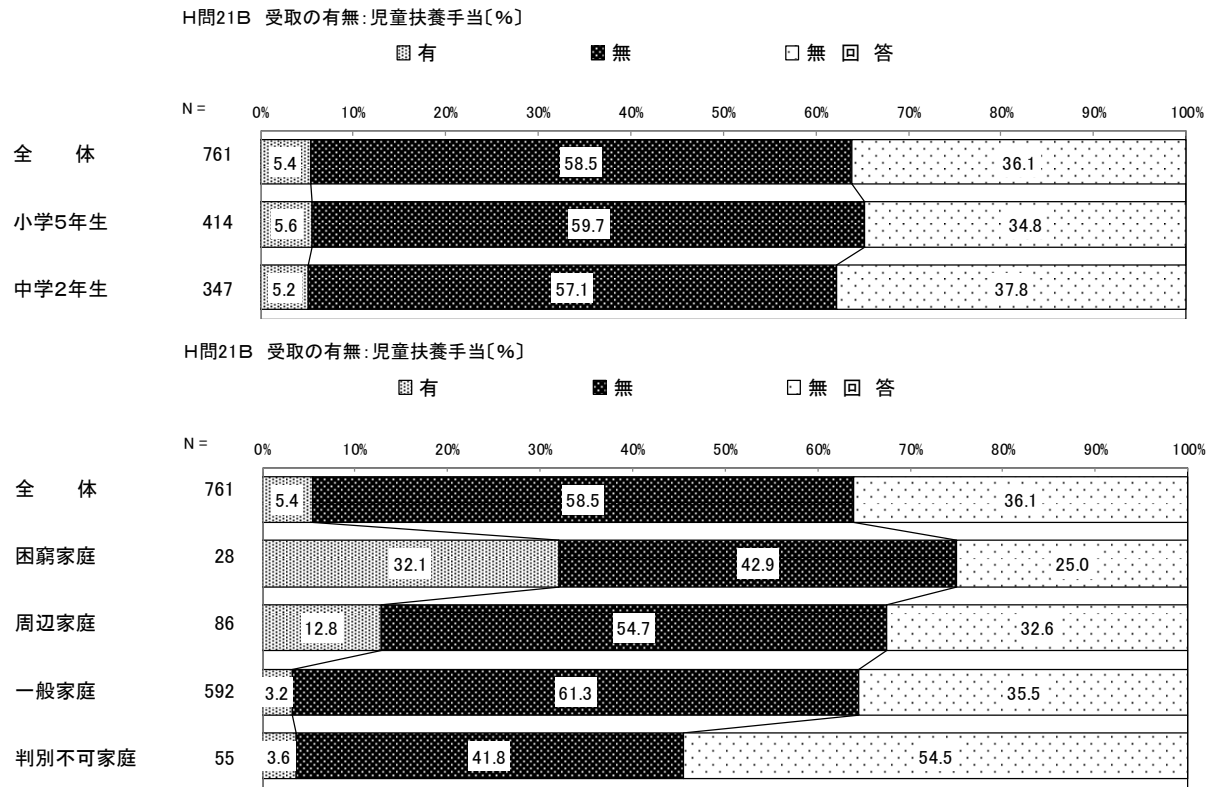


(B) 児童扶養手当

全体では、「有」は5.4%である。

生活困難度別では、「有」が困窮家庭で32.1%、周辺家庭で12.8%の回答がみられた。

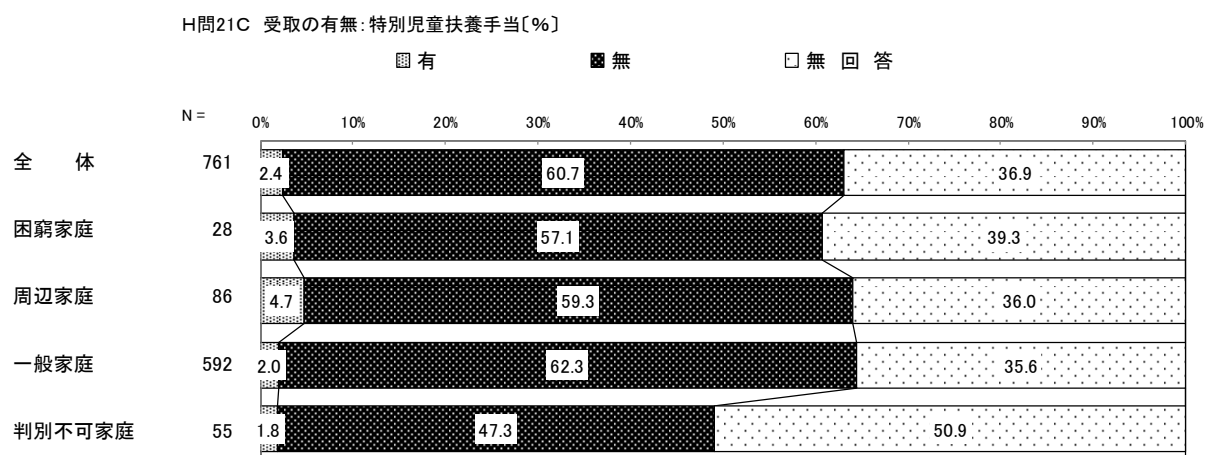
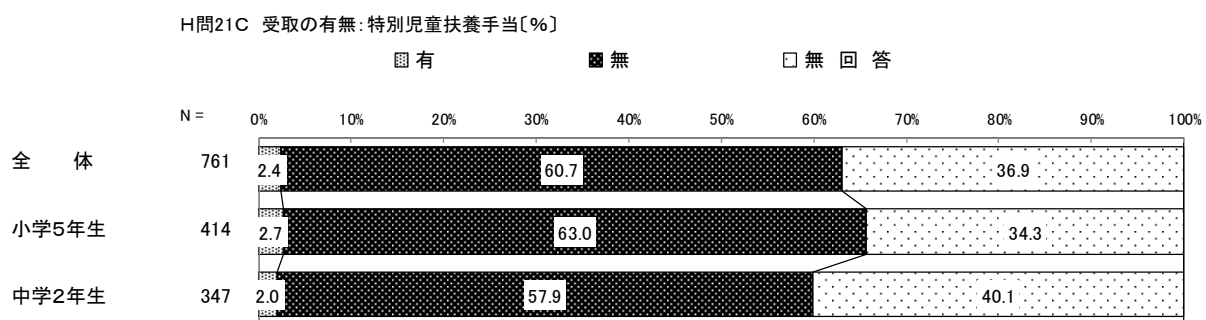
図表 2.6.2.H 受取の有無:児童扶養手当



(C) 特別児童扶養手当

全体では、「有」は2.4%である。

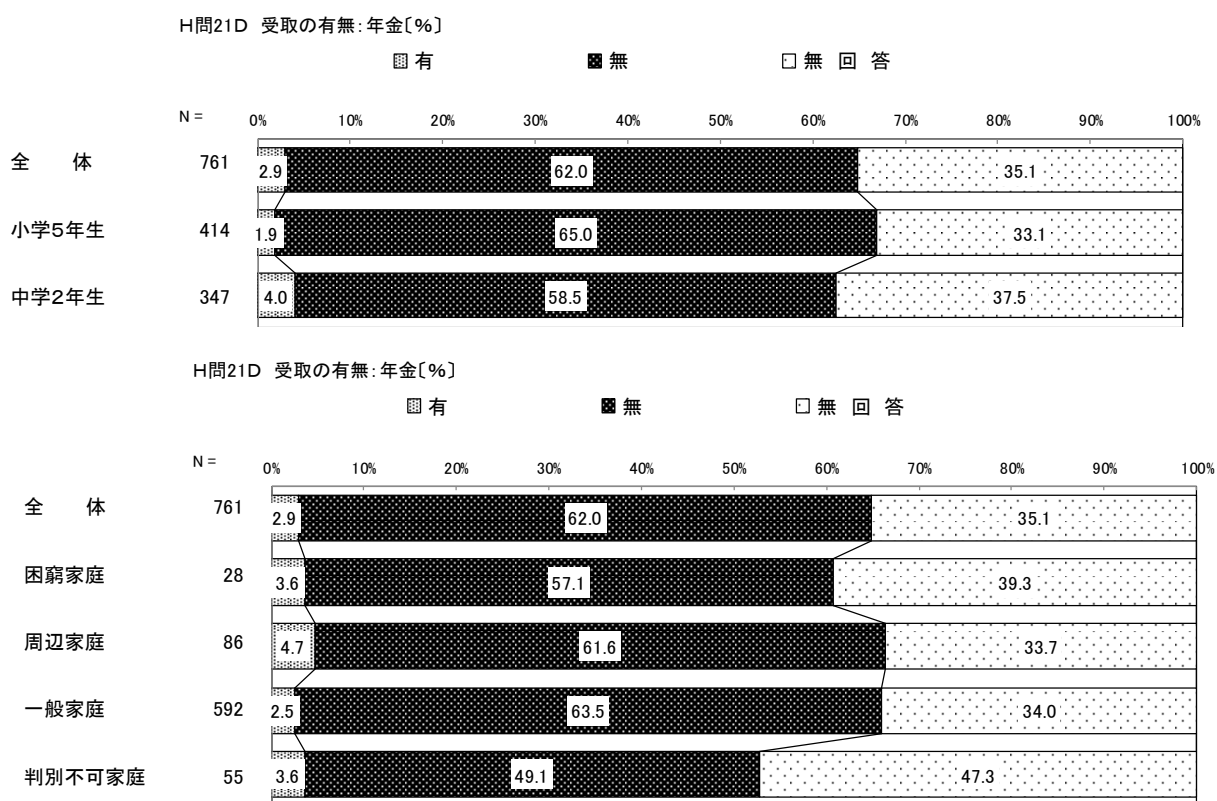
図表 2.6.3.H 受取の有無:特別児童扶養手当



(D) 年金（遺族年金、老齢年金など）

全体では、「有」は2.9%である。

図表 2.6.4.H 受取の有無：年金

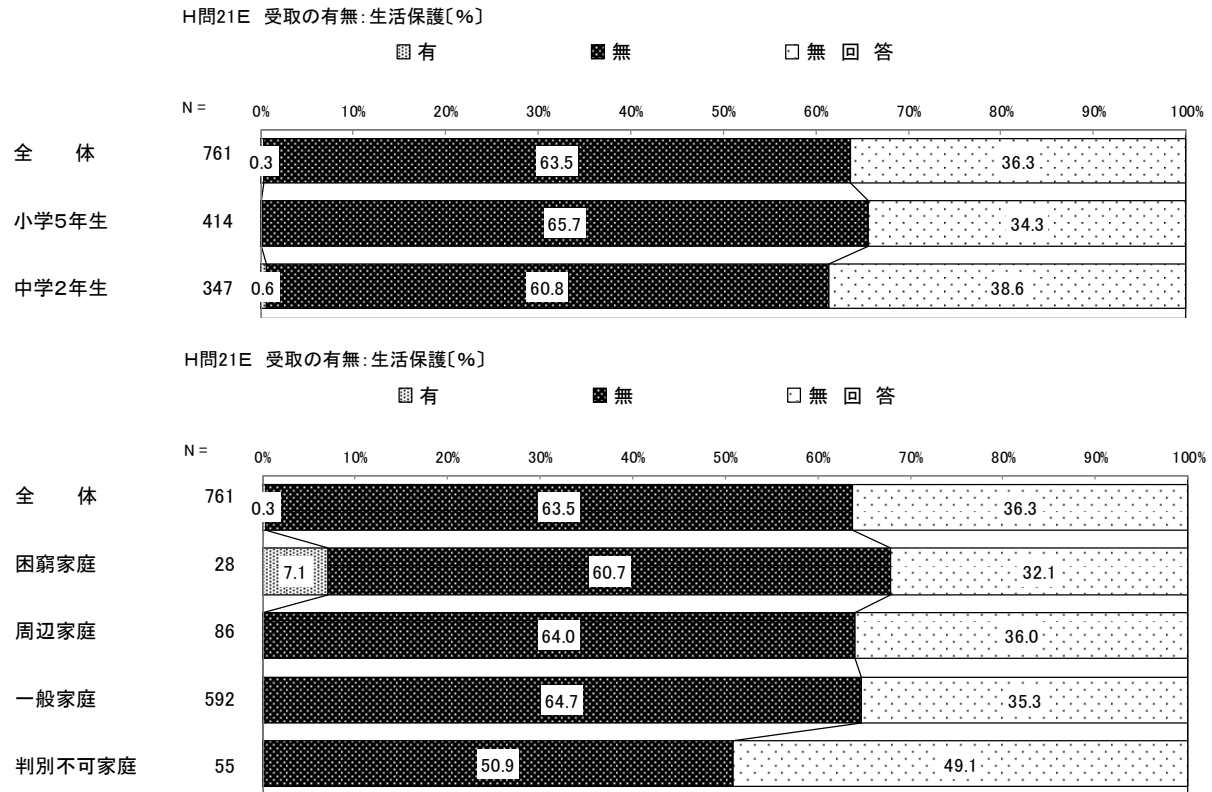


(E) 生活保護

全体では、「有」が0.3%である。

生活困難度別では、「有」が困窮家庭で7.1%と多い。

図表 26.5.H 受取の有無:生活保護

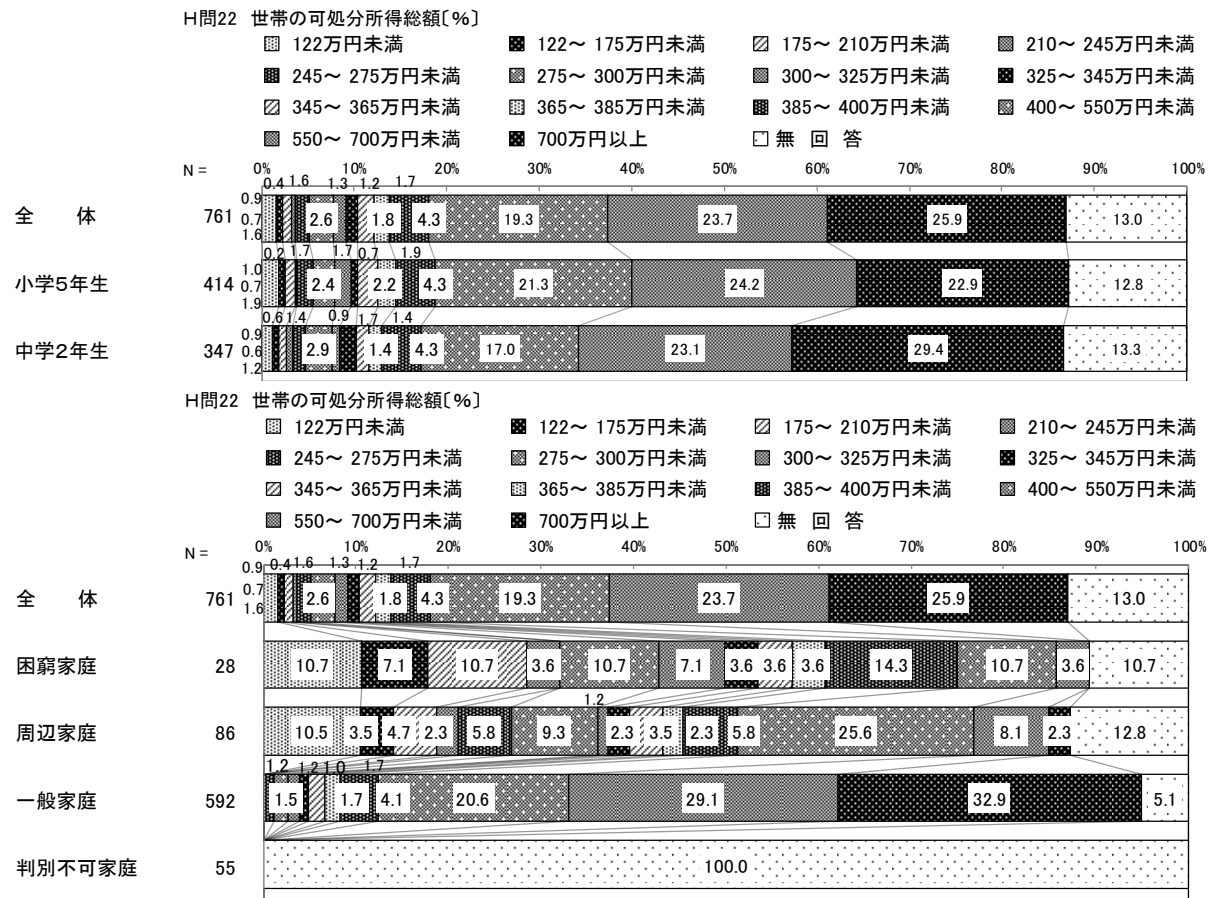


問 22 平成 30 年 1 月～12 月のあなたの世帯全体の可処分所得（手取り）総額は、合計でおよそいくらですか。就労による所得（会社員の方等は住民税を引く）に加え、問 21 で回答した手当・年金等の年額、雇用保険等の支給額や親族等から受け取った仕送り等を足した金額でお答えください。

全体では、「700万円以上」と「550～700万円未満」がともに25%前後と多く、「400～550万円未満」が19.3%と続いている。

生活困難度別では、一般家庭で「700万円以上」と「550～700万円未満」がともに30%前後と多く、周辺家庭で「400～550万円未満」が25.6%、困窮家庭で「122万円未満」、「175～210万円未満」が10.7%と多い。

図表 2.6.6.H 世帯の可処分所得総額

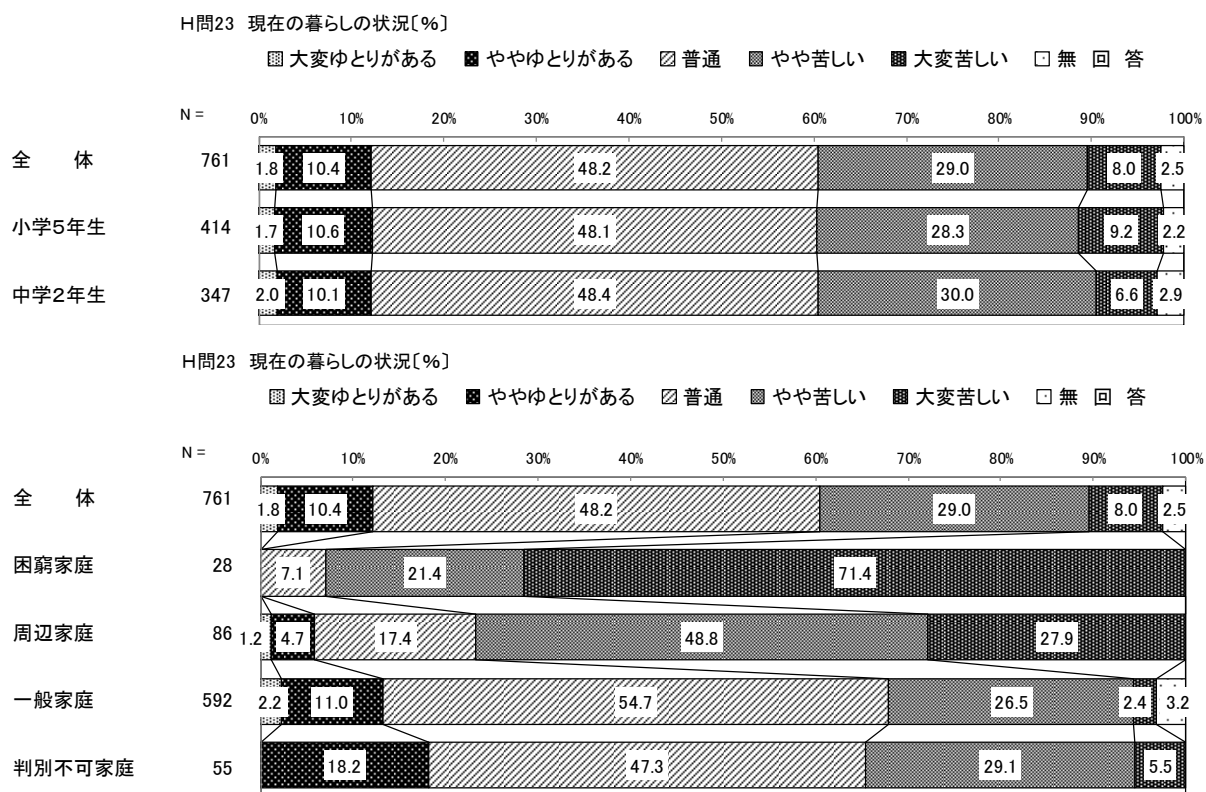


問 23 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

全体では、「普通」が48.2%と多く、「やや苦しい」が29.0%、「ややゆとりがある」が10.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「大変苦しい」が71.4%と多い。

図表 2.6.7.H 現在の暮らしの状況

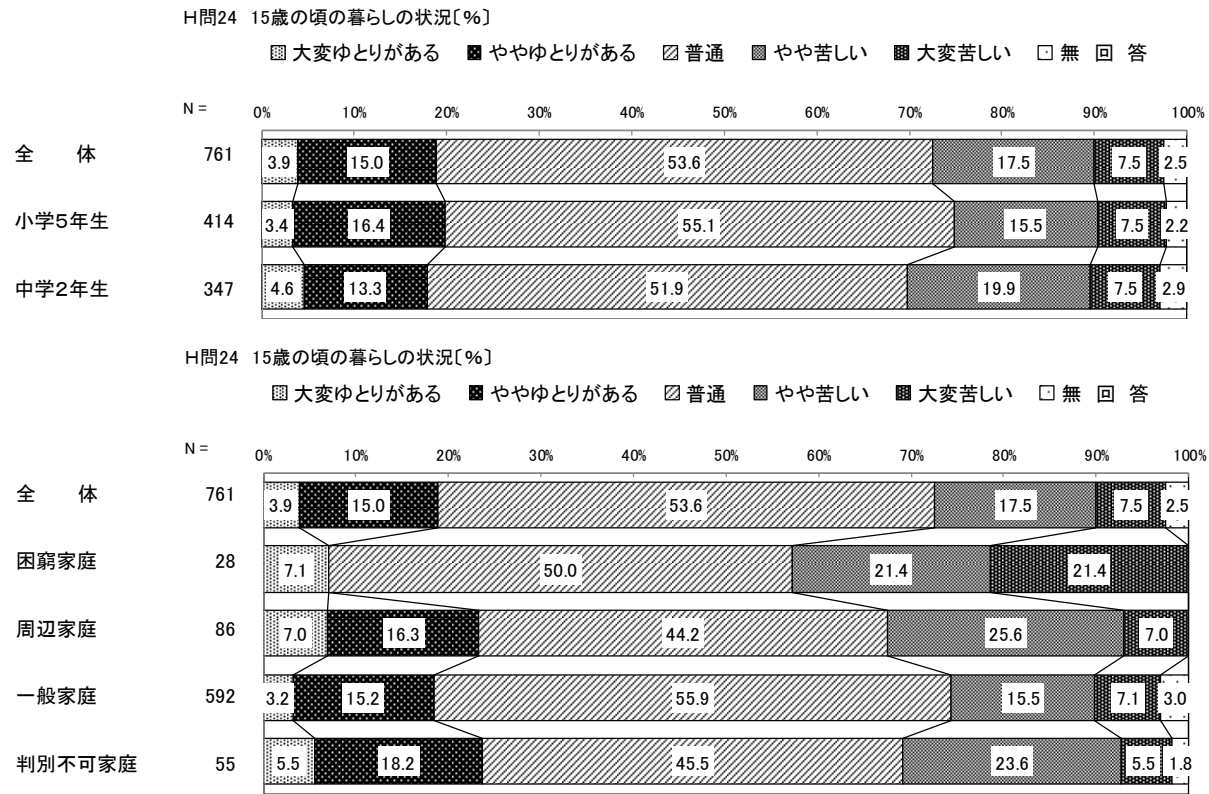


問 24 あなた自身が 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものをお答えください。

全体では、「普通」が53.6%と多く、「やや苦しい」が17.5%、「ややゆとりがある」が15.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「大変苦しい」と「やや苦しい」がともに21.4%と多いが、「大変ゆとりがある」も周辺家庭とともに7%台と一般家庭より多い。

図表 26.8H 15 歳の頃の暮らしの状況

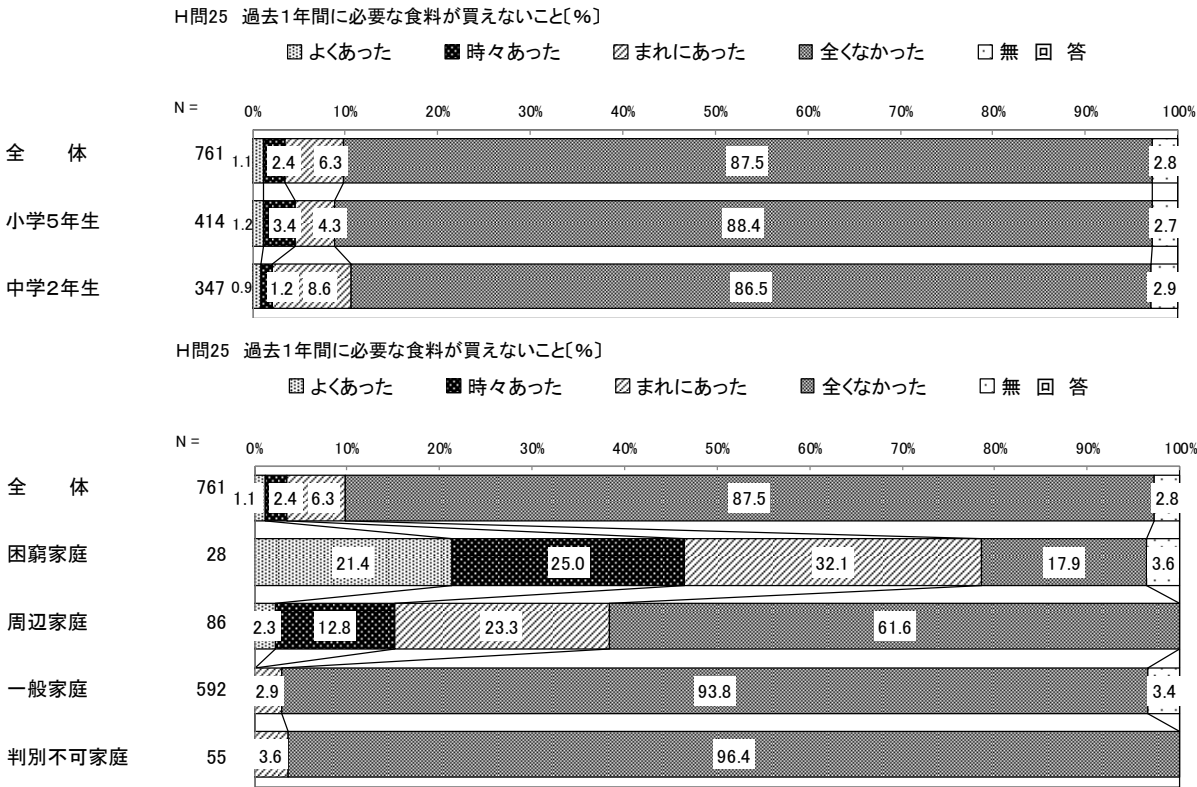


問 25 あなたのご家庭では、過去 1 年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする食料を買えない
 ことがありましたか。

全体では、「全くなかった」が87.5%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「まれにあった」が32.1%、「時々あった」が25.0%、「よくあった」が21.4%とそれぞれ多い。

図表 26.9.H 過去1年間に必要な食料が買えないこと

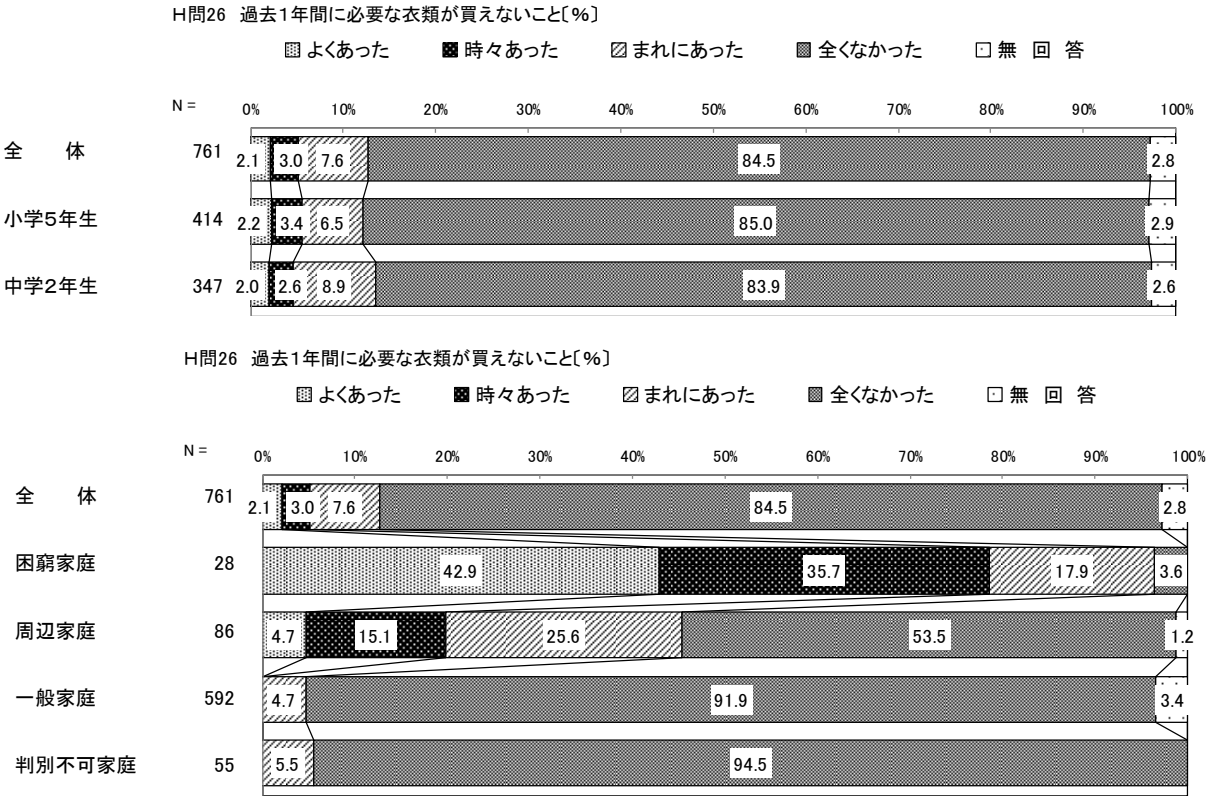


問 26 あなたのご家庭では、過去 1 年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする衣類を買えない
 ことがありましたか。

全体では、「全くなかった」が84.5％と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「よくあった」が42.9％、「時々あった」が35.7％、「まれに
 あった」が17.9％と続いている。

図表 26.10.H 過去1年間に必要な衣類が買えないこと

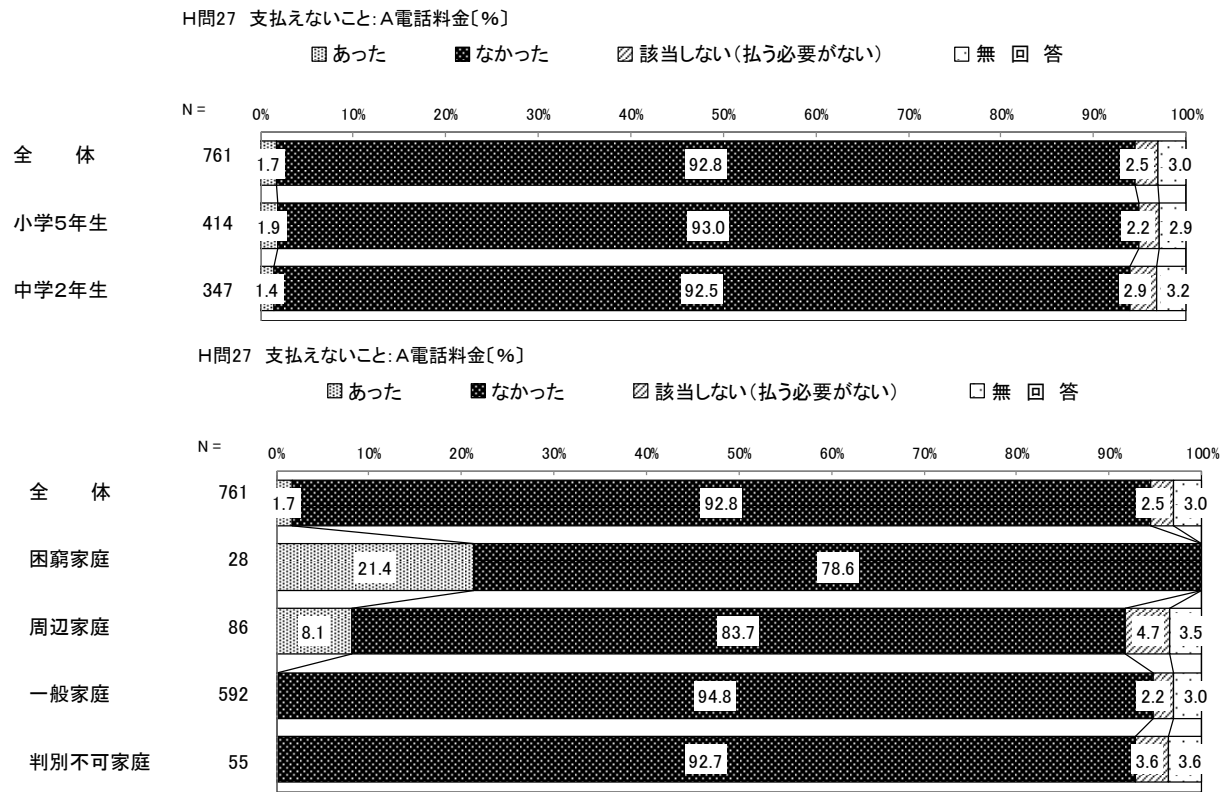


問 27 以下のA～Gのサービス・料金について、過去1年の間に、経済的な理由で支払えないことがありましたか。

(A) 電話料金

全体では、「なかった」が92.8%と大半を占める。
生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で21.4%、周辺家庭で8.1%と多い。

図表 2.6.11.H 支払えないこと:A電話料金

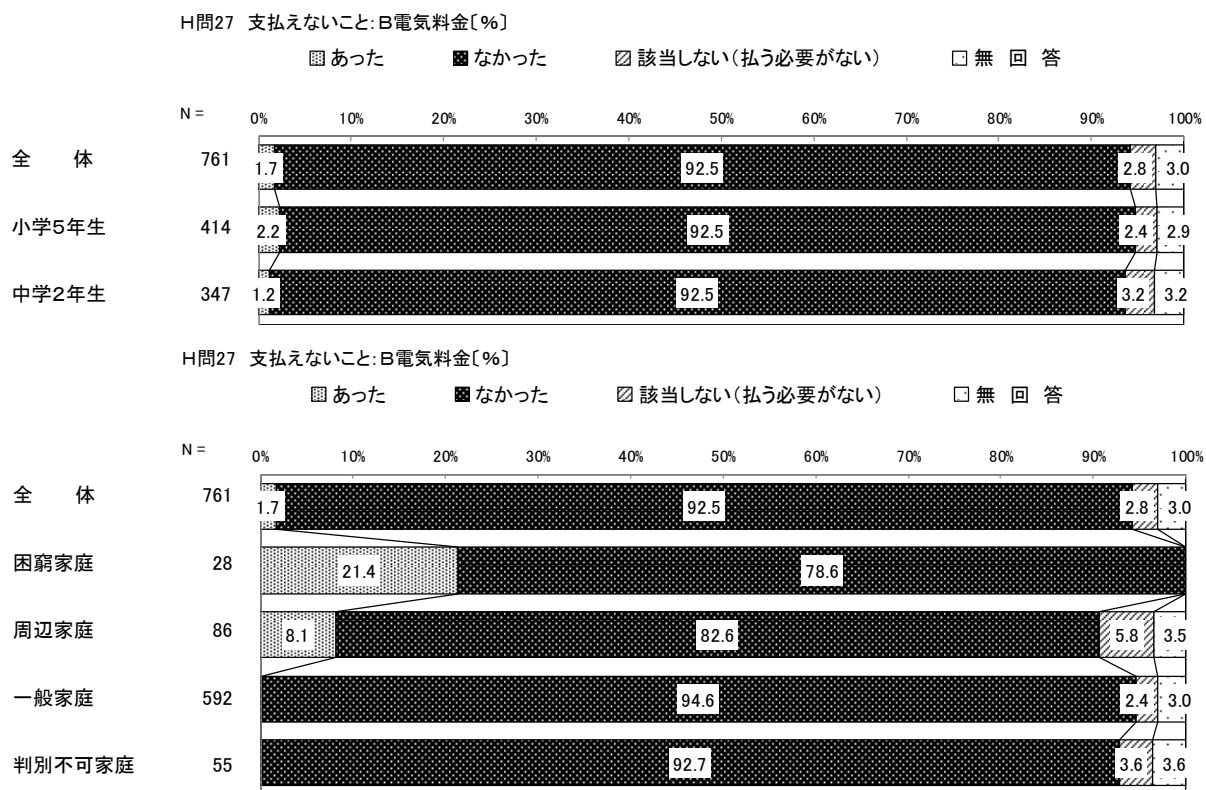


(B) 電気料金

全体では、「なかった」が92.5%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で21.4%、周辺家庭で8.1%と多い。

図表 26.12H 支払えないこと: B電気料金

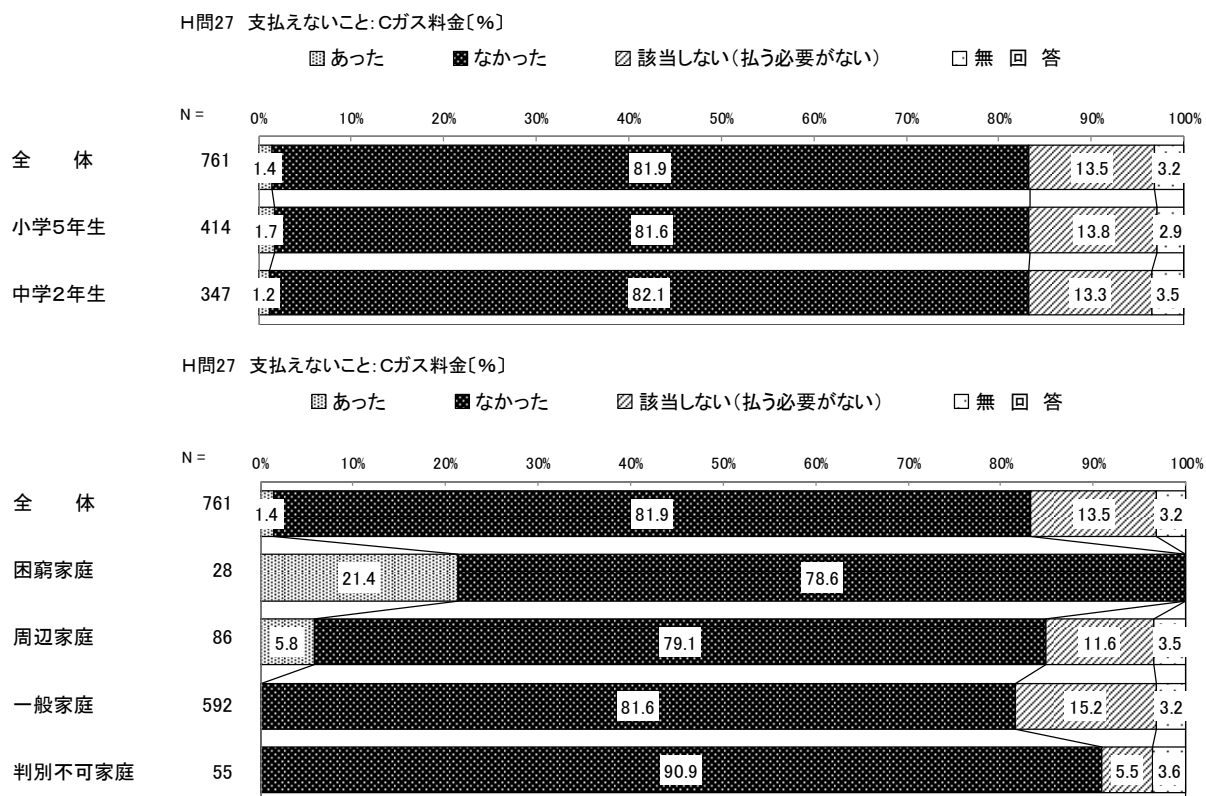


(C) ガス料金

全体では、「なかった」が81.9%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で21.4%、周辺家庭で5.8%と多い。

図表 26.13.H 支払えないこと: Cガス料金

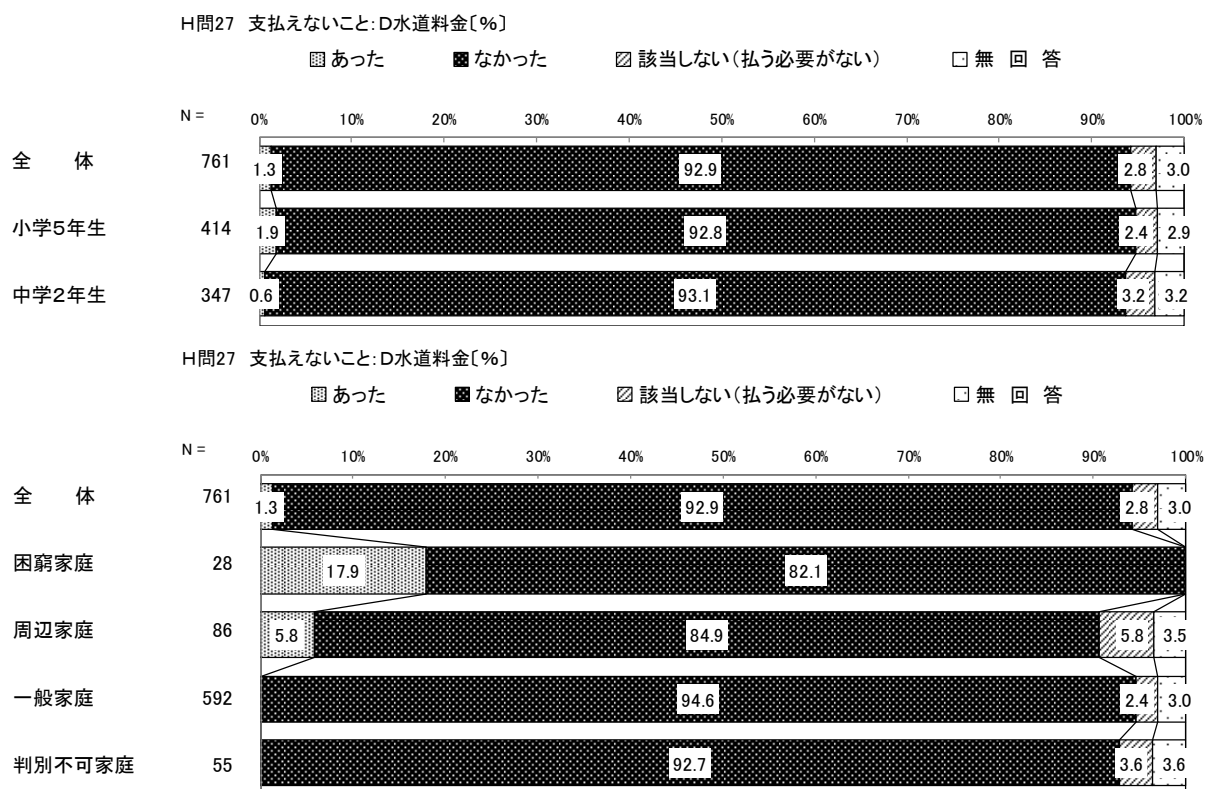


(D) 水道料金

全体では、「なかった」が92.9%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で17.9%、周辺家庭で5.8%と多い。

図表 2.6.14.H 支払えないこと:D水道料金

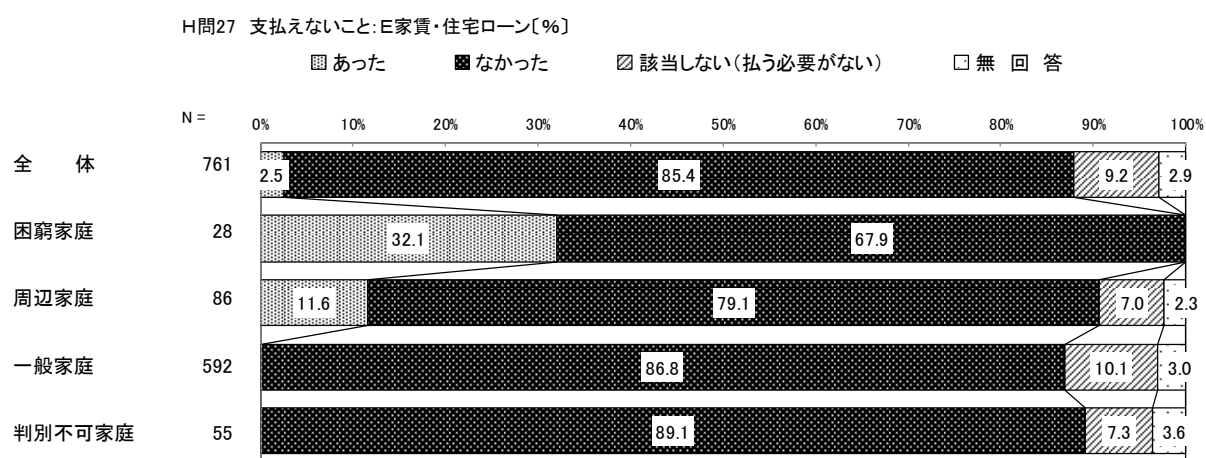
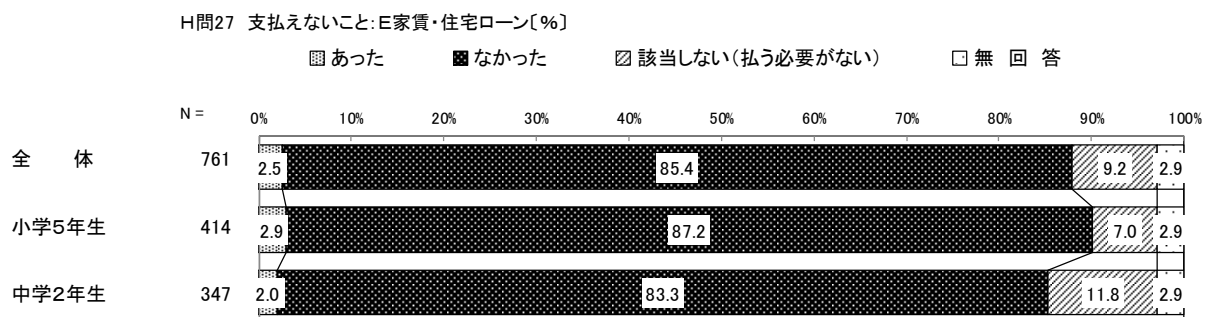


(E) 家賃・住宅ローン

全体では、「なかった」が85.4%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で32.1%、周辺家庭で11.6%と多い。

図表 26.15.H 支払えないこと:E家賃・住宅ローン

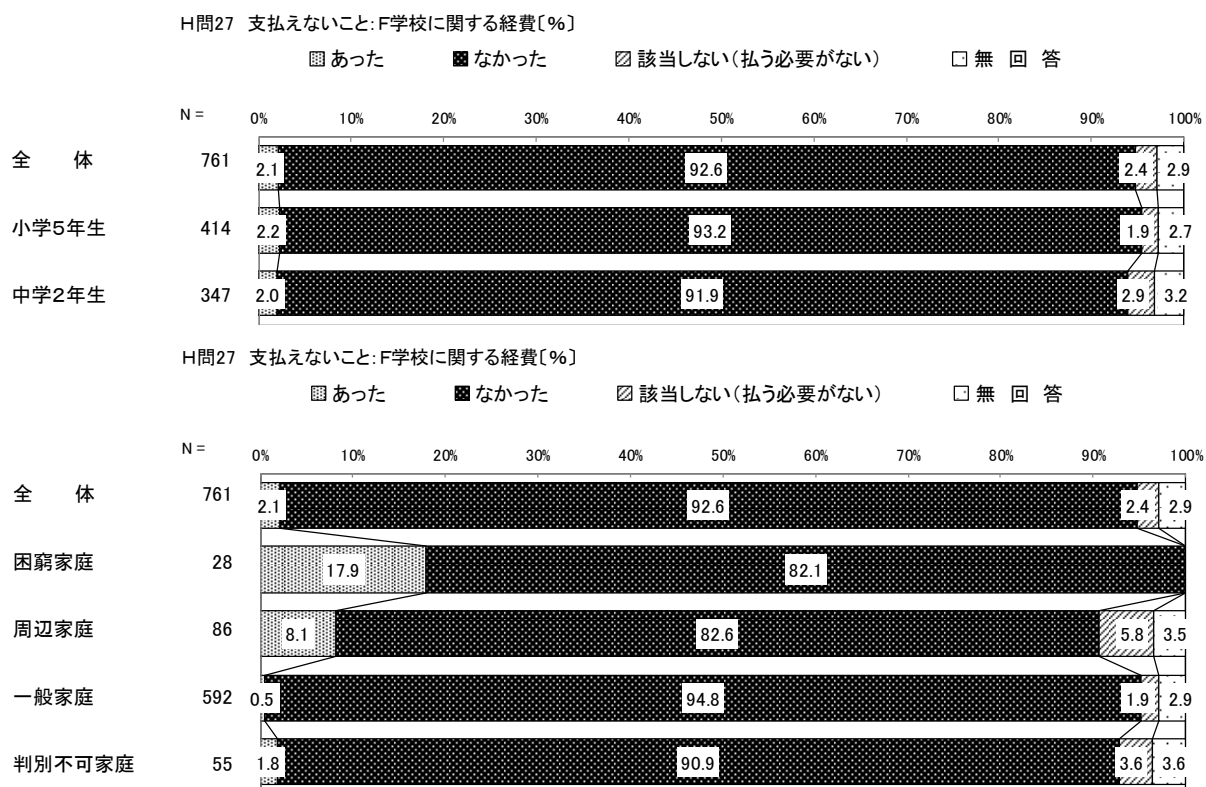


(F) 学校に関する経費

全体では、「なかった」が92.6%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で17.9%、周辺家庭で8.1%と多い。

図表 26.16.H 支えないこと:F学校に関する経費

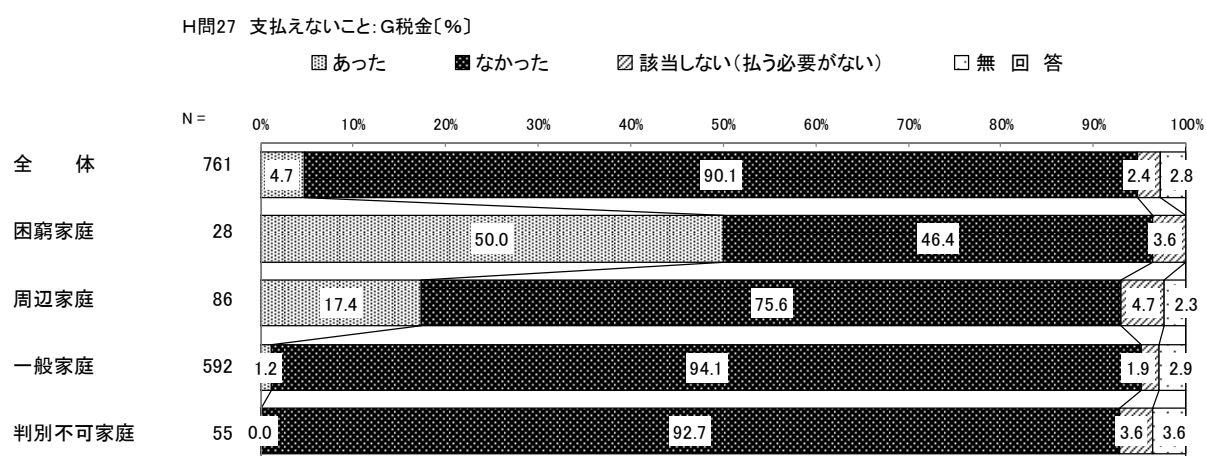
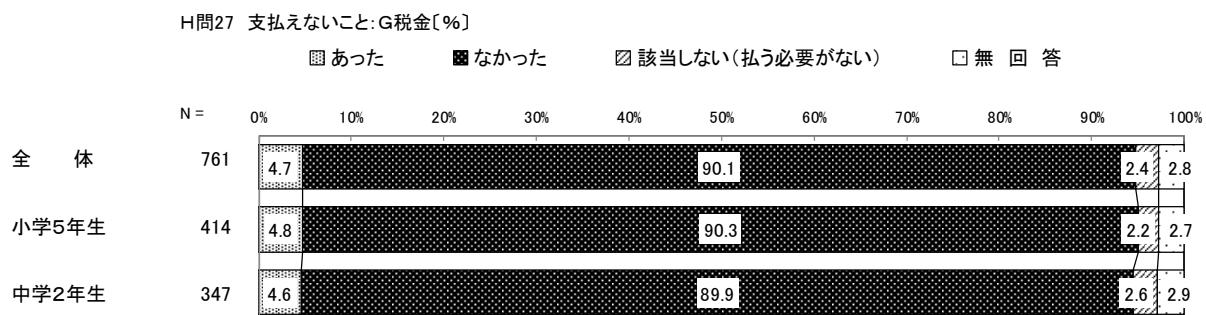


(G) 税金

全体では、「なかった」が90.1%と大半を占める。

生活困難度別では、「あった」は困窮家庭で50.0%、周辺家庭で17.4%と多い。

図表 26.17.H 支払えないこと: G税金

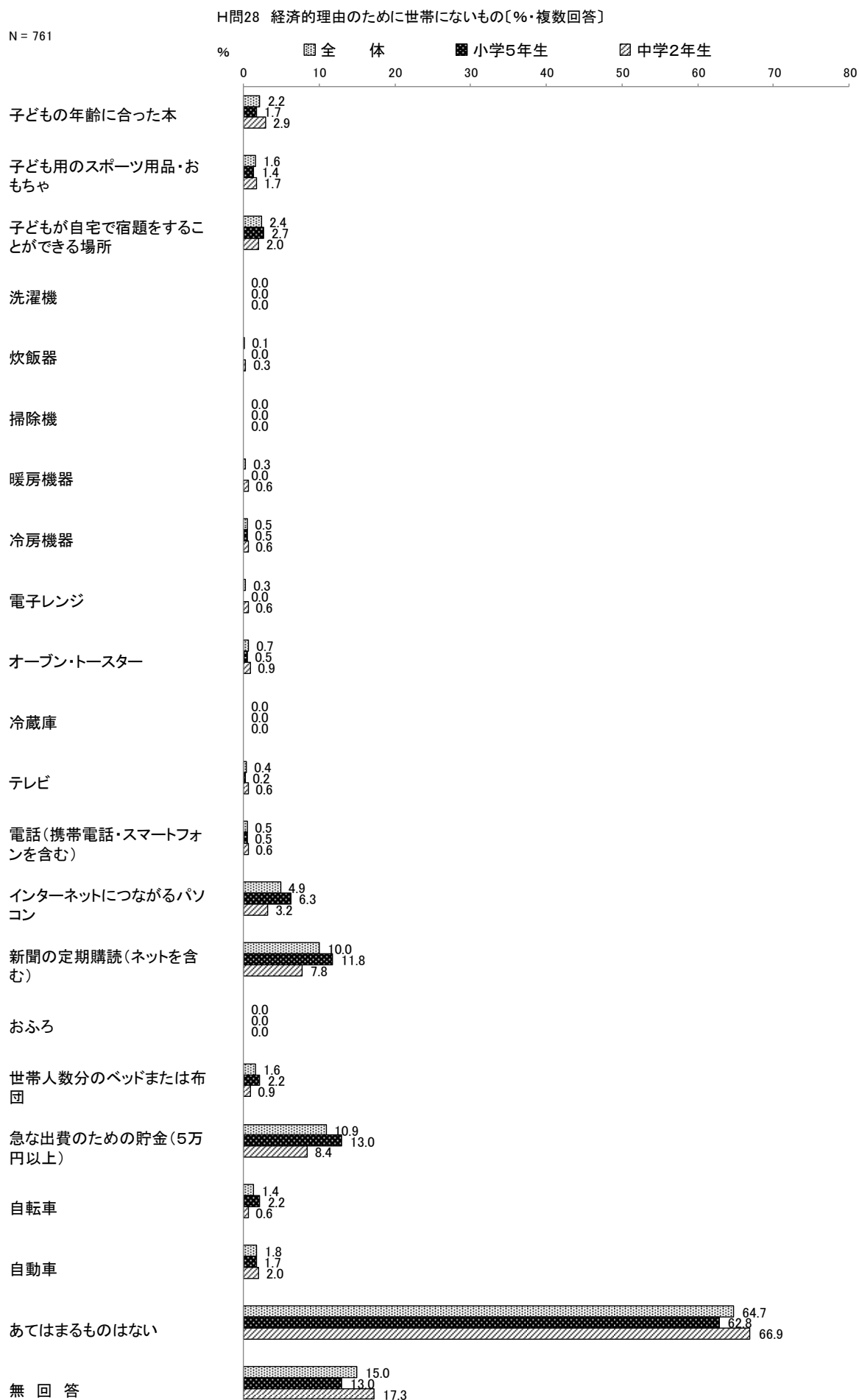


問 28 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

全体では、「あてはまるものはない」が64.7%を占め、「急な出費のための貯金（5万円以上）」が10.9%、「新聞の定期購読（ネットを含む）」が10.0%、「インターネットにつながるパソコン」が4.9%と続いている。

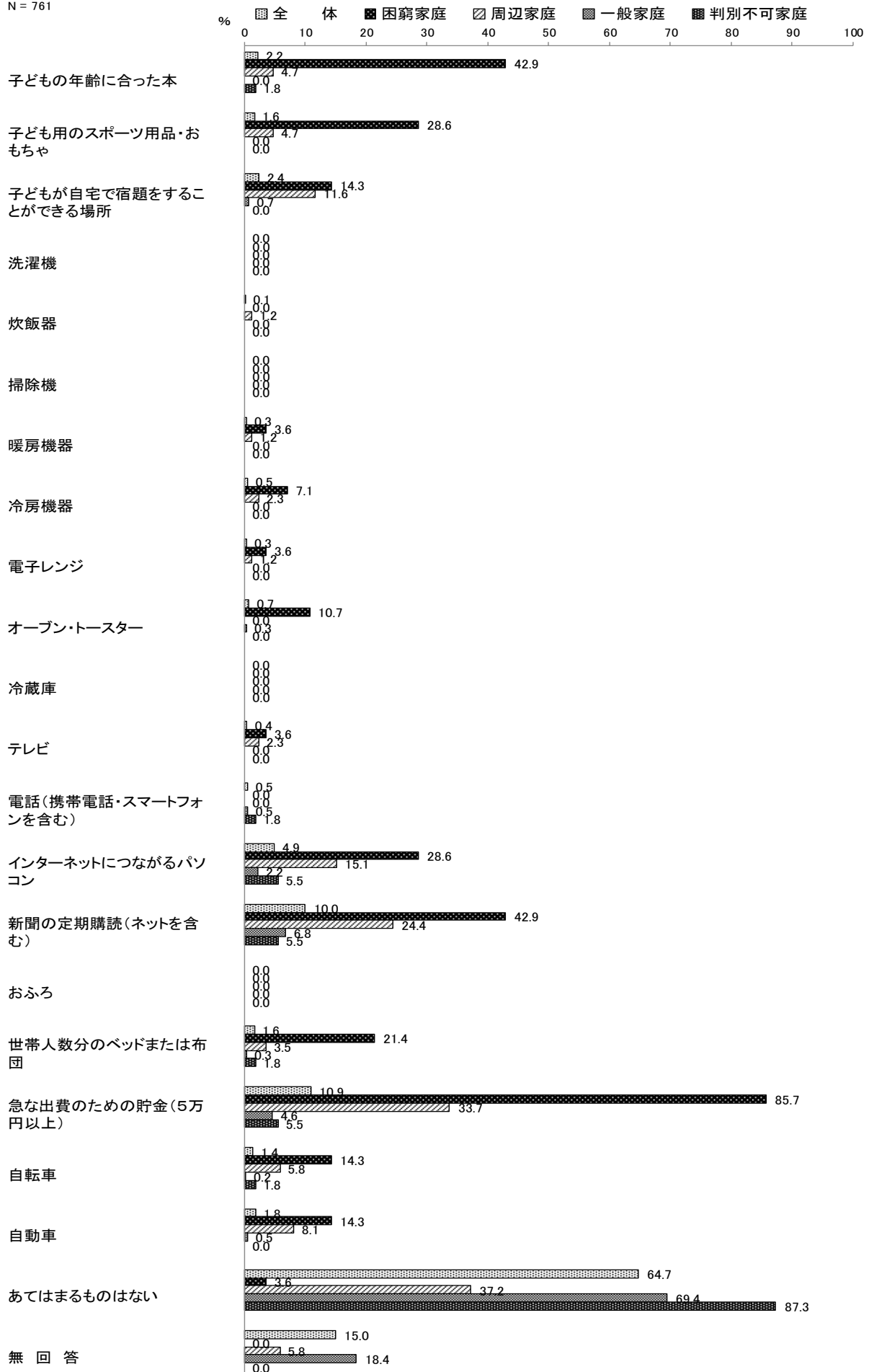
生活困難度別では、「急な出費のための貯金（5万円以上）」は困窮家庭で85.7%、周辺家庭で33.7%、「新聞の定期購読（ネットを含む）」は困窮家庭で42.9%、周辺家庭で24.4%、「インターネットにつながるパソコン」は困窮家庭で28.6%、周辺家庭で15.1%といずれも多い。また、困窮家庭で「子どもの年齢に合った本」が42.9%、「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」が28.6%、「世帯人数分のベッドまたは布団」が21.4%といずれも多い。

図表 2.6.18.H 経済的理由のために世帯にないもの



N = 761

H問28 経済的理由のために世帯にないもの〔%・複数回答〕

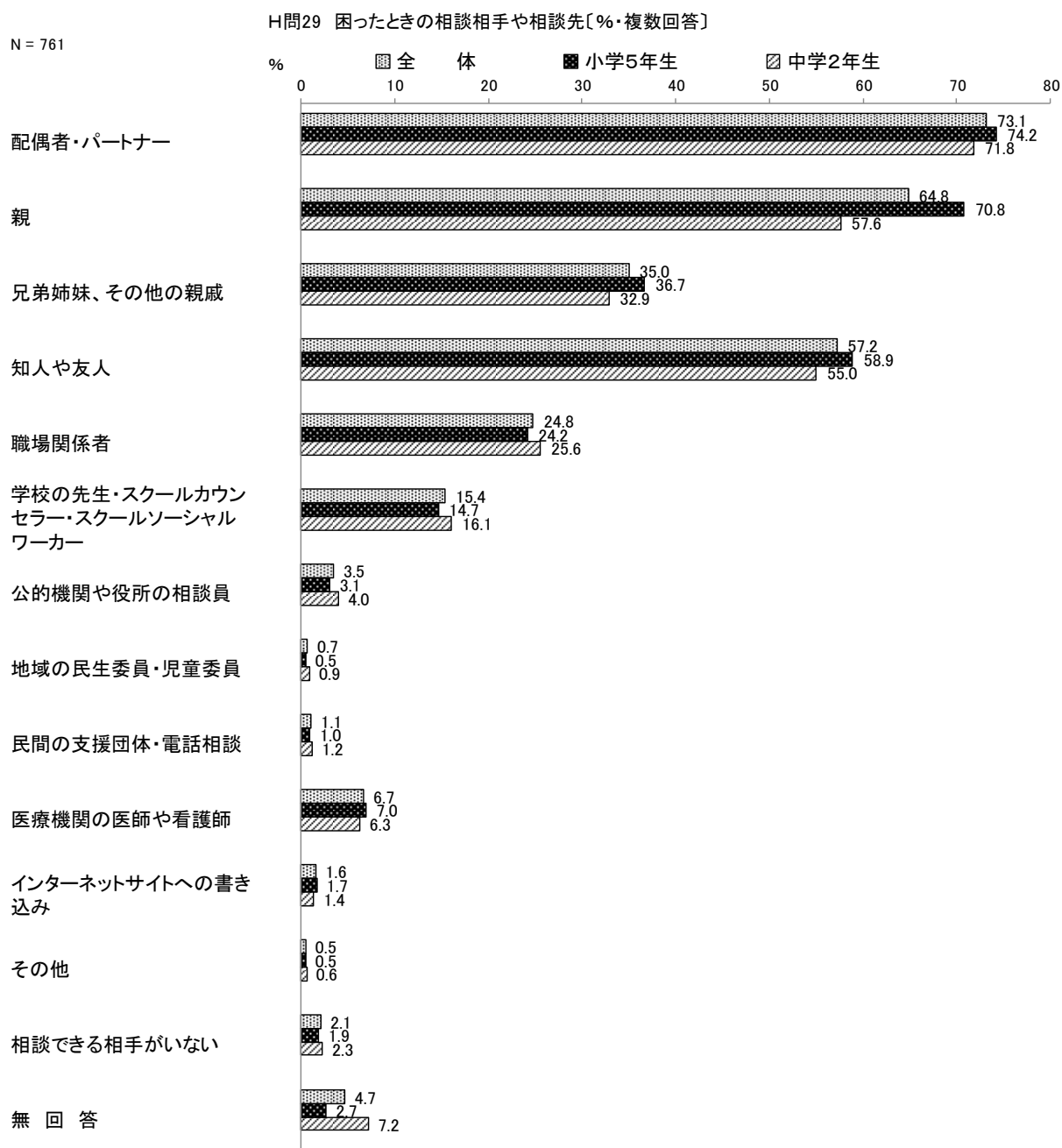


2.7 困ったときの相談先と公的支援の利用

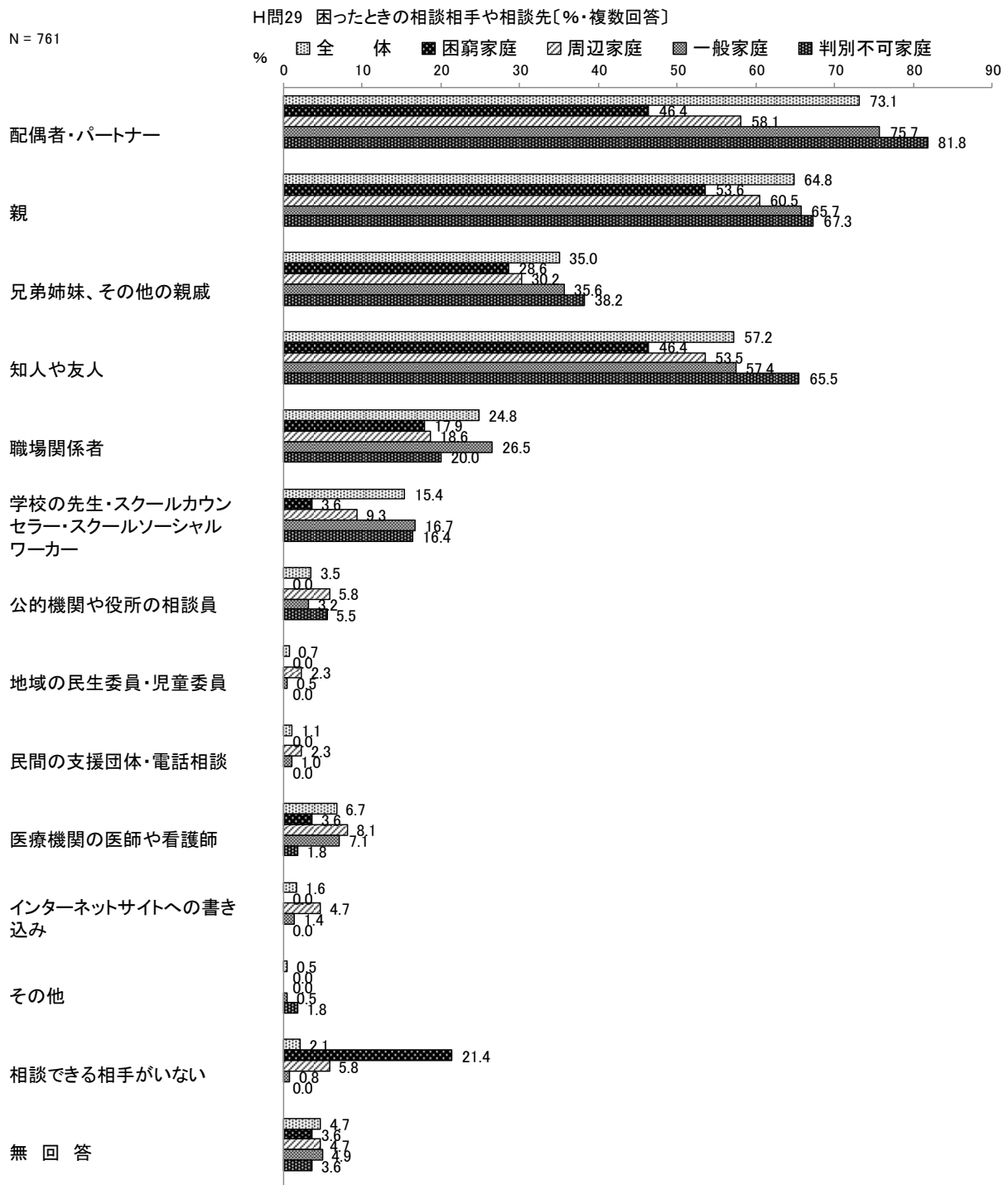
問 29 あなたが困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

全体では、「配偶者・パートナー」が73.1%と多く、「親」が64.8%、「知人や友人」が57.2%、「兄弟姉妹、その他の親戚」が35.0%と続いている。

図表 2.7.1.H 困ったときの相談相手や相談先



生活困難度別では、困窮家庭で「相談できる相手がいない」が21.4%と多く、特に「配偶者・パートナー」は46.4%と少ない。



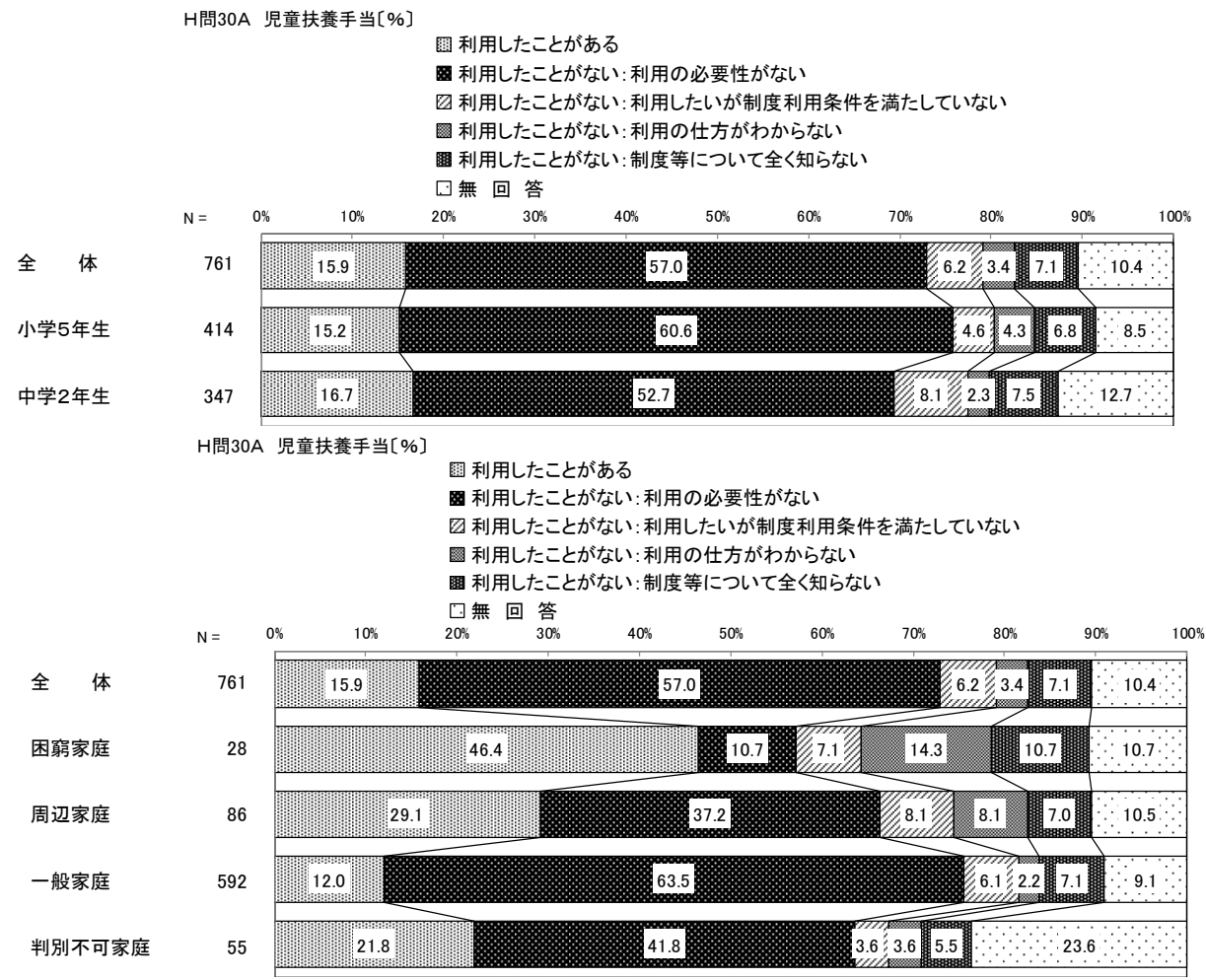
問 30 現在も含め、次の A～N の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。

(A) 児童扶養手当

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が57.0%と半数を超え、「利用したことがある」が15.9%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が7.1%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがある」は困窮家庭で46.4%、周辺家庭で29.1%と多い。

図表 2.7.2.H 児童扶養手当

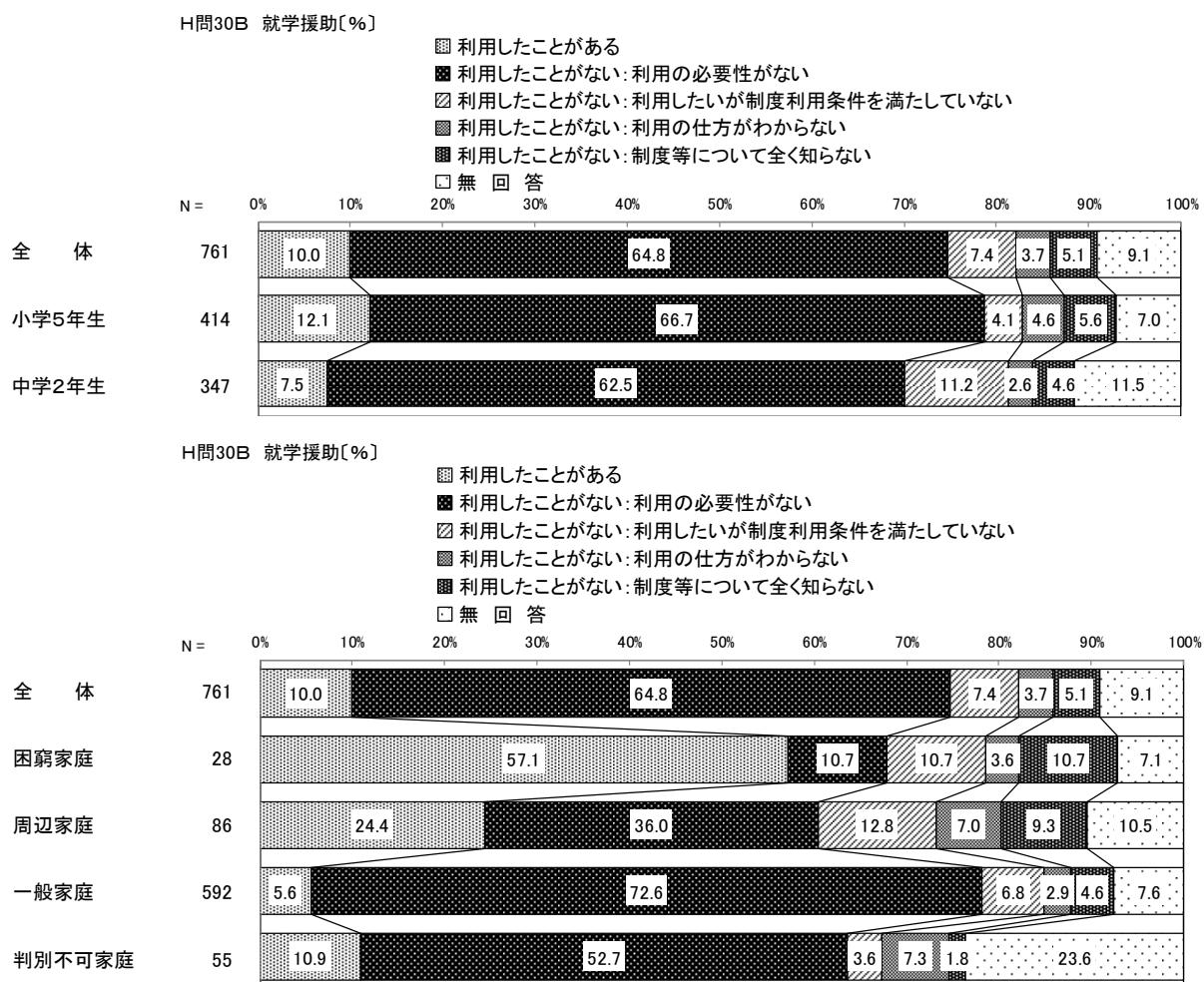


(B) 就学援助

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が64.8%と半数を超え、「利用したことがある」が10.0%、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が7.4%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがある」は困窮家庭で57.1%、周辺家庭で24.4%と多い。

図表 2.7.3.H 就学援助

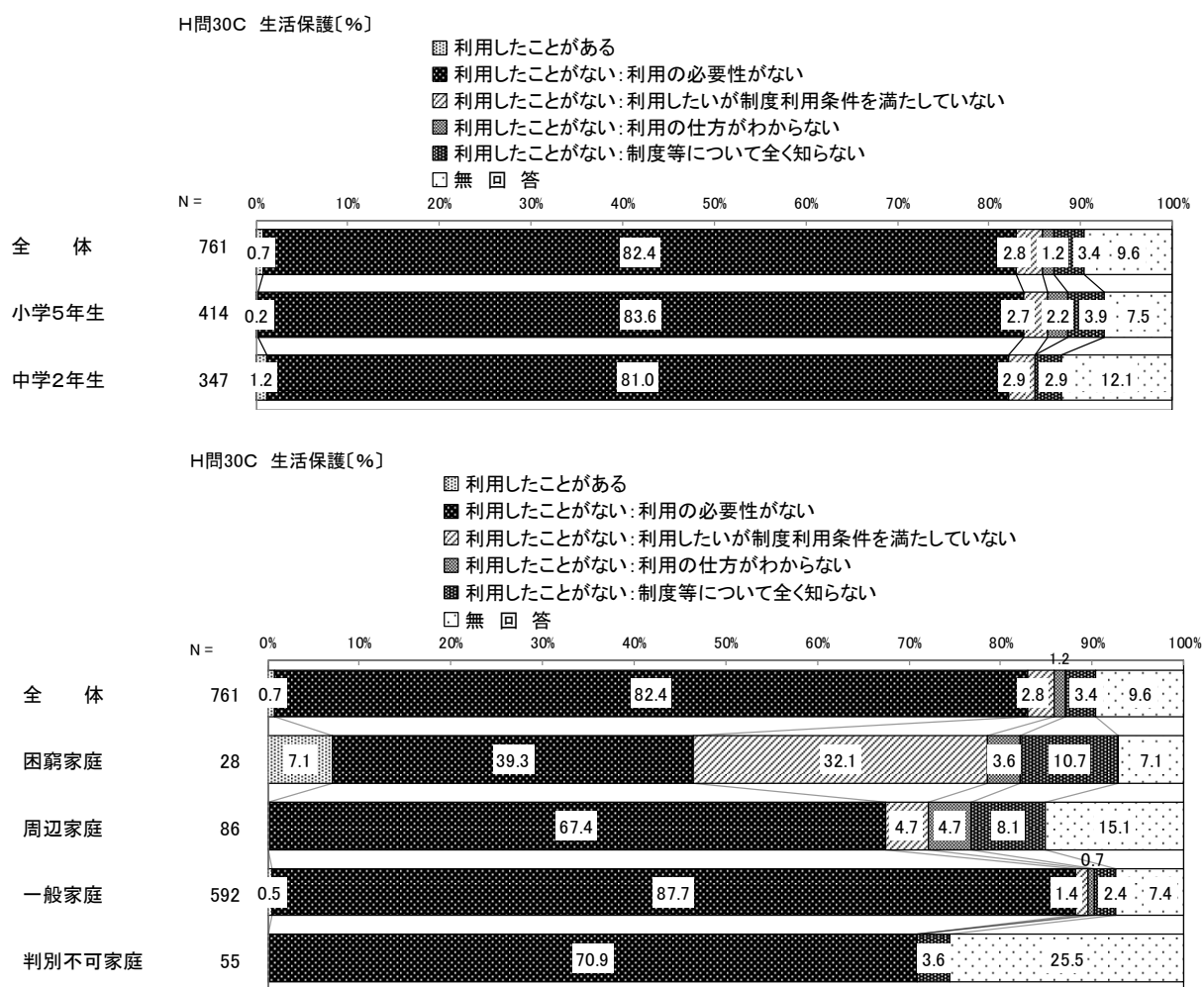


(C) 生活保護

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が82.4%と大半を占め、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が3.4%、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が2.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがある」は7.1%で、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が32.1%と多い。

図表 2.7.4.H 生活保護

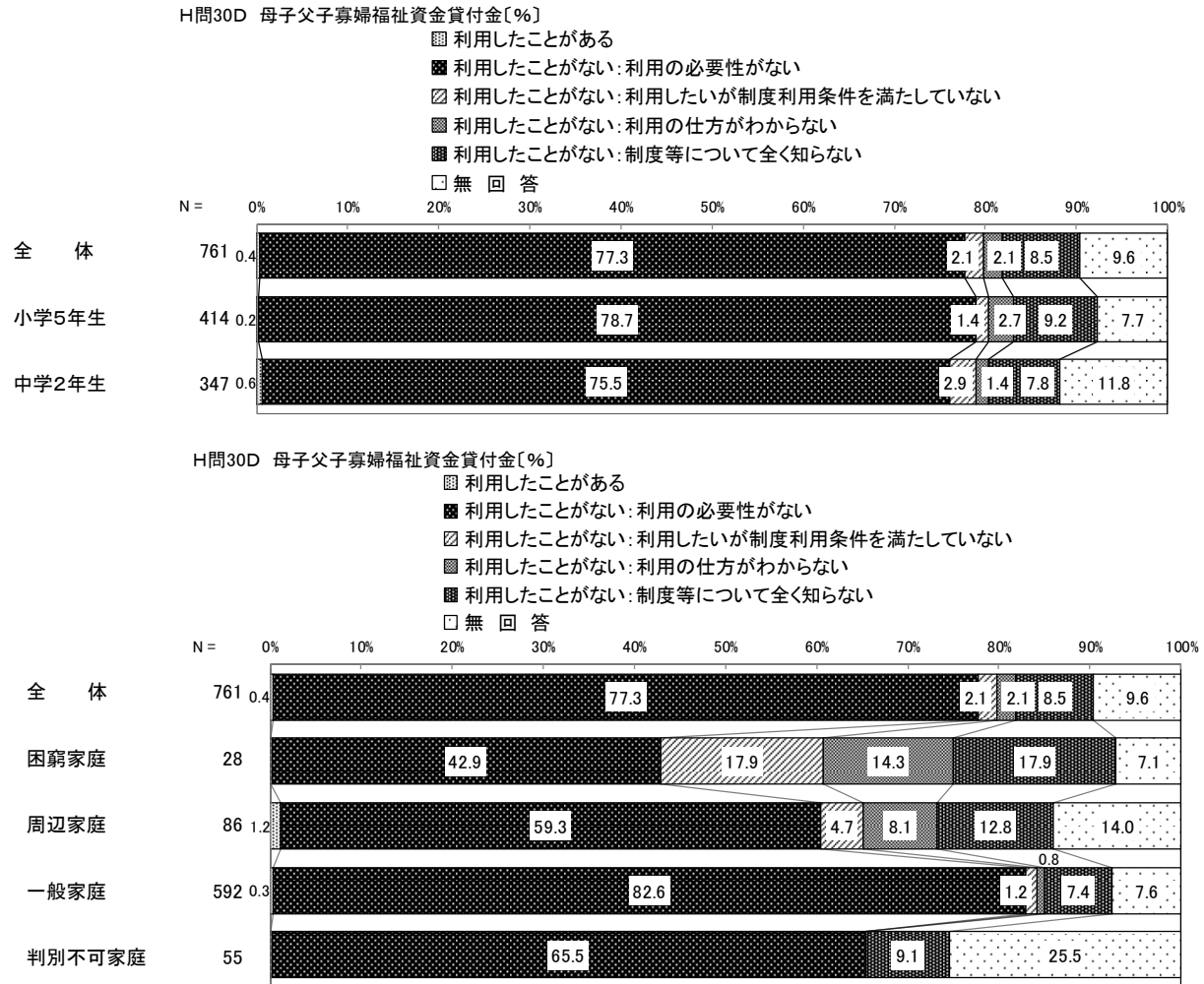


(D) 母子父子寡婦福祉資金貸付金

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が77.3%と8割近くを占め、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が8.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」と「利用したことがない：制度等について全く知らない」がともに17.9%と多い。

図表 2.7.5.H 母子父子寡婦福祉資金貸付金

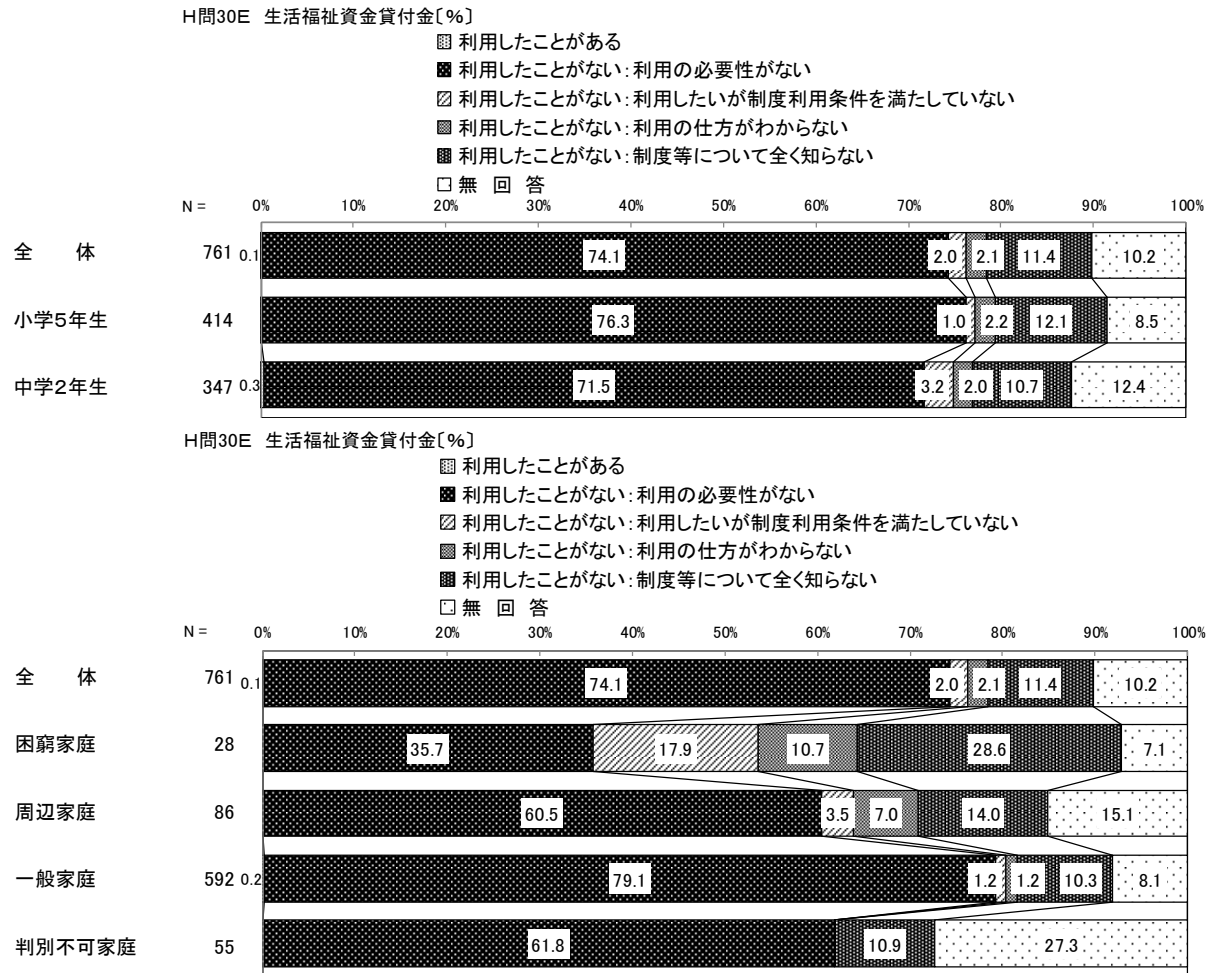


(E) 生活福祉資金貸付金

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が74.1%と7割を超え、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が11.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：制度等について全く知らない」が28.6%、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が17.9%と多い。

図表 2.7.6.H 生活福祉資金貸付金

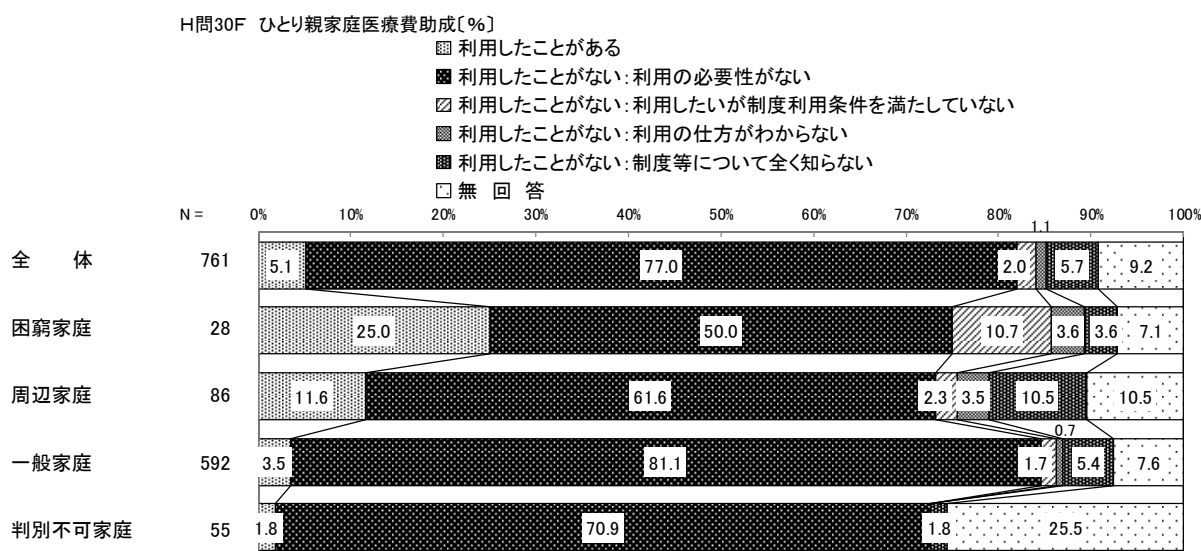
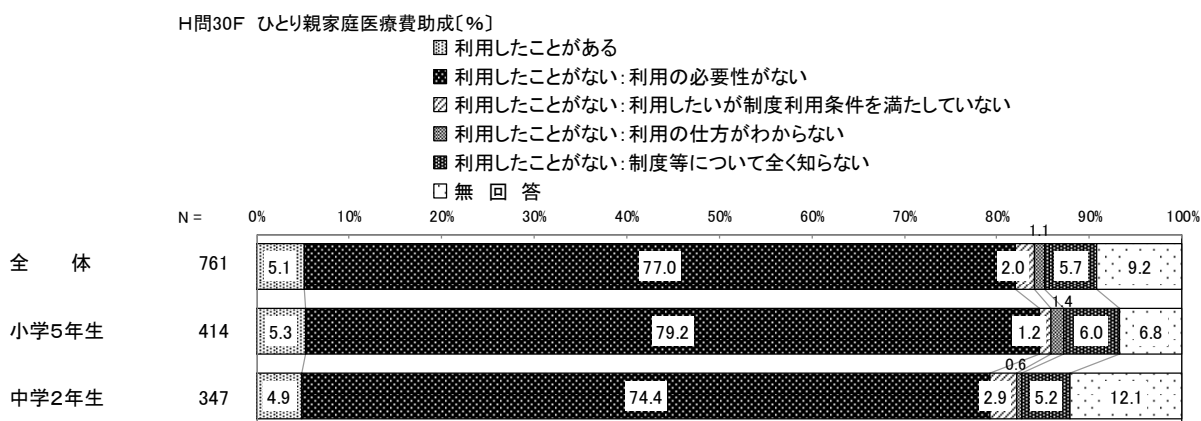


(F) ひとり親家庭医療費助成

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が77.0%と8割近くを占め、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が5.7%、「利用したことがある」が5.1%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがある」は困窮家庭で25.0%、周辺家庭で11.6%と多い。

図表 2.7.7.H ひとり親家庭医療費助成

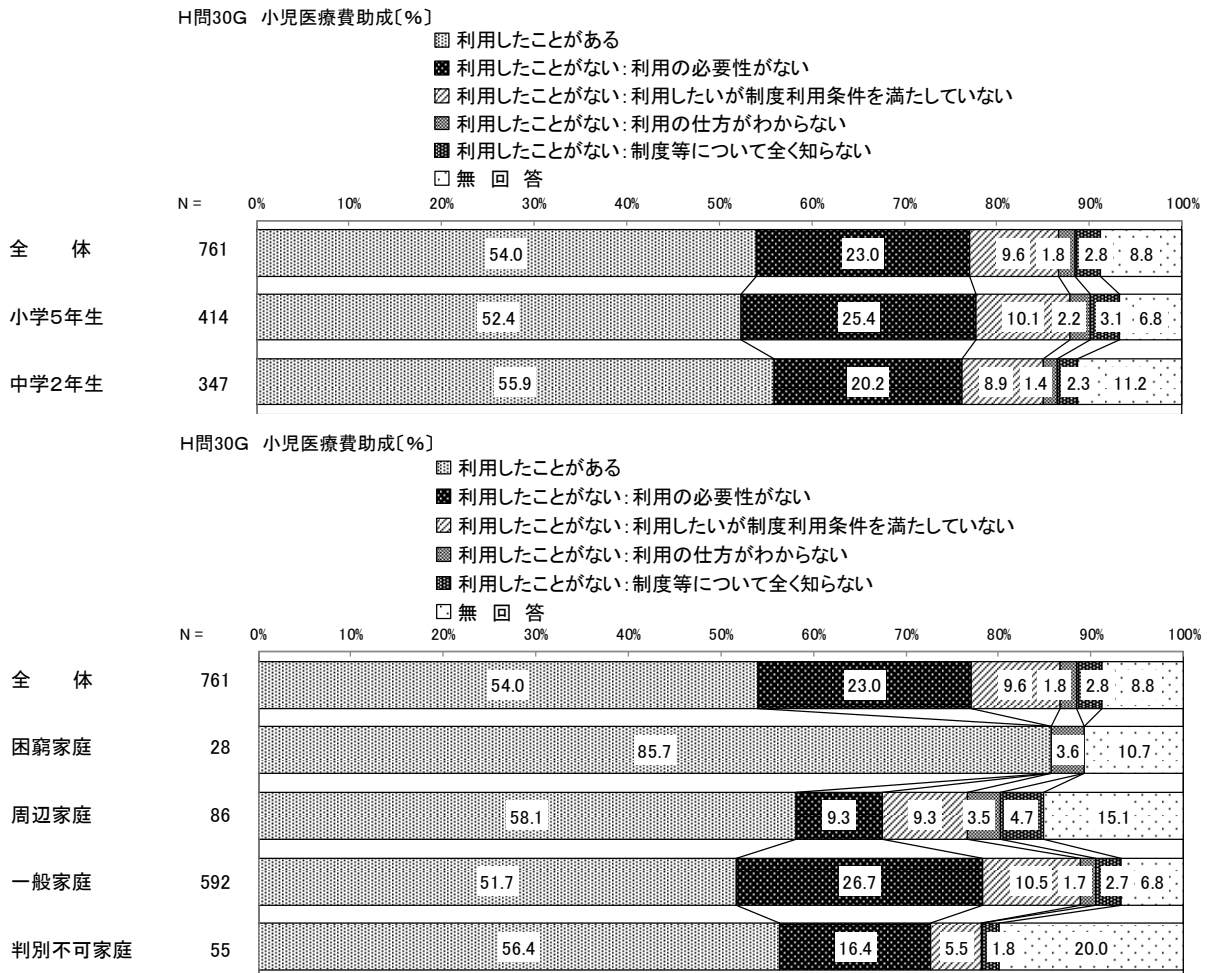


(G) 小児医療費助成

全体では、「利用したことがある」が54.0%と多く、「利用したことがない：利用の必要性がない」が23.0%、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が9.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがある」が85.7%と多い。

図表 2.7.8.H 小児医療費助成

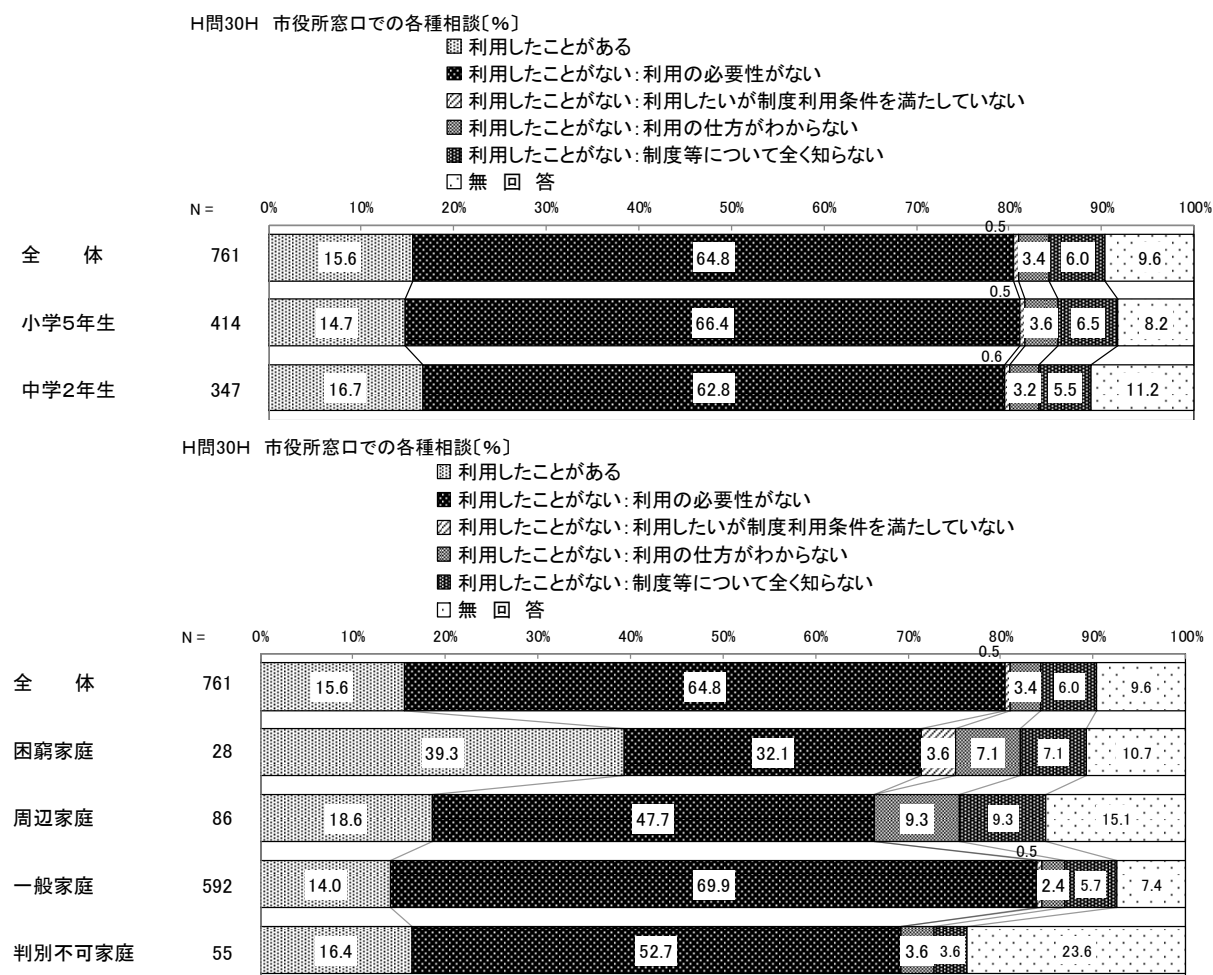


(H) 市役所窓口での各種相談（教育、福祉、子育て、ひとり親家庭等の支援に関するもの）

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が64.8%と半数を超え、「利用したことがある」が15.6%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が6.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがある」が39.3%と多い。

図表 2.7.9.H 市役所窓口での各種相談

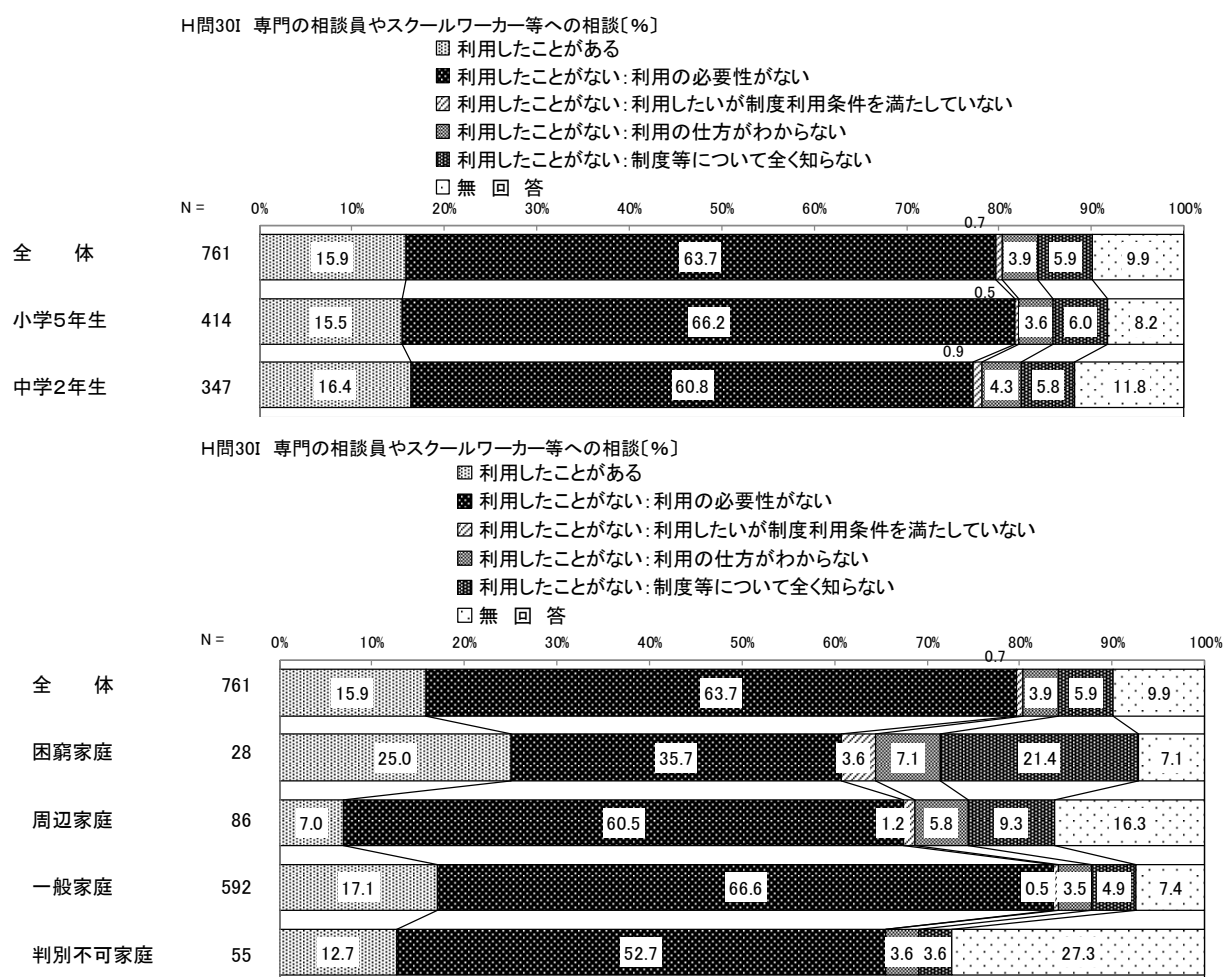


（Ⅰ）専門の相談員やスクールワーカー、スクールソーシャルワーカー等への相談

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が63.7%と半数を超え、「利用したことがある」が15.9%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が5.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがある」が25.0%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が21.4%と多い。

図表 2.7.10.H 専門の相談員やスクールワーカー等への相談

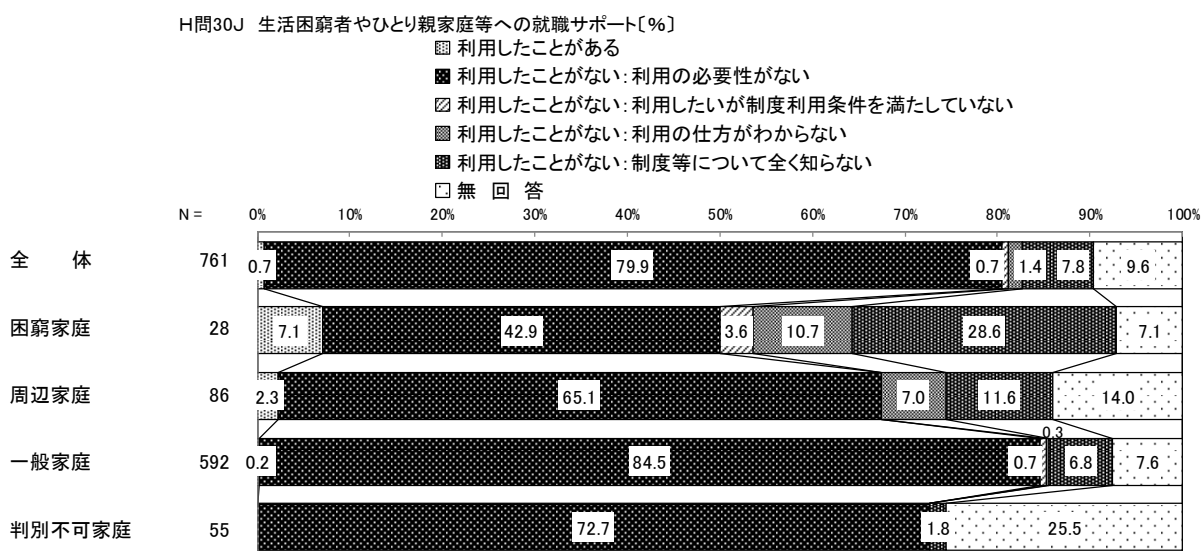
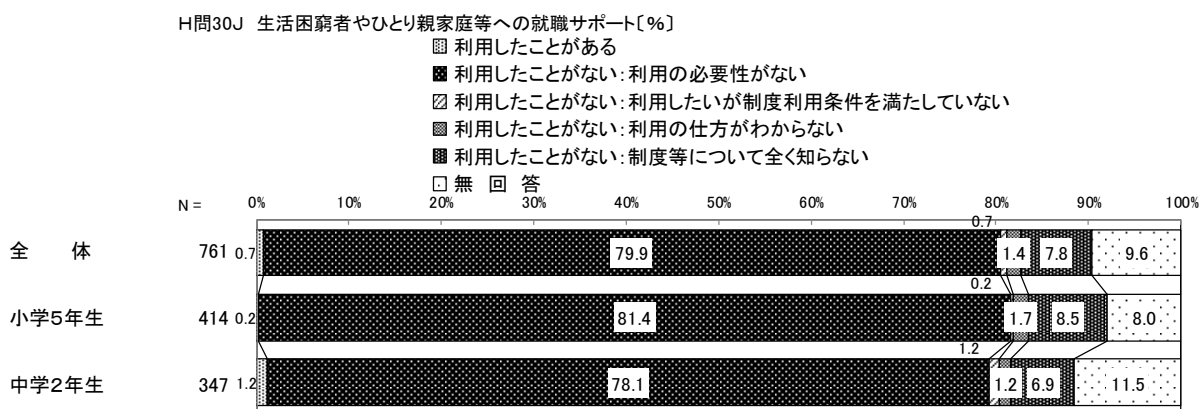


（Ｊ）生活困窮者やひとり親家庭等への就職サポート（就労相談、職業訓練のための給付金等）

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が79.9%と8割近くを占め、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が7.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：制度等について全く知らない」が28.6%、「利用したことがない：利用の仕方がわからない」が10.7%と多い。

図表 2.7.11.H 生活困窮者やひとり親家庭等への就職サポート

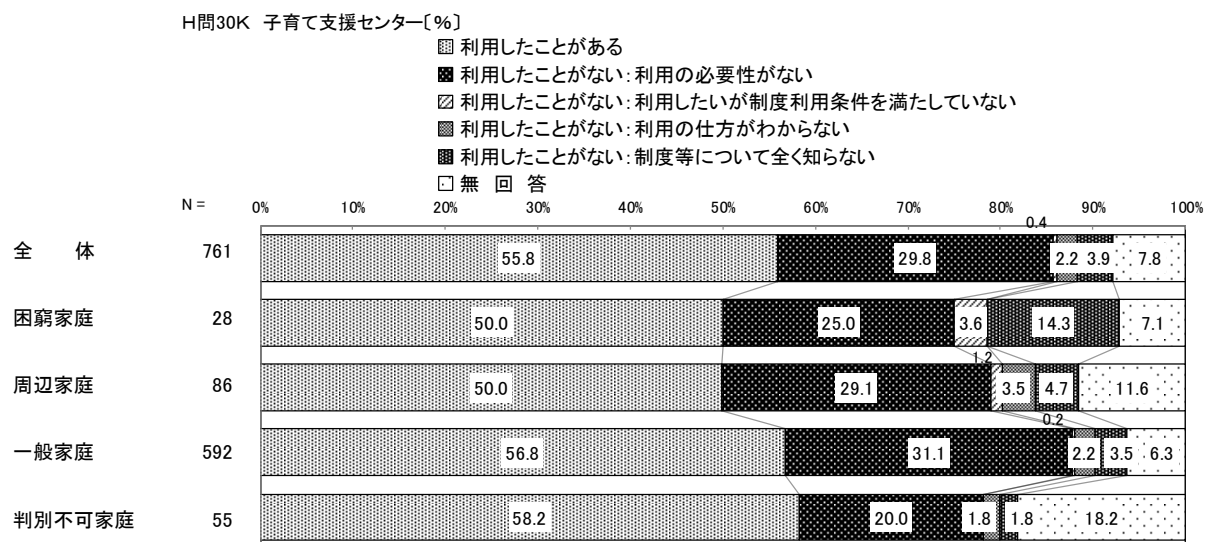
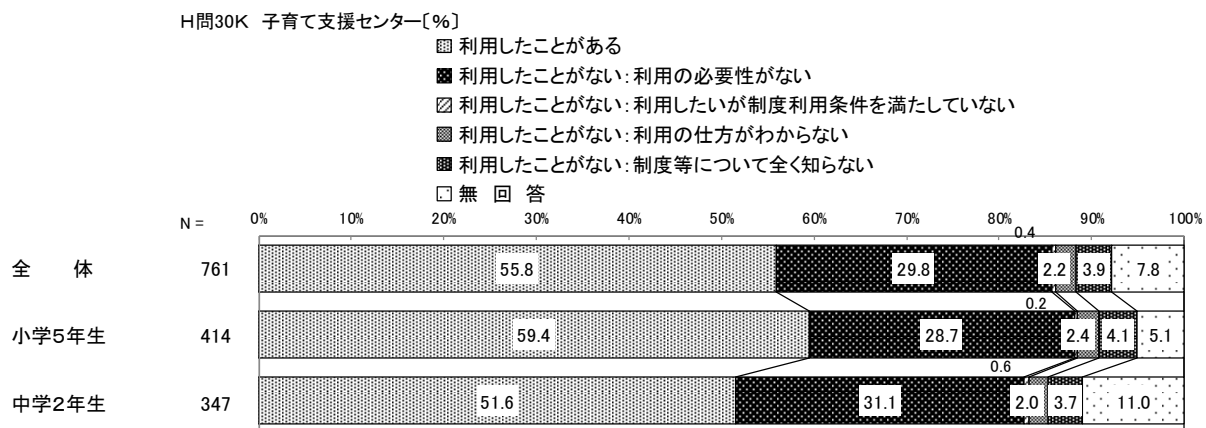


(K) 子育て支援センター（つどいの広場、子育てひろば、キッズスペースを含む）

全体では、「利用したことがある」が55.8%と多く、「利用したことがない：利用の必要性がない」が29.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：制度等について全く知らない」が14.3%と多い。

図表 2.7.12.H 子育て支援センター

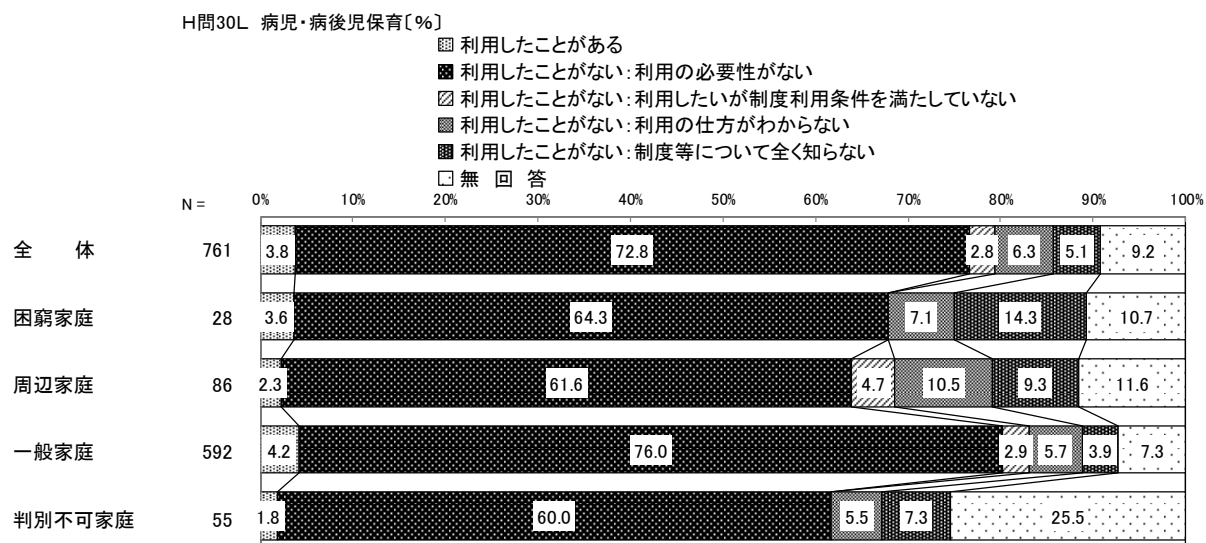
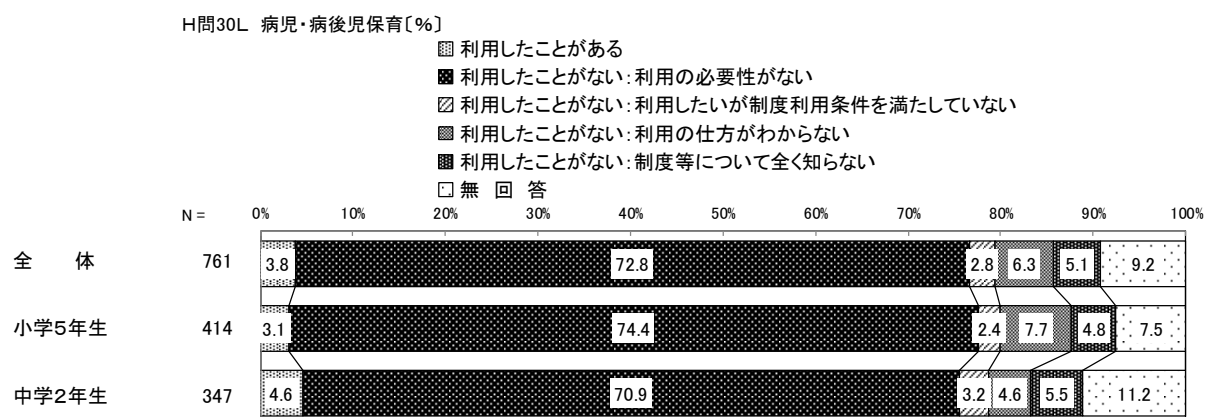


(L) 病児・病後児保育

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が72.8%と7割を超え、「利用したことがない：利用の仕方がわからない」が6.3%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が5.1%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：制度等について全く知らない」が14.3%と多い。

図表 2.7.13.H 病児・病後児保育

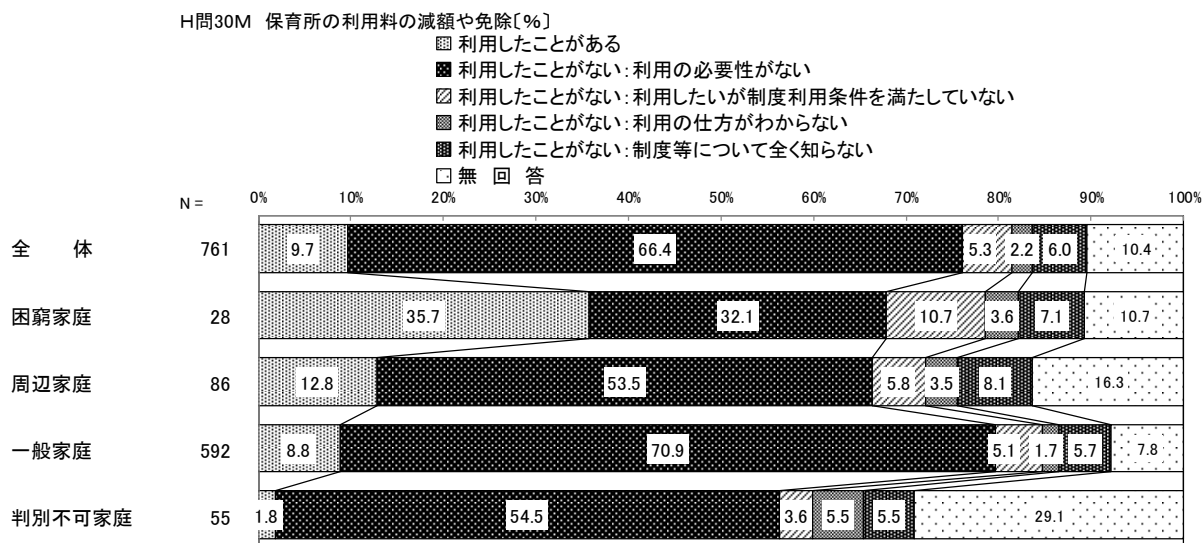
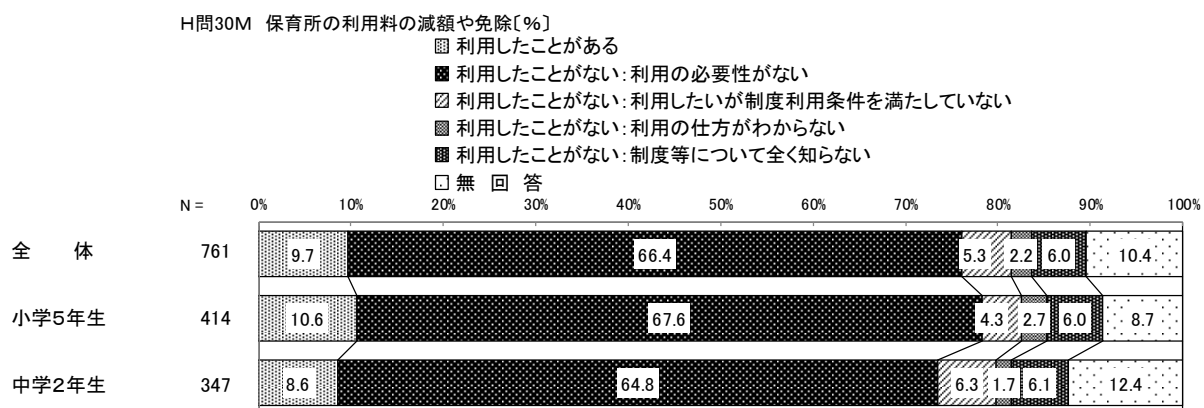


(M) 保育所の利用料の減額や免除

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が66.4%と半数を超え、「利用したことがある」が9.7%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が6.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがある」が35.7%、「利用したことがない：利用したいが制度利用条件を満たしていない」が10.7%と多い。

図表 2.7.14.H 保育所の利用料の減額や免除

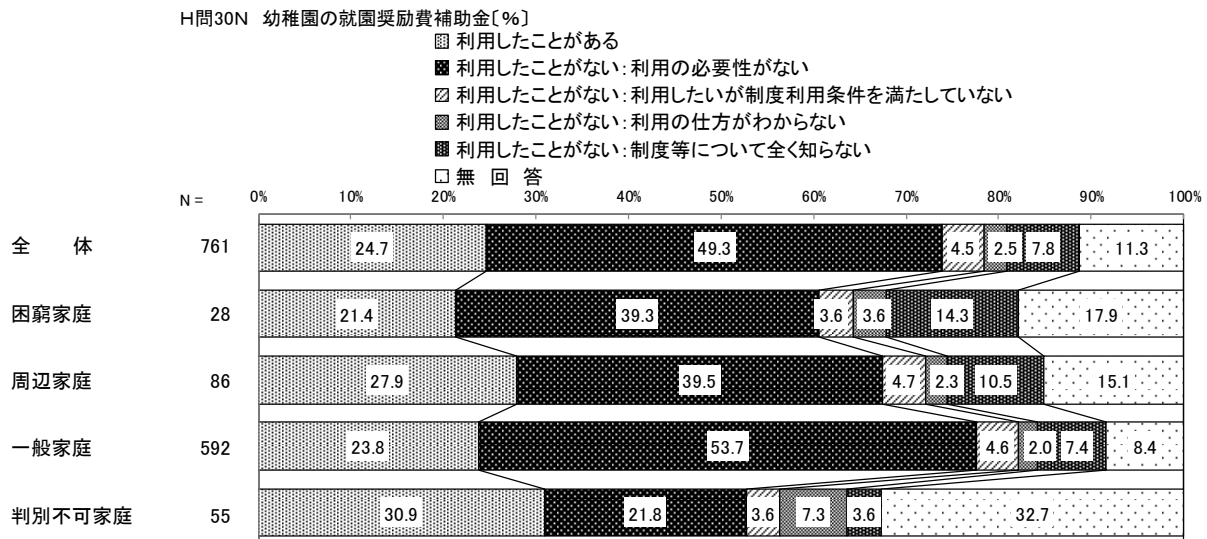
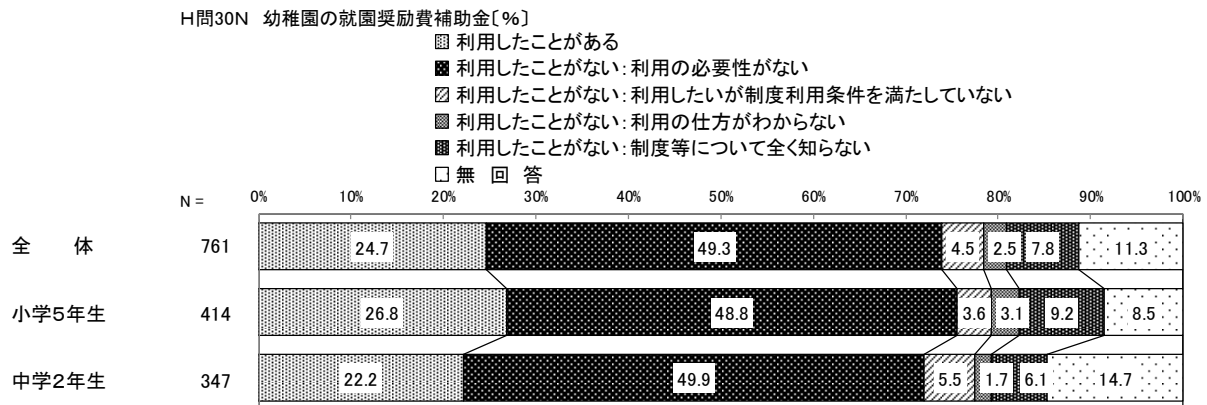


(N) 幼稚園の就園奨励費補助金

全体では、「利用したことがない：利用の必要性がない」が49.3%と半数近くを占め、「利用したことがある」が24.7%、「利用したことがない：制度等について全く知らない」が7.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：制度等について全く知らない」が14.3%と多い。

図表 2.7.15.H 幼稚園の就園奨励費補助金



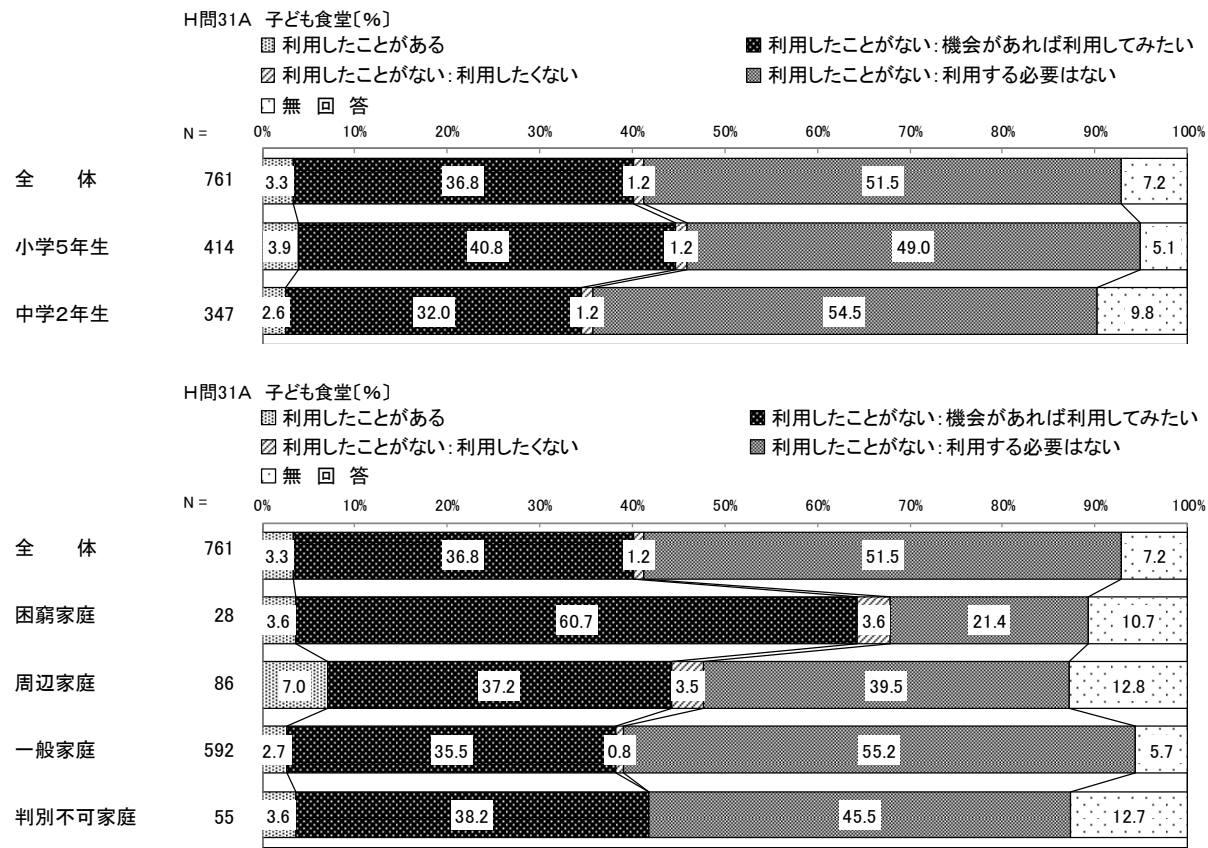
問 31 次のA～Dの支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。

(A) 子ども食堂（無料または、安価で食事を提供する場所）

全体では、「利用したことがない：利用する必要はない」が51.5%と半数を超え、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」が36.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」が60.7%と多い。

図表 2.7.16.H 子ども食堂

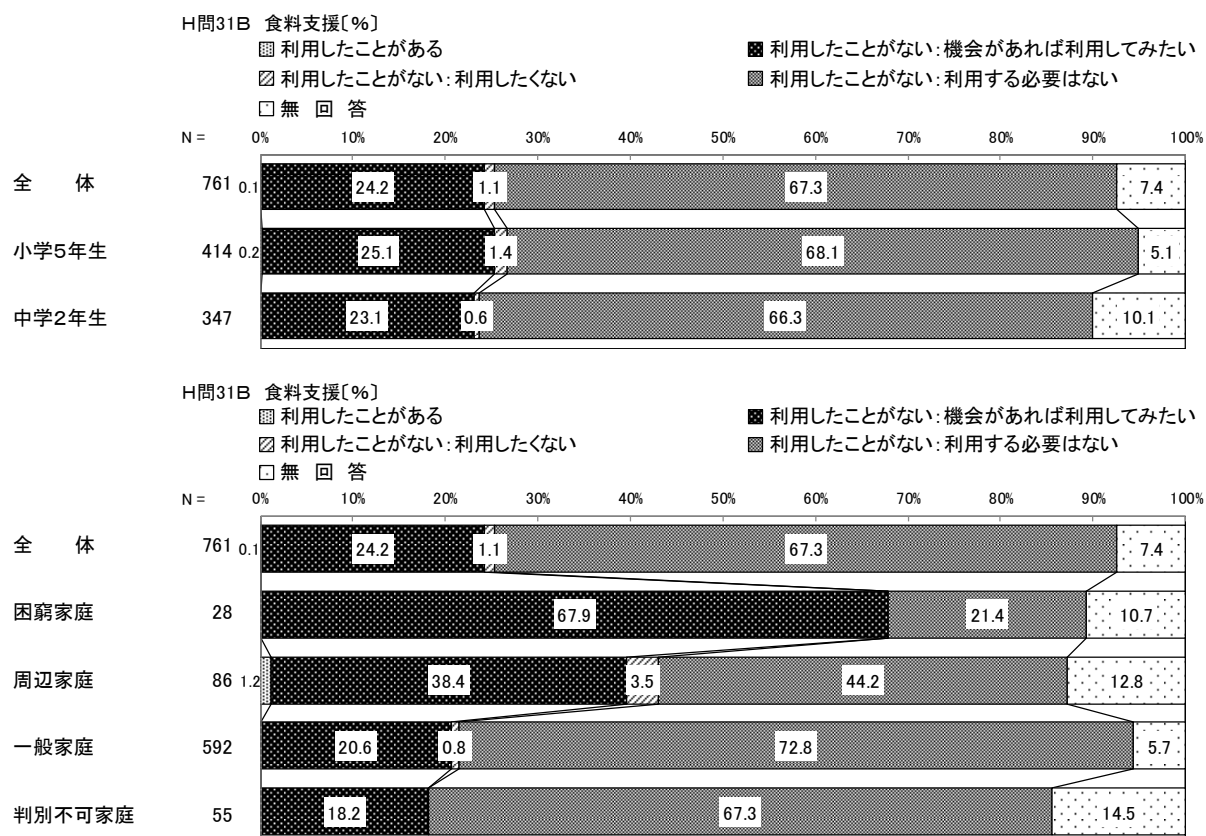


(B) 食料支援（食料の無料提供）

全体では、「利用したことがない：利用する必要はない」が67.3%と7割近くを占め、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」が24.2%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」は困窮家庭で67.9%、周辺家庭で38.4%と多い。

図表 2.7.17.H 食料支援

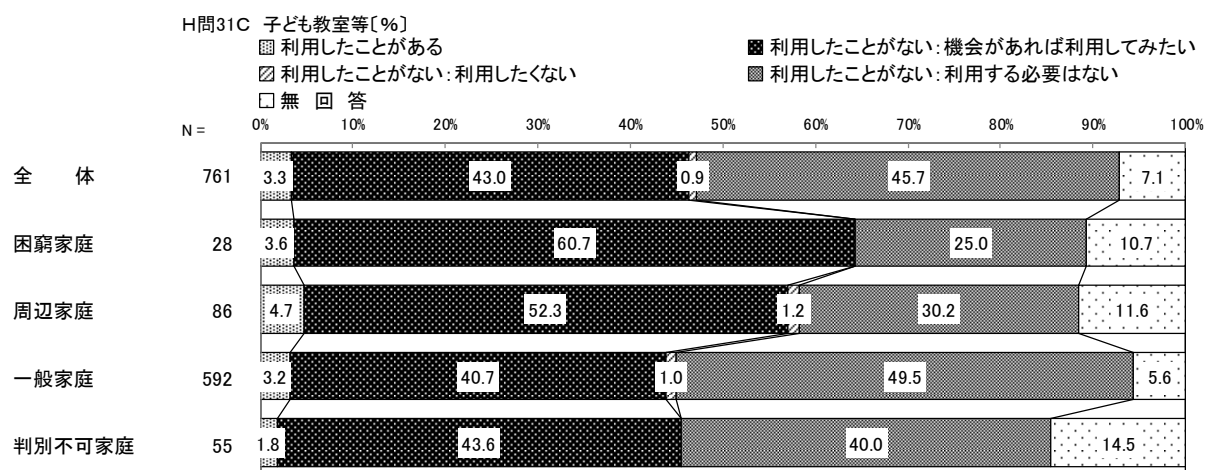
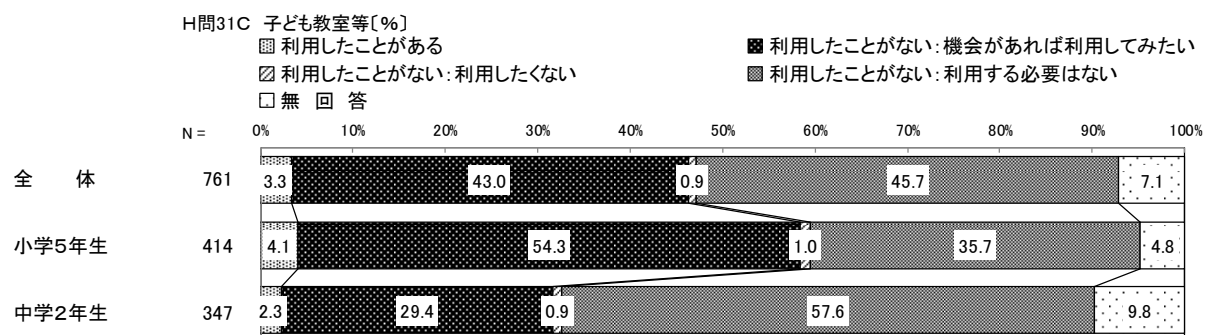


(C) 子ども教室等（無料で、子どもが自由に過ごすことができる場所）

全体では、「利用したことがない：利用する必要はない」が45.7%と半数近くを占め、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」が43.0%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」は困窮家庭で60.7%、周辺家庭で52.3%と多い。

図表 2.7.18.H 子ども教室等

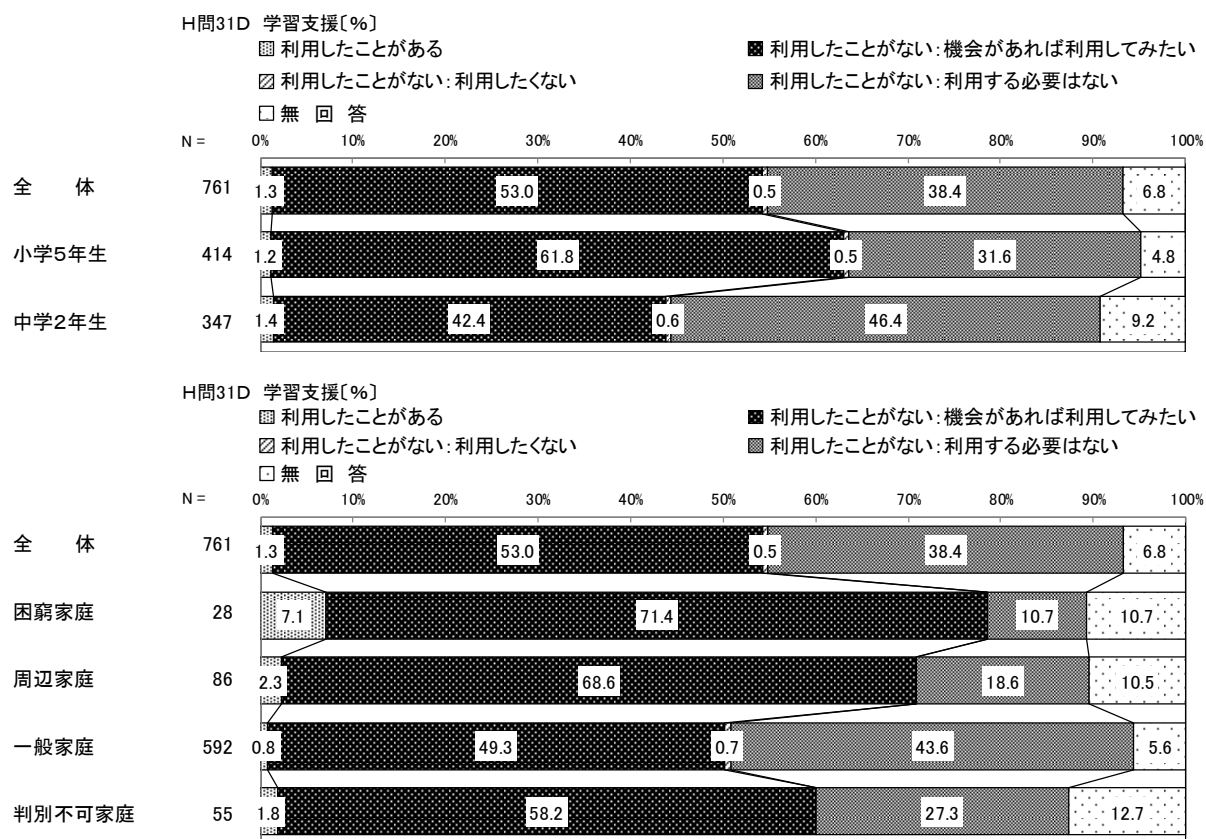


(D) 学習支援（無料で、宿題など学習指導を提供）

全体では、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」が53.0%と半数を超え、「利用したことがない：利用する必要はない」が38.4%と続いている。

生活困難度別では、「利用したことがない：機会があれば利用してみたい」は困窮家庭で71.4%、周辺家庭で68.6%と多い。

図表 2.7.19.H 学習支援

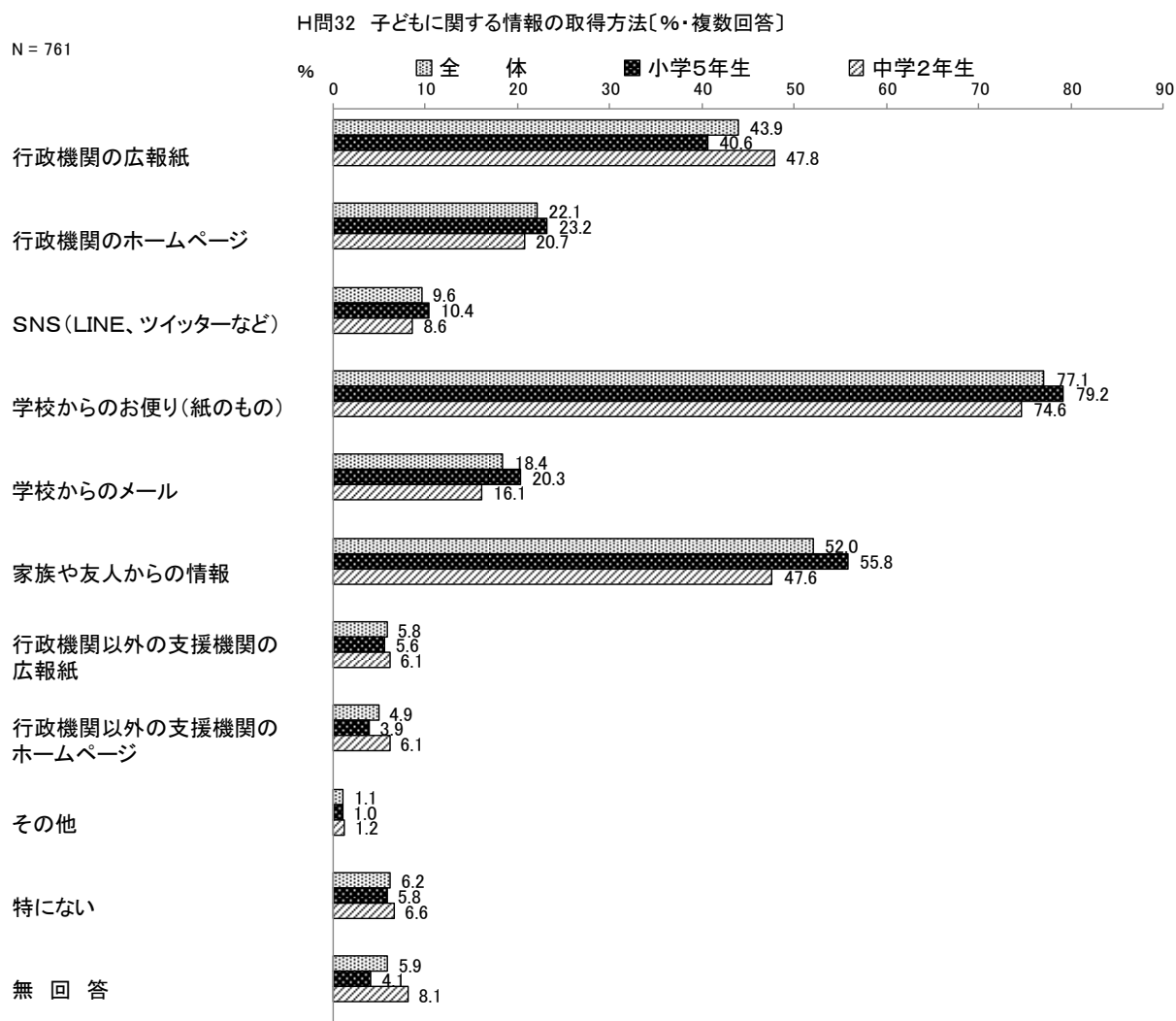


問 32 あなたは、子どもに関する制度・サービスの情報をどういう方法で取得していますか。

全体では、「学校からのお便り（紙のもの）」が77.1%と多く、「家族や友人からの情報」が52.0%、「行政機関の広報紙」が43.9%、「行政機関のホームページ」が22.1%と続いている。

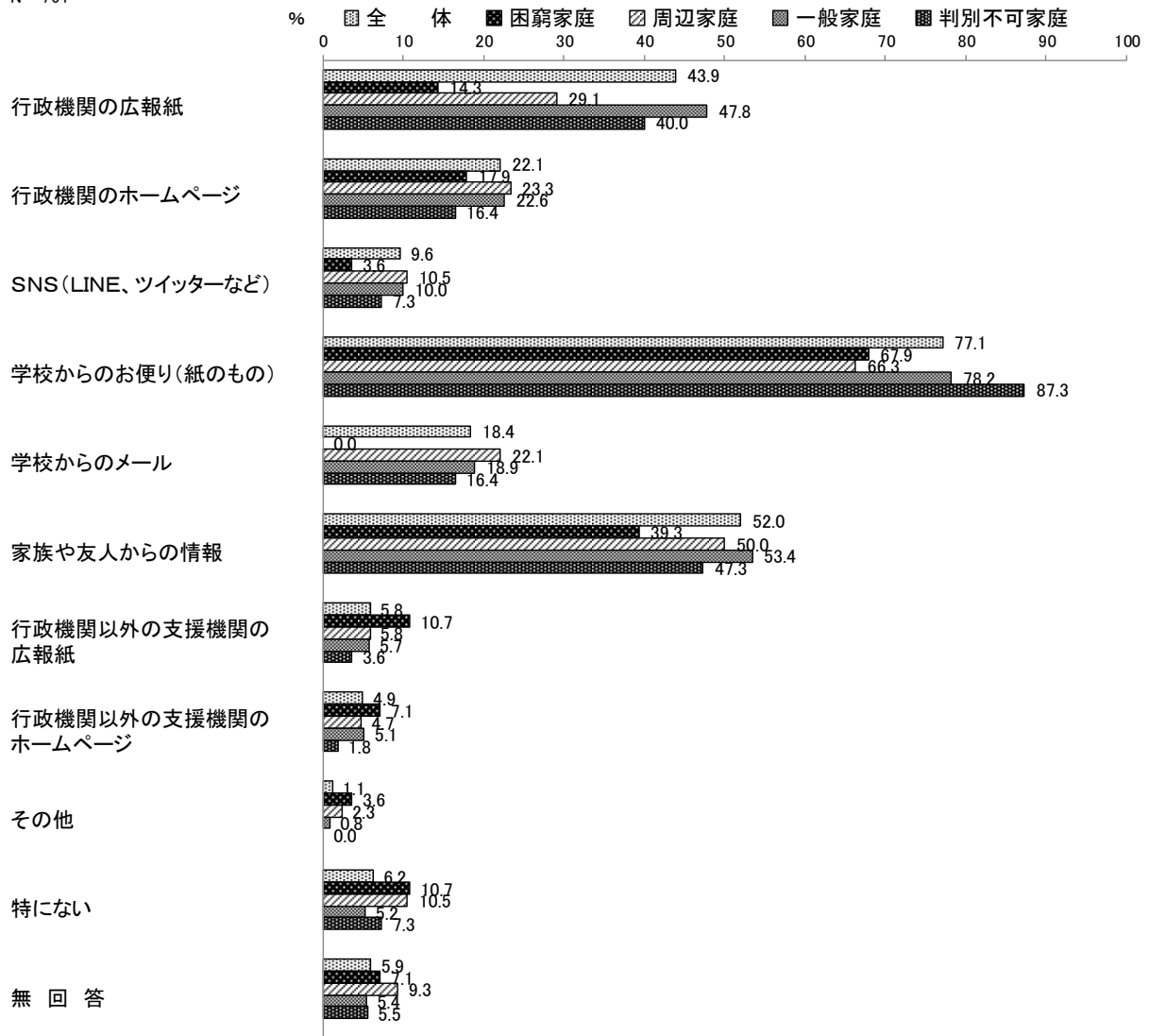
生活困難度別では、「行政機関の広報紙」は困窮家庭で14.3%、周辺家庭で29.1%と少ない。

図表 2.7.20.H 子どもに関する情報の取得方法



N = 761

H問32 子どもに関する情報の取得方法〔%・複数回答〕

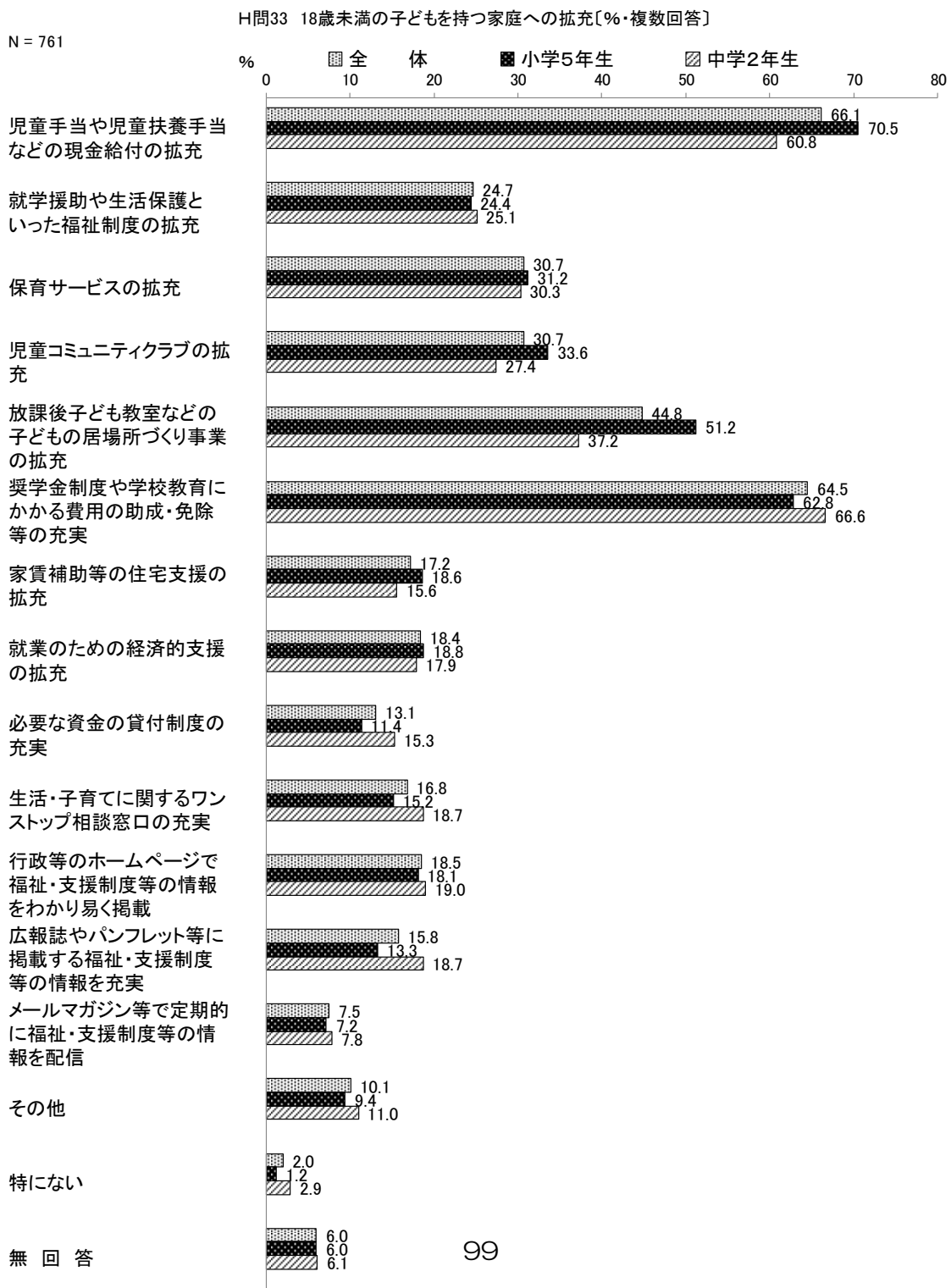


問 33 18 歳未満のお子さんのいる家庭への支援として、拡充すべき（必要）と思う制度は何ですか。

全体では、「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」が66.1%、「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」が64.5%と多く、「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」が44.8%、「保育サービスの拡充」と「児童コミュニティクラブの拡充」がともに30.7%と続いている。

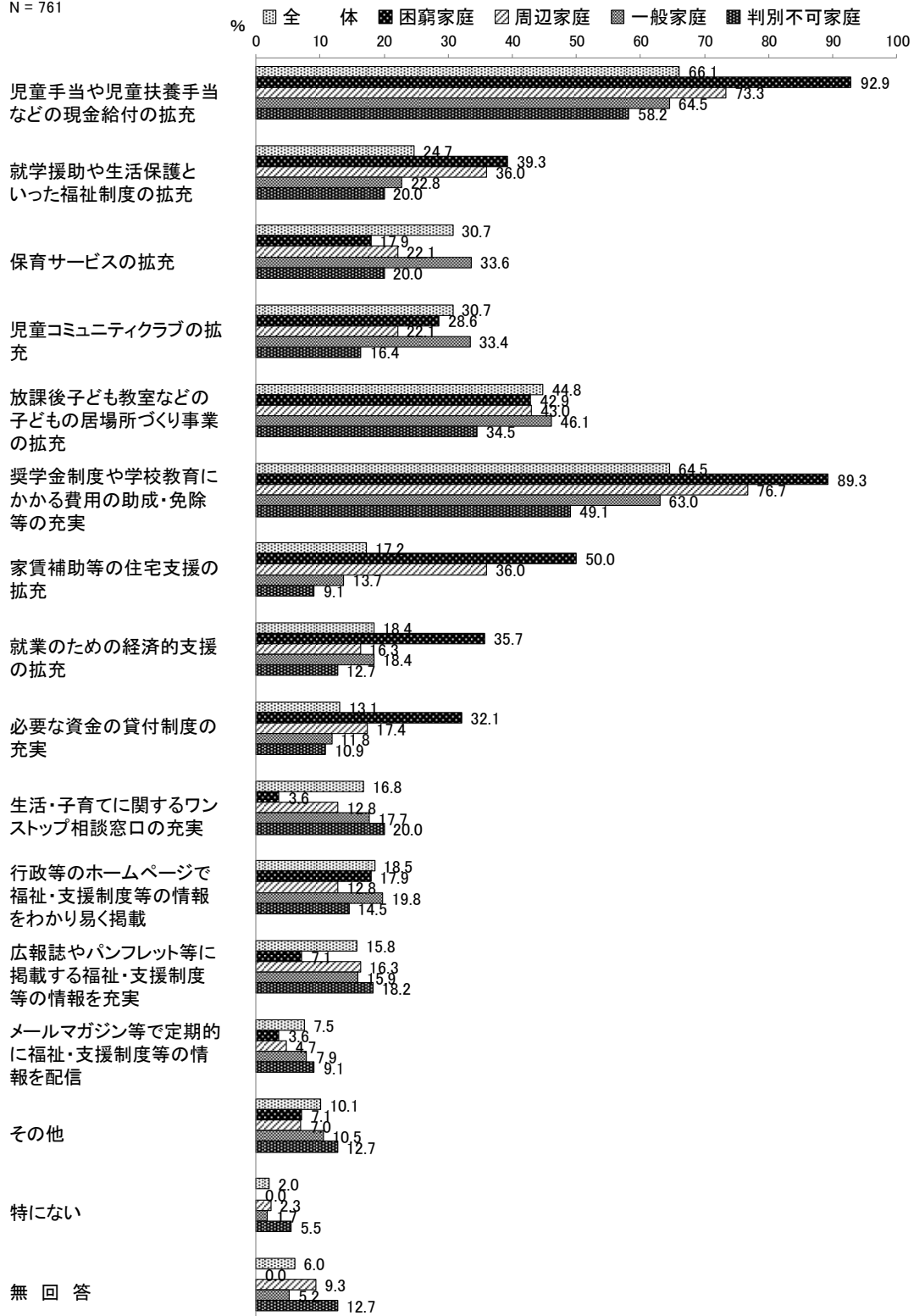
生活困難度別では、「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」と「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」は困窮家庭で90%前後、周辺家庭で75%前後とそれぞれ多い。

図表 2.7.21.H 18 歳未満の子どもを持つ家庭への拡充



H問33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充[%・複数回答]

N = 761

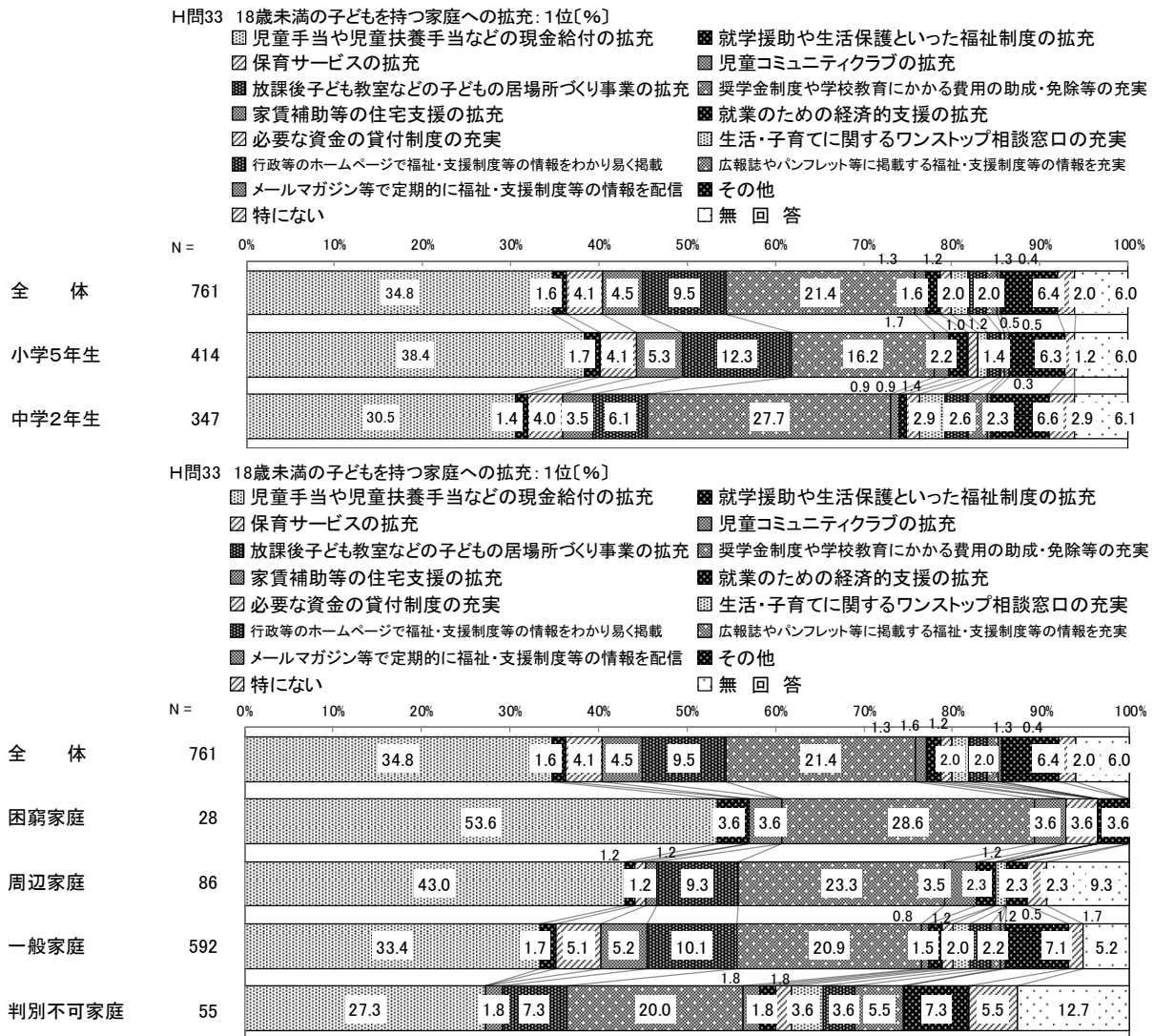


(1) 1位

全体では、「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」が34.8%と最も多く、「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」が21.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」が53.6%と半数を超えて多く、「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」も28.6%と周辺家庭・一般家庭に比べて多い。

図表 2.7.22.H 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充: 1位

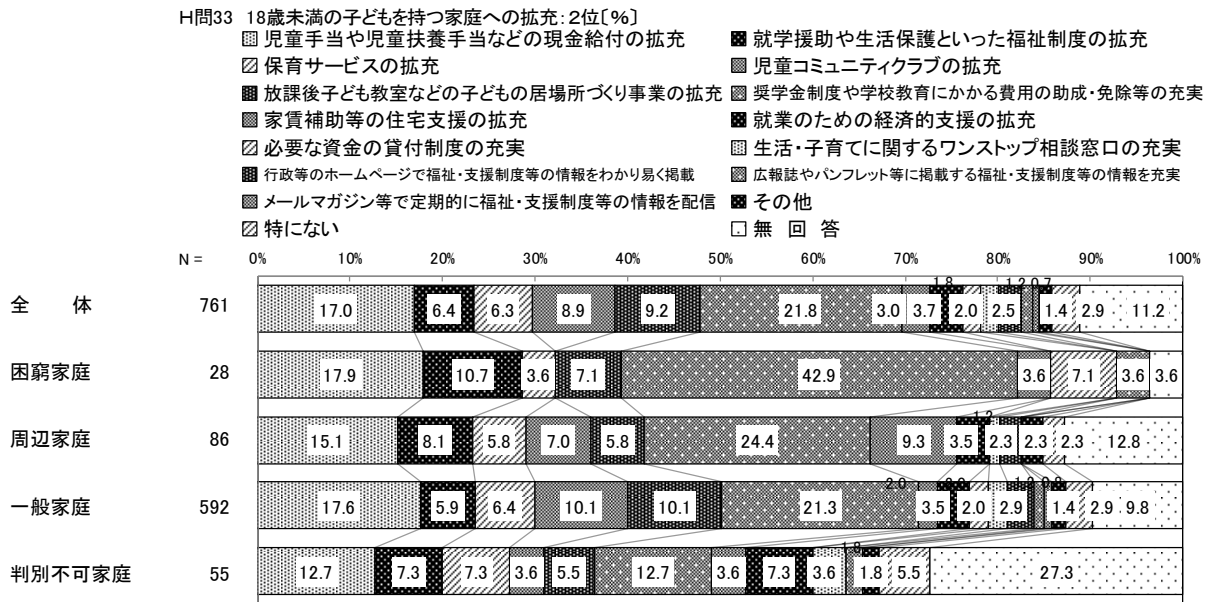
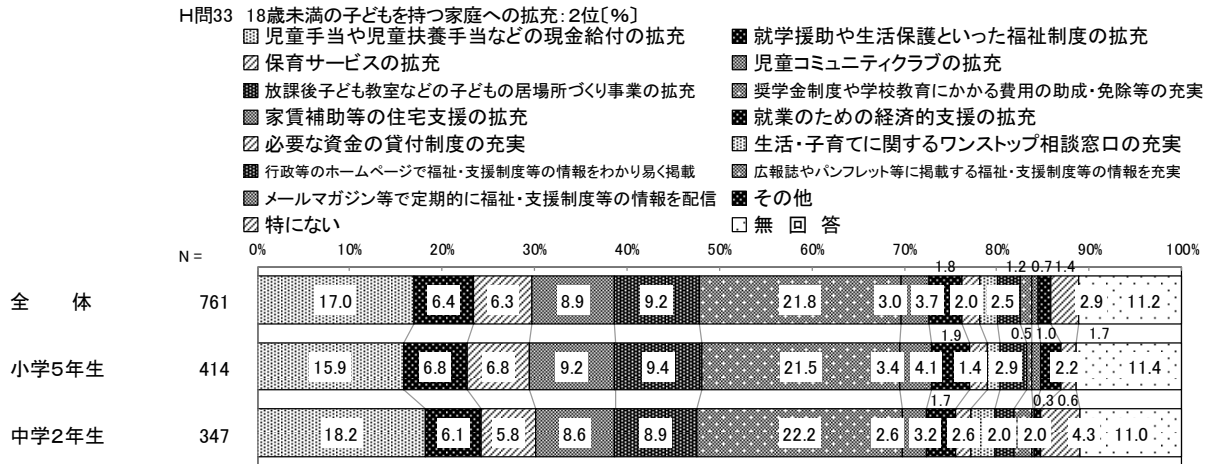


(2) 2位

全体では、「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」が21.8%と多く、「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」が17.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」が42.9%、「就学援助や生活保護といった福祉制度の拡充」が10.7%と多く、周辺家庭で「家賃補助等の住宅支援の拡充」が9.3%と他の家庭に比べてやや多い。

図表 2.7.23.H 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:2位

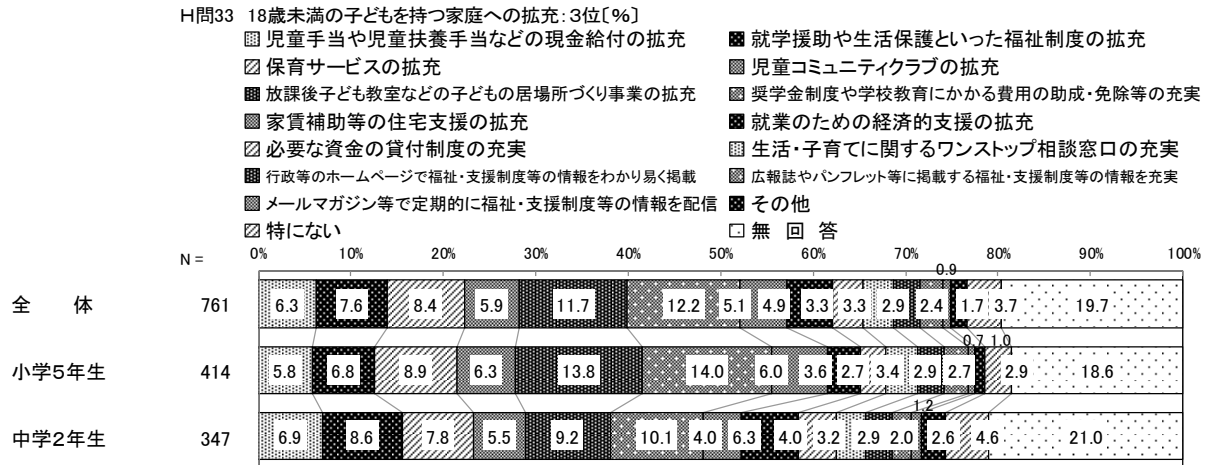


(3) 3位

全体では、「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」が12.2%と多く、「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」が11.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「就業のための経済的支援の拡充」が17.9%、「児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充」が14.3%と多く、周辺家庭で「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」と「奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実」がともに14.0%と多い。

図表 2.7.24.H 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:3位

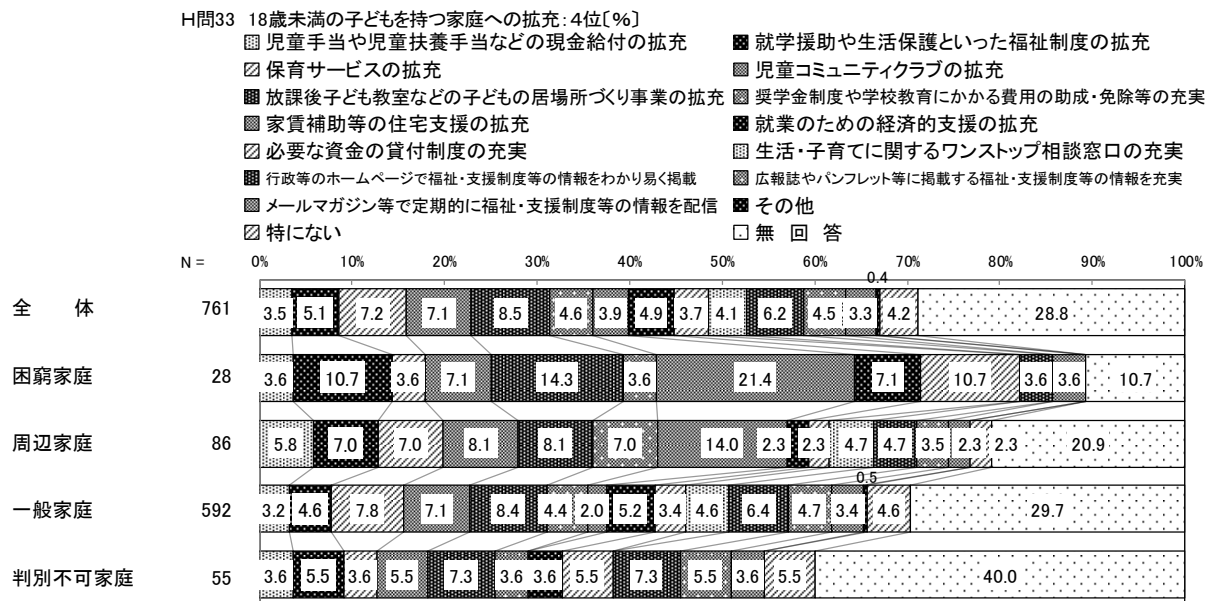
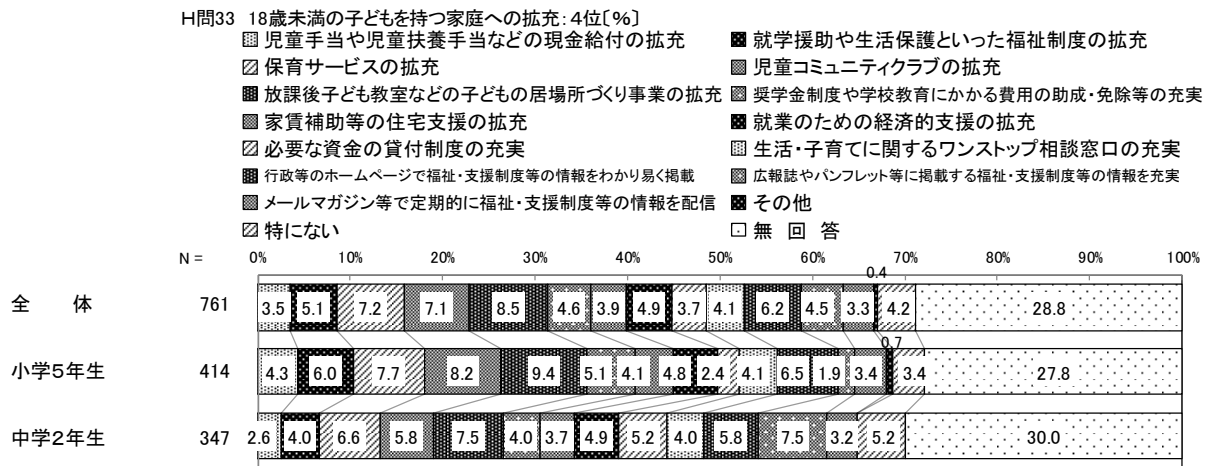


(4) 4位

全体では、最も多い割合は「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」が8.5%で、他の項目ではそれぞれ5%前後と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「家賃補助等の住宅支援の拡充」が21.4%、「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」が14.3%、「就学援助や生活保護といった福祉制度の拡充」と「必要な資金の貸付制度の充実」がともに10.7%と多い。

図表 2.7.25.H 18 歳未満の子どもを持つ家庭への拡充: 4位

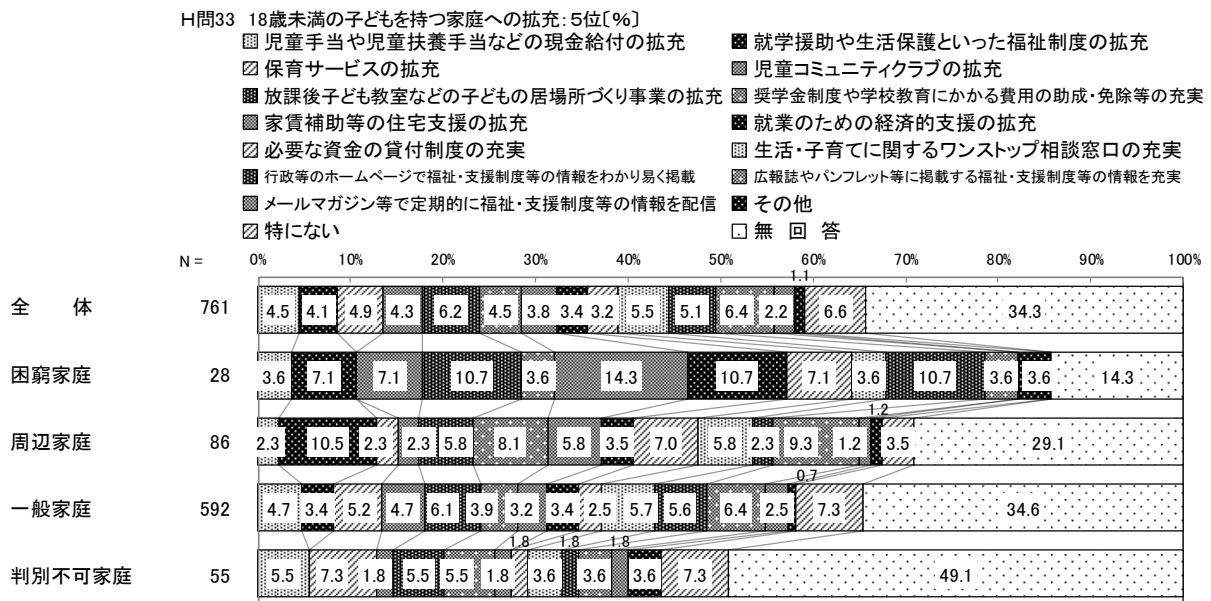
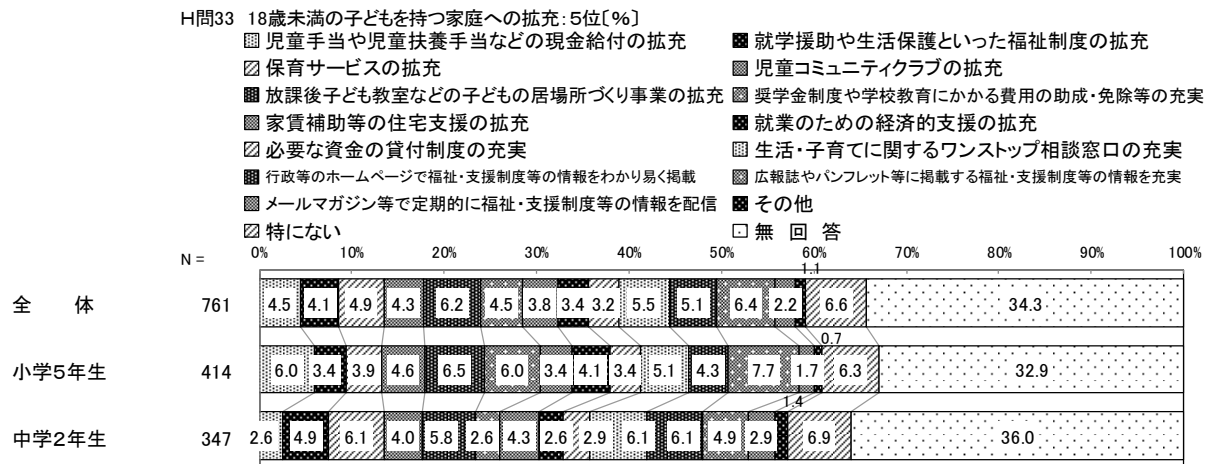


(5) 5位

全体では、各項目それぞれ5%前後である。

生活困難度別では、困窮家庭で「家賃補助等の住宅支援の拡充」が14.3%と多く、「放課後子ども教室などの子どもの居場所づくり事業の拡充」と「就業のための経済的支援の拡充」がともに10.7%と多い。

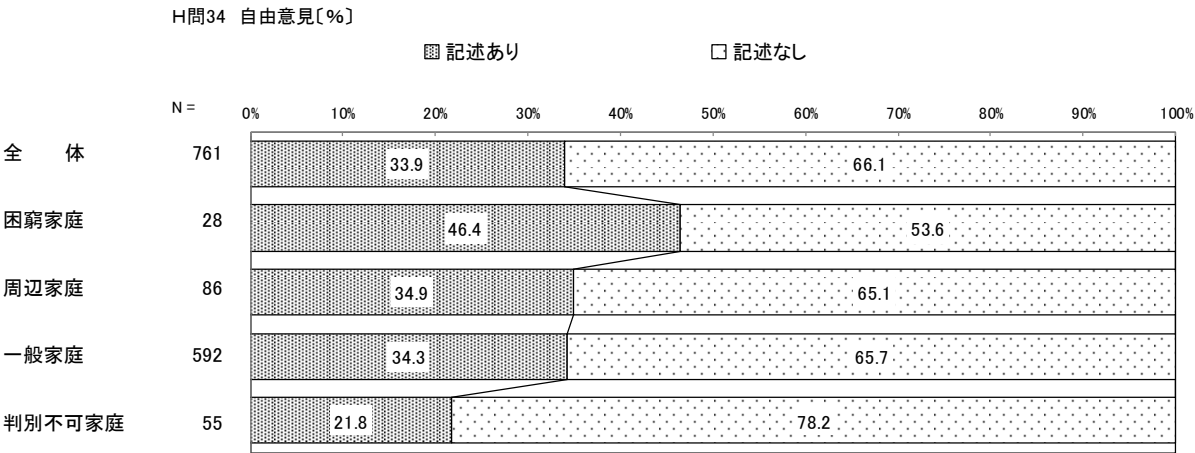
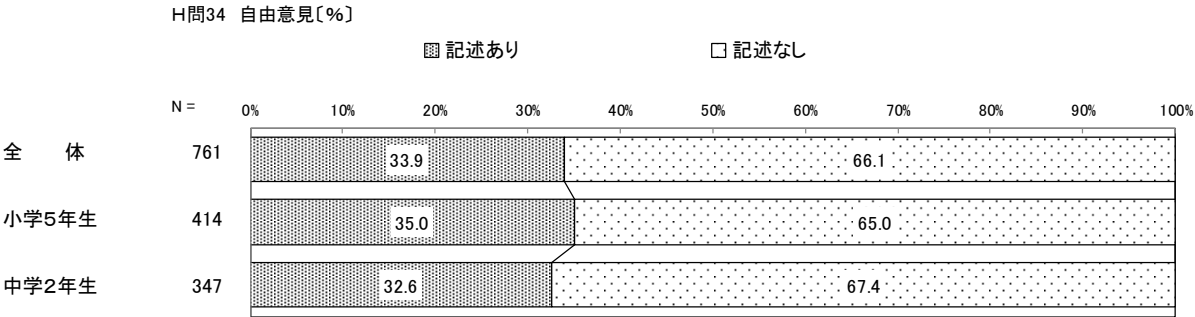
図表 2.7.26.H 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:5位



問 34 市の子育て支援施策等についてご意見等をご自由にご記入ください。

全体では、記述は33.9%である。内容として、小学5年生保護者で「医療費助成」、「子育て支援全般」、「学校の設備・給食」、「コミュニティクラブ等預かり」、「医療費助成以外の経済的援助」などに関してであり、中学2年生保護者でも小学5年生保護者と同じ内容が多く、その他では「公園や集いスペースの確保など」であった。

図表 2.7.27.H 自由意見



小学5年生保護者

順位	アンケート調査自由意見の内容	件数
1位	医療費助成	46
	医療費も中学生までは無料にしてほしい。収入の上限に限らず、市税を払っている以上、小児医療費は助成してもらいたい。子どもの医療補助(手当)について、所得制限の見直しをしてほしい。医療証の発行の有無が、なぜ夫婦二人の収入の合算ではなく世帯主の収入額で判定されるのか分からない。	
2位	子育て支援全般	34
	伊勢原市はどんなビジョンを持って子育て支援施策を考えているのかが全く見えてこない。ネグレクトや暴力の線引きは第三者では難しく、通報や情報提供のみでは子どもにとっては間に合わないこともある。パトロール等の充実を希望する。手当を増やすより、給食を無償にしてそちらへまわすことがよいのではないか。親が子ども手当を使い切ったり、夫が渡さないのをいくつか知っている。	
3位	学校の設備・給食	18
	小・中学校のエアコン設置がなぜこんなに遅いのか。学校の老朽が激しい。夏はとにかくかわいそう(暑くて、エアコンなしは、今の時代あり得ない)。中学校給食を早く導入してほしい。中学校の給食制度を充実してほしい。	
4位	コミュニティクラブ等預かり	17
	民間と協力して、子どもの一時預かりを24時間できる場所がほしい。児童コミュニティクラブの夏休み等長期休暇の一時利用や、制度利用条件の緩和をお願いしたい。児童コミュニティを、4年生に進学する際、新1年生増のため利用不可となった。子どもを放課後に預ける場所が足りない。	
5位	医療費助成以外の経済的援助	10
	学校教育にかかる費用の助成金の拡充を望む。児童手当は父にしか支払われないので困っている。収入が一定以上あると税金は高く、児童手当や小児医療助成がなくなる。生活水準は変わらないので、以前よりも生活は苦しくなっている。市がそれを補うような施策を考えてほしい。	

中学2年生保護者

順位	アンケート調査自由意見の内容	件数
1位	医療費助成	35
	小児医療費助成の年齢を上げてほしい。入院等の医療費助成は必要だと思う。医療証を15歳もしくは中学3年修了までにすべき。まだ身体が成長途中でなにかと通院する機会が多い。収入に関係なく中学生まで医療費無料化をしてほしい。	
2位	子育て支援全般	31
	支援の必要な家庭へのサポートが各課で分かれており、全体的なサポートができていないと思う。1つの家庭に担当を付け、フォローできるようにした方がよいと思う。広報を全世帯に行きわたるようにしてほしい。不登校や引きこもりの相談窓口や相談対応を、もう少し力を入れて取り組んでほしい。	
3位	医療費助成以外の経済的援助	15
	子どもの学業に関するもの(学校等)を無料にしてもらいたい。中学生の部活動による遠征費補助の拡充、これから高校・大学と、上の教育に関わる無償化の拡充をお願いしたい。高校、大学に進学しようとしている年代の人達の支援の方の拡充をお願いする。	
4位	学校の設備・給食	9
	小・中学校に早くクーラーをつけてほしい。早くエアコンを小中学校すべてにつけてほしい。小中学校の体育館のトイレを改装してほしい。中学校まで完全給食を望む。伊勢原市の中学校給食がないことが毎日大変だ。	
5位	公園や集いスペースの確保	7
	中学生が活用できる学習スペースの確保や、図書館の本やマンガを増やしてほしい。学校から帰ってきて友達と遊ぶのに、場所が限られている。小学校の校庭を使って遊べたらとてもよいと思う。雨の日等に子どもが集まって自由に遊べる(公民館等)場所があると嬉しい。	

3. 子ども調査

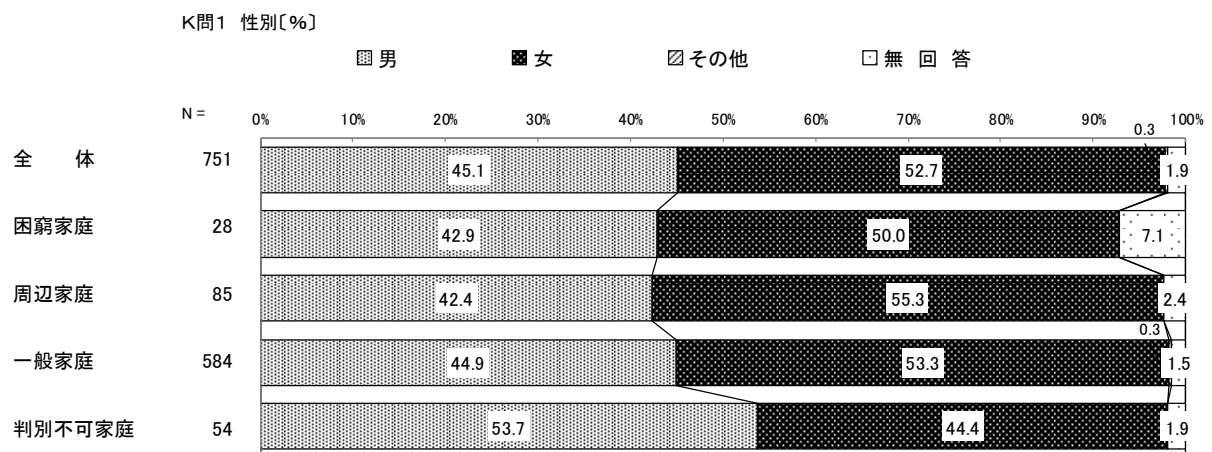
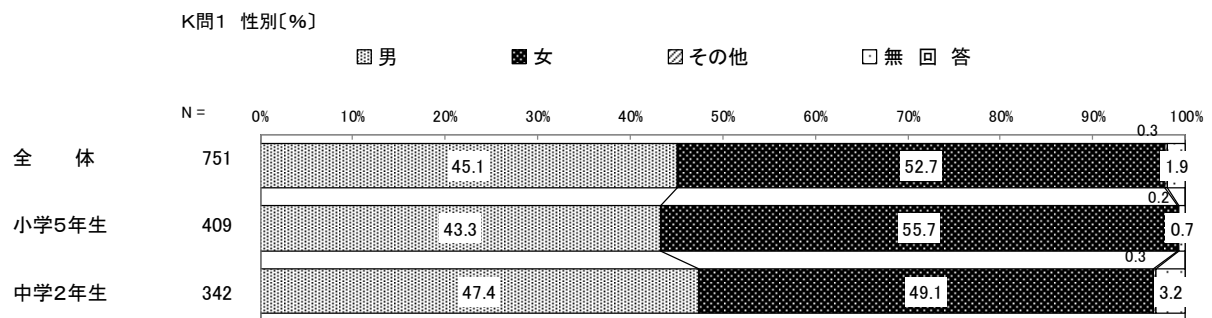
3.1 子ども本人のこと

問1 あなたの性別・学年を教えてください。

(A) 性別

全体では、「男」が45.1%で「女」が52.7%。「女」の割合がやや多い。

図表 3.1.1.K 性別



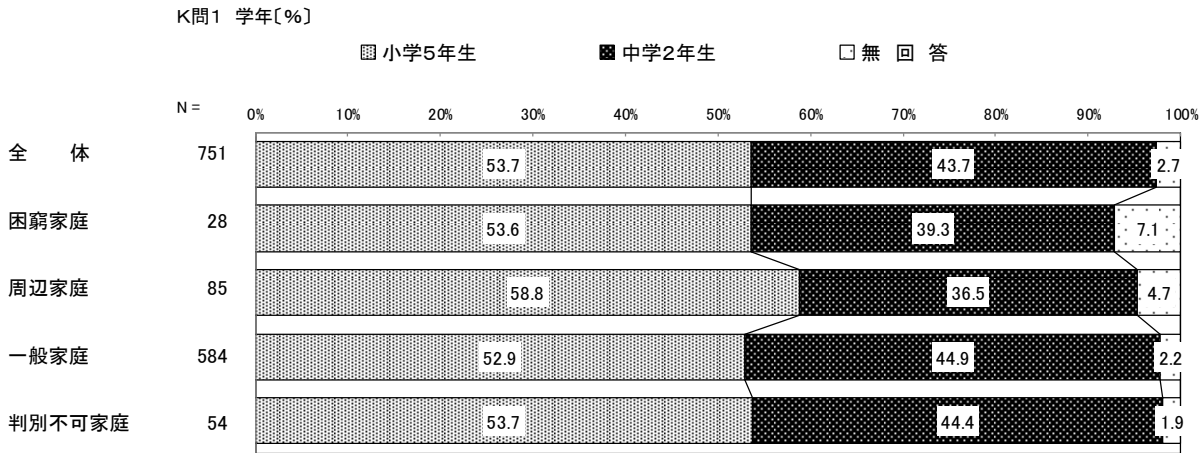
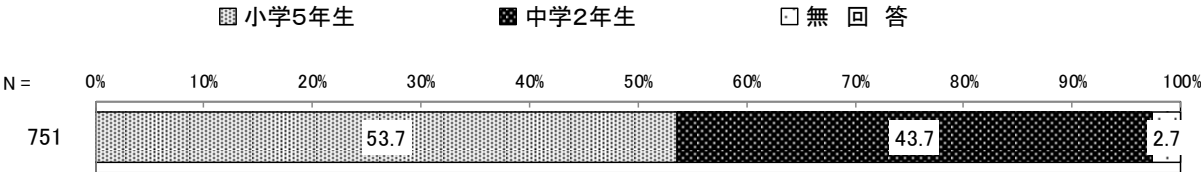
(B) 学年

全体では、「小学5年生」が53.7%で「中学2年生」が43.7%と、「小学5年生」の割合がやや多い。

生活困難度別では、周辺家庭で「小学5年生」が58.8%と他の家庭に比べてやや多い。

図表 3.1.2K 学年

K問1 学年[%]



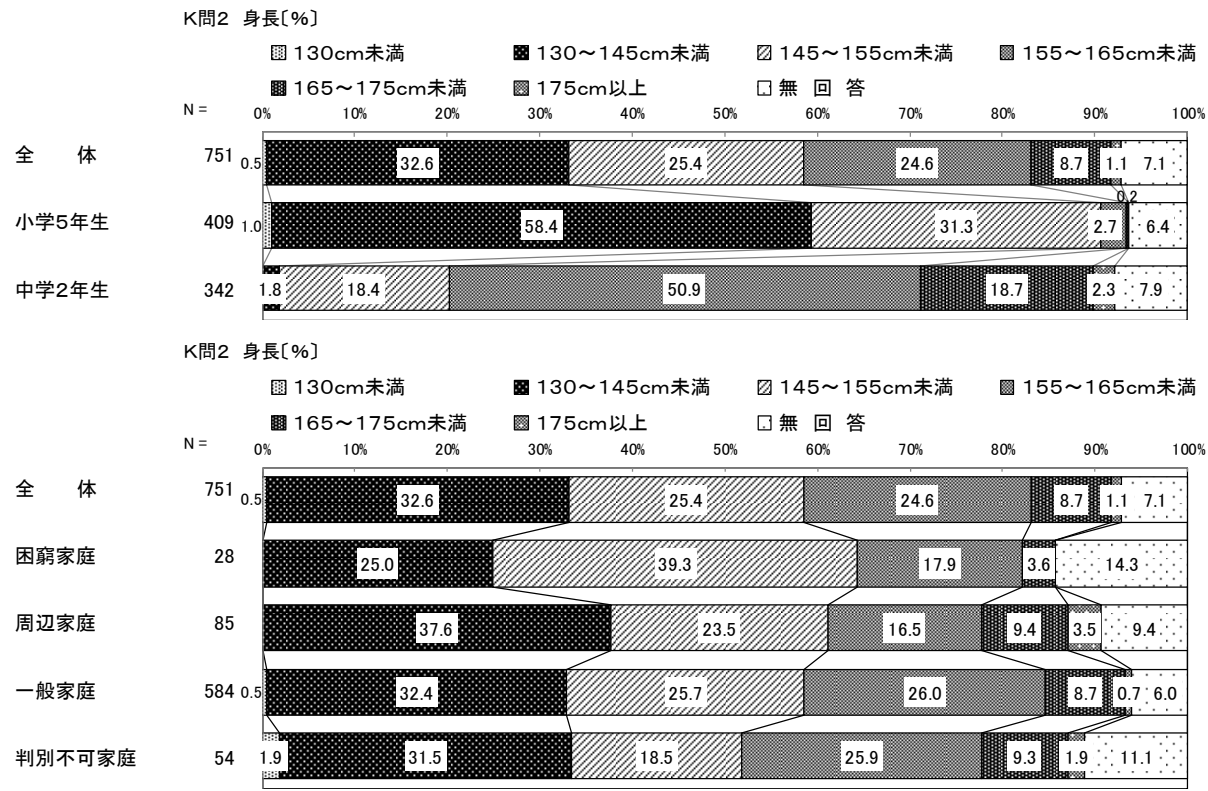
問2 あなたの身長・体重を教えてください。

(A) 身長

全体では、「130～145cm未満」が32.6%と多く、「145～155cm未満」と「155～165cm未満」がともに25%前後と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「145～155cm未満」が39.3%と多く、周辺家庭で「130～145cm未満」が37.6%とやや多い。

図表 3.13K 身長

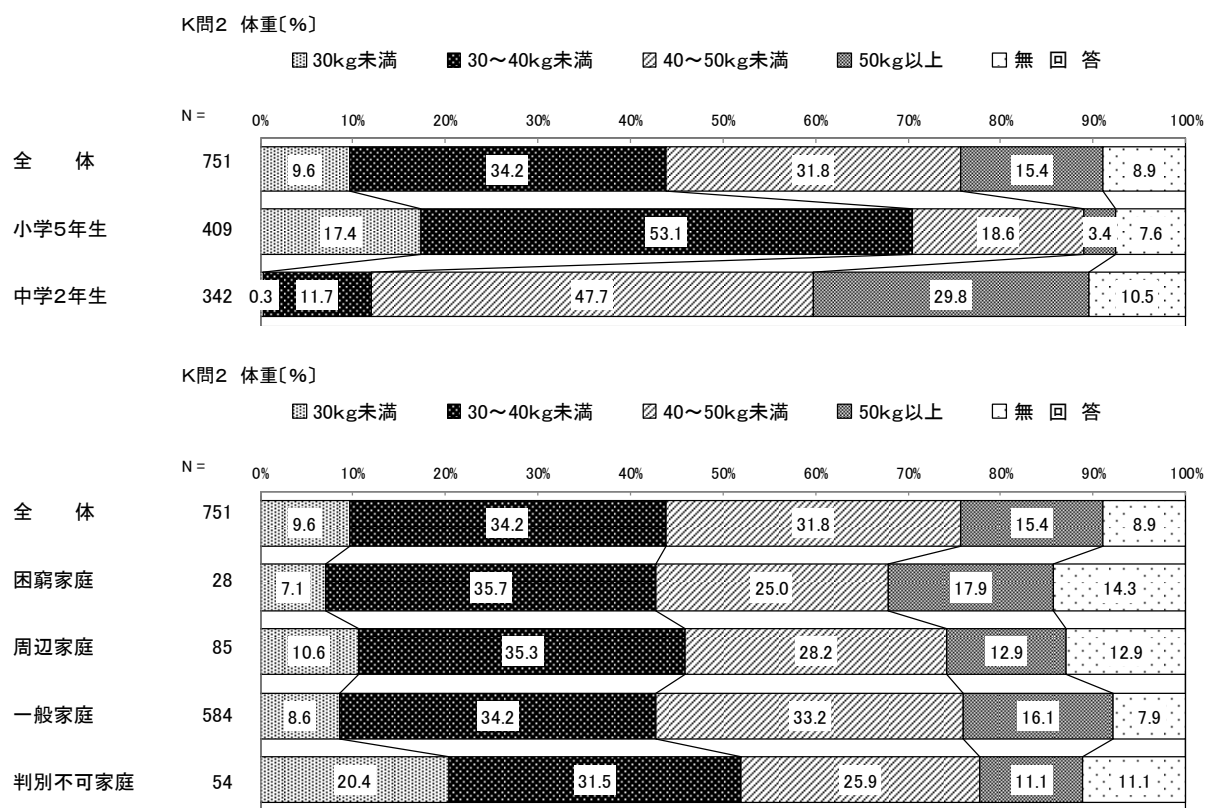


(B) 体重

全体では、「30～40kg 未満」が34.2%、「40～50kg 未満」が31.8%と多く、小学5年生は「30～40kg 未満」、中学2年生は「40～50kg 未満」が多い。

生活困難度別では、周辺家庭で「30kg未満」が10.6%と他の家庭に比べてやや多い。

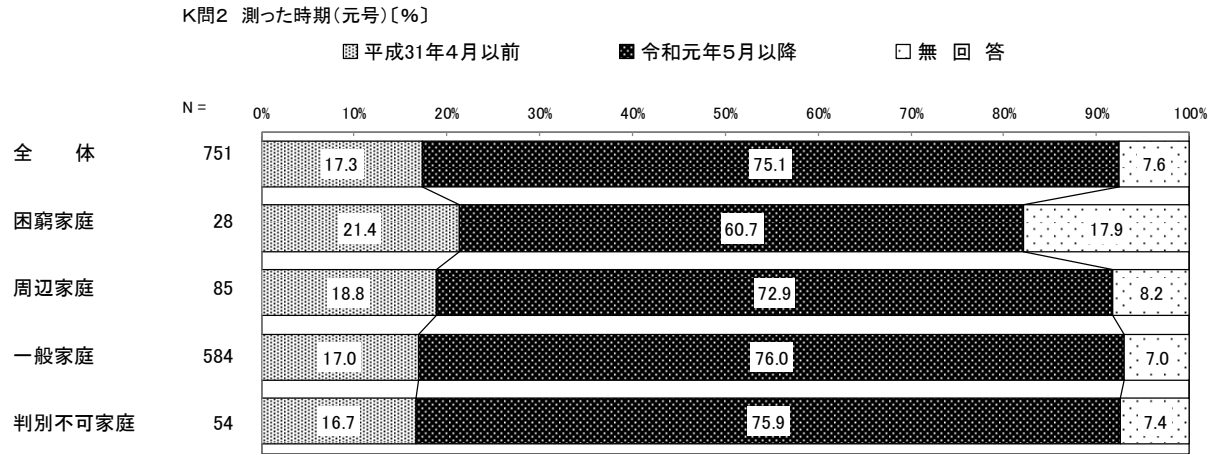
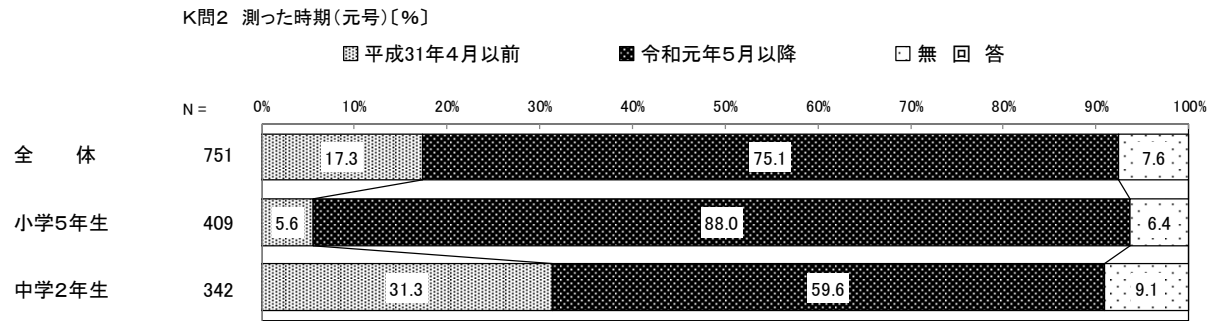
図表 3.1.4.K 体重



(C) 測った時期

全体では、「令和元年5月以降」が75.1%と多く、「平成31年4月以前」が17.3%である。

図表 3.1.5.K 測った時期(元号)



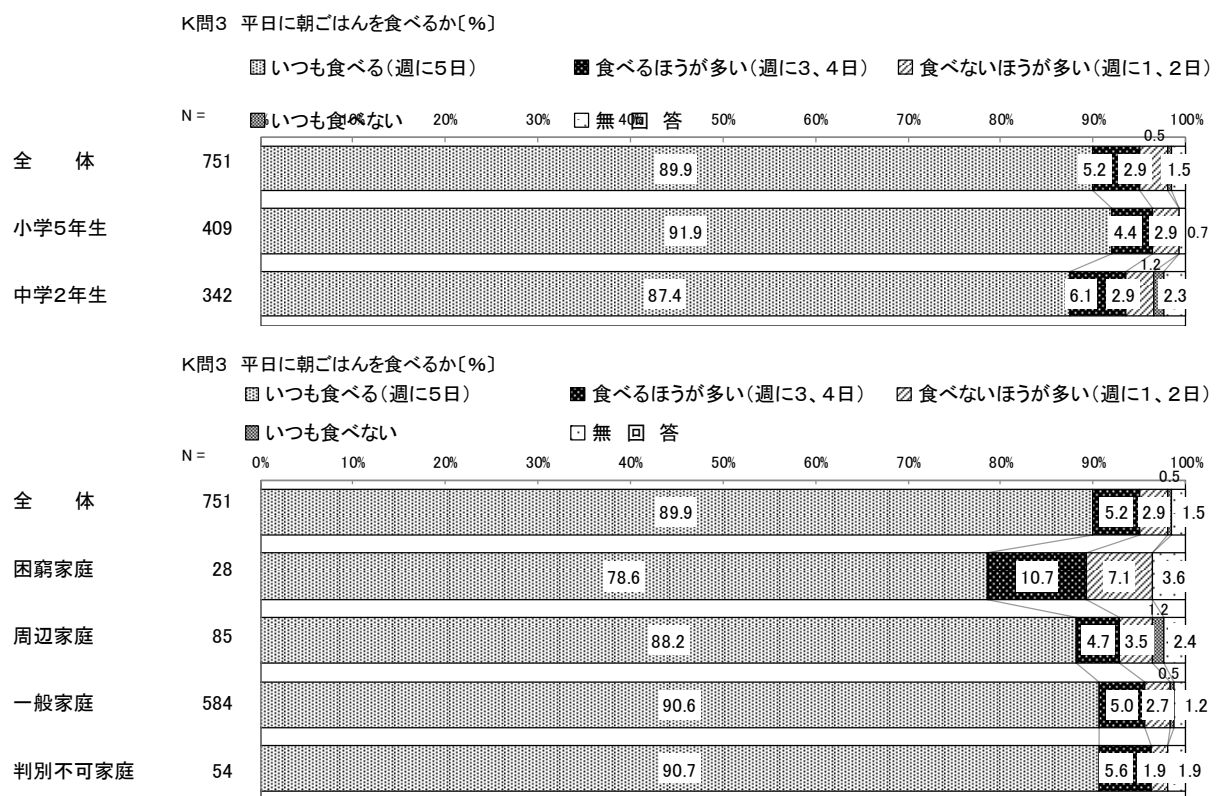
3.2 食事や健康のこと

問3 あなたは、平日（学校に行く日）に、朝ごはんを食べますか。

全体では、「いつも食べる（週に5日）」が89.9%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「食べるほうが多い（週に3、4日）」が10.7%と、「食べないほうが多い（週に1、2日）」が7.1%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.2.1.K 平日に朝ごはんを食べるか

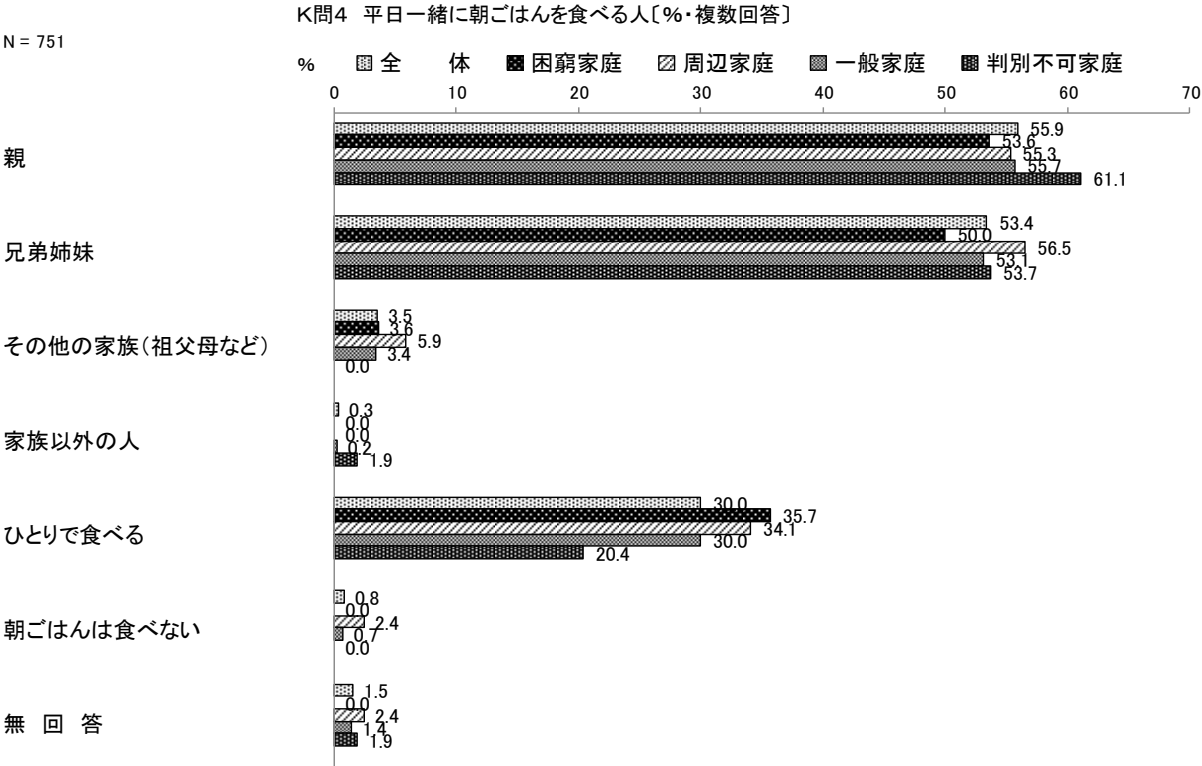
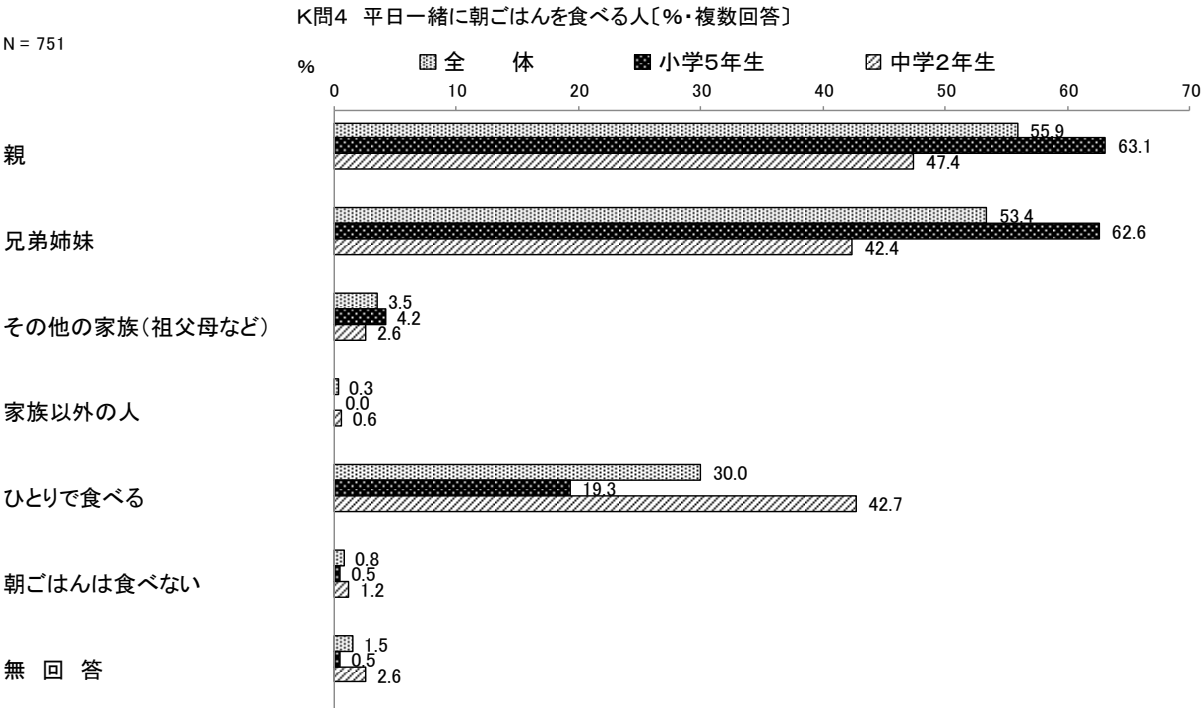


問4 あなたは、平日（学校に行く日）は、誰と朝ごはんを食べますか。

全体では、「親」と「兄弟姉妹」がそれぞれ55%前後と多く、「ひとりで食べる」が30.0%である。

生活困難度別では、困窮家庭と周辺家庭で「ひとりで食べる」が35%前後とやや多い。

図表 3.2.2.K 平日一緒に朝ごはんを食べる人



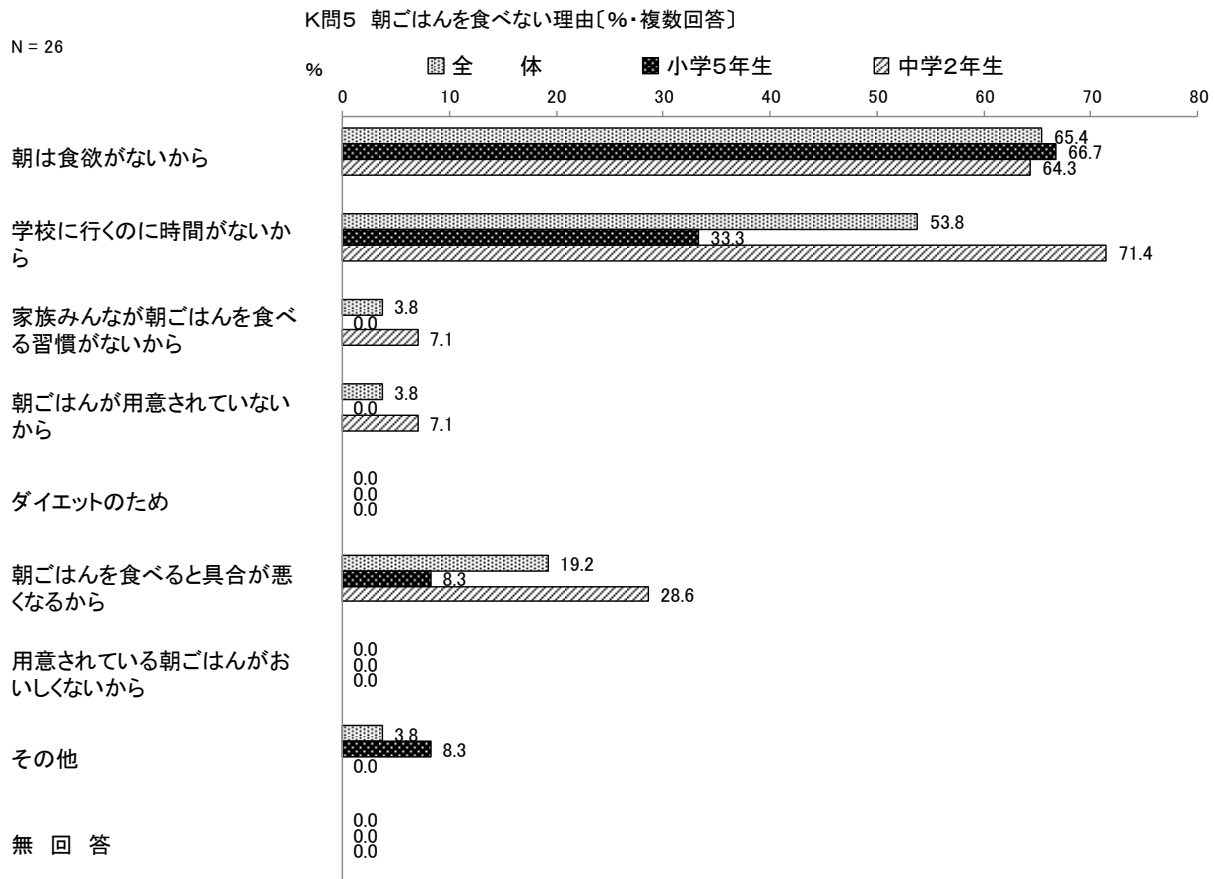
【問3で、朝ごはんを「食べないほうが多い」「いつも食べない」と答えた方】

問5 朝ごはんを食べない理由は何ですか。

全体では、「朝は食欲がないから」が65.4%、「学校に行くのに時間がないから」が53.8%、「朝ごはんを食べると具合が悪くなるから」が19.2%と続いている。

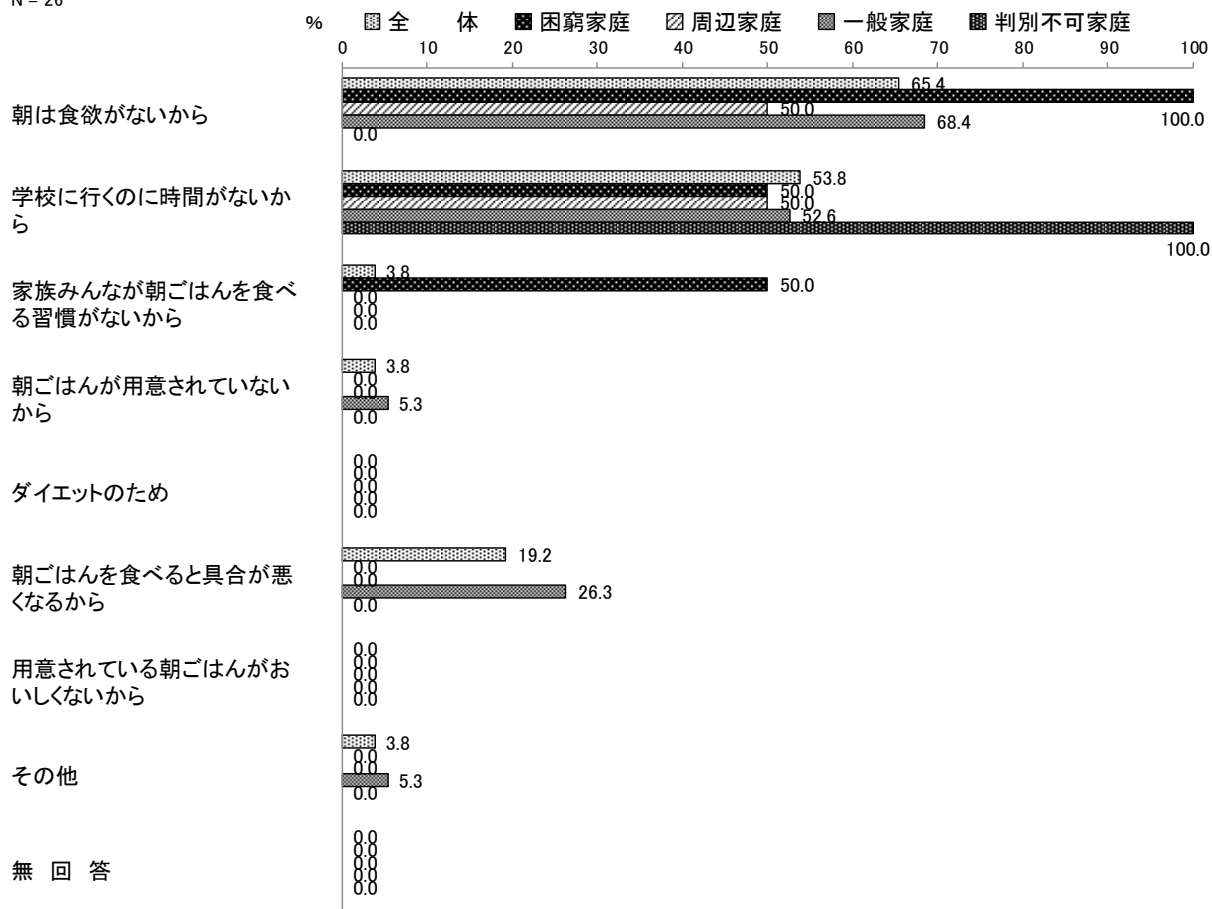
生活困難度別では、困窮家庭で「朝は食欲がないから」と全ての方が回答しており、「家族みんなが朝ごはんを食べる習慣がないから」も50.0%と多い。「朝ごはんを食べると具合が悪くなるから」は一般家庭で26.3%と多い。

図表 3.2.3K 朝ごはんを食べない理由



N = 26

K問5 朝ごはんを食べない理由[%・複数回答]

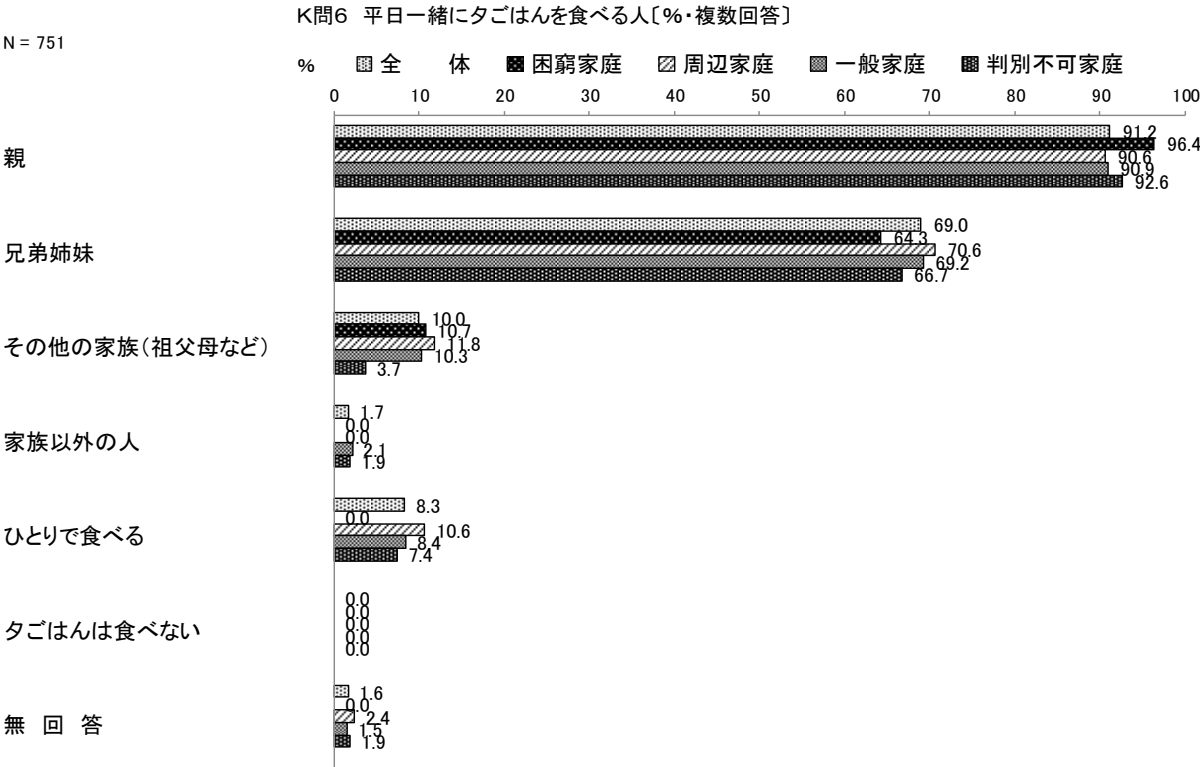
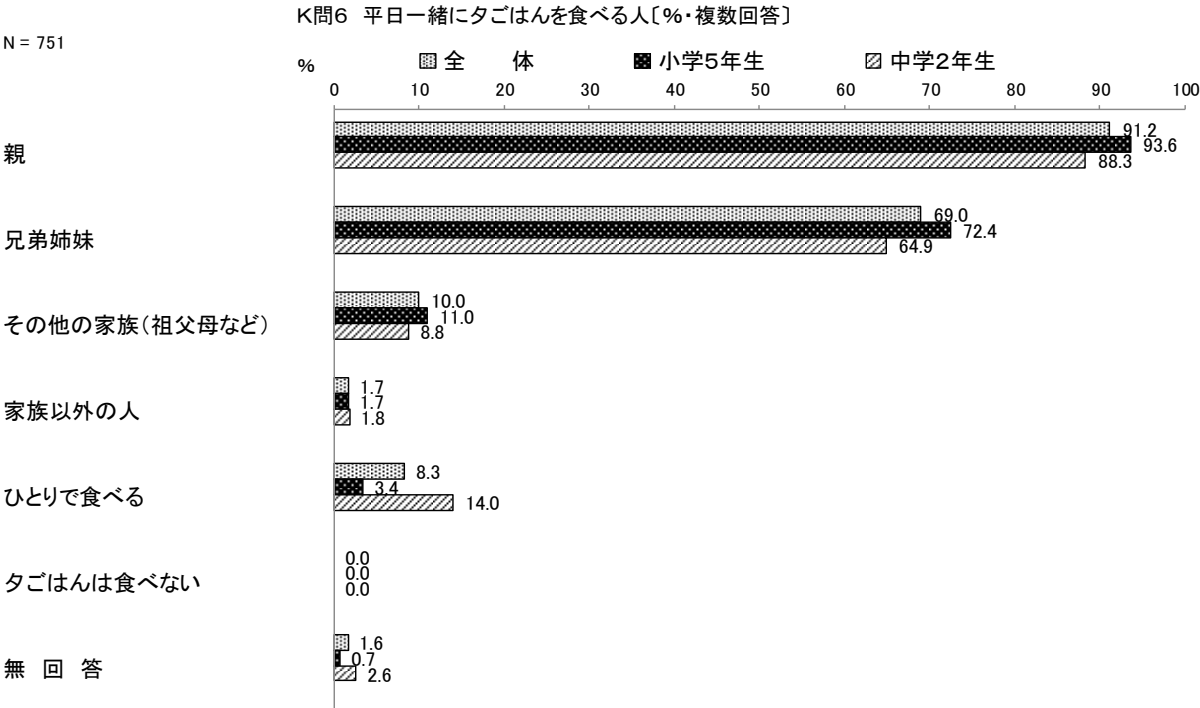


問6 あなたは、平日（学校に行く日）は、誰と夕ごはんを食べますか。

全体では、「親」が91.2%と大半を占め、「兄弟姉妹」が69.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「親」が96.4%とやや多く、「兄弟姉妹」が64.3%と他の家庭に比べてやや少ない。

図表 3.2.4.K 平日一緒に夕ごはんを食べる人



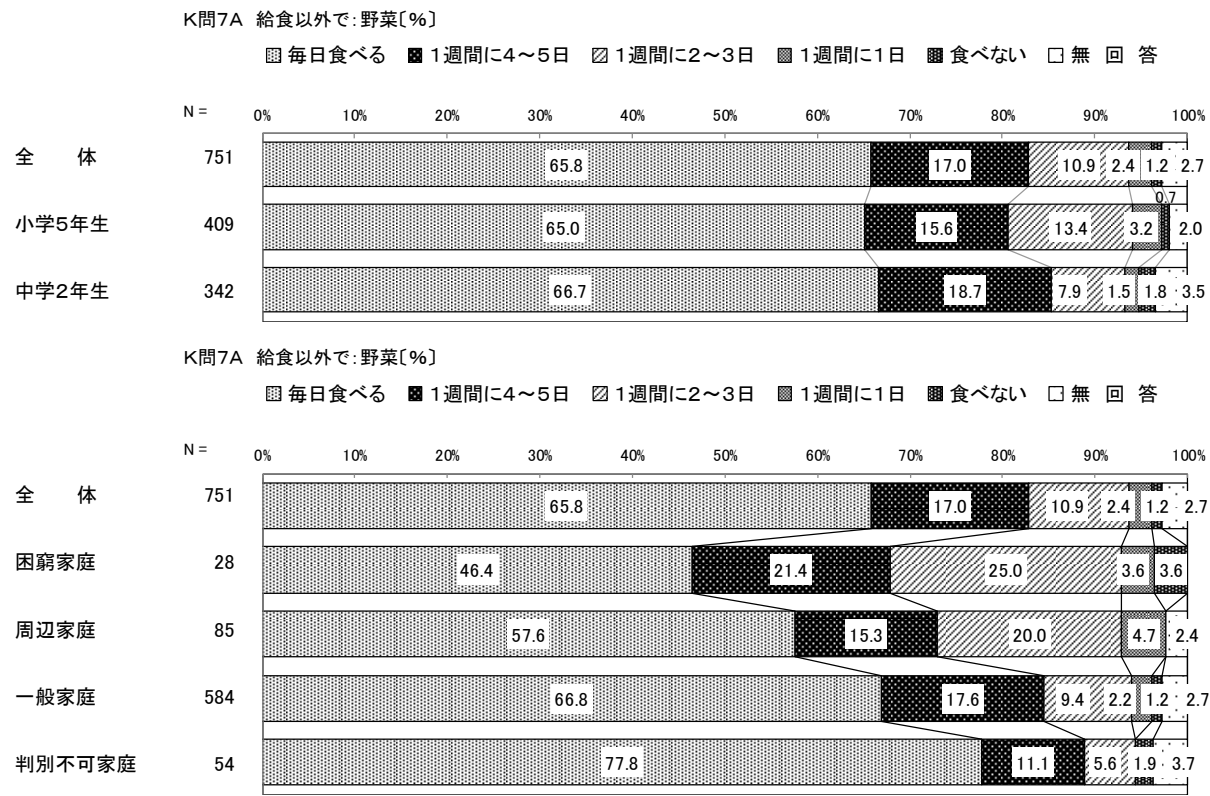
問7 あなたは、給食以外で、次の食べ物や食事をどれくらい取りますか。

(A) 野菜

全体では、「毎日食べる」が65.8%と多く、「1週間に4～5日」が17.0%、「1週間に2～3日」が10.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「1週間に2～3日」が25.0%と多く、「毎日食べる」は46.4%と少ない。

図表 3.2.5K 給食以外で:野菜

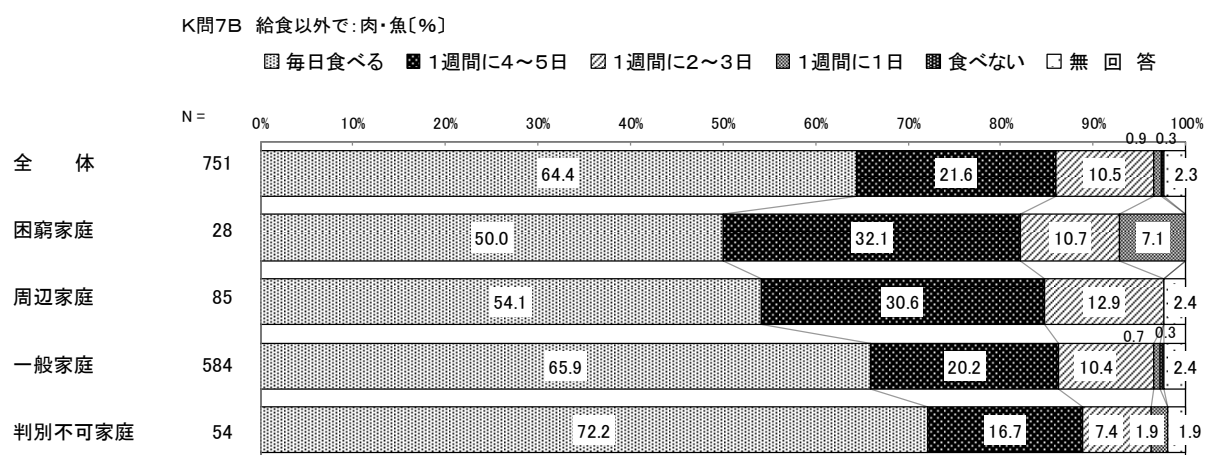
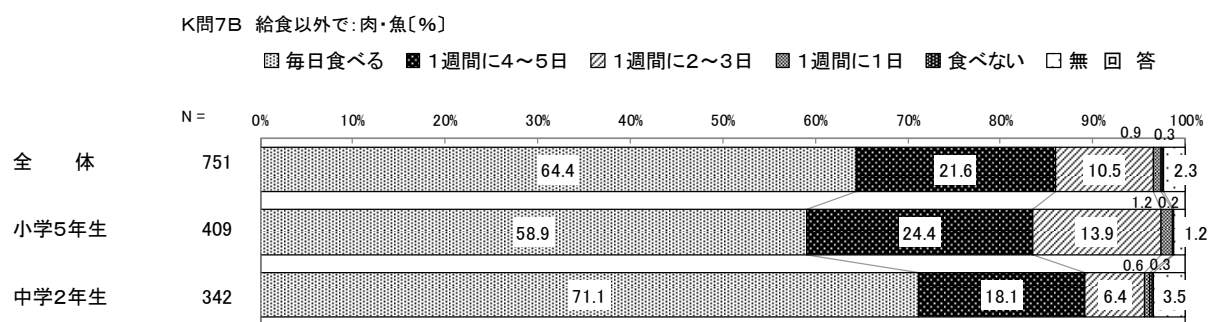


(B) 肉・魚

全体では、「毎日食べる」が64.4%と多く、「1週間に4～5日」が21.6%、「1週間に2～3日」が10.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「毎日食べる」は一般家庭に比べて少なく、「1週間に4～5日」がともに30%を超えて多い。

図表 3.2.6.K 給食以外で:肉・魚

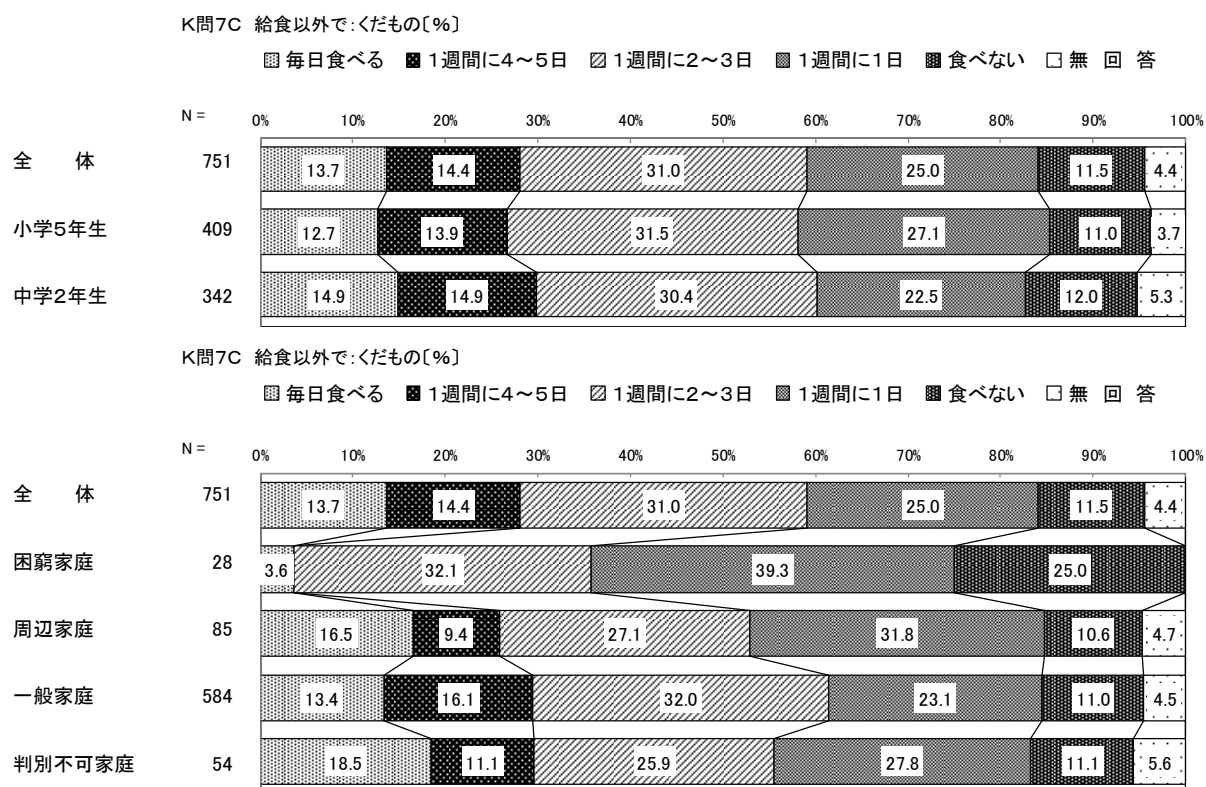


(C) くだもの

全体では、「1週間に2～3日」が31.0%と多く、「1週間に1日」が25.0%、「1週間に4～5日」が14.4%、「毎日食べる」が13.7%、「食べない」が11.5%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「1週間に1日」が39.3%、「食べない」が25.0%と多い。

図表 3.2.7.K 給食以外で:くだもの

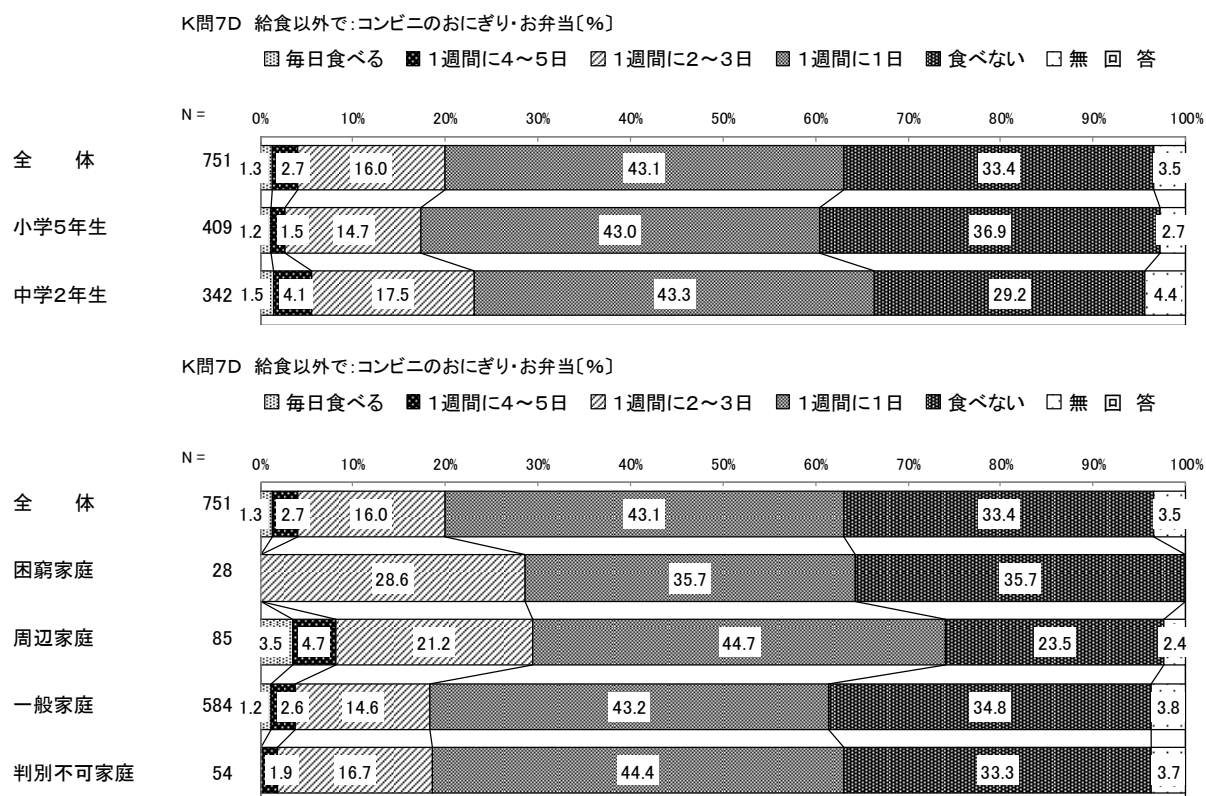


(D) コンビニやスーパーなどのおにぎりやおかず、弁当

全体では、「1週間に1日」が43.1%と多く、「食べない」が33.4%、「1週間に2～3日」が16.0%と続いている。

生活困難度別では、周辺家庭で1週間に1日以上食べる日数の割合を合計すると74.1%と多く、「食べない」が23.5%と少ない。

図表 3.2.8.K 給食以外で:コンビニのおにぎり・お弁当

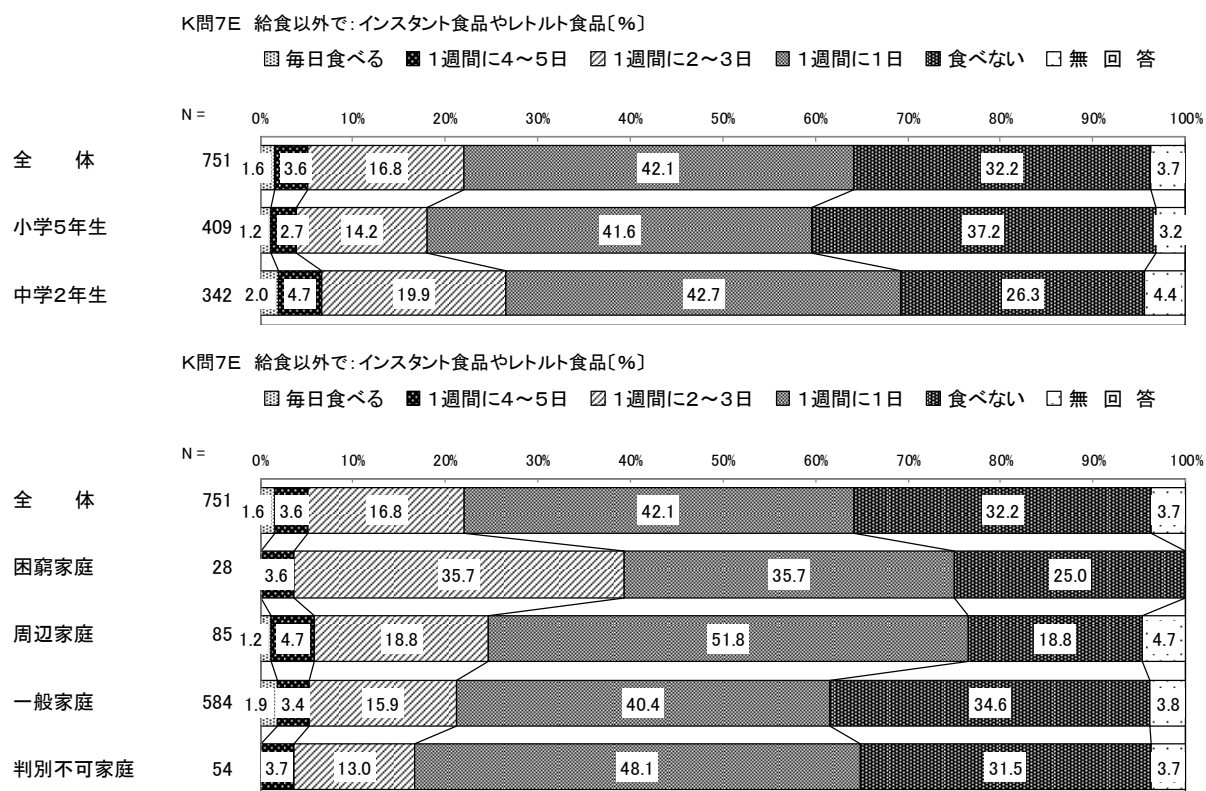


(E) インスタント食品やレトルト食品

全体では、「1週間に1日」が42.1%と多く、「食べない」が32.2%、「1週間に2～3日」が16.8%と続いている。

生活困難度別では、周辺家庭で「1週間に1日」が51.8%と半数を超えて多く、困窮家庭で「1週間に2～3日」が35.7%と多い。一般家庭は「食べない」が34.6%と多い。

図表 3.2.9.K 給食以外で:インスタント食品やレトルト食品

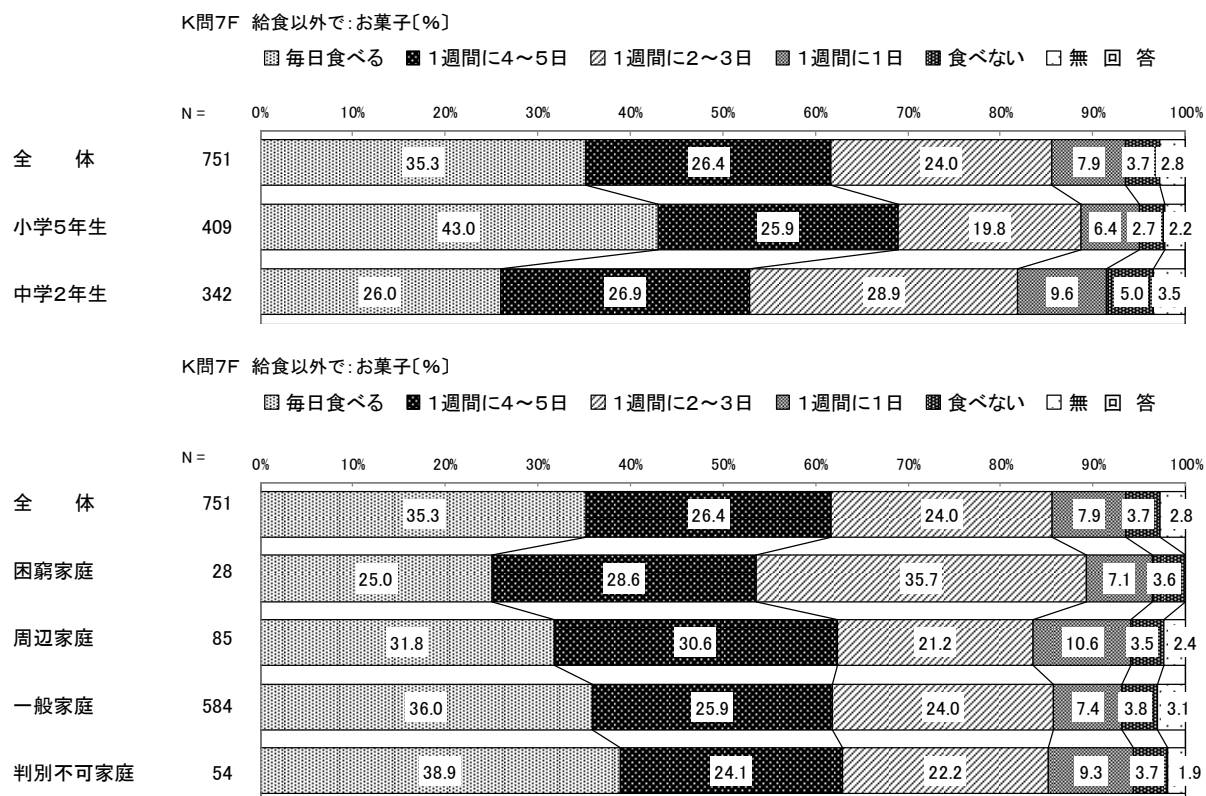


(F) お菓子

全体では、「毎日食べる」が35.3%と多く、「1週間に4～5日」が26.4%、「1週間に2～3日」が24.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「1週間に2～3日」が35.7%と多い。

図表 3.2.10.K 給食以外で:お菓子

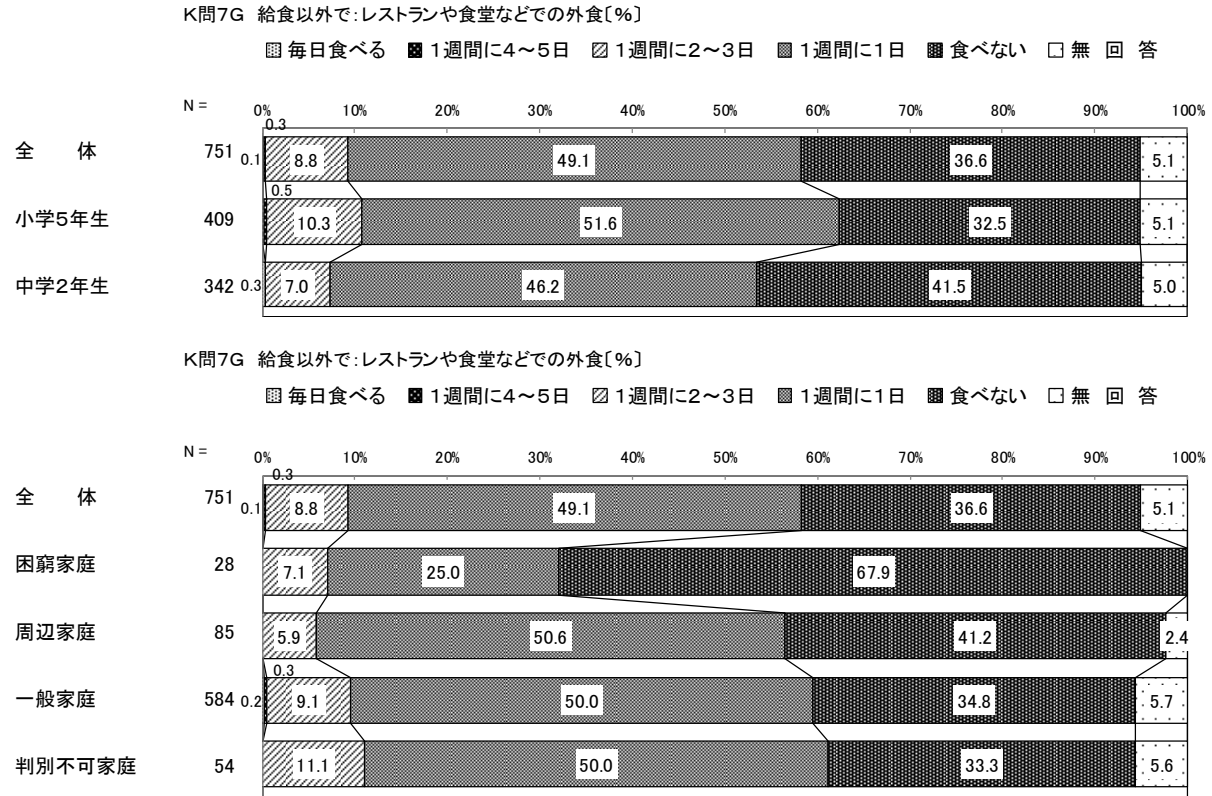


(G) レストランや食堂などでの外食

全体では、「1週間に1日」が49.1%と多く、「食べない」が36.6%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「食べない」が67.9%と多い。

図表 3.2.11.K 給食以外で:レストランや食堂などでの外食

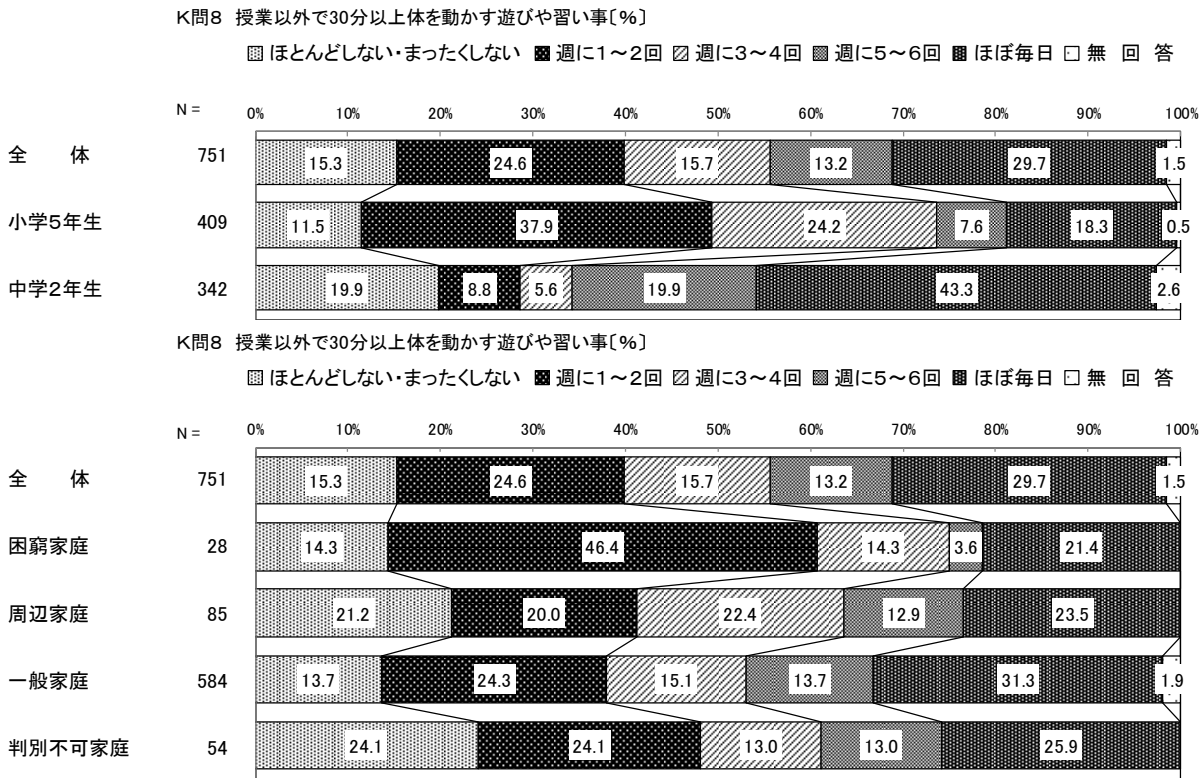


問 8 あなたは、学校の授業以外で、30 分以上体を動かす遊びや習い事を、1 週間でどれくらいしますか。

全体では、「ほぼ毎日」が29.7%と多く、「週に1～2回」が24.6%、「週に3～4回」が15.7%、「ほとんどしない・まったくしない」が15.3%、「週に5～6回」が13.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「週に1～2回」が46.4%と多く、周辺家庭で「ほとんどしない・まったくしない」が21.2%と他の家庭に比べて多い。「ほぼ毎日」は一般家庭で31.3%と多い。

図表 3.2.12.K 授業以外で 30 分以上体を動かす遊びや習い事

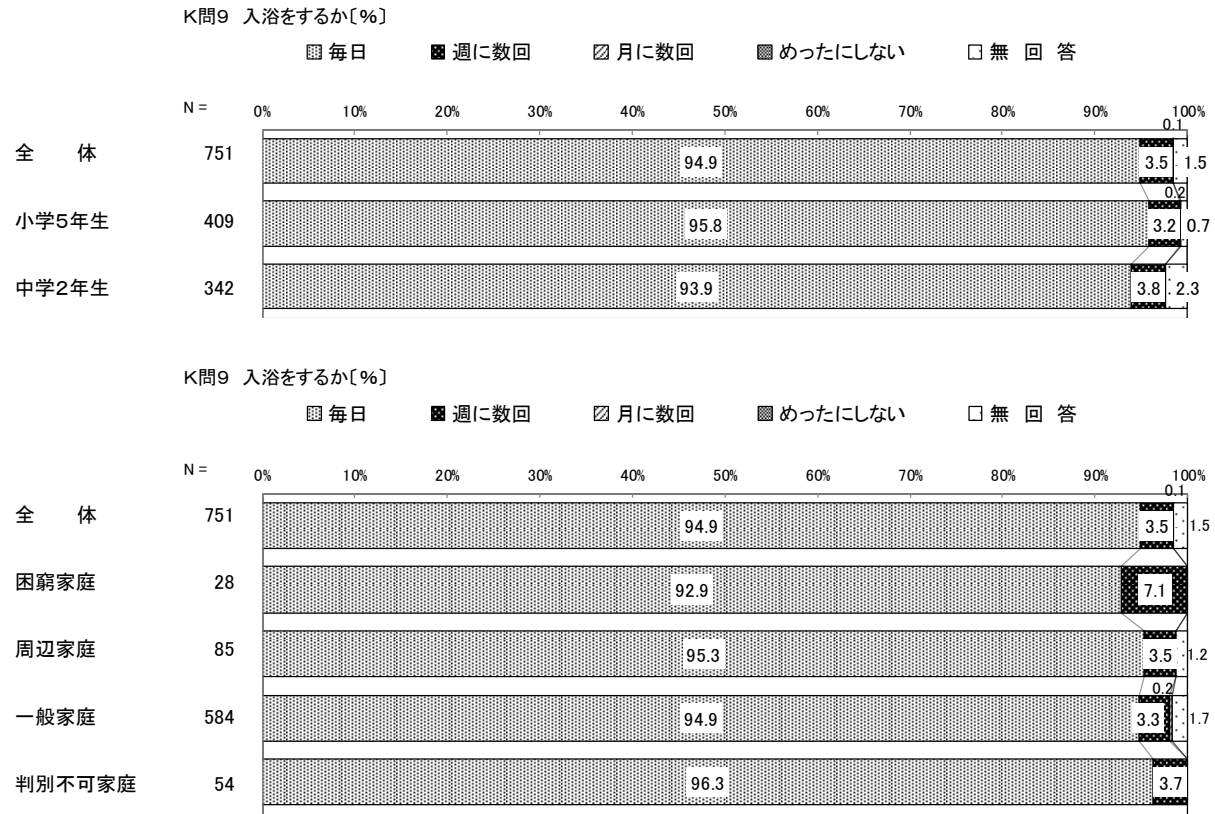


問9 あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。

全体では、「毎日」が94.9%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「週に数回」が7.1%と他の家庭に比べてやや多い。

図表 3.2.13.K 入浴をするか

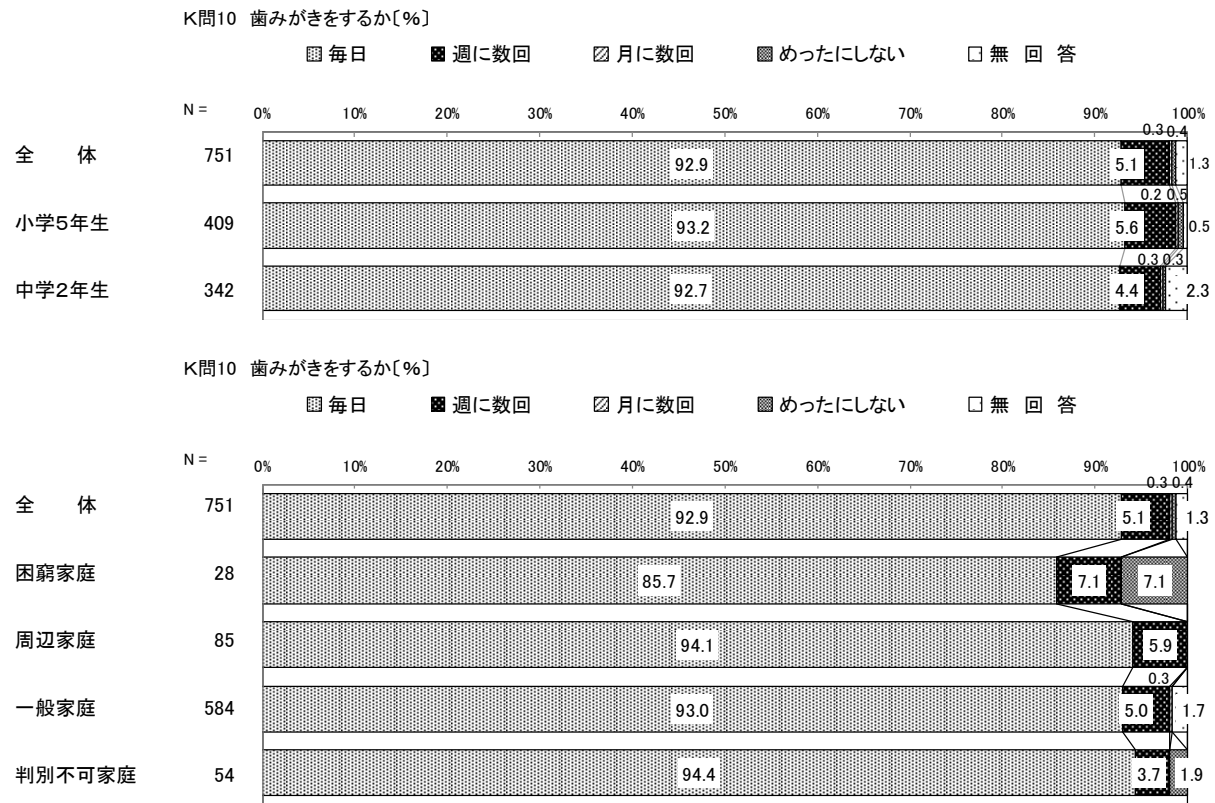


問 10 あなたは、歯みがきをしますか。

全体では、「毎日」が92.9%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「めったにしない」が7.1%回答されている。

図表 3.2.14.K 歯みがきをするか

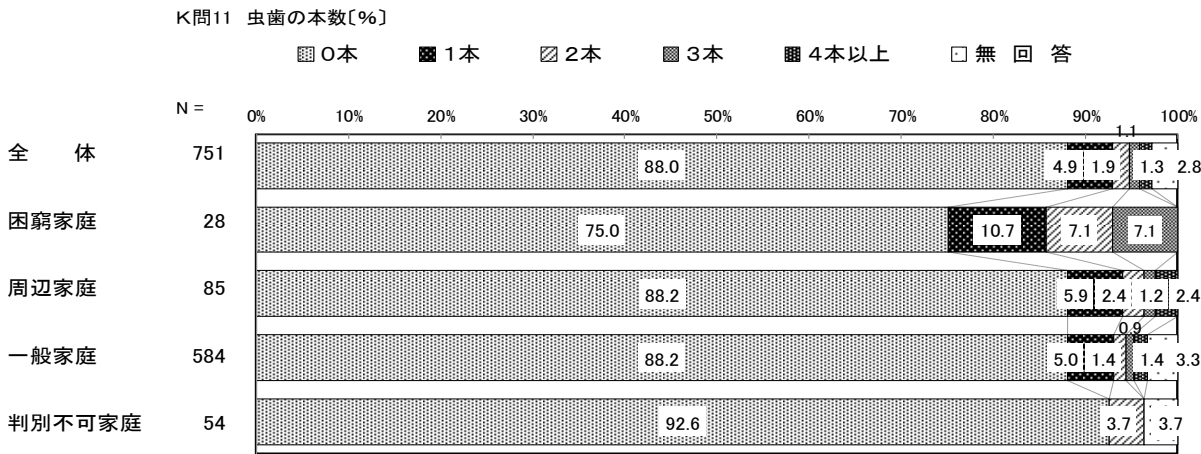
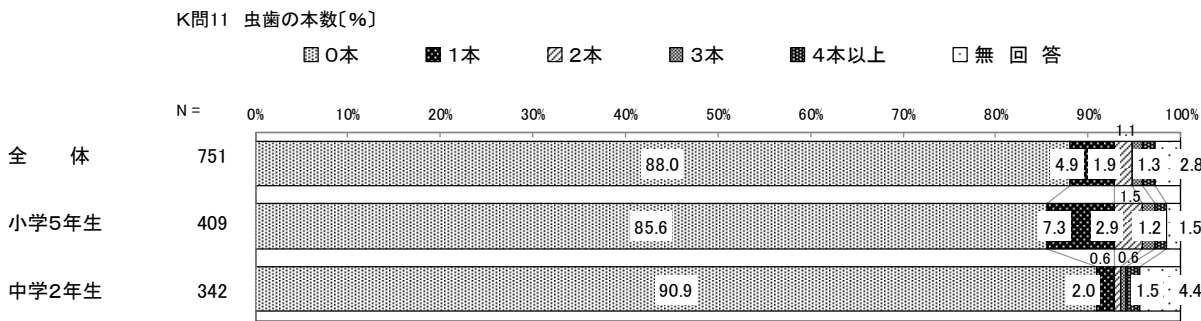


問 11 あなたは、今、虫歯が何本くらいありますか。治療中のものも含みます。

全体では、「0本」が88.0%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「0本」が75.0%で、「1本」が10.7%、「2本」と「3本」がそれぞれ7.1%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.2.15.K 虫歯の本数



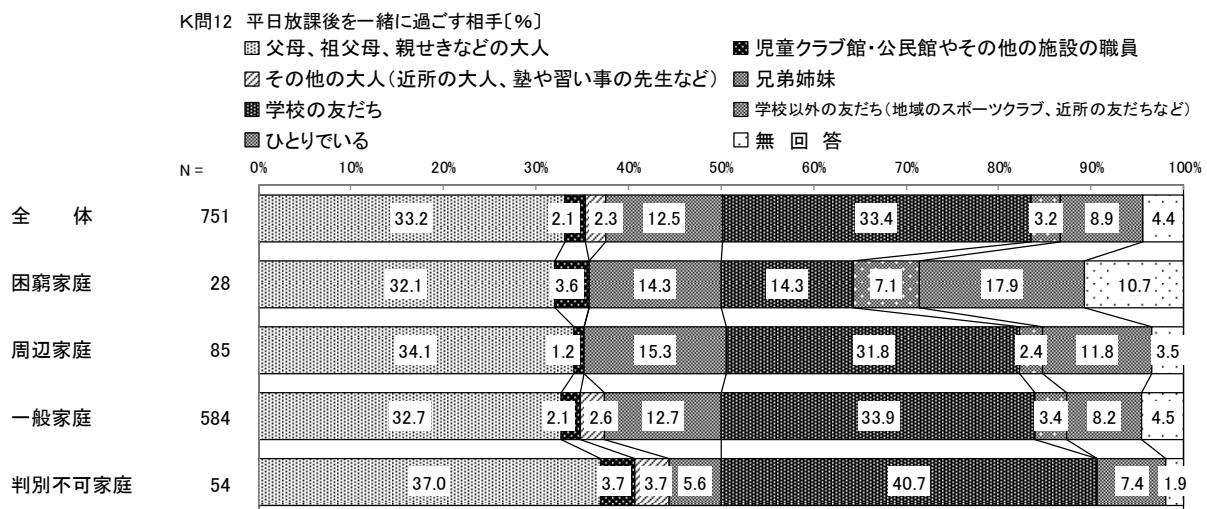
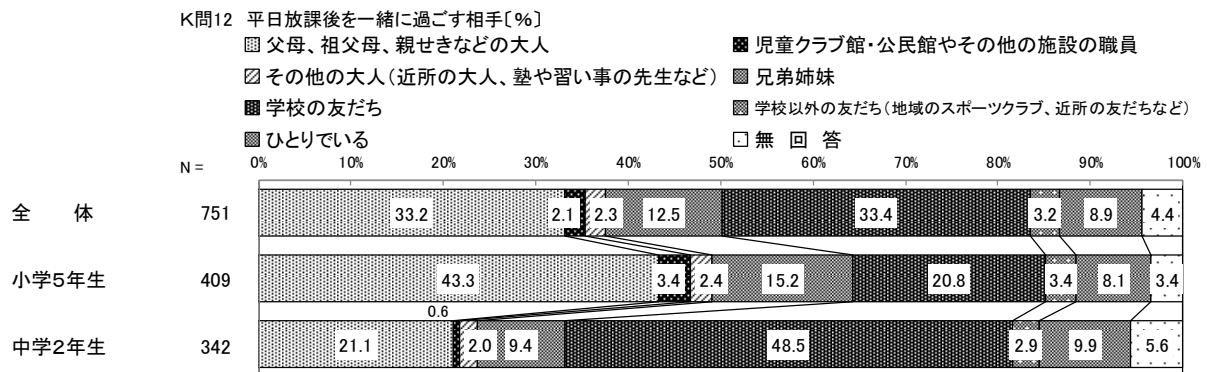
3.3 ふだんの生活

問12 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、誰と過ごしますか。

全体では、「父母、祖父母、親せきなどの大人」と「学校の友だち」がとも33%台と多く、「兄弟姉妹」が12.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「学校の友だち」は14.3%と少なく、「ひとりである」が17.9%、「学校以外の友だち」が7.1%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.3.1.K 平日放課後を一緒に過ごす相手



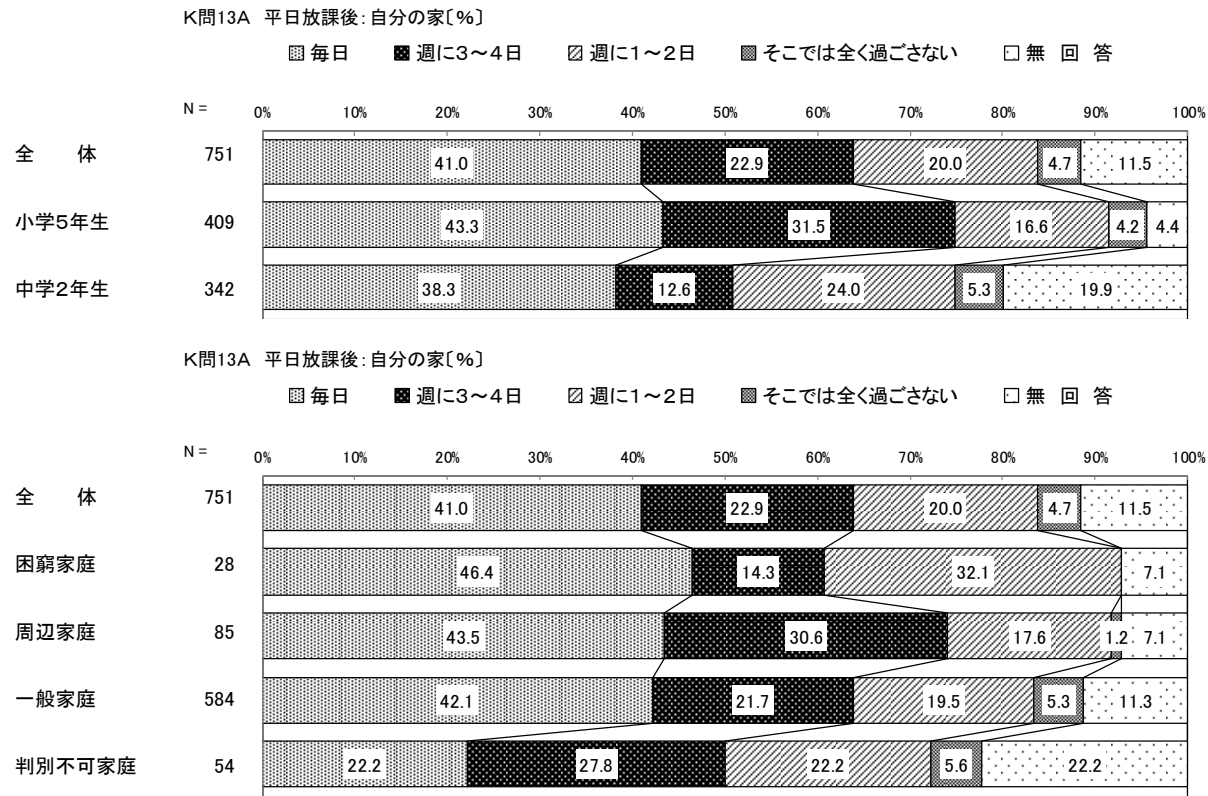
問 13 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方 6 時くらいまで）、どこで過ごしますか。

(A) 自分の家

全体では、「毎日」が41.0%と多く、「週に 3 ～ 4 日」が22.9%、「週に 1 ～ 2 日」が20.0%と続いている。

生活困難度別では、どの家庭も「毎日」（過ごす）が40%台と同程度だが、困窮家庭で「週に 1 ～ 2 日」が32.1%、周辺家庭で「週に 3 ～ 4 日」が30.6%、一般家庭で「そこでは全く過ごさない」が5.3%とそれぞれ他の家庭に比べて多い。

図表 3.3.2.K 平日放課後:自分の家

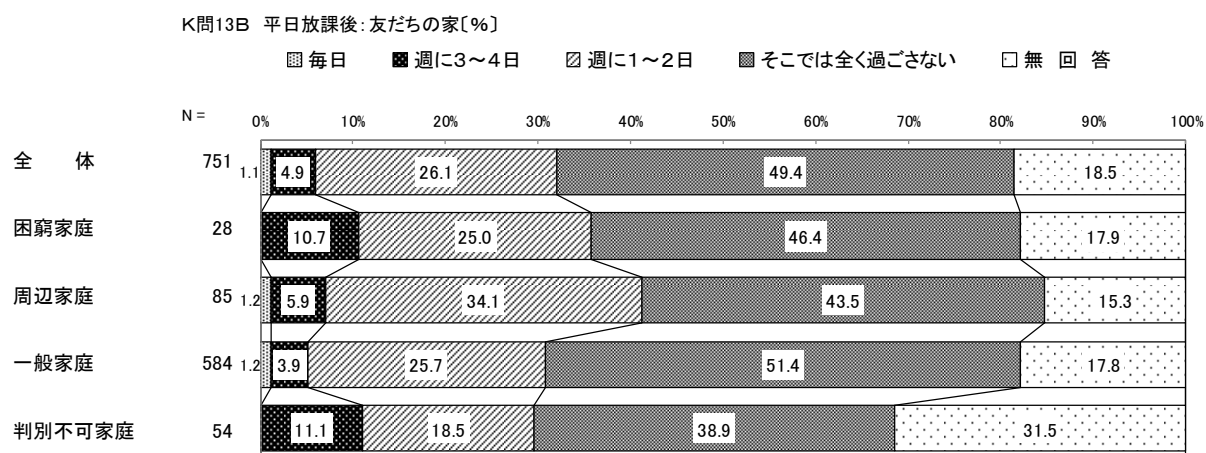
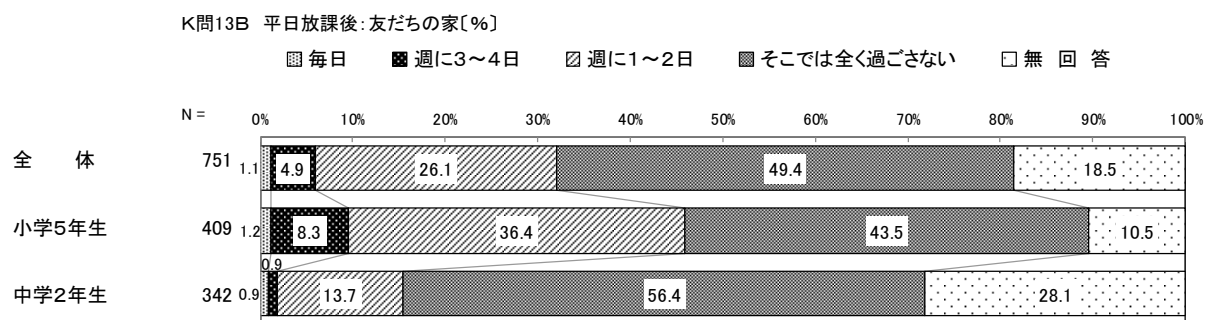


(B) 友だちの家

全体では、「そこでは全く過ごさない」が49.4%と多く、「週に1～2日」が26.1%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「週に3～4日」（過ごす）が10.7%と多く、周辺家庭で「週に1～2日」が34.1%と多い。

図表 3.3.3.K 平日放課後:友だちの家

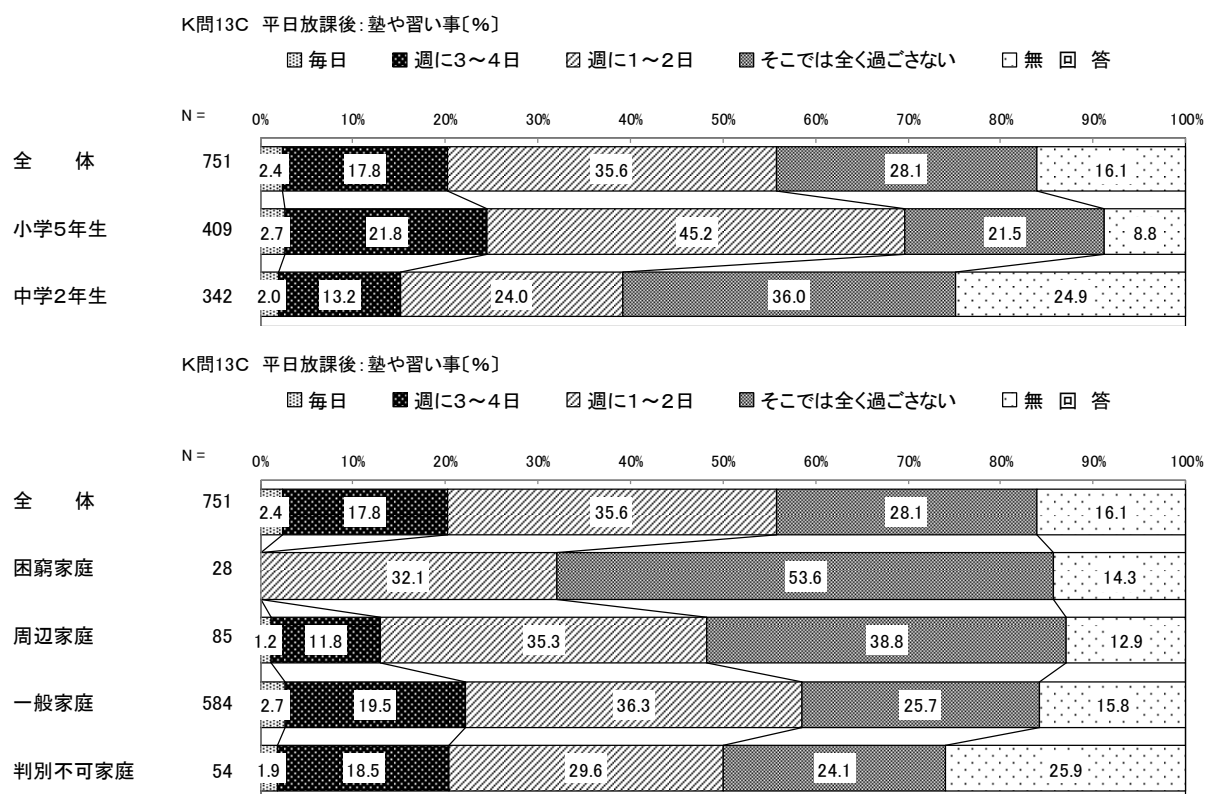


(C) 塾や習い事

全体では、「週に1～2日」が35.6%と多く、「そこでは全く過ごさない」が28.1%、「週に3～4日」が17.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「そこでは全く過ごさない」が53.6%と多い。

図表 3.3.4K 平日放課後:塾や習い事

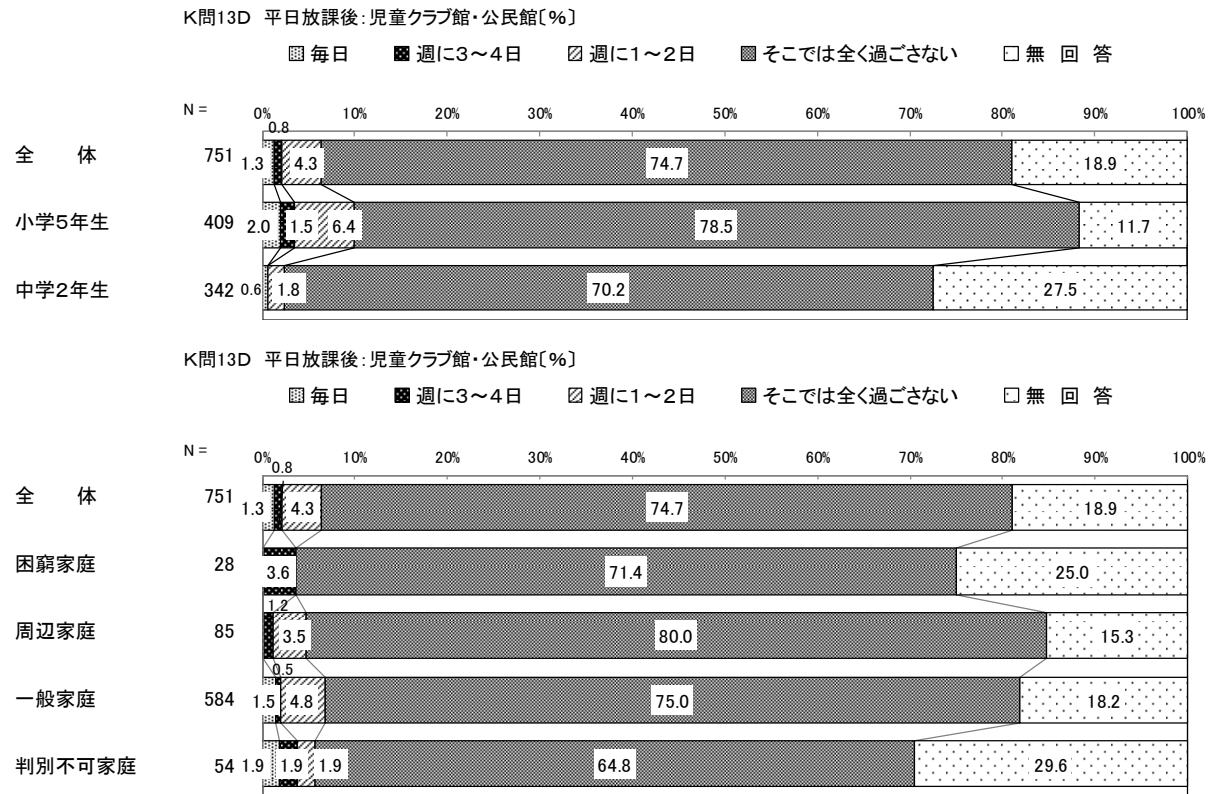


(D) 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館

全体では、「そこでは全く過ごさない」が74.7%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭で「週に3～4日」（過ごす）が3.6%と他の家庭に比べてやや多い。

図表 3.3.5K 平日放課後：児童クラブ館・公民館

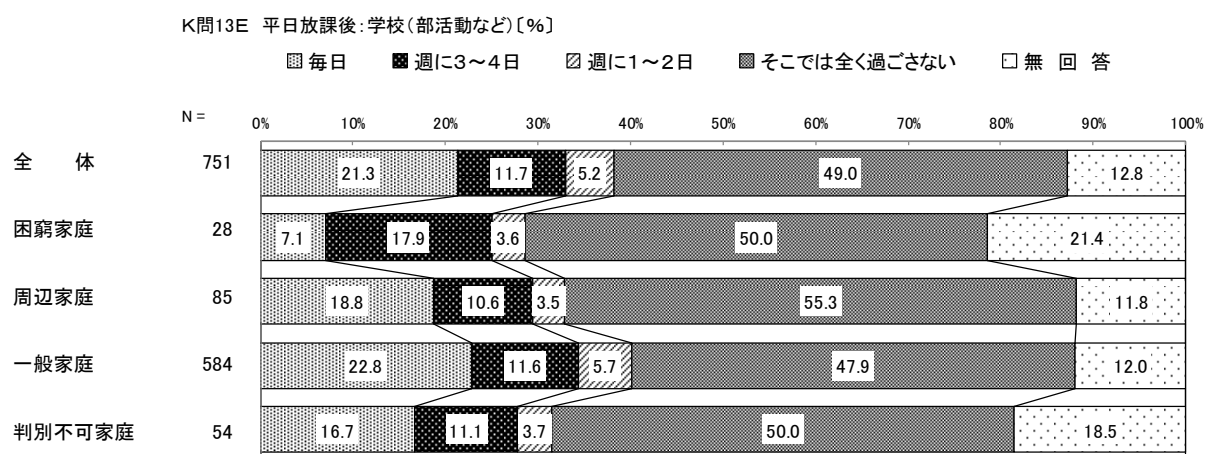
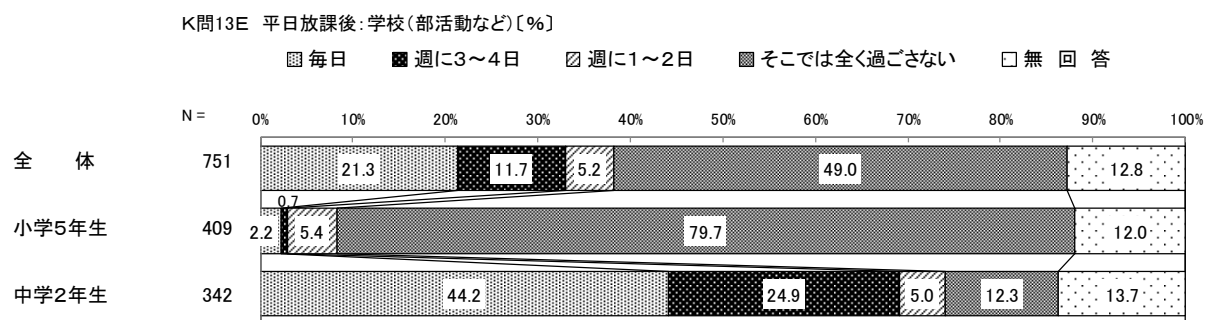


(E) 学校（部活動など）

全体では、「そこでは全く過ごさない」が49.0%と多く、「毎日」が21.3%、「週に3～4日」が11.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「毎日」（する）が7.1%と少なく、「週に3～4日」が17.9%が多い。

図表 3.3.6.K 平日放課後：学校（部活動など）

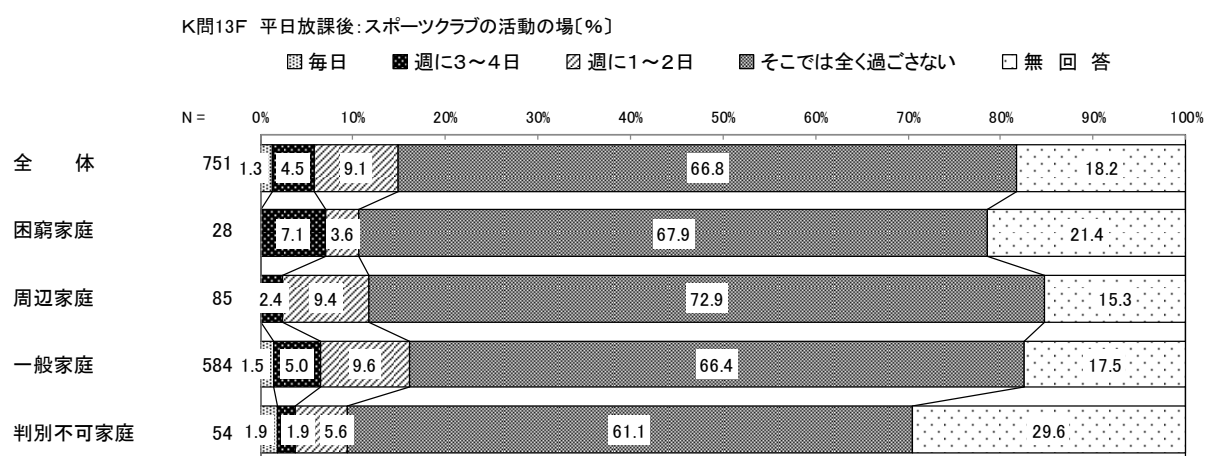
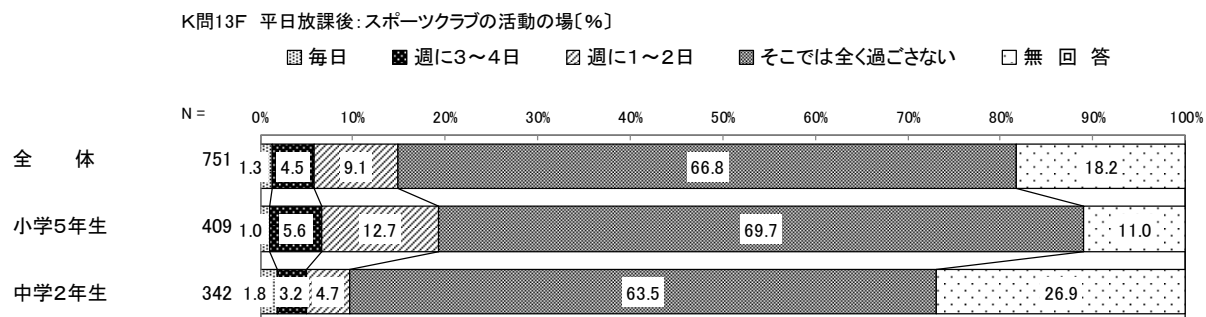


(F) スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

全体では、「そこでは全く過ごさない」が66.8%と多い。

生活困難度別では、「そこでは全く過ごさない」は周辺家庭で72.9%とやや多い。

図表 3.3.7.K 平日放課後:スポーツクラブの活動の場

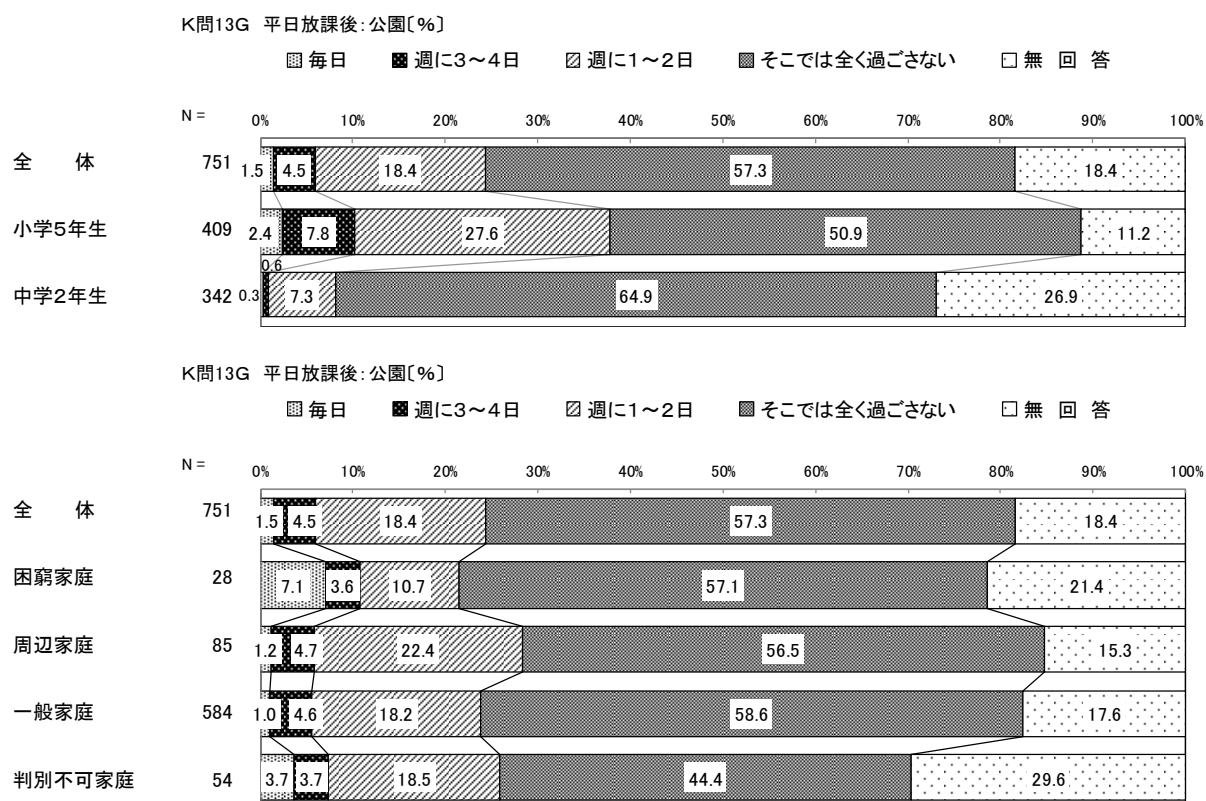


(G) 公園

全体では、「そこでは全く過ごさない」が57.3%と多く、「週に1～2日」が18.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「毎日」（過ごす）が7.1%と多く、周辺家庭で「週に1～2日」が22.4%と多い。

図表 3.3.8.K 平日放課後：公園

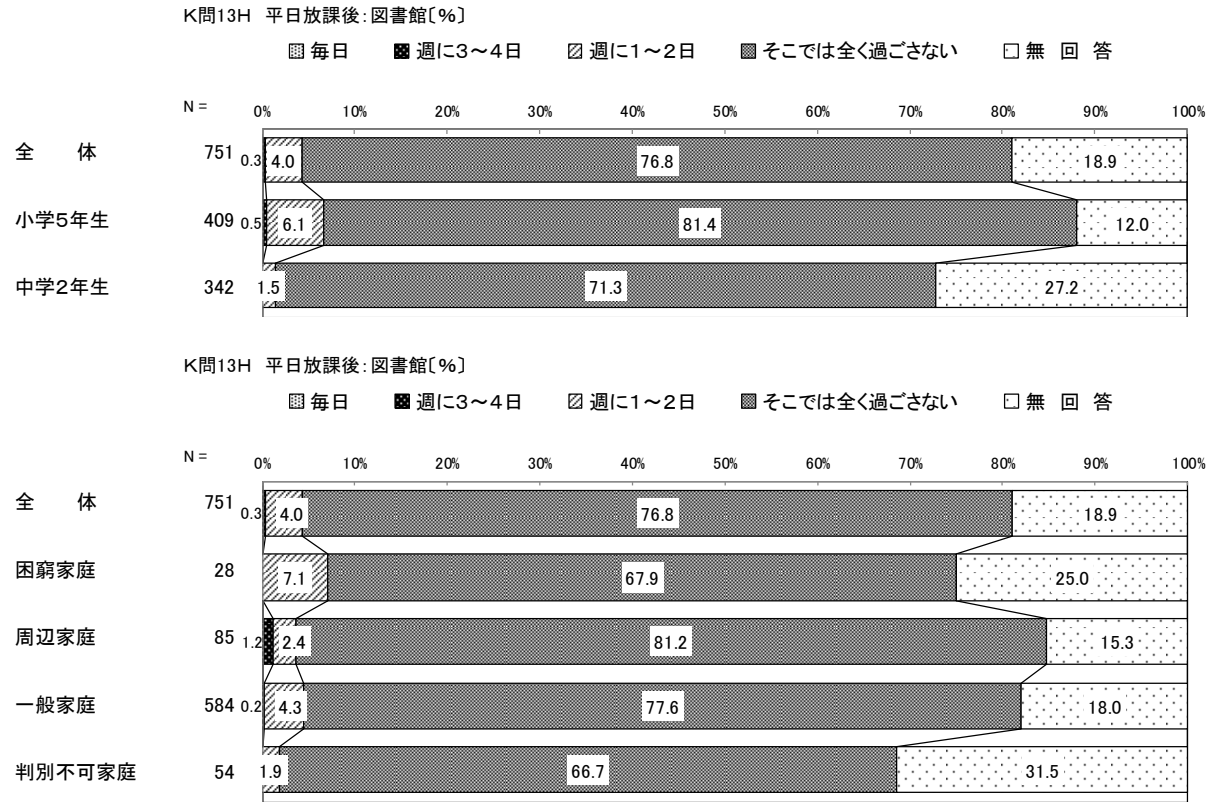


(H) 図書館

全体では、「そこでは全く過ごさない」が76.8%と多い。

生活困難度別では、困窮家庭で「そこでは全く過ごさない」が67.9%と他の家庭に比べて少なく、「週に1～2日」（過ごす）が7.1%とやや多い。

図表 3.3.9K 平日放課後:図書館

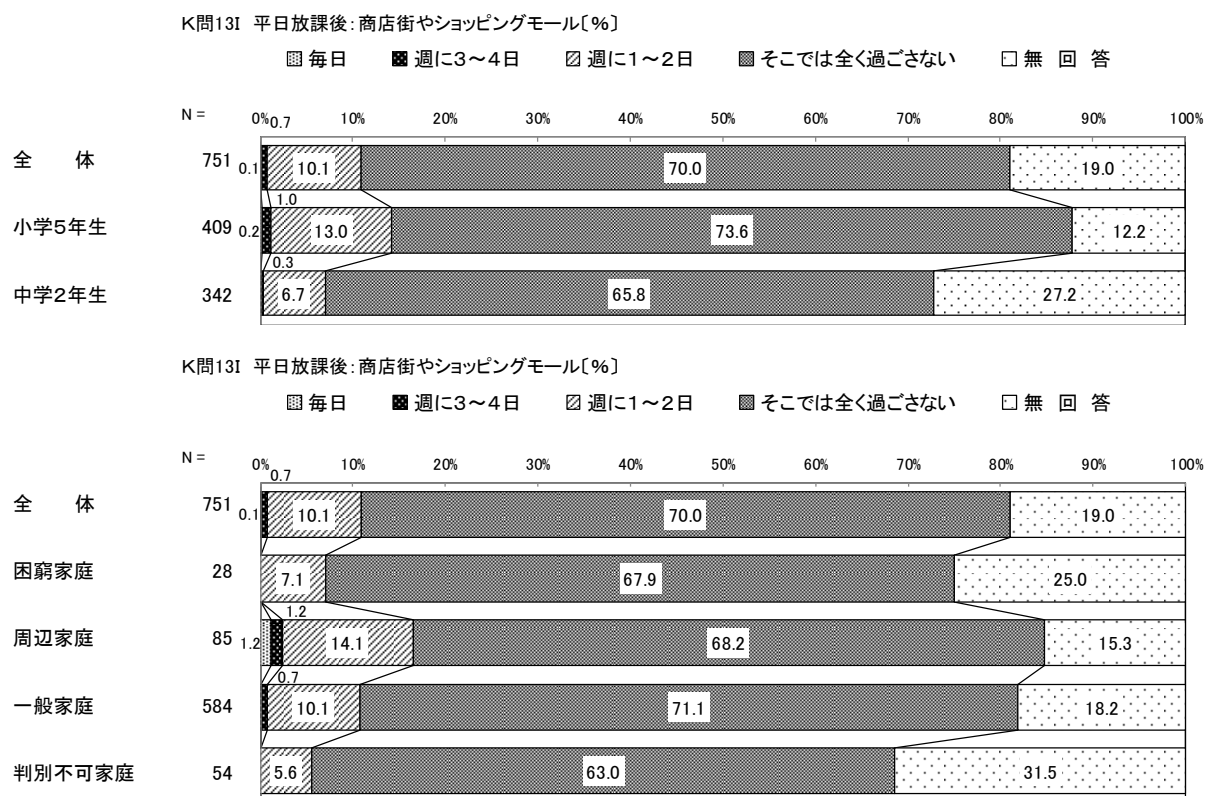


(I) 商店街やショッピングモール

全体では、「そこでは全く過ごさない」が70.0%と多く、「週に1～2日」が10.1%と続いている。

生活困難度別では、どの家庭も「そこでは全く過ごさない」がそれぞれ70%前後と多く、「週に1～2日」（過ごす）は周辺家庭で14.1%と多い。

図表 3.3.10.K 平日放課後：商店街やショッピングモール

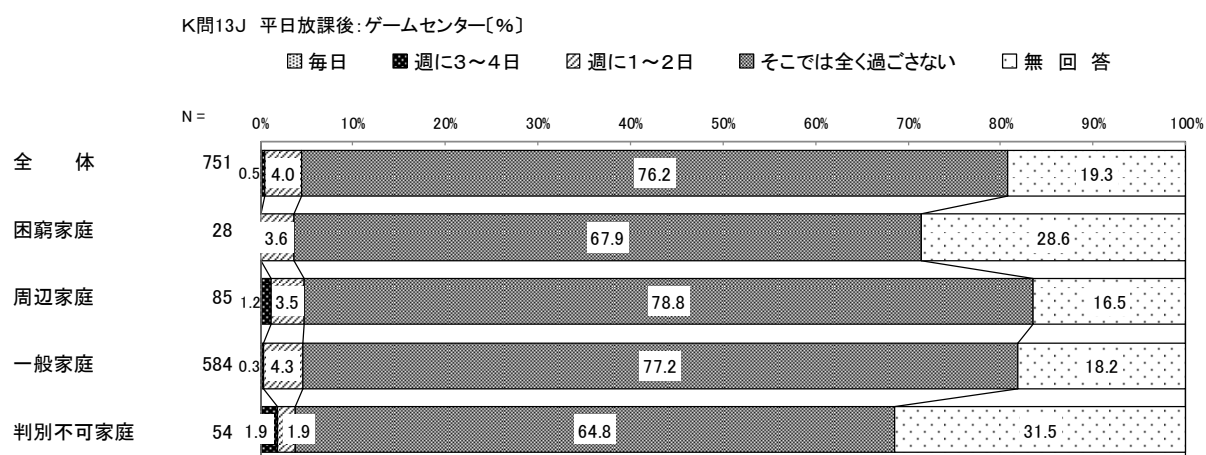
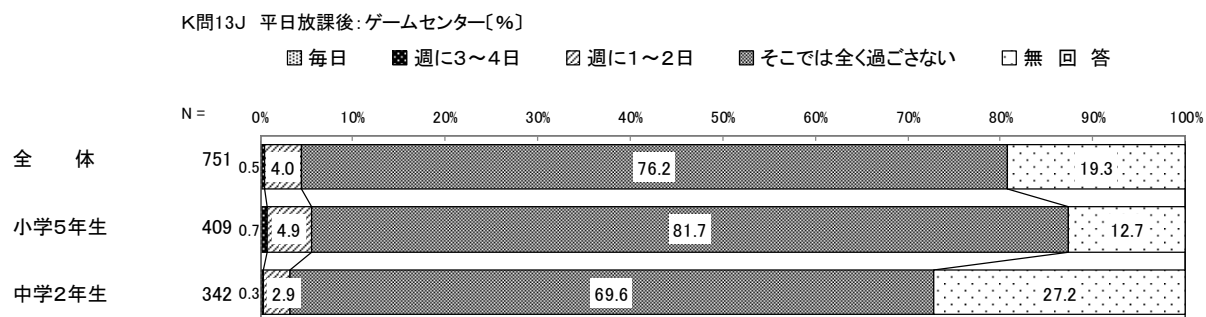


(J) ゲームセンター

全体では、「そこでは全く過ごさない」が76.2%と多い。

生活困難度別では、「そこでは全く過ごさない」は周辺家庭、一般家庭で78%前後と多い。

図表 3.3.11.K 平日放課後:ゲームセンター

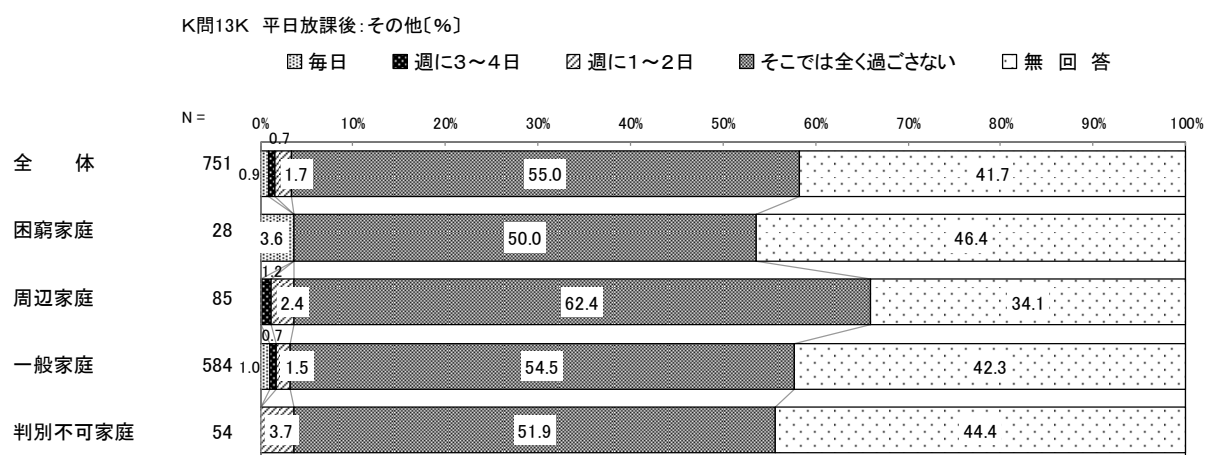
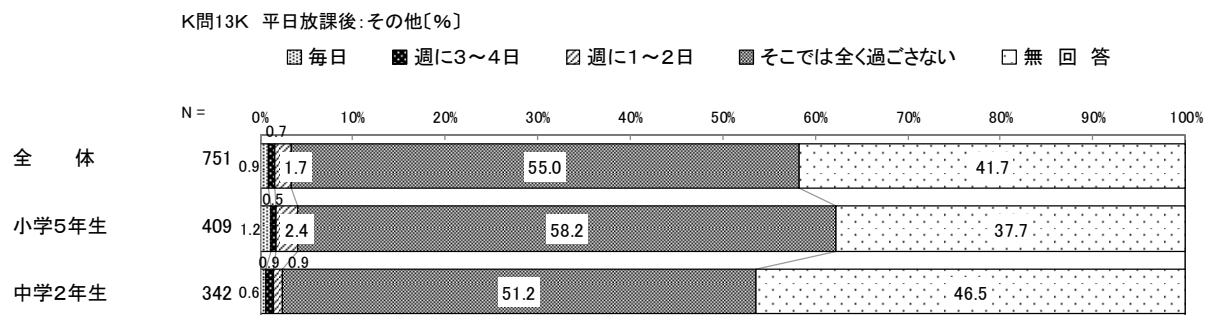


(K) その他

全体では、「そこでは全く過ごさない」が55.0%と多い。

生活困難度別では、「そこでは全く過ごさない」は周辺家庭で62.4%と多い。

図表 3.3.12.K 平日放課後:その他

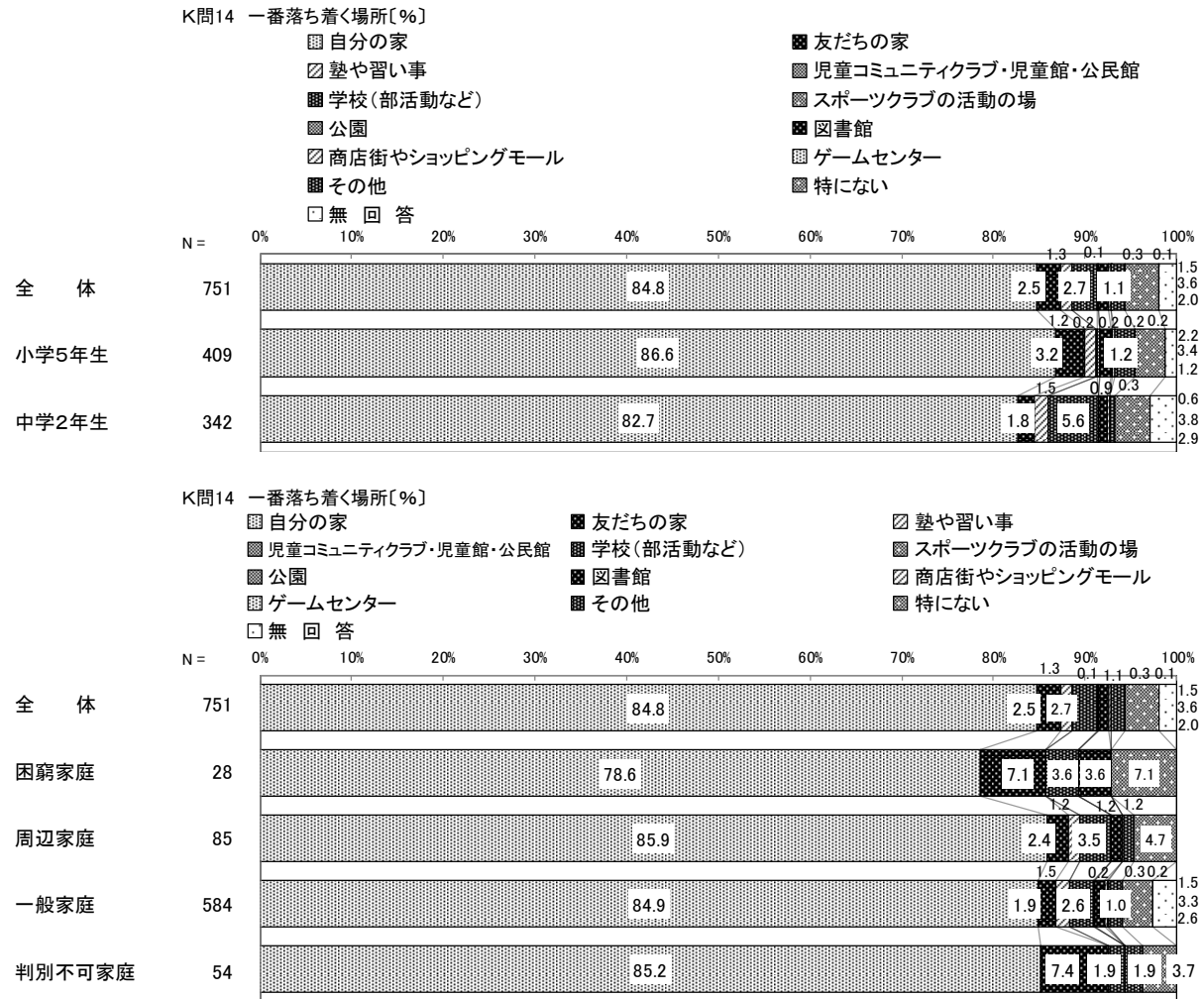


問 14 あなたが一番ほっとできる落ち着く場所はどこですか。

全体では、「自分の家」が84.8%と大半を占める。

生活困難度別では、困窮家庭で「友だちの家」が7.1%と他の家庭よりやや多い。

図表 3.3.13.K 一番落ち着く場所



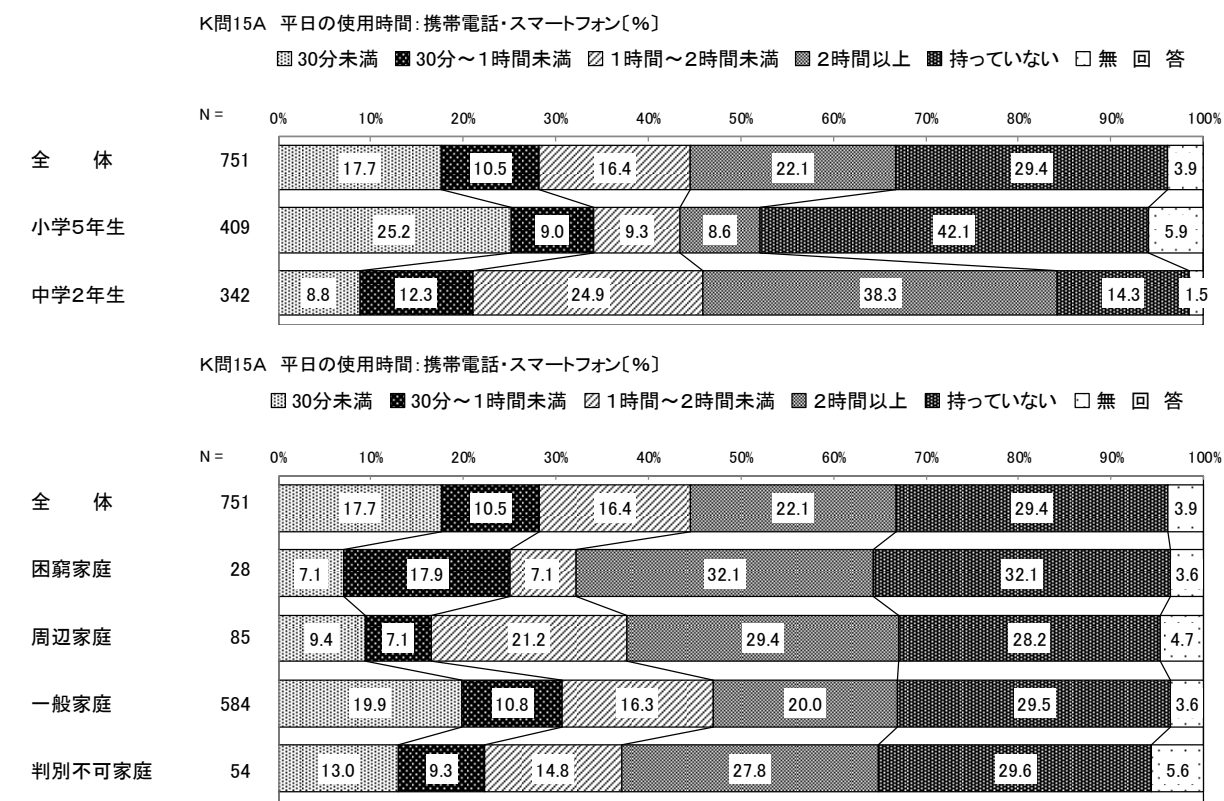
問 15 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後、携帯電話、パソコン、ゲーム機などをどのくらい使っていますか。

(A) 携帯電話・スマートフォン

全体では、「持っていない」が29.4%と多く、「2時間以上」（使用時間）が22.1%、「30分未満」が17.7%、「1時間から2時間未満」が16.4%、「30分から1時間未満」が10.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「持っていない」と「2時間以上」がともに32.1%、「30分～1時間未満」が17.9%と多く、周辺家庭で「1時間～2時間未満」が21.2%と多い。一般家庭は「30分未満」が19.9%と多い。

図表 3.3.14.K 平日の使用時間:携帯電話・スマートフォン

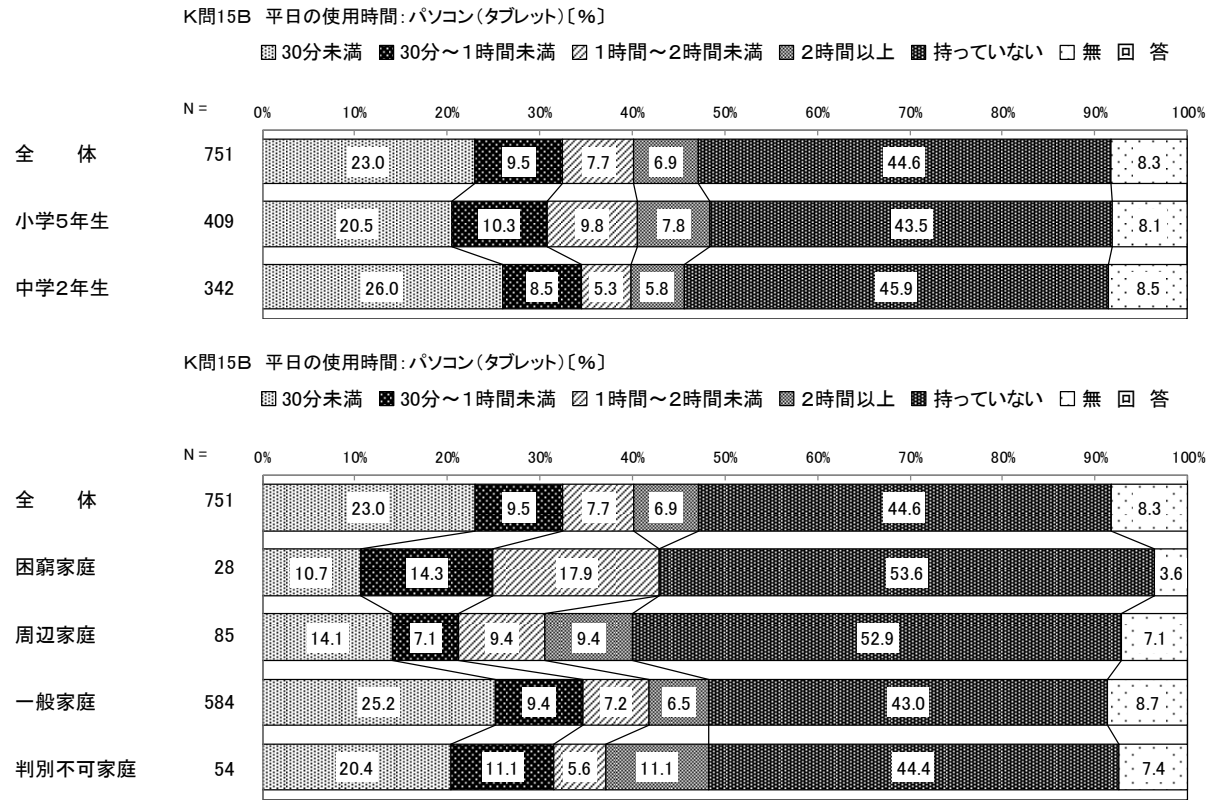


(B) パソコン (タブレット)

全体では、「持っていない」は44.6%と多く、「30分未満」(使用時間)が23.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「持っていない」がそれぞれ50%を超えて多く、困窮家庭は「1時間～2時間未満」が17.9%、「30分～1時間未満」が14.3%と他の家庭に比べて多い。一般家庭は「30分未満」が25.2%と多い。

図表 3.3.15.K 平日の使用時間:パソコン(タブレット)

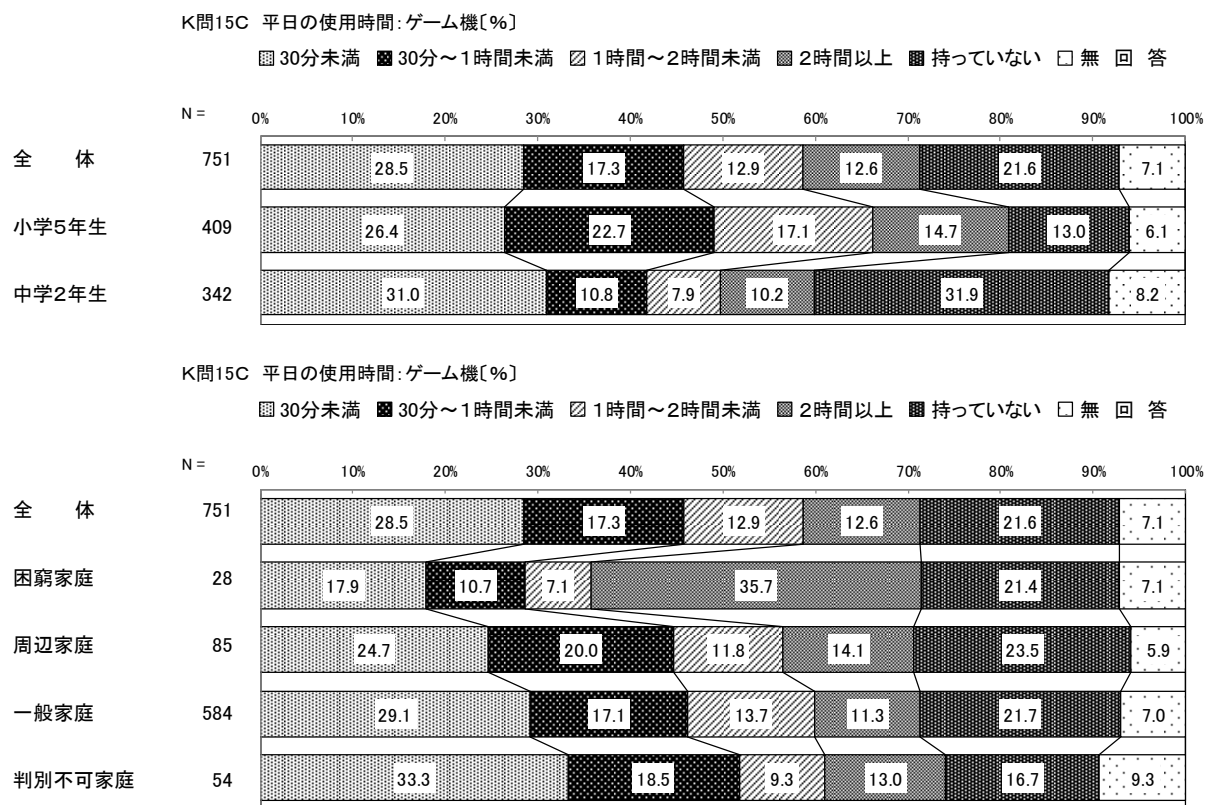


(C) ゲーム機

全体では、「30分未満」（使用時間）が28.5%と多く、「持っていない」が21.6%、「30分～1時間未満」が17.3%、「1時間～2時間未満」と「2時間以上」がともに12%台と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「2時間以上」が35.7%と多い。

図表 3.3.16.K 平日の使用時間：ゲーム機



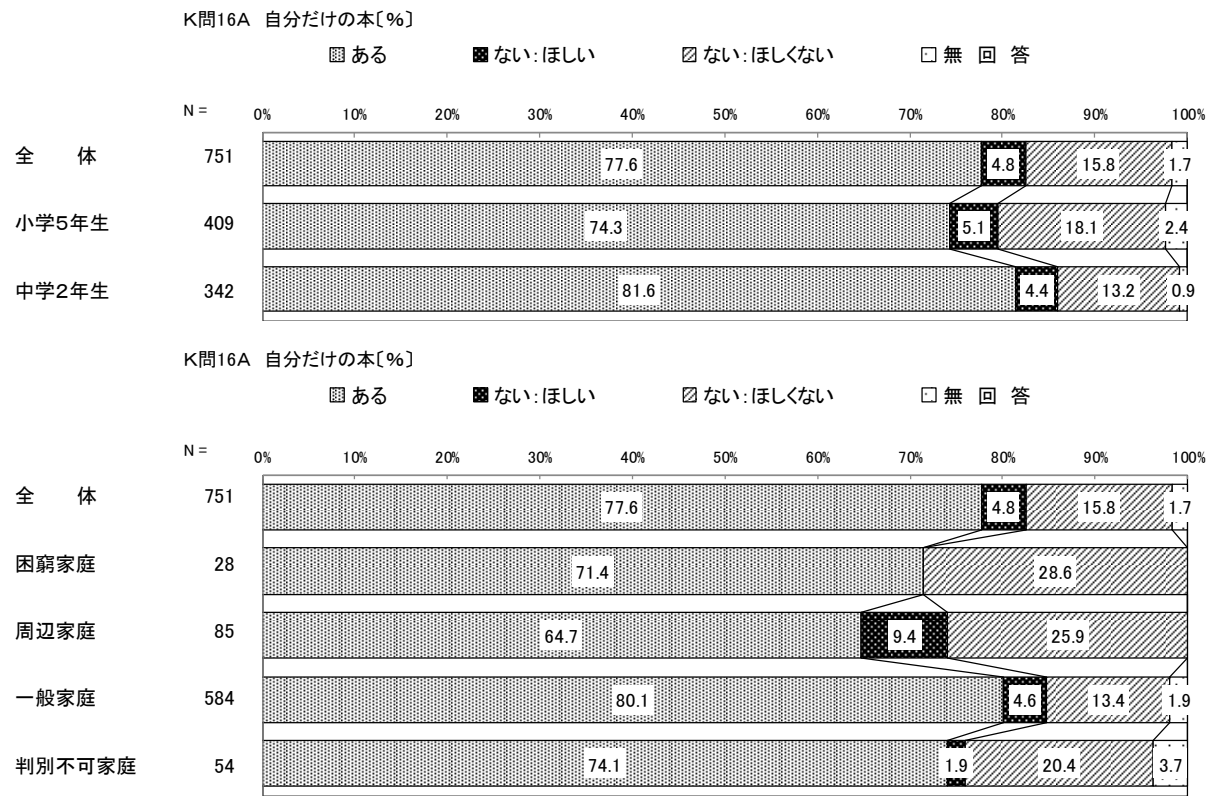
問 16 あなたには、自分が使うことができる、次のものがありますか。

(A) 自分だけの本（学校の教科書やマンガは除く）

全体では、「ある」が77.6％と多く、「ない：ほしくない」が15.8％、「ない：ほしい」が4.8％である。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「ない：ほしくない」がそれぞれ25％前後と多く、周辺家庭で「ない：ほしい」が9.4％と多い。

図表 3.3.17.K 自分だけの本

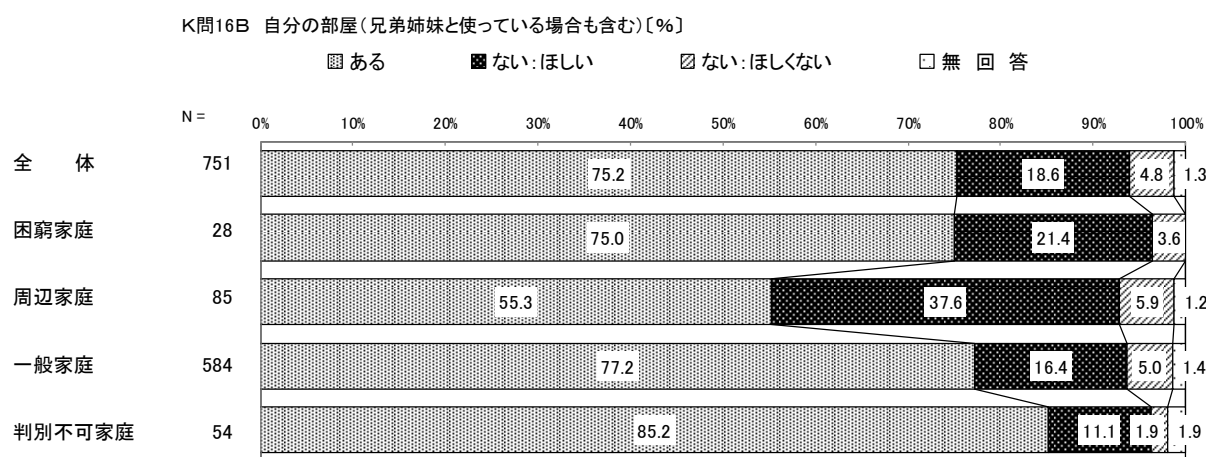
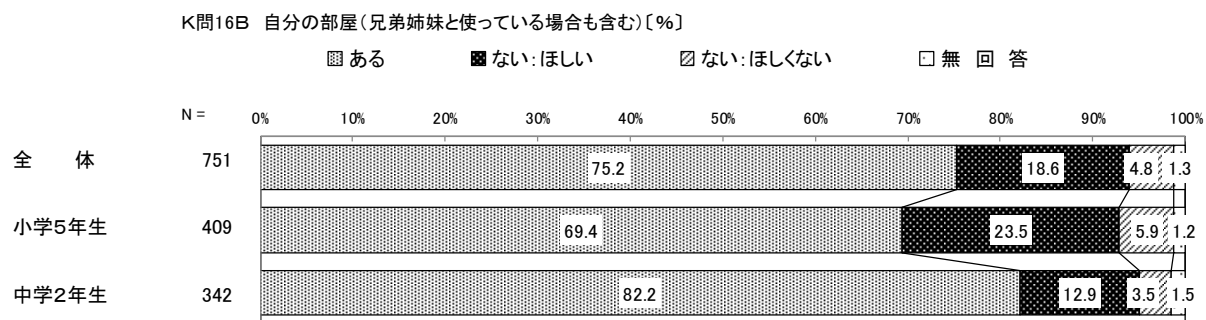


(B) 自分の部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）

全体では、「ある」が75.2%と多く、「ない：ほしい」が18.6%、「ない：ほしくない」が4.8%である。

生活困難度別では、周辺家庭で「ある」が55.3%と少なく、「ない：ほしい」が37.6%と他の家庭より多い。

図表 3.3.18.K 自分の部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）

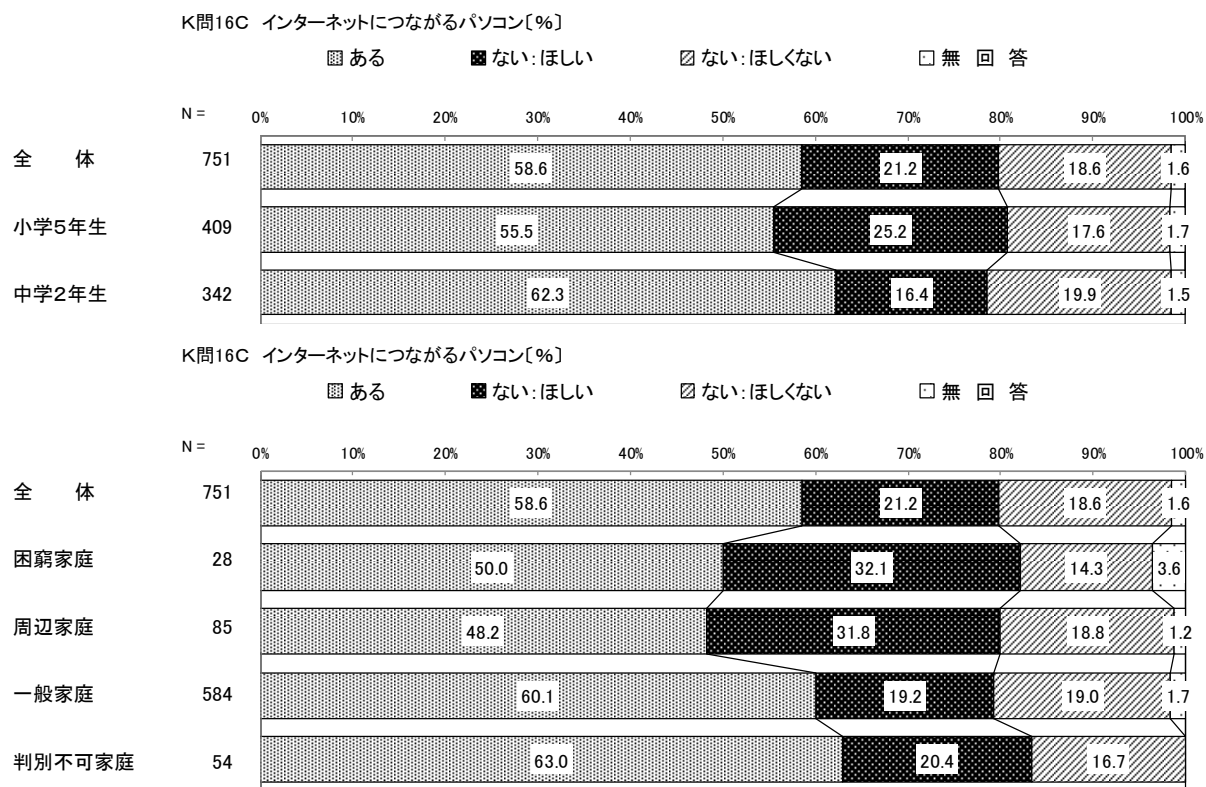


(C) (自宅) インターネットにつながるパソコン (タブレット)

全体では、「ある」が58.6%と多く、「ない：ほしい」が21.2%、「ない：ほしくない」が18.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「ない：ほしい」がともに32%前後と一般家庭と比べて多い。

図表 3.3.19.K インターネットにつながるパソコン

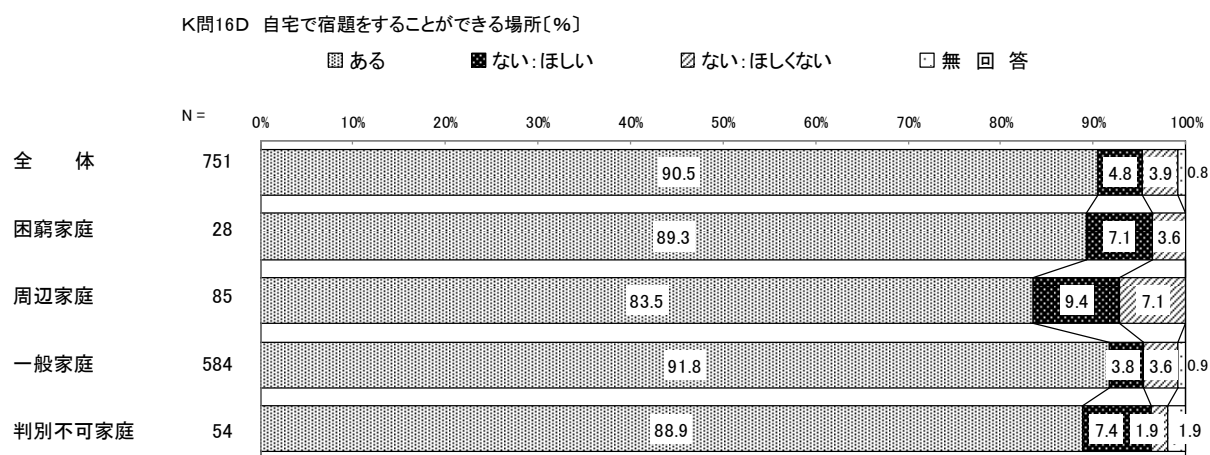
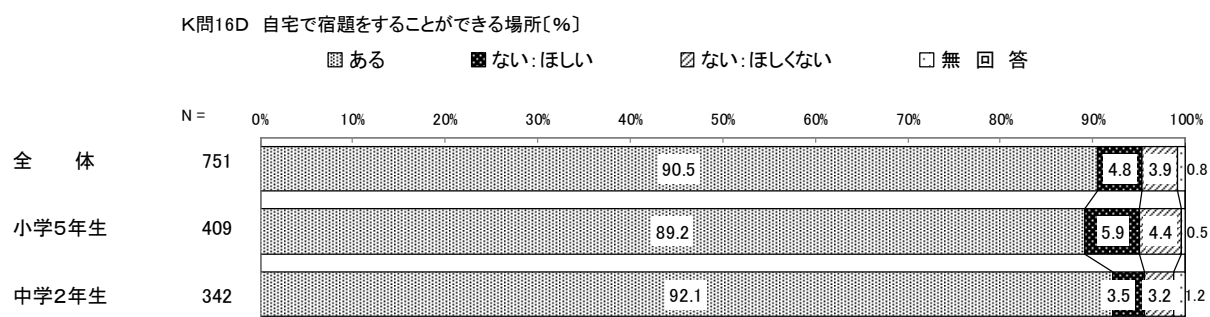


(D) 自宅で宿題をすることができる場所

全体では、「ある」が90.5%と大半を占める。

生活困難度別では、周辺家庭、困窮家庭で「ない：ほしい」がそれぞれ9.4%、7.1%と一般家庭に比べてやや多い。

図表 3.3.20.K 自宅で宿題をすることができる場所

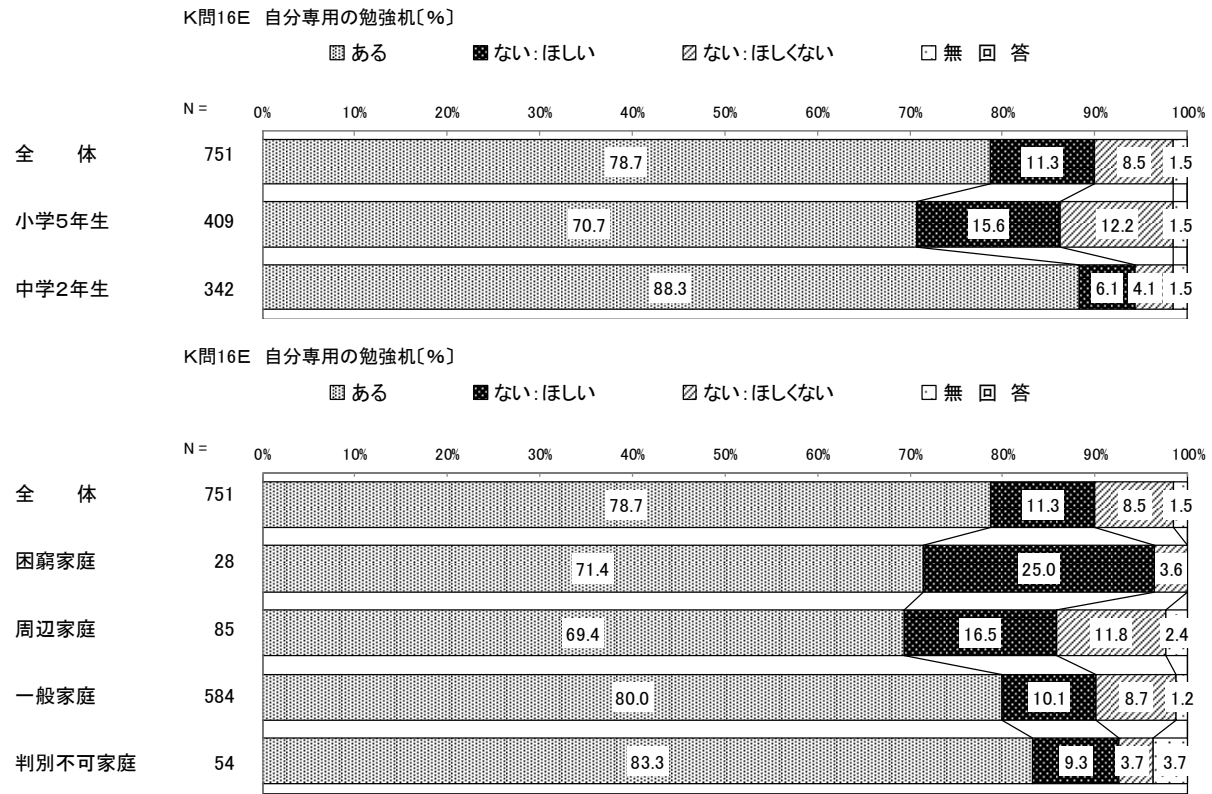


(E) 自分専用の勉強机

全体では、「ある」が78.7%と多く、「ない：ほしい」が11.3%、「ない：ほしくない」が8.5%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ない：ほしい」が25.0%と多い。

図表 3.3.21.K 自分専用の勉強机

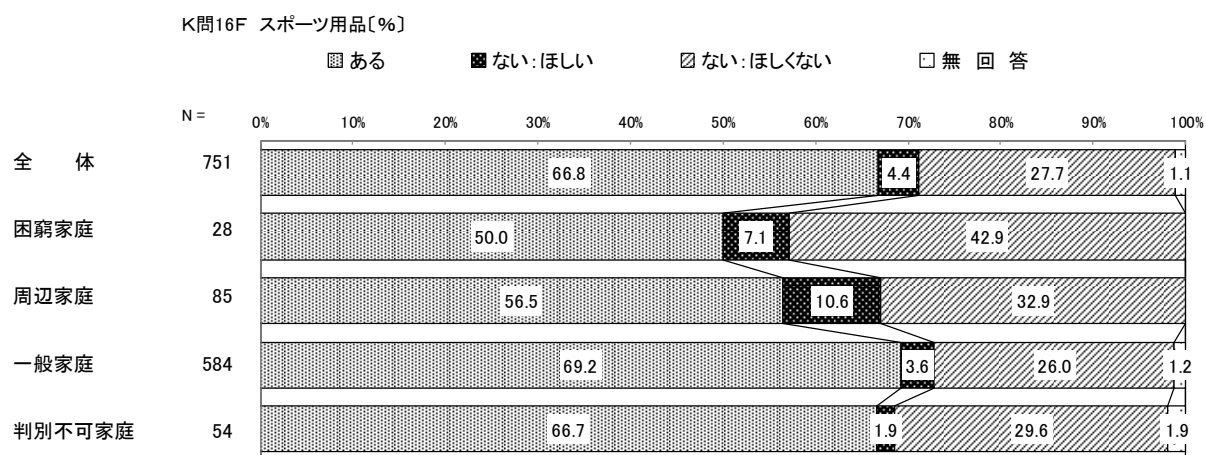
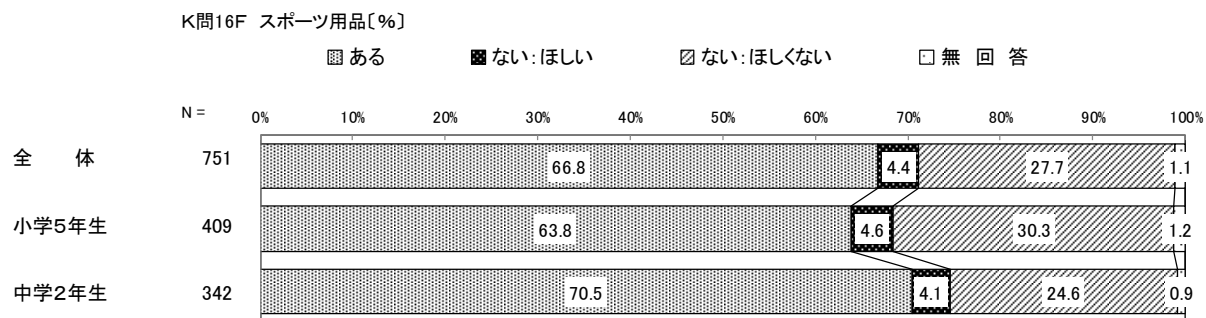


(F) スポーツ用品（野球のグローブ、サッカーボールなど）

全体では、「ある」が66.8%と多く、「ない：ほしくない」が27.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「ある」がそれぞれ50%台と一般家庭に比べて少なく、困窮家庭は「ない：ほしい」が42.9%、周辺家庭は「ない：ほしい」が10.6%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.3.22.K スポーツ用品

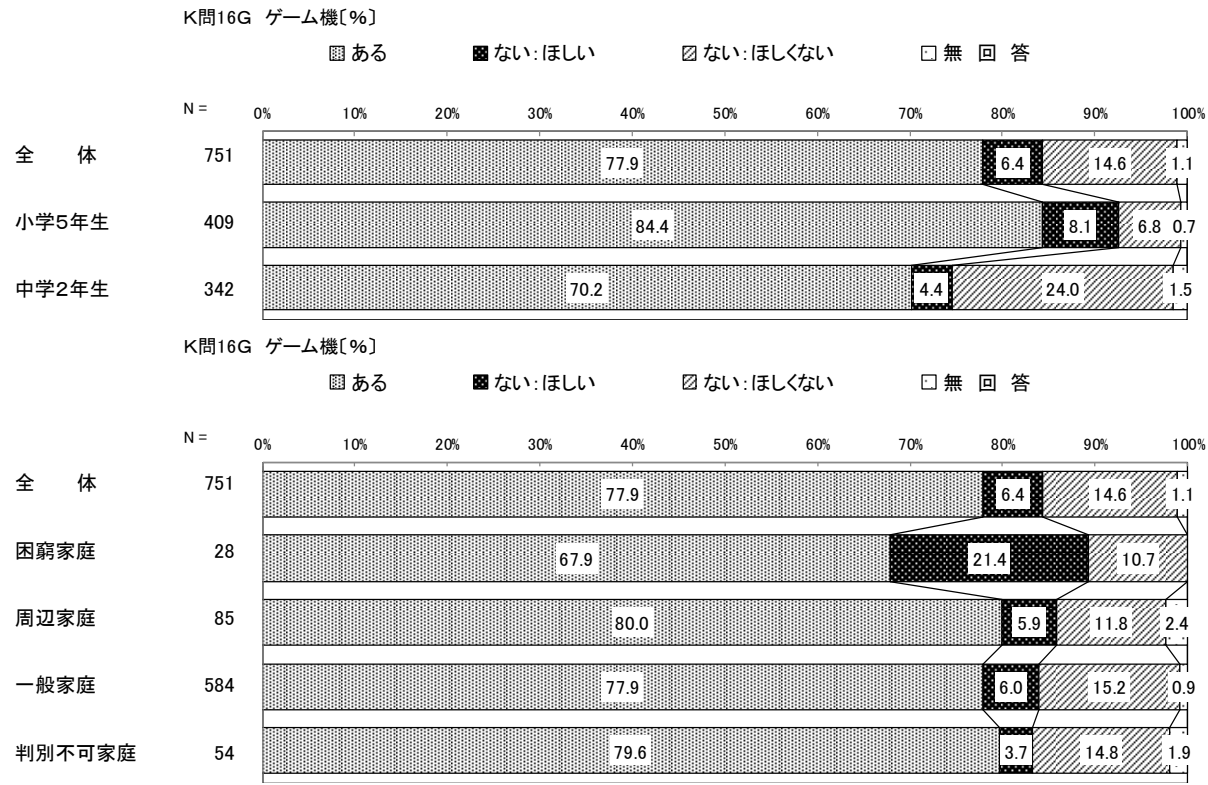


(G) ゲーム機

全体では、「ある」が77.9%と多く、「ない：ほしくない」が14.6%、「ない：ほしい」が6.4%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ある」が67.9%と他の家庭に比べて少なく、「ない：ほしい」が21.4%と多い。

図表 3.3.23.K ゲーム機

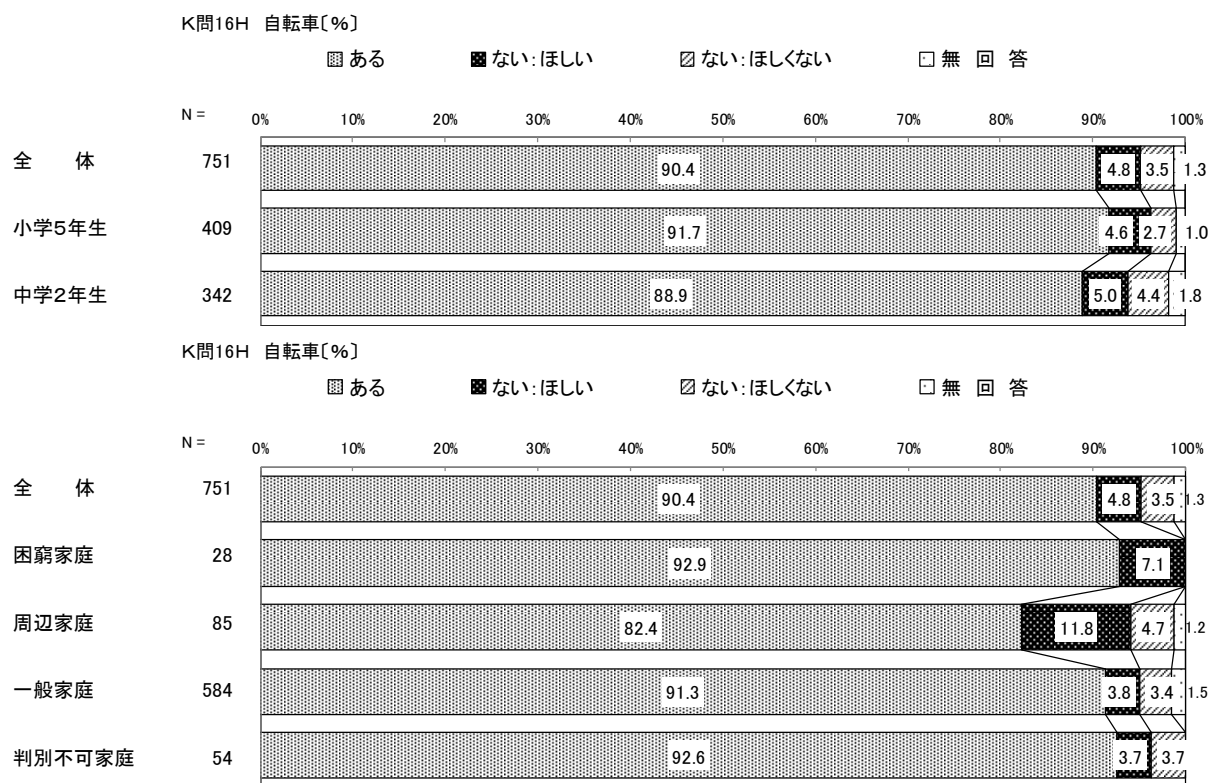


(H) 自転車

全体では、「ある」が90.4%と大半を占める。

生活困難度別では、周辺家庭で「ある」が82.4%と他の家庭に比べて少なく、「ない：ほしい」が11.8%とやや多い。

図表 3.3.24.K 自転車

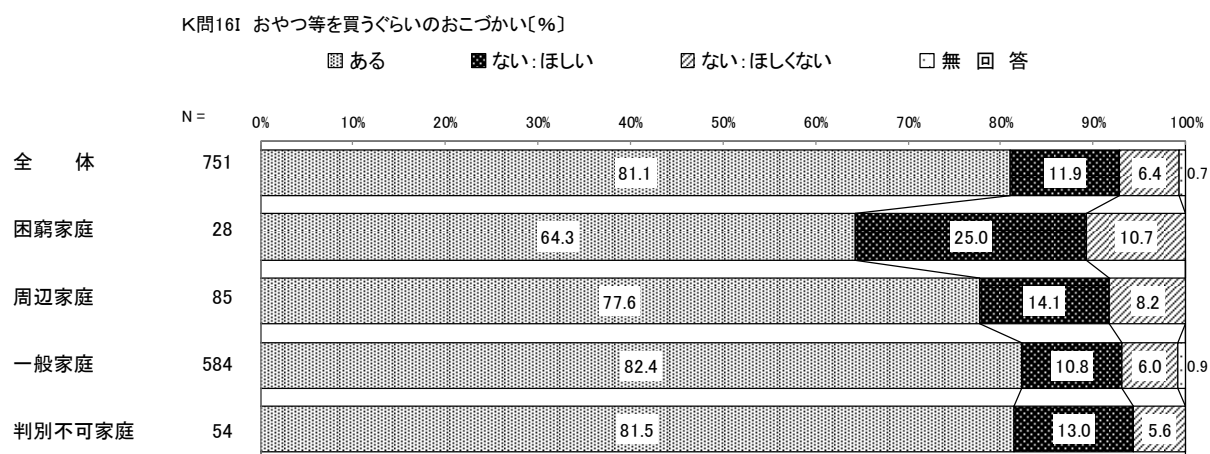
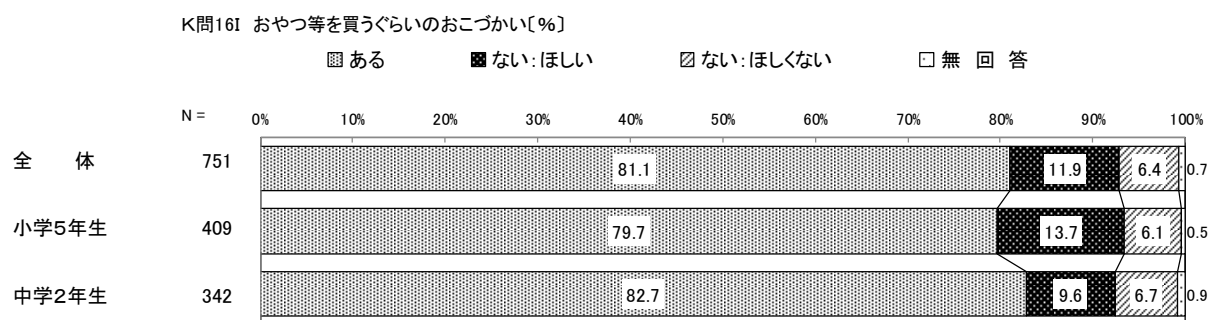


(I) おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うぐらいのおこづかい

全体では、「ある」が81.1%と大半を占め、「ない：ほしい」が11.9%、「ない：ほしくない」が6.4%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ある」が64.3%と他の家庭より少なく、「ない：ほしい」が25.0%、「ない：ほしくない」が10.7%と多い。

図表 3.3.25.K おやつ等を買うぐらいのおこづかい

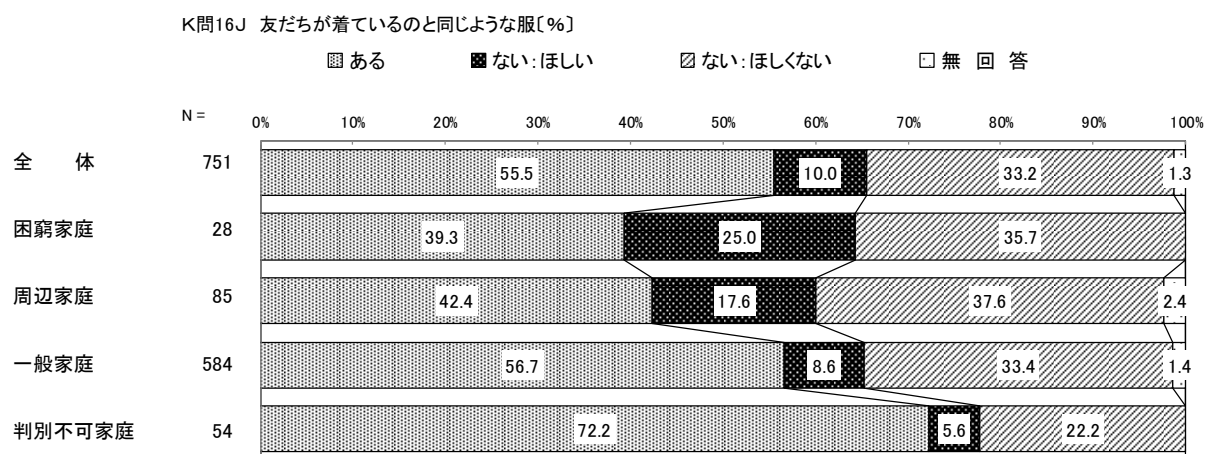
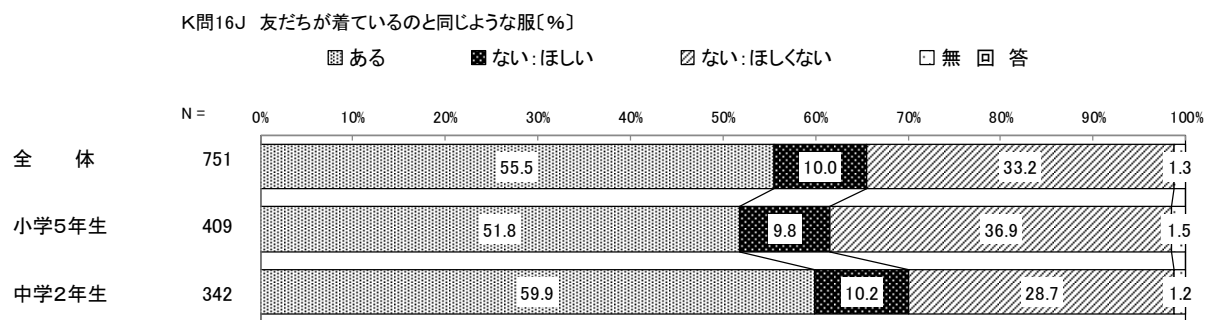


(J) 友だちが着ているのと同じような服

全体では、「ある」が55.5%と多く、「ない：ほしくない」が33.2%、「ない：ほしい」が10.0%である。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「ある」がともに40%前後と少なく、困窮家庭は「ない：ほしい」が25.0%、周辺家庭で「ない：ほしくない」が37.6%とやや多い。

図表 3.3.26.K 友だちが着ているのと同じような服

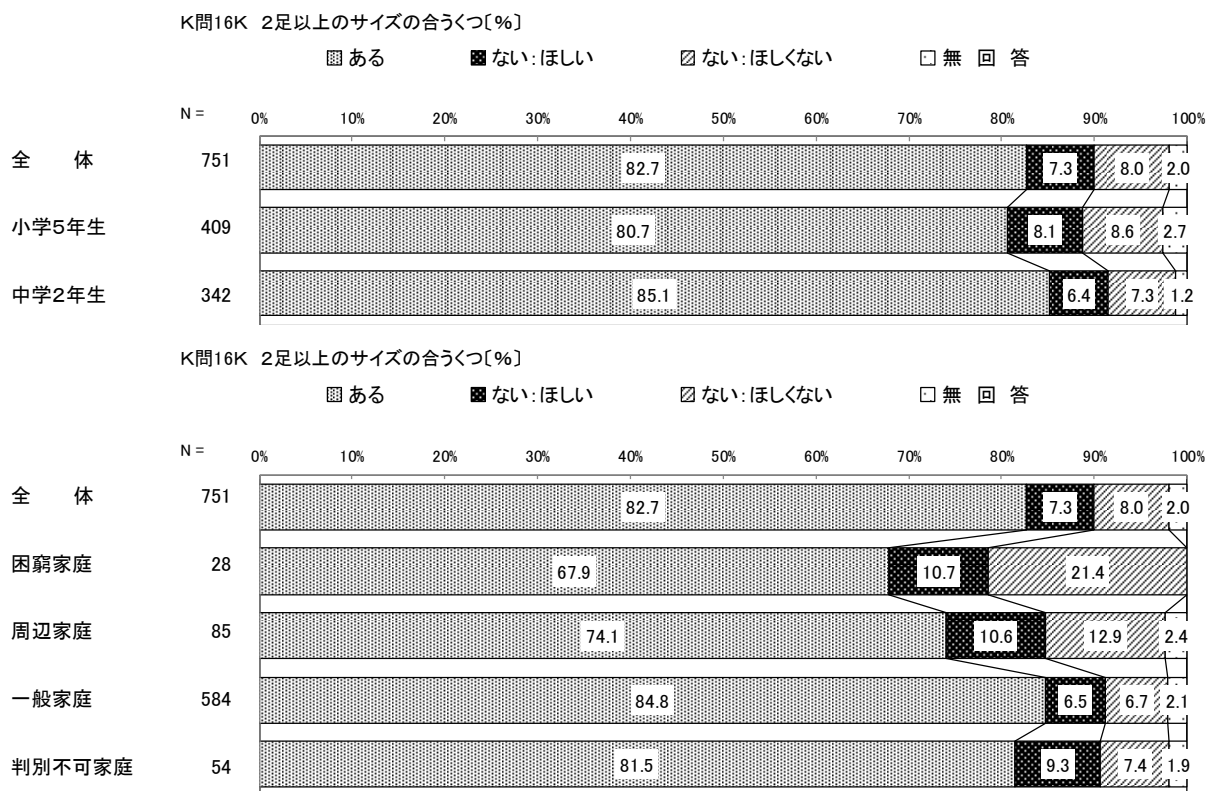


(K) 2足以上のサイズの合うくつ

全体では、「ある」が82.7%と多く、「ない：ほしくない」が8.0%、「ない：ほしい」が7.3%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ある」が67.9%と他の家庭に比べて少なく、「ない：ほしくない」が21.4%と多い。

図表 3.3.27.K2足以上のサイズの合うくつ

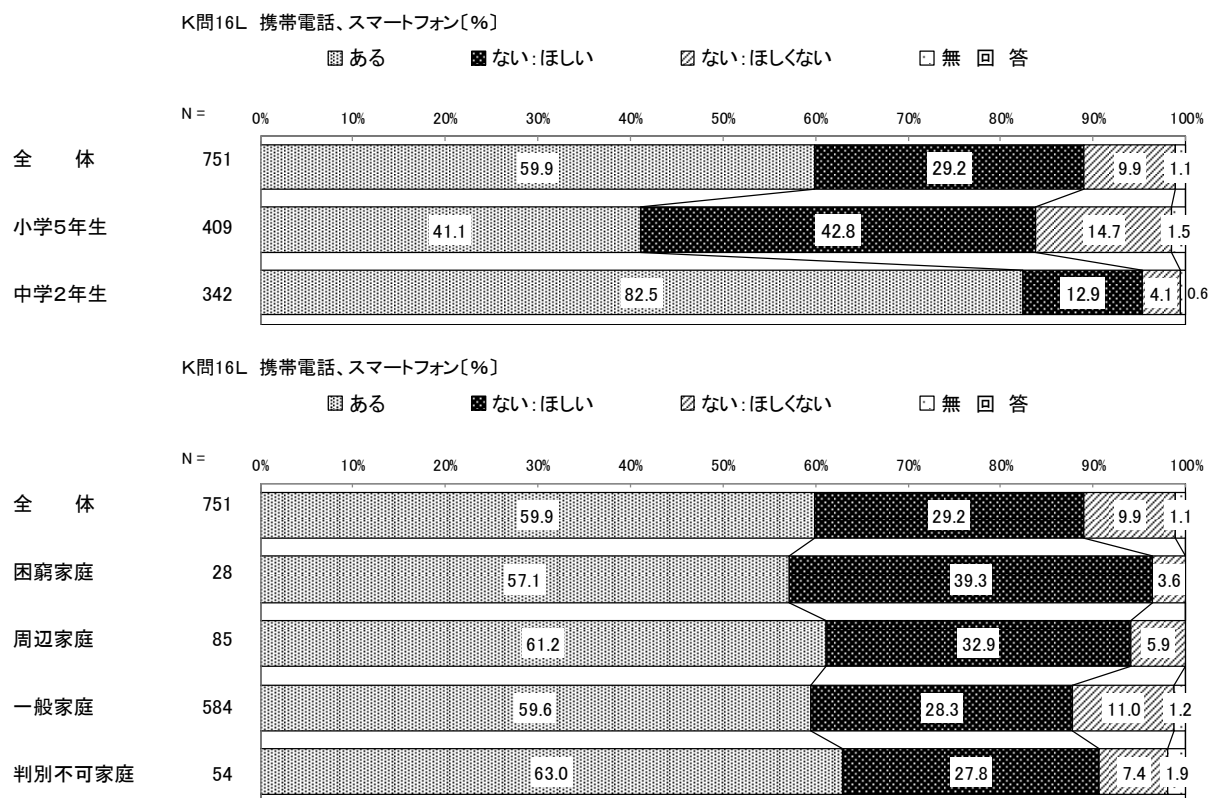


(L) 携帯電話、スマートフォン

全体では、「ある」が59.9%と多く、「ない：ほしい」が29.2%、「ない：ほしくない」が9.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「ない：ほしい」が39.3%と多い。

図表 3.3.28.K 携帯電話、スマートフォン

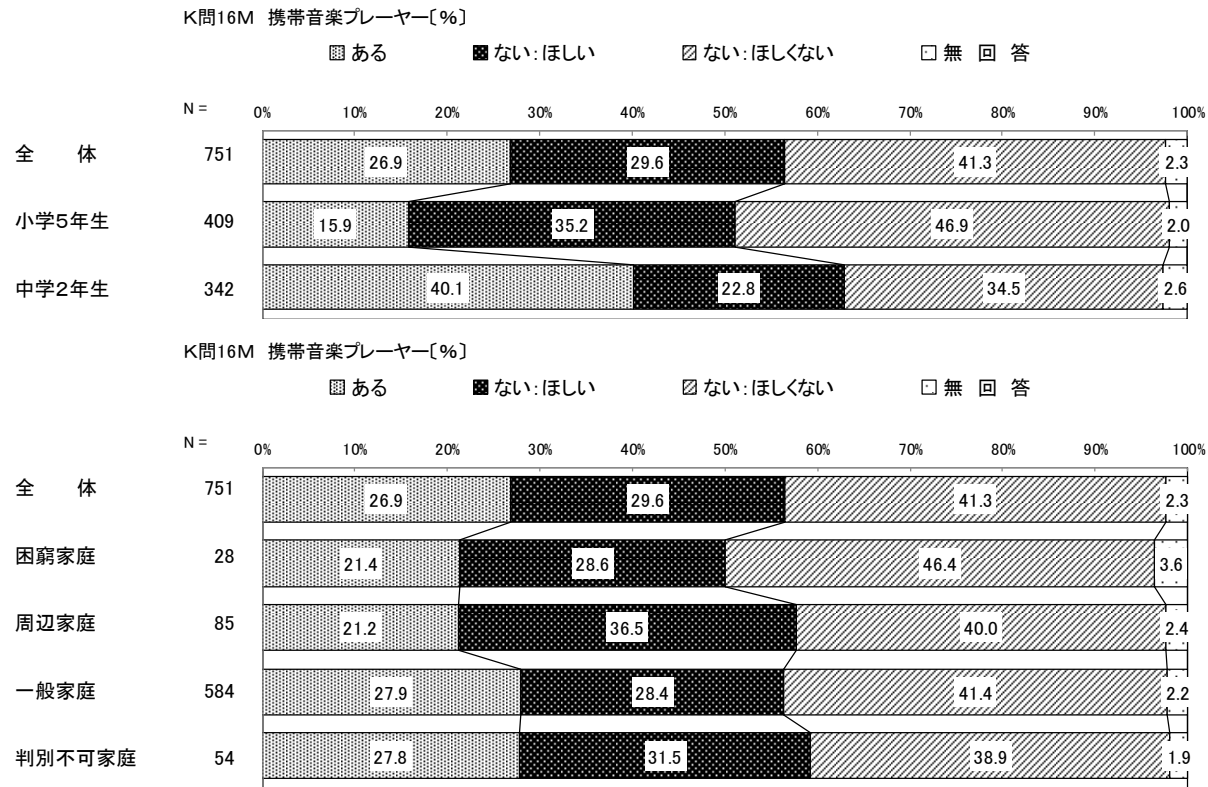


(M) 携帯音楽プレーヤー

全体では、「ない：ほしくない」が41.3%と多く、「ない：ほしい」が29.6%、「ある」が26.9%である。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「ある」がともに21%台と少ない。

図表 3.3.29.K 携帯音楽プレーヤー

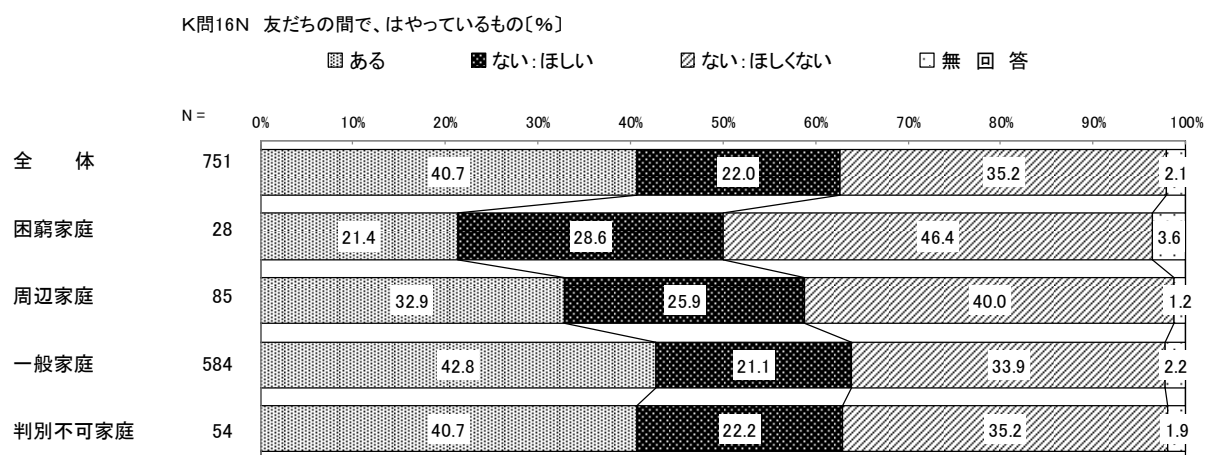
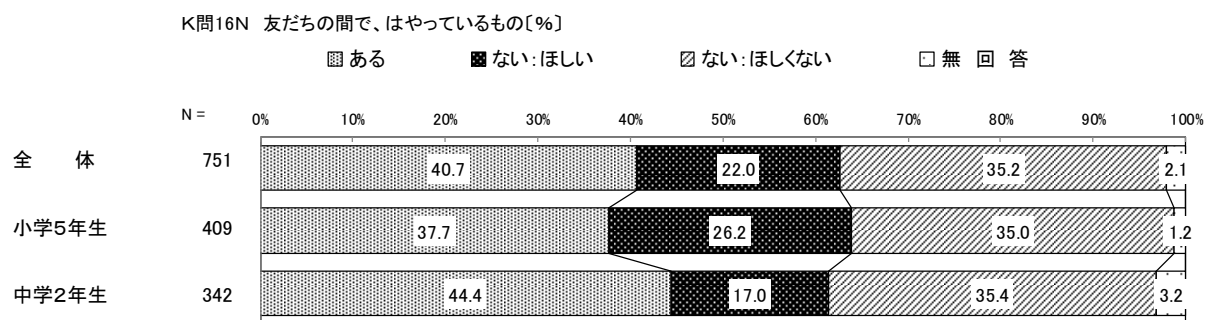


(N) 友だちの間で、はやっているもの

全体では、「ある」が40.7%と多く、「ない：ほしくない」が35.2%、「ない：ほしい」が22.0%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ある」が21.4%と少なく、「ない：ほしくない」と「ない：ほしい」がそれぞれ46.4%、28.6%と多い。

図表 3.3.30.K 友だちの間で、はやっているもの

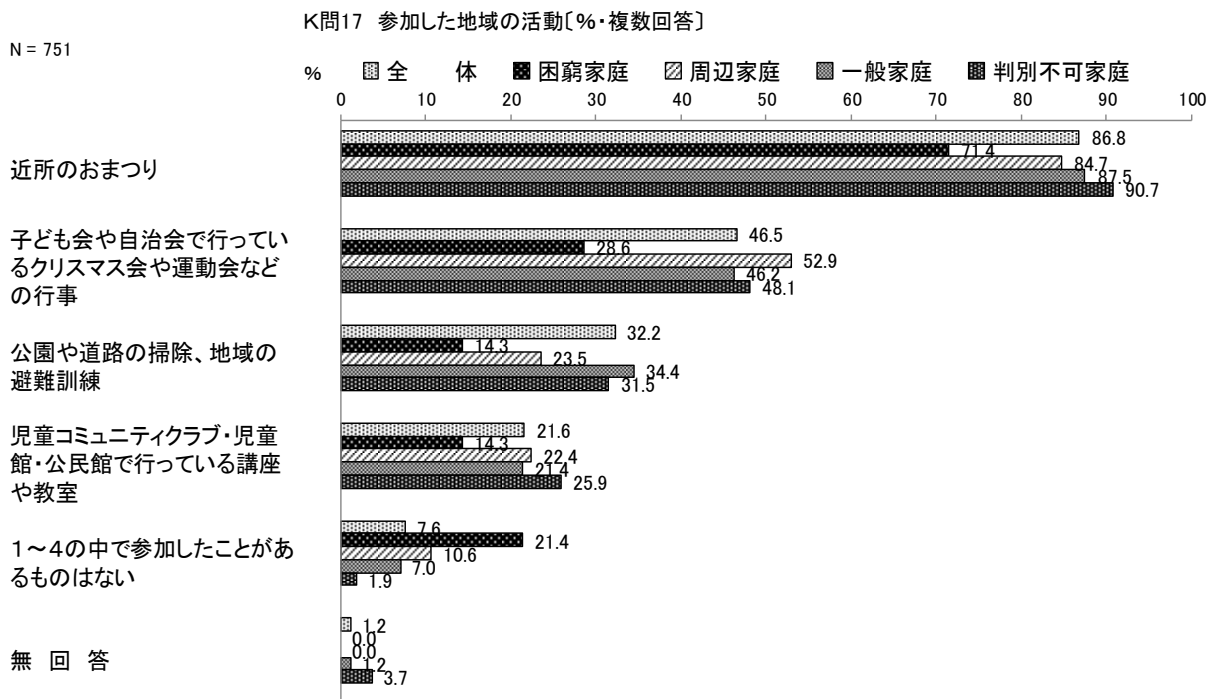
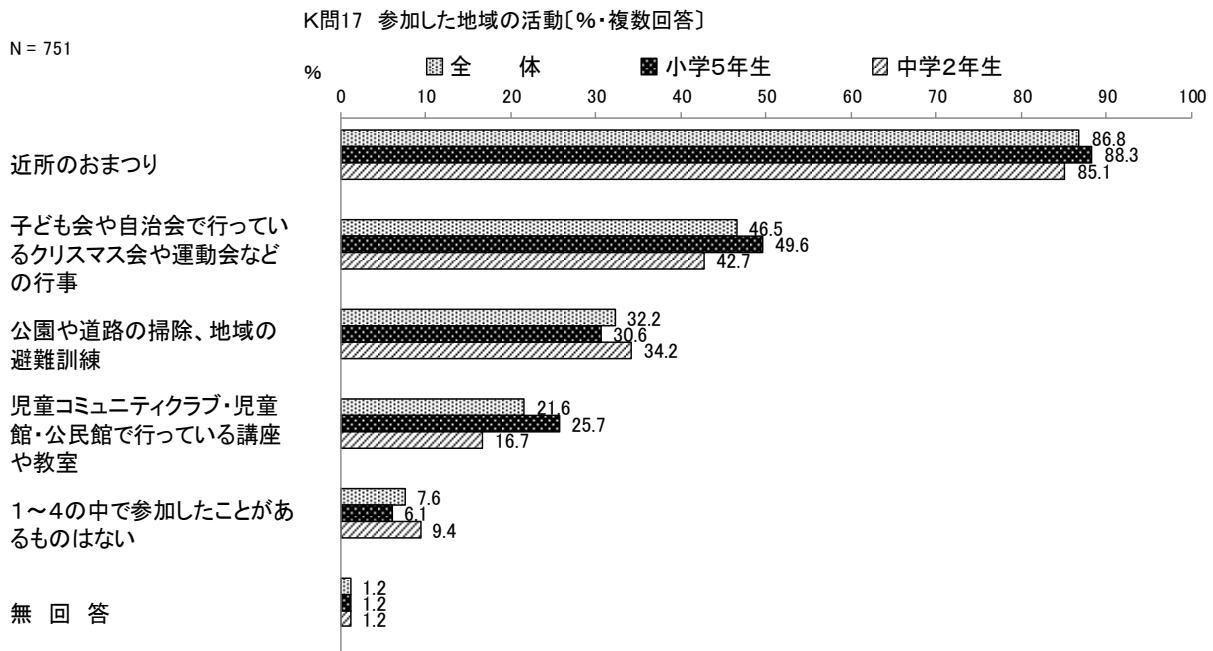


問17 あなたは、あなたの住んでいる地域で次のような活動に参加したことはありますか。

全体では、「近所のおまつり」が86.8%と多く、「子ども会や自治会で行っているクリスマス会や運動会などの行事」が46.5%、「公園や道路の掃除、地域の避難訓練」が32.2%、「児童コミュニティクラブ・児童館・公民館で行っている講座や教室」が21.6%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「1～4の中で参加したことがあるものはない」が21.4%と多い。

図表 3.3.31.K 参加した地域の活動



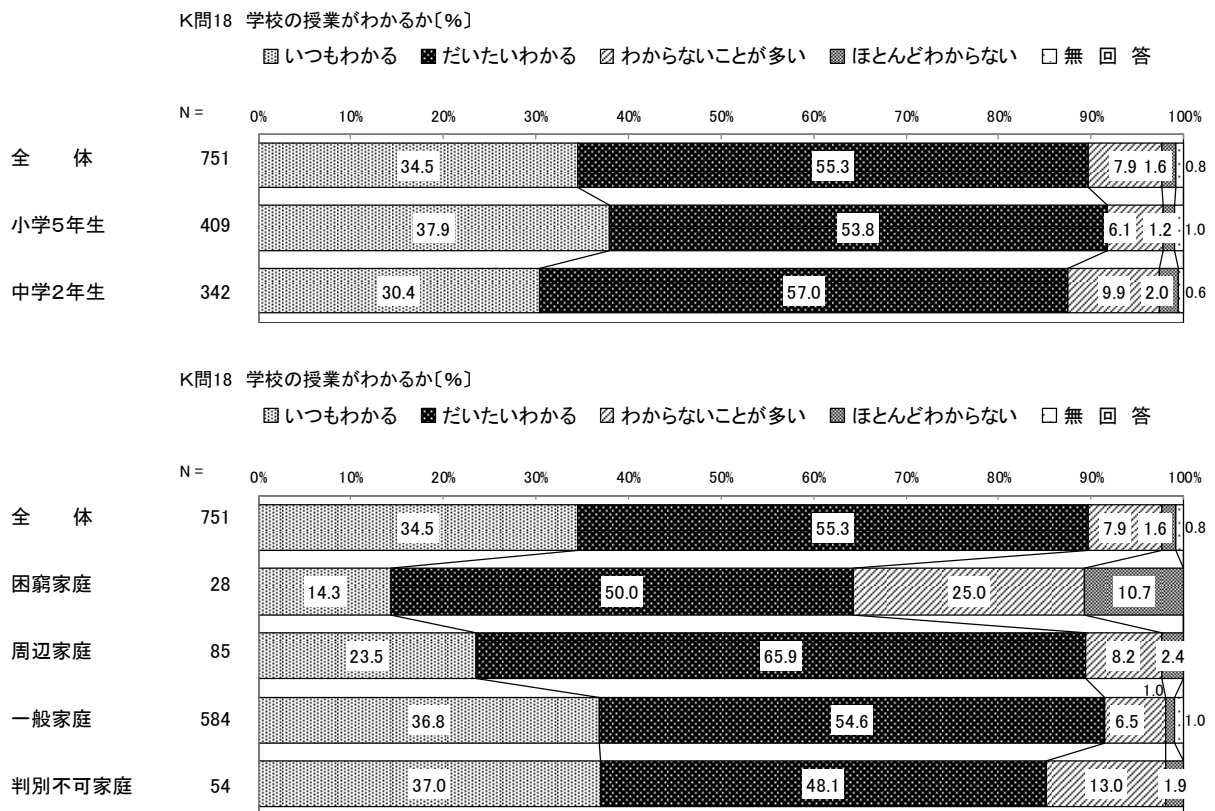
3.4 学校や勉強のこと

問 18 あなたは、学校の授業がわかりますか。

全体では、「だいたいわかる」が55.3%と多く、「いつもわかる」が34.5%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「いつもわかる」が14.3%と少なく、「わからないことが多い」が25.0%、「ほとんどわからない」が10.7%と多い。

図表 3.4.1.K 学校の授業がわかるか

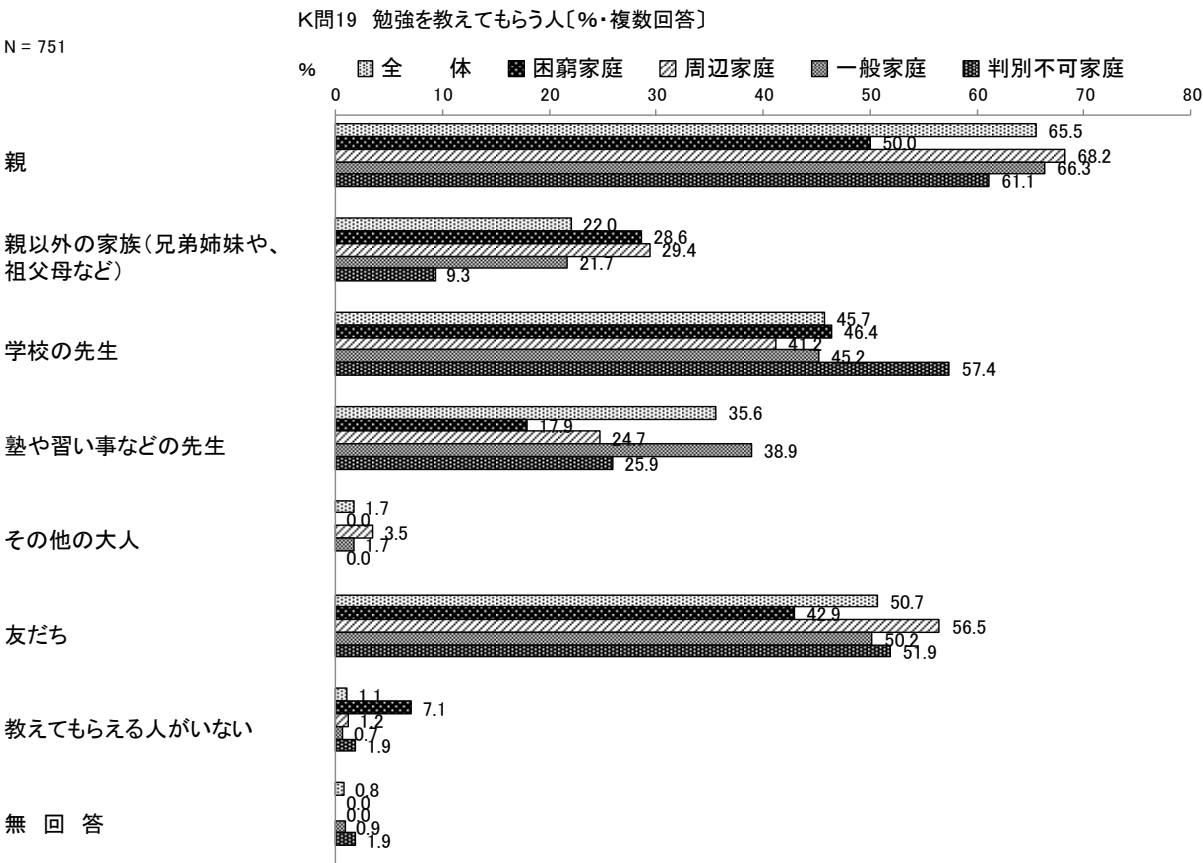
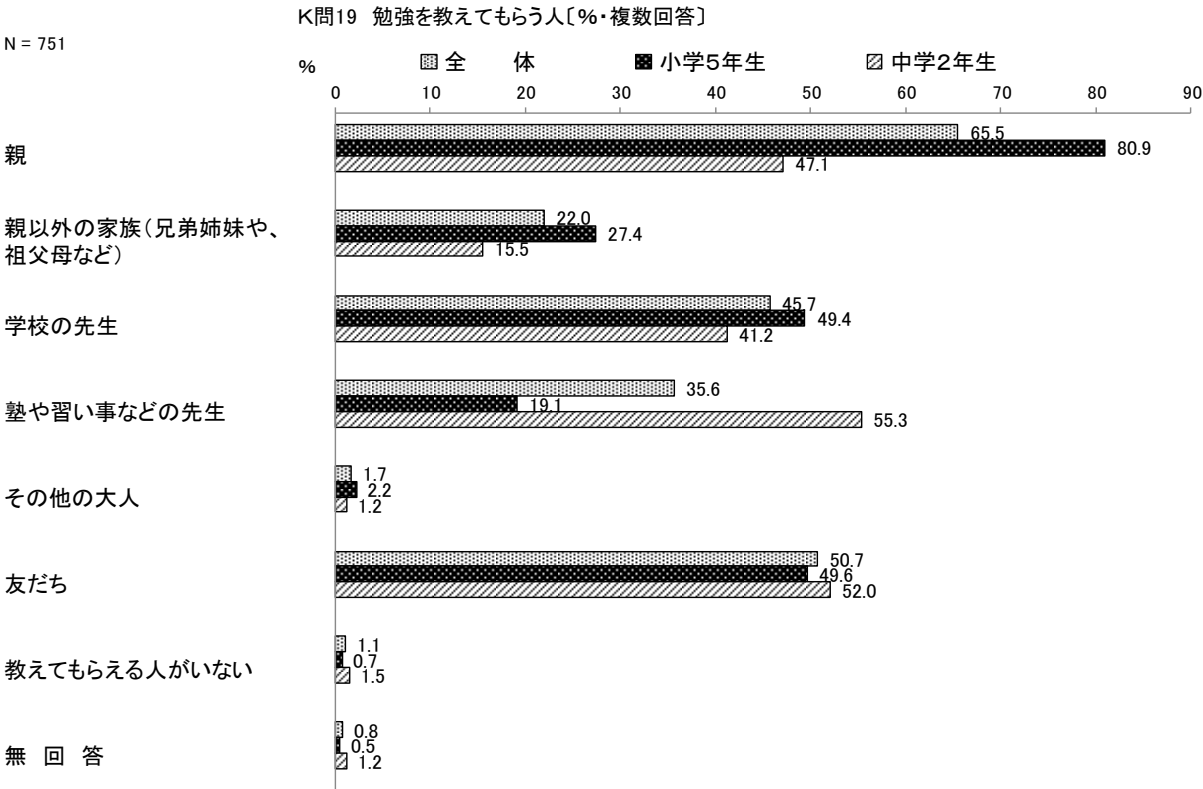


問 19 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。

全体では、「親」が65.5%と最も多く、「友だち」が50.7%、「学校の先生」が45.7%、「塾や習い事などの先生」が35.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「親」が50.0%、「塾や習い事などの先生」が17.9%と他の家庭より少ない。

図表 3.4.2.K 勉強を教えてください

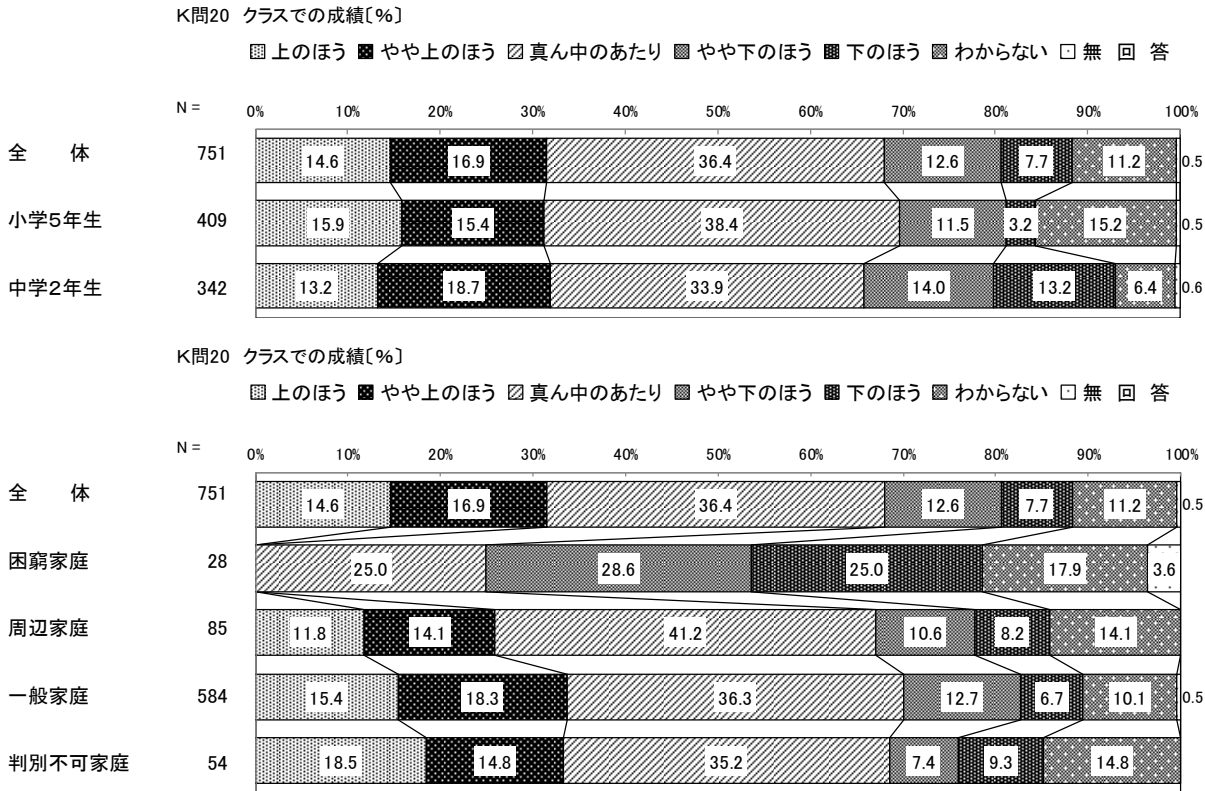


問 20 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。

全体では、「真ん中のあたり」が36.4%と多く、「やや上のほう」が16.9%、「上のほう」が14.6%、「やや下のほう」が12.6%、「わからない」が11.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「やや下のほう」、「下のほう」がそれぞれ28.6%、25.0%と多い。

図表 3.4.3.K クラスでの成績

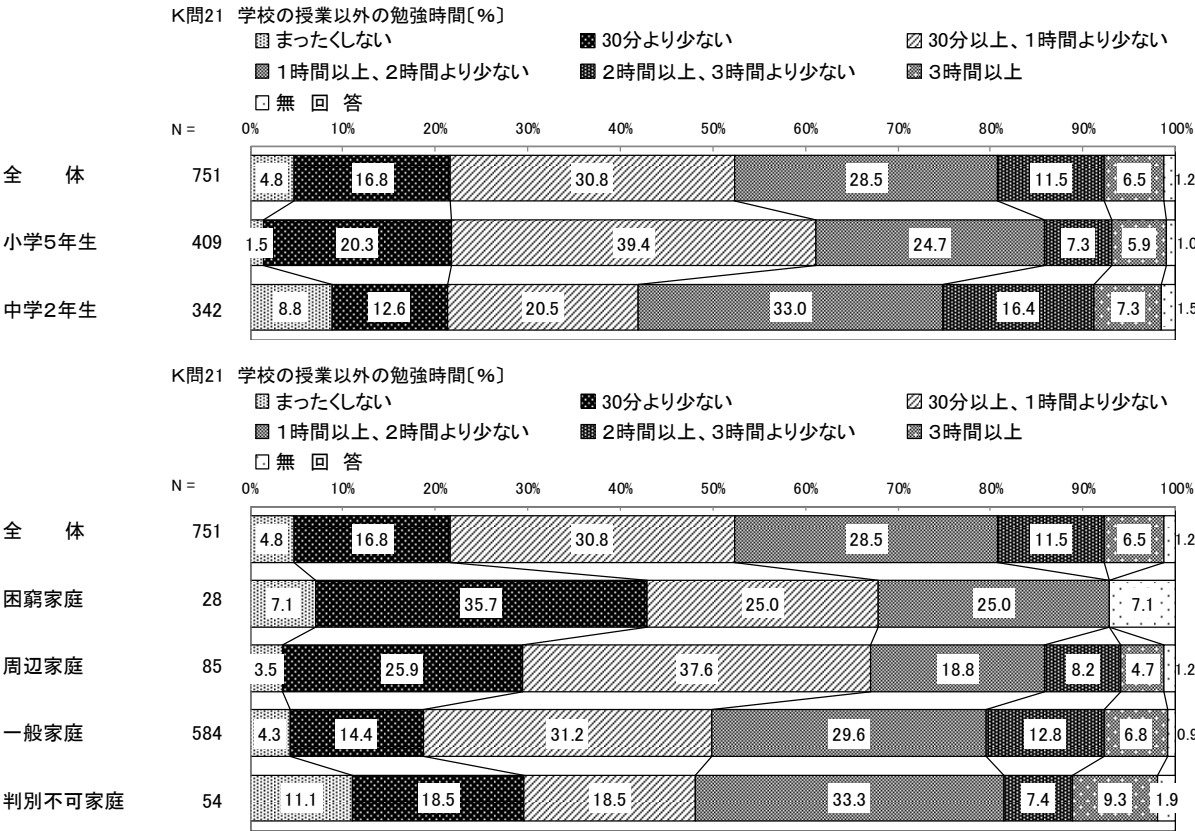


問 21 あなたは、いつも（月～金曜日）学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日の平均的な勉強時間を教えてください。※塾などでの時間も含まれます。

全体では、「30分以上、1時間より少ない」が30.8%、「1時間以上、2時間より少ない」が28.5%と多く、「30分より少ない」が16.8%、「2時間以上、3時間より少ない」が11.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「30分より少ない」と「まったくしない」がそれぞれ35.7%、7.1%と多く、周辺家庭で「30分以上、1時間より少ない」が37.6%と多い。一般家庭の勉強時は「1時間以上、2時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上」の合計が49.2%と半数近くである。

図表 3.4.4K 学校の授業以外の勉強時間

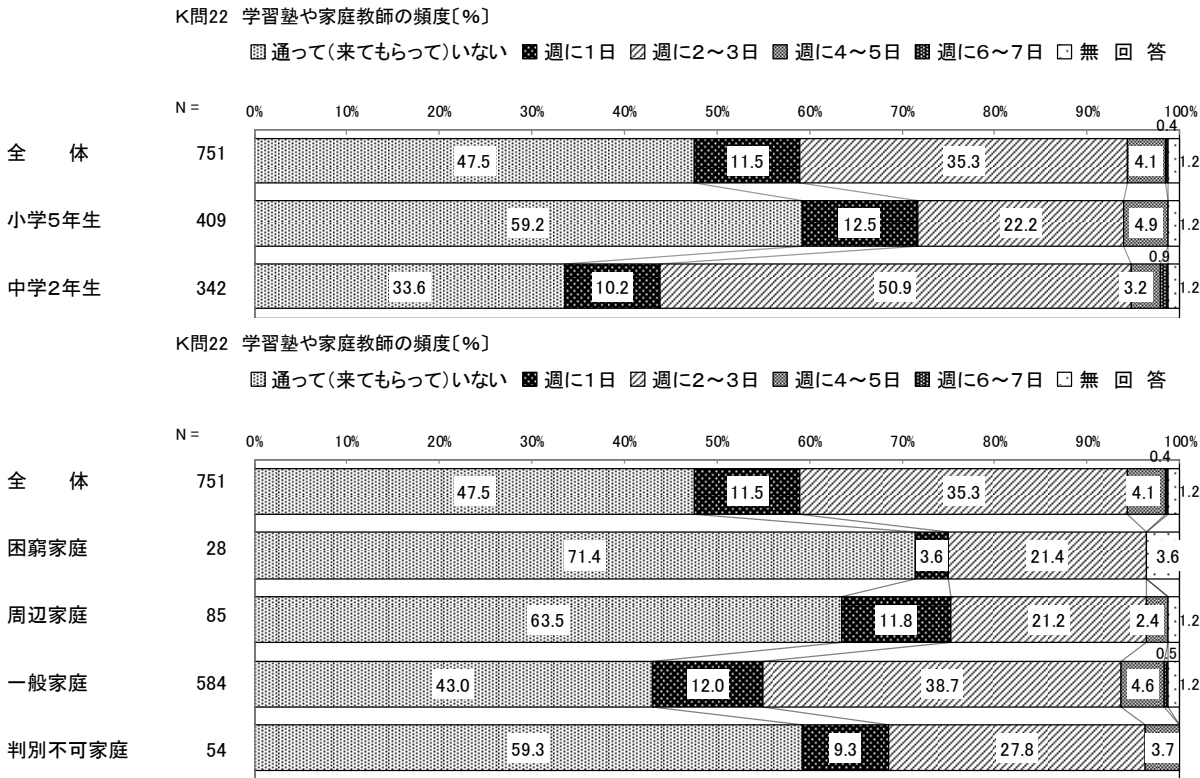


問 22 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。通っている（来てもらっている）場合、1 週間に何日通って（来てもらって）いますか。

全体では、「通って（来てもらって）いない」が47.5%と多く、「週に 2～3 日」が35.3%、「週に 1 日」が11.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「通って（来てもらって）いない」がそれぞれ 71.4%、63.5%と多い。

図表 3.4.5.K 学習塾や家庭教師の頻度

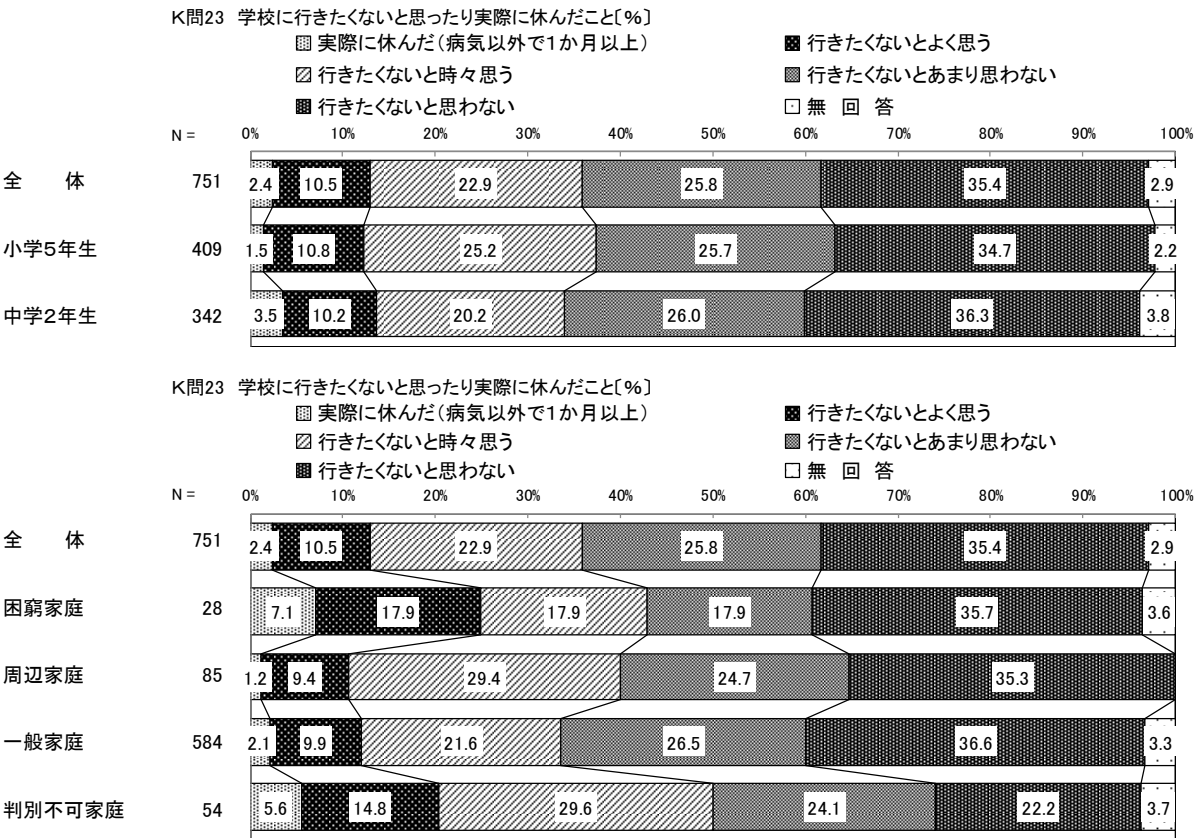


問 23 学校に行きたくないと思ったこと、または実際に休んだことはありますか。

全体では、「行きたくないと思わない」が35.4%と多く、「行きたくないあまり思わない」が25.8%、「行きたくない時々思う」が22.9%、「行きたくないと思う」が10.5%と続いている。

生活困難度別では、どの家庭も「行きたくないと思わない」がそれぞれ35%前後と多いが、困窮家庭は「行きたくないと思う」が17.9%、「実際に休んだ（病気以外で1か月以上）」が7.1%、周辺家庭は「行きたくない時々思う」が29.4%と多く回答されている。

図表 3.4.6K 学校に行きたくないと思ったり実際に休んだこと



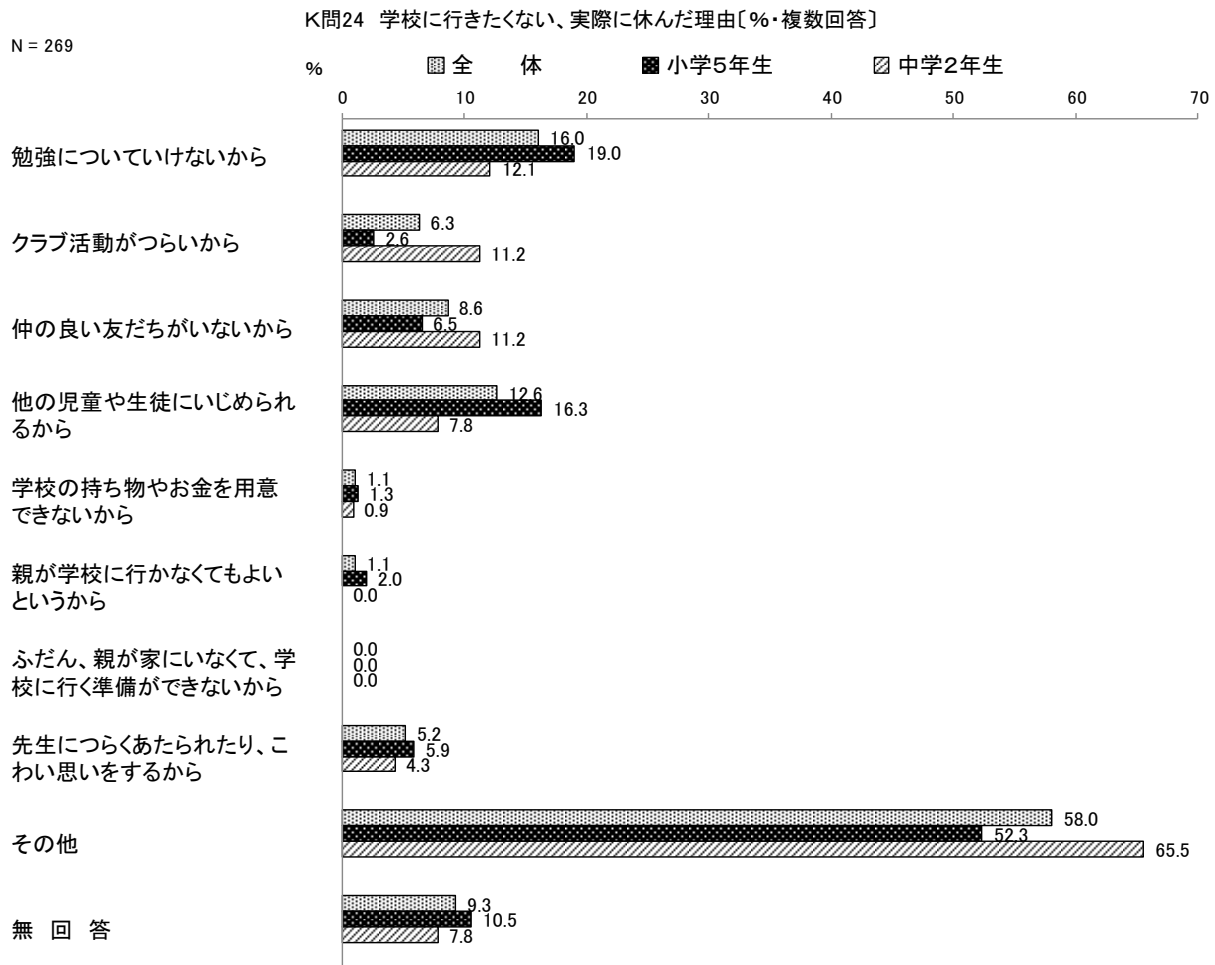
【問23で「実際に休んだ」「よく思う」「時々思う」と答えた人にお聞きします。】

問24 その理由は何ですか。

全体では、「その他」の58.0%以外に「勉強についていけないから」が16.0%と多く、「他の児童や生徒にいじめられるから」が12.6%と続いている。

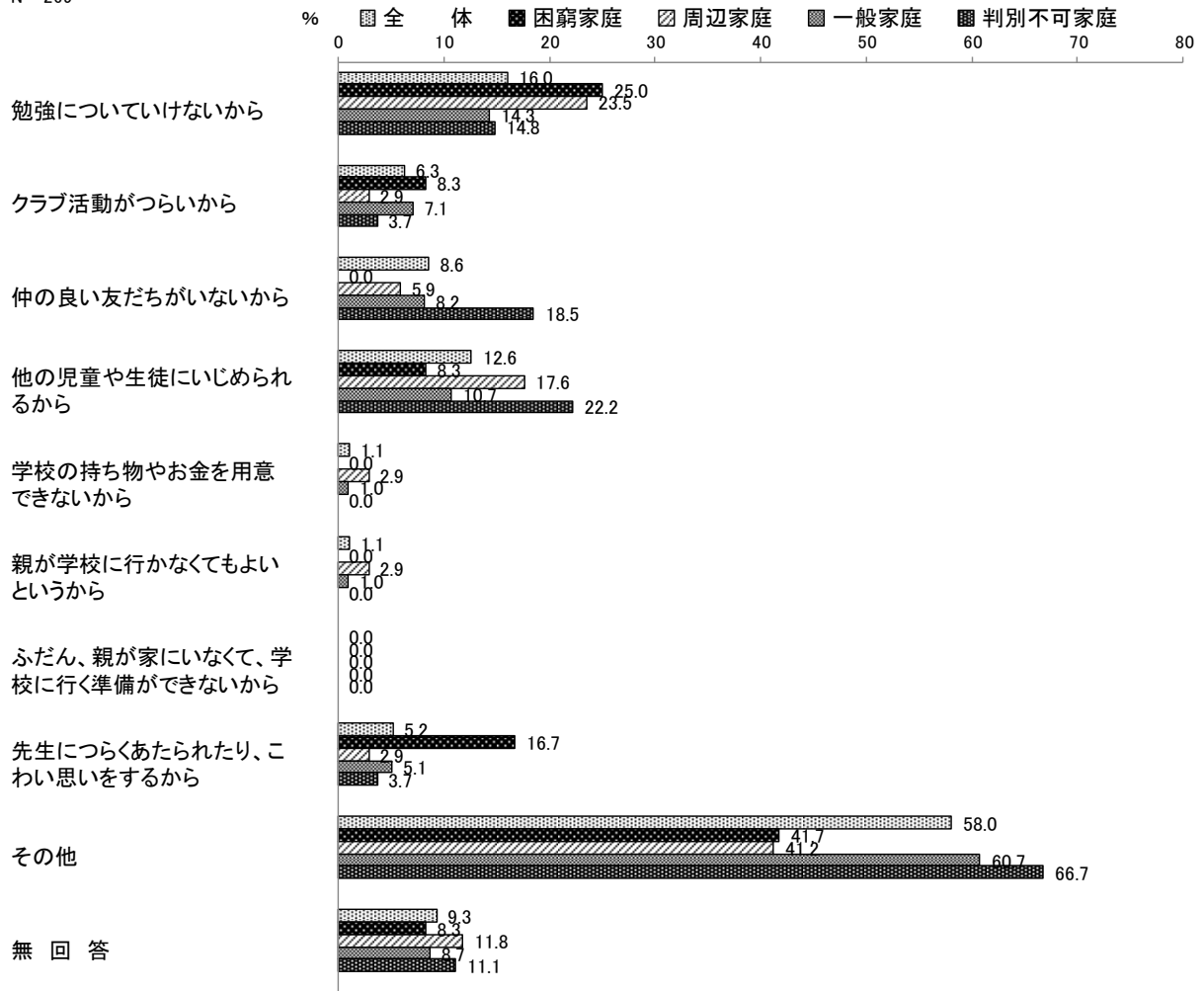
生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「勉強についていけないから」が25%程度と多く、困窮家庭は「先生につらくあたられたり、こわい思いをするから」が16.7%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.4.7.K 学校に行きたくない、実際に休んだ理由



N = 269

K問24 学校に行きたくない、実際に休んだ理由〔%・複数回答〕

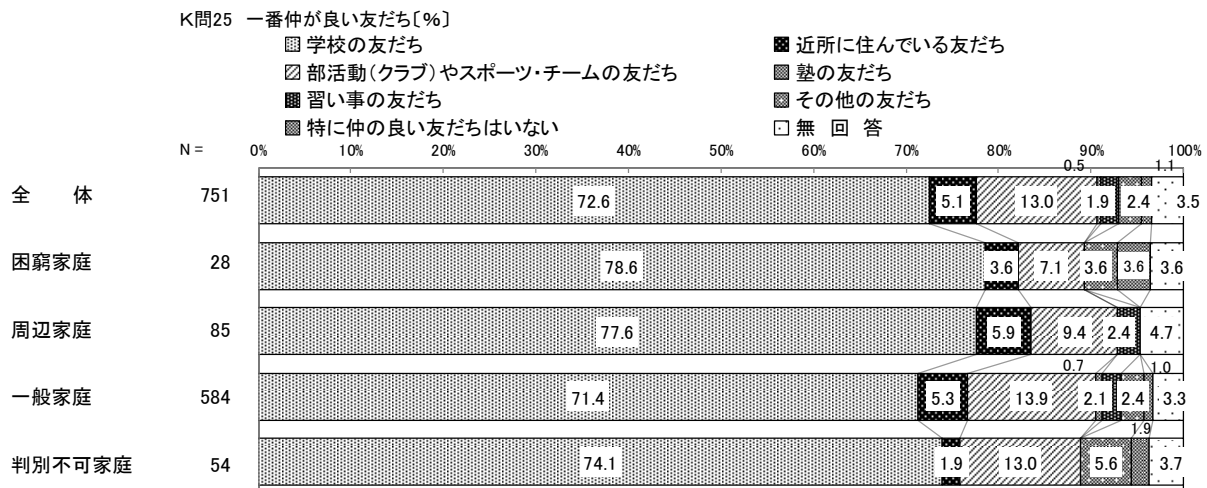
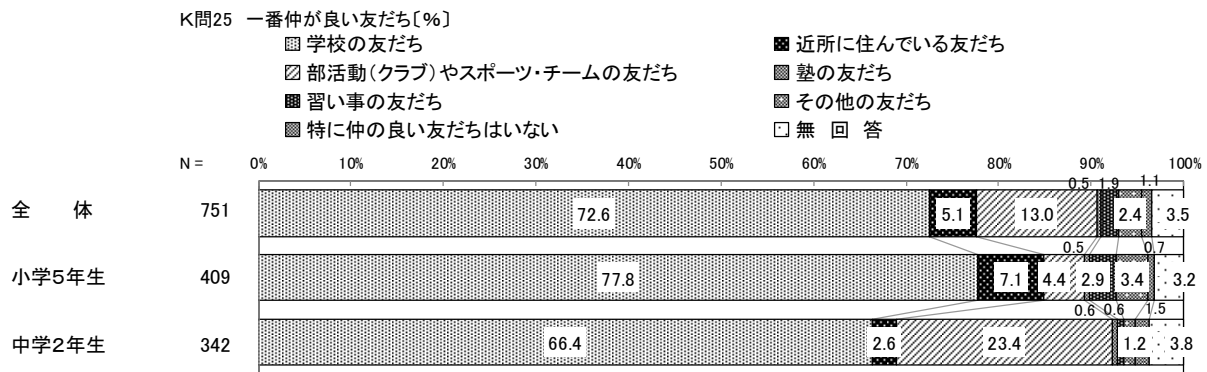


3.5 友だち関係のこと

問 25 あなたが一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。

全体では、「学校の友だち」が72.6%と多く、「部活動（クラブ）やスポーツ・チームの友だち」が13.0%と続いている。

図表 3.5.1.K 一番仲が良い友だち



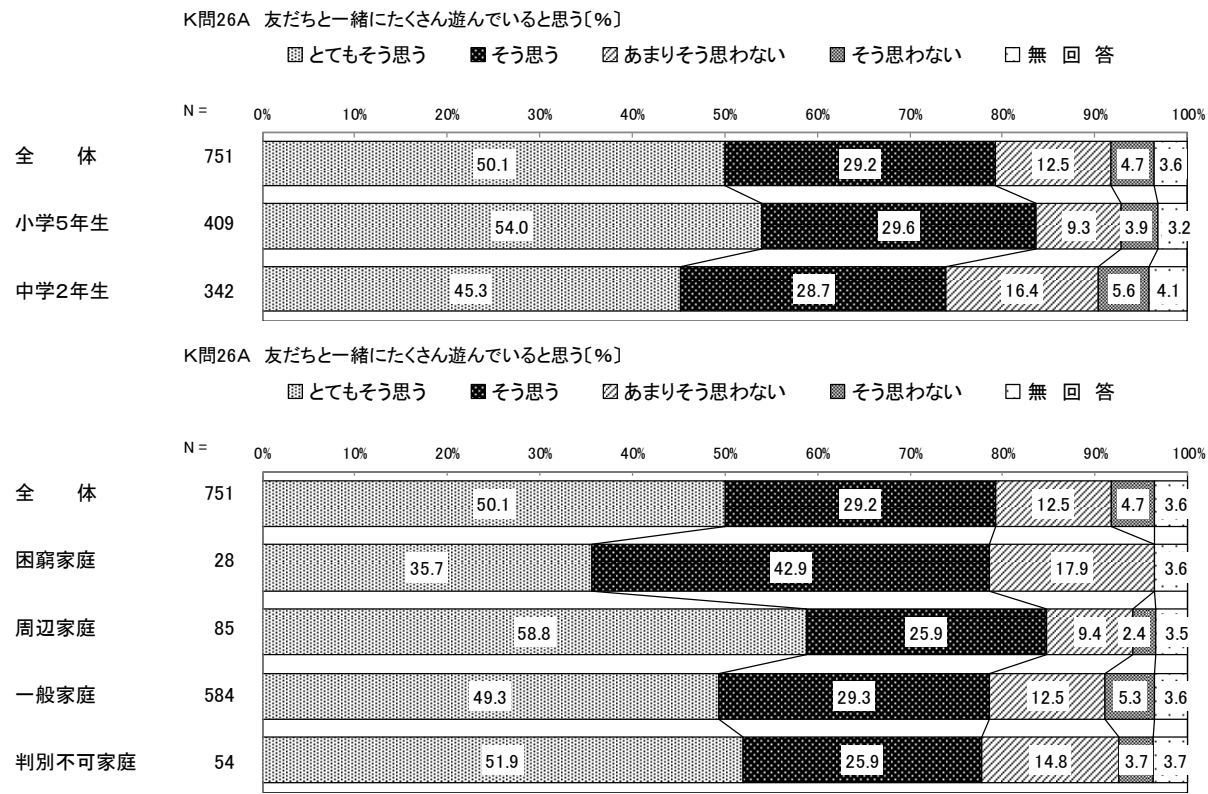
問 26 あなたと友だちとの関係について、どのように思いますか。

(A) 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う

全体では、「とてもそう思う」が50.1%と多く、「そう思う」が29.2%、「あまりそう思わない」が12.5%と続いている。

生活困難度別では、「とてもそう思う」は周辺家庭で58.8%と最も多く、困窮家庭で35.7%と少ない。

図表 35.2K 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う

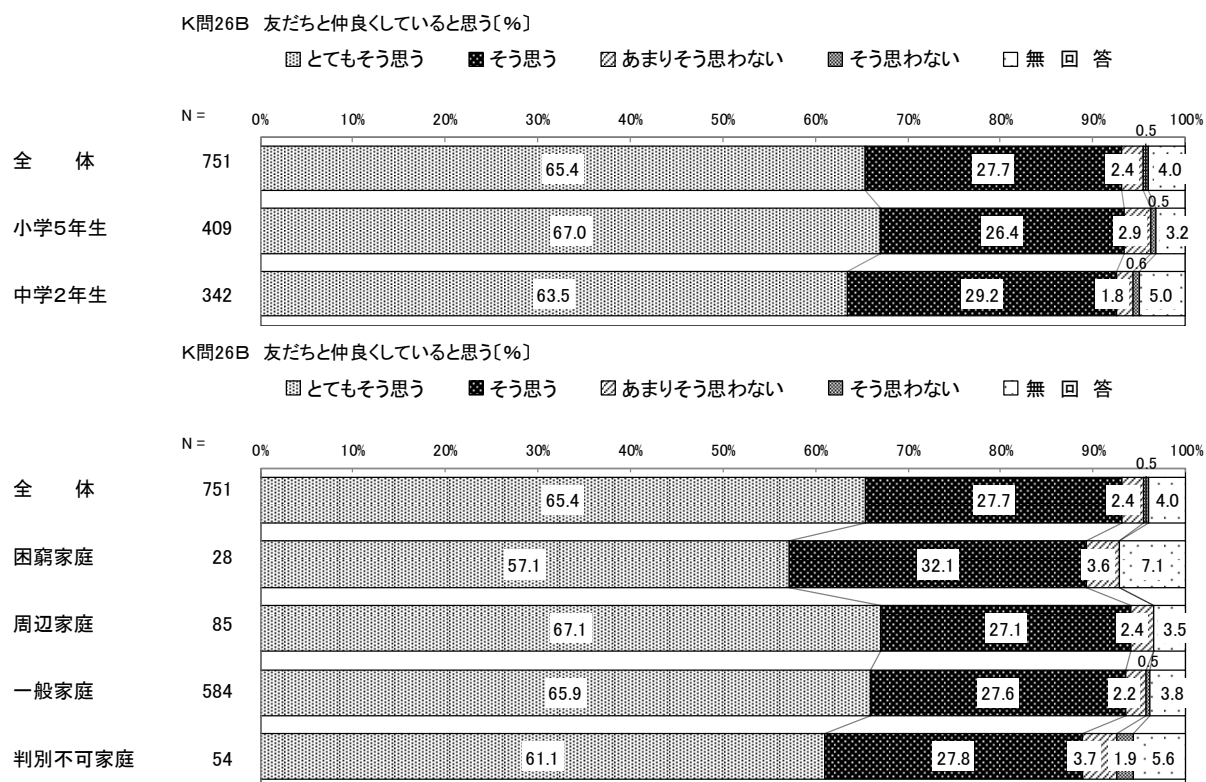


(B) 友だちと仲良くしていると思う

全体では、「とてもそう思う」が65.4%と多く、「そう思う」が27.7%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「とてもそう思う」は57.1%とやや少なく、「あまりそう思わない」が3.6%とやや多い。

図表 3.5.3K 友だちと仲良くしていると思う

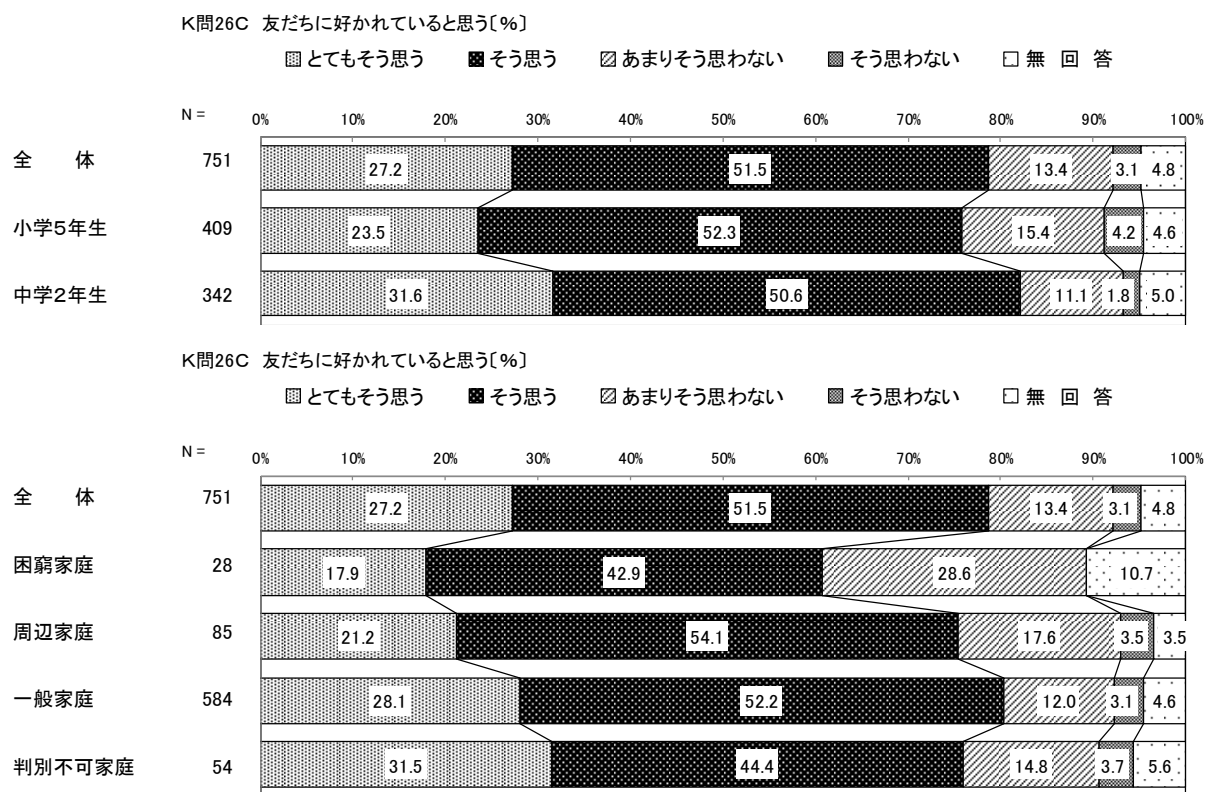


(C) 友だちに好かれていると思う

全体では、「そう思う」が51.5%と多く、「とてもそう思う」が27.2%で「あまりそう思わない」が13.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまりそう思わない」が28.6%と多い。

図表 3.5.4.K 友だちに好かれていると思う

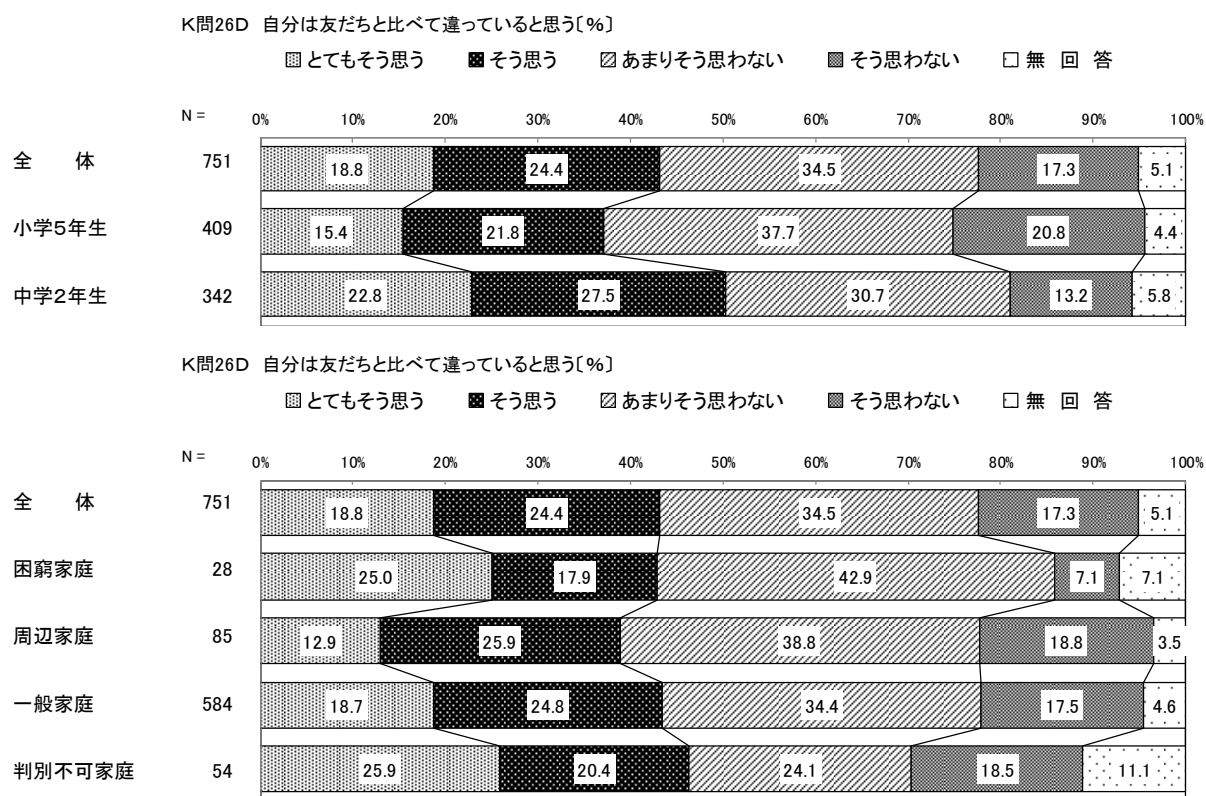


(D) 自分は友だちと比べて、違っていると思う

全体では、「あまりそう思わない」が34.5%と多く、「そう思う」が24.4%、「とてもそう思う」が18.8%、「そう思わない」が17.3%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「とてもそう思う」が25.0%と他の家庭に比べて多い。

図表 3.5.5.K 自分は友だちと比べて違っていると思う



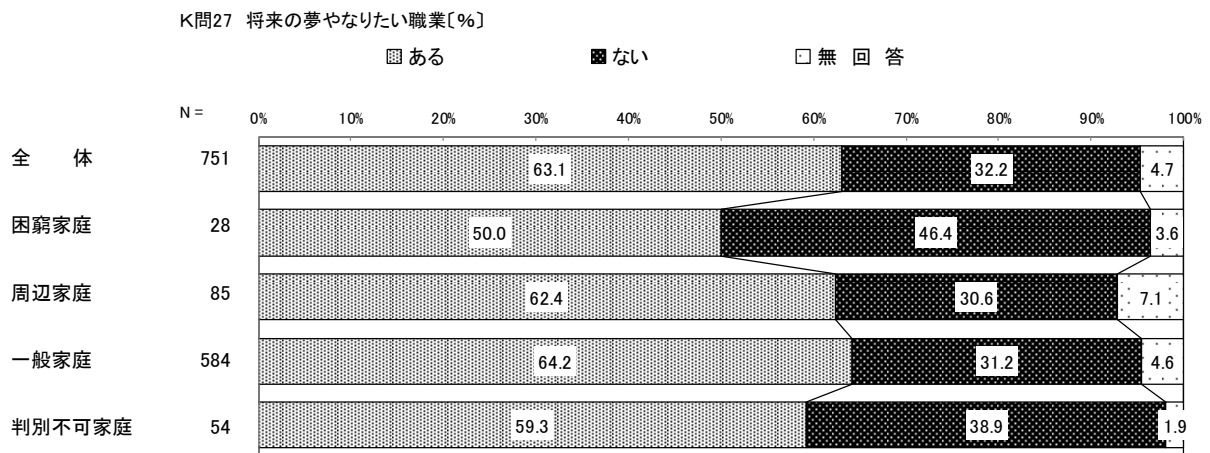
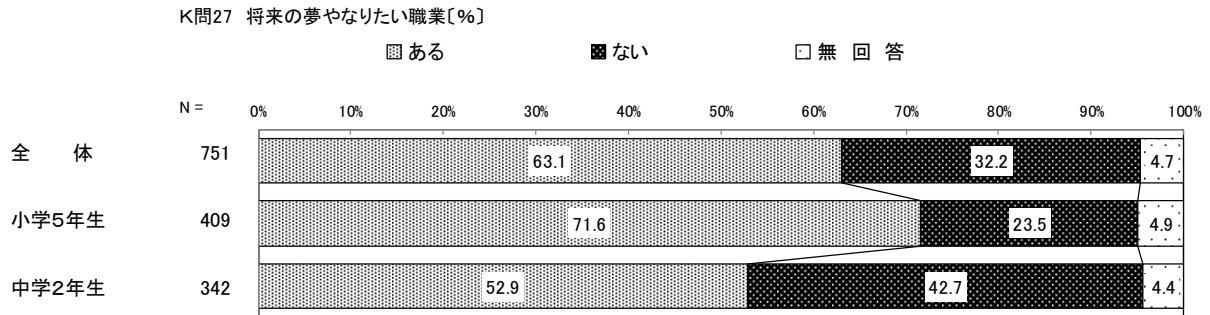
3.6 夢や進学のこと

問 27 あなたは、将来の夢や、なりたい職業がありますか。

全体では、「ある」が63.1%と多く、「ない」が32.2%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「ある」が50.0%と他の家庭に比べて少ない。

図表 3.6.1.K 将来の夢やなりたい職業



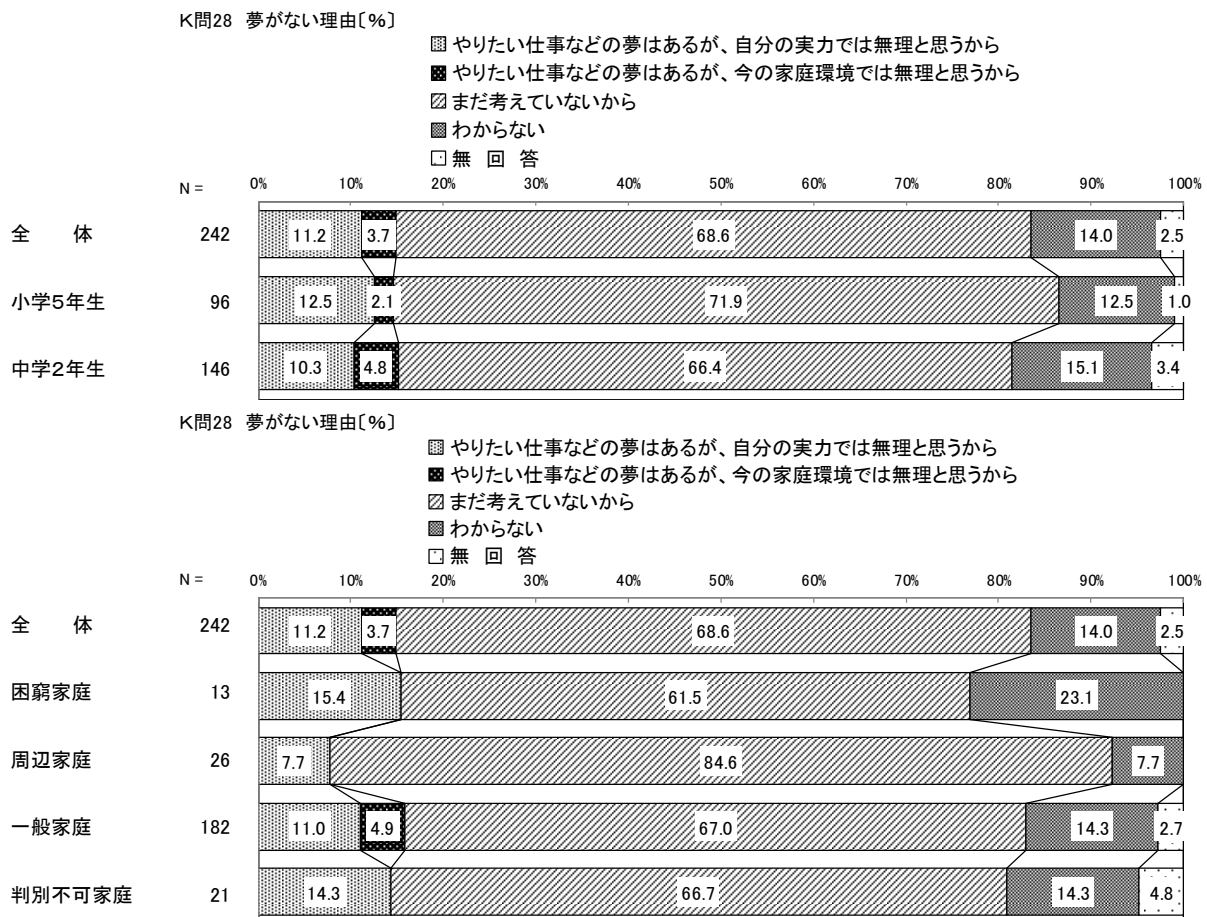
【問27で将来の夢や、なりたい職業が「2 ない」と答えた人におききします。】

問28 将来の夢がない理由は何ですか。

全体では、「まだ考えていないから」が68.6%と多く、「わからない」が14.0%、「やりたい仕事などの夢はあるが、自分の実力では無理と思うから」が11.2%と続いている。

生活困難度別では、周辺家庭で「まだ考えていないから」は84.6%と最も多く、困窮家庭で「わからない」が23.1%、「やりたい仕事などの夢はあるが、自分の実力では無理と思うから」が15.4%と多い。

図表 3.6.2K 夢がない理由

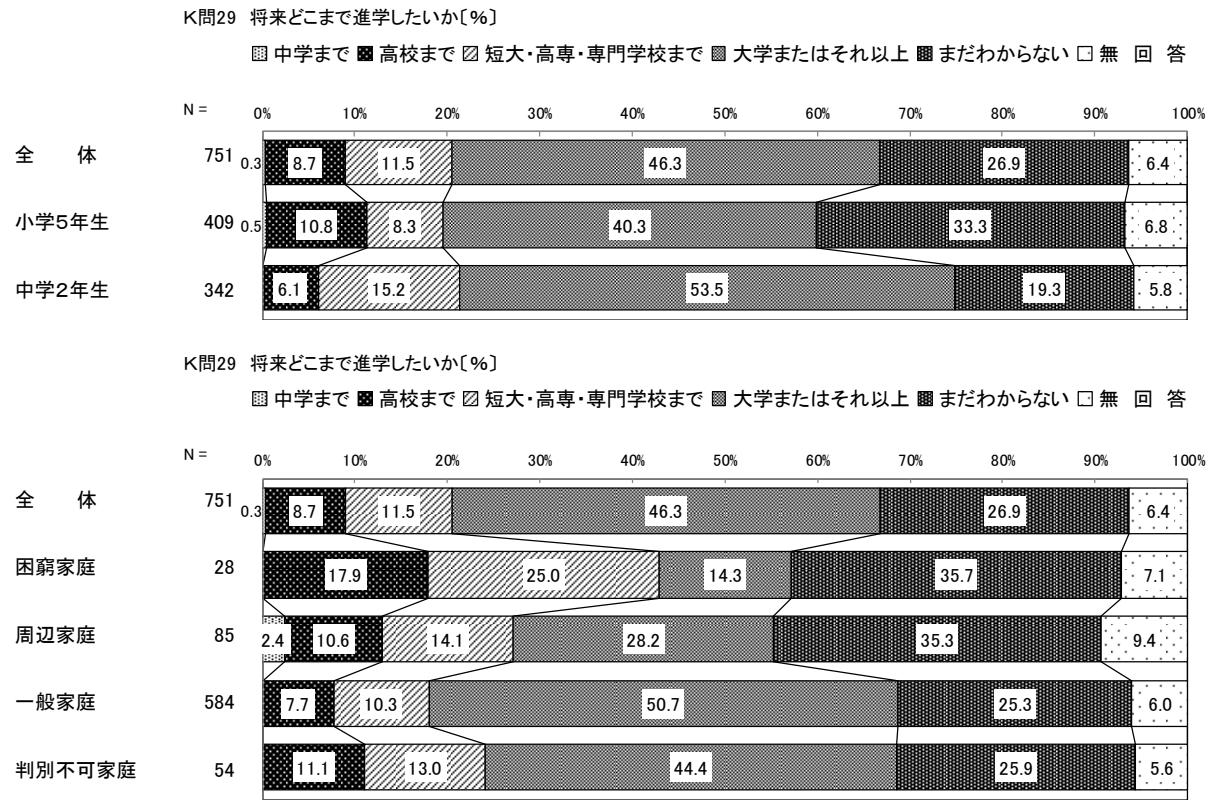


問 29 あなたの希望としては、どこまで進学したいですか。

全体では、「大学またはそれ以上」が46.3%と多く、「まだわからない」が26.9%、「短大・高専・専門学校まで」が11.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「大学まで」が14.3%と少なく、「まだわからない」が35.7%、「短大・高専・専門学校まで」が25.0%、「高校まで」が17.9%とそれぞれ多い。

図表 3.6.3.K 将来どこまで進学したいか

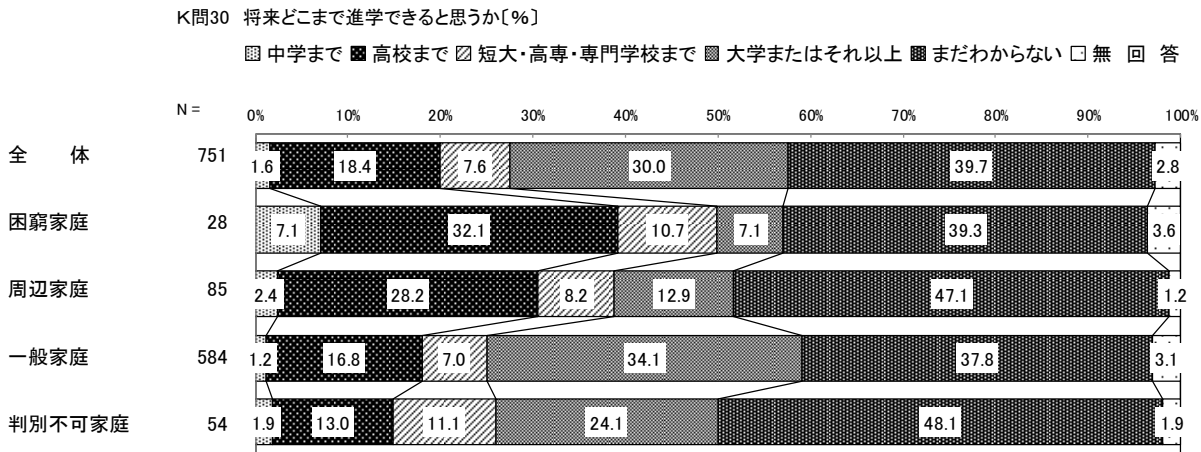
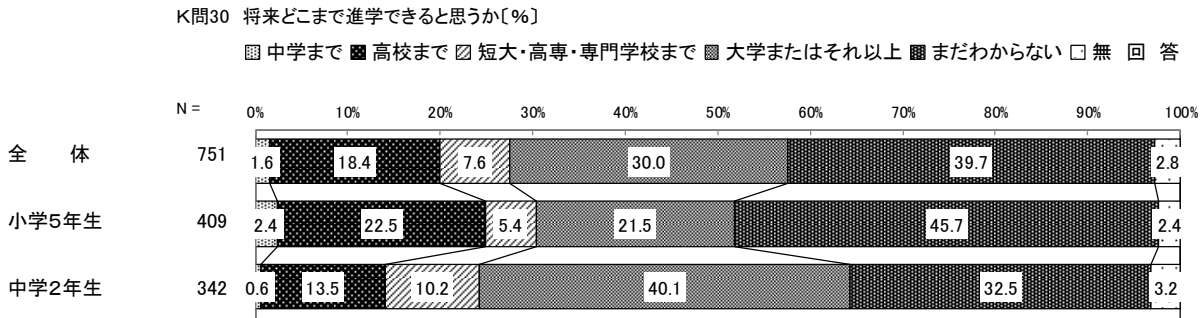


問 30 あなたは実際には、どこまで進学できると思いますか。

全体では、「まだわからない」が39.7%と多く、「大学またはそれ以上」が30.0%、「高校まで」が18.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「大学またはそれ以上」が7.1%と少なく、「高校まで」が32.1%、「短大・高専・専門学校まで」が10.7%、「中学まで」が7.1%と多い。

図表 3.6.4.K 将来どこまで進学できると思うか

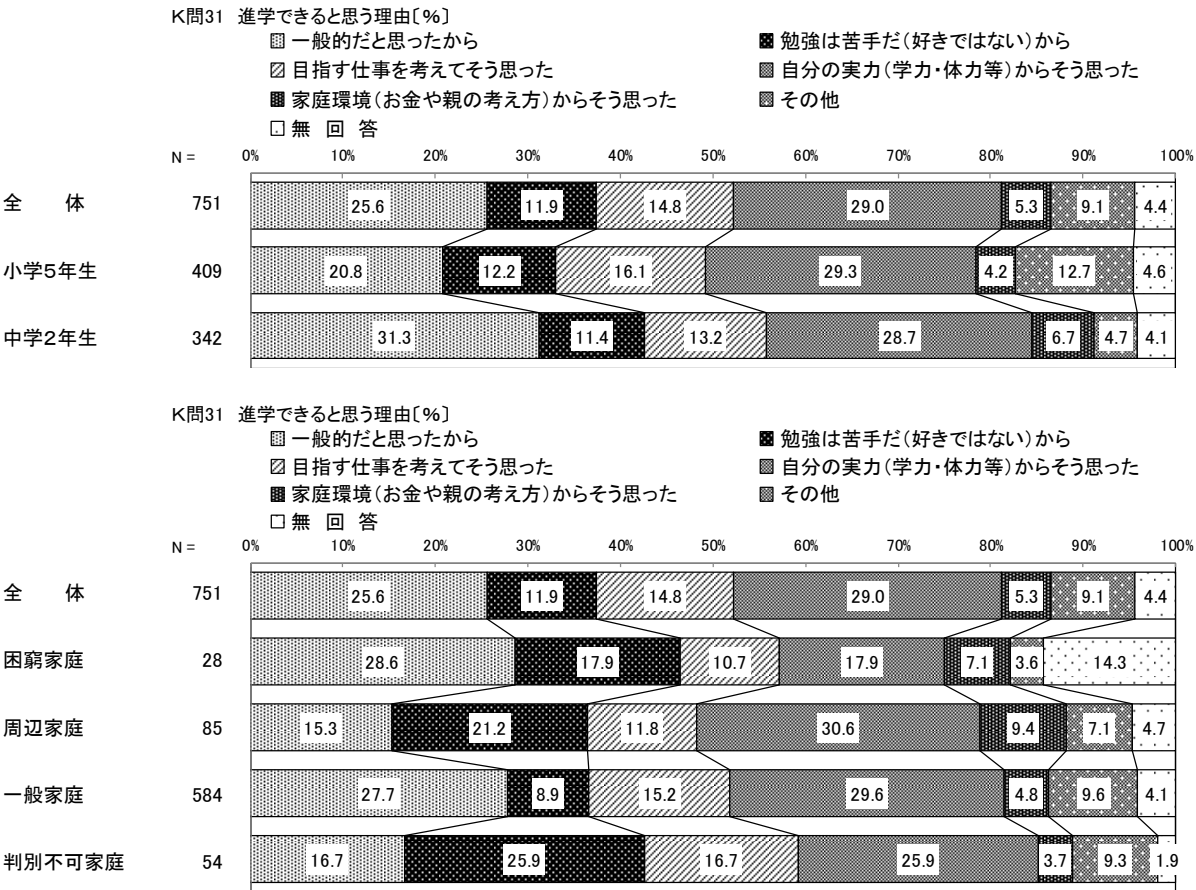


問 31 問 30 で答えた理由を教えてください。

全体では、「自分の実力（学力・体力等）からそう思った」が29.0%と多く、「一般的だと思ったから」が25.6%、「目指す仕事を考えてそう思った」が14.8%、「勉強は苦手だ（好きではない）から」が11.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「自分の実力（学力・体力等）からそう思った」が17.9%と他の家庭に比べて少なく、周辺家庭で「勉強は苦手だ（好きではない）から」が21.2%と多い。

図表 3.6.5.K 進学できると思う理由



3.7 ふだん考えていること

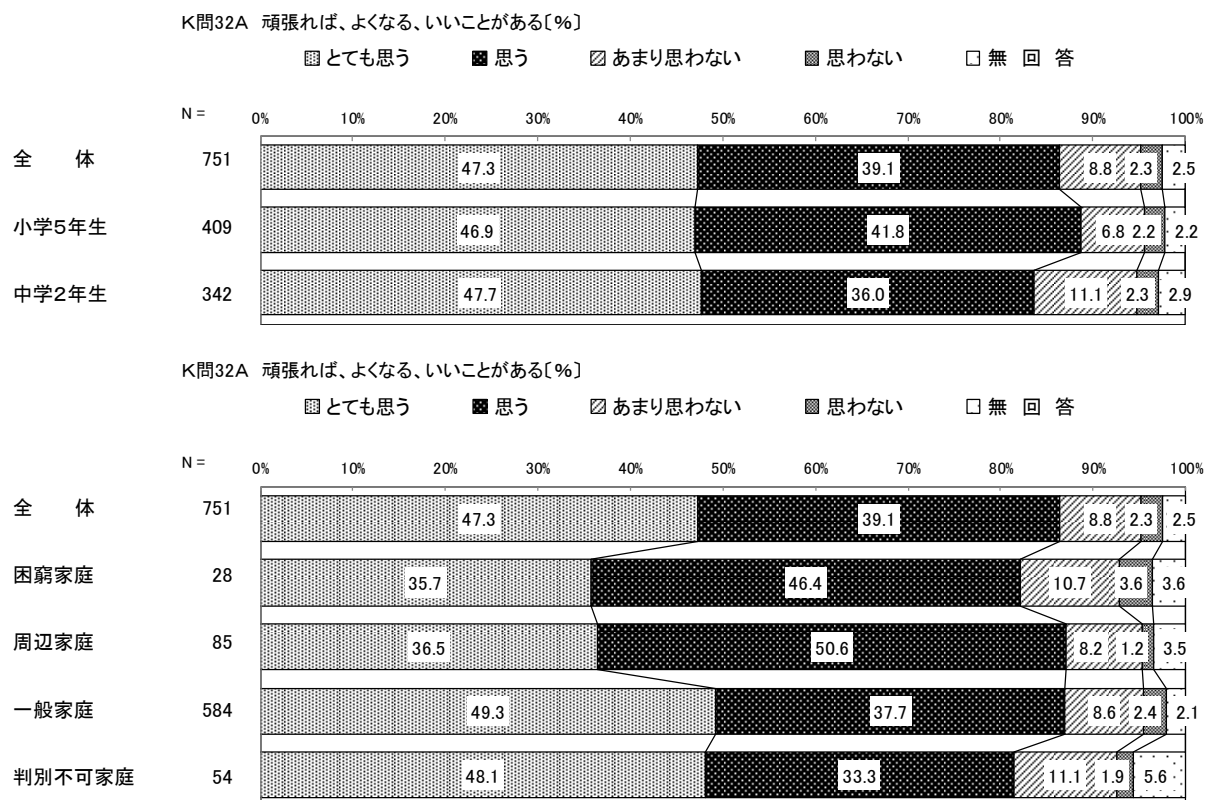
問 32 あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いもの。

(A) 頑張れば、よくなる、いいことがある

全体では、「とても思う」が47.3%と多く、「思う」が39.1%と続いている。

生活困難度別では、一般家庭に比べて困窮家庭、周辺家庭で「とても思う」はそれぞれ35%程度と少ないが、「思う」が50%前後と多い。

図表 3.7.1.K 頑張れば、よくなる、いいことがある

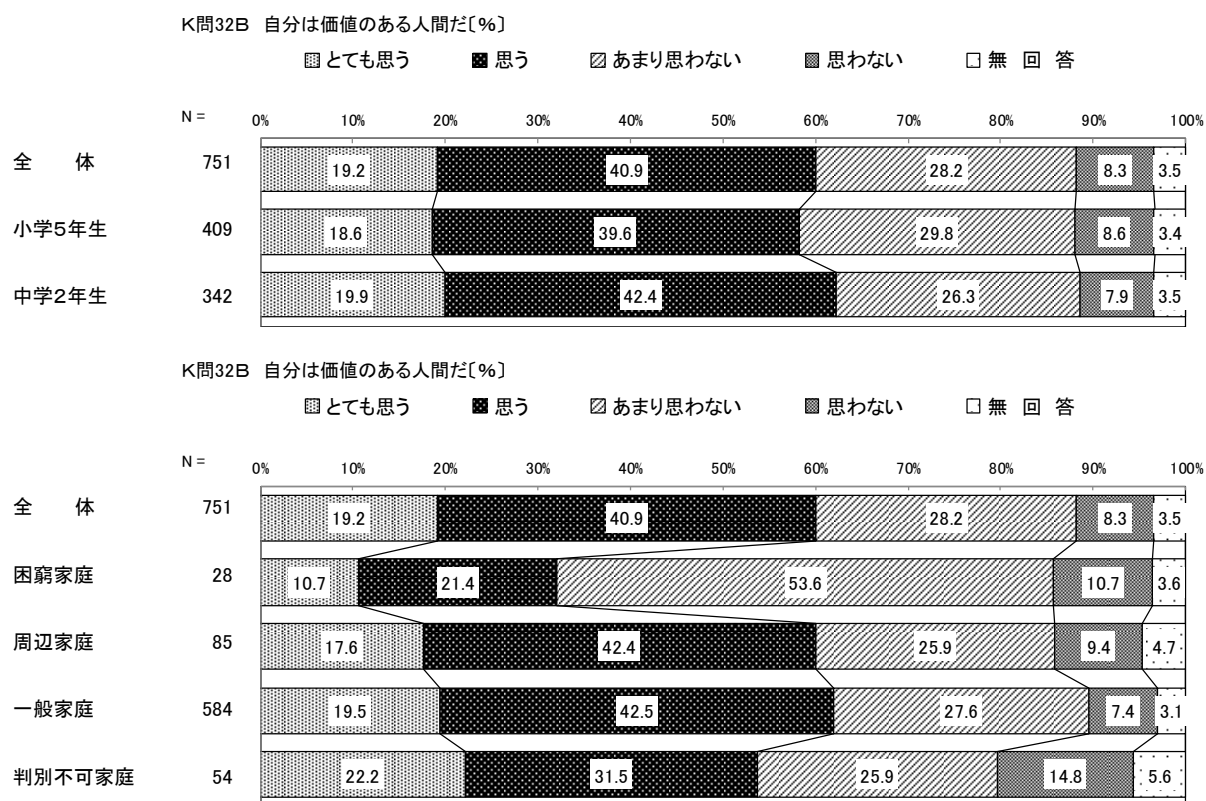


(B) 自分は価値のある人間だ

全体では、「思う」は40.9%と多く、「あまり思わない」が28.2%、「とても思う」が19.2%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまり思わない」が53.6%と多い。

図表 3.7.2K 自分は価値のある人間だ

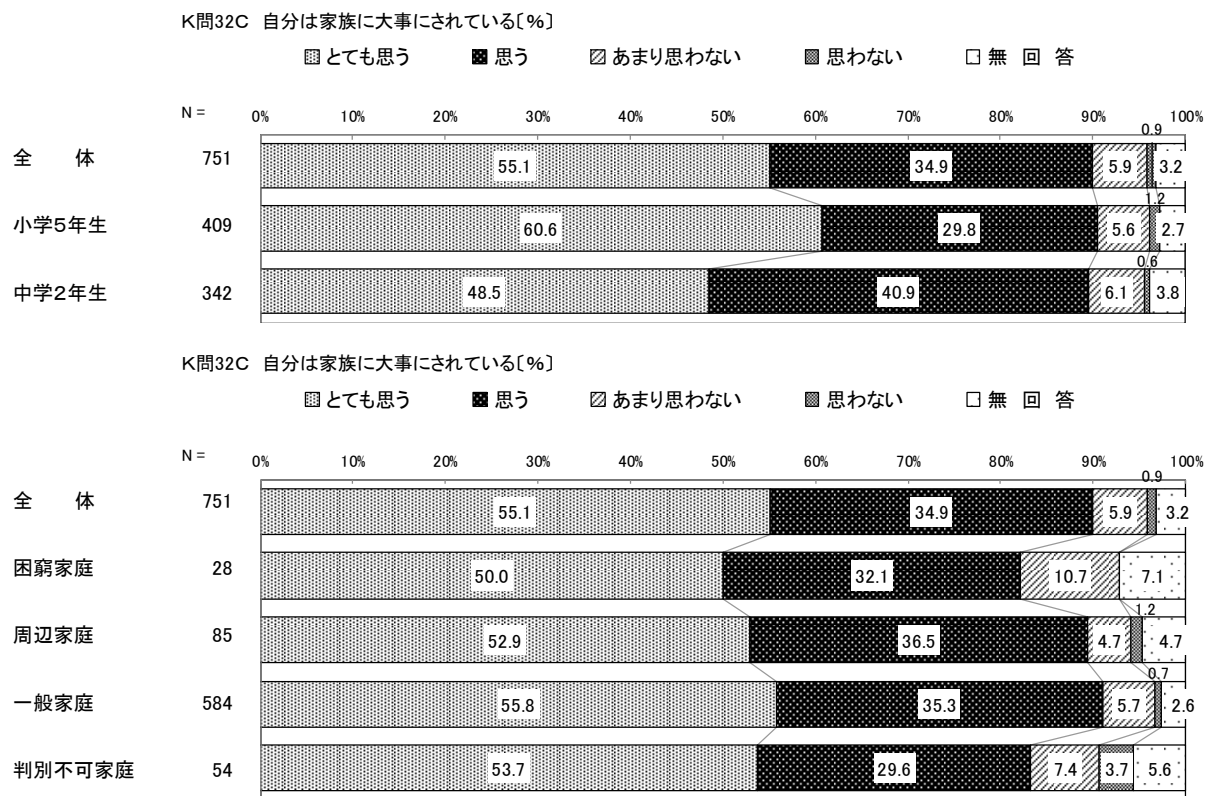


(C) 自分は家族に大事にされている

全体では、「とても思う」が55.1%と多く、「思う」が34.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまり思わない」が10.7%とやや多い。

図表 3.7.3.K 自分は家族に大事にされている

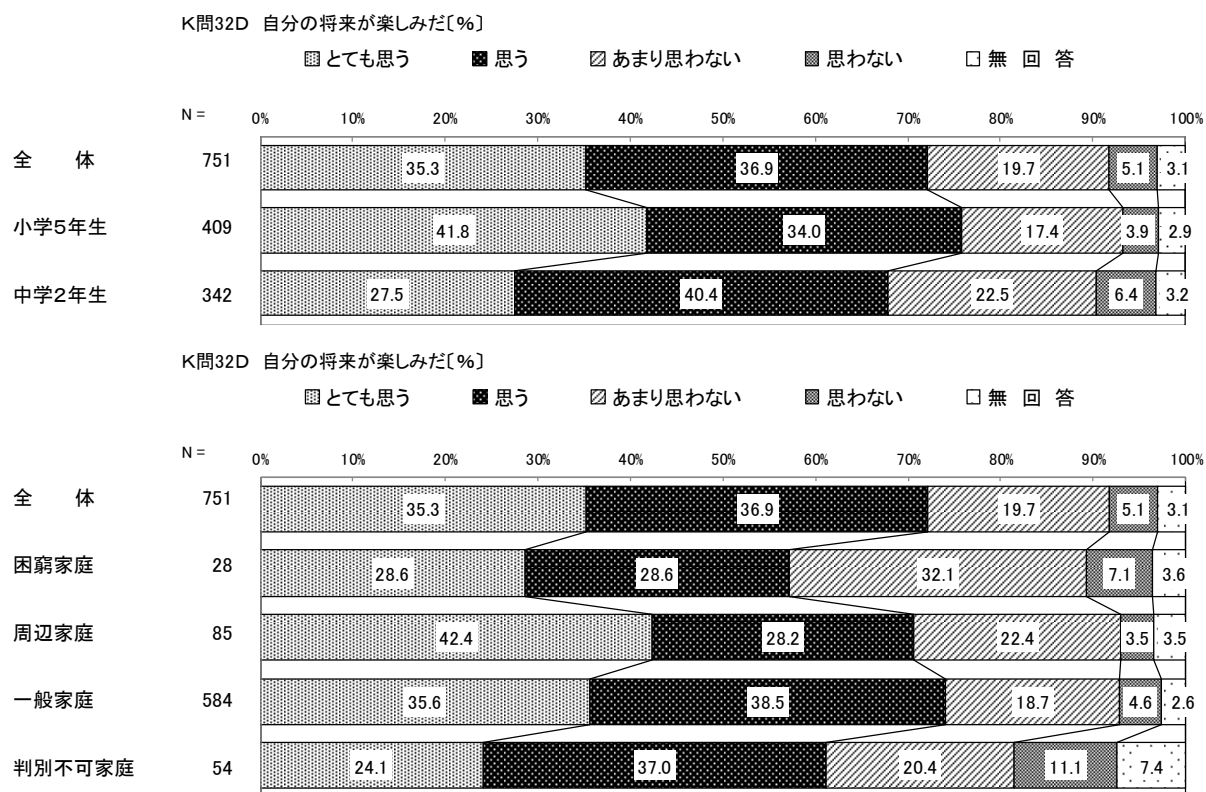


(D) 自分の将来が楽しみだ

全体では、「思う」が36.9%と多く、「とても思う」が35.3%、「あまり思わない」が19.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまり思わない」が32.1%と他の家庭に比べて多い。「とても思う」は周辺家庭で42.4%と最も多い。

図表 3.7.4.K 自分の将来が楽しみだ

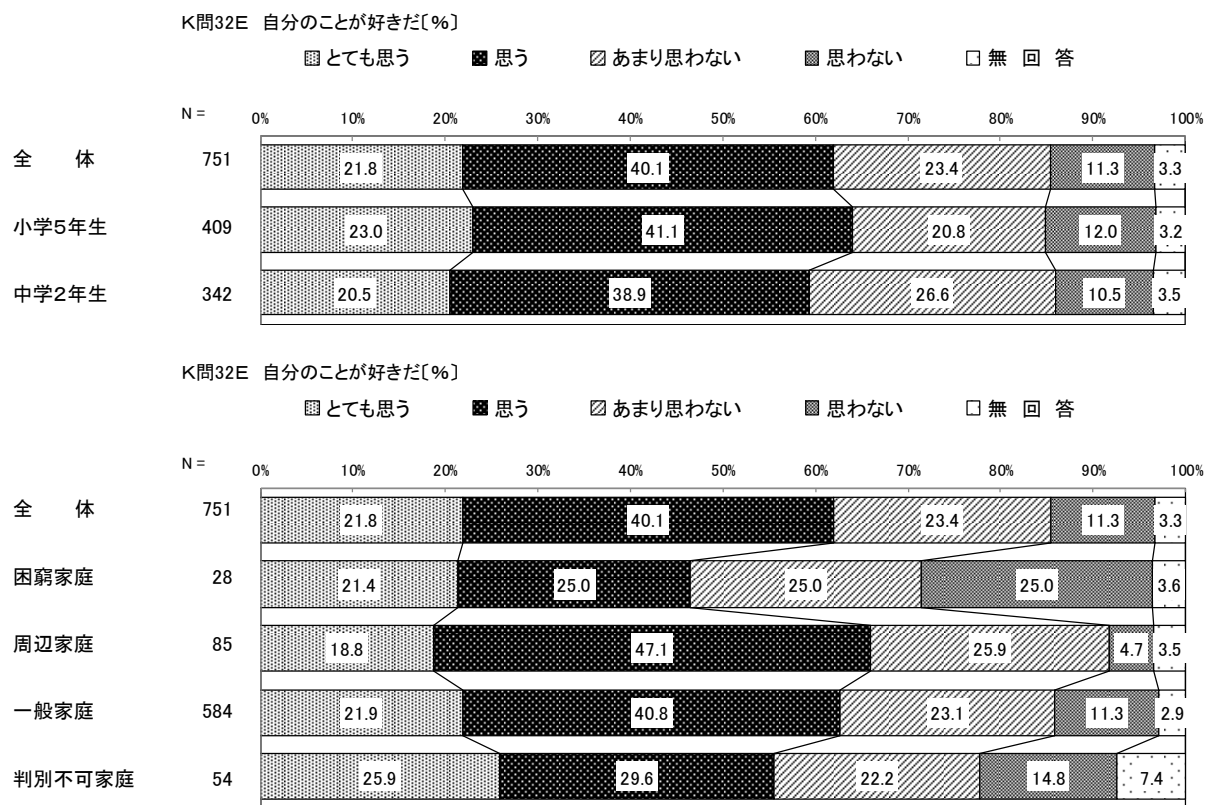


(E) 自分のことが好きだ

全体では、「思う」が40.1%と多く、「あまり思わない」が23.4%、「とても思う」が21.8%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「思う」が25.0%と少なく、「思わない」が25.0%と多い。

図表 3.7.5K 自分のことが好きだ

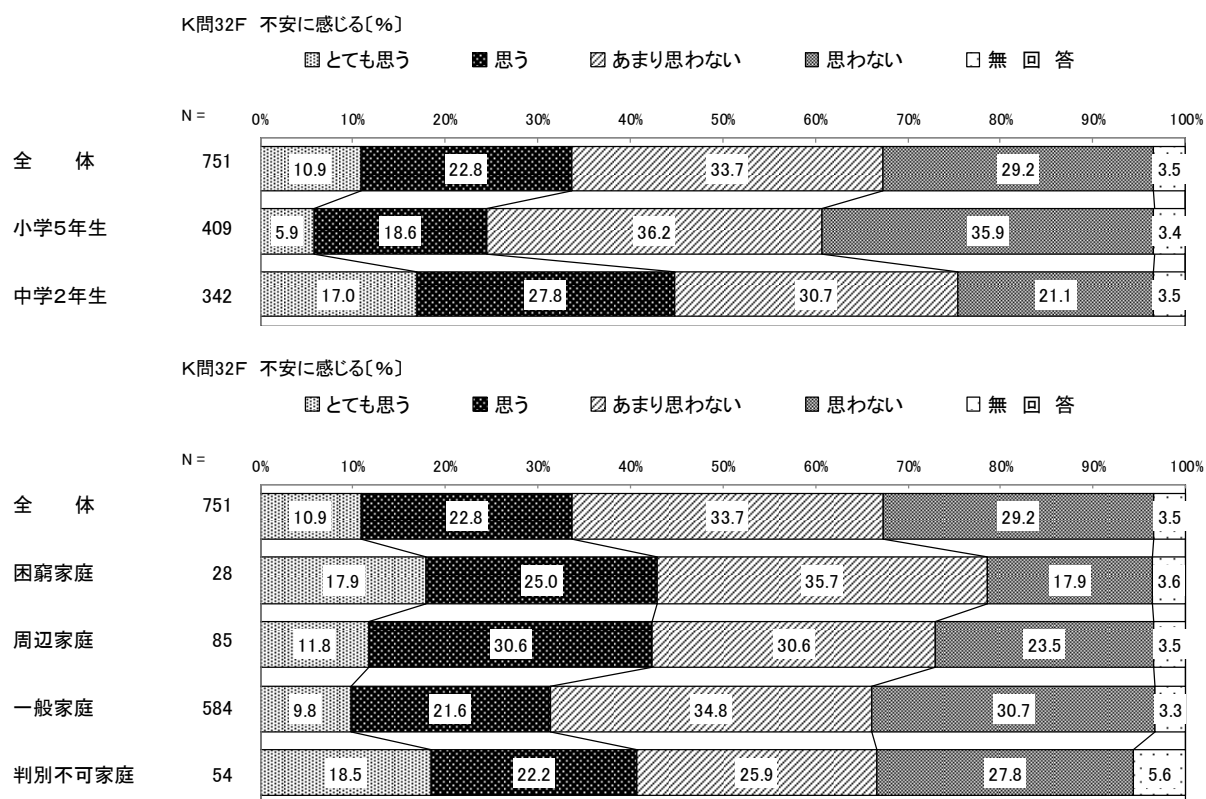


(F) 不安を感じる

全体では、「あまり思わない」が33.7%と多く、「思わない」が29.2%、「思う」が22.8%、「とても思う」が10.9%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「とても思う」が17.9%と多い。

図表 3.7.6.K 不安を感じる

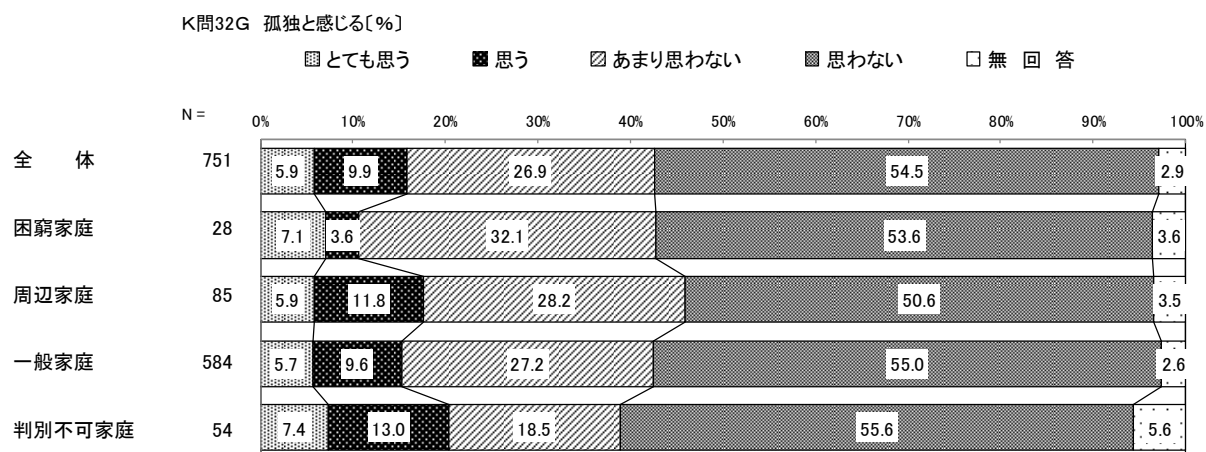
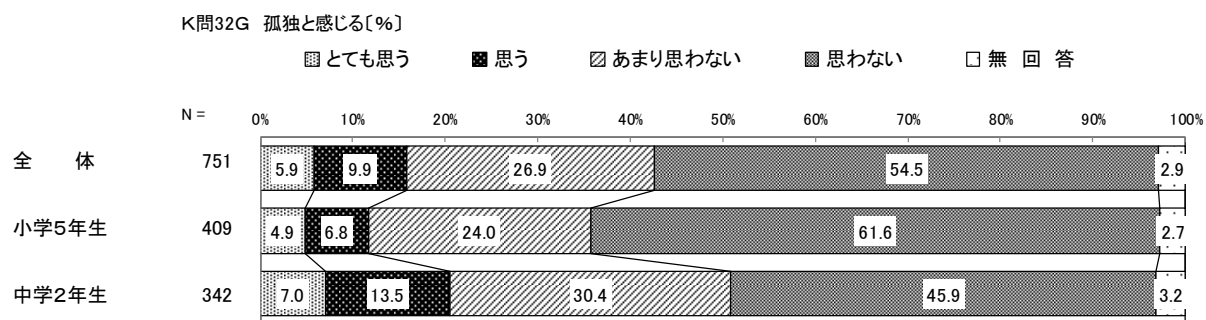


(G) 孤独（ひとりぼっちのような気がしてさびしい）と感じる

全体では、「思わない」が54.5%と最も多く、「あまり思わない」の26.9%と続いており、「思う」が9.9%、「とても思う」は5.9%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「とても思う」が7.1%とやや多く、周辺家庭で「思う」が11.8%とやや多い。

図表 3.7.7.K 孤独を感じる

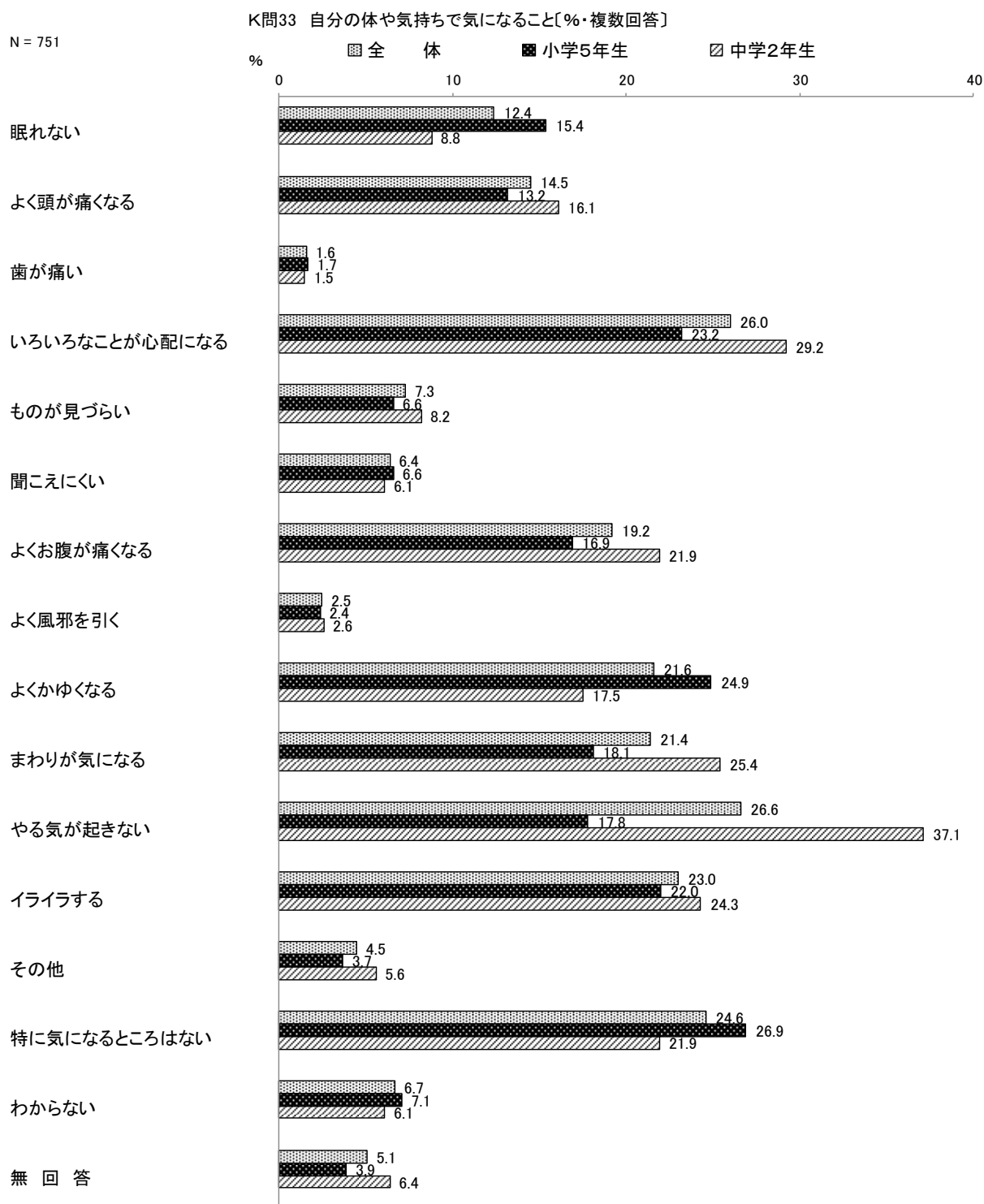


問 33 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

全体では、「やる気が起きない」と「いろいろなことが心配になる」がともに26%台で多く、「特に気になるところはない」が24.6%、「イライラする」が23.0%、「よくかゆくなる」が21.6%、「まわりが気になる」が21.4%と続いている。

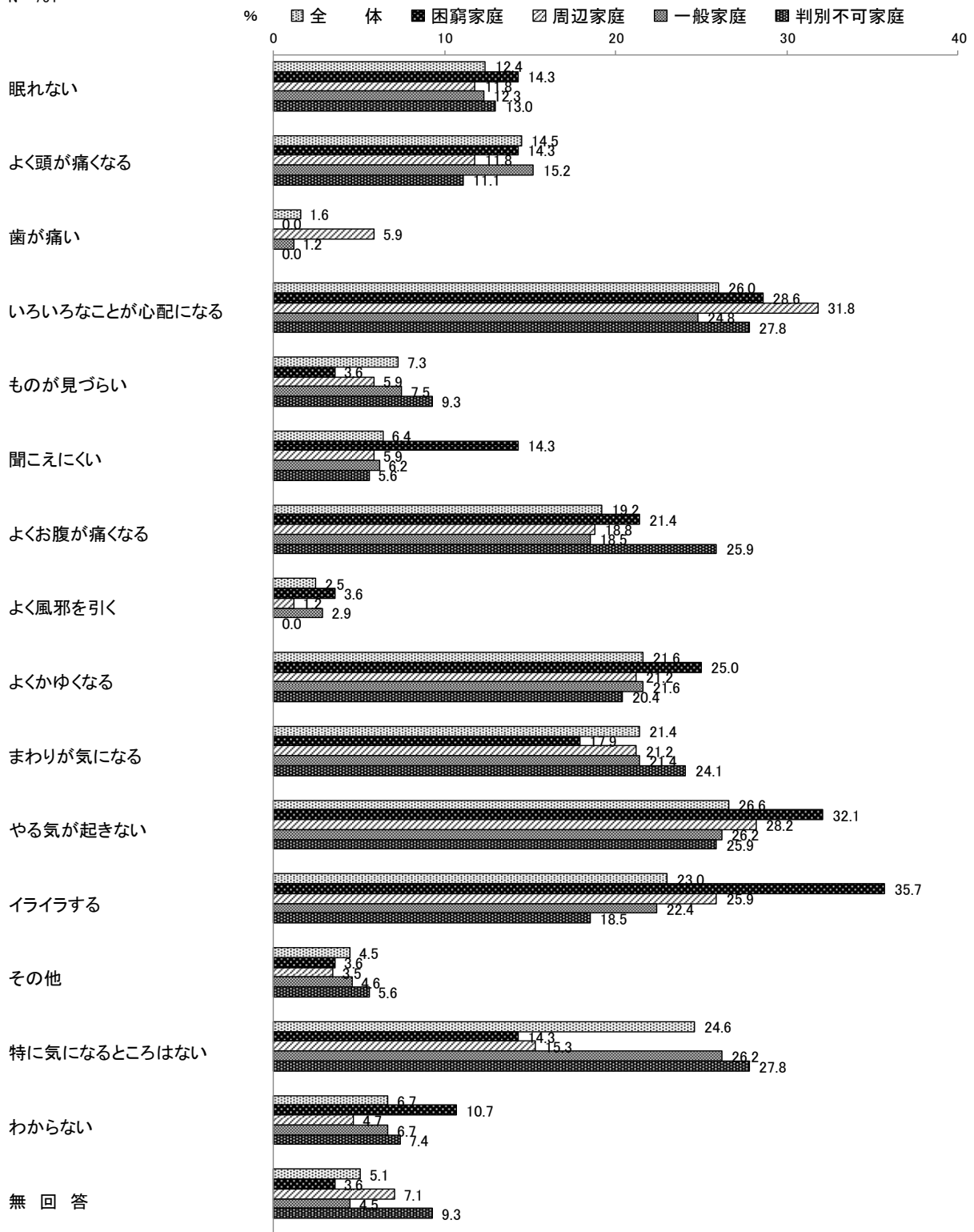
生活困難度別では、困窮家庭で「イライラする」が35.7%、「やる気が起きない」が32.1%、「よくかゆくなる」が25.0%、「聞こえにくい」が14.3%と多く、周辺家庭で「いろいろなことが心配になる」が31.8%と多い。

図表 3.7.8K 自分の体や気持ちで気になること



N = 751

K問33 自分の体や気持ちで気になること[%・複数回答]



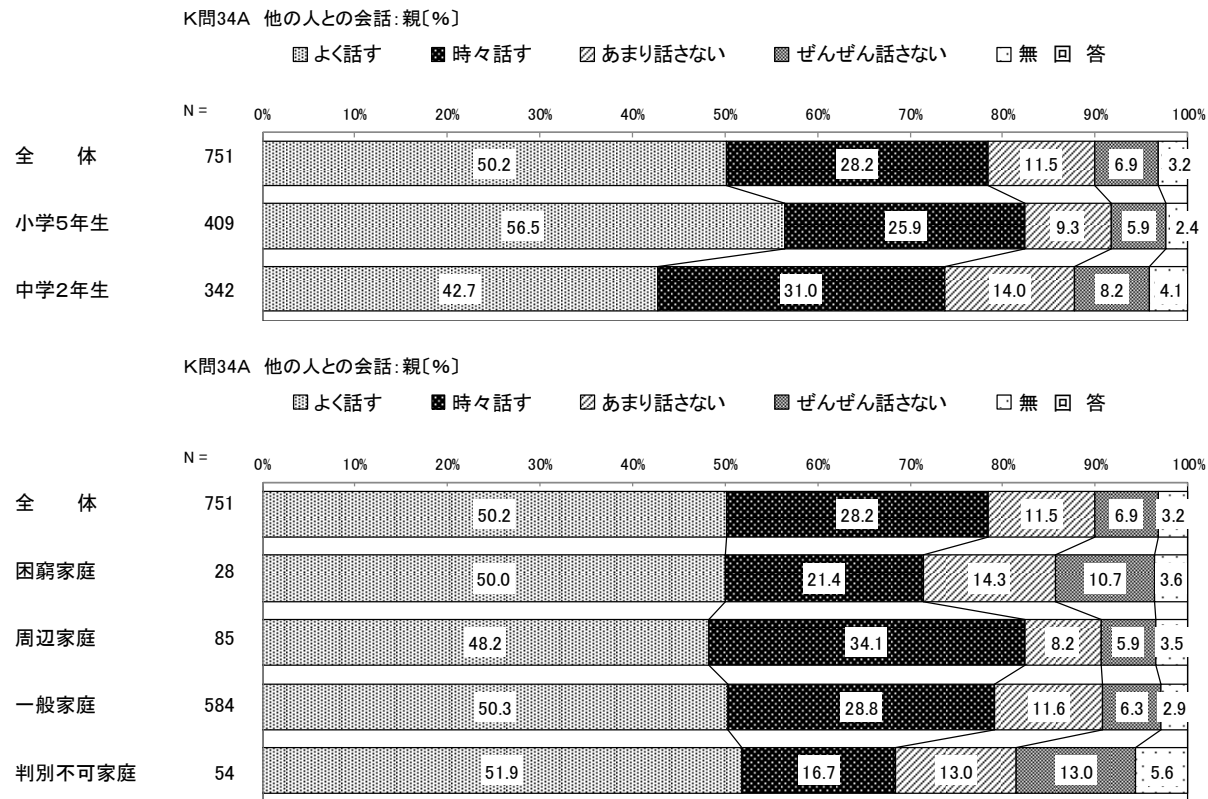
問 34 あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。

(A) 親

全体では、「よく話す」が50.2%と多く、「時々話す」が28.2%、「あまり話さない」が11.5%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまり話さない」が14.3%、「ぜんぜん話さない」が10.7%と多い。

図表 3.7.9.K 他の人との会話:親

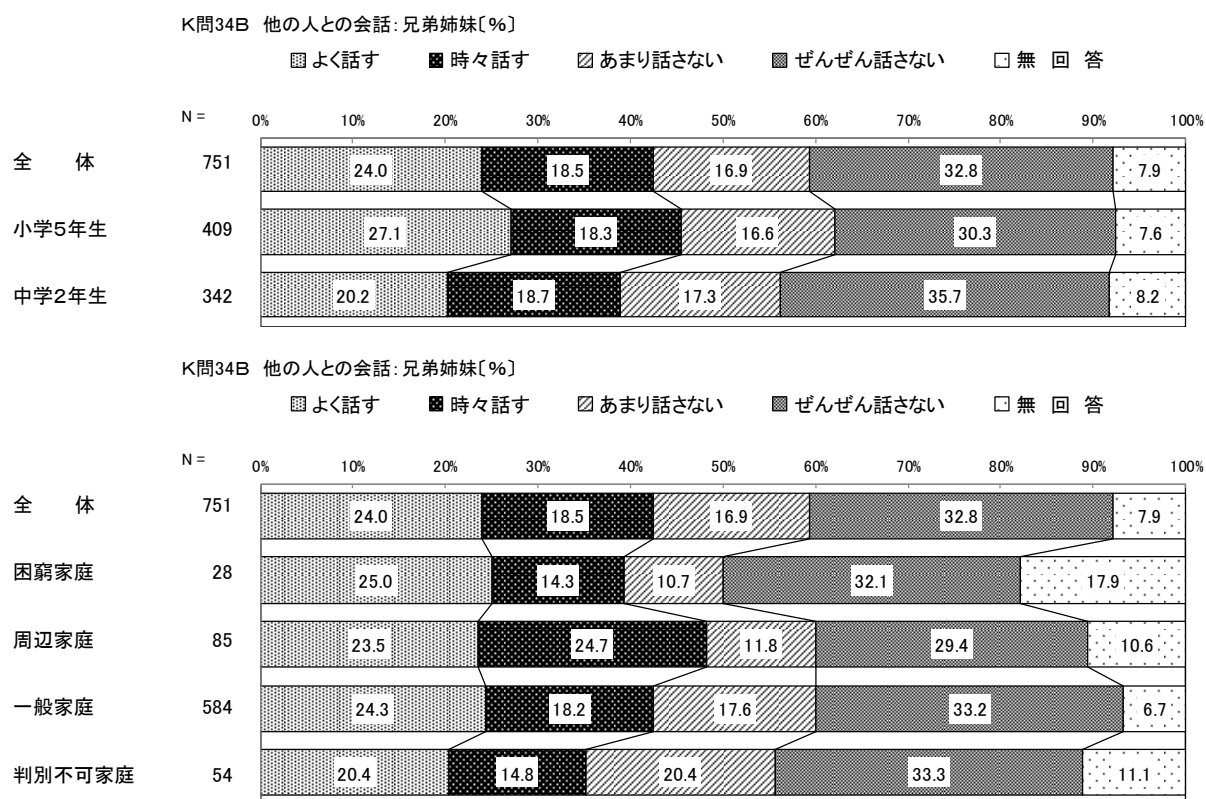


(B) 兄弟姉妹

全体では、「ぜんぜん話さない」が32.8%と多く、「よく話す」が24.0%、「時々話す」が18.5%、「あまり話さない」が16.9%と続いている。

生活困難度別では、周辺家庭で「時々話す」が24.7%と多い。

図表 3.7.10.K 他の人との会話:兄弟姉妹

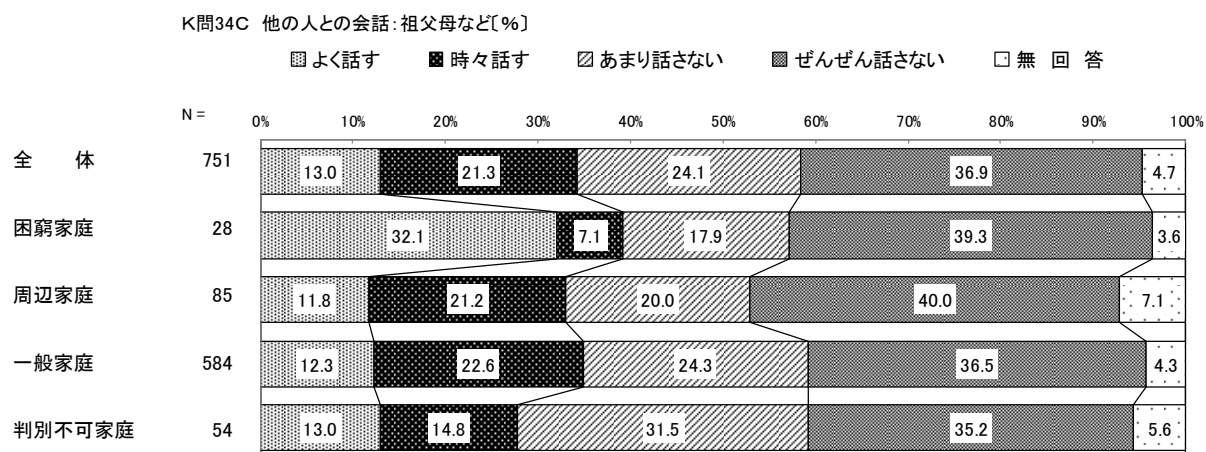
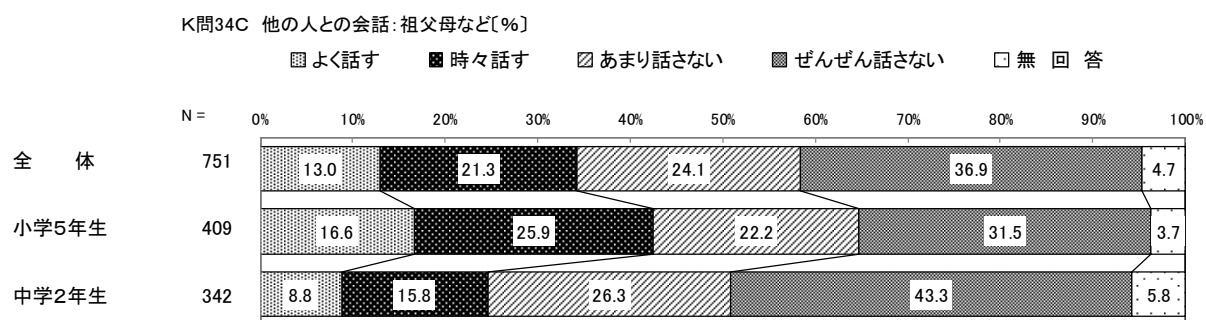


(C) 祖父母

全体では、「ぜんぜん話さない」が36.9%と多く、「あまり話さない」が24.1%、「時々話す」が21.3%、「よく話す」が13.0%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よく話す」が32.1%と最も多い。

図表 3.7.11.K 他の人との会話:祖父母など

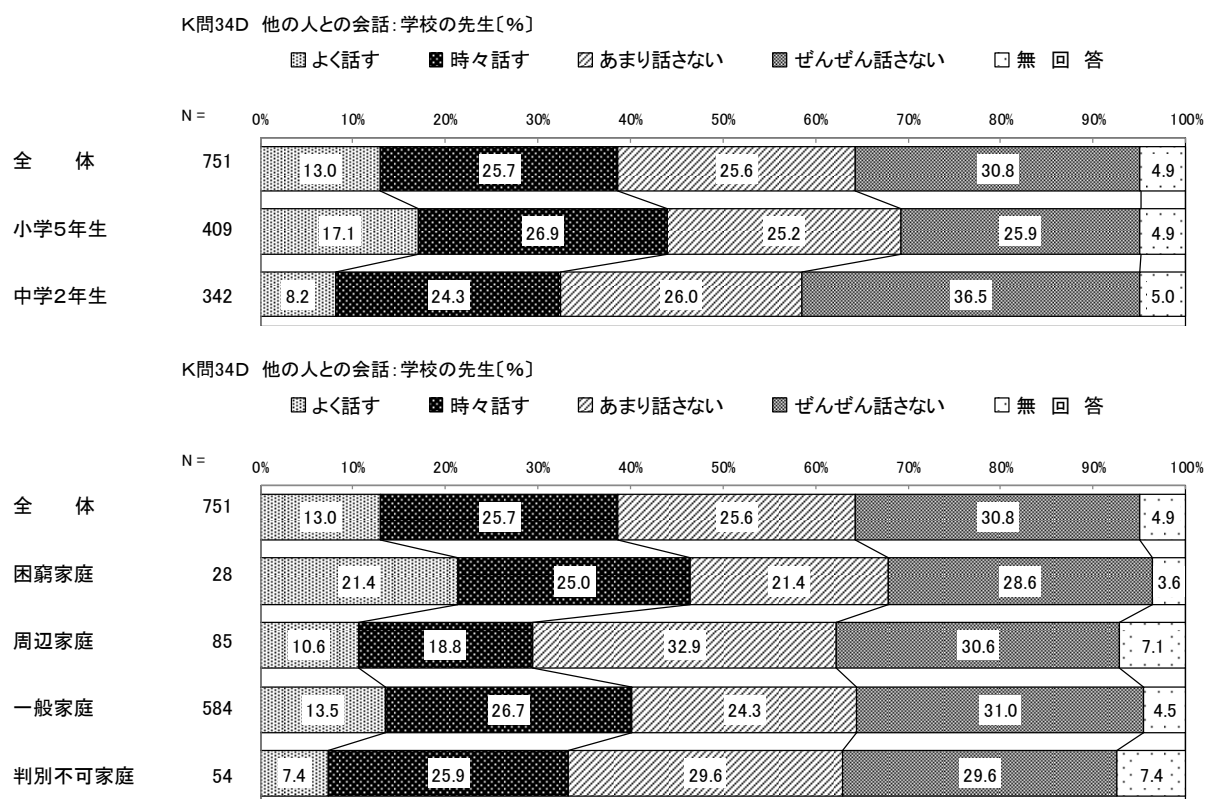


(D) 学校の先生

全体では、「ぜんぜん話さない」が30.8%と多く、「時々話す」と「あまり話さない」はともに25%台、「よく話す」が13.0%で続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「よく話す」が21.4%と多い。

図表 3.7.12K 他の人との会話:学校の先生

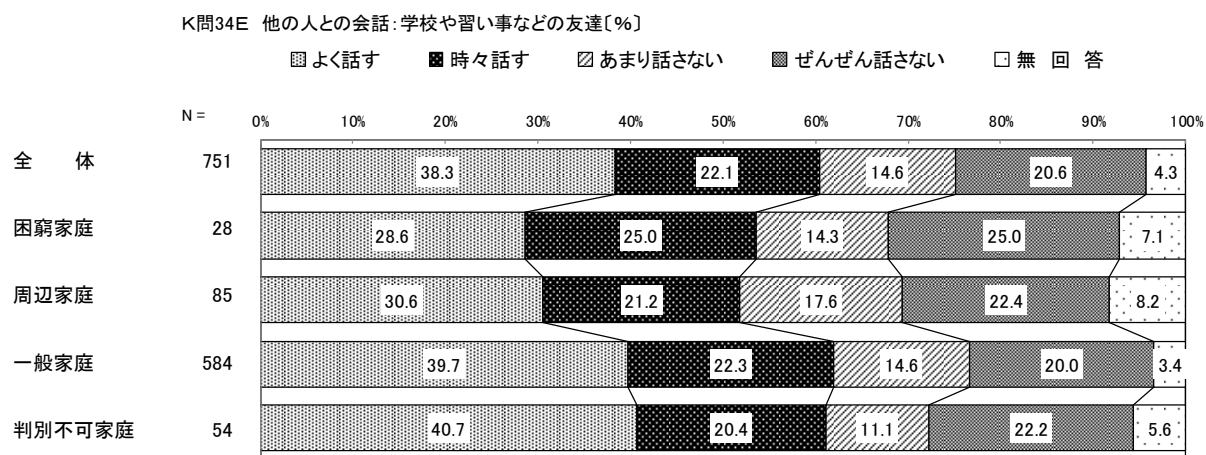
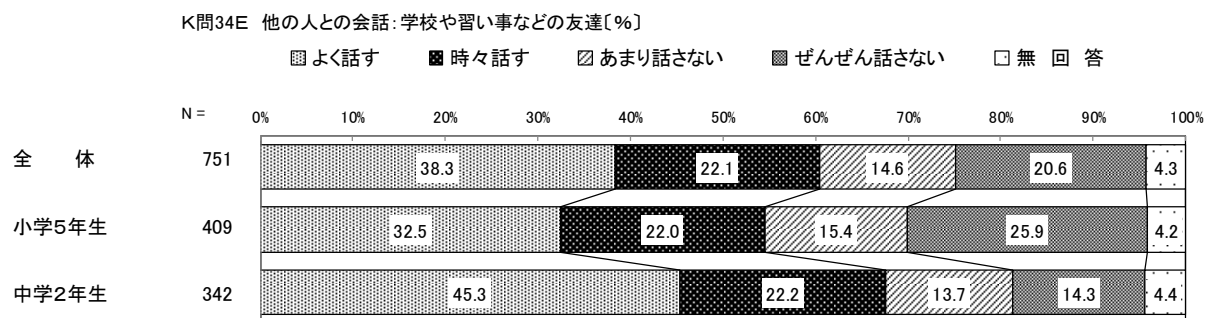


(E) 学校や習い事などの友だち（先輩・後輩を含む）

全体では、「よく話す」が38.3%と多く、「時々話す」が22.1%、「ぜんぜん話さない」が20.6%、「あまり話さない」が14.6%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭、周辺家庭で「よく話す」が30%前後と一般家庭に比べて少ない。

図表 3.7.13.K 他の人との会話:学校や習い事などの友達

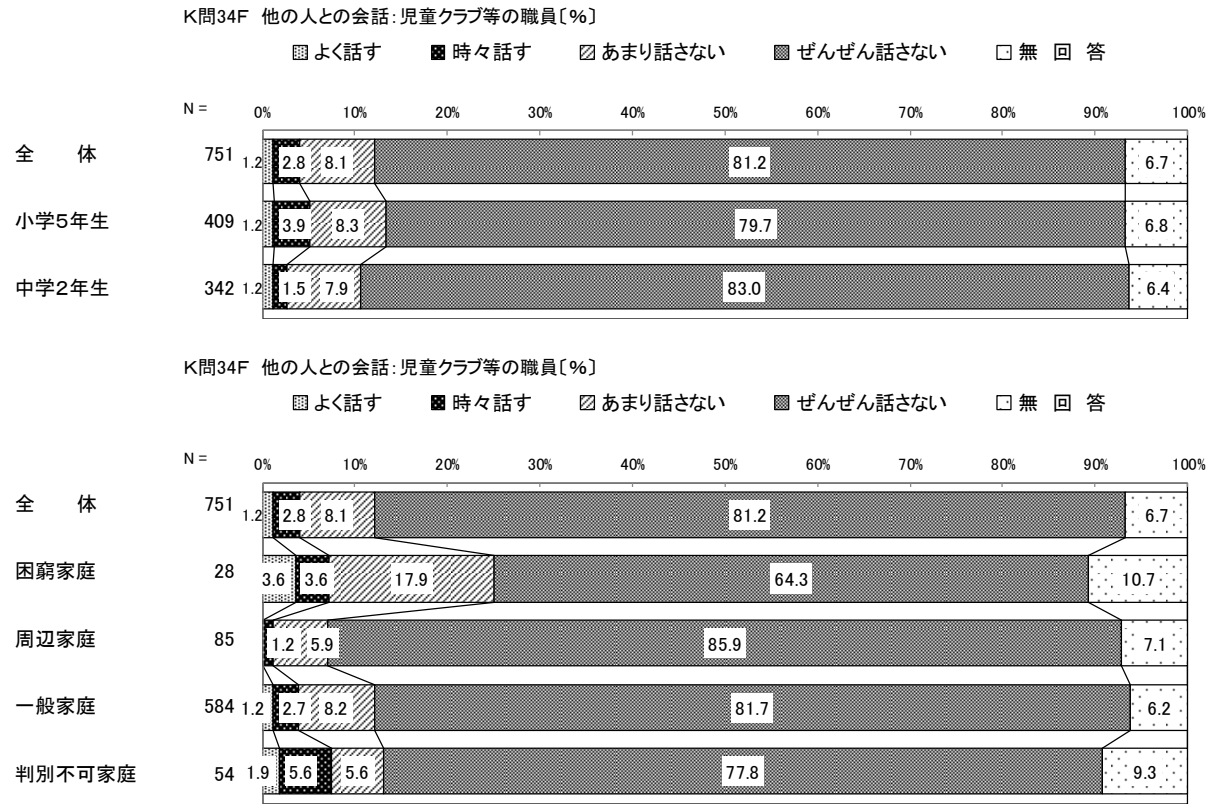


(F) 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館の職員

全体では、「ぜんぜん話さない」が81.2%と大半を占めている。

生活困難度別では、困窮家庭で「あまり話さない」が17.9%、「よく話す」と「時々話す」がともに3.6%とそれぞれ他の家庭に比べて多い。

図表 3.7.14.K 他の人との会話:児童クラブ等の職員

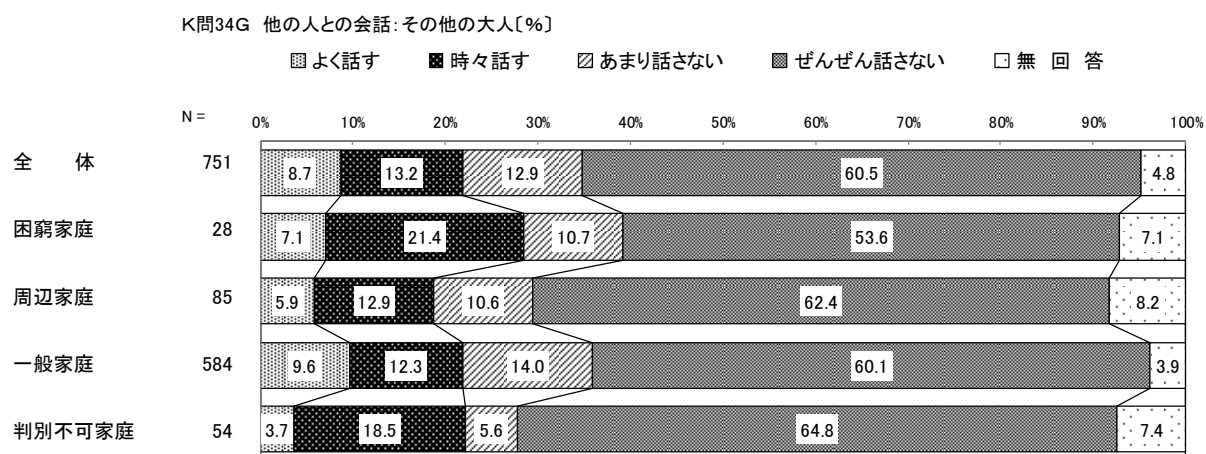
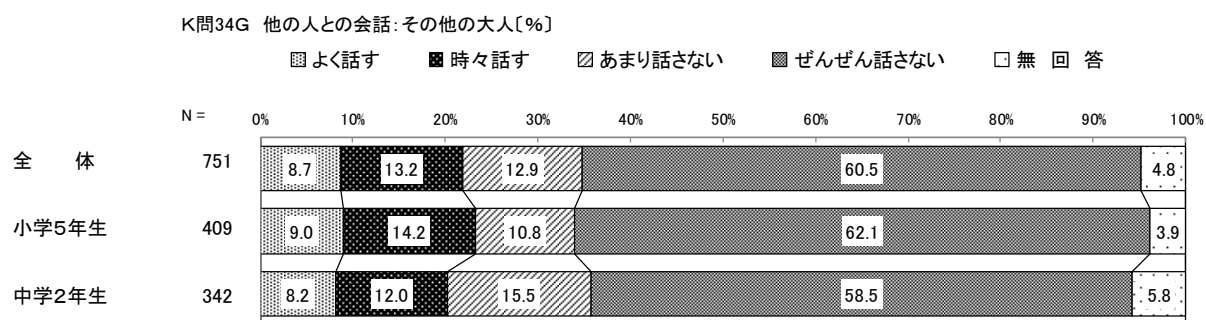


(G) その他の大人（地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）

全体では、「ぜんぜん話さない」が60.5%と多く、「時々話す」が13.2%、「あまり話さない」が12.9%、「よく話す」が8.7%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「時々話す」が21.4%と多い。

図表 3.7.15.K 他の人との会話:その他の大人



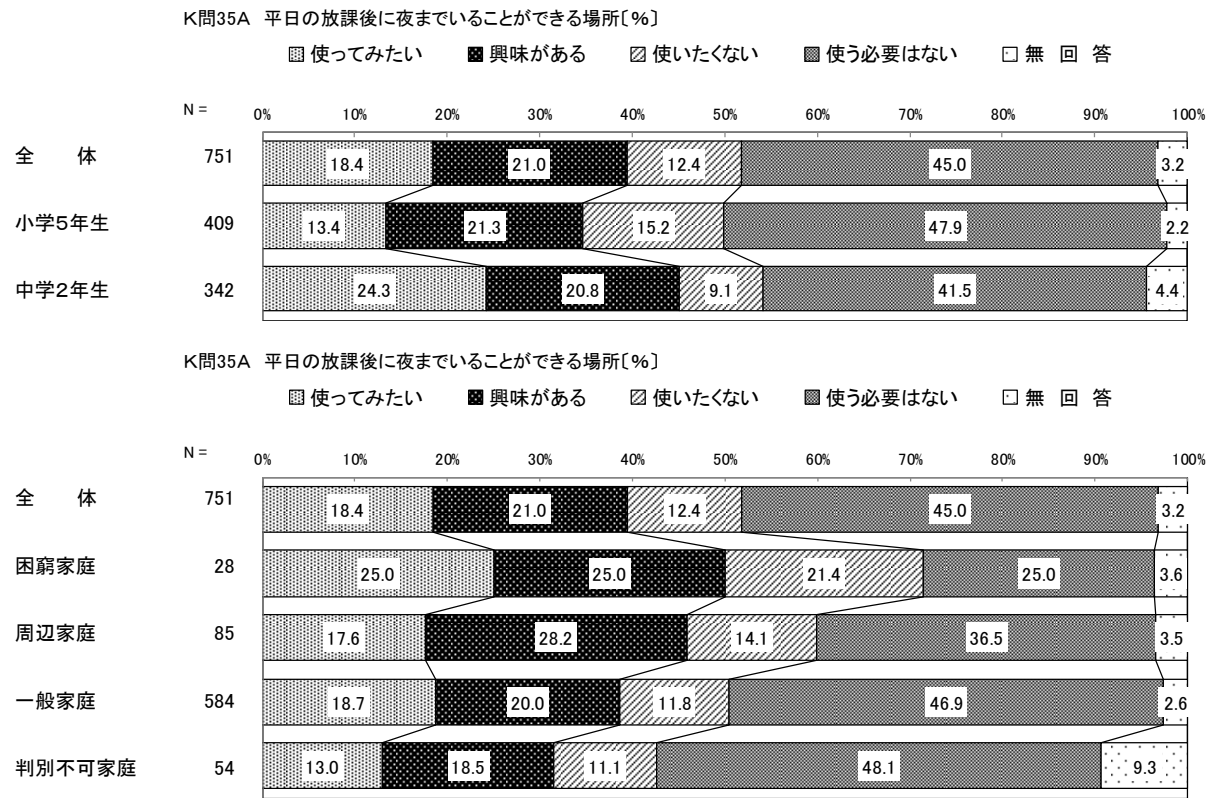
問 35 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いますか。

(A) (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

全体では、「使う必要はない」が45.0%と多く、「興味がある」が21.0%、「使ってみたい」が18.4%、「使いたくない」が12.4%である。

生活困難度別では、困窮家庭で「使う必要はない」が25.0%と少なく、「使いたくない」が21.4%と多いものの、「使ってみたい」が他の家庭に比べて最も多く、周辺家庭では「興味がある」が28.2%と他の家庭に比べて最も多い。

図表 3.7.16.K 平日の放課後に夜までいることができる場所

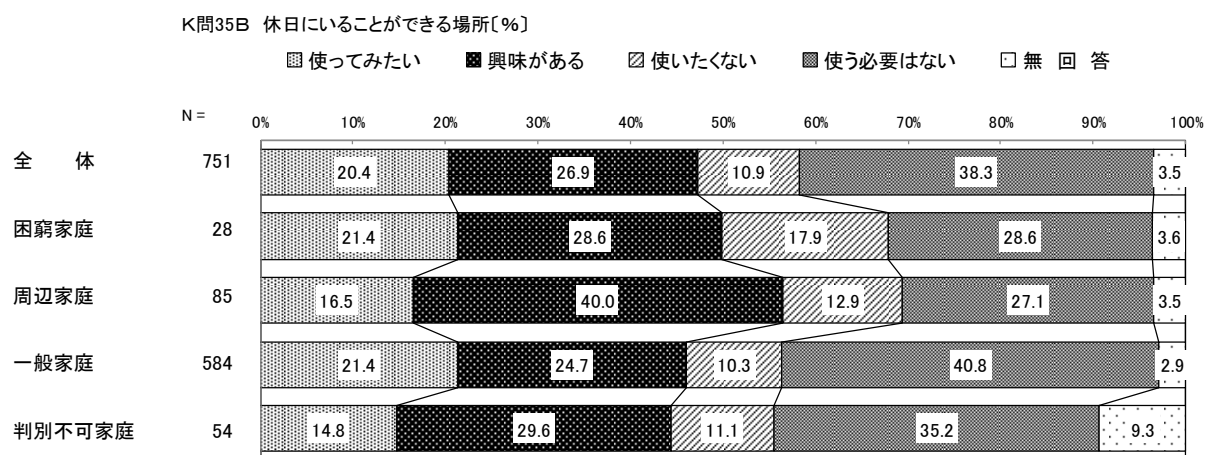
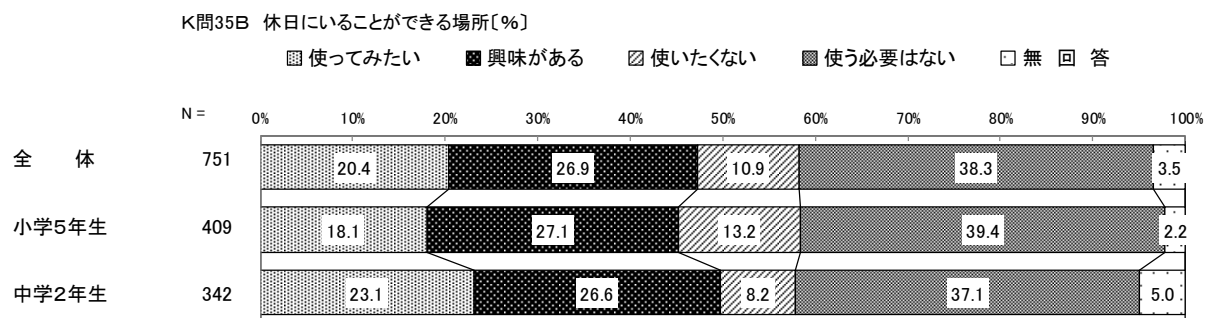


（Ｂ）（家以外で）休日にいることができる場所

全体では、「使う必要はない」が38.3%と最も多く、「興味がある」が26.9%、「使ってみたい」が20.4%、「使いたくない」が10.9%と続いている。

生活困難度別では、周辺家庭で「興味がある」が40.0%と他の家庭に比べて最も多い。

図表 3.7.17.K 休日にいることができる場所

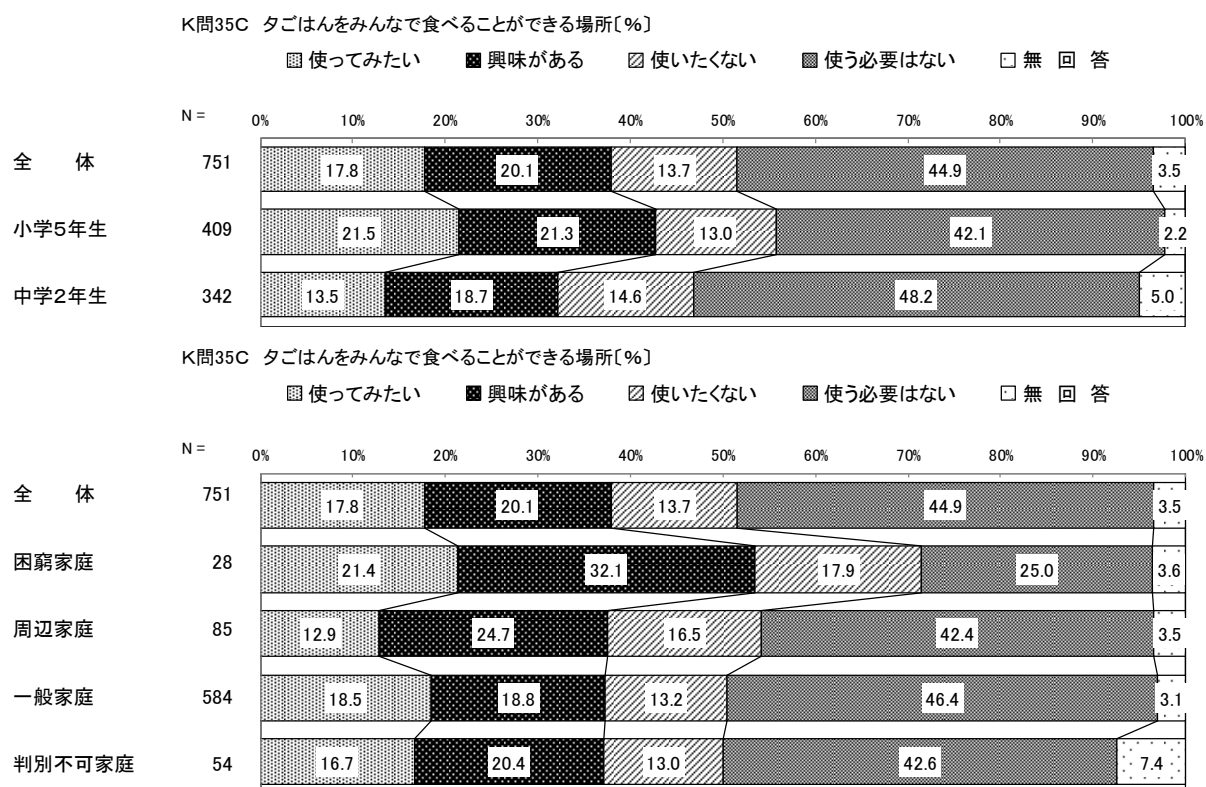


(C) 家の人がいなくて、タゴはんをみんなで食べることができる場所

全体では、「使う必要はない」が44.9%と最も多く、「興味がある」が20.1%、「使ってみたい」が17.8%、「使いたくない」が13.7%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「興味がある」が32.1%、「使ってみたい」が21.4%と他の家庭に比べて最も多い。

図表 3.7.18.K タゴはんをみんなで食べることができる場所

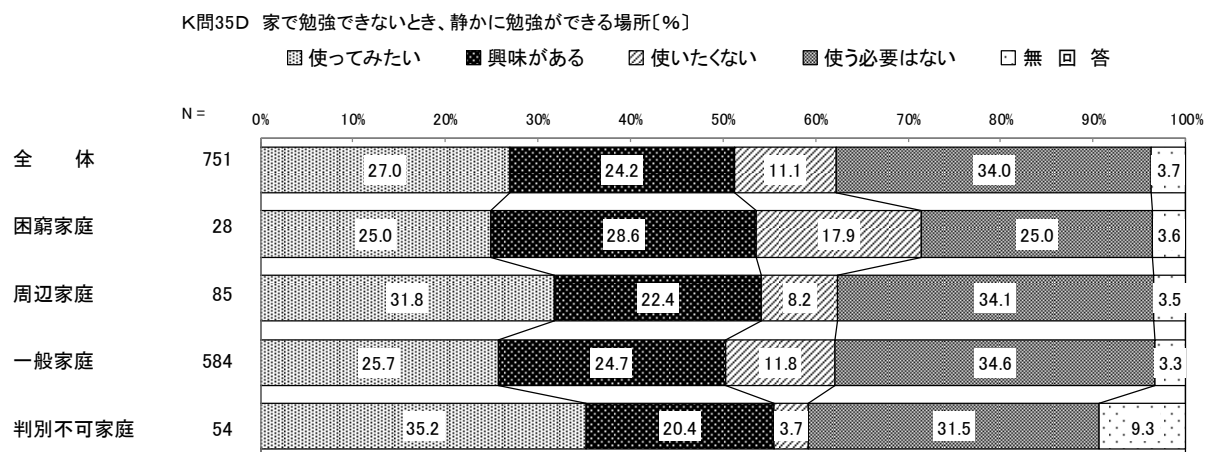
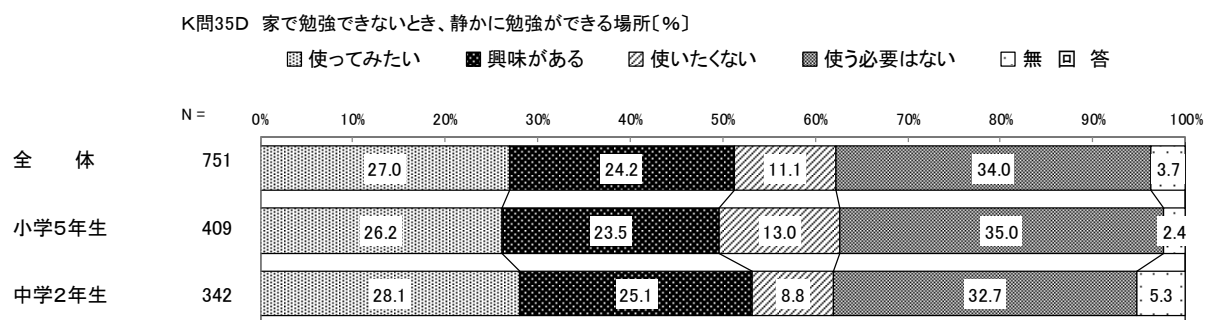


(D) 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

全体では、「使う必要はない」が34.0%と最も多く、「使ってみたい」が27.0%、「興味がある」が24.2%、「使いたくない」が11.1%と続いている。

生活困難度別では、「使ってみたい」は周辺家庭で31.8%と他の家庭に比べて最も多い。困窮家庭で「使いたくない」が17.9%と他の家庭に比べて最も多いが、「興味がある」も28.6%とやや多い。

図表 3.7.19.K 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

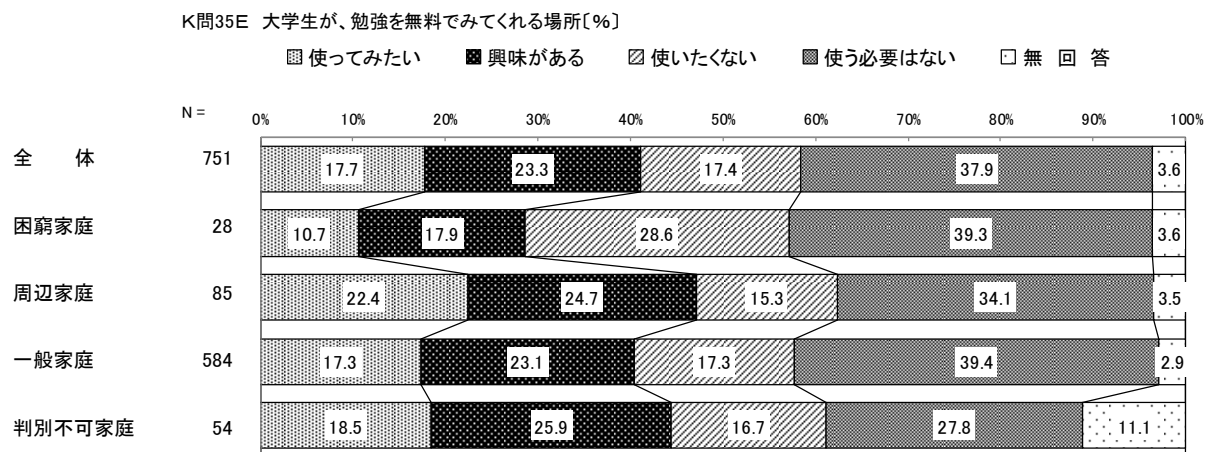
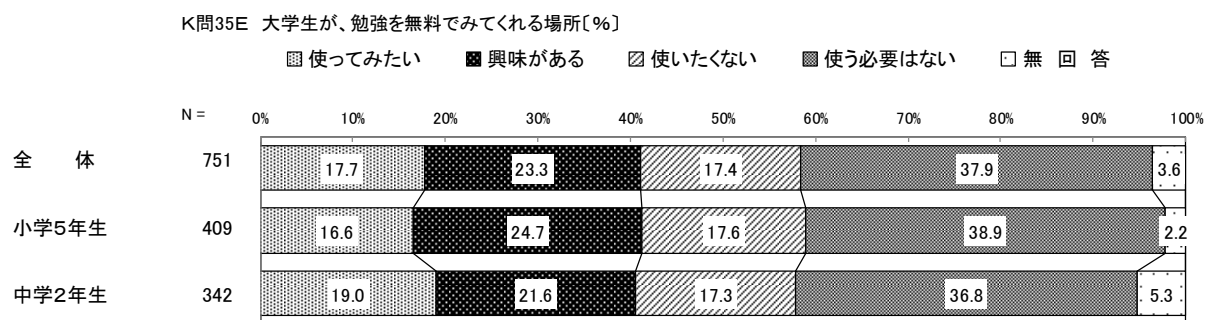


(E) 大学生のボランティアが、勉強を無料でみてる場所

全体では、「使う必要はない」が37.9%と多く、「興味がある」が23.3%、「使ってみたい」と「使いたくない」がともに17%台で続いている。

生活困難度別では、他の家庭に比べて困窮家庭で「興味がある」が17.9%、「使ってみたい」が10.7%と少なく、「使いたくない」が28.6%と最も多い。周辺家庭で「使ってみたい」が22.4%と他の家庭に比べて最も多い。

図表 3.7.20.K 大学生が、勉強を無料でみてる場所

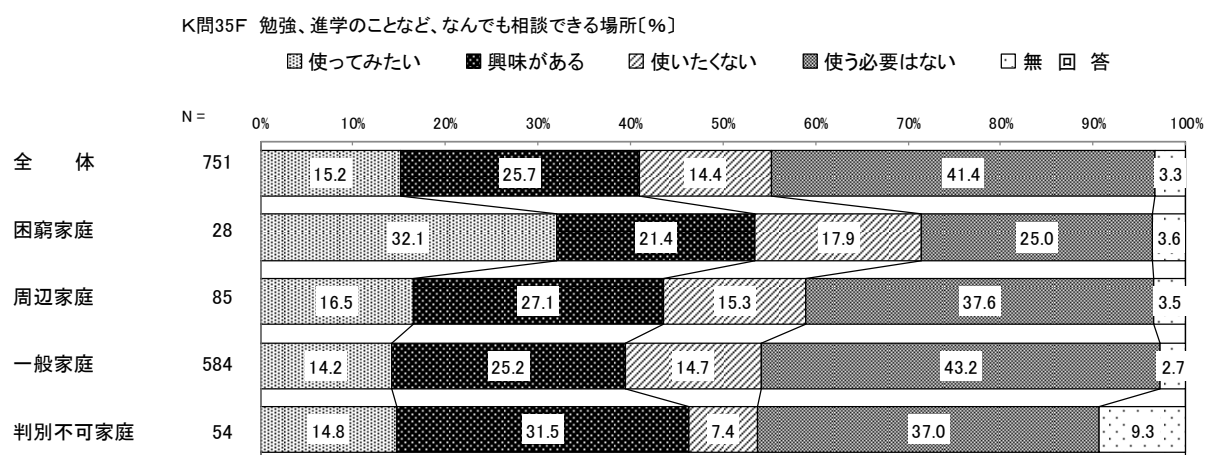
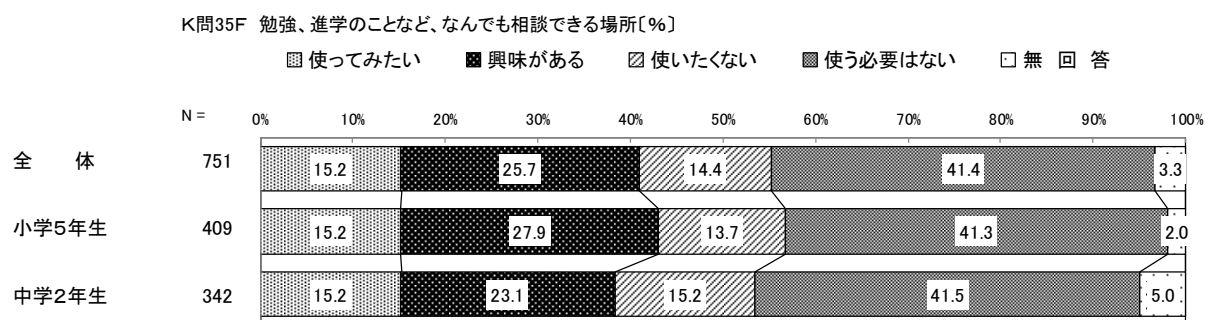


(F) (学校以外で) 勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所

全体では、「使う必要はない」が41.4%と多く、「興味がある」が25.7%、「使ってみたい」が15.2%、「使いたくない」が14.4%と続いている。

生活困難度別では、困窮家庭で「使ってみたい」が32.1%と最も多い。

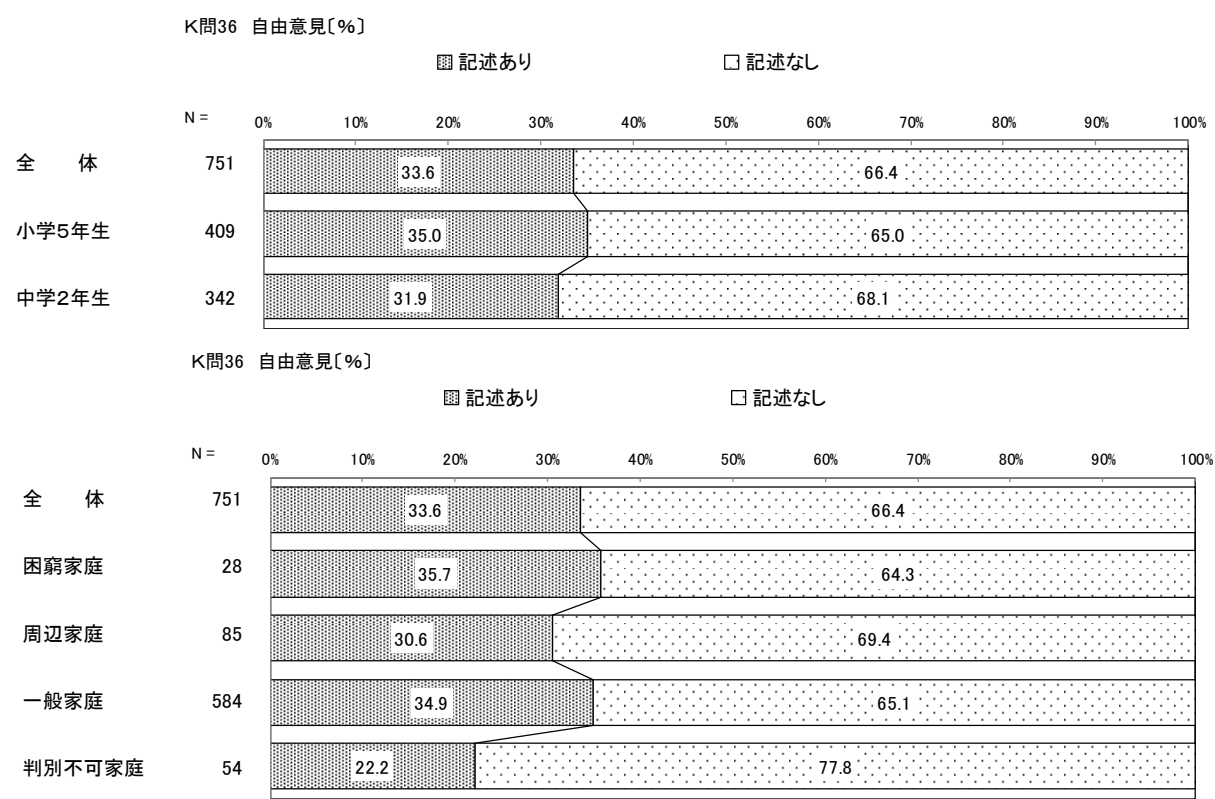
図表 3.7.21.K 勉強、進学のことなど、なんでも相談できる場所



問 36 このアンケートの感想や毎日の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください。（進路のこと、学校のこと、勉強のこと、友だちのこと、遊びのこと、おこづかいのこと、家族のこと、病気のことなどなんでもかまいません。）

全体では、記述ありは33.6%である。内容として、「アンケートのこと」「お小遣いや家のこと」「友だち・人付き合いのこと」「学校・学校生活のこと」「勉強・進路のこと」など、順位は違うものがあるが小学5年生と中学2年生で共通している。

図表 3.7.22.K 自由意見



小学5年生

順位	アンケート調査自由意見の内容	件数
1位	アンケートのこと	各30
	このアンケートで自分のことがもっとよく見直せた。小5の問題としては難しかった。このアンケートをしてみても、将来のことについてそろそろ考えるべきかと思った。小5と中2だけやる理由がわからない。このアンケートは何のために回答、収集しているのか。	
	お小遣いや家のこと	
3位	お小遣い等を使いたいときに使わせてくれない。お小遣いが少ない。お母さんが欲しいゲームや食べ物を買ってくれない。お小遣いが貰えない。ゲームの時間を増やしてほしい。家族のことで、お父さんとお母さんが上手いかわなくて困っている。	21
	友だち・人付き合いのこと	
	友達がよく自分の名前をバカにしてくる。この前、友達とけんかして無視された。よく一緒にいるが自慢話しかしようとしらないような友達がいるので、関わらなければよいと思うものの、うるさくて面倒くさい。1学期から2学期にかけて、友達にいじめられている。	
4位	学校・学校生活のこと	16
	学校の階段がきつすぎる。給食を弁当にしてほしい。クーラーがなくて暑い(学校)。学校が雨漏りしている。学校がつまらなすぎる。先生とあまり話したくない。学校に男子が着がえられる場所がほしい。	
5位	勉強・進路のこと	12
	テストの点を上げたい。自分は将来救急救命士を目指しており、もしよければ体験会等を開いてくれると、とても勉強になると思う。勉強がだんだん難しくなっていくので、中学生の時分かるか、高校に行けるか、心配だ。学校でやっている勉強はとても簡単だけど、塾でやっている勉強は難しい。	

中学2年生

順位	アンケート調査自由意見の内容	件数
1位	アンケートのこと	26
	自分の生活を振り返るよい機会になった。問26のD「自分は友だちと比べて、違っていると思う」という質問で、人によって解釈の仕方が違うと思うので、もう少し具体的に書くとういと思った。アンケートをとって本当に意味があるのか。	
2位	友だち・人付き合いのこと	17
	友達に合わせるのはつらい。友達がべたべたしてくるのがうざい。クラスに苦手な人がいて、その子と話す時どうしてもイライラしてしまう(性格が合わなくて)。友達との金銭感覚の違いを感じる。	
3位	学校・学校生活のこと	16
	中学校を小学校のような給食にしてほしい。部活の活動時間が長いと思う。学校にエアコンをつけてほしい。学校で昼食の時間が短い。学校のクラスの先生が体育祭で誤審をしていて、クラス全員が迷惑した。なのに謝ってこない。	
4位	勉強・進路のこと	12
	勉強しないといけないと分かっているができない。やる気が起きず、違うことをしてしまう。中2になってから進路のことを考える機会が増えて不安がある。勉強に集中できない。将来の夢がまだ決まっていないこと。	
5位	お小遣いや家のこと	9
	お小遣いが欲しい。お小遣いがいっぱいもらえている。お小遣いを上げてほしい。親が弟の肩ばかりを持つから毎日ストレスを感じる。親が怖くて本当のことがいえない。	

4. 関係機関等支援者ヒアリング調査

4.1 調査の実施について

(1) 調査目的

本市では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均衡などを図ることを目的として、その実情を把握するため関係機関等支援者を対象とした「子どもと子育て家庭の生活実態調査」（ヒアリング）を実施した。

(2) 調査概要

①調査対象：支援機関（学校・保育・福祉・行政等機関・関係団体）30か所

②調査対象支援機関

教育機関	市役所関係課	福祉関係団体等	福祉サービス事業所	医療・福祉関係機関等
16か所	7か所	2か所	3か所	2か所

③調査方法：事前調査票「伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査支援者ヒアリング」を配布、回収後、調査員が支援機関を訪問してヒアリングを実施した。

④調査期間：事前調査票配布、回収 令和元年10月13日～10月18日

実地ヒアリング（以下「ヒアリング」という。）令和元年10月21日～11月5日

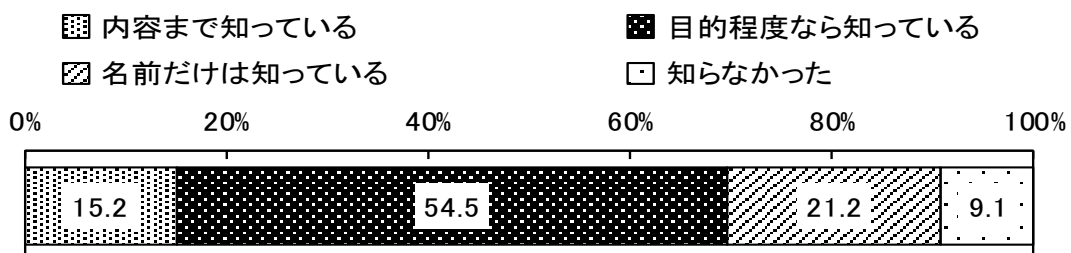
【調査結果に関する留意点】事前調査票、ヒアリングを受けた支援者が、日常的な関わりの中で、子どもや子育て家庭の様子、考察、所感等を述べたものである。ヒアリング実施機関等の利用者すべてに、述べた傾向があるわけではないこと、また統計的な裏づけがなされているわけではないことにも留意が必要である。

4.2 子どもの貧困対策に関すること

問 3 子どもの貧困対策の推進に関する法律について、知っていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

事前調査票では、全体で「目的程度なら知っている」が54.5%、「名前だけ知っている」が21.2%、「内容まで知っている」が15.2%、「知らなかった」が9.1%となっている。

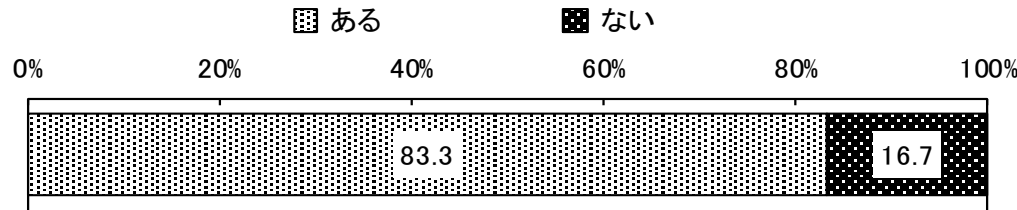
図表 4.2.1.S 子どもの貧困対策の推進に関する法律の認知度



問 4 貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがありますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

事前調査票では、貧困の状態にある子どもの支援に携わったことが「ある」が83.3%、「ない」が16.7%となっている。

図表 4.2.2.S 貧困の状態にある子どもの支援に携わったことの有無



4.3 支援の必要な子どもと保護者に関すること

問 5 日頃接している、支援の必要な子どもはどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。

(1) 子どもが抱えている困難性

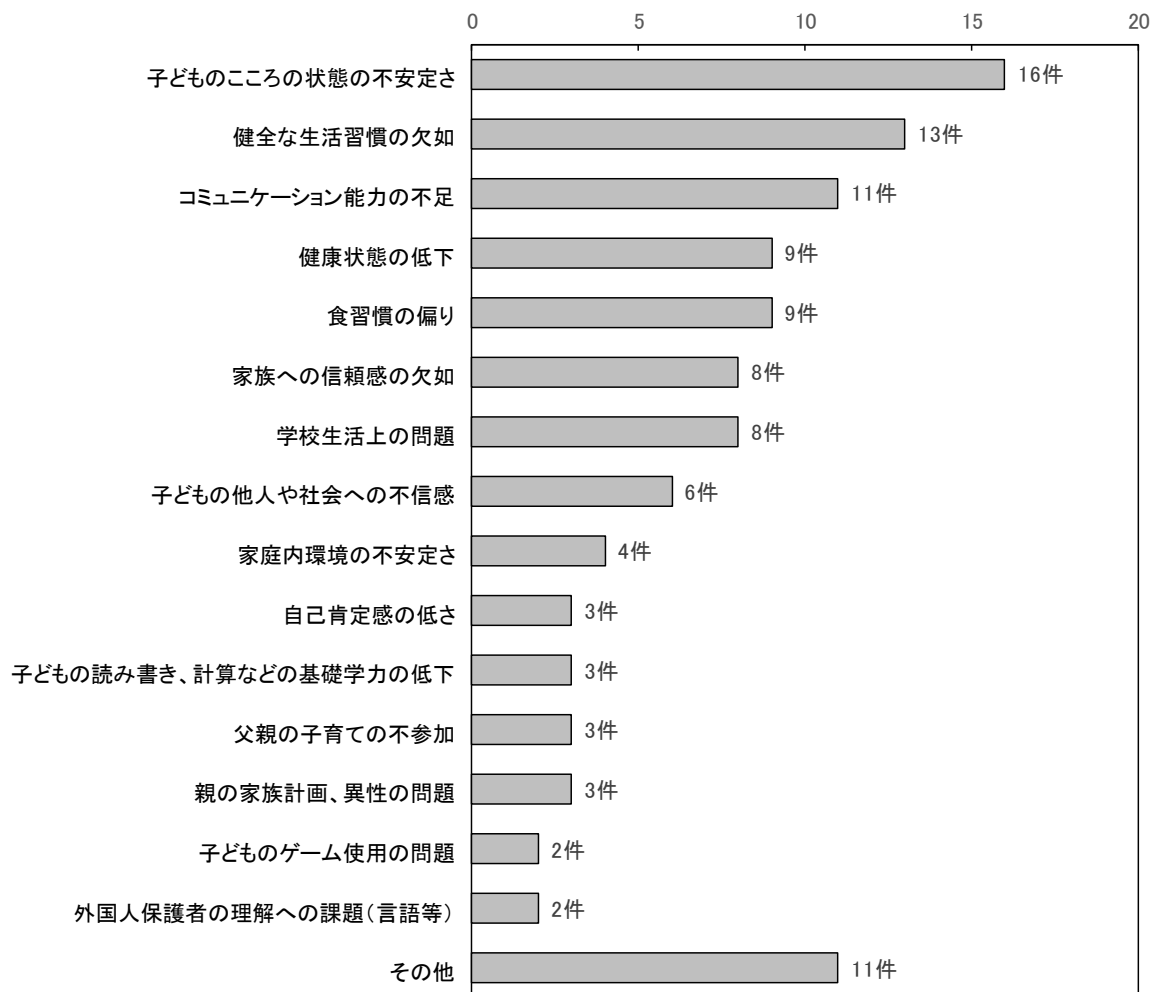
事前調査票では、保護者の子どもの養育について多岐にわたる困難な内容があげられている。幼少期からの親子関係の愛着形成を基に、信頼関係の構築、定着が形成されていないなどの影響によると思われる、子どもの生活習慣の乱れから派生したと思われる、子どもの生活上の困難性や問題行為等が挙げられている。

図表 4.2.3.S 子どもが抱えている困難性の内容

順位	事前調査票の内容	件数
1位	親子関係	13件
	安心安全な場所で養育されていないため、様々なストレスを抱えている。母を含めた母子の安定的な生活基盤が欠如。家族団らん等、親子で過ごす時間が少ない(愛情不足)。	
2位	生活習慣	12件
	基本的な生活習慣を家庭でしつけされることが少なく、清潔・食習慣・整理整頓や人とのコミュニケーション等が身についていない。衣食の確保、学習用具等の準備、基本的な生活習慣の乱れ。	

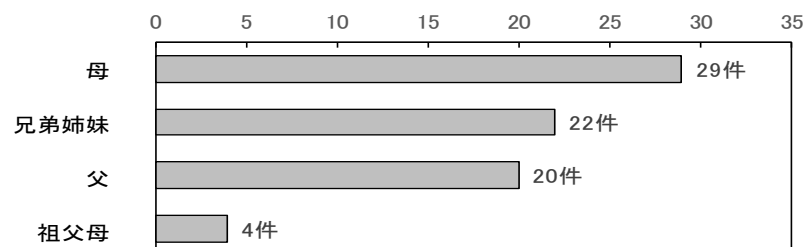
ヒアリングでは、「子どものこころの状態の不安定さ」が16件、「健全な生活習慣の欠如」が13件、「コミュニケーション能力の不足」が11件と続いている。

図表 4.2.4.S 子どもが抱えている困難の分類



ヒアリングでは、子どもの同居家族は、「母」が29件、「兄弟姉妹」が22件、「父」が20件、「祖父母」が4件となっている。兄弟姉妹が多いという意見もみられた。

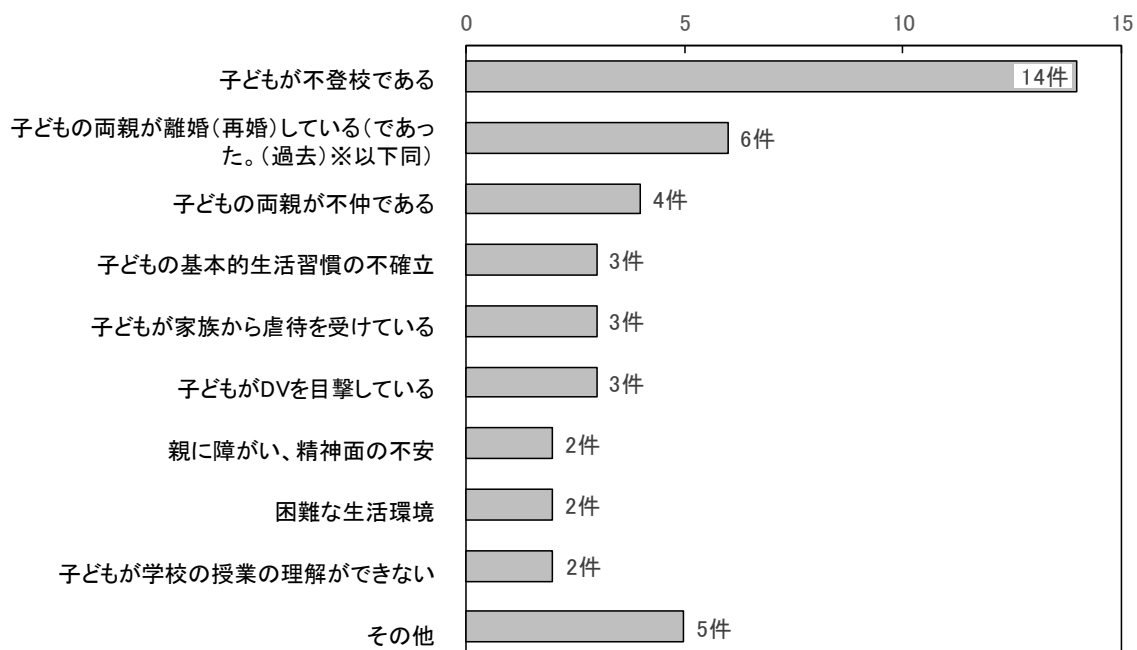
図表 4.2.5.S 子どもの同居家族



（２）子どもの養育上の経験

ヒアリングでは、子どもが育つ中での困難な経験（体験）について、「子どもが不登校である」が14件と特に多い。その他では、「子どもの両親が離婚（再婚）している（であった。（過去）※以下同）」や「子どもの両親が不仲」などの回答があった。

図表 4.2.6.S 子どもの養育上の経験



問 6 日頃接している、支援の必要な子どもの保護者はどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。

（１）保護者が抱えている困難性

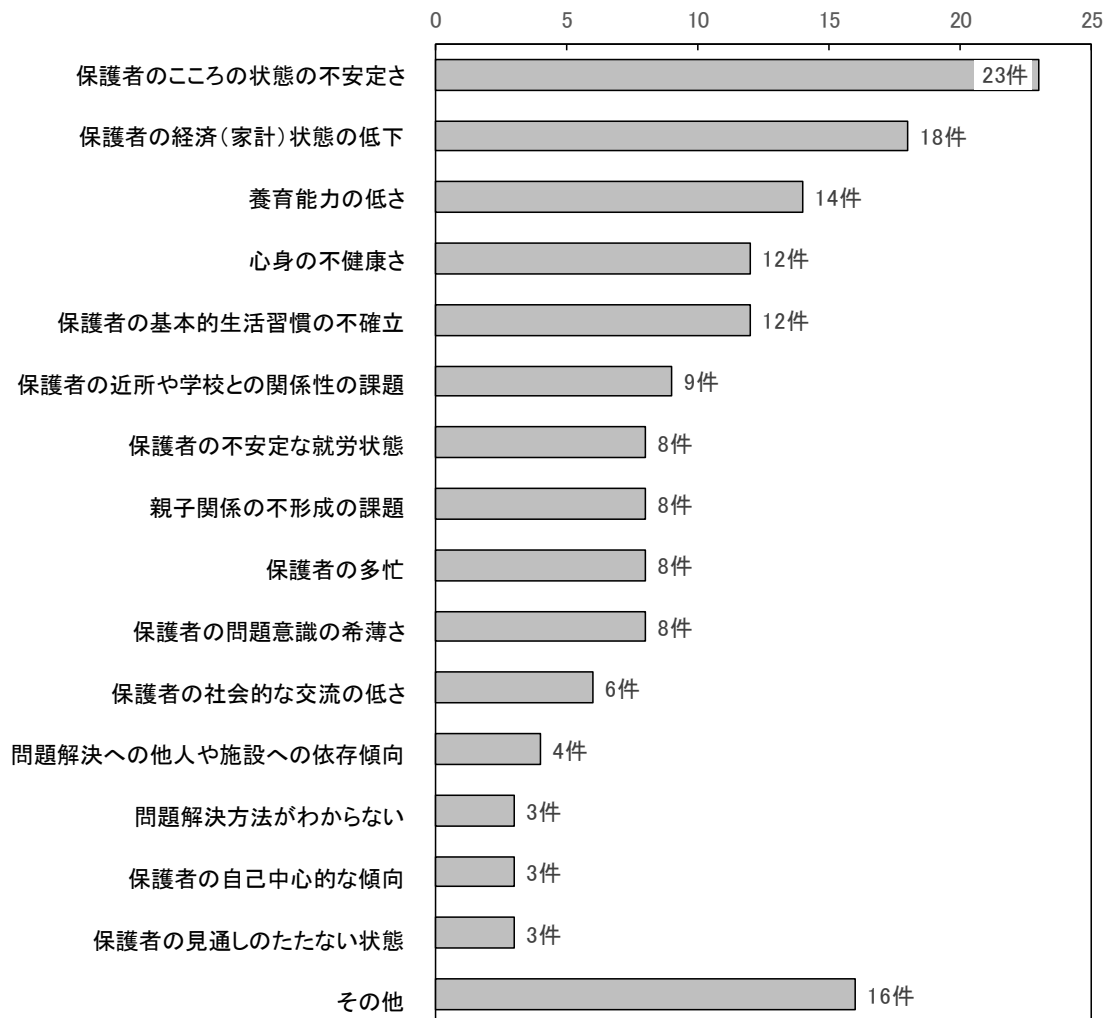
事前調査票では、保護者が抱えている困難性として「子どもの養育に関すること」が13件と多く、「経済的問題」が6件と続いている。

図表 4.2.7.S 保護者が抱えている困難性の内容

順位	事前調査票の内容	件数
1位	養育	13件
	子どもの養育をどのように行えばよいかわからない。子育ての仕方で思い詰まったときの相談場所。仕事以外の家事・育児の負担感。	
2位	経済的問題	6件
	経済的に苦しい。子の進学費用の工面(元々、低所得や生活保護世帯であるという要因もあるが、親の家計管理に課題があることも多い)。子どもを含めた家庭の生計を維持していくことが厳しい。	

ヒアリングでは、「保護者のこころの状態の不安定さ」が23件、「保護者の経済（家計）状態の低下」が18件、「養育能力の低さ」が14件、「心身の不健康さ」「保護者の基本的生活習慣の不確立」がそれぞれ12件と、回答は多岐にわたっている。

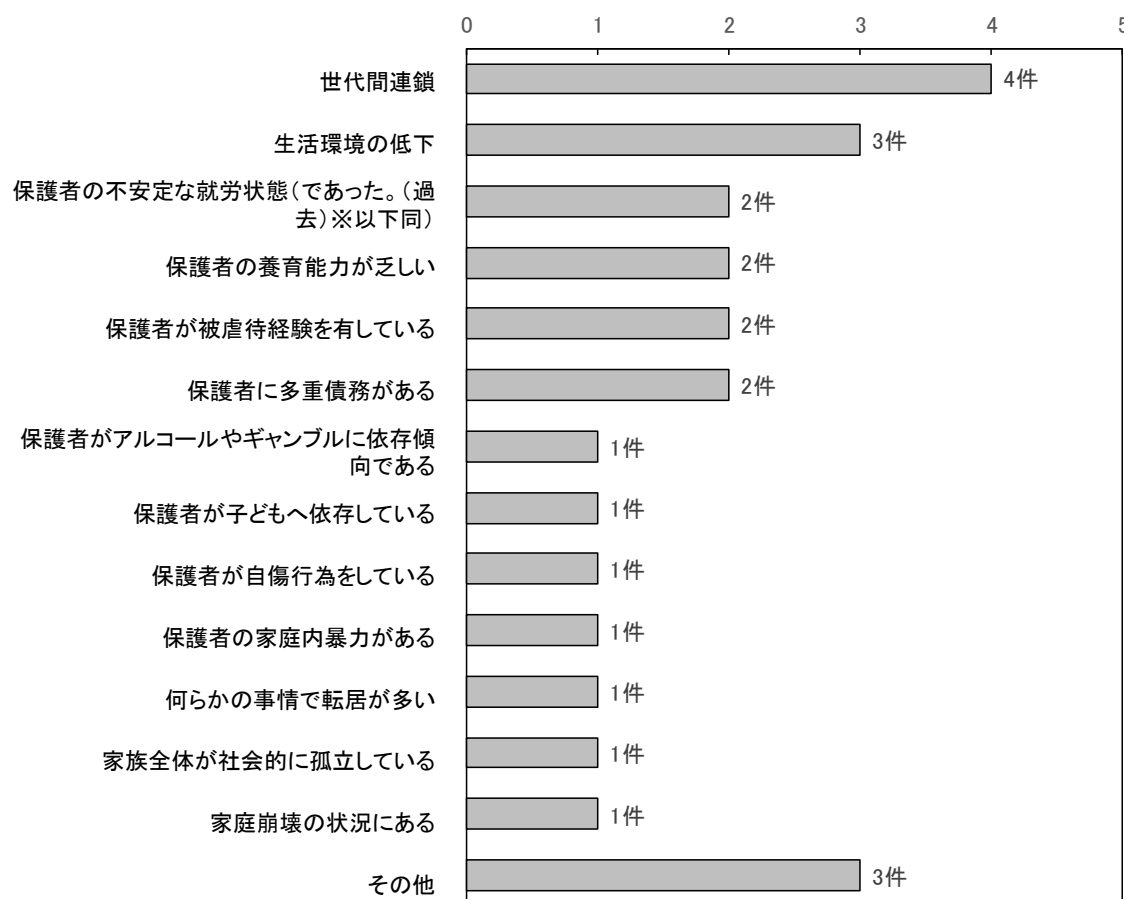
図表 4.2.8.S 保護者が抱えている困難の分類



（２）保護者の養育上の経験

ヒアリングでは、保護者の困難な経験（体験）として、「世代間連鎖」が４件、「生活環境の低下」が３件、「保護者の不安定な就労状態（であった（過去）※以下同）」「保護者の養育能力が乏しい」「保護者が被虐待経験を有している」「保護者に多重債務がある」がそれぞれ２件となっている。

図表 4.2.9.S 保護者の養育上の経験



4.4 支援が必要な子ども・世帯への支援策に関すること

問 7 支援の必要な子どもに、不足している支援策・制度や課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

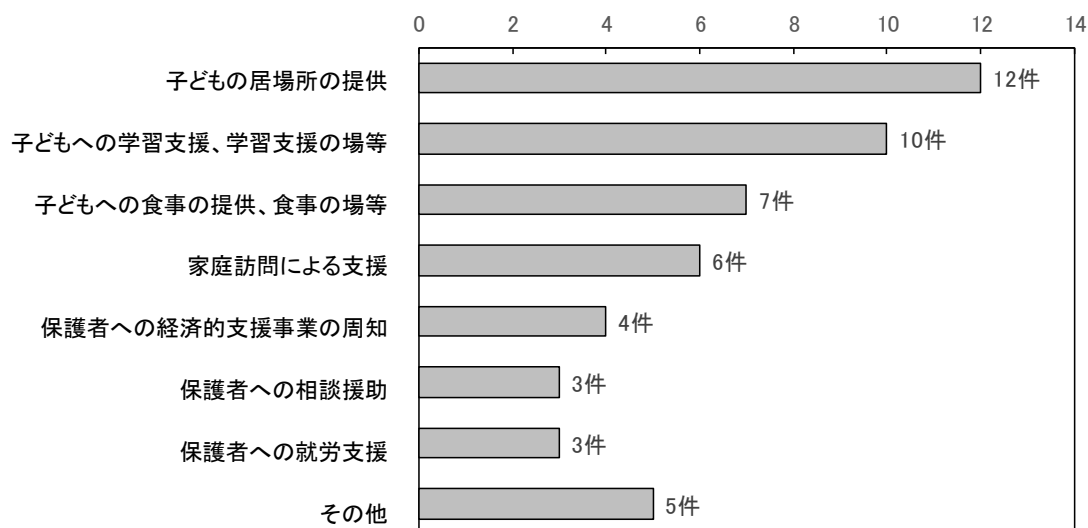
事前調査票では、不足している支援策として、「学習・生活習慣の支援」が11件、「子どもの居場所づくり」、課題として「人材・予算不足」それぞれ5件となっている。

図表 4.2.10.S 子どもに、不足している支援策・制度や課題

順位	事前調査票の内容	件数
1位	学習・生活習慣支援	11件
	就学前に必ずどこかで基本的な生活習慣を学べる環境をつくっていけることが課題。様々な状況下に応じた学習支援をしてもらえる場所。生活支援・教育支援を合わせてできるような子の居場所が必要。	
2位	居場所づくり	各5件
	親が働いているので放課後の子どもの過ごせる安心できる場所づくり。体験の機会(キャンプ、旅行、習い事など)。家庭以外に集える場所。	
	人材・予算不足	
	専門的なスキルを持った人材の増員や相談機関とのしっかりと連携がとれる体制が必要。人員が不十分のために柔軟な対応ができていない。予算や人材において絶対的に不足していることが課題。	

ヒアリングでは、「子どもの居場所の提供」が12件、「子どもへの学習支援、学習支援の場等」が10件と多く、「子どもへの食事の提供、食事の場等」が7件と続いている。

図表 4.2.11.S 子どもに、不足している支援策・制度や課題の分類



問 8 支援の必要な子どもの保護者に、不足している支援策・制度や課題と思われることがありますしたら、お聞かせください。

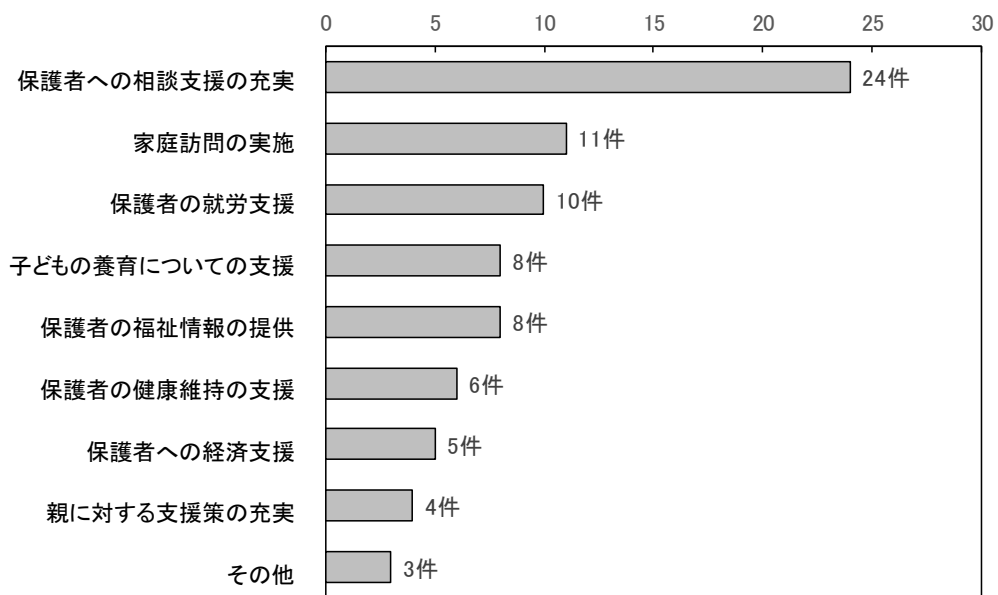
事前調査票では、不足している支援策として「包括的な仕組みづくり」が11件と多く、「学習・就労支援」が7件、「経済的支援」が4件など回答されている。

図表 4.2.12.S 子どもの保護者に、不足している支援策・制度や課題

順位	事前調査票の内容	件数
1位	包括的な仕組みづくり	11件
	気軽に相談したり、情報交換したりできる場があった方がよいと思う。様々な困難を抱える女性を対象として、包括的に支援を提供できるように、関係機関における連携を充実し、仕組みをつくる。子どもの困りを相談したらコーディネートしてくれる体制。	
2位	学習・就労支援	7件
	家計を安定させるために足る収入が得られる就労先の確保。子どもへの対応の仕方(具体的な指示、言葉づかい等)を学ぶこと。安定した収入が得られるような職業訓練及び就労支援。	
3位	経済的支援	4件
	ひとり親で子を養育していく保護者に対して、養育費の不払いをなくするような制度。経済面の支援策。就学援助に対する基準の引き上げ。また支払い額の増加。	

ヒアリングでは、「保護者への相談支援の充実」が24件、「家庭訪問の実施」が11件、「保護者の就労支援」が10件と続いている。

図表 4.2.13.S 子どもの保護者に、不足している支援策・制度や課題の分類



問 9 支援の必要な子どもへの支援を、他機関と連携して行っていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。また、3 その他（ ）を選ぶ場合は、その理由もお聞かせください。

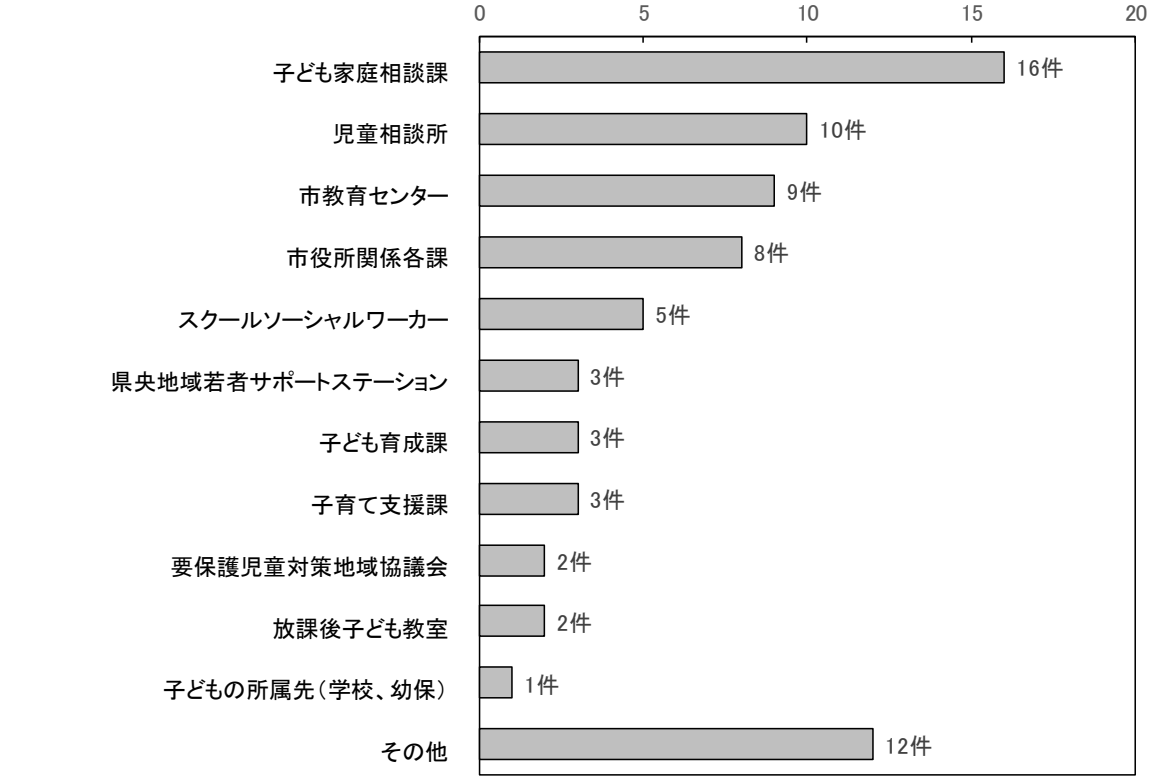
事前調査票では、他関係機関との連携を実施しているという回答が多い。改善点として、支援体制の人材の充足、要保護児童対応の法的権限の強化、その他、警察機関との連携の強化となっている。

図表 4.2.14.S 子どもへの支援に関する他機関との連携の有無

順位	事前調査票の内容	件数
1位	改善点	2件
	児童相談所の職員にもう少し強い権限を与えることはできないのだろうか。また、訪問時の警察との連携の強化等できるとよい。学校同士の連携はお互いの状況をもっとよく知れば、もう少しできると思う。	

ヒアリングでは、「子ども家庭相談課」との連携が16件と多く、「児童相談所」が10件、「市教育センター」が 9 件、「市役所関係各課」が 8 件と続いている。

図表 4.2.15.S 子どもへの支援に関する他機関との連携の有無の分類



問 10 支援の必要な子どもと保護者への継続的な支援に向けて、他機関との連携や協働するために、必要なことや課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

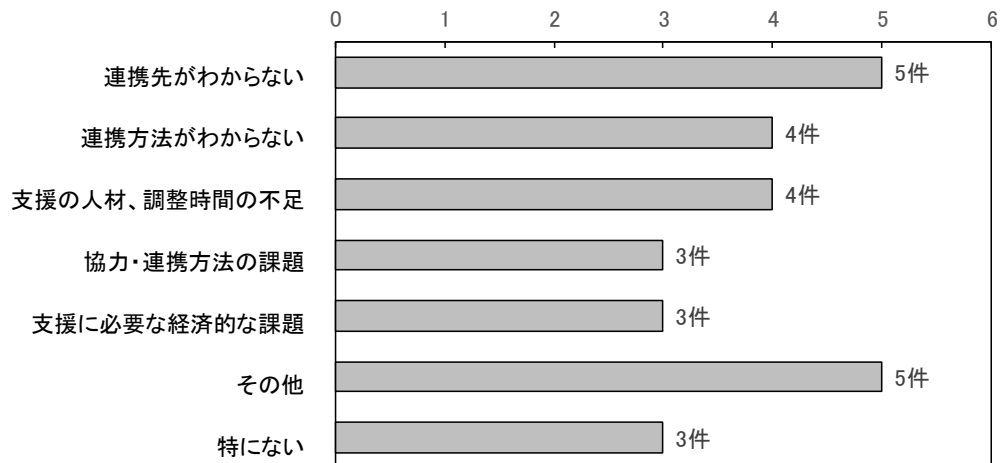
事前調査票では、「包括的な課題改善に対応する支援機関及び経過観察を担う機関の明確化、青年期以降の相談、対応の充足」が11件、「情報共有・他機関の業務内容や役割の相互理解」が8件、「支援人員の不足・場所・情報共有、調整するための時間不足、支援にあたる専門性を有した職員の配置人員の不足」が6件となっている。

図表 4.2.16.S 他機関との連携や協働に、必要なことや課題と思われること

順位	事前調査票の内容	件数
1位	包括的な連携	11件
	子に影響を及ぼす貧困などの事例を包括的に調整する機関と具体的な支援改善に結びつくようケースワークできる機関が必要。情報共有した家庭に今後変化を見ていく責任者(部署)を明確にする。義務教育以降も相談できる窓口がほしい。	
2位	情報共有・他機関の業務内容や役割の理解	8件
	他機関の活動や専門性を考え、情報を共有し連携していくことが必要。支援機関同士が、互いの業務内容や役割を認識すること。各機関がそれぞれの役割について理解し、お互いのできること・できないことを理解すること。	
3位	人材・場・時間不足	6件
	他機関との連携、協働は必要不可欠であるが、それについて人員が不足していると思われる。定期的な情報共有ができる時間・場所が少ない。時間がかかってしまうことが課題。連携に伴う連絡調整に必要な人的配置の不足と、ケース会議の時間の確保。	

ヒアリングでは、「連携先がわからない」が5件、「連携方法がわからない」「支援の人材・調整時間の不足」がそれぞれ4件と続いている。

図表 4.2.17.S 他機関との連携や協働に、必要なことや課題と思われることの分類



問 11 ご意見などありましたら、お聞かせください。

事前調査票では、「支援者側の人員、専門性の充足」「保護者、子どもへの直接的な支援対応」「子ども達の夢や進学を叶えられる支援、支援計画の提供、他機関との協働」「対象者の経過観察をする機関の明確化」などの意見がみられる。

図表 4.2.18.S 自由意見

順位	事前調査票の内容	件数
1位	支える側の人材・場の不足	4件
	生徒数約800人に対して養護教諭1人では対応できない。支援をする人が不足しているので、人員増をお願いしたい。適応教室も含めた支援教育を行うための場の整備。扱う課題が重い ため相談員のケアも必要。人材育成が難しい。	
2位	経済的援助	各2件
	子ども達の進学、夢が家庭の事情であきらめなくてよいように、必要な支援を望む。諸会費や 学年費等を納入することができない家庭(保護者)への学校としての対応に苦慮しているという 状況がある。	
	連携・責任	
	子どもと親を見る責任者と責任部署を決めることが大事。教育センター内にある、教育・福祉・ 心理といったそれぞれの専門性をいかした多角的アセスメントと対応を行ったうえで、他機関と も協働していけたらと考える。	

【ヒアリング意見について】

子どもと保護者に関わる支援機関に対して、困難と考えられる状況、支援機関の状況、課題等について意見を収集した。以下に、意見を総括的に集約した。また、全てを、困難性を抱えた現象とし、個別の自己責任等の状況、結果ではないと捉える。内容について今後の支援や取組みの方向性の一資料とするものである。

困難性を抱える子どもと保護者について、状況を形成する素因は多岐にわたる。そのような状況から困難な課題となり表出されていると捉える。

保護者の養育姿勢は課題を抱えながらも、子どもへの愛情を持ち育んでいる。暮らしの中で、家族の離別、心身の疾病、家庭内暴力、経済的な低下、不利な出来事、子どもの発達特性、障がいの受容、ひとり親の就労の恒常的な繁忙、低収入、対人関係の構築の低下、困難課題の世代間連鎖、嗜好性を優先とした家計管理など、均衡が取れた家庭生活の維持が困難であろうとする状況が挙げられた。

子どもに対しては、自己肯定感、意欲、基本的な生活習慣の低下、発達上の療育的課題、親子の関係性（愛着形成、信頼形成）の課題、外国につながるのある子どもと保護者の支援方法、学校生活上の課題や不登校など、子どもと保護者の互いの困難な状況が絡み合い、重層性を増していると捉える状況が挙げられた。

子どもと保護者に優先する課題として、周囲へ支援の声掛けをすることで一義的に機関等に繋がる契機となるが、子どもと保護者の課題意識の程度、自尊心などのためらいから繋がりを享受することを行わない、行えないことがある。支援機関の支援者は恒常的に課題に対する支援方法を考えながら、家庭というプライバシー、家庭での認識、選択性、人権を尊重する優位性に配慮する中で、子ども達はどのような家庭教育の中で成長しているのかを推測し、個別化した対応で、子どもとその保護者のこころと情緒に寄り添った支援を実践している。子どもについては、成長過程の中で居場所など、世代間交流の中での人格形成や学習、食事の一助など、育みへの直接的な支援を求める意見等が挙げられている。

支援機関の課題として、人的配置の不足が多く挙げられ、専従者であっても、対象者が多い、また頻繁な対応に必要な配置人員の欠如、継続して支援に取り組む支援者自身の心的ケアの必要性など、また改善案として、北欧の福祉先進国の取組みをモデルとした、地域ごと継続した、「子育て支援」を担う機関の設置、支援機関の相互理解の促進などが挙げられた。

ヒアリングを通して、支援機関の支援者と対面し、困難性を抱えた地域の子どもの状況を語る真摯な言葉には、今、子ども達の成長過程に携わり、未来を拓く子ども達が、夢や希望を抱え、自己実現に挑めるようにとの思いが溢れていた。

5. 子どもの貧困に関する分析

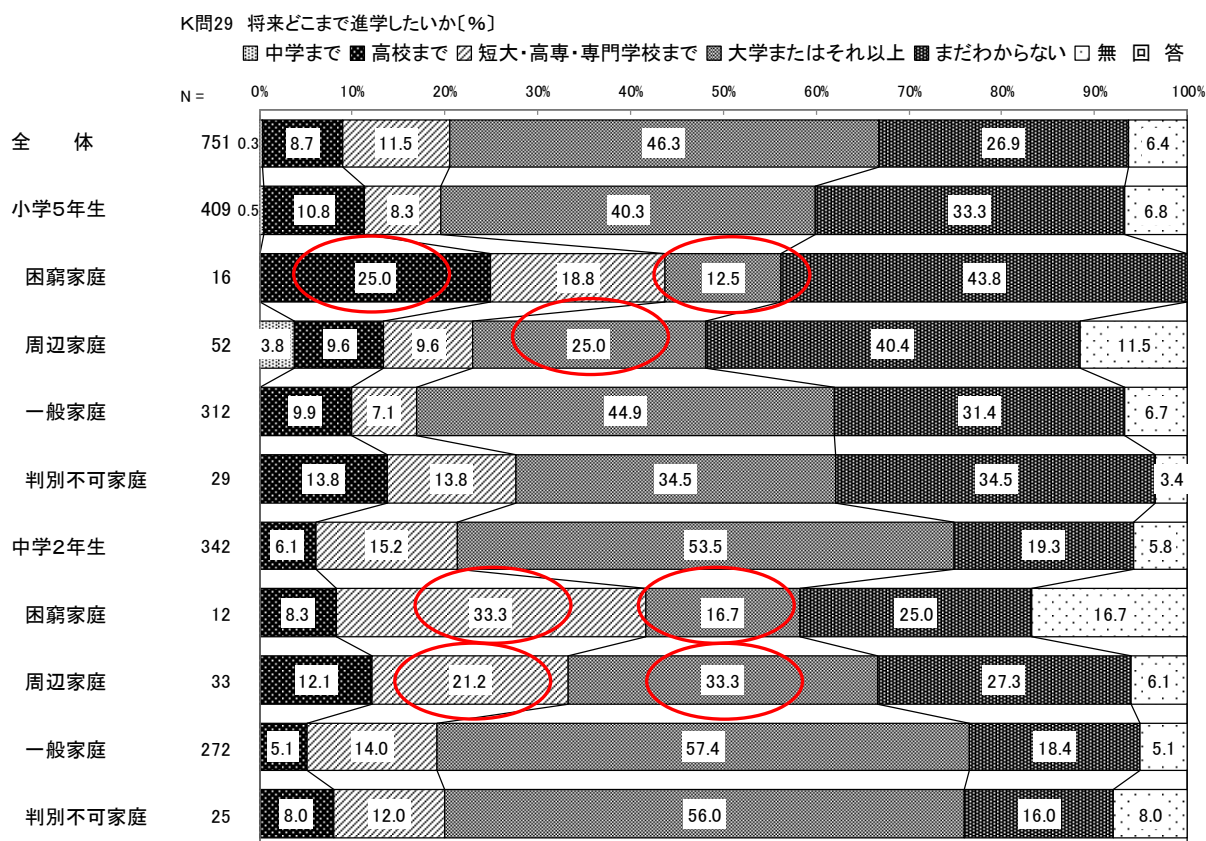
5.1 教育的支援について

(1) 子どもの進学希望

① 困窮、周辺家庭の子どもの将来の進学希望

「高校まで」は、小学5年生の困窮家庭で25.0%と多く、「大学またはそれ以上」は周辺家庭で25.0%、困窮家庭で12.5%と少ない。中学2年生では「短大・高専・専門学校まで」が周辺家庭で21.2%、困窮家庭で33.3%と多く、「大学またはそれ以上」は周辺家庭で33.3%、困窮家庭で16.7%と少なくなっている。困窮家庭・周辺家庭ともに生活困窮の傾向により、小学5年生の段階から子ども本人の進学希望先が縮小している。

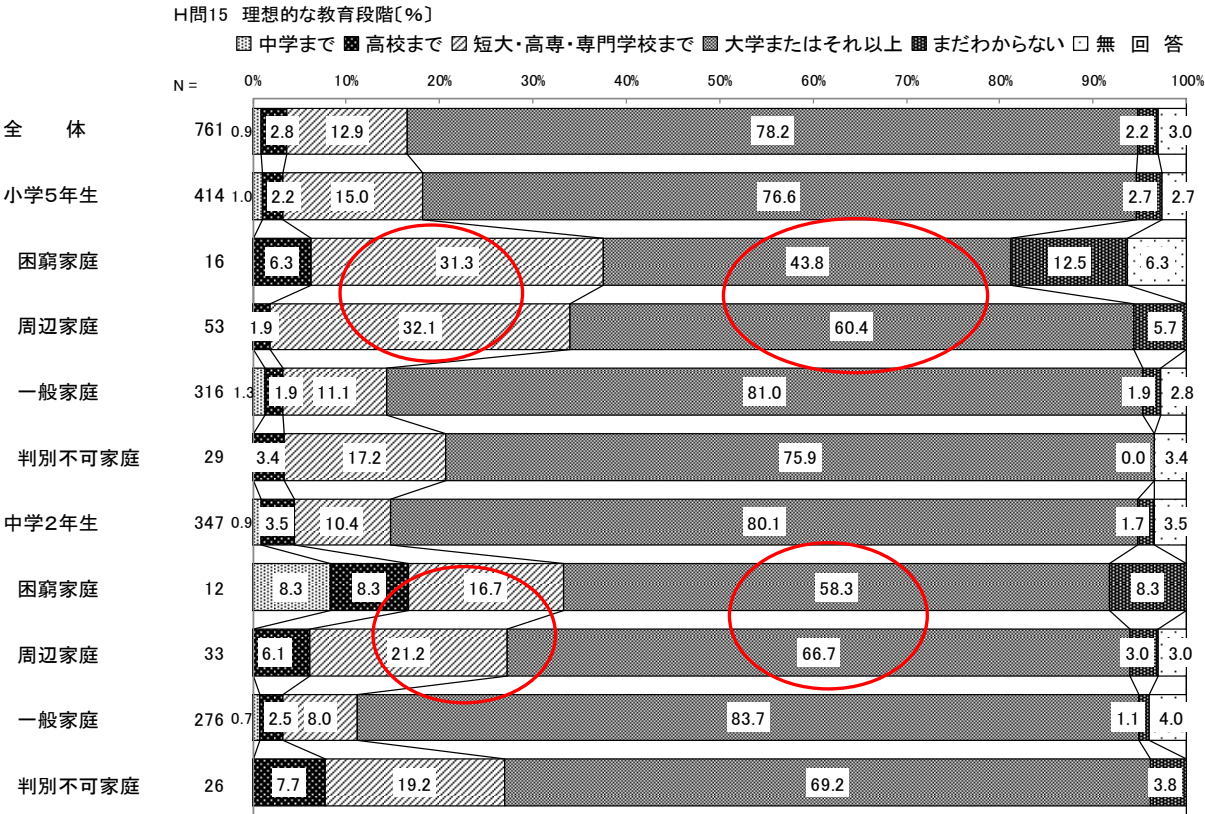
図表 5.1.1.K 進学希望



②困窮、周辺家庭の保護者が望む子どもの将来の進学希望

「短大・高専・専門学校まで」は、周辺家庭・困窮家庭の小学5年生で30%以上、中学2年生で20%前後と多く、「大学またはそれ以上」は周辺家庭の小学5年生は60.4%、中学2年生は66.7%、困窮家庭の小学5年生は43.8%、中学2年生は58.3%と少なく、周辺家庭・困窮家庭ともに同様の傾向がみられる。

図表 5.1.2.H 理想的な教育段階

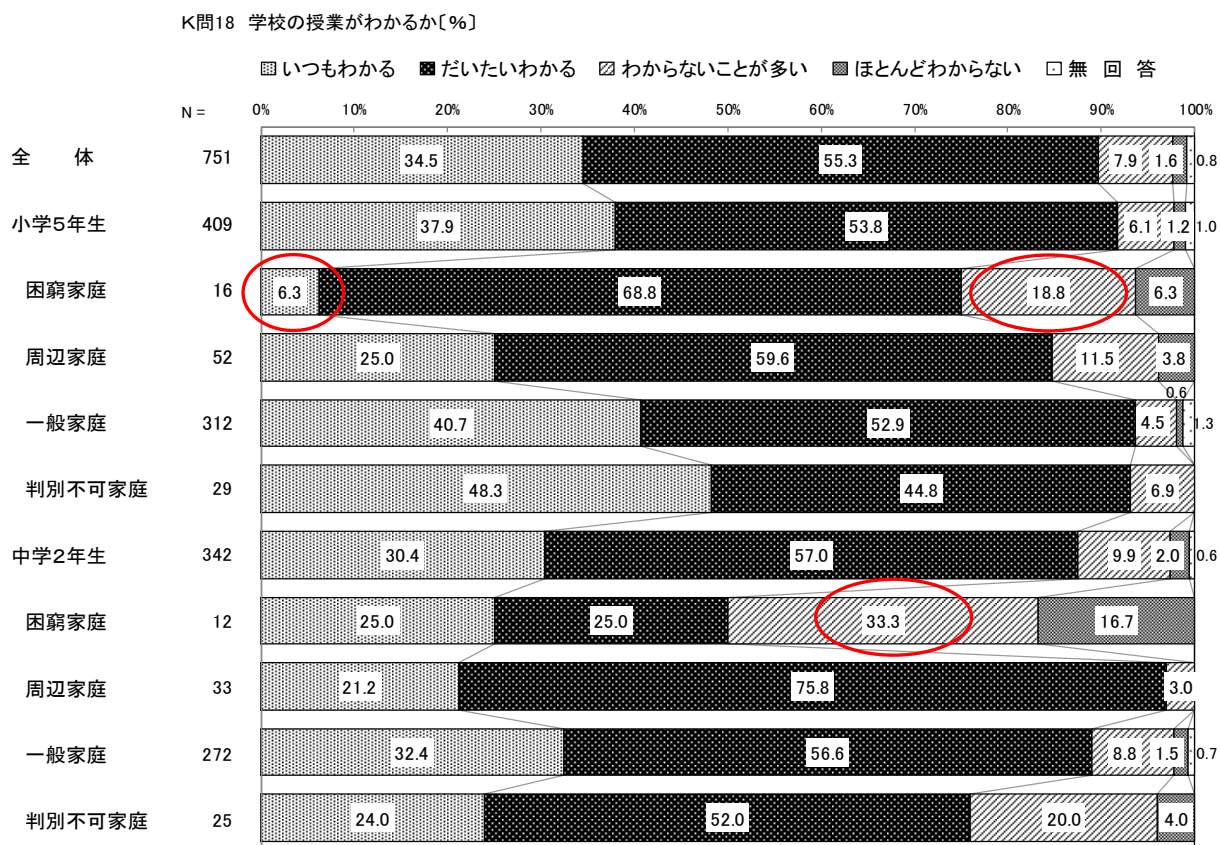


(2) 授業の理解度

① 困窮、周辺家庭の子どもの授業の理解度

学年に関わらず、困窮家庭と周辺家庭では「いつもわかる」が一般家庭より低調である。小学5年生の困窮家庭は6.3%と特に少なく、小学5年生の困窮家庭で「わからないことが多い」は18.8%、中学2年生の困窮家庭では33.3%と特に多い。

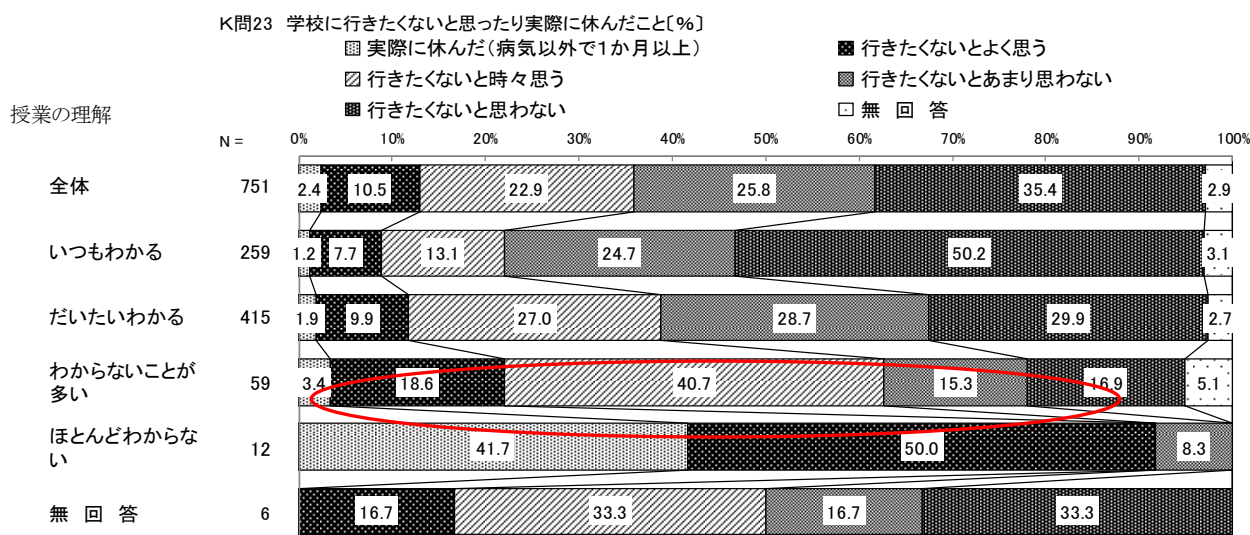
図表 5.1.3.K 授業の理解度



② 学校の授業の理解度と不登校傾向

不登校の状況は授業の習熟度と関係が深く、授業がほとんどわからないという回答者で「実際に休んだ（病気以外で1か月以上）」と「行きたくないとよく思う」が多い。

図表 5.1.4.K 不登校傾向



【調査結果分析からみられる教育的支援の課題と今後の取組】

困窮家庭の子どもは経済的理由で習い事、塾の利用が少ない状況がみられる。また、困窮家庭の親が我が子に対して受けさせたい現実的な教育段階は、「高校」の回答割合が多く、主な理由として経済的な余裕がないとの回答割合が全体に比べ多い。

また困窮家庭の子ども自身が、どこまで進学できるかは「高校」の割合が全体に比べて多く、その理由として「一般的と思った」が多い。

困窮家庭では、子ども自身の教育段階の希望に対して、親の経済的理由などから、最終学歴の希望の縮小などに影響を受けている様子が伺える。【図表3.4.5、図表2.4.1参照】

授業の理解度について「わからないことが多い」は困窮家庭で高く、わからないからやらない状況、不登校傾向との関連性も見受けられる。【図表3.4.1参照】

幼少期の子どもの発達、語彙の獲得に係わる「絵本の読み聞かせ」や、学童期の「学習への働きかけ」を、困窮家庭では「していない」が多く、子どもの体験活動の機会を、家庭教育で確保しにくい面がある。このことから、家庭教育の支援とともに、子どもが集える居場所等での交流体験、学習の習慣づけ等の機会を得られるような取組みが求められる。【図表2.3.1、図表2.3.3参照】

保護者の子どもの進路にかかる理想と現実が、経済的な理由で、教育段階を低く抑える傾向がある。また、父親・母親の学歴も家庭の経済的な保持、家計に影響しているとみられ、子どもの学費（進学）への支払いの抑制、進学段階の抑制に意識づけされている様子が伺える。【図表2.4.3参照】

困窮家庭の子どもについては、学習塾や家庭教師を利用していない、家庭学習習慣の不確立、教えてもらう人の不在、成績不振、授業理解が低い、学校に行きたくない（理由：勉強についていけない）と思い、実際に休んだという一連の傾向がみられる。子どもの自己肯定感の低さ、今後の進路希望にも低下の傾向がみられ、子どもが家庭の経済状況を察している様子が伺える。【図表3.6.4参照】

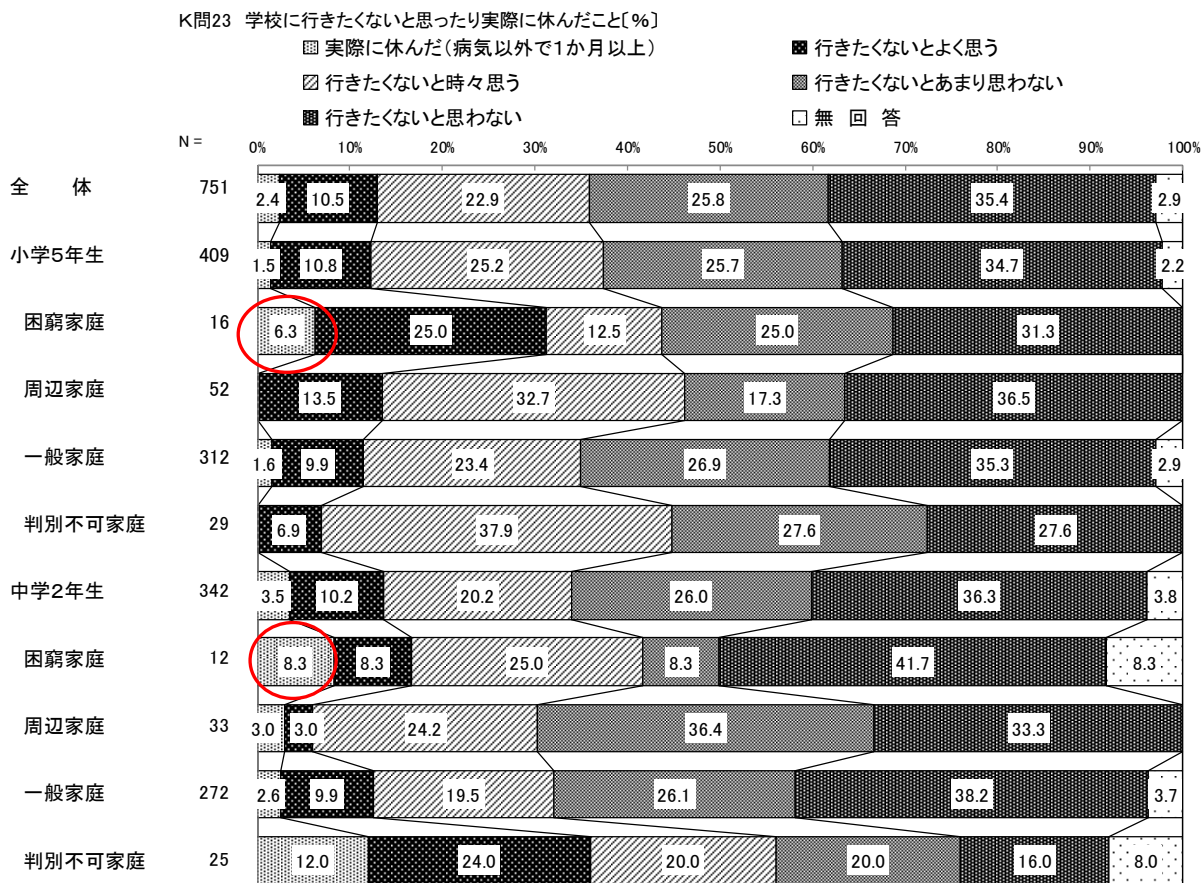
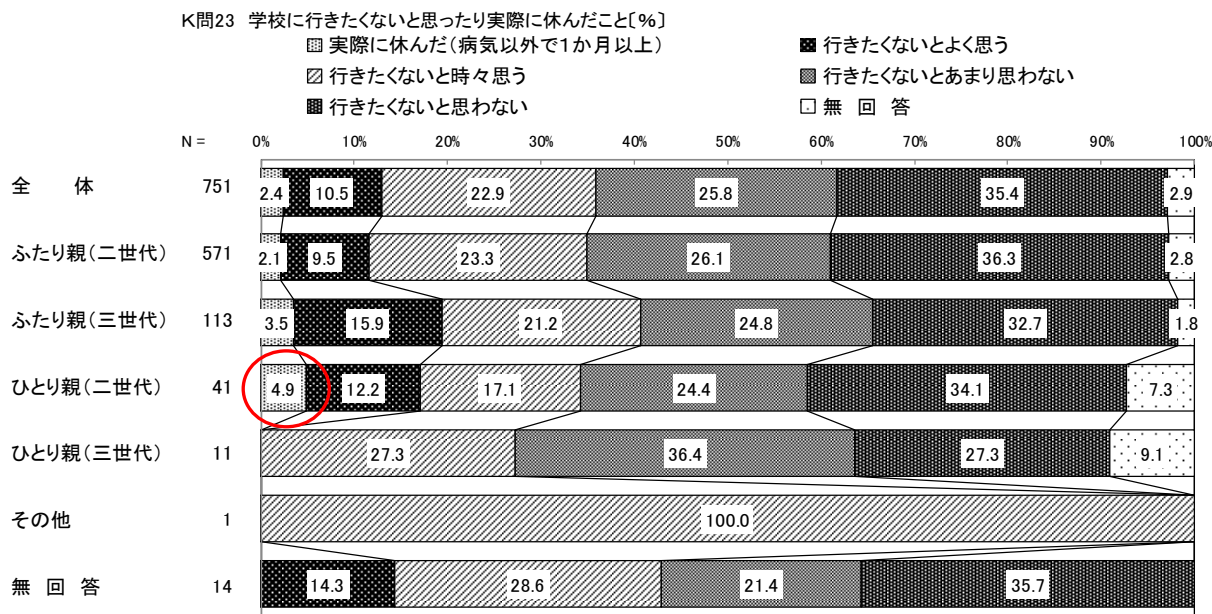
5.2 生活支援について

(1) 子どもの不登校傾向

① 世帯別の不登校傾向

「実際に休んだ（病気以外で1か月以上）」は、世帯別でみるとひとり親（二世帯）で4.9%とやや多く、生活困窮別では困窮家庭の小学5年生で6.3%、中学2年生で8.3%みられる。

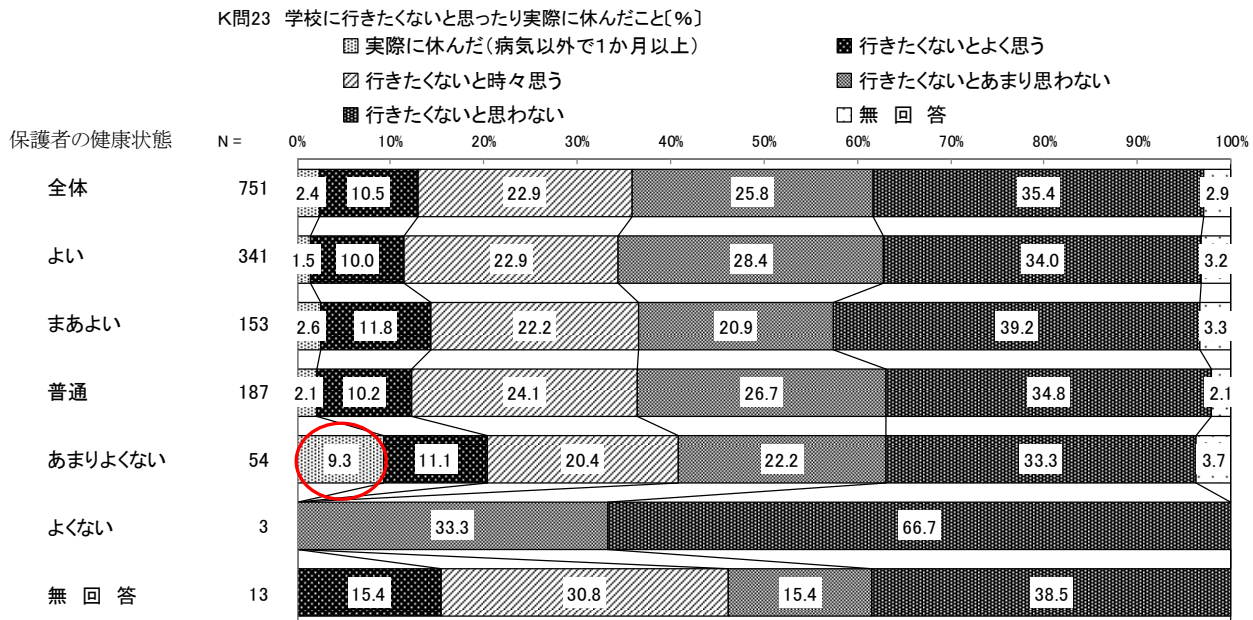
図表 5.2.1.K 世帯別不登校傾向



②保護者の健康状態と子どもの不登校傾向

保護者の健康状態別では、あまりよくないで「実際に休んだ（病気以外で1か月以上）」が9.3%みられる。

図表 5.2.2.K 不登校傾向

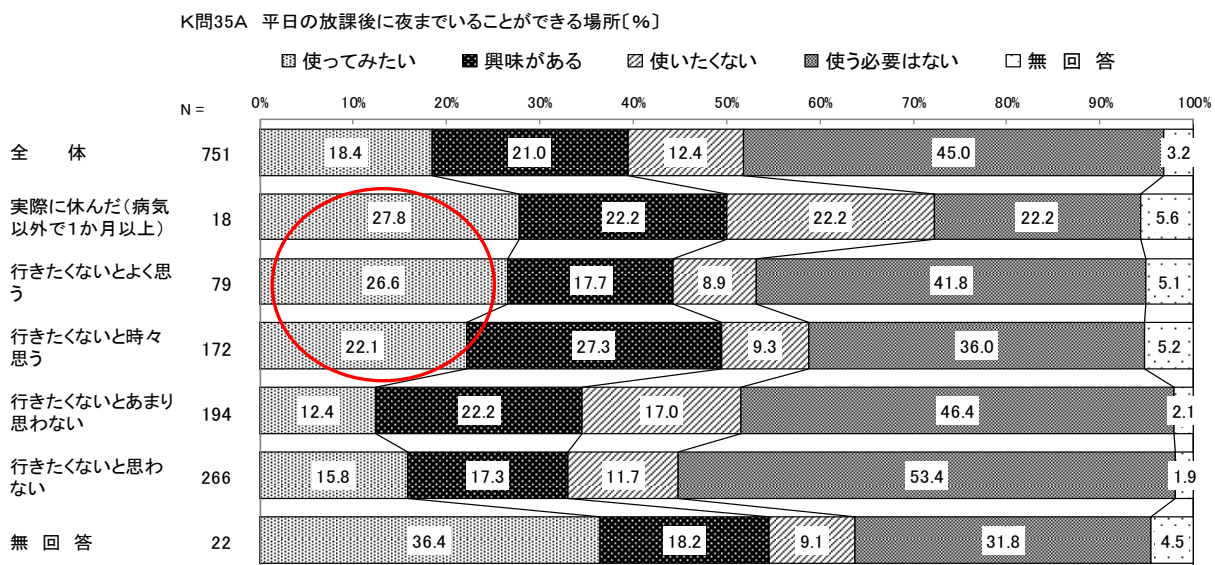


③不登校傾向と居場所

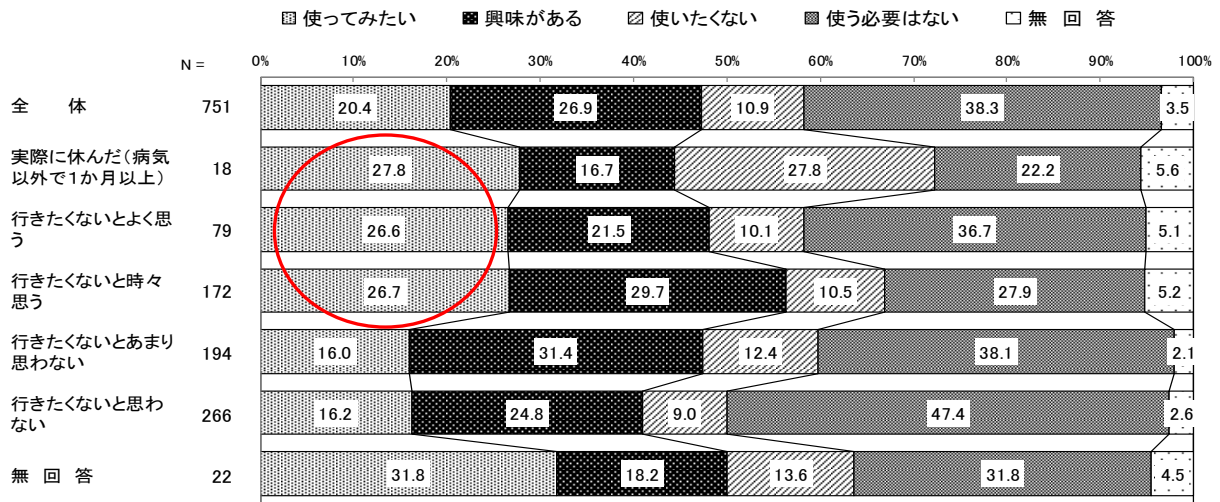
実際に休んだ（病気以外で1か月以上）、行きたくないと思う、行きたくない時々思う回答者で、平日の放課後に夜までいることができる場所、休日にいることができる場所を「使ってみよう」が25%前後と多い。

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所に「興味がある」は、不登校傾向別では、実際に休んだ（病気以外で1か月以上）で5.6%と少ない。

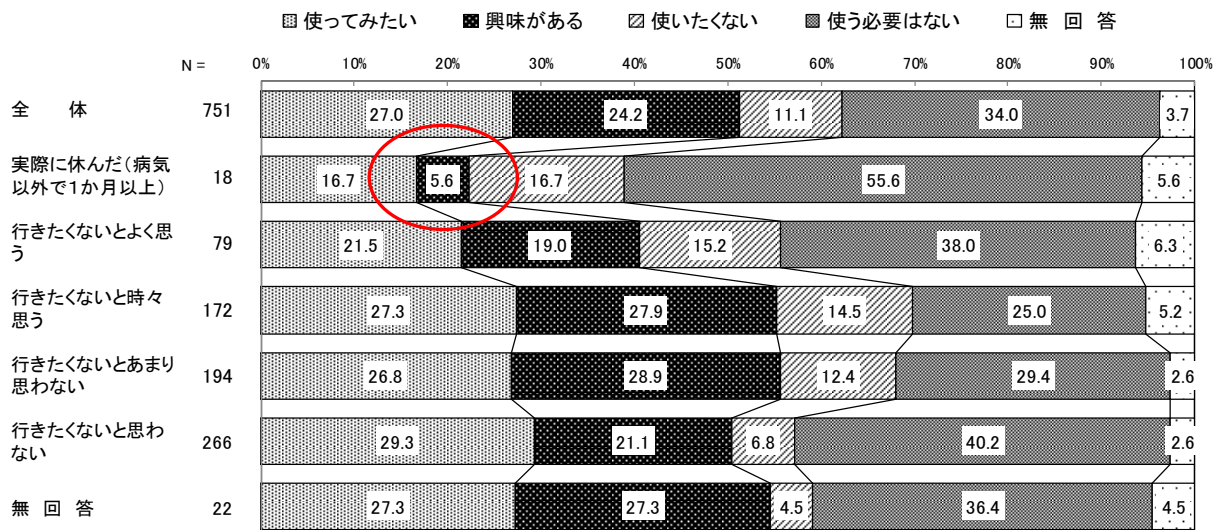
図表 5.2.3.K 平日の放課後に夜までいることができる場所



K問35B 休日にいることができる場所〔%〕



K問35D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所〔%〕



(2) 子どもの食生活

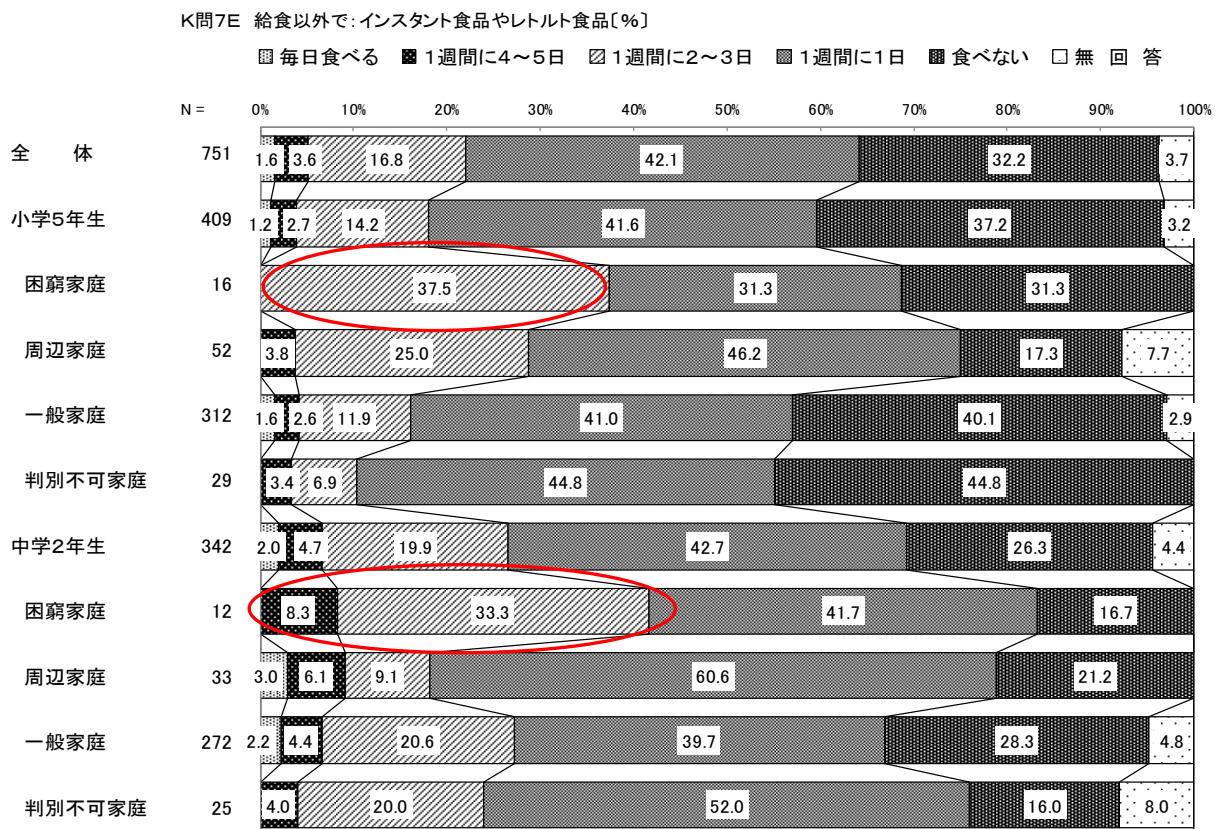
① インスタント食品・コンビニのおにぎり、野菜等の摂取

困窮家庭で、給食以外でのインスタント食品やレトルト食品の利用が多い傾向がみられ、「1週間に2～3日」以上が小学5年生・中学2年生ともに30%台である。

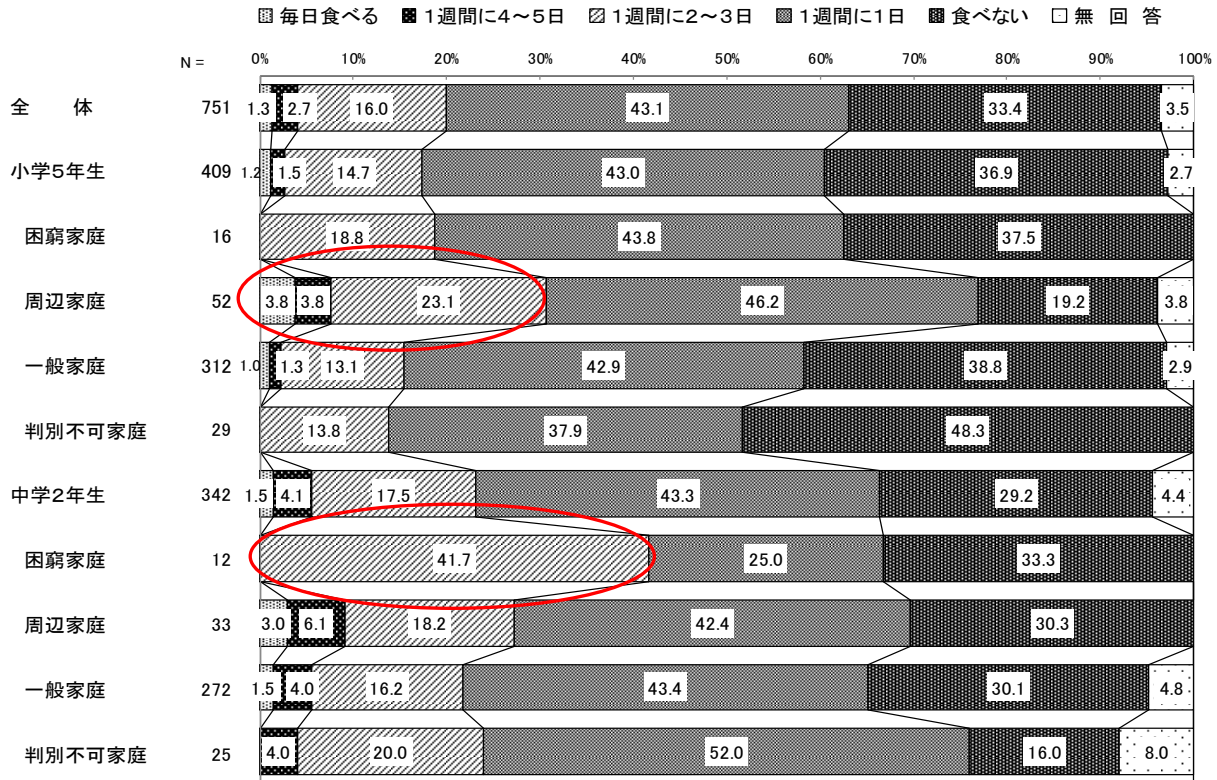
困窮家庭で、給食以外でのコンビニのおにぎり・お弁当の摂取頻度も高く、「1週間に2～3日」以上は、小学校5年生の周辺家庭で30%程度、中学2年生困窮家庭で40%強と多い。

給食以外での野菜の摂取頻度は、困窮家庭は小学5年生・中学2年生ともにそれぞれの学年全体に比べて少なく、「毎日食べる」は小学5年生で37.5%、中学2年生は58.3%である。

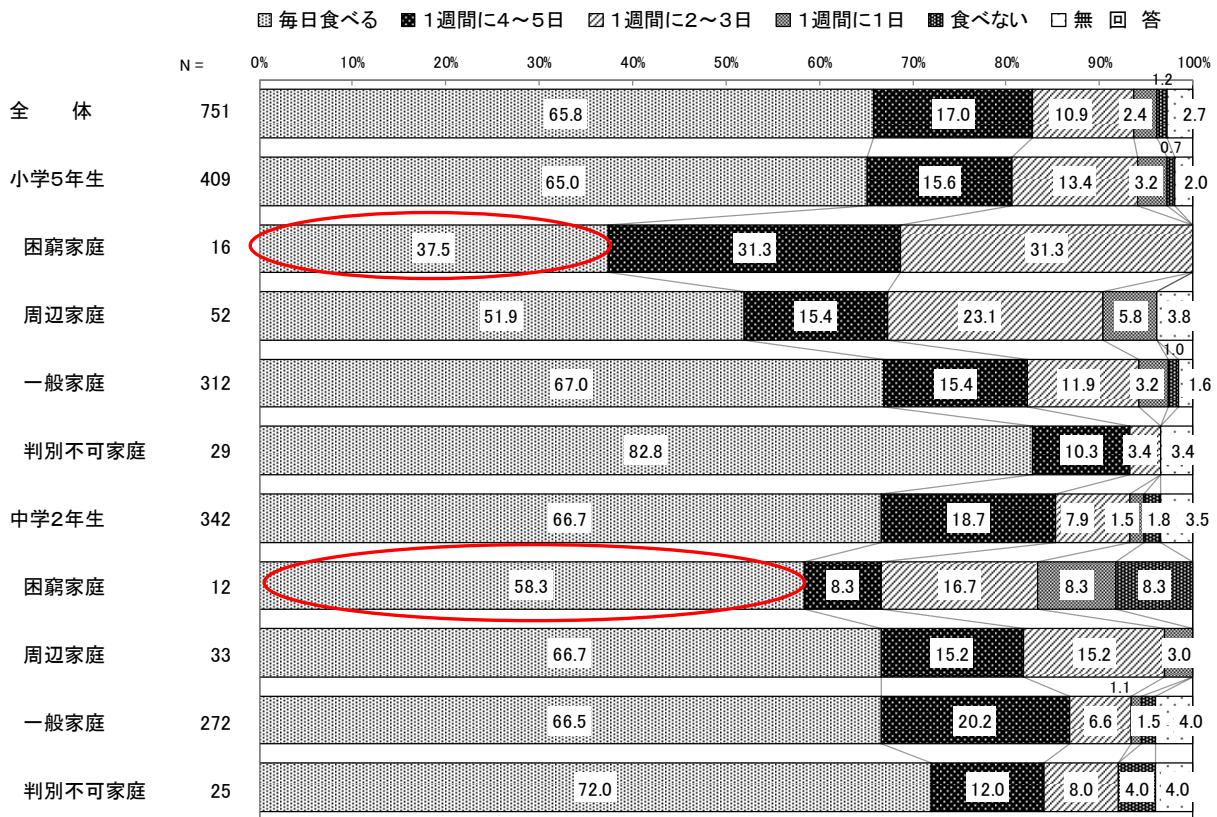
図表 5.2.4.K インスタント食品やレトルト食品の摂取頻度



K問7D 給食以外で:コンビニのおにぎり・お弁当[%]



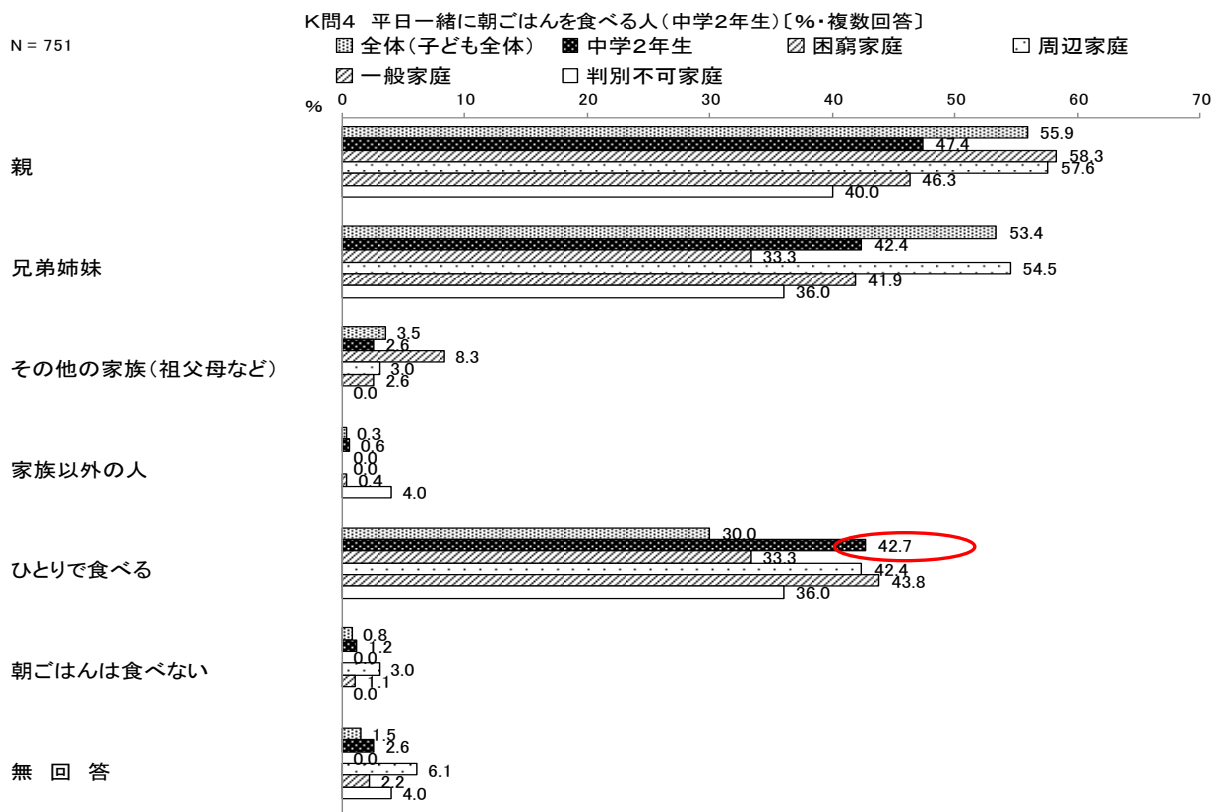
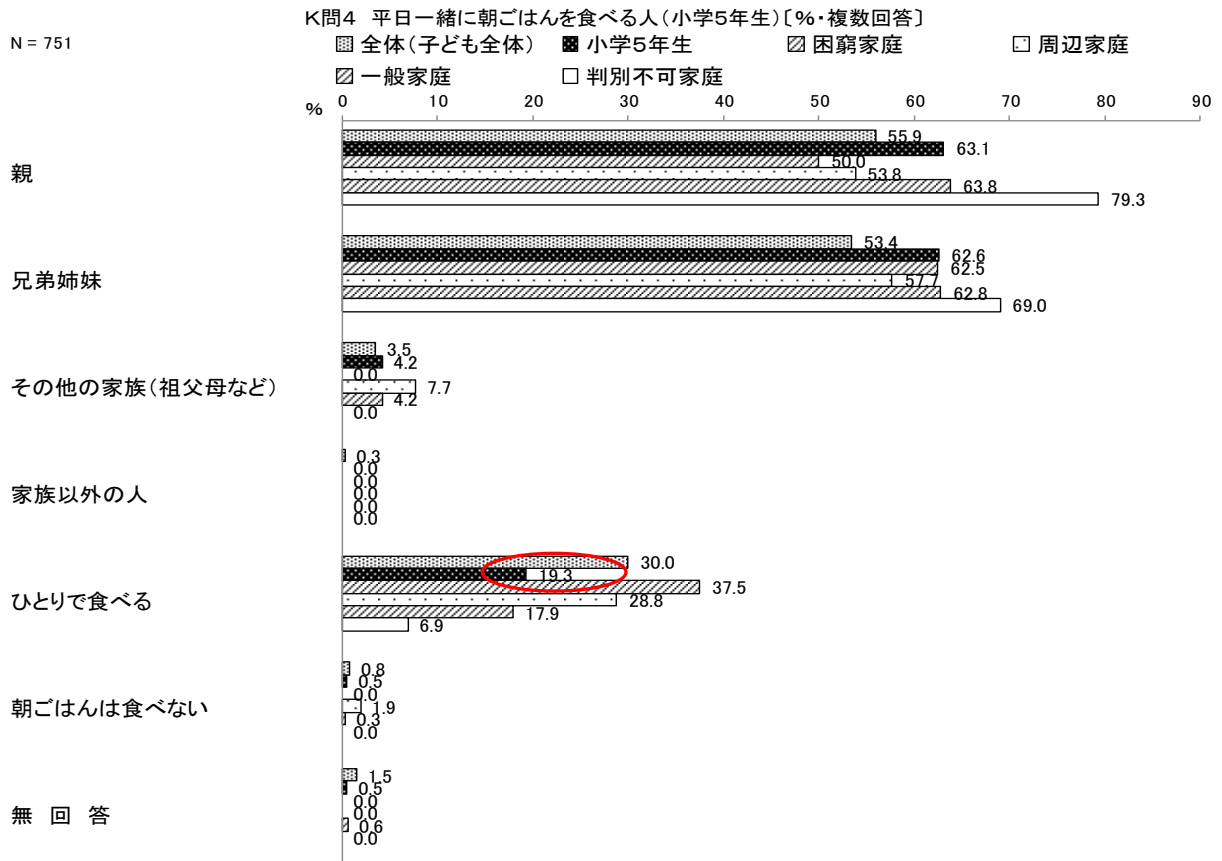
K問7A 給食以外で:野菜[%]



②孤食

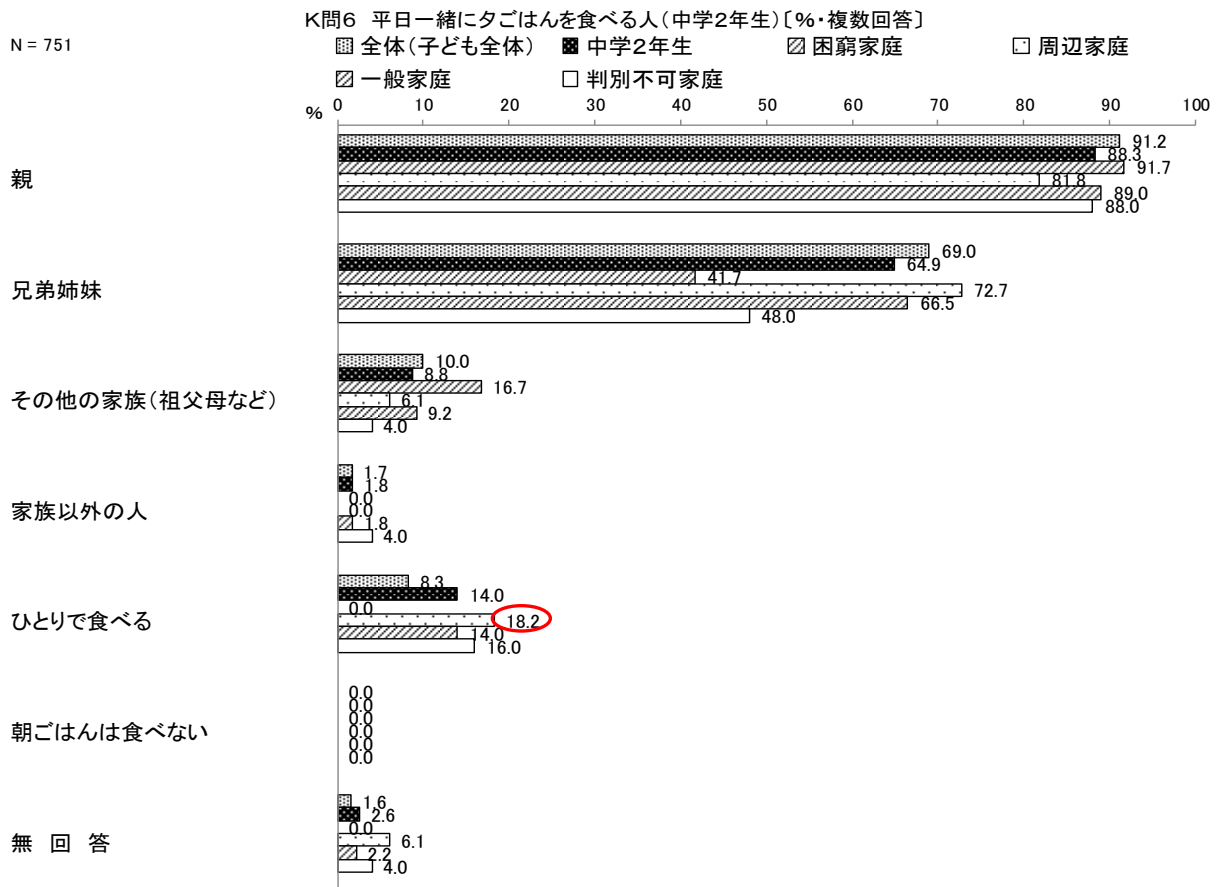
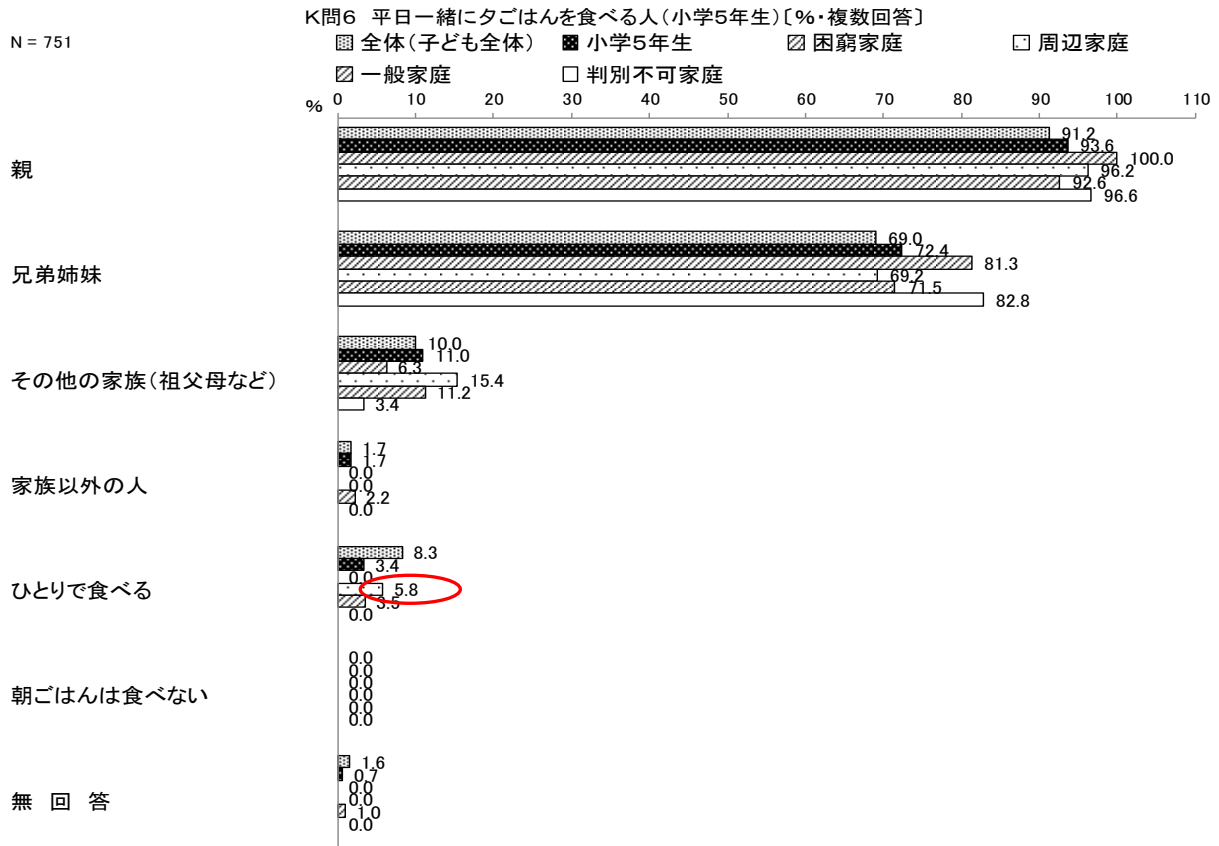
朝ごはんを「ひとりで食べる」は、小学5年生で19.3%に対し、中学2年生は42.7%と学年が上がると多くなっている。小学5年生は困窮家庭で37.5%、周辺家庭で28.8%と多い。

図表 5.2.5.K 平日一緒に朝食を食べる人



夕ごはんを「ひとりで食べる」は、周辺家庭でやや多く、小学5年生で5.8%、中学2年生で18.2%みられる。

図表 5.2.6.K 平日一緒に夕食を食べる人



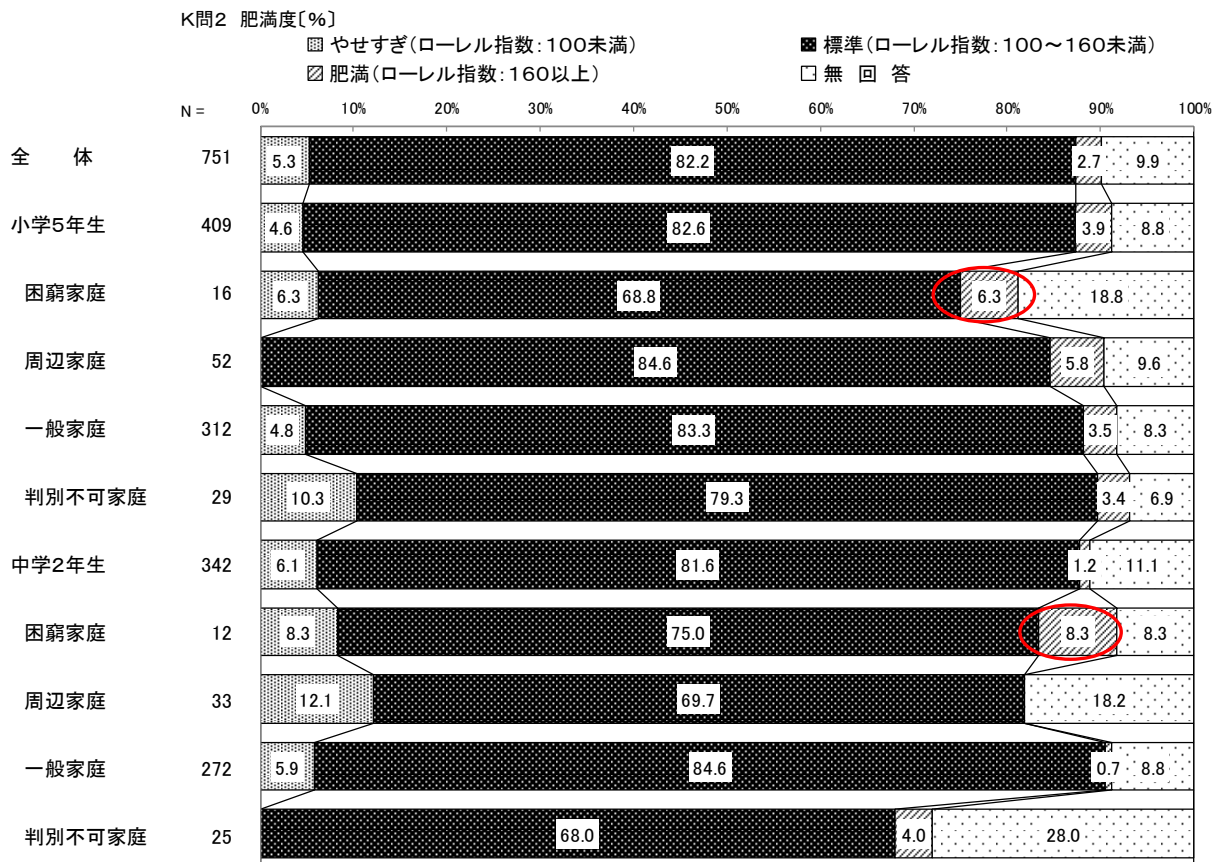
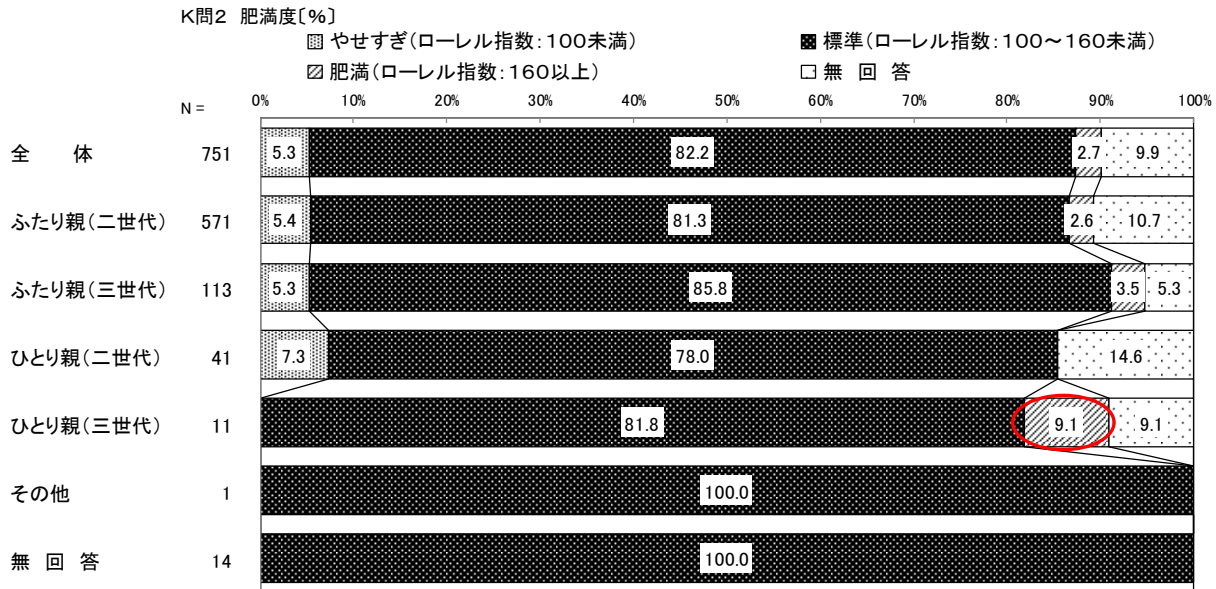
③子どもの肥満度（ローレル指数）

「肥満（ローレル指数：160以上）」はひとり親（三世代）で9.1%みられる。

困窮家庭で「肥満（ローレル指数：160以上）」が多く、小学5年生で6.3%、中学2年生で8.3%である。

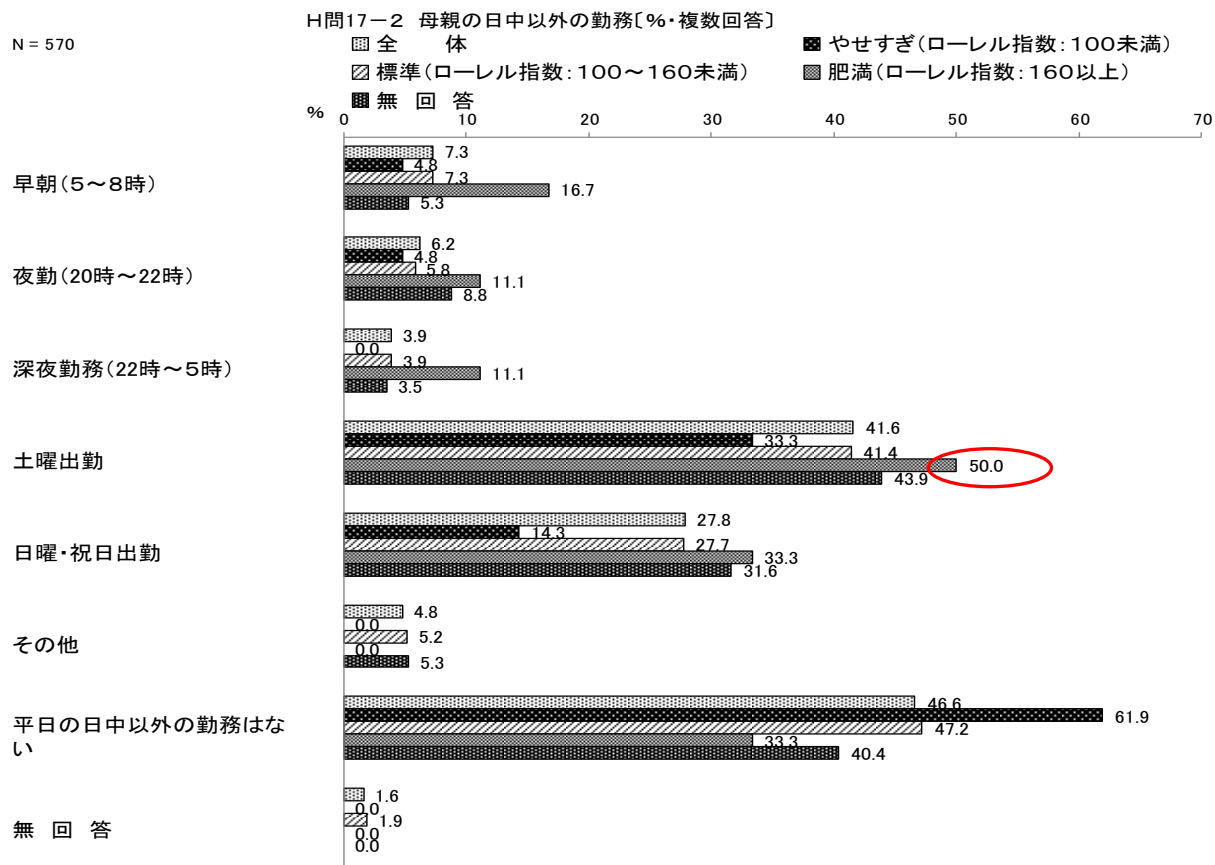
母親が土曜出勤のある子どもで「肥満」が50.0%と多い。

図表 5.2.7.K 肥満度



図表 5.2.8.H母親の日中以外の勤務

N = 570

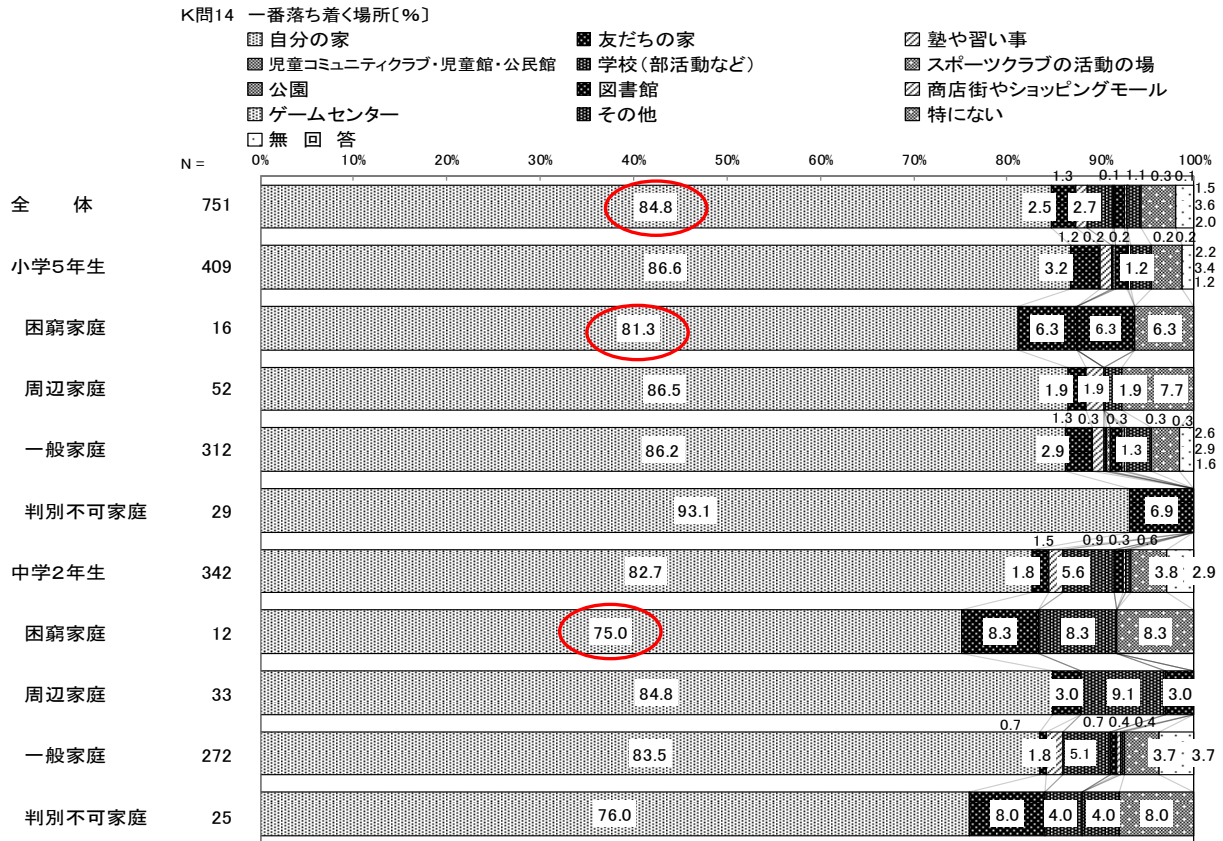


(3) 子どもの毎日の生活

①一番落ち着く場所

全体では「自分の家」が多くを占めているが、困窮家庭では「自分の家」の回答が小学5年生・中学2年生ともにやや少ない。

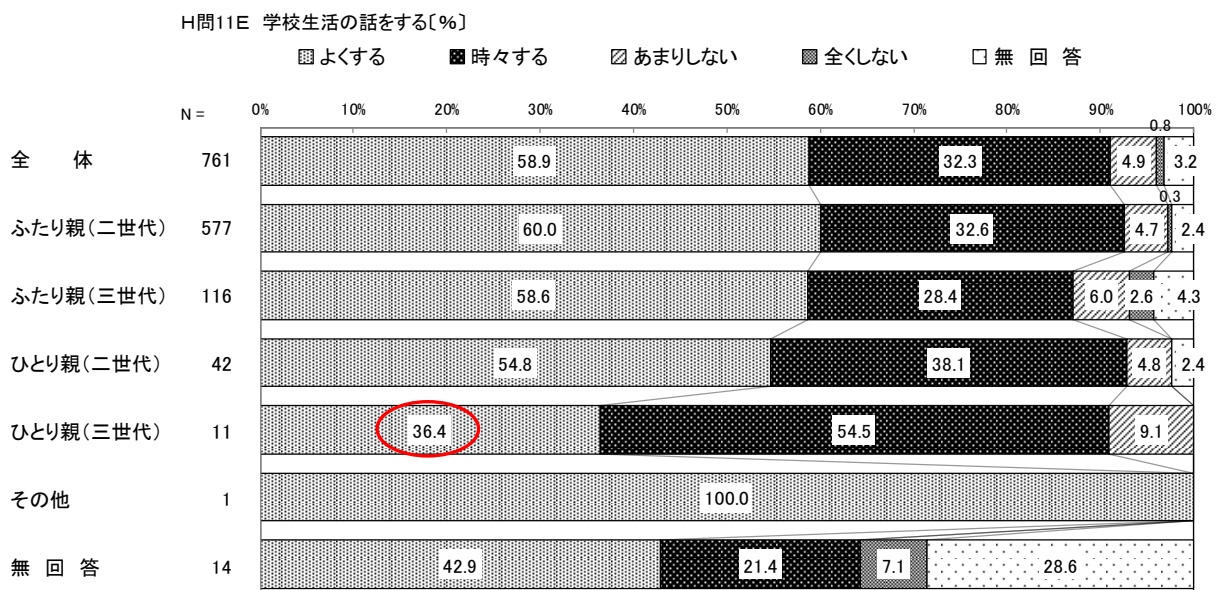
図表 5.2.9.K 一番落ち着く場所



②家庭でのこと（保護者）

子どもと学校生活の話を「よくする」は、ひとり親（三世代）で36.4%と少ない。

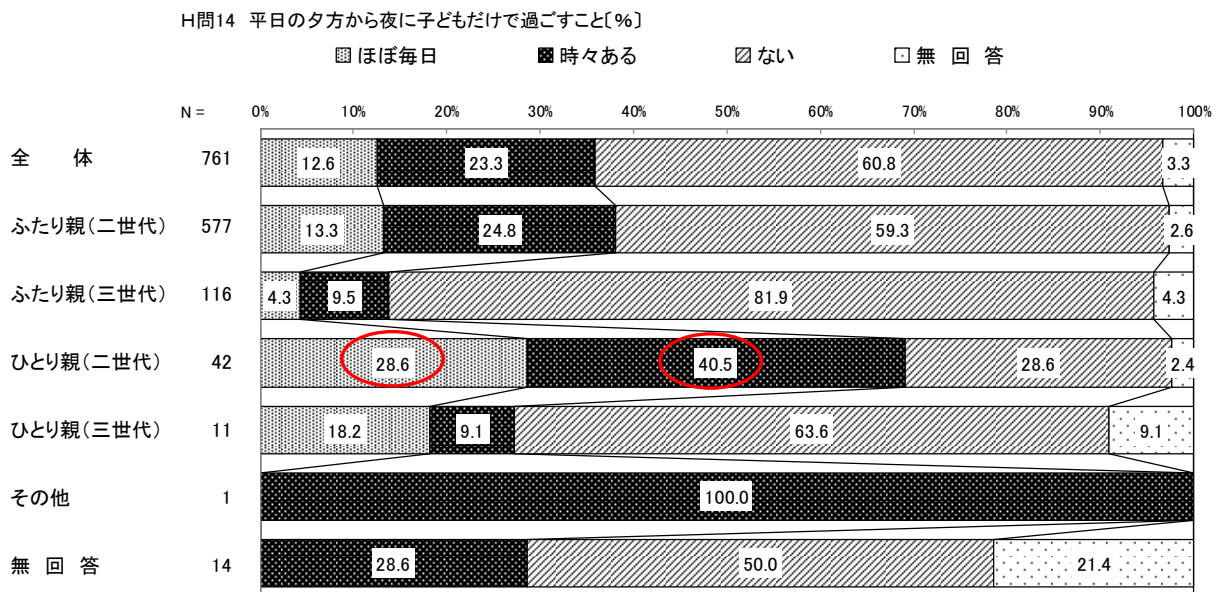
図表 5.2.10.H 学校生活の話



③平日の夕方から夜にかけて子どもだけで過ごすこと

夕方以降子どもだけで過ごすことは、ひとり親（二世帯）で「時々ある」が40.5%、「ほぼ毎日」が28.6%と多い。

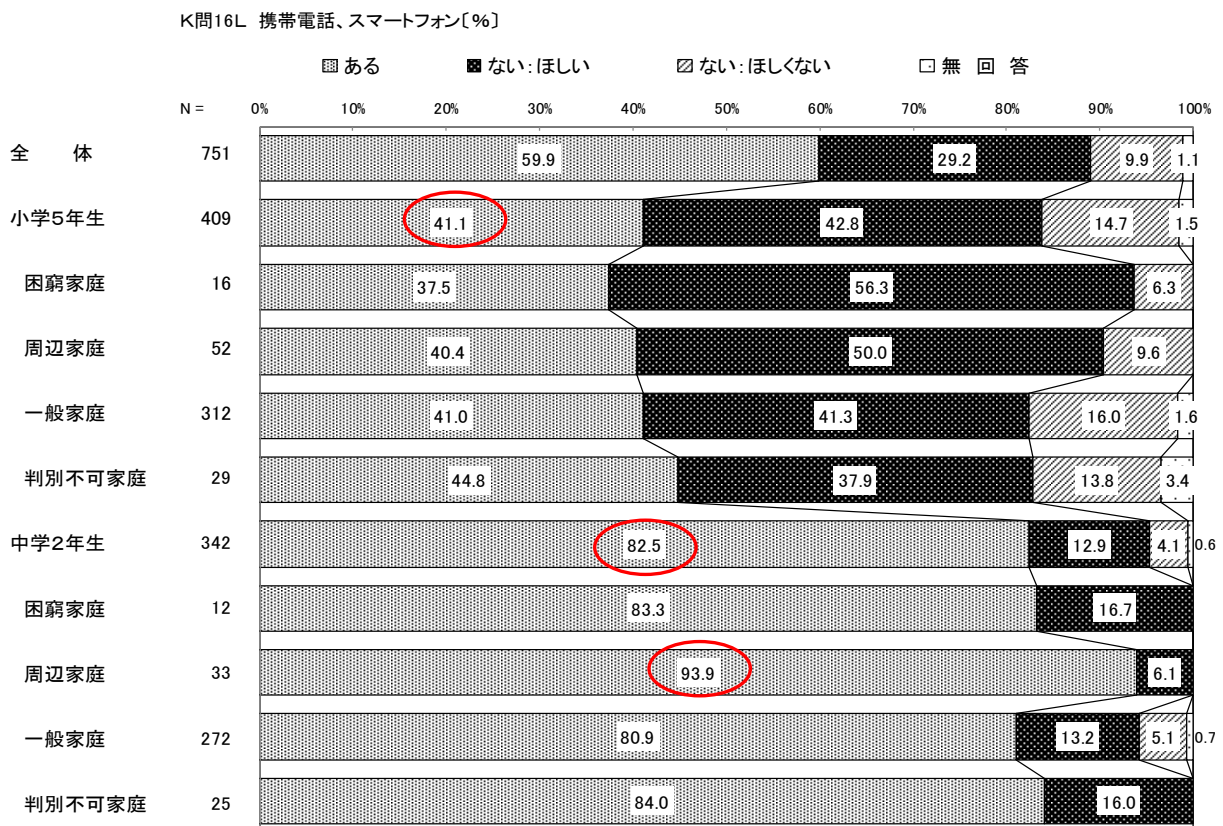
図表 5.2.11.H 平日の夕方から夜にかけて子どもだけで過ごすこと



④携帯電話、スマートフォンの所有

所有率は小学5年生で41.1%、中学2年生では82.5%に上る。周辺家庭の中学2年生の所有率は93.9%と高い。

図表 5.2.12.K 携帯電話、スマートフォンの所有有無



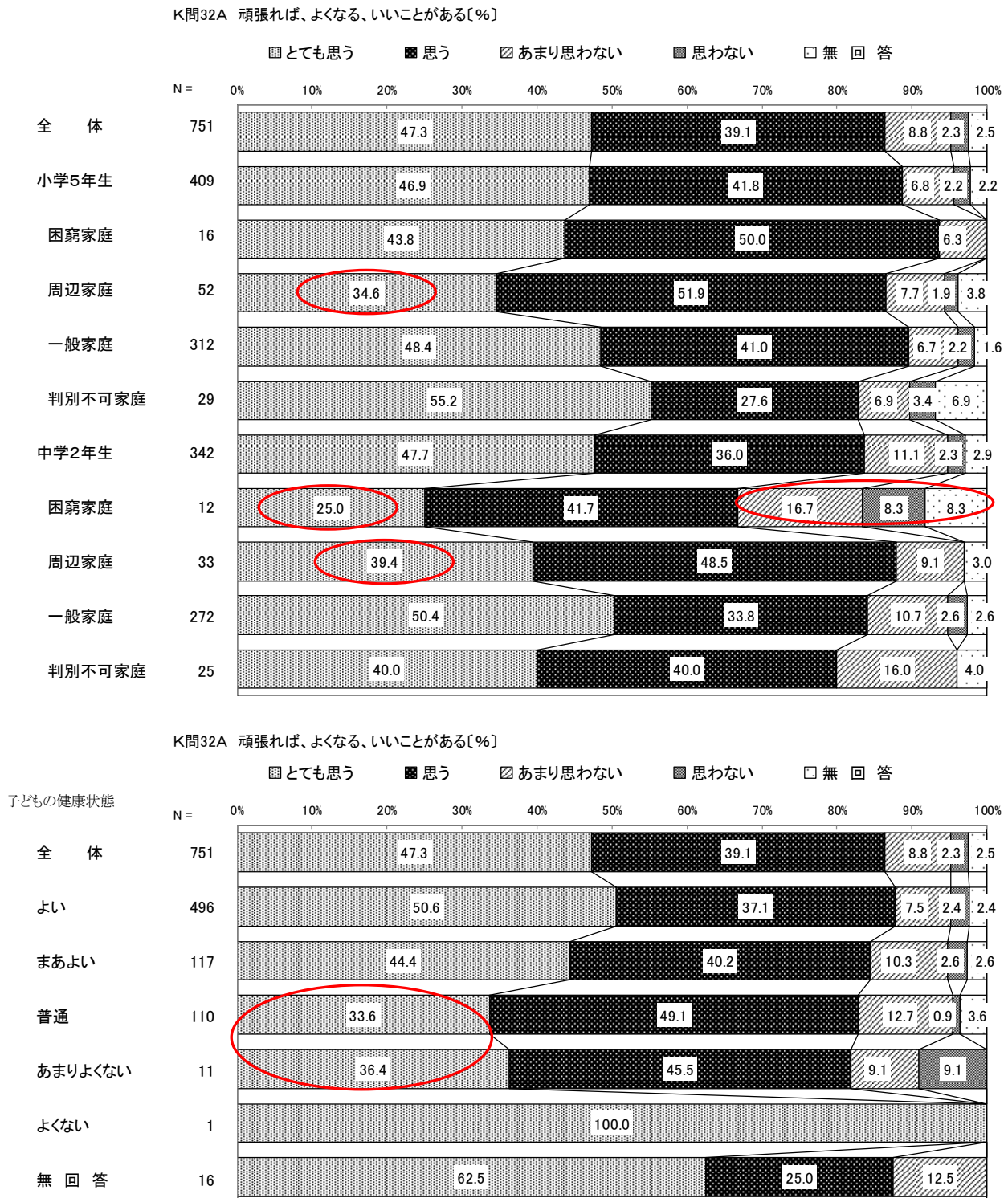
(4) 子どもの自己肯定感

① 頑張ればよくなる、いいことがある

全般的に生活困窮の世帯や、健康状態が良好でない子どもの自己肯定感は、低下傾向が表れている。

頑張れば、よくなる、いいことがあると「とても思う」は、周辺家庭の小学5年生は34.6%、中学2年生の周辺家庭で39.4%、困窮家庭で25.0%と少ない。健康状態が普通またはあまりよくないと回答した子どもでは35%前後と少ない。

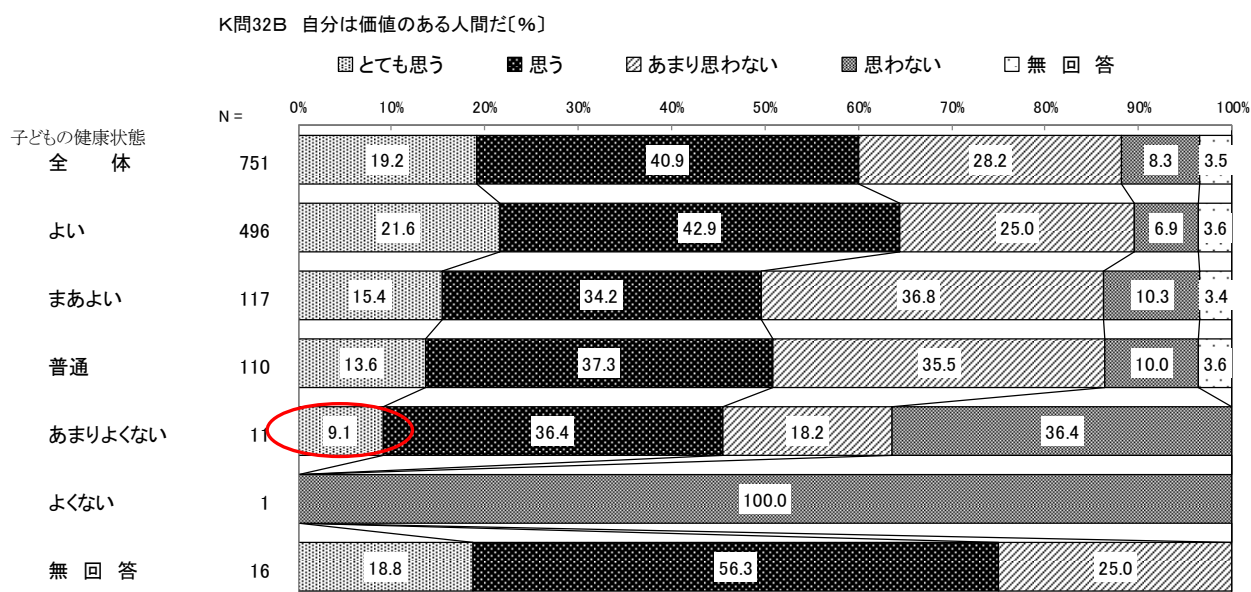
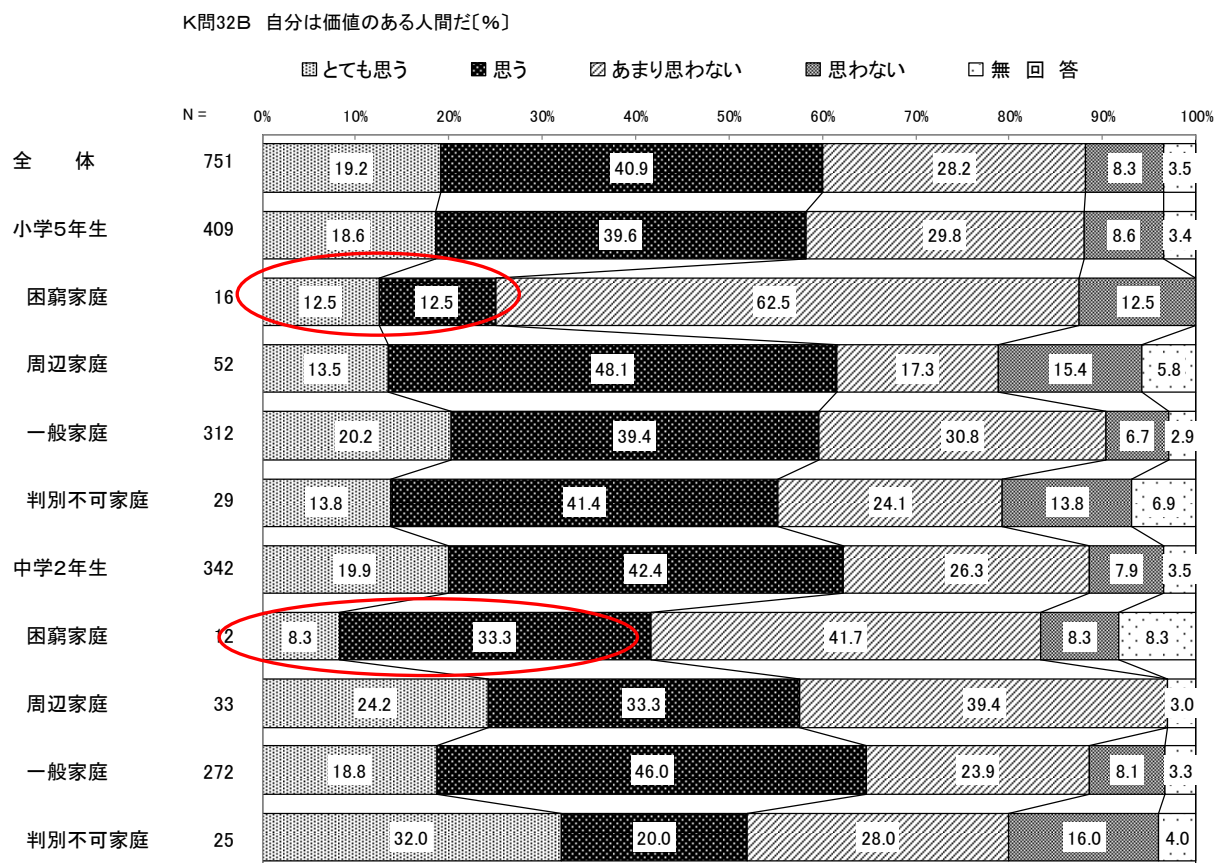
図表 5.2.13.K 頑張ればよくなる、いいことがある



②自分は価値のある人間だ

自分は価値のある人間だと思う（「とても思う」と「思う」の合計）回答者は、困窮家庭の小学5年生で25.0%、中学2年生で41.6%と少ない。健康状態が普通またはあまりよくないと回答した子どもでは「とても思う」が9.1%と少ない。

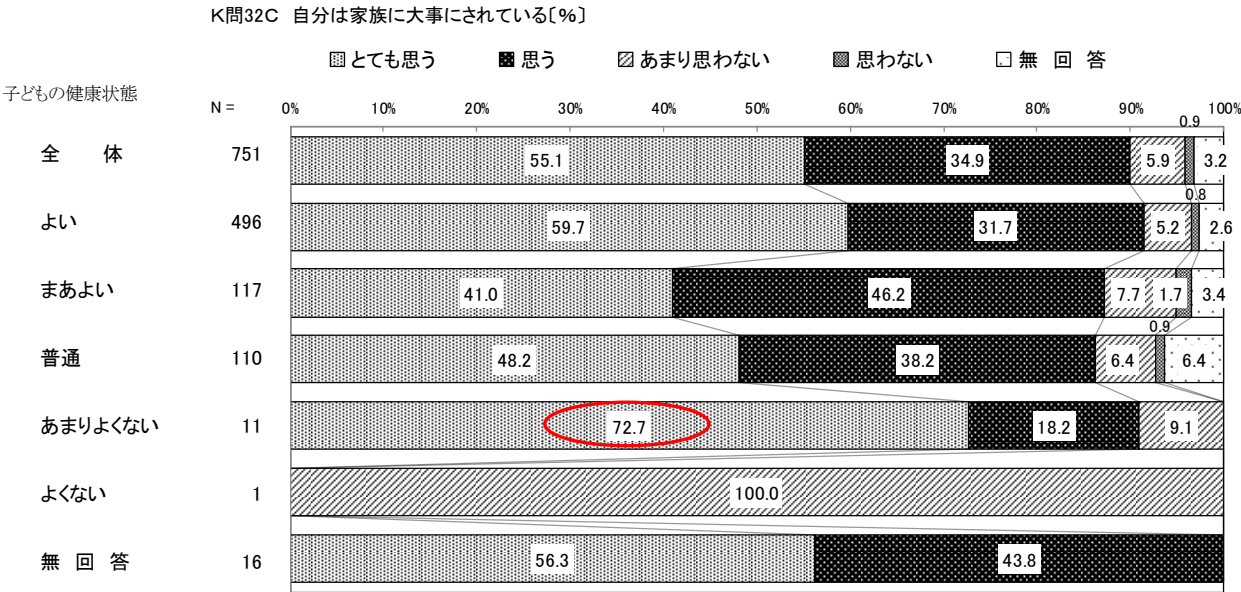
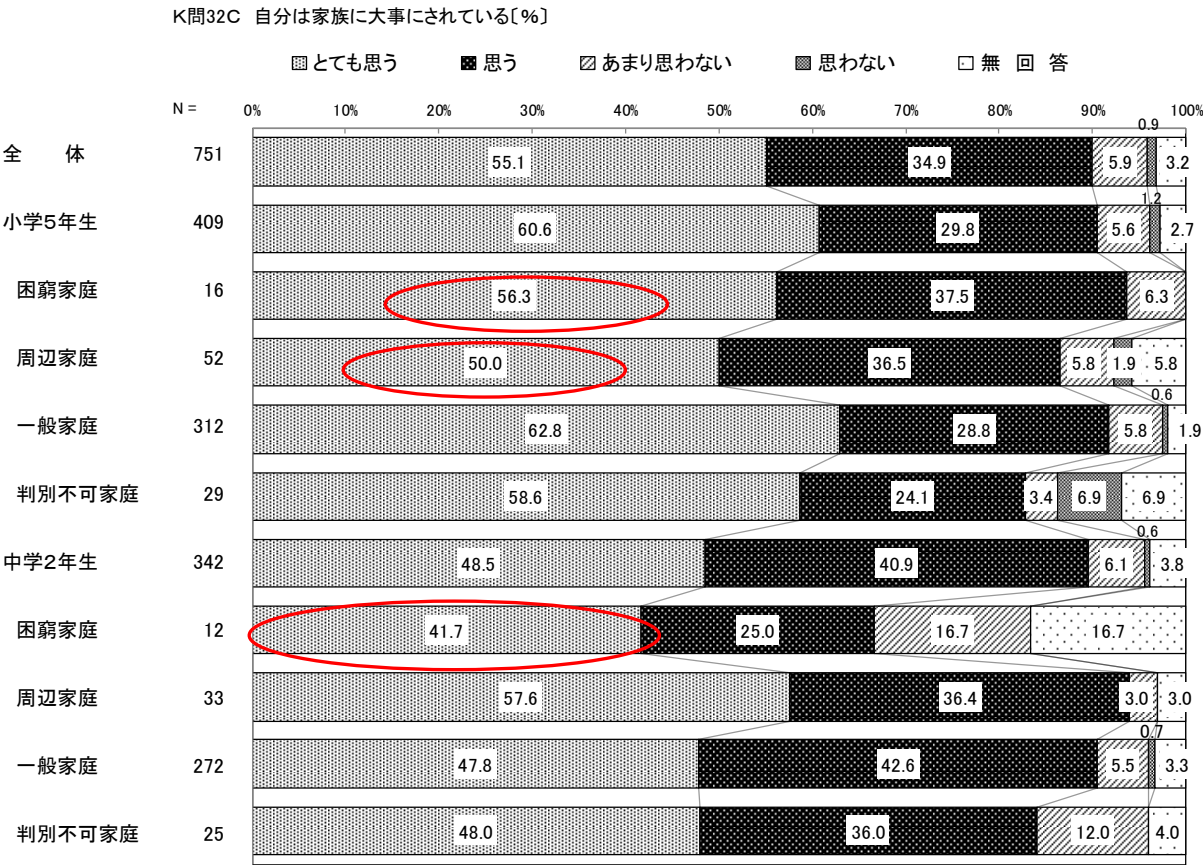
図表 5.2.14.K 自分は価値のある人間だ



③自分は家族に大事にされている

自分は家族に大事にされていると「とても思う」は、小学5年生の困窮家庭と周辺家庭は55%前後と小学5年生全体よりもやや少なく、中学2年生は困窮家庭で41.7%と少ない。回答者は少ないが、健康状態があまりよくないと回答した子どもでは、「とても思う」が72.7%と多い。

図表 5.2.15.K 自分は家族に大事にされている

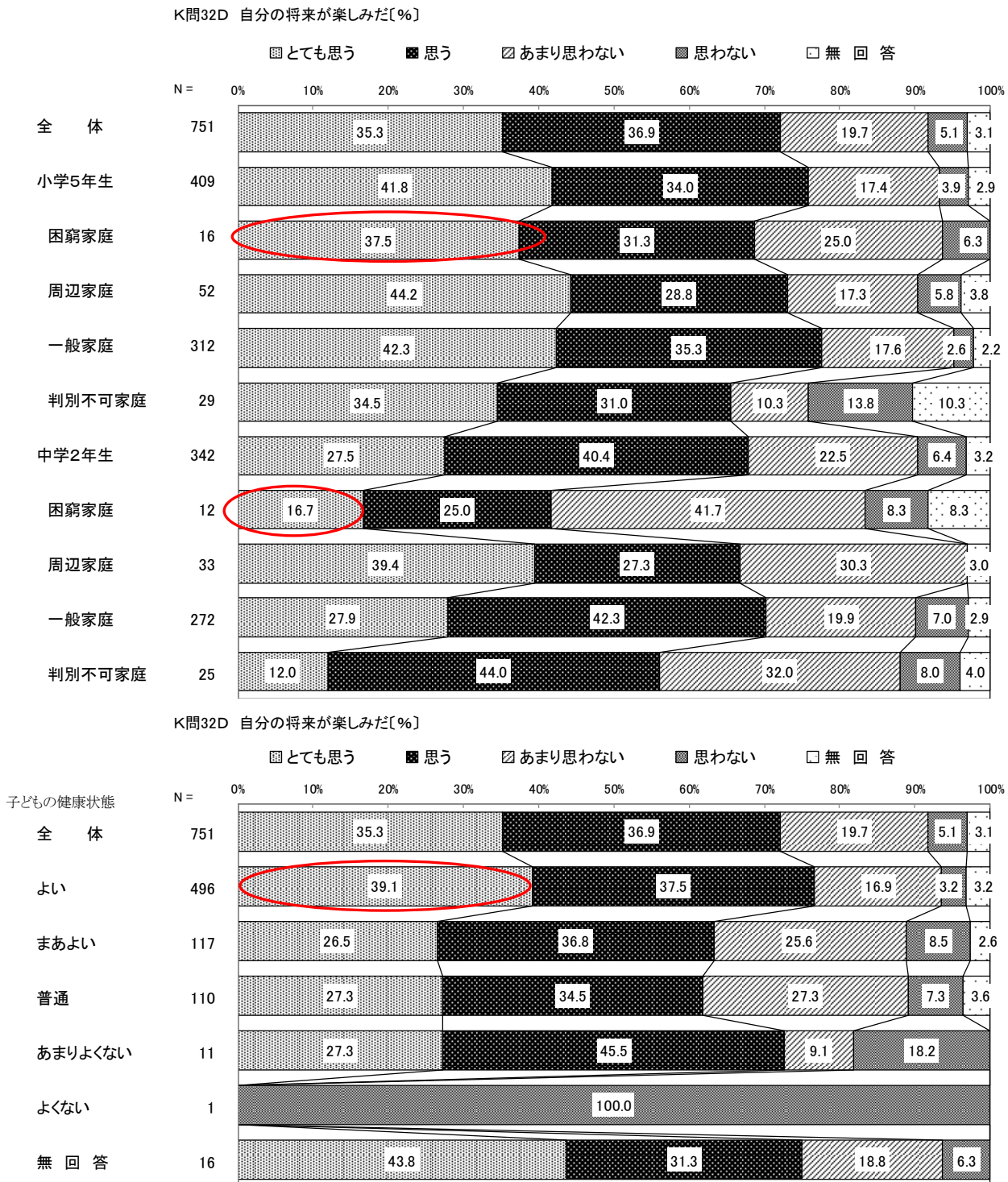


④自分の将来が楽しみだ

自分の将来がとても楽しみだと「とても思う」子どもは、困窮世帯の中学2年生で16.7%と特に少ない。

健康状態がよいと回答した子どもで「とても思う」は39.1%と多く回答されている。

図表 5.2.16.K 自分の将来が楽しみだ

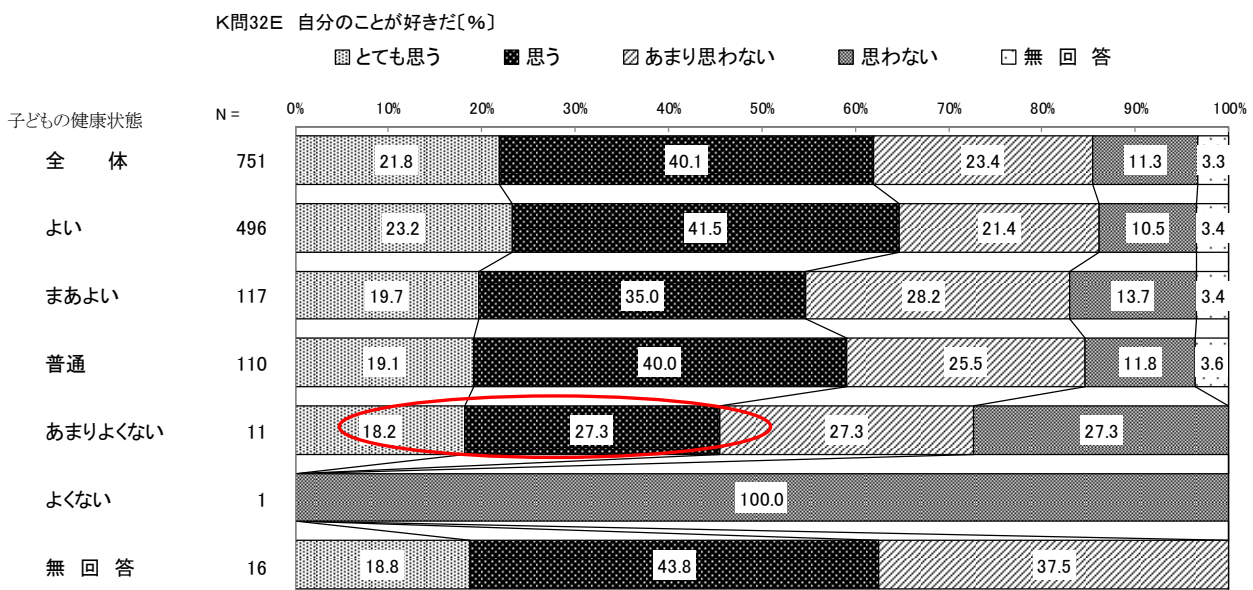
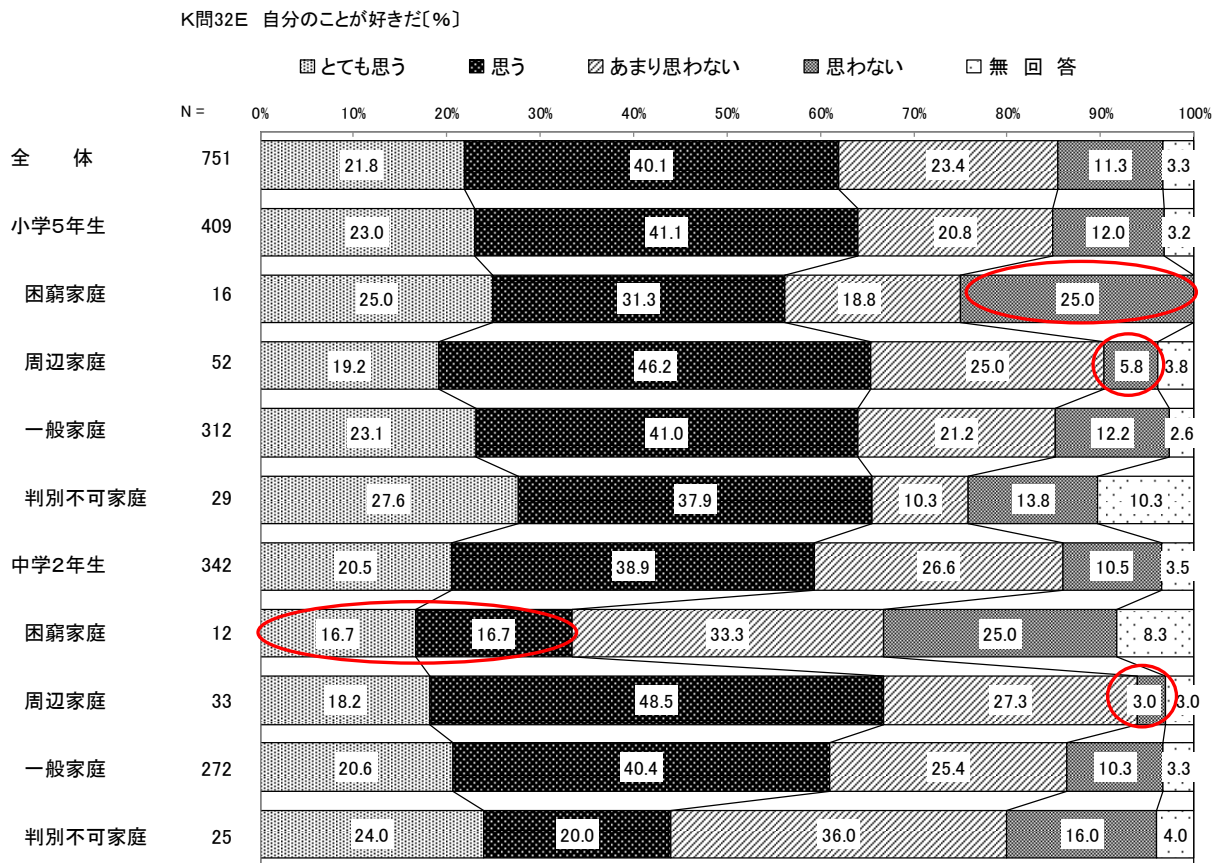


⑤自分のことが好きだ

自分のことが好きだと「思わない」という回答者は小学5年生と中学2年生の困窮家庭では、25.0%と多いのに対し、周辺家庭の小学5年生と中学2年生はそれぞれ5.8%、3.0%と少ない。また、自分のことが好きだと思う（「とても思う」と「思う」の合計）回答者は、困窮家庭の中学2年生で33.4%と少ない。

健康状態があまりよくないと回答した子どもで、自分のことが好きだと思う（「とても思う」と「思う」の合計）は45.5%と少ない。

図表 5.2.17.K 自分のことが好きだ

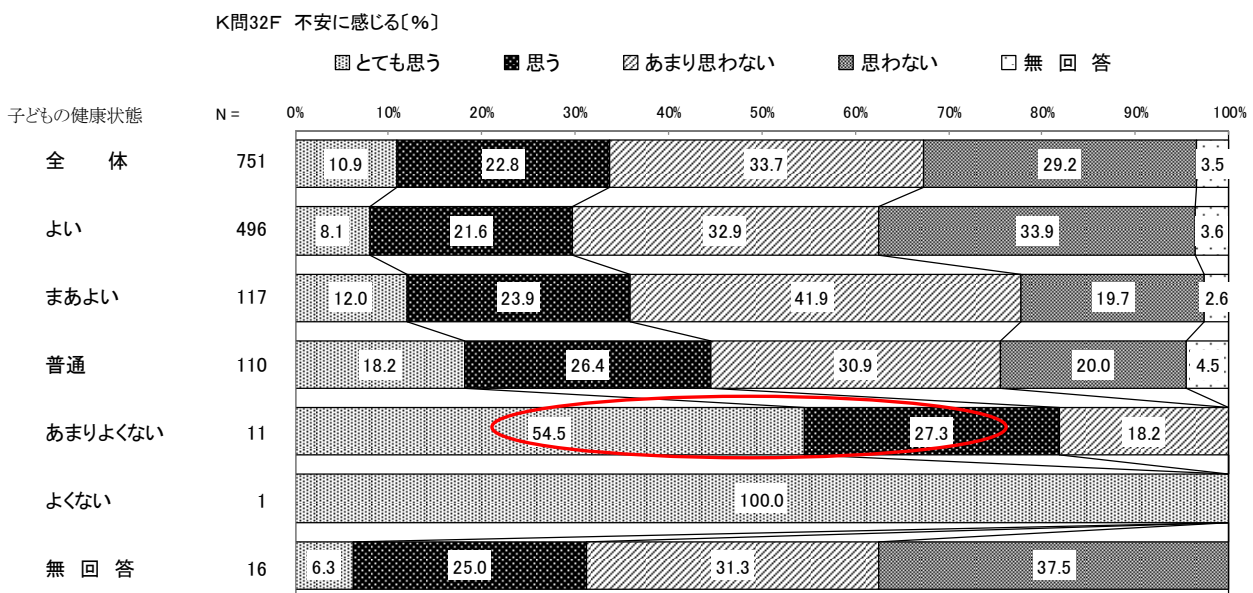
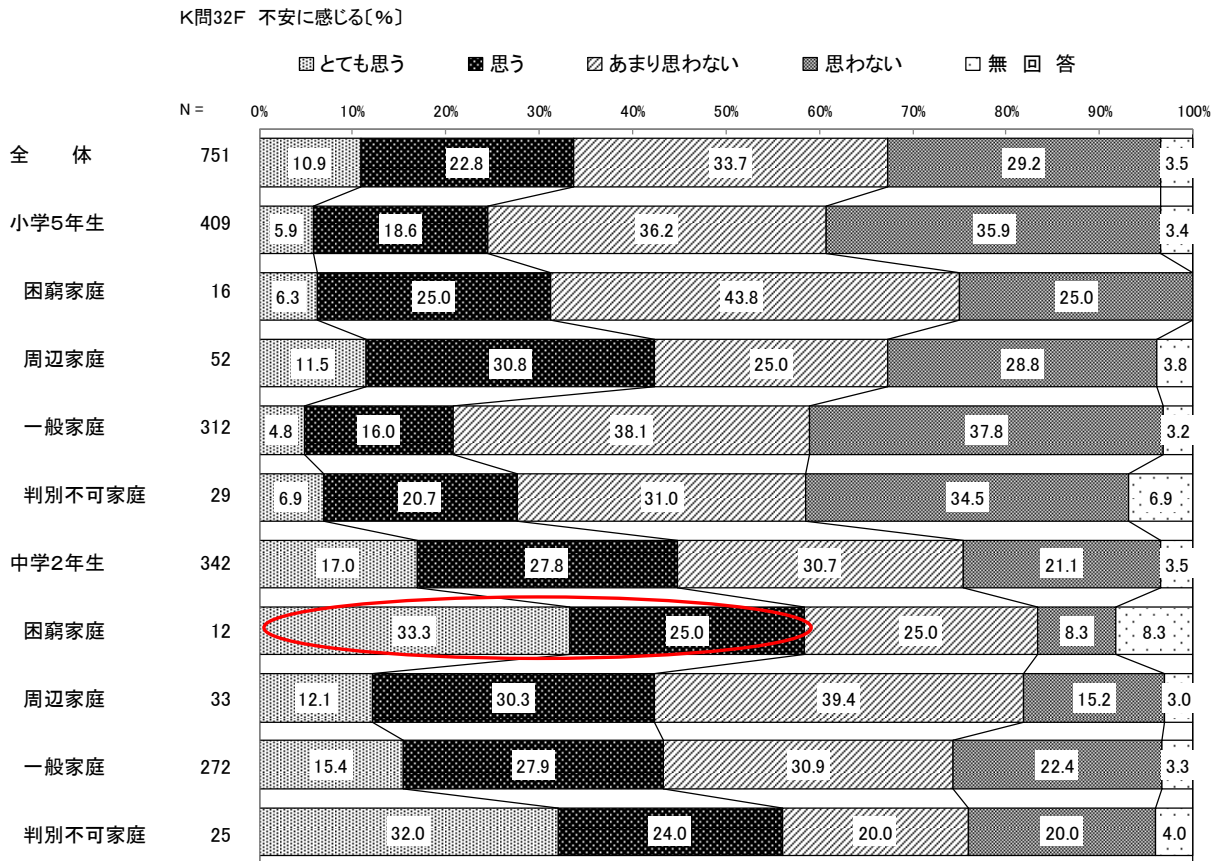


⑥不安を感じる

不安を感じている（「とても思う」と「思う」の合計）という回答は中学2年生の困窮家庭で58.3%と多い。

回答者数は少ないが、健康状態があまりよくないと回答した子どもでは、不安を感じている（「とても思う」と「思う」の合計）という回答が81.8%と多い。

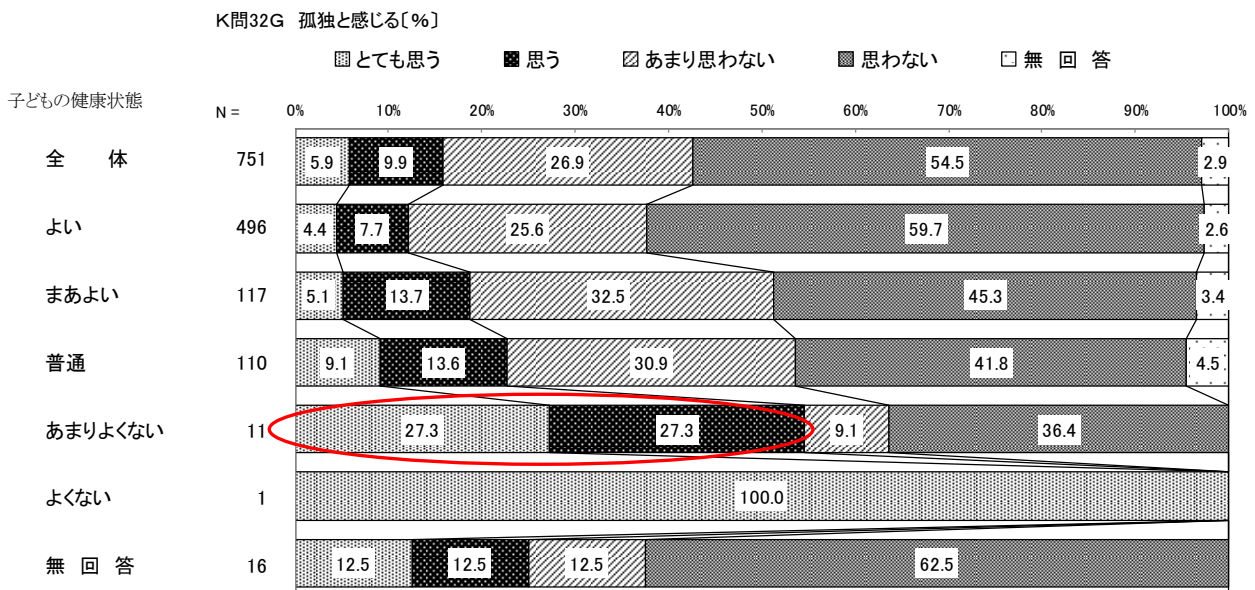
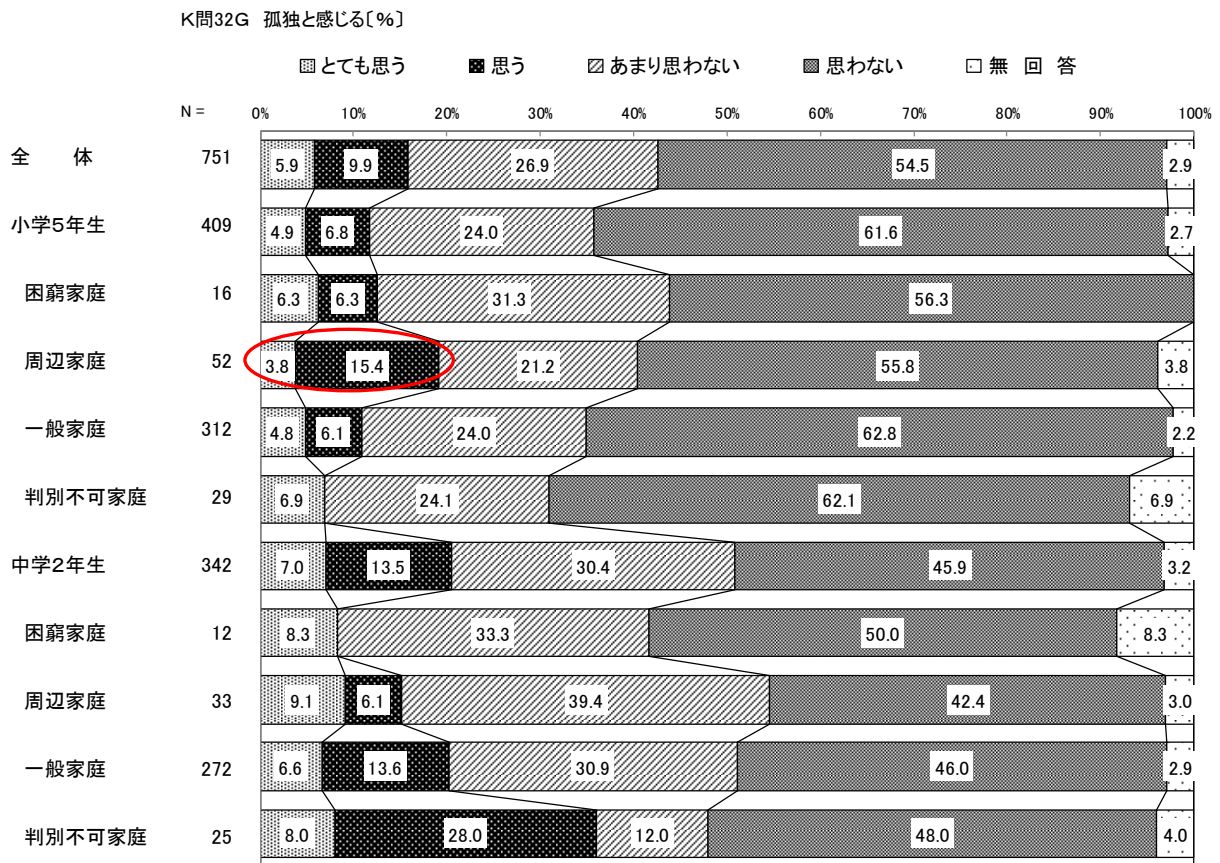
図表 5.2.18.K 不安を感じる



⑦孤独とを感じる

孤独とを感じる（「とても思う」と「思う」の合計）回答は、小学5年生では周辺家庭が19.2%と多い。回答者数は少ないが、健康状態があまりよくないと回答した子どもでは、孤独とを感じる（「とても思う」と「思う」の合計）という回答が54.6%と多い。

図表 5.2.19.K 孤独とを感じる



【調査結果分析からみられる生活支援の課題と今後の取組】

健康状態については、困窮家庭で、保護者の心身の健康の不安定さ、特に心理的な面での不安定感が大きい。親子の健康的な課題については、母子保健事業から子育て支援施策まで切れ目のない継続した支援をめざした取組みの推進が求められる。【図表2.2.1、図表2.2.2参照】

困窮家庭の保護者は、「子どもの勉強をみる」、「子どもと体を動かして遊ぶ」割合が低く、子どもと関わる機会、頻度が少なくなっている。【図表2.3.3、2.3.4参照】

保護者の養育姿勢として、子どもへ各種体験・経験について関わる機会が、困窮家庭では少なく、「経済的な理由でない」という回答が多くみられる。地域においても子どもへの様々な体験活動の参加ができる場所、機会の提供が望まれる。【図表2.3.12～17参照】

子どもに関する情報の受け取り方の希望として、全体的に、子どもの学校からのお便りや家族や友人からの情報など、現在と同じ方法での取得を希望している。また今後も、保護者等が情報を取得するため、ホームページやSNSの活用についても、情報取得の利便性を高められるよう継続し推進していく必要がある。【図表2.7.20参照】

生活困難層では、保護者に相談できる相手がいないため、地域で孤立し、子育て・生活全般の不安や悩みが増大し、困窮へのリスクを高めることが見込まれる。また、核家族化により、子育てに困っても親族に頼れず、社会との接点が少ない家庭が増えたため、孤立化が進んでいるとも思われる。そのため、地域、学校、行政等の相談支援等を活用して相談したり、助けを求めたりできる、寄り添い型の支援方法も継続して行うことも必要である。【図表2.7.1参照】

子ども自身にとって「家族に大事にされている」と思えることは、人に対する基本的信頼感の形成に重要であり、人とのつながりや接し方など社会で生きぬく力の基礎となる。子どもの自己肯定感の低下の回答状況から、包括的な支援を推進する必要がある。【図表3.7.3参照】

子どもが放課後を過ごす場所、一緒に過ごす人は、世帯構成と保護者の就業状況と関連がある。核家族化が進み、祖父母が近くにいない、頼る人がいない状況も一部みられる。【図表3.3.1～12参照】子どもの毎日の過ごし方としては、困窮家庭はゲーム機の使用時間が長く、携帯電話、スマートフォンの使用時間も同様に長い。家や地域で子ども同士や1人で過ごし、使用時間の制限が掛けられない状況が伺える。【図表3.3.14～16参照】地域の大人が関わったり、異年齢の子どもとともに過ごしながら、様々な体験や活動ができ、放課後や休みの日を過ごせる居場所などが必要と考えられる。【図表3.7.16～21参照】

困窮家庭では、全体に比べて子どもが「ほぼ毎日歯みがきをする」など、基本的な生活習慣の定着がやや低い傾向がみられる。また、困窮家庭の子どもの虫歯の有無では、全体と比べ0本の割合が低い。子どもの生活習慣の定着を図るために、学校生活の中での習慣化、保護者への促しも継続して必要と思われる。【図表3.2.14～15参照】

朝食欠食は困窮家庭の子ども割合がやや多く、夕食を「一人で食べる」は周辺家庭でやや高い。【図表3.2.1～4参照】

食生活では、「コンビニのおにぎり・お弁当」「インスタント食品やレトルト食品」を食べる子どもの割合は困窮家庭・周辺家庭の回答が多い。摂取する品目は、家庭の状況や食事の考え方、栄養バランスと関連があり、成長期の子どもの食生活を考慮した支援が必要である。【図表3.2.8～9参照】困窮・周辺家庭では、食事のバランスがやや偏り、インスタント食品などが多く、健康面では控えたい食事内容となっている。また、困窮家庭では、外食は週1回の割合が顕著である。【図表3.2.11参照】

困窮家庭で、子ども自身の健康状態は「よい」という回答がやや低い。保護者が健康状態は「良好でない」と回答した子どもの自己肯定感が低い傾向がみられる。【図表2.2.2、図表3.7.1～7参照】

困窮・周辺家庭では、平日の夜6時以降、保護者不在の家庭が多い。塾通いもしておらず、保護者不在で、おのずとゲーム等の使用時間が長くなる。困窮家庭では、学習時間は30分以下。また、小5では「携帯・スマホが欲しい」、「家族に大事にされていると思わない」割合が、全体より高い。自己肯定感が低く、自分の話は周囲にしない、「やる気が起きない（中2）」、「自分が好き」という意識も低い傾向があると考えられる。【図表3.3.16、3.3.4、図表3.3.28、図表3.7.3、図表3.7.5、図表3.7.8～9参照】

子ども全体の回答として、夜までいることができる場所の希望がある。ただし、困窮家庭の子どもではボランティアが勉強を無料で教えてくれる場所の希望は少ない。【図表3.7.16、図表3.7.20参照】

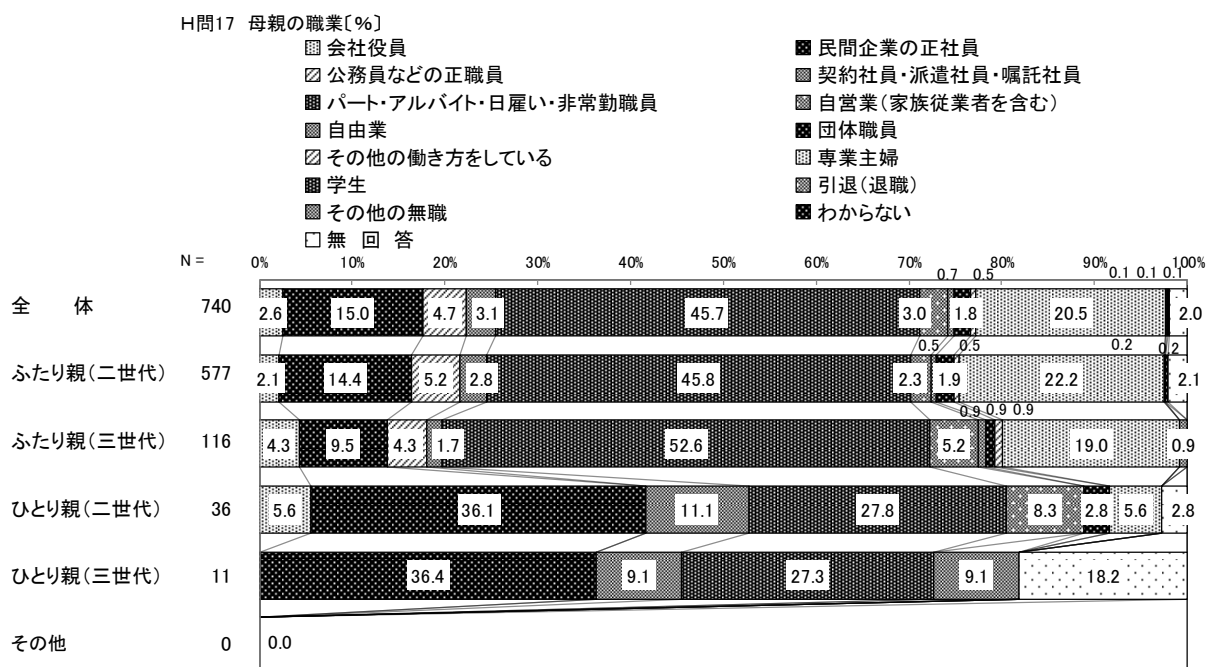
困窮家庭では、子どものためのクリスマス会、誕生会を経済的な理由で「していない：経済的にできない」との回答状況がある。困窮家庭では経済的な負担感で、一般的な理想とする行事、会を行うことができない様子が伺える。【図表2.3.22～23参照】

困窮・周辺家庭では、保護者・子どもとも、心身の健康状態が低い割合にあり、精神的に落ち着かない傾向がある。頼れる親族の不在や子どもの疾患時の受診の有無から、「負担がかかる」とし、医療費支払いの経済的負担を懸念している。周辺家庭では、ライフライン等の支払いができなかった経験がある。【図表2.2.4、図表2.6.11～17参照】

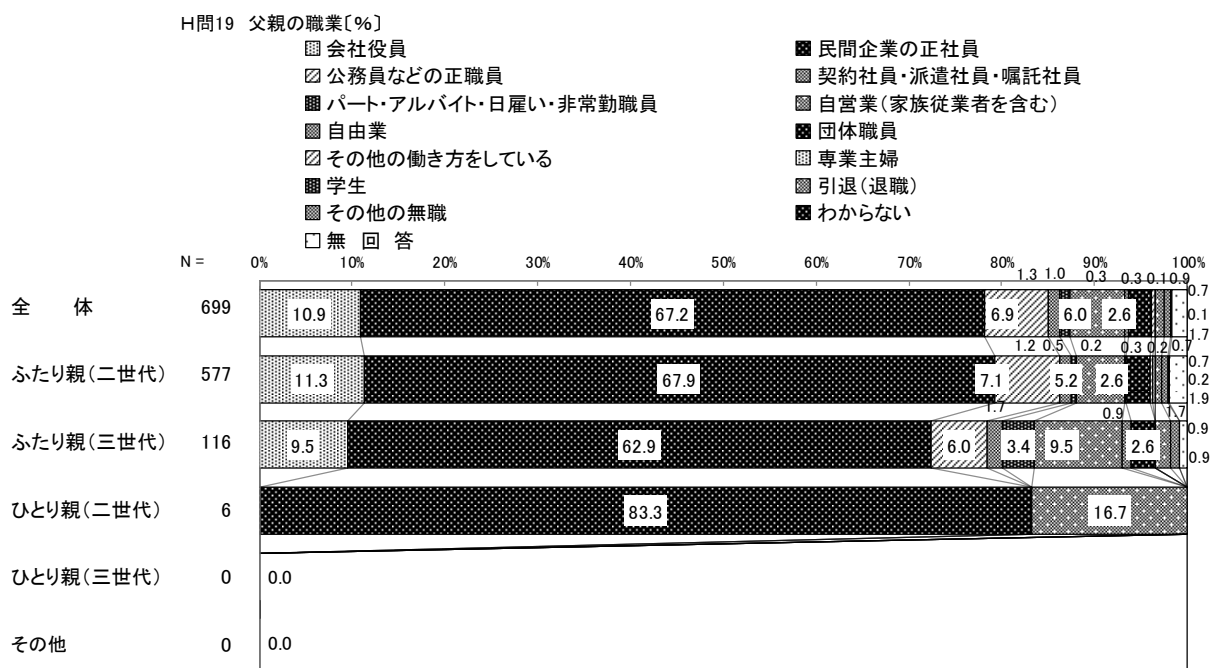
5.3 保護者等の就労に資する支援について

ふたり親世帯の母親の職業は、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が多く、ひとり親世帯の母親は「民間企業の正社員」が多くなっている。また、父親の職業は、全ての世帯で「民間企業の正社員」が最も多くなっている。

図表 5.3.1.H 母親の職業



図表 5.3.2.H 父親の職業



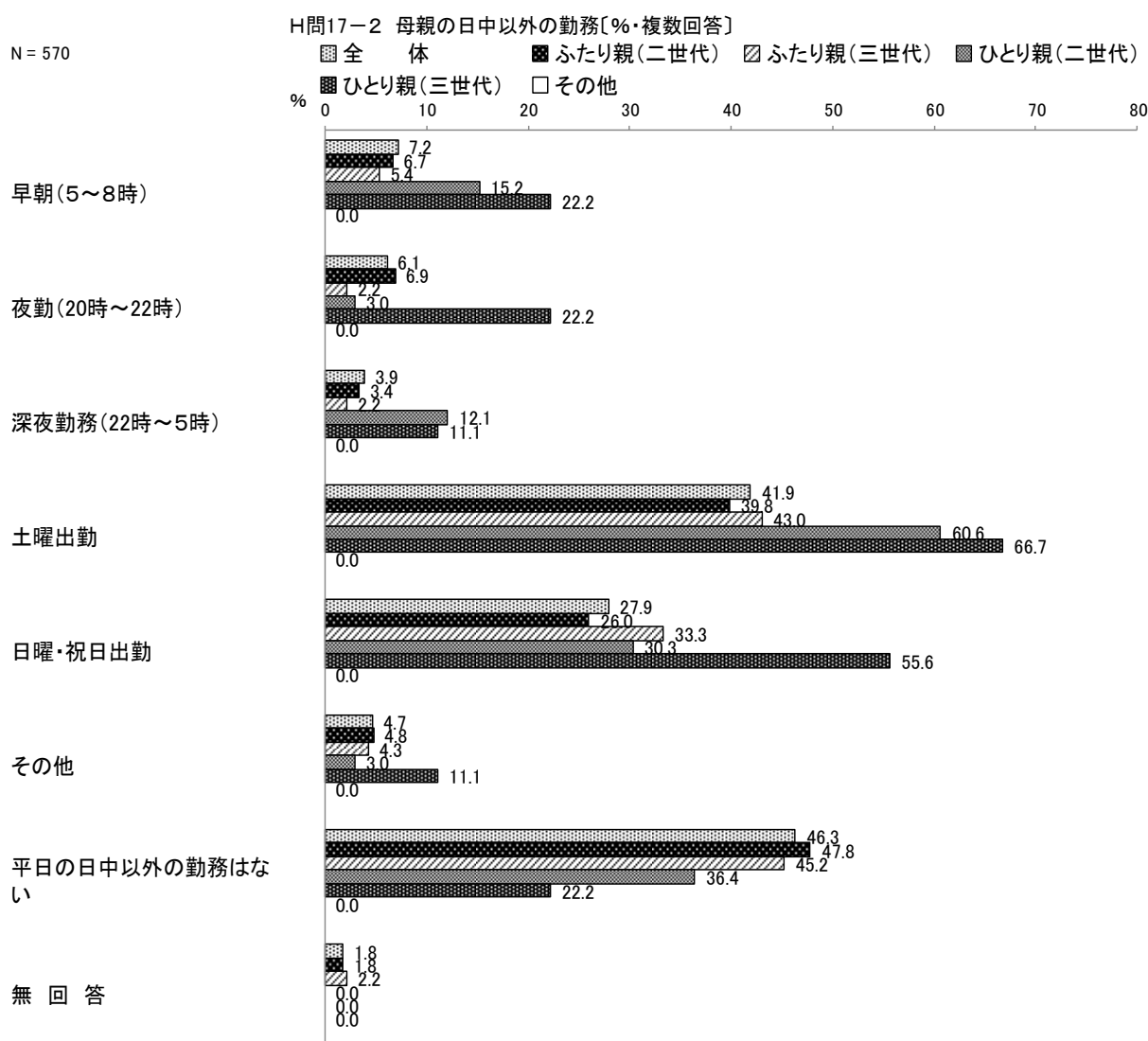
世帯別の母親の日中以外の勤務は、全体では「平日の日中以外の勤務はない」が46.3%と最も多く、「土曜出勤」が41.9%、「日曜・祝日出勤」が27.9%となっている。

ひとり親（三世代）世帯の母親では、「土曜出勤」が66.7%と最も多くなっており、「日曜・祝日出勤」は55.6%、「早朝（5～8時）」「夜勤（20～22時）」「平日の日中以外の勤務はない」がそれぞれ22.2%となっている。

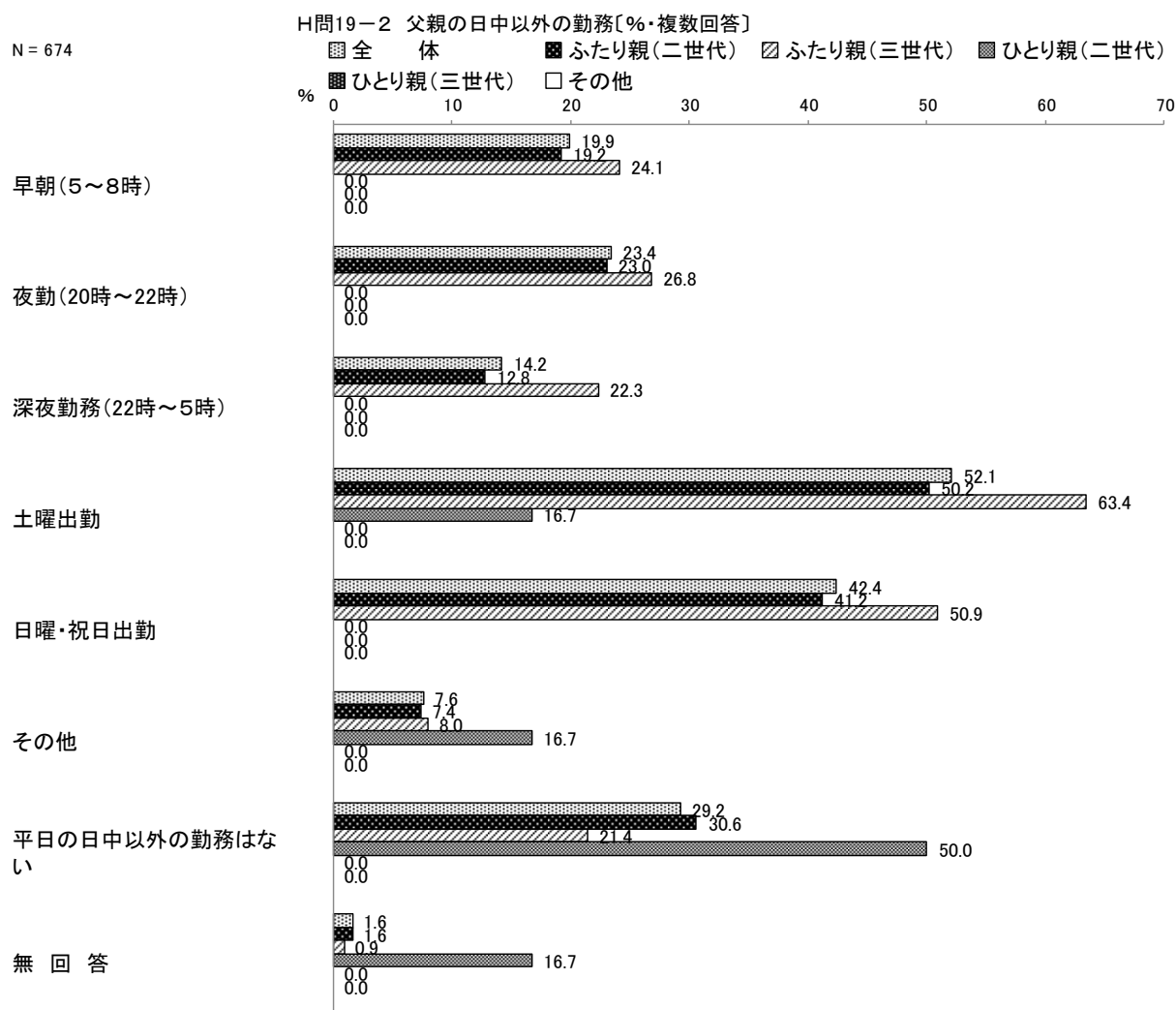
世帯別の父親の日中の以外の勤務は、全体では「土曜出勤」が52.1%と最も多く、「日曜・祝日出勤」が42.4%、「平日の日中以外の勤務はない」が29.2%となっている。

ふたり親（三世代）世帯では、「土曜出勤」が63.4%と最も多く、「日曜・祝日出勤」が50.9%となっている。

図表 5.3.3.H 母親の日中以外の勤務



図表 5.3.4.H 父親の日中以外の勤務



【調査結果分析からみられる保護者等の就労に資する支援の課題と今後の取組】

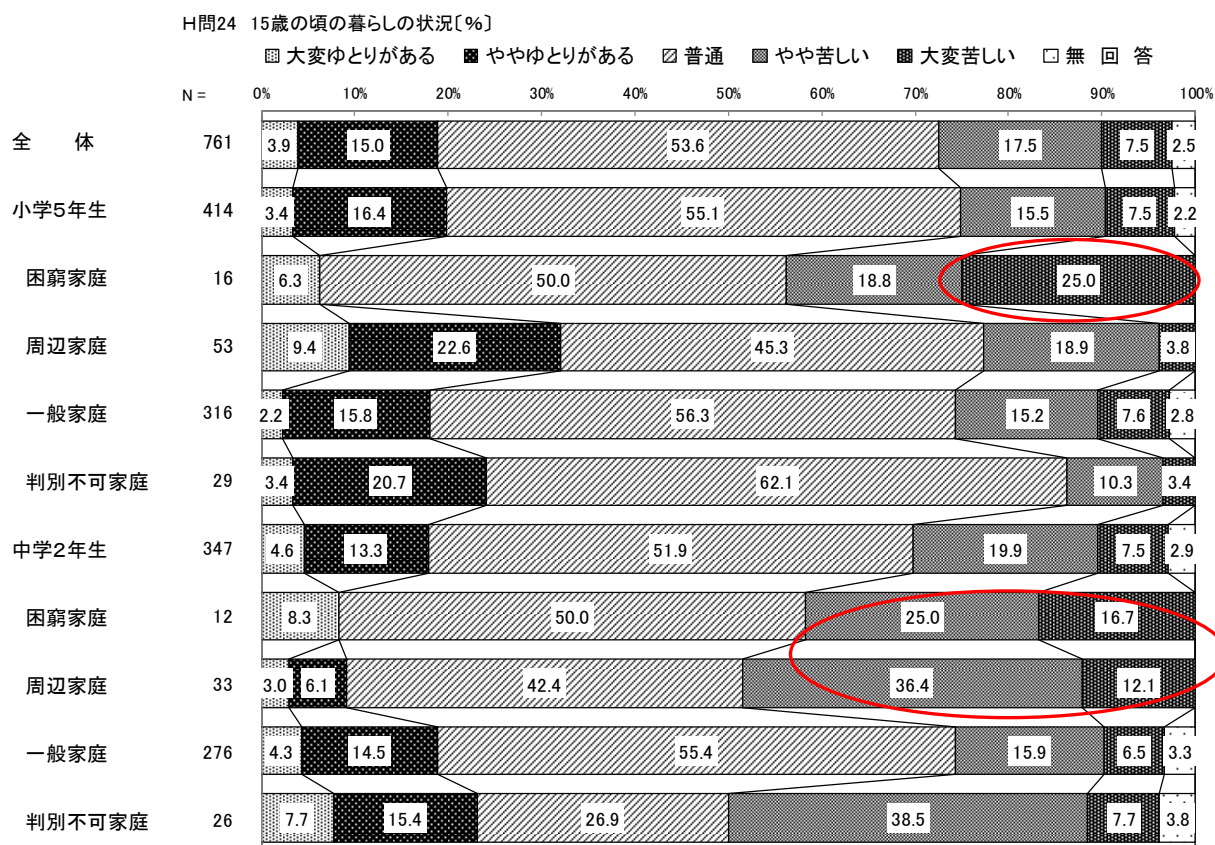
生活困難の要因として、子どもを抱えながら、頼れる人もいない中で、非正規雇用などの要因から、不安定な就労状況や平日以外の勤務形態が見受けられる。保護者が安定的に働けるように、ひとり親家庭の学び直し支援、職業訓練など様々な施策の有効な活用を図っていくことの必要性が伺われる。【図表2.5.1～7参照】

困窮・周辺家庭の保護者の非正規などの就労形態による就業時間の長さなどは、家庭収入の確保のためと考えられる。またそのような保護者の就業時間の長さは、おのずと保護者が子どもに対して家庭教育を行う養育時間の減少を生じさせ、その影響は子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の不確立などの様子からも伺える。また子ども自身の授業理解の低下や、現実的な最終学歴の希望の低下、また経済的な理由で、一般的には所持ができ得る物品の所持ができない様子（剥奪物品、剥奪指標）がある。困窮・周辺家庭の保護者と子どもの生活実態の回答内容から、一連の重層化した困難な生活状況にあることが伺える。【図表2.5.1～3、2.5.5～7参照】

5.4 経済的支援について

保護者が15歳の頃の暮らし向きが「大変苦しい」は小学5年生の困窮家庭で25.0%と多く、中学2年生の周辺家庭・困窮家庭で15%前後、「やや苦しい」は周辺家庭で36.4%、困窮家庭で25.0%と、保護者から子どもへの困窮の連鎖が見受けられ、中学2年生の方が大きく影響している傾向が伺える。

図表 5.4.1.H15歳の頃の暮らしの状況



【調査結果分析からみられる経済的支援の課題と今後の取組み】

「経済的な理由で世帯にないもの」は、困窮家庭で割合が高く、なかでも「急な出費のための貯金（5万円以上）」が85.7%と高い。「現在の暮らしの状況」については、苦しい（「やや苦しい」と「大変苦しい」の合計）は、困窮家庭で92.8%と高い。必要な経費を工面できるように、公的貸付制度の継続した周知や、利用のしやすさなどを推進する必要がある。【図表2.6.18、図表2.6.7参照】

一般的に子どもやその家庭内で所有している物品などについて、経済的などの家庭理由により、子どもやその家庭内で所有していない物品などについて調査設問項目より回答集計を行った。一般家庭で「自分専用の勉強机」の所有率は全体で78.7%だが、周辺家庭は69.4%とやや少ないなど、一般的に子どもが持ち得ている物品等に対して、困窮・周辺家庭の保護者の経済的な低下が、その子どもの物品の不所持や体験機会の減少など、所有割合の低下に関連付けられている様子がある。【図表3.3.17 ～ 3.3.30参照】

過去1年の間に食料や衣服を買えなかったことや生活費のうちこの1年の間に、経済的な理由で料金を支払えないことが「あった」は困窮家庭が多い。困窮家庭の保護者自身が子ども時代に暮らしにゆとりがない体験（経験）があり、また現在において困窮家庭となっていることが伺える。また、一般的には困窮家庭の経済的課題が2世代、3世代と連鎖されることが示唆されている。【図表2.6.9～17参照】

困窮家庭の保護者の15歳の頃の暮らしむきは苦しく、現在の住居形態は賃貸、借家の傾向にある。親の就業形態の不安定さ、収入の低さ、休日出勤、就業時間の長さなどが、養育姿勢にも影響されていると思われる。【図表2.1.2、2.5.1、2.6.6、2.5.3、2.5.2参照】それらのことから、子どもの基本的な生活習慣の欠如につながり、さらに子どもの学習理解や意欲の低下、子どもと保護者の現実的な教育段階の狭まりや、剥奪指標における剥奪との関連性が伺える。困窮・周辺家庭の収入の低さや経済力の低下に一端を発し、困窮状態の現状が形成されている様子がみられる。

5.5 調査項目一覧

【調査設問項目の要素分類の考え方】

保護者と子どものアンケートの各設問項目を、「教育的支援」「生活支援」「保護者等の就労に資する支援」「経済的支援」の4分類に大別し、該当する要素に「○」印で示した。ただし、調査設問項目に「○」印の記載がない場合でも要素に含むことは否定しない。

剥夺指標、経済的理由による受給の（非）享受、支払いの可否等を測るための設問項目については、「経済的支援」を主要素と捉えた。

調査設問項目(H印…保護者票設問/K印…子ども票設問)	図表番号	教育的支援	生活支援	保護者等の就労に資する支援	経済的支援
H問1 居住地区[%]	2.1.1.	回答者の属性に関する調査項目			
H問2 住居の種類[%]	2.1.2.				
H問3 回答者続柄[%]	2.1.3.				
H問4 同居家族[%・複数回答]	2.1.4.				
H問4 同居家族人数[%]	2.1.5.				
H問5 婚姻状況[%]	2.1.6.				
H問6 頼れる親族や友人[%]	2.1.7.		○	○	○
H問7 あなたの健康状態[%]	2.2.1.		○	○	○
H問7 お子さんの健康状態[%]	2.2.2.	○	○	○	○
H問8 必要だったがお子さんを受診させなかったこと[%]	2.2.3.		○	○	○
H問9 受診させなかった理由[%]	2.2.4.		○	○	○
H問 10A そわそわ、落ち着かない[%]	2.2.5.		○		○
H問 10B 何をするのも骨折りだ[%]	2.2.6.		○		○
H問 10C 神経過敏になった[%]	2.2.7.		○		○
H問 10D 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れない[%]	2.2.8.		○		○
H問 10E 自分は価値のない人間だ[%]	2.2.9.		○		○
H問 10F 絶望的だ[%]	2.2.10.		○		○
H問 11A 小さい頃に絵本の読み聞かせをした[%]	2.3.1.	○	○		
H問 11B 朝食を食べさせている[%]	2.3.2.	○	○		○
H問 11C 勉強をみる[%]	2.3.3.	○	○		○
H問 11D からだを動かして遊ぶ[%]	2.3.4.	○	○		
H問 11E 学校生活の話をする[%]	2.3.5.	○	○		
H問 11F 本や新聞を読むようにすすめる[%]	2.3.6.	○	○		
H問 11G 政治経済・社会問題などのニュースの話をする[%]	2.3.7.	○	○		
H問 11H 将来について、一緒に考えたり、話をする[%]	2.3.8.	○	○		
H問 11I 授業参観や運動会などの学校行事へ参加する[%]	2.3.9.	○	○	○	○
H問 11J PTA活動や保護者会などへ参加する[%]	2.3.10.	○	○	○	
H問 11K 自治会・子ども会などの地域活動へ参加する[%]	2.3.11.	○	○		○
H問 12A 海水浴やプールに行く[%]	2.3.12.				○
H問 12B 博物館・科学館・美術館などに行く[%]	2.3.13.				○
H問 12C キャンプ・バーベキュー・登山などに行く[%]	2.3.14.				○
H問 12D スポーツ観戦や観劇などに行く[%]	2.3.15.				○
H問 12E 遊園地やテーマパークなどに行く[%]	2.3.16.				○
H問 12F 家族旅行に行く[%]	2.3.17.				○
H問 13A 定期的にお小遣いを渡す[%]	2.3.18.				○
H問 13B 必要に応じて新しい洋服・靴を買う[%]	2.3.19.				○
H問 13C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる[%]	2.3.20.	○			○
H問 13D 学習塾に通わせる(または家庭教師)[%]	2.3.21.	○			○
H問 13E お誕生日のお祝いをする[%]	2.3.22.		○		○

調査設問項目(H印…保護者票設問/K印…子ども票設問)	図表 番号	教育的 支援	生活 支援	保護者 等の就 労に資す る支援	経済的 支援
H問 13F クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる[%]	2.3.23.		○		○
H問 14 平日の夕方から夜に子どもだけで過ごすこと[%]	2.3.24.		○	○	○
H問 15 理想的な教育段階[%]	2.4.1.	○			○
H問 15 現実的な教育段階[%]	2.4.2.	○			○
H問 16 理想と現実の教育段階に違いがある理由[%]	2.4.3.	○			○
H問 17 母親の職業[%]	2.5.1.		○	○	○
H問 17-1 母親の週平均労働時間[%]	2.5.2.		○	○	○
H問 17-2 母親の日中以外の勤務[%・複数回答]	2.5.3.		○	○	○
H問 18 母親の最終学歴[%]	2.5.4.	○	○	○	○
H問 19 父親の職業[%]	2.5.5.		○	○	○
H問 19-1 父親の週平均労働時間[%]	2.5.6.		○	○	○
H問 19-2 父親の日中以外の勤務[%・複数回答]	2.5.7.		○	○	○
H問 20 父親の最終学歴[%]	2.5.8.	○	○	○	○
H問 21A 受取の有無:児童手当[%]	2.6.1.				○
H問 21B 受取の有無:児童扶養手当[%]	2.6.2.				○
H問 21C 受取の有無:特別児童扶養手当[%]	2.6.3.				○
H問 21D 受取の有無:年金[%]	2.6.4.				○
H問 21E 受取の有無:生活保護[%]	2.6.5.	○	○	○	○
H問 22 世帯の可処分所得総額[%]	2.6.6.			○	○
H問 23 現在の暮らしの状況[%]	2.6.7.			○	○
H問 24 15歳の頃の暮らしの状況[%]	2.6.8.				○
H問 25 過去1年間に必要な食料が買えないこと[%]	2.6.9.				○
H問 26 過去1年間に必要な衣類が買えないこと[%]	2.6.10.				○
H問 27 支払えないこと:A電話料金[%]	2.6.11.				○
H問 27 支払えないこと:B電気料金[%]	2.6.12.				○
H問 27 支払えないこと:Cガス料金[%]	2.6.13.				○
H問 27 支払えないこと:D水道料金[%]	2.6.14.				○
H問 27 支払えないこと:E家賃・住宅ローン[%]	2.6.15.				○
H問 27 支払えないこと:F学校に関する経費[%]	2.6.16.				○
H問 27 支払えないこと:G税金[%]	2.6.17.				○
H問 28 経済的理由のために世帯にないもの[%・複数回答]	2.6.18.				○
H問 29 困ったときの相談相手や相談先[%・複数回答]	2.7.1.	○	○	○	○
H問 30A 児童扶養手当[%]	2.7.2.				○
H問 30B 就学援助[%]	2.7.3.				○
H問 30C 生活保護[%]	2.7.4.	○	○	○	○
H問 30D 母子父子寡婦福祉資金貸付金[%]	2.7.5.				○
H問 30E 生活福祉資金貸付金[%]	2.7.6.				○
H問 30F ひとり親家庭医療費助成[%]	2.7.7.				○
H問 30G 小児医療費助成[%]	2.7.8.				○
H問 30H 市役所窓口での各種相談[%]	2.7.9.	○	○	○	○
H問 30I 専門の相談員やスクールワーカー等への相談[%]	2.7.10.	○	○	○	○
H問 30J 生活困窮者やひとり親家庭等への就職サポート[%]	2.7.11.			○	○
H問 30K 子育て支援センター[%]	2.7.12.	○	○	○	○
H問 30L 病児・病後児保育[%]	2.7.13.		○	○	○
H問 30M 保育所の利用料の減額や免除[%]	2.7.14.				○
H問 30N 幼稚園の就園奨励費補助金[%]	2.7.15.				○
H問 31A 子ども食堂[%]	2.7.16.	○	○	○	○
H問 31B 食料支援[%]	2.7.17.		○		○
H問 31C 子ども教室等[%]	2.7.18.	○	○	○	○

調査設問項目(H印…保護者票設問/K印…子ども票設問)	図表 番号	教育的 支援	生活 支援	保護者 等の就 労に資す る支援	経済的 支援
H問 31D 学習支援[%]	2.7.19.	○	○	○	○
H問 32 子どもに関する情報の取得方法[%・複数回答]	2.7.20.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充[%・複数回答]	2.7.21.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:1位[%]	2.7.22.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:2位[%]	2.7.23.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:3位[%]	2.7.24.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:4位[%]	2.7.25.	○	○	○	○
H問 33 18歳未満の子どもを持つ家庭への拡充:5位[%]	2.7.26.	○	○	○	○
H問 34 自由意見[%]	2.7.27.	○	○	○	○
K問1 性別[%]	3.1.1.	回答者の属性に関する調査項目			
K問1 学年[%]	3.1.2.				
K問2 身長[%]	3.1.3.				
K問2 体重[%]	3.1.4.				
K問2 測った時期(元号)[%]	3.1.5.				
K問3 平日に朝ごはんを食べるか[%]	3.2.1.		○	○	○
K問4 平日一緒に朝ごはんを食べる人[%・複数回答]	3.2.2.		○	○	○
K問5 朝ごはんを食べない理由[%・複数回答]	3.2.3.		○	○	○
K問6 平日一緒に夕ごはんを食べる人[%・複数回答]	3.2.4.		○	○	○
K問7A 給食以外で:野菜[%]	3.2.5.			○	○
K問7B 給食以外で:肉・魚[%]	3.2.6.			○	○
K問7C 給食以外で:くだもの[%]	3.2.7.			○	○
K問7D 給食以外で:コンビニのおにぎり・お弁当[%]	3.2.8.			○	○
K問7E 給食以外で:インスタント食品やレトルト食品[%]	3.2.9.			○	○
K問7F 給食以外で:お菓子[%]	3.2.10.			○	○
K問7G 給食以外で:レストランや食堂などでの外食[%]	3.2.11.		○	○	○
K問8 授業以外で30分以上体を動かす遊びや習い事[%]	3.2.12.		○	○	○
K問9 入浴をするか[%]	3.2.13.		○	○	○
K問 10 歯みがきをするか[%]	3.2.14.	○	○		
K問 11 虫歯の本数[%]	3.2.15.		○	○	○
K問 12 平日放課後を一緒に過ごす相手[%]	3.3.1.	○	○		
K問 13A 平日放課後:自分の家[%]	3.3.2.	○	○		
K問 13B 平日放課後:友だちの家[%]	3.3.3.	○	○		
K問 13C 平日放課後:塾や習い事[%]	3.3.4.	○	○		○
K問 13D 平日放課後:児童クラブ館・公民館[%]	3.3.5.	○	○		
K問 13E 平日放課後:学校(部活動など)[%]	3.3.6.	○	○		
K問 13F 平日放課後:スポーツクラブの活動の場[%]	3.3.7.	○	○		
K問 13G 平日放課後:公園[%]	3.3.8.	○	○		
K問 13H 平日放課後:図書館[%]	3.3.9.	○	○		
K問 13I 平日放課後:商店街やショッピングモール[%]	3.3.10.	○	○		
K問 13J 平日放課後:ゲームセンター[%]	3.3.11.	○	○		
K問 13K 平日放課後:その他[%]	3.3.12.	○	○		
K問 14 一番落ち着く場所[%]	3.3.13.	○	○	○	
K問 15A 平日の使用時間:携帯電話・スマートフォン[%]	3.3.14.	○	○	○	
K問 15B 平日の使用時間:パソコン(タブレット)[%]	3.3.15.	○	○	○	
K問 15C 平日の使用時間:ゲーム機[%]	3.3.16.	○	○	○	
K問 16A 自分だけの本[%]	3.3.17.				○
K問 16B 自分の部屋(兄弟姉妹と使っている場合も含む)[%]	3.3.18.				○
K問 16C インターネットにつながるパソコン[%]	3.3.19.				○
K問 16D 自宅で宿題をすることができる場所[%]	3.3.20.				○

調査設問項目(H印…保護者票設問/K印…子ども票設問)	図表番号	教育的支援	生活支援	保護者等の就労に資する支援	経済的支援
K問 16E 自分専用の勉強机[%]	3.3.21.				○
K問 16F スポーツ用品[%]	3.3.22.				○
K問 16G ゲーム機[%]	3.3.23.				○
K問 16H 自転車[%]	3.3.24.				○
K問 16I おやつ等を買うぐらいのおこづかい[%]	3.3.25.				○
K問 16J 友だちが着ているのと同じような服[%]	3.3.26.				○
K問 16K 2足以上のサイズの合う靴[%]	3.3.27.				○
K問 16L 携帯電話、スマートフォン[%]	3.3.28.				○
K問 16M 携帯音楽プレーヤー[%]	3.3.29.				○
K問 16N 友だちの間で、はやっているもの[%]	3.3.30.				○
K問 17 参加した地域の活動[%・複数回答]	3.3.31.	○			○
K問 18 学校の授業がわかるか[%]	3.4.1.	○			○
K問 19 勉強を教えてもらう人[%・複数回答]	3.4.2.	○	○	○	○
K問 20 クラスでの成績[%]	3.4.3.	○	○		○
K問 21 学校の授業以外の勉強時間[%]	3.4.4.	○	○	○	○
K問 22 学習塾や家庭教師の頻度[%]	3.4.5.	○	○	○	○
K問 23 学校に行きたくないと思ったり実際に休んだこと[%]	3.4.6.	○	○		○
K問 24 学校に行きたくない、実際に休んだ理由[%・複数回答]	3.4.7.	○	○		○
K問 25 一番仲が良い友だち[%]	3.5.1.	○	○		
K問 26A 友だちと一緒にたくさん遊んでいると思う[%]	3.5.2.	○	○		
K問 26B 友だちと仲良くしていると思う[%]	3.5.3.	○	○		
K問 26C 友だちに好かれていると思う[%]	3.5.4.	○	○		
K問 26D 自分は友だちと比べて違っていると思う[%]	3.5.5.	○	○		○
K問 27 将来の夢ややりたい職業[%]	3.6.1.	○	○	○	○
K問 28 夢がない理由[%]	3.6.2.	○	○	○	○
K問 29 将来どこまで進学したいか[%]	3.6.3.	○	○	○	○
K問 30 将来どこまで進学できると思うか[%]	3.6.4.	○	○	○	○
K問 31 進学できると思う理由[%]	3.6.5.	○	○	○	○
K問 32A 頑張れば、よくなる、いいことがある[%]	3.7.1.	○	○		○
K問 32B 自分は価値のある人間だ[%]	3.7.2.	○	○		○
K問 32C 自分は家族に大事にされている[%]	3.7.3.	○	○		○
K問 32D 自分の将来が楽しみだ[%]	3.7.4.	○	○		○
K問 32E 自分のことが好きだ[%]	3.7.5.	○	○		○
K問 32F 不安に感じる[%]	3.7.6.	○	○		○
K問 32G 孤独と感じる[%]	3.7.7.	○	○		○
K問 33 自分の体や気持ちで気になること[%・複数回答]	3.7.8.	○	○		○
K問 34A 他の人との会話:親[%]	3.7.9.	○	○	○	○
K問 34B 他の人との会話:兄弟姉妹[%]	3.7.10.		○		
K問 34C 他の人との会話:祖父母など[%]	3.7.11.		○		
K問 34D 他の人との会話:学校の先生[%]	3.7.12.		○		
K問 34E 他の人との会話:学校や習い事などの友達[%]	3.7.13.		○		
K問 34F 他の人との会話:児童クラブ等の職員[%]	3.7.14.		○		
K問 34G 他の人との会話:その他の大人[%]	3.7.15.		○		
K問 35A 平日の放課後に夜までいることができる場所[%]	3.7.16.	○	○	○	○
K問 35B 休日にいることができる場所[%]	3.7.17.	○	○	○	○
K問 35C タごはんをみんなで食べることができる場所[%]	3.7.18.	○	○	○	○
K問 35D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所[%]	3.7.19.	○	○	○	○
K問 35E 大学生が、勉強を無料でみてくれる場所[%]	3.7.20.	○	○	○	○
K問 35F 勉強、進学のことなど、なんでも相談できる場所[%]	3.7.21.	○	○	○	○

調査設問項目（H印…保護者票設問／K印…子ども票設問）	図表番号	教育的支援	生活支援	保護者等の就労に資する支援	経済的支援
K問 36 自由意見[%]	3.7.22.	○	○	○	○
所得状況[%]	1.2.4	回答者の属性に関する調査項目			
家計の逼迫[%]					
子どもの所有物の欠如[%]					
生活困窮度の分類	1.2.3				
5 子どもの貧困に関する分析					
子どもの進学希望	5.1.1K				
保護者が望む理想的な教育段階	5.1.2H				
授業の理解度	5.1.3 K				
不登校傾向	5.1.4K				
世帯別不登校傾向	5.2.1K				
保護者の健康、不登校傾向	5.2.2K				
平日の放課後に夜までいることができる場所	5.2.3K				
インスタント食品やレトルト食品の摂取頻度	5.2.4K				
平日一緒に朝食を食べる人	5.2.5K				
平日一緒に夕食を食べる人	5.2.6K				
肥満度（ローレル指数）	5.2.7K				
母親の日中以外の勤務	5.2.8H				
一番落ち着く場所	5.2.9K				
学校生活の話	5.2.10H				
平日の夕方から夜にかけて子どもだけで過ごすこと	5.2.11H				
携帯電話、スマートフォンの所持有無	5.2.12 K				
頑張ればよくなる、いいことがある	5.2.13 K				
自分は価値のある人間だ	5.2.14 K				
自分は家族に大事にされている	5.2.15 K				
自分の将来が楽しみだ	5.2.16 K				
自分のことが好きだ	5.2.17 K				
不安を感じる	5.2.18 K				
孤独を感じる	5.2.19 K				
母親の職業	5.3.1H				
父親の職業	5.3.2H				
母親の日中以外の勤務	5.3.3H				
父親の日中以外の勤務	5.3.4H				
保護者が15歳の頃の暮らしの状況	5.4.1H				

伊勢原市
子どもと子育て家庭の生活実態調査
(小学5年生・中学2年生のお子さんの保護者様)

～調査の目的とご協力をお願い～

日頃から市政にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。
このアンケートは、子どもと子育て家庭の生活実態を調査し、その結果を伊勢原市の児童育
成・子育て支援策の検討資料として活用するために実施します。
お忙しいことと存じますが、アンケート調査へのご協力をお願いします。

～回答にあたっての注意点～

- (1) アンケートは無記名です。
- (2) 回答は、選択肢の番号に○をつけてください。一部記入するところがあります。
- (3) ご自身やご家庭のことと立ち入ったことをお聞きする質問が含まれています。答えにく
い質問や答えたくない質問には答えていただく必要はありません。可能な範囲でありの
ままをお答えください。
- (4) アンケート用紙の質問にある「お子さん」とは、アンケートが配布された〈小学5年生
または中学2年生〉宛名のお子さん进行を指します。複数居いた場合もお手数ですが、それ
ぞれ宛名の「お子さん」についてお答えください。そのお子さんに兄弟姉妹がいる場合
でも、封筒の宛名の「お子さん」についてお答えください。
- (5) 保護者の方とは別に、お子さんへの調査票を同封していますので、お子さんにご記入い
ただくようご指導いただくとともに、保護者の方は、お子さんが回答した内容をご覧に
ならないようにご配慮ください。
- (6) 記入が終わったアンケート用紙は、お子さんの調査票と一緒に返信用封筒に入れて、
9月30日(月)までに返送してください。
- (7) 書き方や調査内容等でご不明な点などは、市役所子育て支援課へお問い合わせください。

【問合せ先】伊勢原市役所 子ども部 子育て支援課

電話 0463-94-4633

受付 月～金曜日(祝日を除く) 午前8時30分～午後5時

世帯構成などについて

問1 お住まいの地区はどちらですか。(あてはまる番号1つに○)

1 伊勢原	3 高部屋	5 成瀬
2 大山	4 比々多	6 大田

問2 お住まいの住居の種類を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 持ち家	3 公営住宅
2 アパート・マンション	4 その他 ()

問3 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた
縁柄で、お答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 父親	3 祖父	5 兄弟姉妹
2 母親	4 祖母	6 その他 ()

問4 お子さんと同居している方をお答えください。(あてはまる番号すべてに○、()に人数
を数字で回答してください) ※単身赴任しているご家族も含めてください。

1 父親	4 祖母 (人)	7 弟 (人)	9 その他の親戚 (人)
2 母親	5 兄 (人)	8 妹 (人)	10 その他 (人)
3 祖父 (人)	6 姉 (人)		

問5 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 結婚している(事実婚を含む)	3 死別
2 離婚(別居中を含む)	4 未婚・非婚

問6 お子さんが病気のときや、ご自身の用事のときなどに頼れる親族や友人などがいいますか。
(あてはまる番号1つに○)

1 いる	2 いない
------	-------

あなた（保護者様）とお子さんの健康状態について

問7 あなたとお子さんの健康状態について、最も近いものに○をつけてください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よい	まあよい	普通	あまりよくない	よくない
A あなたの健康状態	1	2	3	4	5
B お子さんの健康状態	1	2	3	4	5

問8 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった、またはできなかったことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 あった	2 なかった	→ 問10へ
-------	--------	--------

【問8で「1 あった」を選んだ方におうかがいします。】

問9 その理由は、何ですか。以下の中から、最も近いものに○をつけてください。

(あてはまる番号1つに○)

1 子ども本人が受診したがいなかった
2 自分の健康状態がすぐれず、病院に連れて行くことができなかった
3 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかった
4 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であった
5 公的医療保険に加入しておらず、医療費の負担が大きかった
6 公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担が発生した場合、支払えないと思った
7 その他 ()

【全員におうかがいします。】

問10 あなたは、ここ1か月の間に、次のようなことを感じましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつも	たいてい	時々	少しだけ	全くない
A そわそわ、落ち着かない	1	2	3	4	5
B 何をするのも骨折りだ	1	2	3	4	5
C 神経過敏になった	1	2	3	4	5
D 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れない	1	2	3	4	5
E 自分は価値のない人間だ	1	2	3	4	5
F 絶望的だ	1	2	3	4	5

お子さんとの関わりについて

問11 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よくする	時々する	あまりしない	全くしない
A 小さい頃に絵本の読み聞かせをした	1	2	3	4
B 朝食を食べさせている	1	2	3	4
C 勉強をみる	1	2	3	4
D からだを動かして遊ぶ (キャッチボールなど)	1	2	3	4
E 学校生活の話をする	1	2	3	4
F 本や新聞 (電子書籍は含むが、漫画や雑誌、教科書、参考書は除く) を読むようにすすめる	1	2	3	4
G 政治経済・社会問題などのニュースの話をする	1	2	3	4
H 将来 (夢、進路、職業等) について、一緒に考えたり、話をする	1	2	3	4
I 授業参観や運動会などの学校行事へ参加する	1	2	3	4
J PTA活動や保護者会などへ参加する	1	2	3	4
K 自治会・子ども会などの地域活動へ参加する	1	2	3	4

問12 あなたのご家庭では、お子さんと一緒に次のような体験をすることがありますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない	経済的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴やプールに行く	1	2	3	4	
B 博物館・科学館・美術館などに行く	1	2	3	4	
C キャンプ・バーベキュー・登山などに行く	1	2	3	4	
D スポーツ観戦や観劇などに行く	1	2	3	4	
E 遊園地やテーマパークなどに行く	1	2	3	4	
F 家族旅行に行く	1	2	3	4	

問 13 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。
(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	している	していない	
		したくない (方針で しない)	経済的に できない
A 定期的にお小遣いを渡す	1	2	3
B 必要に応じて新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C 習い事 (音楽、スポーツ、習字等) に通わせる	1	2	3
D 学習塾に通わせる (または家庭教師に来てもらう)	1	2	3
E お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3

問 14 あなたのご家庭では、平日の夕方から夜の時間帯に、お子さんだけで過ごすことがありますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1 ほぼ毎日	2 時々ある	3 ない
--------	--------	------

お子さんの将来のことについて

問 15 あなたは、お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号 1 つに○)

	中学	高校	短大・高等 専門学校・ 専門学校	大学または それ以上	わからない
A 理想的な教育段階	1	2	3	4	5
B 現実的な教育段階	1	2	3	4	5

【問 15 で理想と現実的な教育段階に違いがある方におうかがいします。】

問 16 あなたが、そのように考えた理由を選んでください。(あてはまる番号 1 つに○)

1 子どもが希望しているから	4 家族の理解が得られないから
2 子どもの学力を考慮したから	5 その他 ()
3 経済的な余裕がないから	

お子さんのお母さんとお父さんのことについて

【全員におうかがいします。】※お母さんがいらっしゃる場合は、問 19 にお進みください。
問 17 お母さんの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。
(あてはまる番号 1 つに○)

1 会社役員	6 自営業 (家族従業者を 含む)	10 専業主婦
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退 (退職)
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をして いる	13 その他の無職
5 パート・アルバイト・日雇い・ 非常勤職員		14 わからない

【問 17 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

問 17-1 お母さんは、1 週間に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。
週に平均 時間程度

【問 17 で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

問 17-2 お母さんは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝 (5～8 時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務 はない
2 夜勤 (20 時～22 時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務 (22 時～5 時)	6 その他 ()	

【問 17 を回答した方全員におうかがいします。】

問 18 お母さんが最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1 中学校	6 大学
2 高等学校 (全日制)	7 大学院
3 高等学校 (定時制または通信制)	8 その他 ()
4 高等専門学校 (高専)・短期大学	9 わからない
5 専門学校	

【全員におうかがいします。】※お父さんがいらっしゃる場合は、問21にお進みください。
問19 お父さんの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。
(あてはまる番号1つに○)

1 会社役員	6 自営業(家族従業者を含む)	10 専業主夫
2 民間企業の正社員	7 自由業	11 学生
3 公務員などの正職員	8 団体職員	12 引退(退職)
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	9 その他の働き方をして いる	13 その他の無職
5 パート・アルバイト・日雇い、 非常勤職員		14 わからない

【問19で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

問19-1 お父さんは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)

※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。

週に平均 時間程度

【問19で「1」～「9」を選んだ方におうかがいします。】

問19-2 お父さんは、平日の日中以外の勤務がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 早朝(5～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務 はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他()	

【問19を回答した方全員におうかがいします。】

問20 お父さんが最後に通った学校は次のどちらにあたりますか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学校	6 大学
2 高等学校(全日制)	7 大学院
3 高等学校(定時制または通信制)	8 その他()
4 高等専門学校(高専)・短期大学	9 わからない
5 専門学校	

世帯状況などについて

【全員におうかがいします。】

問21 あなたの世帯では、A～Eの手当、公的年金、社会保障給付金を受け取っていますか。
受け取っている場合は、年額を万円単位で記入してください。

※兄弟姉妹等に関わる手当等も含みます。

※「児童扶養手当」は所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための手当、「特別児童扶養手当」は所得が一定水準以下で心身に障がいがある児童のいる家庭の支援のための手当です。

	受取の有無	年額(万円)
A 児童手当	有・無	万円
B 児童扶養手当	有・無	万円
C 特別児童扶養手当	有・無	万円
D 年金(遺族年金、老齢年金など)	有・無	万円
E 生活保護	有・無	万円

問22 平成30年1月～12月のあなたの世帯全体の可処分所得(手取り)総額は、合計でおおよそいくらですか。就労による所得(会社員の方等は住民税を引く)に加え、問21で回答した手当・年金等の年額、雇用保険等の支給額や親族等から受け取った仕送り等を足した金額でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

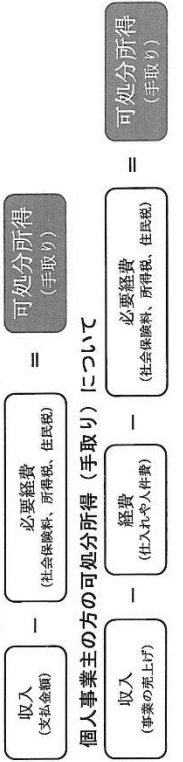
1 122万円未満	6 275～300万円未満	11 385～400万円未満
2 122～175万円未満	7 300～325万円未満	12 400～550万円未満
3 175～210万円未満	8 325～345万円未満	13 550～700万円未満
4 210～245万円未満	9 345～365万円未満	14 700万円以上
5 245～275万円未満	10 365～385万円未満	

就労による可処分所得(手取り) + 児童手当等の支給額等をお答えください。

(→以下の参考により算出)(→問21で回答した児童手当等の年額に、雇用保険等の支給額や親族等からの仕送りを足して算出)

参考

就労による可処分所得(手取り)について



問 23 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 大変ゆとりがある	3 普通	4 やや苦しい
2 ややゆとりがある		5 大変苦しい

問 24 あなた自身が15歳の頃の、あなたの暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

1 大変ゆとりがある	3 普通	4 やや苦しい
2 ややゆとりがある		5 大変苦しい

問 25 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする食料を買えないことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 時々あった	3 まれにあった	4 全くなかった
---------	---------	----------	----------

問 26 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、家族が必要とする衣類を買えないことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 時々あった	3 まれにあった	4 全くなかった
---------	---------	----------	----------

問 27 以下のA～Gのサービス・料金について、過去1年の間に、経済的な理由で支払えないことがありますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃・住宅ローン	1	2	3
F 学校に関する経費	1	2	3
G 税金	1	2	3

問 28 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1 子どもの年齢に合った本	11 冷蔵庫
2 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	12 テレビ
3 子どもが自宅で宿題をすることができるところ	13 電話 (携帯電話・スマートフォンを含む)
4 洗濯機	14 インターネットにつながるパソコン
5 炊飯器	15 新聞の定期購読 (ネットを含む)
6 掃除機	16 おふろ
7 暖房機器	17 世帯人数分のベッドまたは布団
8 冷房機器	18 急な出費のための貯金 (5万円以上)
9 電子レンジ	19 自転車
10 オープン・トースター	20 自動車
	21 あてはまるものはない

困ったときの相談先と公的支援の利用状況について

問 29 あなたが困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1 配偶者・パートナー	6 学校の先生・スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー	11 インターネットサイトへの書き込み
2 親	7 公的機関や役所の相談員	12 その他 ()
3 兄弟姉妹、その他の親戚	8 地域の民生委員・児童委員	13 相談できる相手がいない
4 知人や友人	9 民間の支援団体・電話相談	
5 職場関係者	10 医療機関の医師や看護師	

問 30 現在も含め、次のA～Nの支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	利用したことがある	利用したことがない	利用したことがない理由
A 児童扶養手当	1	2	3
B 就学援助	1	2	3
C 生活保護	1	2	3
D 母子父子寡婦福祉資金貸付金	1	2	3
E 生活福祉資金貸付金	1	2	3
F ひとり親家庭医療費助成	1	2	3
G 小児医療費助成	1	2	3
H 市役所窓口での各種相談 (教育、福祉、子育て、ひとり親家庭等の支援に関するもの)	1	2	3
I 専門の相談員やスクールワーカー、ソーシャルワーカー等への相談	1	2	3
J 生活困窮者やひとり親家庭等への就職サポート (就労相談、職業訓練のための給付金等)	1	2	3

(次頁に続きます。)

	利用したことがある	利用したことがない		
		利用の必要がない	条件を満たしていない利用	利用の仕方がわからない
K 子育て支援センター（つどいの広場、子育てひろば、キッズスペースを含む）	1	2	3	4
L 病児・病後児保育	1	2	3	4
M 保育所の利用料の減額や免除	1	2	3	4
N 幼稚園の就園奨励費補助金	1	2	3	4
				5

問 31 次の A～D の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。
（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○）

	利用したことがある	利用したことがない		
		利用したいが、機会がなければ利用してみたい	利用したくない	利用する必要はない
A 子ども食堂（無料または、安価で食事を提供する場所）	1	2	3	4
B 食料支援（食料の無料提供）	1	2	3	4
C 子ども教室等（無料で、子どもが自由に過ごすことができる場所）	1	2	3	4
D 学習支援（無料で、宿題など学習指導を提供）	1	2	3	4

問 32 あなたは、子どもに関する制度・サービスの情報をどういう方法で取得していますか。
（あてはまる番号すべてに○）

1 行政機関の広報誌	6 家族や友人からの情報
2 行政機関のホームページ	7 行政機関以外の支援機関の広報誌
3 SNS（LINE、ツイッターなど）	8 行政機関以外の支援機関のホームページ
4 学校からのお便り（紙のもの）	9 その他（ ）
5 学校からのメール	10 特にない

問 33 18 歳未満のお子さんのある家庭への支援として、拡充すべき（必要）と思う制度は何ですか。5 つまで選び、優先度の高い順に番号を口の中に記入してください。

1	児童手当や児童扶養手当などの現金給付の拡充								
2	就学援助や生活保護といった福祉制度の拡充								
3	保育サービスの拡充								
4	児童コミュニティクラブの拡充								
5	放課後子ども教室、学習支援、子ども食堂などの子どもの居場所づくり事業の拡充								
6	奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除等の充実								
7	家賃補助等の住宅支援の拡充								
8	就業のための経済的支援の拡充								
9	必要な資金の貸付制度の充実								
10	生活・子育てに関するワンストップ相談窓口の充実								
11	行政等のホームページで福祉制度や支援制度等に関する情報をわかりやすく掲載すること								
12	広報誌やパンフレット等に掲載する福祉制度や支援制度等に関する情報を充実させること								
13	メールマガジン等で定期的に福祉制度や支援制度等の情報を配信すること								
14	その他（具体的に： ）								
15	特にない								
1 位	☐	2 位	☐	3 位	☐	4 位	☐	5 位	☐

問 34 市の子育て支援施策等についてご意見を自由に記入ください。	

質問は以上です。ご協力ありがとうございます。
おさんの調査票と一緒に返信用封筒に入れて、
9 月 30 日（月）までに返送してください。

伊勢原市
子どもと子育て家庭の生活実態調査

(小学5年生・中学2年生のみなさんへ)

～調査の目的とご協力をお願いします～

このアンケートは、みなさんが夢と希望を持って成長できる伊勢原市にするため、みなさんの毎日の生活の様子を調べて、その結果からわかったことをまらづくりに生かすためにしています。

このアンケートで答えた内容は、学校の先生や家族に見られることはありません。また、名前を記入しないアンケートなので、集計するときにあなたの答えた内容がわかることはありません。安心して自分の思うことを答えてください。

アンケートへのご協力をお願いします。

～答えるときに注意すること～

- (1) あなたが自分で答えてください。名前は、書かないでください。
- (2) 答えは、あてはまる番号に○をつけるか、数字で書いてください。
- (3) 答えたくない質問には、答える必要はありません。
- (4) お父さん・お母さんなどに見せる必要はありません。
- (5) 答え終わったら、小さい封筒に入れて封をし、お父さん・お母さんに渡してください。お父さん・お母さんの回答と一緒に、9月30日(月)までに返送してください。
- (6) 書き方や内容でわからないことは、市役所子育て支援課に問い合わせてください。

【問合せ先】伊勢原市役所 子ども部 子育て支援課

電話 0463-94-4633

受付 月～金曜日(祝日を除く) 午前8時30分～午後5時

あなたのことについて

問1 あなたの性別・学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

A 性別	1 男	2 女	3 その他
B 学年	1 小学5年生	2 中学2年生	

問2 あなたの身長・体重を教えてください。(カッコの中に数字で答えてください)

A 身長	()センチメートル
B 体重	()キログラム
C 測った時期	平成・令和()年()月頃

食事のことや健康のことについて

問3 あなたは、平日(学校に行く日)に、朝ごはんを食べますか。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|---|------------------|---|-------------------|
| 1 | いつも食べる(週に5日) | 3 | 食べないほうが多い(週に1、2日) |
| 2 | 食べるほうが多い(週に3、4日) | 4 | いつも食べない |

問4 あなたは、平日(学校に行く日)は、誰と朝ごはんを食べますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1 親	4 家族以外の人
2 兄弟姉妹	5 ひとりで食べる
3 その他の家族(祖父母など)	6 朝ごはんは食べない

【問3で、朝ごはんを「食べないほうが多い」「いつも食べない」と答えた方にうかがいます。】

問5 朝ごはんを食べない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 朝は食欲がないから	5 ダイエットのため
2 学校に行くのに時間がないから	6 朝ごはんを食べると具合が悪くなるから
3 家族みんなが朝ごはんを食べる習慣がないから	7 用意されている朝ごはんがおいしくないから
4 朝ごはんが用意されていないから	8 その他()

問6 あなたは、平日(学校に行く日)は、誰と夕ごはんを食べますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1 親	4 家族以外の人
2 兄弟姉妹	5 ひとりで食べる
3 その他の家族(祖父母など)	6 夕ごはんは食べない

問7 あなたは、給食以外で、次の食べ物や食事をどれくらい取りますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日 食べる	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	食べない
A 野菜	1	2	3	4	5
B 肉・魚	1	2	3	4	5
C くだもの	1	2	3	4	5
D コンビニやスーパーなどのおにぎりやおかず、弁当	1	2	3	4	5
E インスタント食品やレトルト食品	1	2	3	4	5
F お菓子	1	2	3	4	5
G レストランや食堂などでの外食	1	2	3	4	5

問8 あなたは、学校の授業以外で、30分以上体を動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。(あてはまる番号1つに○)

※例：ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳や、部活動など。

1 ほとんどしない・まったくしない	4 週に5～6回
2 週に1～2回	5 ほぼ毎日
3 週に3～4回	

問9 あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。(あてはまる番号1つに○)

1 毎日	2 週に数回	3 月に数回	4 めったにしない
------	--------	--------	-----------

問10 あなたは、歯みがきをしますか。(あてはまる番号1つに○)

1 毎日	2 週に数回	3 月に数回	4 めったにしない
------	--------	--------	-----------

問11 あなたは、今、虫歯が何本くらいありますか。治療中のものも含みます。
(数字で答えてください)

※虫歯がない場合は、0本と書いてください。治療が終わったものは数えません。

本

あなたのふだんの生活について

問12 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、誰と過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

1 父母、祖父母、親せきなどの大人
2 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館やその他の施設の職員
3 その他の大人（近所の大人、塾や習い事の先生など）
4 兄弟姉妹
5 学校の友だち
6 学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど）
7 ひとりである

問13 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）、どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごしたいの日に数に○をつけてください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	ここでは 全く過 さない
A 自分の家	1	2	3	4
B 友だちの家	1	2	3	4
C 塾や習い事	1	2	3	4
D 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館	1	2	3	4
E 学校（部活動など）	1	2	3	4
F スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）	1	2	3	4
G 公園	1	2	3	4
H 図書館	1	2	3	4
I 商店街やショッピングモール	1	2	3	4
J ゲームセンター	1	2	3	4
K その他 (具体的に)	1	2	3	4

問14 あなたが一番ほっとできる落ち着く場所はどこですか。(あてはまる番号1つに○)

1 自分の家	7 公園
2 友だちの家	8 図書館
3 塾や習い事	9 商店街やショッピングモール
4 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館	10 ゲームセンター
5 学校（部活動など）	11 その他（ ）
6 スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）	12 特にない

問 15 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後、携帯電話、パソコン、ゲーム機などをどのくらい使っていますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間以上	持っていない
A 携帯電話・スマートフォン	1	2	3	4	5
B パソコン（タブレット）	1	2	3	4	5
C ゲーム機	1	2	3	4	5

問 16 あなたには、自分を使うことができる、次のものがありますか。ある場合は「1」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2」、ほしくないと思うものであれば「3」に○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	ある	ない
	ほしい	ほしくない
A 自分だけの本（学校の教科書やマンガは除く）	1	2 3
B 自分の部屋（兄弟姉妹と使っている場合も含む）	1	2 3
C（自宅で）インターネットにつながるパソコン（タブレット）	1	2 3
D 自宅で宿題をすることができる場所	1	2 3
E 自分専用の勉強机	1	2 3
F スポーツ用品（野球のグローブ、サッカーボールなど）	1	2 3
G ゲーム機	1	2 3
H 自転車	1	2 3
I おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うぐらいいおこづかい	1	2 3
J 友だちが着ているのと同じような服	1	2 3
K 2足以上のサイズの合うくつ	1	2 3
L 携帯電話、スマートフォン	1	2 3
M 携帯音楽プレーヤー	1	2 3
N 友だちの間で、はやっているもの	1	2 3

問 17 あなたは、あなたの住んでいる地域で次のような活動に参加したことはありませんか。（あてはまる番号すべてに○）

1 近所のおまつり	4 児童コミュニティクラブ・児童館・公民館で行っている講座や教室
2 子ども会や自治会で行っているクリスマス会や運動会などの行事	5 1～4の中で参加したことがあるものはない
3 公園や道路の掃除、地域の避難訓練	

学校のことや勉強のことについて

問 18 あなたは、学校の授業がわかりますか。（あてはまる番号1つに○）

1 いつもわかる	3 わからないことが多い
2 だいたいわかる	4 ほとんどわからない

問 19 勉強がわからないときは、誰に教えてもらいますか。（あてはまる番号すべてに○）

1 親	5 その他の大人
2 親以外の家族（兄弟姉妹や祖父母など）	6 友だち
3 学校の先生	7 教えてもらえる人がいない
4 塾や習い事などの先生	

問 20 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1 上のほう	3 真ん中のあたり	5 下のほう
2 やや上のほう	4 やや下のほう	6 わからない

問 21 あなたは、いつも（月～金曜日）学校の授業以外にどれくらい時間の時間、勉強をしますか。

1日の平均的な勉強時間を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

※塾などの時間も含みます。

1 まったくしない	4 1時間以上、2時間より少ない
2 30分より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない
3 30分以上、1時間より少ない	6 3時間以上

問 22 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。通っている（来てもらっている）場合、1週間に何日通って（来てもらって）いますか。（あてはまる番号1つに○）

1 通って（来てもらって）いない	2 週に1日	4 週に4～5日
	3 週に2～3日	5 週に6～7日

問23 学校に行きたくないと思つたこと、または実際に休んだことはありますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

1 実際に休んだ (病気以外で1か月以上)	4 行きたくないと思わない
2 行きたくないと思ふ	5 行きたくないと思わない
3 行きたくないと思ふ	

【問23で「実際に休んだ」「よく思う」「時々思う」と答えた人にお聞きします。】

問24 その理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1 勉強についていけないから	6 親が学校に行かなくてもよいというから
2 クラブ活動がつかないから	7 ふだん、親が家にいなくて、学校に行く準備ができないから
3 仲の良い友だちがいらないから	8 先生につらくあたられたり、こわい思いをするから
4 他の児童や生徒にいじめられるから	9 その他 ()
5 学校の持ち物やお金を用意できないから	

あなたの友だちのことについて

問25 あなたの一番仲の良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

1 学校の友だち	4 塾の友だち
2 近所に住んでいる友だち	5 習い事の友だち
3 部活動 (クラブ) やスポーツ・チームの友だち	6 その他の友だち
	7 特に仲の良い友だちはいない

問26 あなたと友だちとの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても そう思う	そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 友だちと一緒にたくさん遊んでい ると思う	1	2	3	4
B 友だちと仲良くしていると思う	1	2	3	4
C 友だちに好かれていると思う	1	2	3	4
D 自分は友だちと比べて、違ってい ると思う	1	2	3	4

あなたの「夢や進学」について

問27 あなたは、将来の夢や、なりたい職業がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある → 問29へ	2 ない → 問28へ
-------------	-------------

【問27で将来の夢や、なりたい職業が「2 ない」と答えた人にお聞きします。】

問28 将来の夢がない理由は何ですか。(あてはまる番号1つに○)

1 やりたい仕事などの夢はあるが、自分の実力では無理だと思うから
2 やりたい仕事などの夢はあるが、今の家庭環境 (お金・学歴・親の考え方など) で無理だと思うから
3 まだ考えていないから
4 わからない

【全員にお聞きします。】

問29 あなたの希望としては、どこまで進学したいですか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学まで	3 短大・高専※・専門学校まで	5 まだわからない
2 高校まで	4 大学またはそれ以上	

※高専：高等専門学校のこと。中学卒業後に入学し、5年一貫 (高専学科は5年6ヶ月) で、一般科目と専門科目をバランスよく配置した教育課程により、技術者に必要な豊かな教養と体系的な専門知識を学ぶ学校のことです。

問30 あなたは実際に、どこまで進学できると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学まで	3 短大・高専・専門学校まで	5 まだわからない
2 高校まで	4 大学またはそれ以上	

問31 問30で答えた理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 一般的だと思ったから	4 自分の実力 (学力・体力等) からそう思った
2 勉強は苦手だ (好きではない) から	5 家庭環境 (お金や親の考え方) からそう思った
3 目指す仕事を考えてそう思った	6 その他 ()

あなたがふだん考えていることについて

問 32 あなたの思いや気持ちについて、「1 とても思う」から「4 思わない」のもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても 思う	思う	あまり 思わない	思わない
A 頑張れば、よくなる、いいことがある	1	2	3	4
B 自分は価値のある人間だ	1	2	3	4
C 自分は家族に大事にされている	1	2	3	4
D 自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4
E 自分のことが好きだ	1	2	3	4
F 不安に感じる	1	2	3	4
G 孤独（ひとりぼっちのような気がしてさびしい）と感じる	1	2	3	4

問 33 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1 眠れない	9 よくかゆくなる
2 よく頭が痛くなる	10 まわりが気になる
3 歯が痛い	11 やる気が起きない
4 いろいろなことが心配になる	12 イライラする
5 ものが見づらい	13 その他 ()
6 聞こえにくい	14 特に気になるところはない
7 よくお腹が痛くなる	15 わからない
8 よく風邪を引く	

問 34 あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にとれくらくらい話しますか。「1 よく話す」から「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEも含めて考えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よく話す	時々話す	あまり 話さない	ぜんぜん 話さない
A 親	1	2	3	4
B 兄弟姉妹	1	2	3	4
C 祖父母など	1	2	3	4
D 学校の先生	1	2	3	4
E 学校や習い事などの友だち (先輩・後輩を含む)	1	2	3	4
F 児童コミュニケーションクラブ・児童館・公民館の職員	1	2	3	4
G その他の大人 (地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など)	1	2	3	4

問 35 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	使ってみたい	興味が ある	使いたく ない	使う必要 はない
A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所	1	2	3	4
B (家以外で) 休日にいることができる場所	1	2	3	4
C 家の人がいないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所	1	2	3	4
D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所	1	2	3	4
E 大学生のボランティアが、勉強を無料でみてる場所	1	2	3	4
F (学校以外で) 勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所	1	2	3	4

問 36 このアンケートの感想や毎日の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください。(進路のこと、学校のこと、勉強のこと、友だちのこと、遊びのこと、おこづかいのこと、家族のこと、病気のことなどなんでもかまいません。)

[illegible]

質問はこれで終わります。ご協力ありがとうございました。

答え終わったら、小さい封筒ふうとうに入れて封をし、お父さん・お母さんおとうさん・おははさんに渡してください。

お父さん・お母さんの回答と一緒に返信用封筒にいれて

9月30日(月)までに返送してください。

6.3 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（支援者ヒアリング実施要項）

1 調査の目的

子どもの貧困対策を推進するための基礎資料とするため、「伊勢原市子どもの貧困対策に関する実態調査」に取り組んでおり、令和元年9月から、市内の小学5年生・中学2年生及びその保護者を対象に「子どもと子育て家庭の生活実態調査」を実施している。

この取組の一環として、相対的貧困の状況に関する実態把握の精度を更に高めるため、福祉や教育等の支援機関から、対象となる児童や保護者等の実情、支援の方向性や関係機関との連携などの状況を確認するため「支援者ヒアリング」を実施する。

2 調査の概要

対象児童や保護者等を日ごろから支援している、福祉・教育関係機関や担当など職員から、対象となる児童や保護者、及びその家庭が抱える困難性の特徴、困難を解決する支援策、不足していると考える支援策、他機関との連携・協働の状況や課題等について調査し分析を行う。

3 調査の対象機関等

市内の福祉関係機関や教育関係機関等30機関（担当）

【別記1】「支援者ヒアリング対象機関等一覧」のとおり

4 調査の方法等

（1）事前調査

①概要 対象機関等の状況を事前に把握するとともに、実地調査の効果を高めるため、事前調査票【別記2】を送付・回収する。

②期間 令和元年10月4日から10月18日まで

（2）実地調査

①概要 事前調査票により状況を把握した上で、調査員が支援対象機関等の職員を訪問し、支援者ヒアリング実地調査聞き取り票【別記3】により実地調査を行う。

②期間 令和元年10月22日から令和元年10月31日まで

③詳細 ・支援者ヒアリング実地調査聞き取り票【別記3】に基づき実施する。
・所要時間は概ね1時間を上限とし、支援機関等の状況を考慮して行う。

5 その他

本要項に定めのない事項や調査結果の集計、分析・報告方法等については、別途受託業者と調整の上で市が決定する。

伊勢原市

子どもと子育て家庭の生活実態調査 支援者ヒアリングへのご協力をお願い

子ども・子育て家庭の支援機関の皆様へ

日ごろ本市の児童福祉行政に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、本市では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均衡などを図ることを目的として、現在、その実情を把握するための「子どもと子育て家庭の生活実態調査」を実施しています。

この調査では、市内の小学5年生・中学2年生及びその保護者を対象にしていますが、もうひとつの柱として、日常的に子どもやその御家庭を支えていただいている、支援機関（学校・保育・福祉・行政等機関・団体）の皆様から、子どもの様子や御家庭の実情、支援の方向性や関係機関との連携などの状況をお聞かせいただくため、「支援者ヒアリング」を実施する運びとなりました。

調査方法につきましては、事前に調査票の御提出をお願いした上で、改めて調査員が貴機関を訪問してお話しをお伺いさせていただくものとなります。

調査では、個人などを特定することはなく、調査結果につきましては、今後の子育て支援施策の充実に向けた基礎資料として活用させていただきますので、支援機関の関係者の皆様におかれましては、御多忙のところ大変恐縮ではございますが、本調査に御協力いただきますようお願い申し上げます。

御不明な点などがございましたら、調査実施機関までお気軽にお問い合わせください。

令和元年10月

1 支援者ヒアリングの流れ

(1) 事前調査票

この依頼文を含めた調査票が事前調査票となります。支援機関の概要や各訪問等にお答えを御記入いただき、令和元年10月18日（金）までに同封の封筒で御返送ください。（切手は不要です。）

(2) 実地ヒアリング

調査員が、お電話で日程を調整させていただいた上で、事前調査票をもとに実地ヒアリングをお願いします。

調査実施機関・お問い合わせ先

伊勢原市役所 子ども部 子育て支援課
〒259-1188 伊勢原市田中348番地
電話0463-94-4633（直通：午前8時30分～午後5時）

6.4 伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査票（事前調査票）

貴機関（団体）についてお聞きします。

問1 貴機関（団体）についてお聞きします。

①貴機関の名称	②事業（業務）概要

問2 回答者についてお聞きします。

①氏名	②役職	③職種	④業務内容	⑤業務の経験年数

貴機関（団体）または、回答者の方にお聞きします。

問3 子どもの貧困対策の推進に関する法律について、知っていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

（目的）第一条 この法律は、子どもが現在および将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、全ての子どもが心身ともに健やかに育成され、及びその教育の機会均等が保証され、子ども一人一人が夢や希望を持つことが出来るようにするため、子どもの貧困の解消に向けて、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、子どもの貧困対策に關し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにし、及び子どもの貧困対策の基本となる事項を定めることにより、子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的とする。（以下 略）

- 1 内容まで知っている 2 目的程度なら知っている
3 名前だけは知っている 4 知らなかった

問4 貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがありますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- 1 ある 2 ない

支援の必要な子どもと保護者についてお聞きします。

問 5 日頃接している、支援の必要な子どもはどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。（例：基本的な生活習慣、親子（家族）関係、学校の習慣、通学・進学への意欲、対人関係、心や体の健康状態など）

問 6 日頃接している、支援の必要な子どもの保護者はどのような面で困難を抱えている（または可能性がある）と思いますか。分かる範囲でお聞かせください。（例：生活習慣、子どもの養育、親子（家族）関係、就労、経済（家計）、対人関係、心や体の健康状態など）

問 7 支援の必要な子どもに、不足している支援策（制度）や課題と思われることがありましたらお聞かせください。

問 8 支援の必要な子どもの保護者に、不足している支援策（制度）や課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

問 9 支援の必要な子どもへの支援を、他機関と連携して行っていますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。また、3 その他（ ）を選ぶ場合は、その理由もお聞かせください。

- 1 している
- 2 していない
- 3 その他（ ）

問 10 支援の必要な子どもと保護者への継続的な支援に向けて、他機関との連携や協働するために必要なことや課題と思われることがありましたら、お聞かせください。

問 11 ご意見などありましたら、お聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

伊勢原市子どもと子育て家庭の生活実態調査報告書

発行日：令和２年３月

発 行：伊勢原市 子ども部 子育て支援課

住 所：〒２５９－１１８８ 神奈川県伊勢原市田中３４８番地

ＴＥＬ：０４６３－９４－４６３３（直通）

ＦＡＸ：０４６３－９５－７６１２